鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　３８

令和３年度発掘調査報告

（第２分冊）

武蔵大路周辺遺跡

佐 助 ヶ 谷 遺 跡

令和４年３月

鎌倉市教育委員会

武蔵大路周辺遺跡（扇ガ谷三丁目 451 番の一部地点）２区２面
かわらけ出土状況（写真上が西）

佐助ヶ谷遺跡（佐助一丁目 601 番６地点）１Ｃ区２－３面出土　漆器蓋

ご　あ　い　さ　つ

本市は、市域の６割以上が周知の埋蔵文化財包蔵地であり、遺跡が眠る土地の上で多くの市民が生活を送っています。そのため、家屋や店舗の新築や建替え等に伴い、遺跡に影響を及ぼす工事が行われることも多くあります。このように、私たちが日々の生活を送っていく上でやむを得ず失われる埋蔵文化財について、記録を保存し後世に残すことは、現在を生きる私たちの責務であると言えます。

鎌倉市教育委員会では、昭和 59 年度から個人専用住宅の建築等に係る発掘調査を実施しています。本書は平成 30 年度～令和３年度に実施した、個人専用住宅の建築等に伴う発掘調査４か所の調査記録を掲載しています。そのうち、若宮大路周辺遺跡群の調査では、疫病除けのまじないに使う蘇民将来札が出土しました。鎌倉時代の人々も疫病に立ち向かって生きていたことが良く分かる資料です。

このように、本書に収めたひとつひとつの調査成果は様々な内容ですが、いずれも武家政権発祥の地であり、今もその歴史を継承し文化を発信する鎌倉の貴重な文化遺産です。これらの成果を広く知っていただくとともに、研究資料として活用されることを願って止みません。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたっては、関係者の皆様に深いご理解を賜るとともに、さまざまなご協力をいただきましたことを心からお礼を申しあげます。

令和４年３月 25 日

鎌倉市教育委員会

例　　言

1　本書は令和３年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に係る発掘調査報告書（第２分冊）である。
2　本書所収の調査地点は別表・別図のとおりである。
3　現地調査及び出土資料の整理は、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。
4　出土遺物及び調査に関する図面及び写真等は、鎌倉市教育委員会文化財課が保管している。
5　各調査の成果は、それぞれの報告を参照されたい。

第２分冊 目次

ごあいさつ ・・ Ⅰ
例言 ・・ Ⅱ
目次 ・・ Ⅲ
本誌掲載の令和元年令和２度年度発掘調査地点一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅳ
調査地点位置図 ・・・ Ⅴ

３　武蔵大路周辺遺跡（No.194）扇ガ谷三丁目 451 番の一部地点

第一章　調査に至る経緯 ・・・ 7
第二章　遺跡の位置と歴史的環境 ・・ 7
第三章　調査の経過と方法 ・・ 13
第四章　基本土層 ・・・ 14
第五章　検出遺構と出土遺物 ・・ 18
第六章　調査成果のまとめ ・・・ 153
付編１　武蔵大路周辺遺跡から出土した大型植物遺体 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 156
付編２　武蔵大路周辺遺跡の花粉分析、プラントオパール分析、寄生虫卵分析 ・・・ 161

４　佐助ヶ谷遺跡（No.202）佐助一丁目 601 番６地点

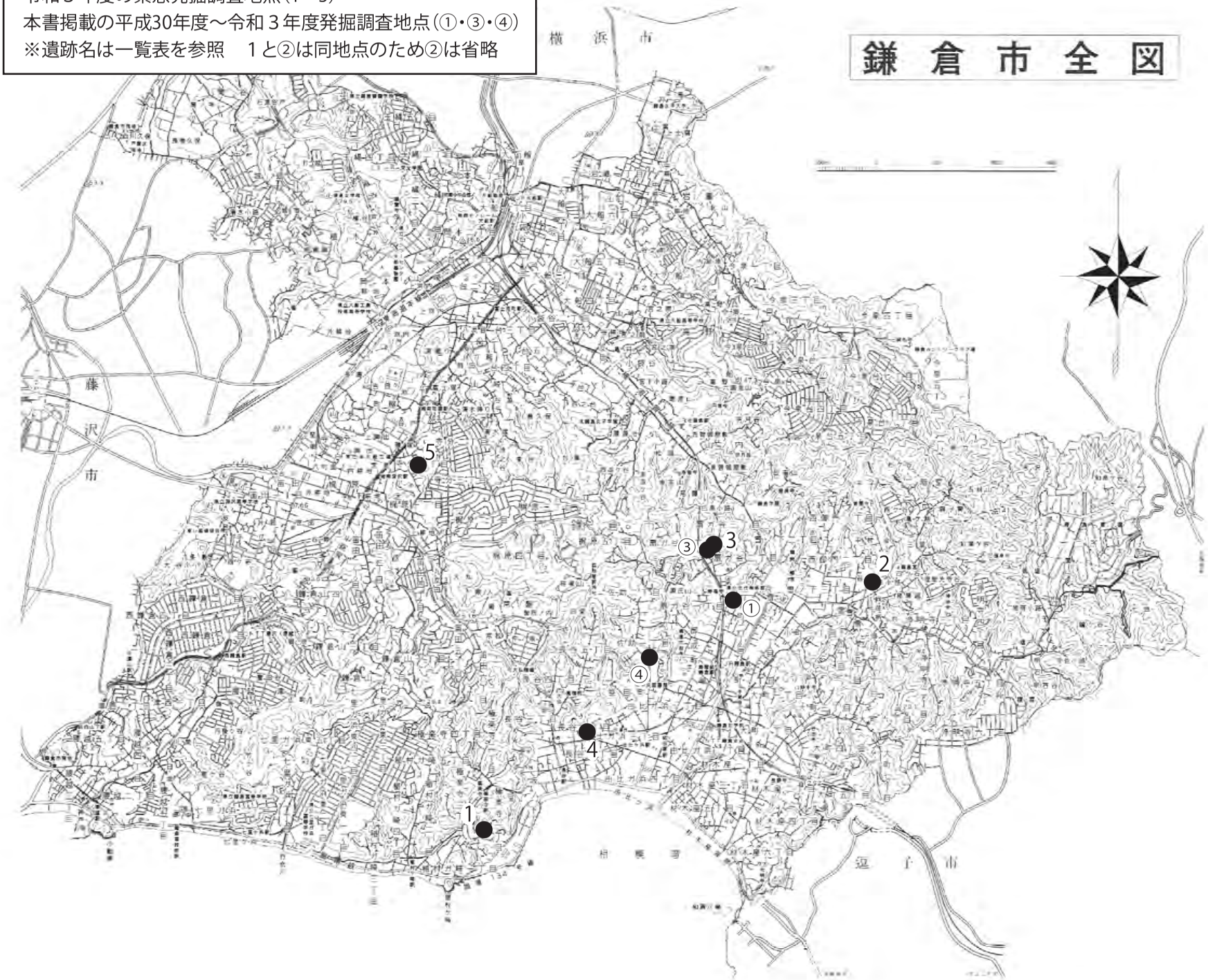
第一章　調査に至る経緯 ・・・ 249
第二章　遺跡の位置と歴史的環境 ・・ 249
第三章　調査の経過と方法 ・・ 253
第四章　基本土層 ・・・ 253
第五章　検出遺構と出土遺物 ・・ 255
第六章　調査成果のまとめ ・・・ 316

本誌掲載の令和元年・令和２度発掘調査地点一覧

第２分冊

	遺　跡　名	所　在　地	調　査　原　因	遺跡種別	調査面積	調　査　期　間
3	武蔵大路周辺遺跡 (No. 194)	扇ガ谷三丁目451番の一部	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都　市 城館跡	96.35	令和元年12月10日 ～令和2年5月8日
4	佐助ヶ谷遺跡 (No. 203)	佐助一丁目601番6	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	城館跡 社寺跡	113.00	令和2年9月1日 ～令和2年12月25日

令和３年度の緊急発掘調査地点（1～5）
本書掲載の平成30年度～令和３年度発掘調査地点（①・③・④）
※遺跡名は一覧表を参照　１と②は同地点のため②は省略



武蔵大路周辺遺跡（No. 194）

扇ガ谷三丁目 451 番の一部地点

例　言

1．本報告は、鎌倉市扇ガ谷三丁目 451 番の一部において実施した、「武蔵大路周辺遺跡」（鎌倉市 No.194 遺跡）の発掘調査報告である。

2．発掘調査は令和元年 12 月 10 日から令和２年５月８日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。調査の対象面積は、96.35 ㎡である。

3．発掘調査体制は、以下のとおりである。

調査担当者　　押木弘己

調　査　員　　菅野知子、廣田倫子

作　業　員　　小口照男、鯉沼　稔、寺尾征夫、髙柳雅一、小林貞明、新倉恒勝、深谷敏之、横山勝雄、和田　隆（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター 文化財班）

調 査 協 力　　株式会社 斉藤建設

資料整理・報告書作成　　押木、菅野、廣田、伊丹まどか、岩崎卓治、太田しのぶ、岡本夏菜、小川さやか、菊川　泉、清水由加里、須佐直子、須佐仁和、栂岡ケイト、正木恵子、村松彩美、吉田桂子

4．本報告の執筆は、第一章を米澤雅美が、第二章～第六章を押木が行った。また、表４の遺物観察表における漆器文様の名称は、伊丹の所見に拠った。

5．資料整理および本報告の作成は、鎌倉市文化財課分室で行った。

6．本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「ＭＯ１９０３」とし、出土品への注記などに使用した。

凡　例

1．挿図の縮尺は、遺構・遺物ともに図中に表示している。

2．本書中に記載した国土座標値は、世界測地系（JGD2011- 第Ⅸ系）に基づいている。

3．挿図に示した方位標は座標北（Ｙ軸）で、真北はこれより 0°　09′　25″ほど東に振れている。

4．遺構挿図中の水糸高は、海抜値を示す。

5．出土遺物の年代観は以下の文献を参考としたが、 筆者が各所見を理解し切れていない部分もある。

◆かわらけ・遺物全体の様相：宗臺秀明　2019「鎌倉出土かわらけの系譜と編年―東国社会の変質と中世の成立（後）：かわらけの編年と中世社会」『鶴見大学紀要　第 56 号 第 4 部 人文・社会・自然科学編』鶴見大学

◆瓦質土器：河野眞知郎　1993「中世鎌倉火鉢考」『考古論叢神奈河　第 2 集』神奈川県考古学会

◆輸入陶磁器：『大宰府条坊跡ＸＶ―陶磁器分類編―』太宰府市教育委員会　2000

◆瀬戸窯製品：藤澤良祐　2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院

◆常滑・渥美窯製品：『愛知県史　別編窯業 3　中世・近世常滑系』愛知県　2012

◆遺物観察表（表３）のうち、かわらけ胎土の分類記号（Ａ～Ｅ）は以下の内容を示す。

Ａ：粉質　Ｂ：泥質　Ｃ：精良・硬質　Ｄ：泥質・精良　Ｅ：砂質・硬質

これらはいずれも在地産土器であり、基本的に白色針状物質（骨針化石）・泥岩粒・雲母片などの混入物を含むが、 個体ごとに有無・多寡もある。大よそＥ・Ｄ→Ｂ・Ｃ→Ａという順で新しくなり、Ｃは所謂「薄手丸深型」に、Ａは所謂「戦国タイプ」に使用される。

目　次

本文目次

第一章　調査に至る経緯 ･･･ 7
第二章　遺跡の位置と歴史的環境
　第１節　遺跡の位置と沿革 ･･･ 7
　第２節　周辺の発掘調査成果 ･･･10
第三章　調査の経過と方法
　第１節　調査の経過 ･･･13
　第２節　調査の方法 ･･･14
第四章　基本土層 ･･･14
第五章　検出遺構と出土遺物
　第１節　検出遺構 ･･･18
　第２節　出土遺物 ･･･31
第六章　調査成果のまとめ
　第１節　調査の課題 ･･･153
　第２節　出土かわらけと遺跡の年代 ･･153
　第３節　築地状遺構について ･･･154
　第４節　出土遺物の特徴 ･･･155
　第５節　まとめ ･･･155
付編１　武蔵大路周辺遺跡から出土した大型植物遺体 ･･････････････････････････156
付編２　武蔵大路周辺遺跡の花粉分析、プラント・オパール分析、寄生虫卵分析 ･････････････････161

表目次

表１　武蔵大路周辺遺跡群（扇ガ谷三丁目 451 番の一部）発掘調査にかかる届出等の文書･･･ 7
表２　周辺の主な調査地点 ･････････････････10
表３　出土遺物カウント・計量表 ･････95 ～ 105
表４　出土遺物観察表 ･･････････････106 ～ 152

挿図目次

図１　調査地点の位置 ･････････････････････ 9
図２　調査区配置図 ･･････････････････････････13
図３　土層断面図（上段） ･････････････････････15
図４　土層断面図（下段） ･････････････････････17
図５　１面全体図 ･････････････････････････････19
図６　２面全体図 ･････････････････････････････21
図７　２ｂ面全体図 ･･････････････････････････22
図８　２ｂ面下全体図 ････････････････････････24
図９　５面全体図 ･････････････････････････････25
図10　６面全体図 ･････････････････････････････26
図11　６ｂ面全体図 ･･････････････････････････28
図12　７面全体図 ･････････････････････････････29
図13　８面全体図 ･････････････････････････････30
図14　出土遺物（１） ･････････････････････････34
図15　出土遺物（２） ･････････････････････････35
図16　出土遺物（３） ･････････････････････････36
図17　出土遺物（４） ･････････････････････････37
図18　出土遺物（５） ･････････････････････････38

図 19　出土遺物（６）　……39
図 20　出土遺物（７）　……40
図 21　出土遺物（８）　……41
図 22　出土遺物（９）　……42
図 23　出土遺物（10）　……43
図 24　出土遺物（11）　……44
図 25　出土遺物（12）　……45
図 26　出土遺物（13）　……46
図 27　出土遺物（14）　……47
図 28　出土遺物（15）　……48
図 29　出土遺物（16）　……49
図 30　出土遺物（17）　……50
図 31　出土遺物（18）　……51
図 32　出土遺物（19）　……52
図 33　出土遺物（20）　……53
図 34　出土遺物（21）　……54
図 35　出土遺物（22）　……55
図 36　出土遺物（23）　……56
図 37　出土遺物（24）　……57
図 38　出土遺物（25）　……58
図 39　出土遺物（26）　……59
図 40　出土遺物（27）　……60
図 41　出土遺物（28）　……61
図 42　出土遺物（29）　……62
図 43　出土遺物（30）　……63
図 44　出土遺物（31）　……64
図 45　出土遺物（32）　……65
図 46　出土遺物（33）　……66
図 47　出土遺物（34）　……67
図 48　出土遺物（35）　……68
図 49　出土遺物（36）　……69
図 50　出土遺物（37）　……70
図 51　出土遺物（38）　……71
図 52　出土遺物（39）　……72
図 53　出土遺物（40）　……73
図 54　出土遺物（41）　……74
図 55　出土遺物（42）　……75
図 56　出土遺物（43）　……76
図 57　出土遺物（44）　……77
図 58　出土遺物（45）　……78
図 59　出土遺物（46）　……79
図 60　出土遺物（47）　……80
図 61　出土遺物（48）　……81
図 62　出土遺物（49）　……82
図 63　出土遺物（50）　……83
図 64　出土遺物（51）　……84
図 65　出土遺物（52）　……85
図 66　出土遺物（53）　……86
図 67　出土遺物（54）　……87
図 68　出土遺物（55）　……88
図 69　出土遺物（56）　……89
図 70　出土遺物（57）　……90
図 71　出土遺物（58）　……91
図 72　出土遺物（59）　……92
図 73　出土遺物（60）　……93
図 74　出土遺物（61）　……94

写真図版目次

図版１
１．Ｉ区　表土掘削前（北西から）
２．Ｉ区　表土掘削状況（南西から）
３．ＩＡ区１面　全景（北から）
４．ＩＡ区１面　全景（西から）
５．ＩＡ区１面　全景（北東から）
図版２
１．ＩＡ区１面　全景（南から）
２．ＩＡ区１面　土坑１（西から）
３．ＩＡ区１面下　全景（北から）
４．ＩＡ区１面下　全景（北東から）
５．ＩＡ区１面下　木組み１（西から）
図版３
１．ＩＡ区２面　全景（北から）
２．ＩＡ区２面　木組み遺構（北西から）
３．ＩＡ区２面　木組み遺構（南西から）
４．ＩＡ区２面　南北築地状遺構下（南東から）
図版４
１．ＩＡ区２面　全景（北から）
２．ＩＡ区２面　全景（北東から）
３．ＩＡ区２面　木組み遺構（南西から）
４．ＩＡ区２面　作業風景（南西から）
図版５
１．ＩＡ区２面下　全景
（木組み護岸取り外し後・北から）
２．ＩＡ区５面　泥岩塊集積（北東から）
３．ＩＡ区５面　泥岩塊集積（東から）
４．ＩＡ区５面上　遺構プラン（東から）
５．ＩＡ区５面上　遺物出土状況（瀬戸入子）
図版６
１．ＩＡ区５面　全景
（遺構プラン検出時・北から）
２．ＩＡ区５面上　南部遺構プラン（西から）
３．ＩＡ区５面上　南部遺構プラン（東から）
４．ＩＡ区５面　北東部遺構プラン（東から）
５．ＩＡ区５面上　遺物出土状況（漆器椀）
図版７
１．ＩＡ区５面　全景（北から）
２．ＩＡ区５面　全景（西から）
３．ＩＡ区５面　南部（東から）
４．ＩＡ区５面　囲炉裏状痕跡（西から）
５．ＩＡ区５面上　遺物出土状況（飾り板）
図版８
１．ＩＡ区６面　全景（北から）
２．ＩＡ区６面　南東部（北東から）
３．ＩＡ区６面　北西部（北から）
４．ＩＡ区６面　全景（南西から）
５．ＩＡ区６面　遺物出土状況（漆器椀）
図版９
１．ＩＡ区６ｂ面　全景（北から）
２．ＩＡ区６ｂ面　全景（西から）
３．ＩＡ区６ｂ面　切石敷き遺構（南から）
４．ＩＡ区６ｂ面　南部炭層（南から）
５．ＩＡ区６ｂ面　北東部（東から）
図版 10
１．ＩＡ区７面　全景（北から）
２．ＩＡ区７面　全景（西から）
３．ＩＡ区７面　全景（南から）
４．ＩＡ区７面　木材出土状況（東から）
５．ＩＡ区７面　曲物出土状況（西から）
図版 11
１．ＩＡ区７面下トレンチ　全景（南から）
２．ＩＡ区７面下トレンチ南部　西壁土層断面
３．ＩＡ区７面下トレンチ北部　西壁土層断面
４．ＩＡ区　埋め戻し後（南西から）
５．Ⅱ区　表土掘削状況（北東から）
図版 12
１．ＩＡ区　北壁土層断面
２．ＩＡ区　東壁土層断面
図版 13
１．ＩＡ区２面　木組み１下部角材（北東から）
２．ＩＡ区　西壁土層断面
（２面　木組み１の落ち込み部分）
図版 14
１．Ⅱ区　表土除去後（北から）
２．Ⅱ区２面　全景（北から）

図版 15
１．Ⅱ区２面　北部（北西から）
２．Ⅱ区２面　東西築地状遺構（西から）
３．Ⅱ区２面　東西築地状遺構（西から）
４．Ⅱ区２面　東西築地状遺構断面（西から）
５．ＩＢ区・Ⅱ区２面　全景（西から）
図版 16
１．ＩＢ区・Ⅱ区２面
（上空から、写真上が北）
２．南東区画２面　遺物出土状況
３．南東区画２面　遺物出土状況
４．南東区画２面　遺物出土状況
５．南東区画２面　遺物出土状況
図版 17
１．ＩＢ区・Ⅱ区２面（北西上空から）
２．第１回空撮状況（2020 年３月 13 日）
３．Ⅱ区２面下（制限深度まで、北から）
図版 18
１．Ⅱ区　２面下（制限深度まで、東から）
２．Ⅱ区北壁　土層断面（南から）
３．Ⅱ区北壁　土層断面
（２面かわらけ集中層、南から）
図版 19
１．ＩＢ区２ｂ面　全景（上空から､写真左が北）
２．ＩＢ区２ｂ面　全景（北から）
図版 20
１．ＩＢ区２ｂ面　東西築地状遺構下部(西から)
２．ＩＢ区２ｂ面　遺物出土状況
３．北東区画２ｂ面（北から）
４．南東区画２ｂ面（東から）
５．ＩＢ区２ｂ面　出土遺物
６．ＩＢ区２ｂ面　遺物取り上げ作業
図版 21
１．北東区画２ｂ面（北から）
２．ＩＢ区２ｂ面下（西から）
３．北東区画２ｂ面下　泥岩塊検出状況(北から)
４．南東区画２ｂ面下　木組み遺構（北西から）
５．ＩＢ区２ｂ面下　遺物出土状況
図版 22
１．ＩＢ区６面上　遺物出土状況
２．ＩＢ区６面上　遺物出土状況
３．ＩＢ区６面上　遺物出土状況アップ
４．ＩＢ区６面上　遺物出土状況
５．ＩＢ区６面　全景（北から）
図版 23
１．ＩＢ区６面　全景（西から）
２．ＩＢ区６面　切石列･木組みなど（南西から）
３．ＩＢ区６面　木組み遺構　側面（西から）
４．ＩＢ区６面　竹垣（南東から）
５．ＩＢ区６面　竹垣アップ（南から）
図版 24
１．ＩＢ区　大雨後の冠水状況(2020 年４月 14 日)
２．ＩＢ区７面　北半部（西から）
３．ＩＢ区７面　遺物出土状況（北西から）
４．ＩＢ区７面　遺物出土状況
５．ＩＢ区７面　遺物出土状況
６．ＩＢ区７面　遺物出土状況
７．ＩＢ区７面　遺物出土状況
８．ＩＢ区５面下～５面　遺物出土状況
図版 25
１．ＩＢ区７面　全景（西から）
○の位置で鋤先が出土
２．ＩＢ区　大雨後の冠水状況(2020 年４月 19 日)
３．ＩＢ区７面　全景（北から）
４．ＩＢ区７面　北半部（北西から）
５．ＩＢ区７面　木組み遺構（北から）
図版 26
１．ＩＢ区７面　北半部（北から）
２．ＩＢ区７面　北半部（東から）
図版 27
１．ＩＢ区７面　溝１木組み護岸（西から）
２．ＩＢ区７面　溝１土層断面（西から）
３．ＩＢ区７面　溝１木組み護岸（北から）
４．ＩＢ区７面　溝１木組み護岸アップ(北から)
５．ＩＢ区７面　溝１木組み護岸（北西から）
６．ＩＢ区７面　溝１木組み護岸（北東から）
７．ＩＢ区　埋め戻し作業状況（北東から）
８．ＩＢ区　埋め戻し作業終了後（東から）
図版 28 ～ 75　出土遺物

第一章　調査に至る経緯

平成30年12月、当該地における土木工事について事業者より鎌倉市教育委員会文化財課へ相談があった。その内容は、現地表下650cmに達する柱状改良工事を行う個人専用住宅建設の計画であった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地であり、事前に行なった確認調査の結果、現況地盤面より深さ60㎝で中世遺物包含層、100cmで遺構を確認し、更に下層まで遺跡が残存していることが確認された。その結果により、当該工事計画が埋蔵文化財に影響を及ぼすことが避けられないとの判断に至った。

平成31年４月22日付で事業者より文化財保護法第93条の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出を受理した。これに対して、平成31年５月22日付で神奈川県教育委員会教育長より発掘調査を実施する旨の指示が通知され、当該地の埋蔵文化財については発掘調査を実施して、記録保存の措置を図ることとなった。事業者は令和元年11月29日付で鎌倉市教育委員会に発掘調査依頼書を提出し、発掘調査は令和元年12月10日に開始し、令和２年５月８日に終了した。

表１　武蔵大路周辺遺跡（扇ガ谷三丁目451番の一部）発掘調査にかかる届出等の文書

文書種別・内容		文書番号	日付	発信者	受信者	備考
確認調査	依頼		平成31年１月11日	事業者	鎌倉市教育委員会	
	実施		平成31年４月11日・12日			
文化財保護法93条	提出		平成31年４月22日	事業者	神奈川県教育委員会	
	通知	文遺第61022号	令和元年５月22日	神奈川県教育委員会	事業者	
出土品の手続き	発見届		令和２年５月14日	鎌倉市教育委員会	鎌倉警察署	
	保管証		令和２年５月14日	鎌倉市教育委員会	神奈川県教育員会	
	認定と帰属	文遺第51006号	令和２年５月29日	神奈川県教育委員会	鎌倉市教育委員会 土地所有者	

第二章　遺跡の位置と歴史的環境

第１節　遺跡の位置と沿革

本調査地は鎌倉市扇ガ谷三丁目451番の一部に所在する。扇ガ谷地区は鎌倉旧市街の北西部に位置し、滑川の支流である扇川が形成した谷戸を中心に、ここから樹枝状に派生した支谷群で構成される。鎌倉幕府の歴史書『吾妻鏡』に「扇谷」の名は見えず、「亀谷」が当地域の古地名であったとされる。鎌倉時代末期の『崇顕（金沢貞顕）書状』には「扇谷」からの出火に関する記述が見え、この時は「亀谷（かめがやつ）」～「浄光明寺西頬」まで類焼したという。『吾妻鏡』には、「亀谷辻」が建長三年十二月三日条に、ほぼ同じ場所と目される「武蔵大路下」が文永二年（1265）三月五日条に記載され、それぞれ鎌倉中で商売を許可された町屋（小町屋）免許地の一つとなっていたことが記されている。文字通り武蔵国方面へと抜ける要路の沿道に、幕府公認の商業地が存在していた状況が窺える。

今回の調査地は、数ある支谷のうち「亀谷」の開口部に所在する（図１－★）。図１に見るように、亀谷は扇ガ谷でも中心的位置を占める谷戸であり、現況では北に登る急峻な切り通し道を越えて、山内の長寿寺脇に至る。谷戸の幅は200ｍ、奥行きは900ｍほどで、本地点近く、岩船地蔵堂前の丁字路が上述した「亀谷辻」に当たるものと考えられている。扇ガ谷全体の「扇の要」ともいえる位置にあり、

こうした地勢的条件が、先に述べた交通の要衝に、延いては往来の頻繁な商業地へ、という地域的性格を形成していったことが推察される。こうした特性は鎌倉開府以前に遡ったであろうことは、源頼朝の父・義朝が「亀谷御旧跡」(『吾妻鏡』治承四年（1180）十月七日条）なる居館を構えていたことからも窺える。現在の亀谷山寿福寺境内がその比定地であり、ここを起点に、ほぼ真東に延びる六浦方面への道路と、現在の今小路を南に下り、旧鎌倉郡衙→古東海道を経由して、三浦半島から海路房総半島へと通じるルートが発しており、ここから、房総をはじめとする南関東各地に進出、権益確保を目論む義朝の意図が透けて見えそうである。

もう一つ、鎌倉時代の扇ガ谷地区を特徴付ける要素として、幕府草創期から京下り官人が多く足跡を残したことを指摘できる。早くには、源頼朝の側近である中原親能が「掃部頭亀谷家」に所在したことが『吾妻鏡』正治元年（1199）五月五日条に見え、彼の後裔である大友氏の宿所が藤谷（ふじがやつ）の開口部、今の相馬天王社（地点ｄ）の前面付近に所在していたことが、幕府滅亡直後の作成とされる『浄光明寺敷地絵図』の考証によって指摘されている。摂家・親王将軍の時代には、彼らに従って多くの廷臣が鎌倉へ下向するようになり、飛鳥井氏や堀川氏が泉谷・亀谷に住し、鎌倉歌壇の指導者と仰がれた冷泉（れいぜい）為相は藤谷の邸宅を鎌倉の拠点として京都との往来を重ねたという。藤谷の南側尾根上には、為相の墓が残る（地点ｅ）。正和四年（1313）には、将軍守邦親王の御所が焼亡したため、北条基時の「亀谷亭ニ御座」したという。扇ガ谷は鎌倉から北・西へ向かう出入り口の一つであり、京都との往還にも至便な土地であったことが、こうした京下り官人らの定着に影響を与えたのかもしれない。往来が盛んな賑わいある地区であった反面、支谷に一歩足を踏み入れると、仮御所にもなり得る閑静な屋地空間が広がっていたことが想像できる（大澤 2018）。

南北朝時代の当地域は、鎌倉公方の補佐役である関東管領を務めた上杉氏のひとつ、扇谷家が拠点としたことで知られる。同家自体は管領職に就くことはなかったが、鎌倉府に奉公する有力武家として、応永二十三年（1416）に起こった上杉禅秀の乱によって犬懸家が没落すると、鎌倉府での勢力を強めて行ったとされる。扇谷家の始まりは顕定（1351 ？～ 1380）の代とされ、その子氏定は、禅秀の乱では扇谷から化粧坂に出陣して防戦していることから（『鎌倉大草子』）、15 世紀初頭までには当地に拠点が置かれていたことが指摘されている。享徳の乱（享徳三年＝ 1454）を皮切りに、その翌年に鎌倉府が崩壊すると、 扇谷上杉氏も鎌倉から相模国糟屋（神奈川県伊勢原市）に拠点を移して戦国期の関東を舞台に活躍するが、なお鎌倉にも屋地を残していたようである。

本地点の北に接する大乗山薬王寺は、寛永年間（1624 ～ 1644）、前駿府藩主である徳川忠長の菩提を弔うために梅立寺として創建され、後に現在の寺名に改められたという。また、前身寺院として夜光寺が存在したと伝わる（図１－地点ａ）。

本地点の南にある岩船地蔵堂も、年未詳ながら江戸時代前期の建立と伝えられ、源頼朝の息女である大姫を供養する目的であったとも伝わるが、定かでない（地点ｂ）。

また、本地点が立地する谷戸は「勝縁寺ヶ谷」とも呼ばれ、かつて、この最奥部には坂中山正円寺という寺院が存在したという（地点ｃ周辺か）。勝縁寺や荘遠寺といった様々な表記があり、坂中観音堂などとも呼ばれたという。永仁四年（1296）に窟堂からの類焼を被ったといい、このことから鎌倉時代後期までの創建であったと推定されている（大三輪 2018）。

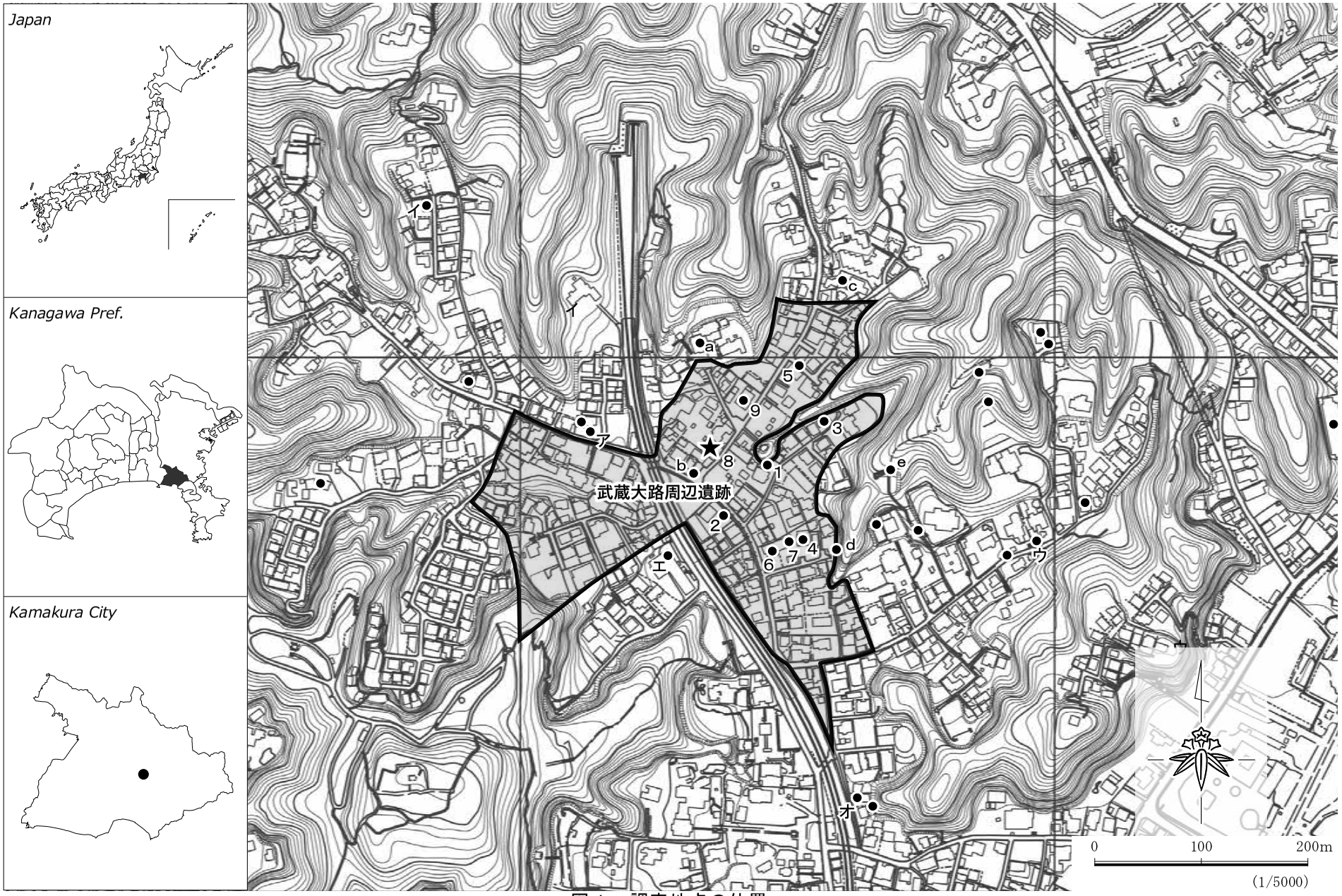

Japan
Kanagawa Pref.
Kamakura City
武蔵大路周辺遺跡
1
2
3
4
5
6
7
8
9
a
b
c
d
e
ア
イ
ウ
エ
オ
0
100
200m
(1/5000)

図１　調査地点の位置

第２節　周辺の発掘調査成果

武蔵大路周辺遺跡での発掘調査の件数は少なく、 令和３年 12 月現在、９地点を数えるに過ぎない。大規模開発が少ない地域のため比較的小面積の調査が主体で、また、各地点が離れていることもあり、遺跡全体の性格を言及できるまでには調査成果の蓄積は進んでいない。

調査が比較的集中しているのは、相馬天王社と扇川とに挟まれた３地点（図１－地点４・６・７）で、地点４では、13 世紀後半～ 15 世紀前半にかけて、５期に及ぶ土地利用の変遷が明らかにされている。１期が最も新しく、礎板列という形での建物をはじめ、切石列や道路状遺構、基壇などの遺構群が検出された。各遺構は一定の軸線に則って構築されており、基本的には現扇川の流路と、これに沿った市道と近似した方向軸を示していたようである。１期遺構面上の遺物包含層からは厚手・外反器形を呈する「戦国タイプ」かわらけが出土しているが、実年代としては戦国時代まで下ることなく、14 世紀後葉～

表２　周辺の主な調査地点（番号は図１に対応）

No.	地番	調査年度（開始年度）	面積（㎡）	所収文献
武蔵大路周辺遺跡（No. 194）				
1	扇ガ谷三丁目	1980 年度		『掘り出された鎌倉』（扇の井西やぐら）鎌倉考古学研究所・江ノ電百貨店 1980
2	扇ガ谷二丁目 382 番１	1988 ～ 1989 年度	180	『武蔵大路周辺遺跡群発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会　大河内勉 2000
3	扇ガ谷二丁目 397 番	1999 年度	67	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 17（第２分冊）』鎌倉市教育委員会　宗臺秀明・宗臺富貴子 2001
4	扇ガ谷二丁目 298 番イ	2000 年度	122	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 18（第１分冊）』鎌倉市教育委員会　瀬田哲夫 2002
5	扇ガ谷三丁目 407 番２他６筆	2003 年度	51	『武蔵大路周辺遺跡発掘調査報告書』（株）博通　滝澤晶子 2004
6	扇ガ谷二丁目 297 番１	2012 年度	180	『かまくら考古第 15 号』NPO 法人鎌倉考古学研究所　齋木秀雄 2012
7	扇ガ谷二丁目 297 番４、298 番１	2012 年度	180	『第 24 回 鎌倉市遺跡調査・研究発表会 発表要旨』NPO 法人鎌倉考古学研究所　齋木秀雄 2014
8	**扇ガ谷三丁目 451 番の一部**	**2019 ～ 2020 年度**	**96. 35**	**本報告**
9	扇ガ谷三丁目 444 番	2021 年度	110	調査中（2021 年 12 月現在）
法泉寺跡（No. 182）				
ア	扇ガ谷四丁目 518 番８	2010 年度	38	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34（第２分冊）』鎌倉市教育委員会　伊丹まどか 2018
清涼寺跡（No. 183）				
イ	扇ガ谷四丁目 556 番４外	2005 年度	65	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 28（第２分冊）』鎌倉市教育委員会　伊丹まどか 2012
多宝寺跡（No. 187）				
ウ	扇ガ谷二丁目 260 番１	2019 年度	75	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 37（第２分冊）』鎌倉市教育委員会　押木弘己 2021
智岸寺跡（No. 186）				
エ	扇ガ谷四丁目 380 番１外	1987 ～ 1988 年度	720	『扇が谷地域を学ぶⅡ』NPO 法人鎌倉考古学研究所　宮田　眞 2019
上杉定正邸跡（No. 188）				
オ	扇ガ谷二丁目 195 番２	2008 ～ 2009 年度	24	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 30（第２分冊）』鎌倉市教育委員会　山口正紀 2014
その他の史跡				
a	薬王寺			
b	岩船地蔵堂			
c	正円寺跡（推定）			
d	相馬天王社			
e	冷泉為相墓			

15 世紀前半に位置付く資料とされる。後述するように、今回の調査地（図１－地点８）では資料が僅少な時期であり、扇谷上杉氏が拠点を置いた時期とも重なる点、注目される成果である。遺構にともなう出土かわらけは、「薄手丸深」という内湾器形の資料が中心で、14 世紀中葉に展開した遺構群と考えられている。２期は 14 世紀前葉に比定され、板壁建物や塀、石囲い遺構、竪穴状遺構、土間状遺構などが検出し、遺構軸線は１期と同様である。かわらけなどの焼き物類のほか、優美な漆器をはじめとする多様な木製品が出土している。３～５期はトレンチによる部分的な調査のため、明確な様相は把握されていないが、遺構軸線は１・２期と同様に見える。遺物様相から求められる年代観は、３期が 14 世紀前葉、４・５期が 13 世紀後半とされる。５期の確認トレンチでは手づくねかわらけも少量ながら出土しており、中世における土地利用の開始期が、13 世紀前半にまで遡る可能性を示している。地点６・７は、正式報告書が刊行されていないため調査成果の全容は明らかでないが、概報・速報資料によって概略を掴むことはできる。地点６では中世に属する７枚の遺構面が検出され、一部、地表下 330 ㎝で検出した中世基盤層の上面を８面としたという。１面が最も新しく 16 世紀とされ、２面の一部が 15 世紀、２～５面が 13 世紀後半～ 14 世紀、６～８面が 13 世紀前半～中頃に比定されている。概報は 14 ～ 15 世紀とされる２面の全体図を掲載しており、東西道路や南北に流れる切石積み護岸の溝、囲炉裏を付設した板壁建物などの展開が見て取れる。石積み溝は、現行の扇川および市道と並行し、溝幅は１ｍほどで、東西両岸とも凝灰岩の切石（鎌倉石）を５段分積み上げている。東西道路とともに 15 世紀代の所産とされ、調査者は扇川の旧流路という認識を示している。扇ガ谷地区では法泉寺跡・清涼寺跡・多宝寺跡などで 14 ～ 15 世紀の切石積み溝が確認されており、この時期、当地区の広範囲にわたって河川や道路側溝の大規模な改修が行われた様子が窺える。おそらく、谷戸内の崖面に多くのやぐらが穿たれたことと、石材の産出～供給の動向は関係しているのであろう。扇谷上杉氏による拠点形成に加え、各寺院の興隆も関わって地域の再開発が連動的に進んだのかもしれない。13 世紀中頃～ 14 世紀代の遺構面では多様な漆器や木製品が出土したといい、地点４と近似した内容を推察することができる。地点７でも、13 世紀中頃～ 15 世紀に及ぶ９枚の遺構面が確認され、地表下 290 ㎝の中世基盤層上面を９面としている。15 世紀とされる２面では、切石積み護岸の側溝をともなう東西道路が検出され、地点６の２面東西道と連続するものとなるのか、注目される。13 世紀後半頃に比定される５面では囲炉裏をもつ板壁建物が検出され、切石を敷き並べた方形区画も検出されている。石敷き近くからは金銅製の尼像（女性神像）が出土しており、石敷き遺構が堂宇的施設の痕跡であった可能性も指摘されている。両地点ともに興味深い成果が挙がっており、早急な正式報告書の刊行が望まれる。

上記３地点と本地点との中間に位置する地点２では、地表下 80 ㎝までという深度規制の中、２枚の中世遺構面が検出され、上層の１面は 14 世紀後半頃に、下層の２面は 14 世紀前半頃に比定されている。２面では切石敷きと建物が整然と展開し、瀬戸入子や白かわらけに加え、文様意匠の豊かな漆器など、注目すべき遺物が多い点、報告書では指摘されている。経費の都合で図示された遺物が一部に留まってしまったとのこと、残念に思う。

本地点の北東 100 ｍに位置する地点５では、地表下 150 ㎝までの深度規制の中、２枚の中世遺構面が検出されている。上層の１面では、現行の亀谷坂へと向かう道路に並行する凝灰岩の切石列（石垣）が検出され、遺物様相から 14 世紀後半～ 15 世紀に比定されている。２面ではピット・土坑を中心とする遺構群が検出され、調査面積に比して遺物の出土量が多いという。かわらけは「薄手丸深」が大部分を占め、大・中・小の法量分化が明確である点が指摘されている。

ＪＲ横須賀線を挟んで地点２の相向かいに位置する智岸寺跡（エ）では、岩盤を削平した二段の平場

が確認され、そこから掘り込まれた溝や土坑といった遺構が検出されている。上段平場では、東西方向に延びる溝１で、切石の蓋石を並べ置いた希有な構造が確認されているが、大型の切石を多用している点は、当地域に共通する普遍的な在り方といえる。下段平場では、上段との境となる崖面に接する形で東西２間×南北３間の柱穴列が検出され、崖面には龕状の小横穴が穿たれていた。正式報告書が未刊行なので遺物様相や年代観は知り得ないが、ＪＲ線を境に岩盤（尾根筋）と低湿地（開析谷戸）とに土地条件が分かれる点は、中世の景観復元を試みる上で注目される。

見てきたように、調査成果の蓄積が薄く、また地表下３ｍ以下の中世基盤層を確認するには調査条件の制約をともなうため、現時点では中世における土地利用の開始時期と、その具体的様相について十分には把握できていない。遺跡範囲は上杉定正邸跡になるが、扇ガ谷が南東に開ける地点オでは、地表下2.7ｍの中世基盤層上面である８面において、遺構埋土中から手づくねかわらけが少量ながら出土していることから、この消失以前となる13世紀前半のうちには、点的にでも土地利用が始まっていた様子が窺えよう。なお、同地点ではトレンチ調査ながら中世基盤層のさらに下位の土層から９世紀代に遡る土師器・須恵器や瓦が１ヶ所にまとまって出土している。全体の器形が分かる遺存良好な資料も何点か含まれており、平安時代における生活空間が近在していたことを示唆していよう。西に向かって寿福寺と対面する位置にある点、前述した義朝旧跡に先行する考古資料として意義ある発見と評価したい。

参考文献（表１掲載分以外）

特定非営利活動法人 鎌倉考古学研究所 2018『扇が谷地域を学ぶⅠ　資料集』

・大澤　泉「扇ガ谷地域の歴史Ⅰ―鎌倉と京のネットワーク―」

・大三輪龍哉「扇ヶ谷（東側地域）の社寺」

・宮田　眞「扇が谷地域の発掘調査Ⅰ」

特定非営利活動法人 鎌倉考古学研究所 2019『扇が谷地域を学ぶⅡ　資料集』

・大澤　泉「扇ガ谷地域の歴史Ⅱ」

・大三輪龍哉「扇ヶ谷（西側地域）の社寺」

・宮田　眞「扇が谷地域の発掘調査Ⅱ」

杉山一弥 編著 2019『図説 鎌倉府 構造・権力・合戦』戎光祥出版

他、表２に掲げた各調査報告書の遺跡概観を参考とした。

第三章　調査の経過と方法

第１節　調査の経過

今回の発掘調査は、個人専用住宅の建設にともなうもので、新規建物の基礎施工部分（Ⅰ区）およびカーポート新設部分（Ⅱ区）を調査対象とした。Ⅱ区については、工事による掘削深度が現地表下 110 ㎝で収まることから、概ねこの深さに該当する、標高 15.3 ｍまでを調査対象とした。掘削による発生土を敷地内に仮置きする都合から、Ⅰ区をＩＡ・ＩＢ区に分割し、ＩＡ→Ⅱ→ＩＢ区の順で調査に着手した。各区、表土掘削は重機で行い、これより以下の土層は人力で掘削した。ＩＢ区とⅡ区の表土掘削は同時に実施し、Ⅱ区の調査を終えた後、この部分にＩＢ区の掘削発生土を置く方法で調査を進めた。

ＩＡ区の表土掘削は令和元年 12 月 10・11 日に行い、令和２年２月 19・20 日にＩＡ区の埋め戻しとＩＢ＋Ⅱ区の表土掘削を行った。３月６日にⅡ区の調査を終了、４月 30 日にＩＢ区の埋め戻しを行い、

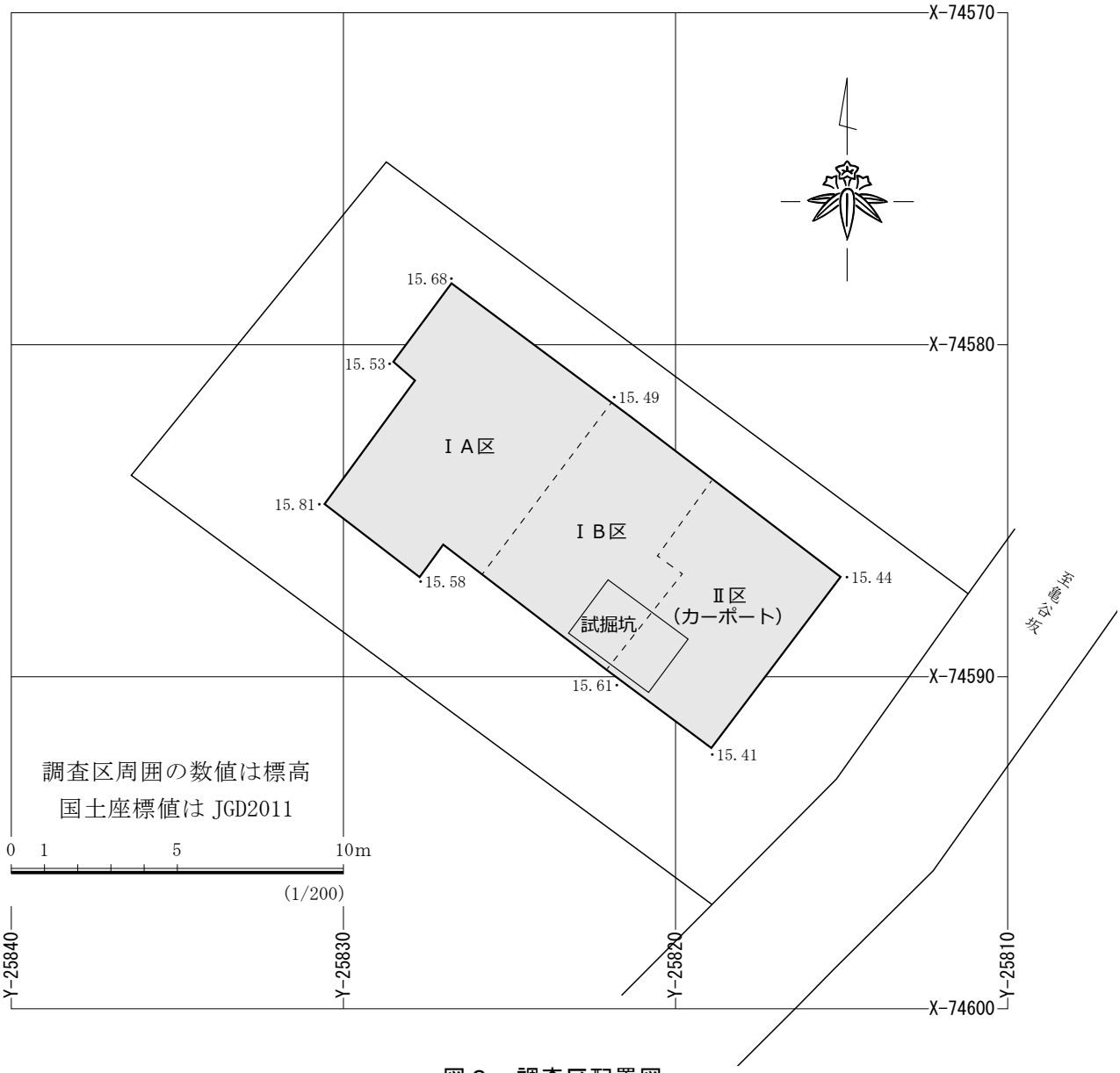


図２　調査区配置図

５月８日には一部補足の測量作業を行い、調査用具を撤収して、現地での調査工程は全て終了した。この後、出土品・記録類の整理作業に着手し、令和２年度上半期には漆器・木製品の洗浄と分類・実測作業を、下半期～３年度上半期は土器類の洗浄と分類・実測、次いで挿図・写真図版・表組の作成という順で作業を進めた。報告書の原稿執筆は10月末に至って本格的に着手し、半月ほどの期間を要した。一連の整理作業は、文化財課分室で行った。

第２節　調査の方法

各区とも、掘削を進めるごとに写真撮影・測量図作成などの記録作業を行った。測量には国家座標系（JGD2011）の基準軸を用い、市道上に打設された都市再生街区三角点2004Aと同節点2503Aの２点間関係を起点に、光波測距儀を用いた開放トラバース測量によって調査敷地内に基準点を移した。垂直座標（標高）は、2503A（14.822ｍ）を起点に、光波測距儀によるレベル測定を繰り返して、現地敷地内まで移動した。平面図の測図作業は、国家座標軸に準じた測量方眼を設定し、光波測距儀から得た測定値を1/20縮尺の方眼紙上に落とし込む方法で進めた。写真撮影はデジタルカメラとフィルムカメラを併用したが、主体に用いたのは前者で、後者はカラーネガフィルムを装填して補助的な利用に留めた。

なお、今回の調査では、安全面への配慮から止むを得ず未調査範囲が生じることとなった。

第四章　基本土層

現地表面の標高は15.4～15.7ｍを測り、北西側が高い。表土＝現代耕作土層は褐色砂質土で、40～60㎝の厚さを測る。これを除去すると、中世遺物包含層であるⅡ層・暗褐色土層が検出された。以下、中世の整地土であるⅢ層が積み重なり、地表下約３ｍの標高12.5ｍでⅣ層・黒色粘質土の堆積が確認された。従来、鎌倉の発掘従事者が「ネチャ」と称してきた土で、ごく少量の中世遺物を含む。Ｖ層・暗灰色シルト質土は中世基盤層（中世以前の自然堆積層の意、以下同）で、標高12.1ｍで確認された。Ⅲ層下部～Ｖ層はＩＡ区においてのみ、部分的なトレンチ調査によって確認できたに過ぎず、今回の調査では土層断面の観察による確認にとどまり、面的広がりの把握には至らなかった。

Ⅲ層は、幾重にも構築された整地面と、その上部に堆積した間層との繰り返しで構成され、間層には炭や砂､有機質腐植土（マグソ）のみで構成されるものもあった。ＩＡ区の整地層は薄く硬質に造られ、山砂（砂質凝灰岩）を硬く叩き締めて構築されていた。

Ⅲ層は2.4ｍの厚さに及び、この中で大別10枚の整地面が構築されていたが、出土遺物の様相には顕著な変化を見て取ることができなかったため、大よそ13世紀後半～14世紀中葉にわたって、比較的短い期間で整地面の更新が進んだものと推察できる（図３・４にトーン表示)。

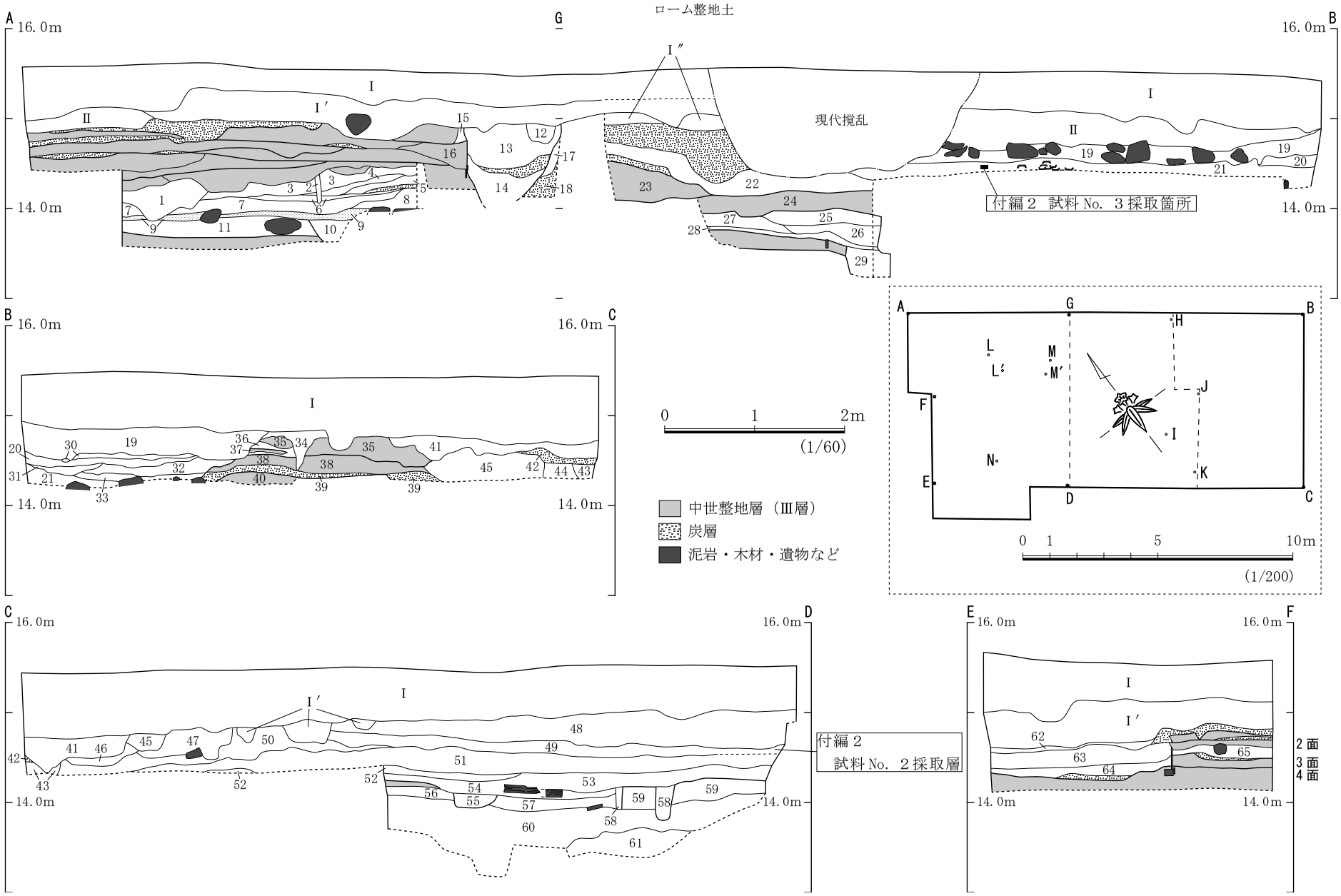

ローム整地土
現代撹乱
付編２　試料No.　３採取箇所
付編２
試料No.　２採取層
中世整地層（Ⅲ層）
炭層
泥岩・木材・遺物など
0　1　2m
(1/60)
0　1　5　10m
(1/200)
2面
3面
4面

図３　土層断面図（上段）

土層説明（図３に対応）

基本土層（各図共通）

Ⅰ．褐色土　砂質土。粘性ややあり。現代耕作土。

Ⅰ′褐色土　Ⅰ層をベースに、Ⅱ層を鋤き込む。

Ⅰ″褐色土　ローム土による現代整地土。

Ⅱ．暗褐色土　締まりややあり。中世遺物包含層。

Ⅲ．黄灰～青灰色土　破砕された泥岩、または砂岩による中世整地土。

Ⅳ．黒色土　粘質土。中世土器片ごく少量（ネチャ）。

Ⅴ．暗灰色土　シルト質土。中世基盤層か。

A-G-B-C-D

1. 黄褐色土　泥岩ブロック投げ込み。
2. 暗褐色土　有機質腐植土（マグソ）＋砂。
3. 暗灰色土　粘質土。
4. 暗灰色土　有機質腐植土（マグソ）。
5. 暗褐色土　泥岩粒少量。
6. 暗灰色土　有機腐植土（マグソ）。
7. 暗灰色土　有機質腐植土（マグソ）＋砂。
8. 暗黄褐色土　泥岩ブロック多い。
9. 灰色土　微細な灰粒主体。
10. 黒色土　粘質土。
11. 暗灰色土　有機質腐植土（マグソ）。木片・貝殻片多い。
12. 暗灰色土　粘質土。
13. 暗黄褐色土　泥岩ブロック多い。南北築地状遺構の築成か。
14. 暗黄褐色土　泥岩ブロック多い。南北築地状遺構の築成土か。
15. 暗褐色土　粘質土。
16. 黄褐色土　粘質土多い。
17. 黄褐色土　泥岩ブロック主体。
18. 黒褐色土　炭粒多い。
19. 暗褐色土　粘質土。
20. 黄灰砂　微細砂。流水にともなう堆積層か。
21. 暗灰色土　粘質土。微細砂混入。かわらけ多量。付編２の試料No. ３採取層。
22. 暗黄褐色土　泥岩ブロック多い。南北築地状遺構の築成土、または崩落土か。
23. 黄褐色土　泥岩ブロック主体。南北築地状遺構の築成土か。
24. 暗灰色土　泥岩粒＋砂による整地土。
25. 暗灰色砂
26. 暗黄褐色土　泥岩ブロック主体。
27. 暗灰色砂
28. 暗灰色土　有機質腐植土（マグソ）。
29. 暗灰色土　有機質腐植土（マグソ）。マグソ土坑埋土、または下層の堆積土か。
30. 暗褐色土　砂質土。
31. 暗褐色土　砂質土。
32. 暗褐色土　粘質土。かわらけ多量。
33. 暗褐色土　粘質土。
34. 暗褐色土　砂質土。
35. 黄灰色土　細密な泥岩粒による整地土。
36. 暗褐色土　粘質土＋砂。
37. 黄灰色土　細密な泥岩粒による整地土。
38. 黄灰色土　泥岩ブロック主体の整地土。
39. 黒色土　粘質土。炭粒多い。
40. 黄灰色土　細密な泥岩粒による整地土。
41. 暗褐色土　砂質土。
42. 黒褐色土　炭粒多い。
43. 灰色土　粘質土。
44. 暗灰色土　粘質土。
45. 黄褐色土　泥岩ブロック多い。
46. 暗褐色土　粘質土。炭粒多い。
47. 暗褐色土
48. 暗灰色土　砂質土。
49. 暗褐色土　粘質土。炭粒多い。付編２の試料No. ２採取層。
50. 黒褐色土　炭粒多い。
51. 暗褐色土　泥岩粒多い。
52. 黒灰色土　粘質土。炭混入。かわらけ多量。
53. 暗灰色土　泥岩粒多い。
54. 暗灰色土　泥岩ブロックやや多い。
55. 黒色土　腐植土。
56. 黒色土　腐植土＋砂。
57. 黒灰色土　粘質土。
58. 黒色土　腐植土。
59. 青灰色土　泥岩ブロック主体の整地土。
60. 暗褐色土　人頭大以上の泥岩ブロックの投げ込み。６面井戸１（池状遺構）の埋土。
61. 暗灰色土　有機質腐植土（マグソ）。ハマグリ殻多い。
62. 黒褐色土　粘質土。炭粒多い。
63. 暗褐色土　泥岩ブロック＋砂。
64. 黒褐色土　粘質土。炭粒多い。
65. 黄褐色土　泥岩ブロック主体。

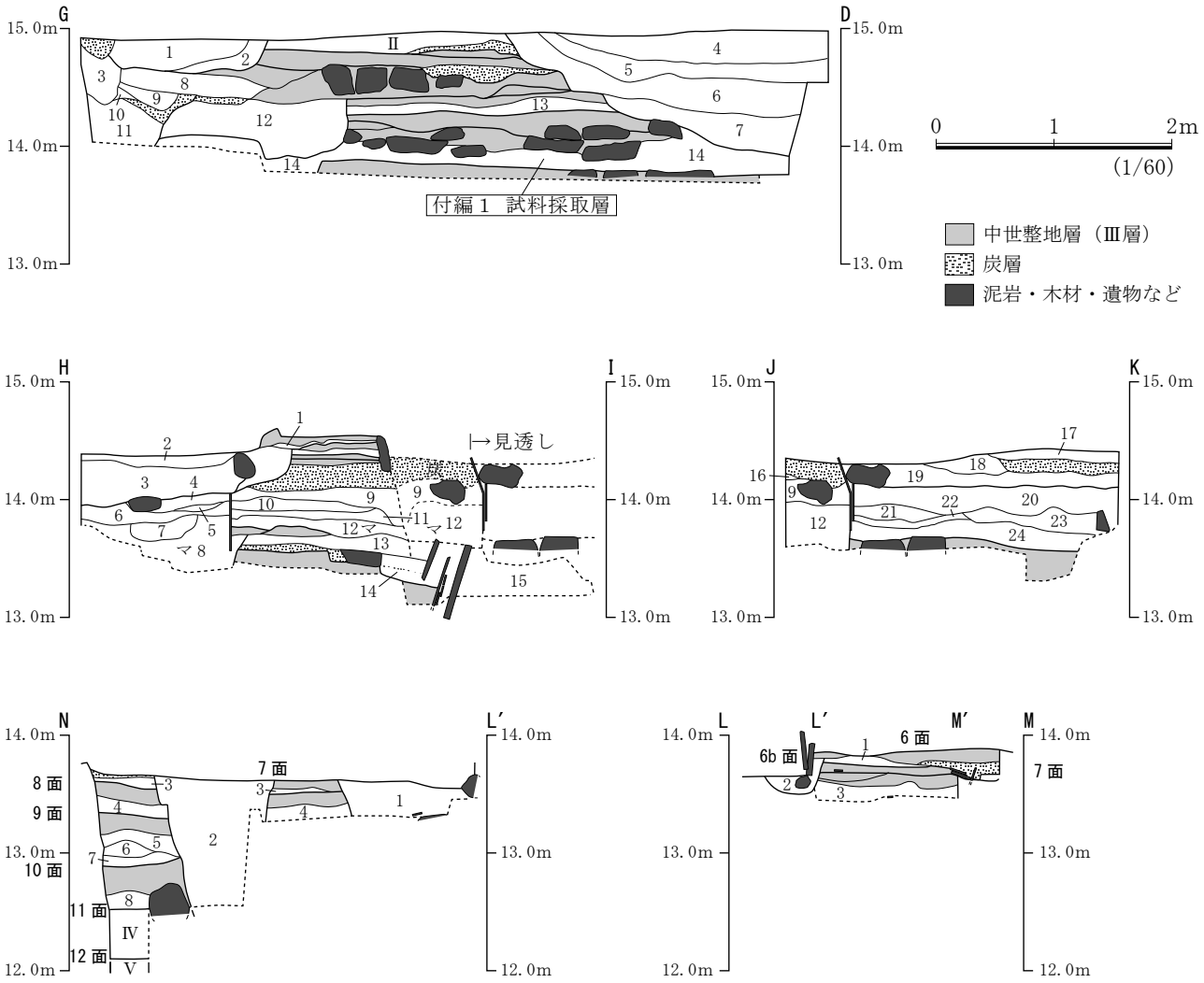


図４　土層断面図（下段）

土層説明（図４に対応）

G-D

1. 褐色土　粘質土。1 面土坑 2。
2. 褐色土　粘質土。1 面土坑 2。
3. 暗褐色土　炭混じり。
4. 暗黄褐色土　泥岩粒多い。
5. 灰色土　粘質土＋泥岩粒。
6. 黒褐色土　粘質土。かわらけ片多い。
7. 暗褐色土　砂質土。
8. 暗灰色土　締まりあり。
9. 暗黄褐色土　泥岩粒多い。
10. 暗褐色土
11. 暗褐色土　砂質土。軟質。
12. 暗褐色土　砂質土。
13. 黒褐色土　粘質土。
14. 暗灰色土　有機質腐植土（マグソ）。付編１の試料採取層。

H-I・J-K

1. 黒灰色土　粘質土。
2. 黒灰色土　粘質土。かわらけ多い。
3. 黒灰色土　軟質。
4. 黒灰色土　泥岩ブロック多い。
5. 暗黄褐色土　泥岩粒多い。
6. 黒灰色土　粘質土＋細砂。
7. 暗黄褐色土　泥岩粒多い。
8. 暗灰色土　有機質腐植土（マグソ）。
9. 暗灰色土　粘質土＋砂。
10. 黒灰色土　粘質土。
11. 黒灰色土　粘質土。
12. 暗灰色土　有機質腐植土（マグソ）。
13. 暗灰色土　粘質土。
14. 暗灰色土　有機質腐植土（マグソ）。

15. 青灰色土　泥岩ブロック主体。
16. 暗黄褐色土　泥岩粒主体。
17. 暗褐色土　粘質土。
18. 暗黄褐色土　泥岩ブロック多い。
19. 暗灰色土　砂質土。
20. 暗黄褐色土　泥岩ブロック多い。
21. 黒灰色土　粘質土。
22. 暗灰色土　有機質腐植土（マグソ）。
23. 黒灰色土　有機質腐植土（マグソ）ハマグリ殻多い。
24. 暗灰色土　砂質土。泥岩粒多い。

N-L′

1. 黒色土　泥岩ブロック主体。1面井戸1
2. 黒色土　炭主体。7面土坑1埋土。
3. 暗灰色土　有機質腐植土（マグソ）。
4. 暗灰色土　有機質腐植土（マグソ）+粘質土。
5. 暗灰色土　有機質腐植土（マグソ）。
6. 暗黄褐色土　泥岩粒主体。整地層か。
7. 暗灰色土　有機質腐植土（マグソ）。
8. 暗灰色土　有機質腐植土（マグソ）。

L(L′)-M(M′)

1. 暗灰色土　有機質腐植土（マグソ）。
2. 暗灰色土　有機質腐植土（マグソ）。
3. 暗灰色土　有機質腐植土（マグソ）。

第五章　検出遺構と出土遺物

第１節　検出遺構

今回の調査では、中世（鎌倉時代後期～南北朝期）における多くの整地面が検出された。

１面～２ｂ面下では、東西・南北の両築地状遺構を境界とした土地の区画性が見て取れ、整地や土地利用の状況に差異が見られたことから、本報告では南北築地の西側となるＩＡ区の西部を「北西区画」、東西築地を挟んだＩＢ区+Ⅱ区の北部を「北東区画」、南部を「南東区画」と呼称することとした。北西区画では硬質で薄い整地面が繰り返し構築されており、北東・南東区画の軟質な整地面とは様相を異にしていた。２ｂ面下より下位、つまり築地状遺構が構築される以前の整地状況については、概ね各区とも共通していると考えられたが、細密な層序には違いもあることから、完全には整合させることができなかった。ＩＡ区の３・４面については、ＩＢ+Ⅱ区に直接対応する面を見出すことができなかったため、標高値を基に「２ｂ面」と「２ｂ面下」に集約させ、３・４面は欠番とした。

以下、上層から順に、各遺構面の様相を説明する。

（１）１面の遺構（図５）

標高14.6～14.8ｍ前後で、表土層を除去したところで検出された。整地面としては土質が軟弱で、面上では土坑・ピットなどが散見されたほか、２面の築地状遺構が部分的に顔を覗かせていた。ＩＡ区東部では、２面の南北築地状遺構の構築材であったと見られる凝灰岩の切石とブロックが崩落した状態で検出されており、ＩＢ～Ⅱ区では、破砕泥岩を突き固めた東西築地状遺構の基底部分が検出された。両築地状遺構は、表土層ないし中世後期以降の堆積と思しき土層の直下で検出されたことから、築地としての機能・実態を失った後、上部の構築物は削平を受けたことが推察される。

北西区画では、凝灰岩のブロックを投げ込んだ大型の方形土坑を確認し、井戸の名称を付したものの完掘には至らず、また、掘削できた限りでは井戸枠も検出されなかった。

ピット、土坑は築地状遺構を切っているものもあり、築地削平後に穿たれたものであることが分かる。ＩＡ区の土坑１は東西180㎝×南北90㎝の長方形プランを呈し、確認面からの深さは25㎝ほどで底面はフラットであった。ＩＡ区の土坑２と北東区画の土坑１は、埋土が炭化物を主体としていた。

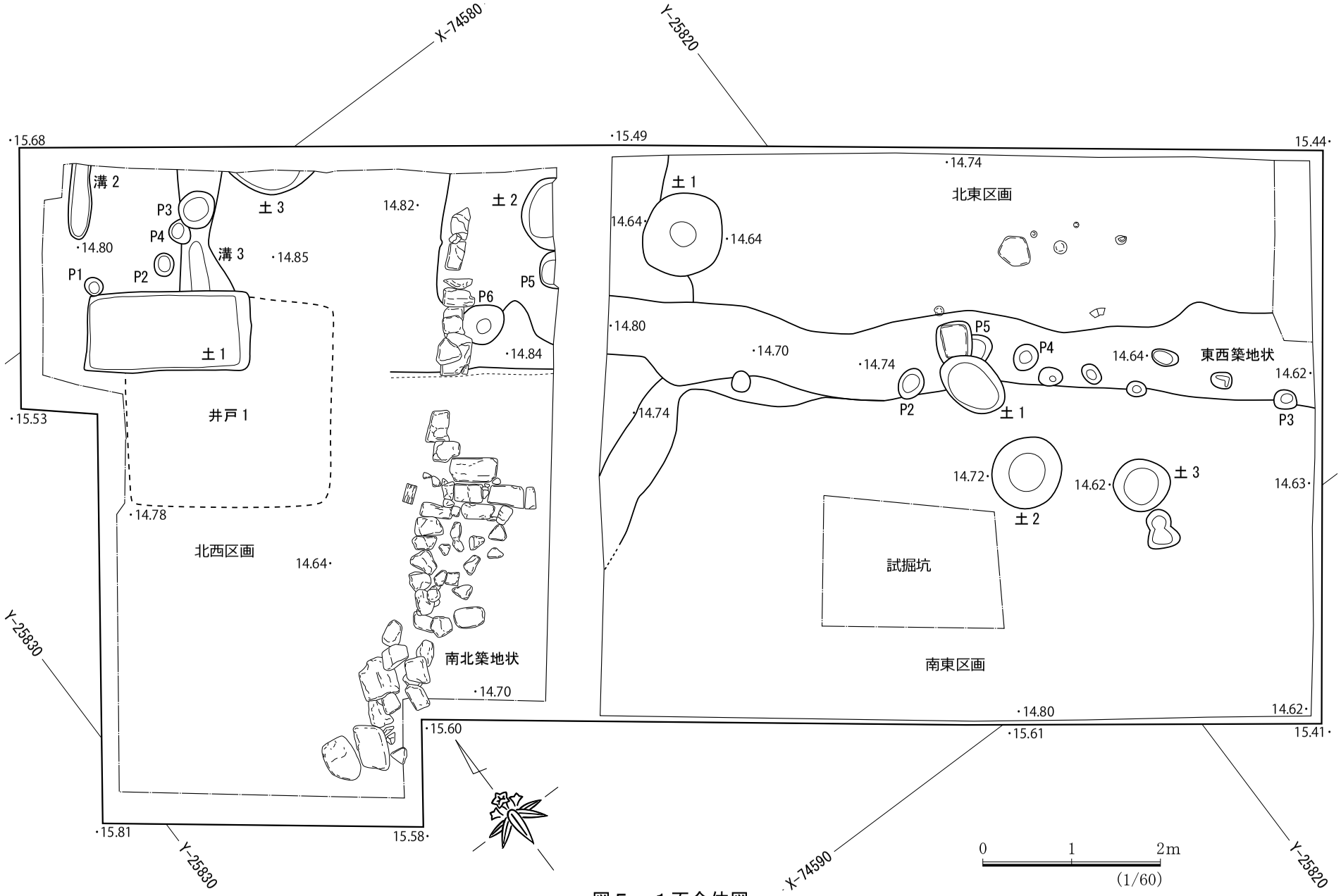

X-74580
Y-25820
15.68
15.49
15.44
溝 2
P3
土 3
14.82
土 2
P4
14.80
溝 3
14.85
P1
P2
P5
P6
土 1
14.84
井戸 1
15.53
14.78
北西区画
14.64
南北築地状
14.70
Y-25830
15.60
15.81
15.58
Y-25830
X-74590
15.61
15.41
Y-25820
14.74
北東区画
土 1
14.64
14.64
14.80
14.70
P5
P4
14.74
14.64
東西築地状
14.62
P2
土 1
P3
14.74
14.72
14.62
土 3
14.63
土 2
試掘坑
南東区画
14.80
14.62
0
1
2m
(1/60)

図５　１面全体図

調査区全域においてピットは少なく、それぞれが小規模で、列をなすところも認められなかった。

北西区画で検出された溝２・３は非常に浅い窪みとして確認されたもので、意図的に構築された遺構であったかは明確でない。

１面の出土遺物は少ないが、瀬戸窯産陶器や瓦質土器などから、大よそ南北朝～室町前期に時期比定できよう。

（２）２面の遺構（図６）

標高 14.3 ～ 14.8 ｍで確認された。北西区画では南に向けて、北東・南東区画では、東と南に向けて検出レベルが低くなる。南北・東西の築地状遺構が機能していた時期で、築地を境に異なる土地利用状況が認められた。

両築地状遺構は丁字形に交わるが、この結節部が丁度ＩＡ区とＩＢ区との境に位置したために一体的には把握ができなかった。南北築地状遺構の大部分はＩＡ区で検出され、西辺の基礎部分には、高さ 20㎝ほどの縦板を横木と杭で抑えた土留め板が遺存していた（図７上段）。Ｎ 44°Ｅで延び、縦板の下端レベルは標高 14.3 ｍを測る。木材の東に接して凝灰岩の切石・ブロックが並び、ＩＡ区東辺でも切石列が部分的に残り、両石列を繋ぐ直交方向の石列も４列が確認されている。これらは南北築地の土台部材と考えられ、標高 14.4 ｍの整地面上に据えられていた。北西区画では、切石列および土留め板を埋め込む形で整地面が形成されていたことから、築地の構築・補修など工事の諸段階に合わせて、比較的短期間のうちに整地面の更新が図られたことが推察できる。

東西築地状遺構はＩＢ～Ⅱ区で検出され、基底部幅は 70 ～ 100 ㎝を測る。細かな破砕泥岩（土丹）と黒色粘土を数 ㎝ ～ 15㎝ の厚さで交互に突き固めた「版築」工法で造作され、各土層の上面は平坦に整えられていた。版築土最下層の下部には炭混じりの粘質土層が 10 ～ 20㎝ の厚さで堆積し、この下位には堅固な整地面が確認できたことから、火災後における土地の再造成に当たって構築された可能性がある。この種の遺構については道路・通路としての性格を見出すことも可能であるが、構築用材である泥岩（土丹）の破砕が徹底している点など、鎌倉で検出される一般的な道路遺構に比べて造作が非常に緻密であった点を考慮して「築地状」と表現した。基底部のみ遺存していたことから、上部構造や本来の高さについては全く不明である。築地両サイドにおける出土品構成からは、瓦葺きであったとは考えられず、上土か草葺き程度の簡素な頂部構造であった可能性が高い。

北東・南東区画では北西区画ほどには堅固な整地面が確認できず、東西築地状遺構の両サイド 1.5 ｍほどの幅では整地面上の粘質土中に、完形資料を主体とする多量のロクロかわらけが廃棄されていた。完形に準じる資料だけでも千点近くに上り、破片資料も合わせた総重量から換算すると、数千個体分が出土したことになる。常滑片口鉢Ⅱ類や瓦質土器火鉢、漆器なども出土しているが、ごく少量に留まり、また破片資料が大部分を占め、全体形を把握できる資料は殆どなかった。ここからの出土遺物は、図 20 ～ 35 に掲載した。粘質土については、花粉等の分析を行った（付編２）。

（３）２ｂ面の遺構（図７）

２面の一枚下層を２ｂ面としたが、築地状遺構などの主たる構成遺構は２面と同一のものが使用されており、短期間での整地面の更新を窺わせる。Ⅱ区は掘削の制限深度を超えることになるため全体的な掘り下げは行わず、「２ｂ面下」に位置付く東西石列（築地基礎か）などの部分的な検出に留めた。

北東区画と南東区画では、２面かわらけ集積の下層に、もう１層のかわらけ集積が検出された。上層の集積と同時に廃棄されたものであるのか、別の廃棄行為にともなう痕跡であるのか、双方のかわらけが同型式であったため明確でないが、現地では区別して取り上げたことから、本報告でもそれに準じて

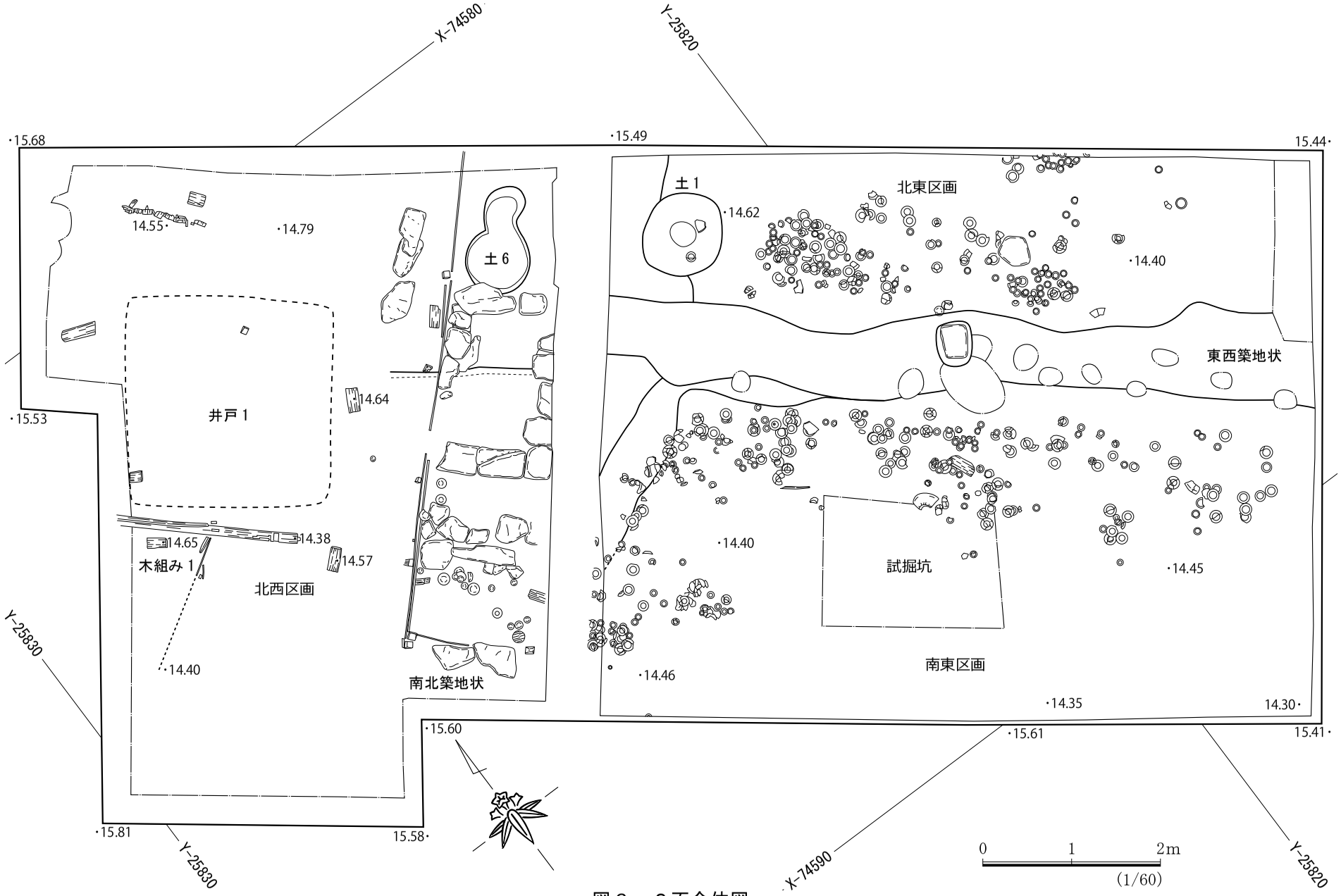

X-74580
Y-25820
15.68
15.49
15.44
14.55
14.79
土6
土1
14.62
北東区画
14.40
東西築地状
井戸1
14.64
15.53
14.65
14.38
14.57
木組み1
北西区画
14.40
試掘坑
14.45
Y-25830
14.40
南北築地状
14.46
南東区画
14.35
14.30
15.60
15.61
15.41
15.81
15.58
Y-25830
X-74590
Y-25820
0
1
2m
(1/60)

図６　２面全体図

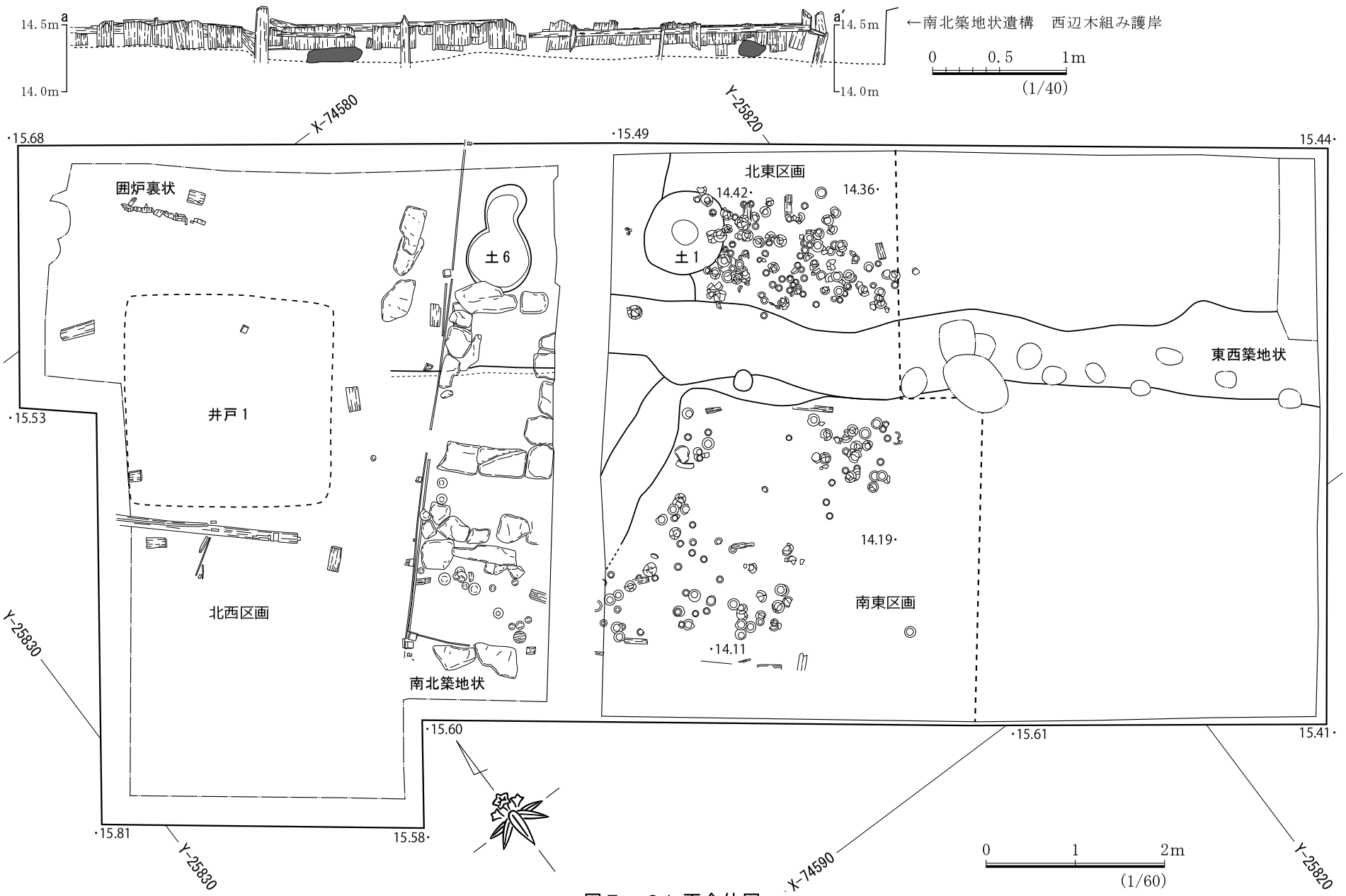

14.5m
a
14.0m
a′
14.5m
14.0m
←南北築地状遺構　西辺木組み護岸
0　0.5　1m
(1/40)
X-74580
Y-25820
15.68
15.49
15.44
囲炉裏状
土6
北東区画
14.42
14.36
土1
東西築地状
15.53
井戸1
14.19
北西区画
南東区画
Y-25830
14.11
南北築地状
15.60
15.61
15.41
15.81
15.58
Y-25830
X-74590
0　1　2m
(1/60)
Y-25820

図７　２ｂ面全体図

図示した（図 36 ～ 39）。

北西区画は全域的に硬質な整地面が形成されており、面上では短い板材を立て並べた囲炉裏状遺構が検出されている。囲炉裏で確定できれば建物の内部空間であった可能性も想定できるが、基礎構造を示す遺構が検出されていないため、断言はできない。

（４）２ｂ面下の遺構（図８）

東西・南北築地状遺構の基礎部分が設置されたレベルを２ｂ面下とした。南北築地の基礎は、標高 14.3 ～ 14.4 ｍに設置され、南北方向の土留め板と東西・南北に並ぶ石列で構築されていた。土留め板の西側となる北西区画では堅固な整地面が広がっていたが、建物の痕跡を示す柱穴などは確認できていない。

東西築地については、版築土南縁から１ｍほど南に隔てたラインに沿って、凝灰岩の切石・ブロックが並んでいた。標高 14.0 ～ 14.1 ｍの平坦面上に据わっており、石材は 20 ～ 25 ㎝の厚さをもつ。Ⅱ区では、深度制限のため石列の上面を検出したレベルで掘り下げを止めた。ＩＢ区の西端に当たる南北築地との接続部分では、凝灰岩ブロックが乱雑に並べられていた。東方へ長くは続かないことから、接続部近辺に限っての基礎構築物と考えられる。これら基礎石の上端レベルである標高 14.3 ｍ前後から版築土が積み上げられていたが、東西石列と対となる版築土北側の基礎構造物は確認できなかった。南に向けて下がる地形に対応した措置であったかもしれないが、合理的工法なのかは定かでない。

ＩＢ区南端部では、幅 10㎝ 程度の横板を杭で抑えた木組み遺構が検出された（図３－断面図Ｃ－Ｄ）。横板の上端は、標高 14.2 ｍ前後を測る。検出範囲が限定的であることから、どのような性格を有する構造物なのかは不明である。

（５）５面の遺構（図９）

既述の通り、現地調査のＩＡ区３・４面は欠番とした。

５面は標高 13.7 ～ 14.2 ｍ前後で検出された堅固な整地面で、北西側の確認レベルが最も高く、東と南に向けて低くなる。ＩＡ区では小規模なピットや囲炉裏の痕跡と思しき木組み遺構などが検出され、この付近が建物の内部空間であった可能性が考えられる。ＩＡ区の南東隅では人頭大の凝灰岩ブロックを乱雑に寄せ集めた落ち込みが検出され、これに続くものか、ＩＢ区南西隅でも大型の凝灰岩ブロックが確認されている。ブロックを取り外した後の底面標高は、13.82 ｍを測る。性格については不明だが、２面南北築地状遺構の基礎か、または築地の前身施設に関わる痕跡としての可能性を考えておきたい。落ち込み西脇の整地面上では、ハートマーク様の「猪の目」文様を左右対称に配した板材（飾り板？）が出土している。確実な「猪の目」文様自体、鎌倉では初めての発見となる。

ＩＢ区では、比較的堅固な整地面上に板材が横たわっていたが、明確な構造物ではなく、性格は不明である。

（６）６面の遺構（図 10）

標高 13.6 ～ 13.9 ｍ前後で検出された。ＩＡ区では、「コ」字形に配された木組み遺構や、その西側に接して整えられた凝灰岩の切石敷き遺構、硬く叩き締められた土間状の整地面（三和土）などが検出され、建物の内部空間を構成する遺構であった可能性がある。ＩＢ区では、中央を東西に横断する竹垣を境とした空間構成の違いが見て取れ、竹垣以北では並行・直交する切石列や板を立て並べた板壁状遺構１などが確認され、竹垣以南は大型の落ち込みが検出されている。

竹垣はＮ 39°Ｗに延び、直径３～４㎝ 程度の竹材を疎らに並べてあった。根元部分だけが遺存していたため、上部の構造は不明である。杭（柱）と横木で簡便な枠組みを作り、杭の間に竹材を並べ隙間

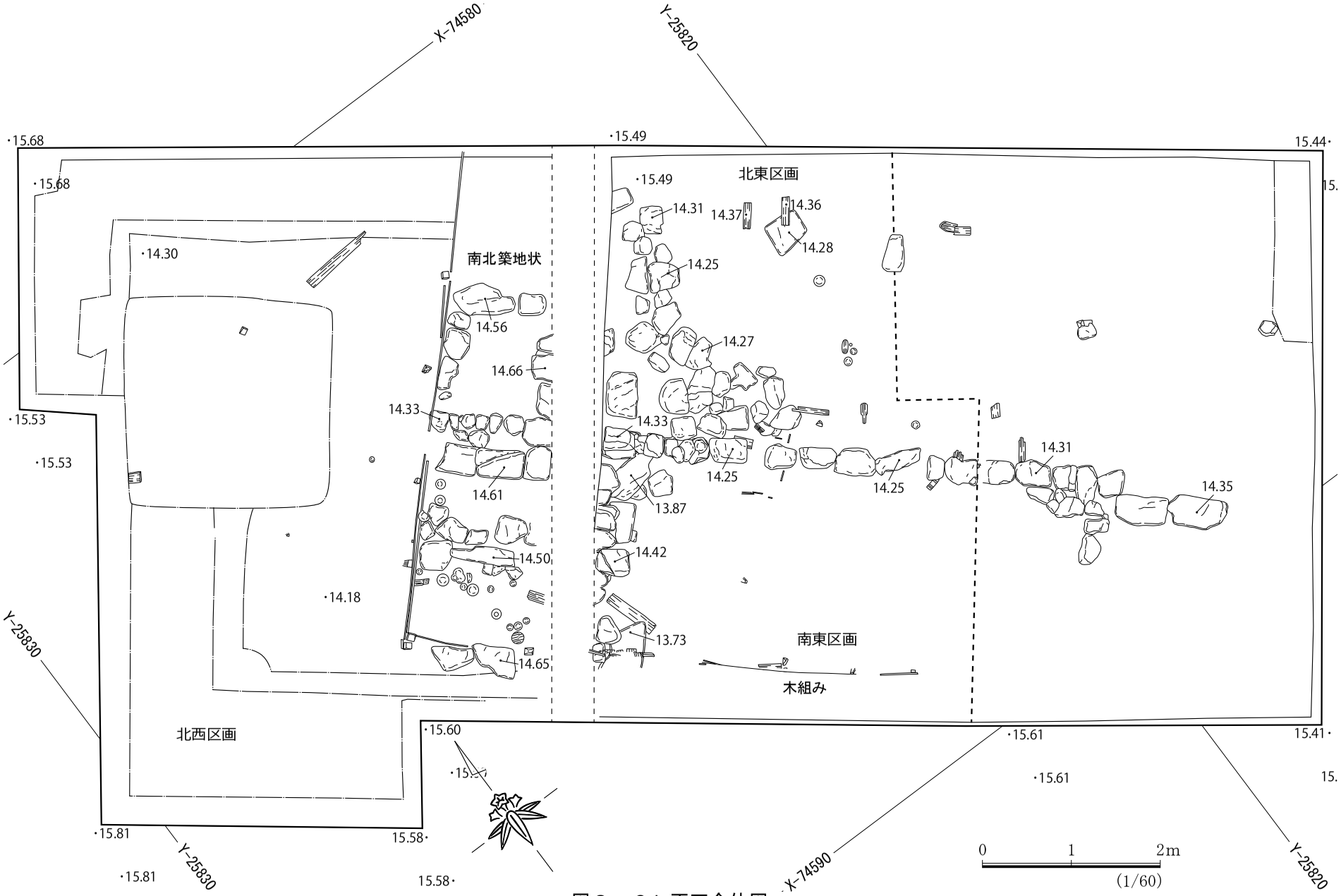

X-74580
Y-25820
15.68
15.49
15.44
15.68
15.49
北東区画
14.31
14.37
14.36
14.28
14.25
14.30
南北築地状
14.56
14.27
14.66
14.33
15.53
14.33
14.31
15.53
14.25
14.25
14.35
14.61
13.87
14.50
14.42
14.18
Y-25830
13.73
南東区画
14.65
木組み
北西区画
15.60
15.61
15.41
15.61
15.81
15.58
Y-25830
15.81
15.58
X-74590
0
1
2m
(1/60)
Y-25820

図８　２ｂ面下全体図

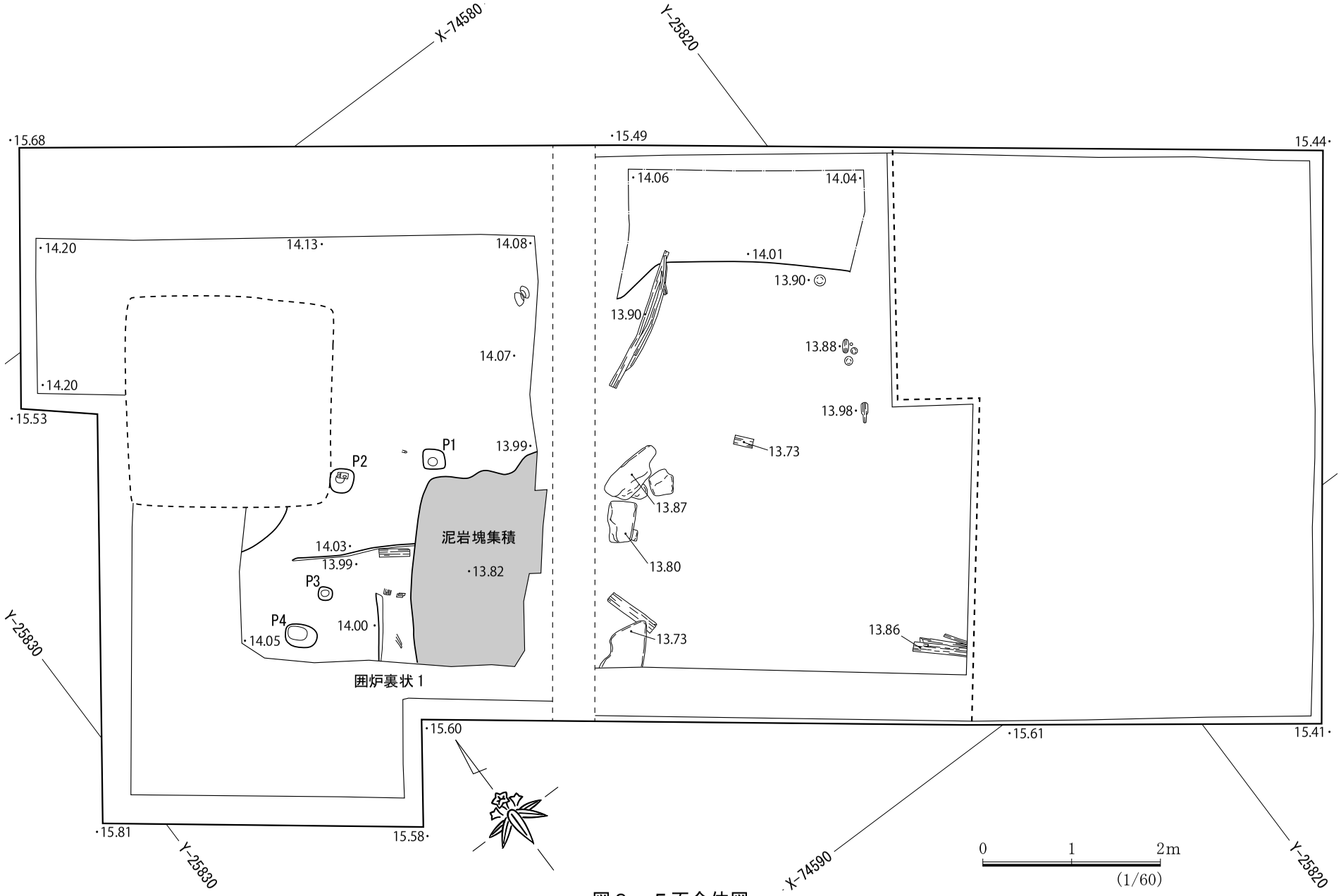

X-74580
Y-25820
15.68
15.49
15.44
14.06
14.04
14.20
14.13
14.08
14.01
13.90
13.90
14.07
13.88
14.20
13.98
15.53
13.73
P1
13.99
P2
13.87
泥岩塊集積
14.03
13.99
13.82
13.80
P3
P4
14.00
14.05
13.73
13.86
囲炉裏状 1
Y-25830
15.60
15.61
15.41
15.81
15.58
Y-25830
X-74590
0
1
2m
(1/60)
Y-25820

図９　５面全体図

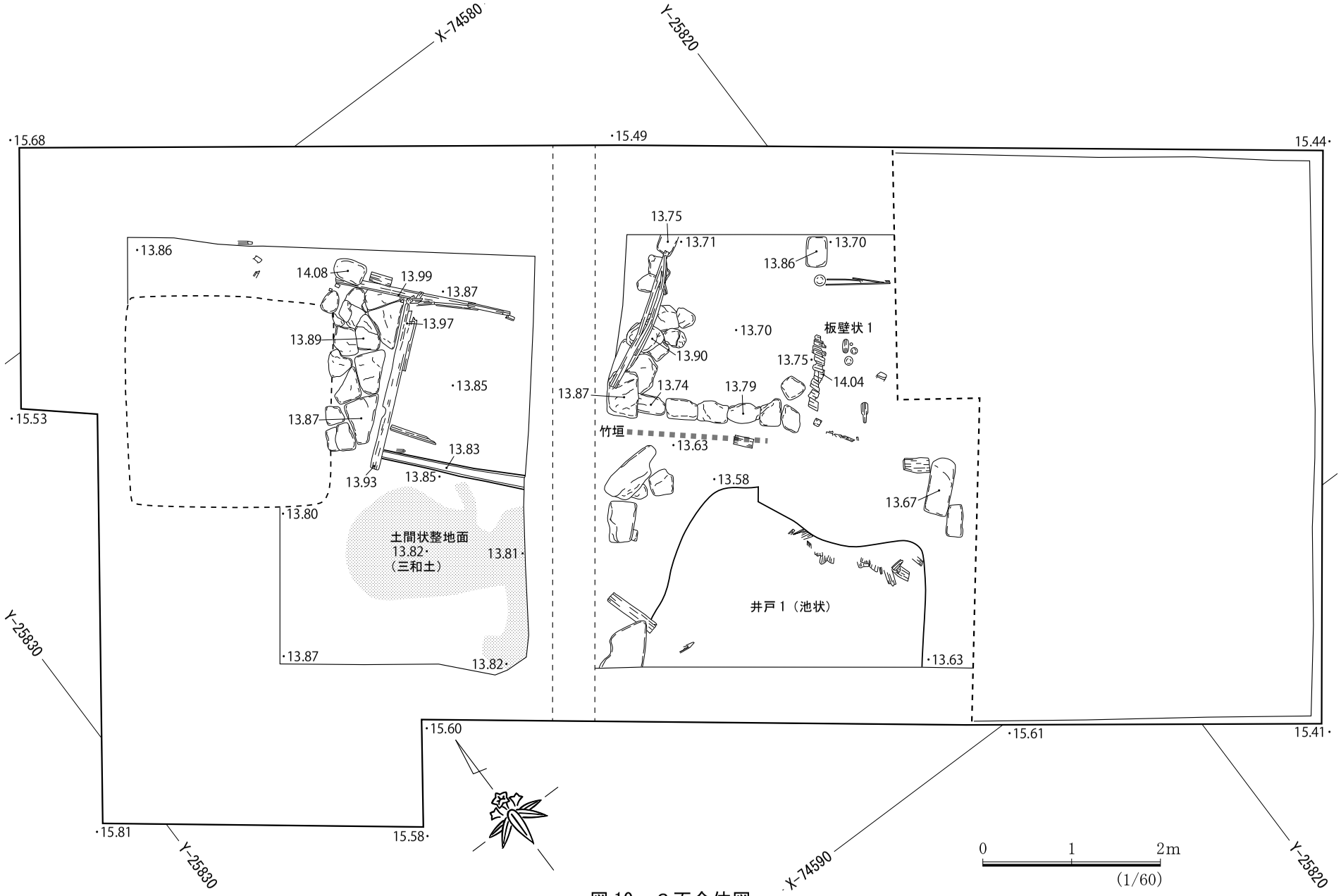

X-74580
Y-25820
15.68
15.49
15.44
13.86
14.08
13.99
13.87
13.97
13.89
13.85
13.87
13.83
13.93
13.85
13.80
土間状整地面
13.82
（三和土）
13.81
13.87
13.82
15.53
Y-25830
13.75
13.71
13.70
13.86
13.70
板壁状 1
13.90
13.75
14.04
13.87
13.74
13.79
竹垣
13.63
13.58
13.67
井戸 1（池状）
13.63
15.60
15.61
15.41
15.81
15.58
Y-25830
X-74590
Y-25820
0
1
2m
(1/60)

図 10　6 面全体図

を埋めたのだろうか。切石列も、竹垣と同じ軸方向で延びる。板壁状遺構１は、南北 80 ㎝ほどの範囲に幅 10㎝ほどの板材を立て並べて構築されており、基底部の標高は 13.7 ｍほど、高さは 20 ～ 30㎝を測る。東西石列が途切れる部分から北に向けて延びていた。板壁の北端部から 50 ㎝北では厚さ１㎝の横板が東西方向に埋め込まれてあった。これら遺構個々の性格や相互関連については、明確には分からない。板壁状遺構１の東側には有機質腐植土（マグソ）の堆積が見られ、この層中から漆器や木製品が出土している。マグソについては、大型植物遺体の分析を行っている（付編１）。

竹垣以南の落ち込みは、東西 3.2 ｍ、南北２ｍ以上を測る大規模なもので、本報告では現地調査時の名称に基づいて井戸１との名称を付した。掘方の北岸に沿って板材を乱雑に立て並べてあっただけで、井戸枠の存在は確認できていない。落ち込み内には人頭大ほどの凝灰岩ブロックが乱雑に投げ込まれており、本遺構の廃絶にともなって人為的に埋め立てられた痕跡と見なせる。安全面への配慮から完掘はできなかったが、井戸と確実視できる証跡もないことから、比較的浅い池などの施設であった可能性も考えられる。

（７） ６ｂ面の遺構（図 11）

ＩＡ区の６面下でのみ確認された整地面で、面上に広がる薄い炭層や、泥岩ブロックを集積した落ち込みといった遺構が検出されている。泥岩集中は６面の「コ」字状木組みの内郭に位置し、炭層は６面土間状整地面の直下で検出されている。炭層については非常に小規模な広がりに過ぎず、周囲に焼けた形跡も見られなかったことから火災痕跡とは見なせない。

（８） ７面の遺構（図 12）

標高 13.6 ～ 13.7 ｍで検出され、堅固な整地面は確認できたものの、明確な空間構成を把握するには至らなかった。ＩＡ区では、北半部で板材が一定方向に並んで出土し、かわらけや木製品もともなって出土している。南半部では土坑１が検出され、トレンチによる部分的な掘削に留めたことから、確認面から 110㎝の深さまでしか測定できなかった。埋土は、炭化物が主体の単一層であった。

ＩＢ区では、６面東西竹垣の直下で同方向に延びる溝１が検出され、この南岸には柵（しがらみ）状板組み護岸が遺存していた。抑え材の板杭は東に傾いており、土圧など西からの力が加わったものと見られる。溝の埋土および北側整地面上では完形のロクロかわらけや漆器椀･皿がややまとまって出土している。東･西とも調査範囲外に続き、西側延長部がＩＡ区では確認できていないことから、調査未実施部分で終結、または南・北のどちらかに屈曲した可能性が考えられる。

ＩＢ区の北東角では有機質腐植土（マグソ）を埋土とする土坑が検出された。完掘はできなかった。

（９） ８面以下（図 13）

８面は、ＩＡ区でのみ、トレンチ調査によって部分的に確認された。標高は、13.4 ｍ前後を測る。遺構は検出されなかった。

９面以下は、トレンチ深掘り部分の土層断面でのみ確認された。９面と 10 面は破砕凝灰岩を堅固に突き固めた人工の整地面と見られ、９面が標高 13.3 ｍ前後、10 面が 12.9 ｍ前後を測る。

11 面は、Ⅳ層・黒色粘質土層の上面に設定した。標高は、12.5 ｍ前後を測る。Ⅳ層は、鎌倉の発掘従事者が「ネチャ」と呼称する土で、通常はごく少量の中世遺物片を包含するが、本地点では、確実にⅣ層からの出土と限定し得る遺物は皆無であった。

12 面は、Ⅴ層・暗灰色シルト質土層の上面に設定した。標高は、12.1 ｍ前後を測る。Ⅴ層は、中世基盤層と目される。現地表面から 3.5 ｍという深い位置で、非常に狭い範囲での確認に留まった。

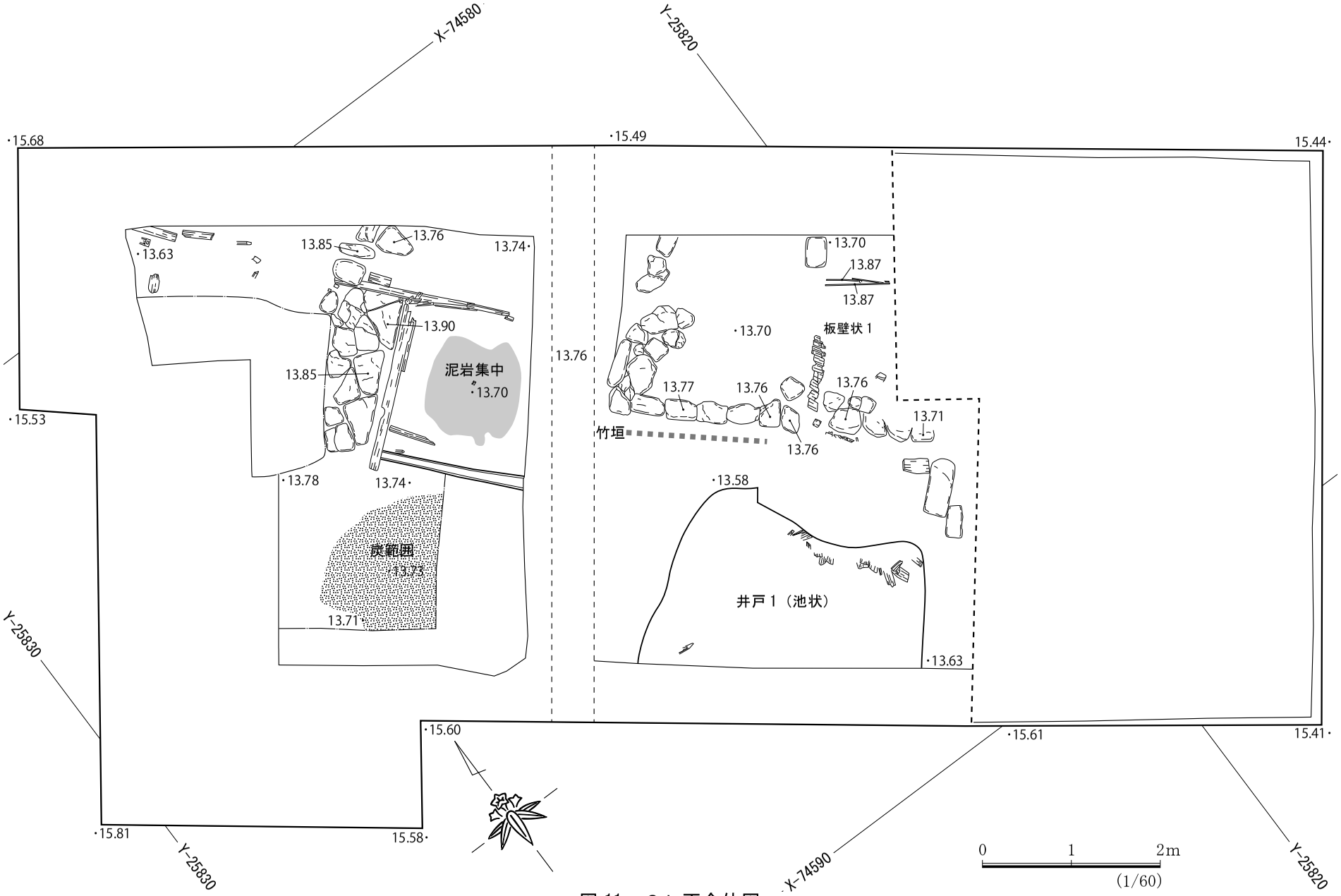

X-74580
Y-25820
15.68
15.49
15.44
13.63
13.85
13.76
13.74
13.90
13.85
泥岩集中
13.70
13.76
13.70
13.87
13.87
13.70
板壁状1
13.77
13.76
13.76
13.71
竹垣
13.76
15.53
13.78
13.74
13.58
炭範囲
13.73
井戸1（池状）
13.71
13.63
Y-25830
15.60
15.61
15.41
15.81
15.58
Y-25830
X-74590
Y-25820
0
1
2m
(1/60)

図 11　６ｂ面全体図

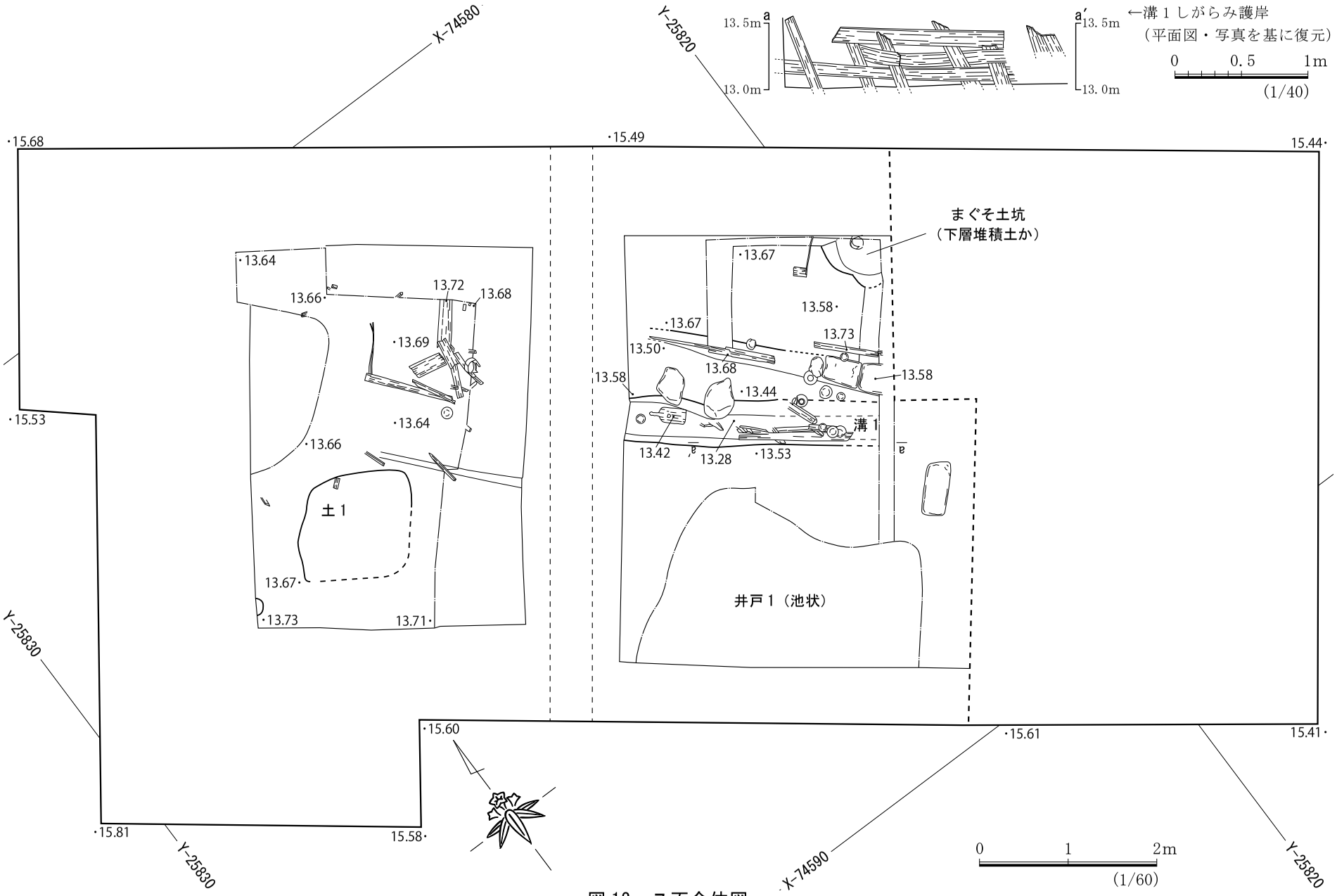

←溝１しがらみ護岸
（平面図・写真を基に復元）
13.5m
13.0m
a
a′
0 0.5 1m
(1/40)
X-74580
Y-25820
Y-25830
X-74590
15.68
15.49
15.44
15.53
15.60
15.61
15.41
15.81
15.58
まぐそ土坑
（下層堆積土か）
13.64
13.66
13.72
13.68
13.69
13.64
13.66
土１
13.67
13.73
13.71
13.67
13.58
13.67
13.73
13.50
13.68
13.58
13.58
13.44
溝１
13.42
13.28
13.53
井戸１（池状）
0 1 2m
(1/60)

図 12　７面全体図

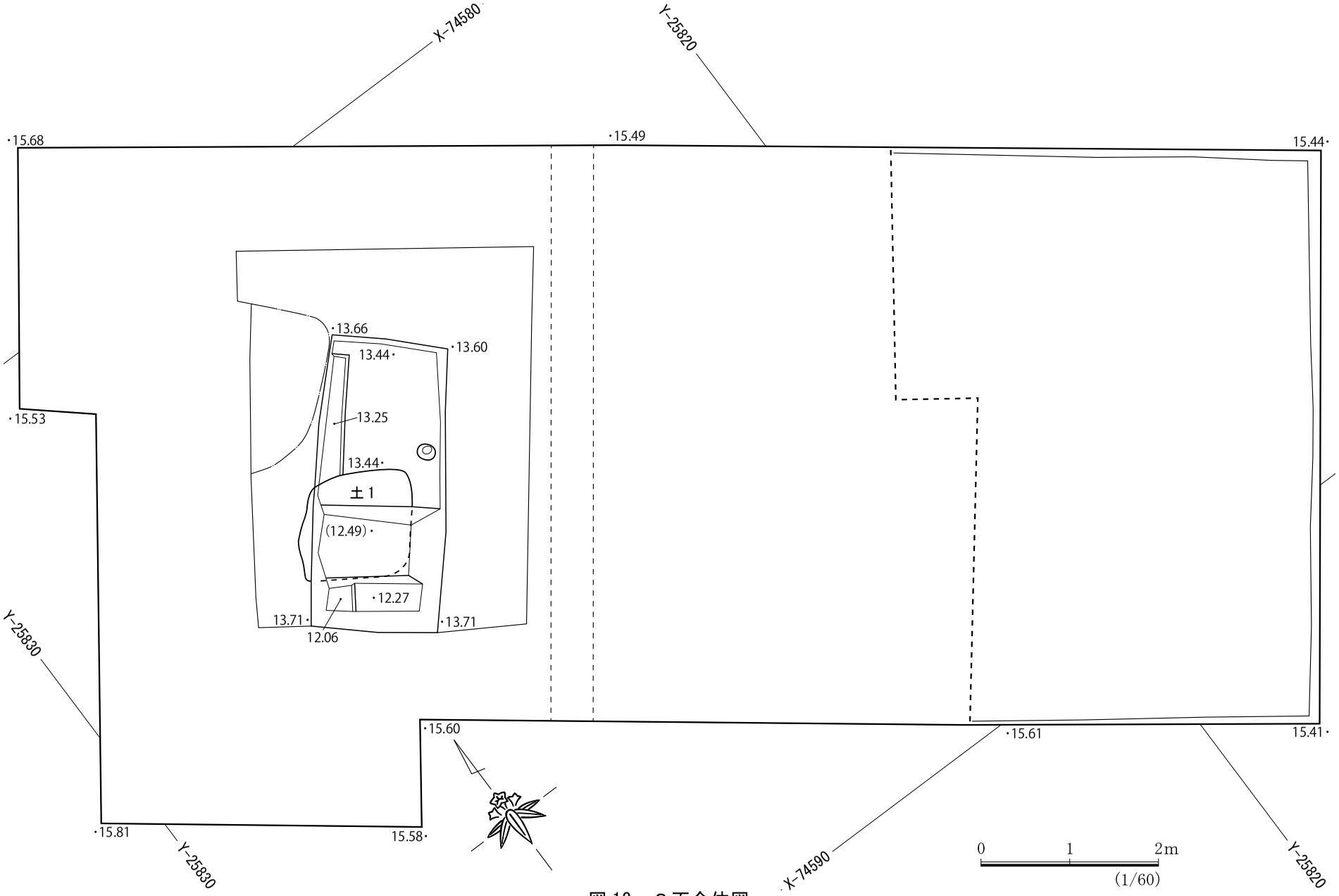

X-74580
Y-25820
15.68
15.49
15.44
13.66
13.60
13.44
13.25
13.44
土1
(12.49)
12.27
13.71
12.06
13.71
15.53
Y-25830
15.60
15.61
15.41
15.81
15.58
Y-25830
X-74590
Y-25820
0
1
2m
(1/60)

図 13　８面全体図

第２節　出土遺物

以下、上層から順に、出土遺物について概略を説明する。層位・遺構ごとの出土量については表３のカウント・計量表を、遺物個々の具体的内容については表４の観察表を参照されたい。

なお、遺物挿図については、作図工程の違いにより、出土層位・遺構などが同じであっても、土器・陶磁器類や石・金属製品などは図 14 ～ 49 に、漆器・木製品類は図 50 ～ 74 に分けて掲載した。挿図・表４の遺物番号は１～ 1566 の通し番号を付したが、原稿の作成過程で重複や漏れが生じたことにより、本来図示すべき場所に配置できなかった資料がある。これらについては、通し番号とは別に補遺番号を付して、図 28（補１～ 6)、図 46（補７・８)、図 56（補９～ 11）に掲載した。以下の記述では、挿図番号を省略して、遺物番号のみ表示することとする。

（１）確認調査・表土などの出土遺物

表土～１面上の出土遺物には、外反基調のかわらけ（15・28・29）や、古瀬戸の中期様式後半～後期に属する平碗（16)・卸皿（31）が含まれることから、資料数は限られるものの、14 世紀中葉～後半を大よその下限年代に当てることが可能である。周辺の発掘調査では、一定の普遍性をもって「鎌倉府」時代の考古資料が確認されているので、本地点では、当該期の層位が削平で失われてしまった可能性が高い。30 の瀬戸入子は、底部外面の３ヶ所に、粘土を外縁側に向けて削り寄せた、簡素な脚部を作り出している。

（２）１面の出土遺物

43 は小片だが、龍泉窯系青磁の酒会壺口縁部である。44 は瀬戸のすり鉢Ｂ類で、古瀬戸後期様式の後半以降に位置付けられ、他の１面遺構出土遺物に比べ、大幅に新しい時期の所産である。50 ～ 55 は南北築地状遺構の基底部下から出土したロクロかわらけで、正確には２面よりも古い時期に位置付けるべき資料である。49 は銭銘が不鮮明だが、五銖銭であることは判読できた。

１面下～２面では、72 の瀬戸折縁深皿が後Ⅱ期頃に当たり、15 世紀初頭前後が年代的下限とできるものの、構成の主体をなすロクロかわらけは、そこまで下らないだろう。75 ～ 87 は、いびつな形状の資料も含むが、黒の碁石と判断して掲載した。91 は龍泉窯系青磁碗の小片で、鎌倉では出土数の少ない、Ⅳ類の可能性がある。92 の瀬戸入子は、30 と同様の作り方で短小な三足を付けている。

（３）２面の出土遺物

164 ～ 388 は北東区画かわらけ集積から出土した資料で、345 ～ 388 は下層からの出土である。
北東区画２面上の 99 ～ 106 と 112 ～ 148 も本来は、下位のかわらけ集積にともなうものであった可能性が高い。ロクロかわらけが圧倒的多数を占め、その他では、常滑７型式の片口鉢Ⅱ類（341 ～ 343、379 ～ 381）や銅銭が散見される程度である。ロクロかわらけについては、基本的に口縁部の左右両端を通して実測でき、口径復元の必要がない個体に限定して図化した。大・中・小の三法量に区別でき、さらに細分できる要素も見て取れる。小さめの底部から内湾する体部へと移行する器形が主体を占め、水簸された胎土で成形技術が優れた「薄手丸深」タイプ（Ｃ）も、一定量が出土している（表４参照)。口縁部に油煤が付着した、灯明皿としての使用痕跡を残す資料が多く、特に小皿と中皿に、その傾向が強く見て取れた。法量の違いによる、使用方法・目的の差異を見出せようか。常滑の片口鉢Ⅱ類は全て破片資料であるので、生産年代から使用・廃棄に至る一定の時間的経過を考慮する必要がある。口縁の

肥厚化が進んでいないので７型式＝Ｅ類（藤澤・山本 2015）と見なすのが妥当と思われるが、従来は 14 世紀前半に比定されていた当型式について、近年は 13 世紀第４四半期に遡らせる見方も支持されている（藤澤・山本前掲）。ここに上限年代を置き、一括廃棄されたであろう、ロクロかわらけが当集積遺構の下限資料であることを考慮すれば、大よそ 14 世紀前半頃に廃棄の年代観を求めることが可能となる。379 は、内面の口縁部下に焼成前のヘラ描き記号「×」が残されている。

389 ～ 471 は南東区画の２面上で出土したが、これらも本来的には、下位のかわらけ集積に帰属する資料であったろう。454 は、ほぼ全体の器形を知り得る瓦質土器の火鉢Ⅲ類。453 も同じだが、口縁部のみが意図的に打ち欠かれていた。二次利用に供するためであろう。ともに掌大程度の破片となって、各所に散在した状態で出土している。

472 ～ 741 は、南東区画のかわらけ集積で出土した。714 ～ 741 は、下層からの出土である。基本的な遺物構成は北東区画と同じで、完形に準じるロクロかわらけが圧倒的多数を占めている。676 は常滑片口鉢Ⅱ類で、口縁部の肥厚具合から８型式（Ｆ類）に相当しよう。677 と 678 は同一の資料で、瓦質土器の火鉢。ＩＢ類か。内面の口縁下に菊花文を連続押印している。内面への施文は、類例が少ない。726 は小壺の肩部小片で、外面に櫛描き文が施される。黒味がかった焼き上がりで、珠洲窯産であろう。

南北築地状遺構のＩＢ区側整地面上（または築成土中）からは、銅銭４枚が錆によって固着した状態で出土している（補２～５）。このうちの２枚は崇寧通寶の当十銭（補４・５）で、膨大な量の銅銭が利用された中世の鎌倉にあっても、類例の限られる資料である。

（３）２ｂ面の出土遺物

742 ～ 825 は北東区画の、826 ～ 914 は南東区画のかわらけ集積で出土した。ともに、資料の大部分をロクロかわらけが占める。２面のかわらけとの間に、顕著な型式差は見て取れない。小皿に灯明皿の比率が高い点も、同様である。

916 ～ 952 は、ＩＢ区の西壁崩落土から採集した遺物で、確実な帰属層位は掴めていない。遺存度の高さと出土量から見て、南東区画２面のかわらけ集積に連続する可能性が高いものと考えている。

２面下～５面の掘り下げにともなう遺物は、958 ～ 969・987（最上層）、988 ～ 1027（上層）、1028 ～ 1057（中層）、1058 ～ 1065（下層）に示した。特筆すべきものは少ないが、1049・1050 に図示した常滑片口鉢Ⅱ類は４つの破片が接合したものだが、このうち１片にだけ研磨具として再利用した痕跡が見て取れた（1049 左と 1050）。手近にある廃棄物利用の証跡といえよう。ほか、漆器は 1189 ～ 1192 に掲載した。

（４）５面以下の出土遺物

５面上、およびこれ以下の層序では有機質腐植土の堆積が随所に見られ、この層中を中心に、残りの良い木製品・漆器が多く出土している。漆器椀・皿の文様には、繊細で優美な作例が多く見て取れる。

1170 は、全体の器形が分かる瓦質土器の火鉢Ⅲ類で、６ｂ面下～７面という下位の層序にあっても、２面上南東区画で出土した 453・454 と同一型式である点、ロクロかわらけと同様に、顕著な型式差＝年代差がないことを示していよう。

1264 は獅子頭を象った木製品で、呪術具としての形代類に属するだろうか。上顎部の造形に持ち手となる板状部分が付く。鼻梁～頭部の表現が見えず、この部分に２ヶ所の貫通孔があることから、頭部のみの部材を組み合わせ、紐や木釘などで固定したのかもしれない。もしくは、下顎部と組み合わせるための造作であろうか。同じ形の類例が、石川県西川島遺跡群にあるが（河野 2001）、鎌倉では初めての発見である。

1269 は、植物の茎を束ねたもので、現地での発見時には、束ねるための縄が遺存していた（写真図

版 22- ２・３)。

1349 は「猪の目」を左右対称に配置した板材。飾り板か。

1461・1496 は墨書のある経木折敷片。1461 は文字や花押状の墨痕に加え、同一の筆致を繰り返したような墨痕が表裏両面に残っており、習書や筆慣らしに用いられたものと考えられる。1496 の墨痕は薄く、仮名様の筆致と思われるものの、判読はできていない。

1522 は溝を切った同形状の部材を２つ重ね合わせることで、中央部に菱形断面の貫通孔が横断する形態に作っている。両部材を縦に貫通する小孔が２ヶ所に設けられ、ここに紐か木釘を用いて固定したのだろう。正確な用途は不明だが、横断孔に棒状部材を挟み込んで使用したものと考えられる。囲炉裏の自在鉤を高さ調節するための「小猿鉤」に類する資料ではないか、 という意見も聞いたが、現行品とは形状が大きく異なることから、可能性の指摘に留めておく。類例は、若宮大路周辺遺跡群の２地点で出土している（小林ほか 2000・後藤 2022)。

1540 は脚付き台。３枚の板材を、枘組みで下駄状に組み立てている。全く同形状の出土例を知らず、具体的な用途は不明。

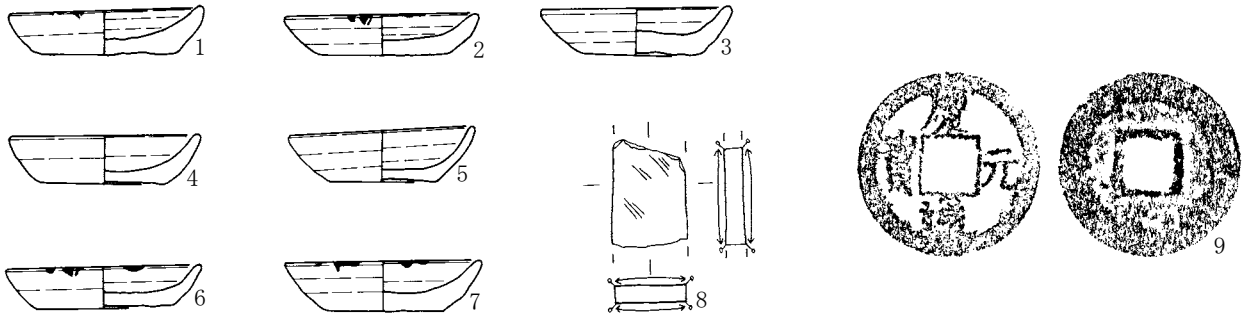
参考文献（発表年順）

小林重子ほか 2000「若宮大路周辺遺跡群（No.242）小町一丁目 198 番６」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 16（第１分冊)』鎌倉市教育委員会

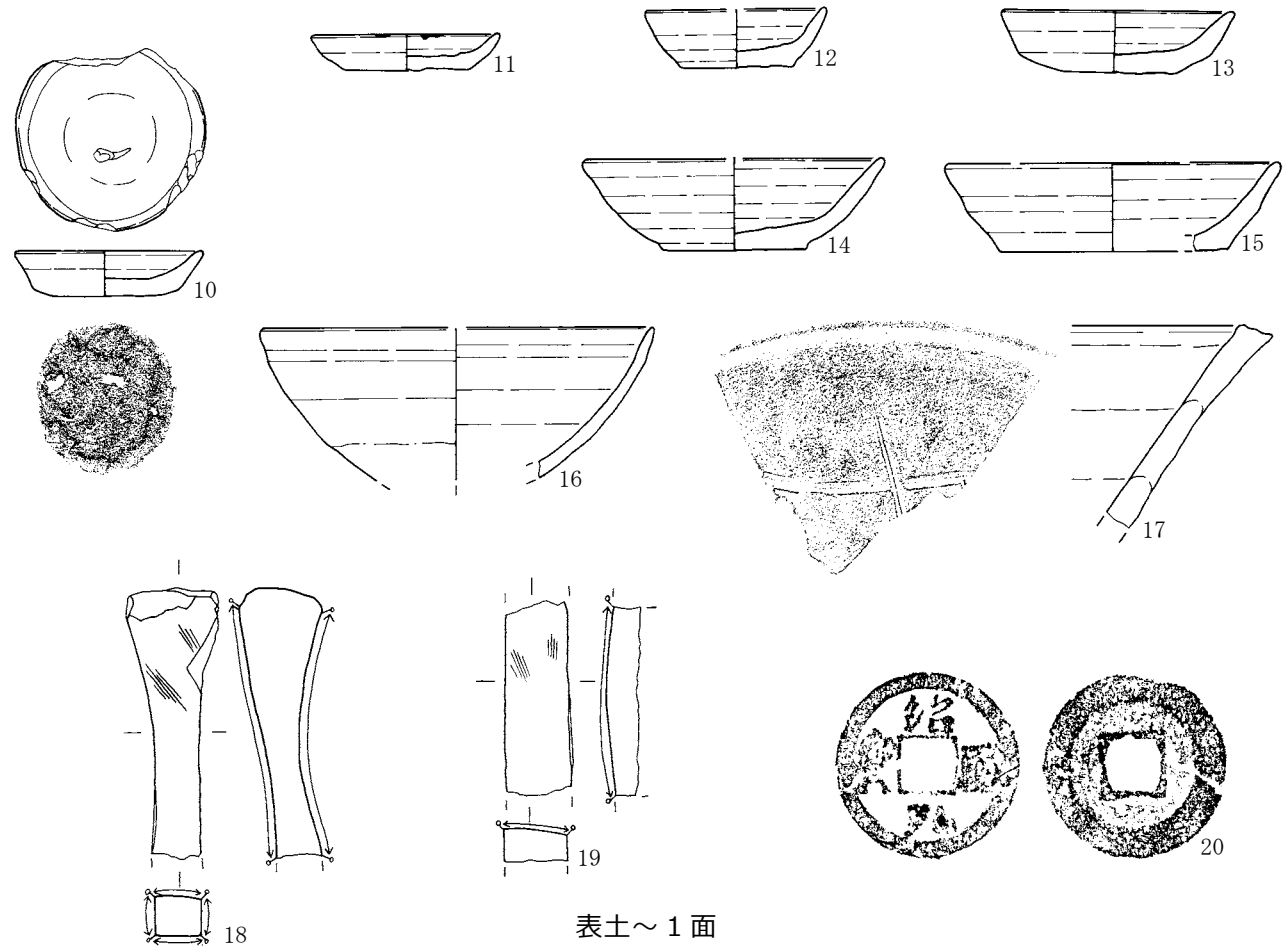
河野眞知郎 2001「さまざまな祭祀・呪術」小野正敏ほか編『図解・日本の中世遺跡』東京大学出版会

藤澤良祐・山本智子 2015「付編　中世常滑窯編年の再検討―５型式期以降を中心に―」『上県２号窯跡第９次発掘調査概要報告書』愛知学院大学文学部歴史学科

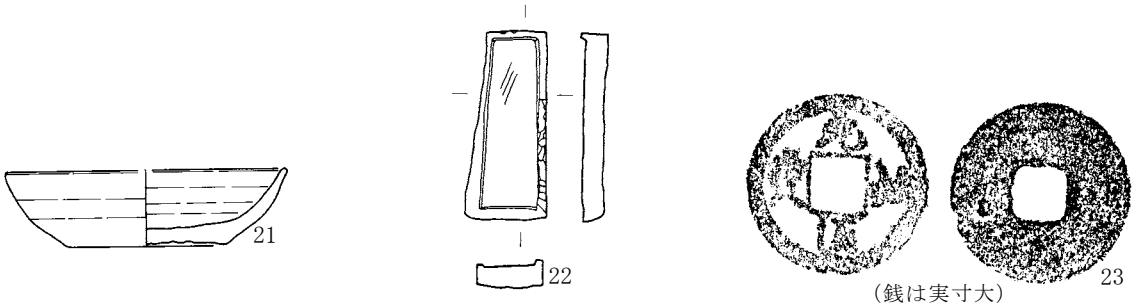
後藤　健 2022「若宮大路周辺遺跡群（No.242）雪ノ下一丁目 161 番 43」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 38（第１分冊)』鎌倉市教育委員会



確認調査（試掘）・排土山



表土～１面



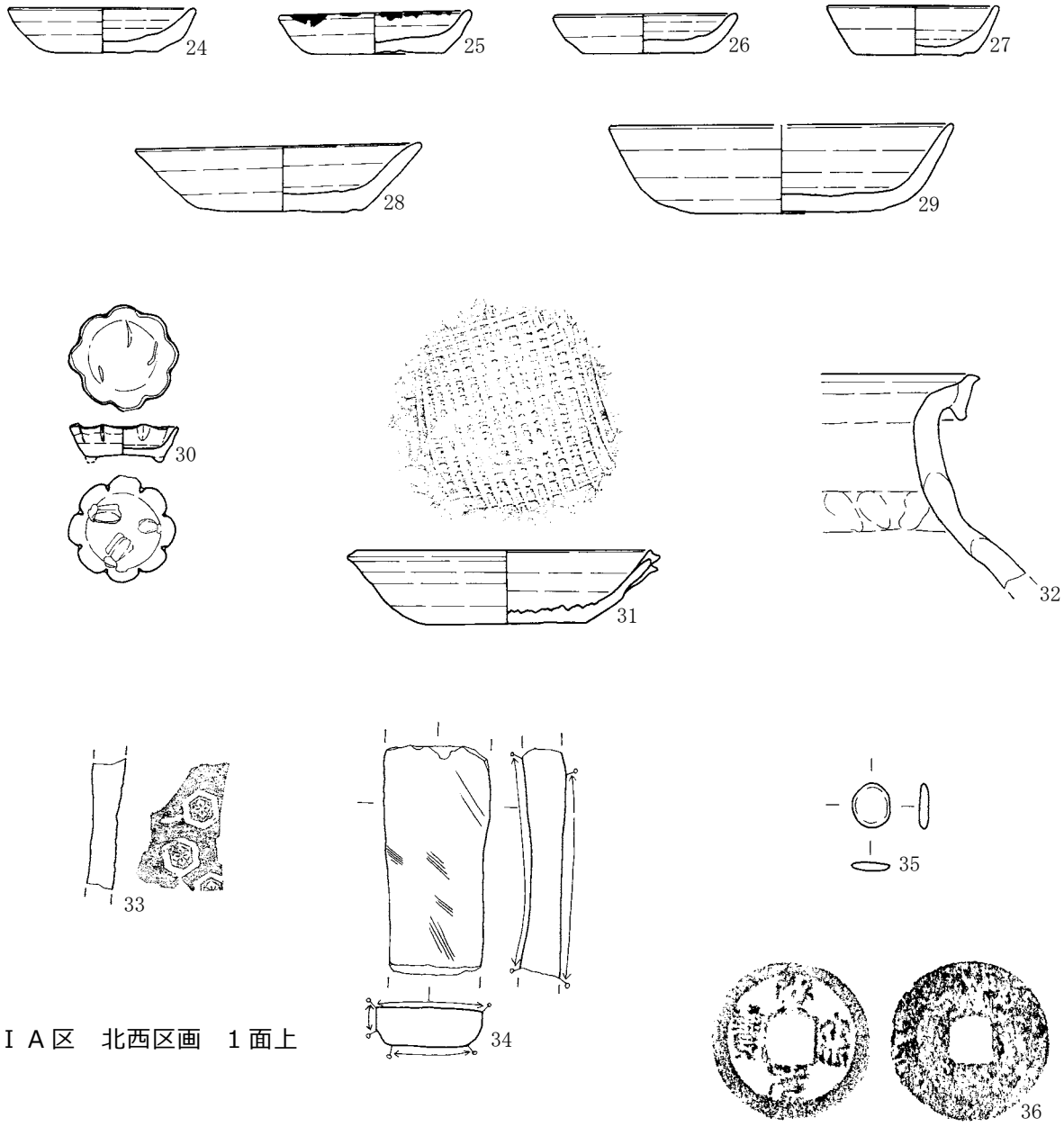
Ⅱ区　表土～１面・耕作痕

（銭は実寸大）

0　5　10cm

(1/3)

図 14　出土遺物（１）


24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
ＩＡ区　北西区画　１面上

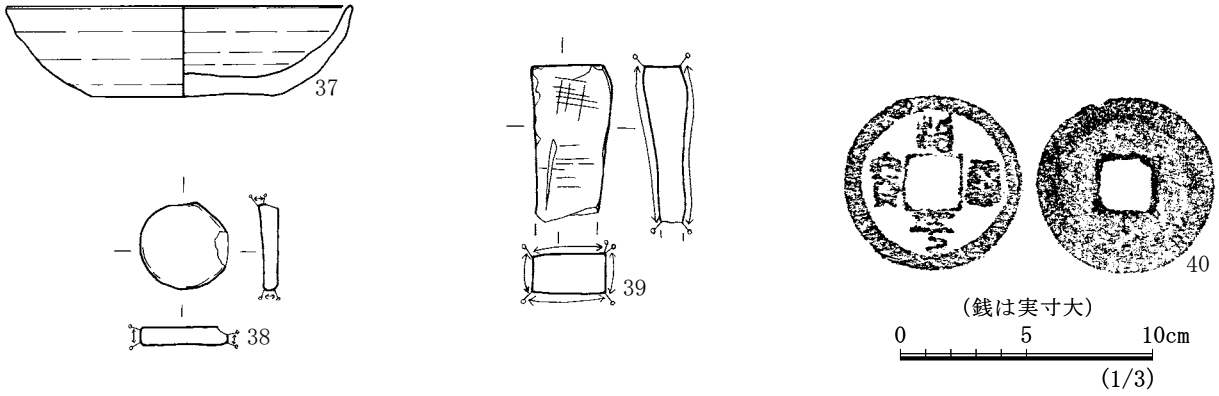

ＩＡ区　北西区画　１面上・下　サブトレンチ
37
38
39
40
（銭は実寸大）
0
5
10cm
(1/3)

図 15　出土遺物（２）

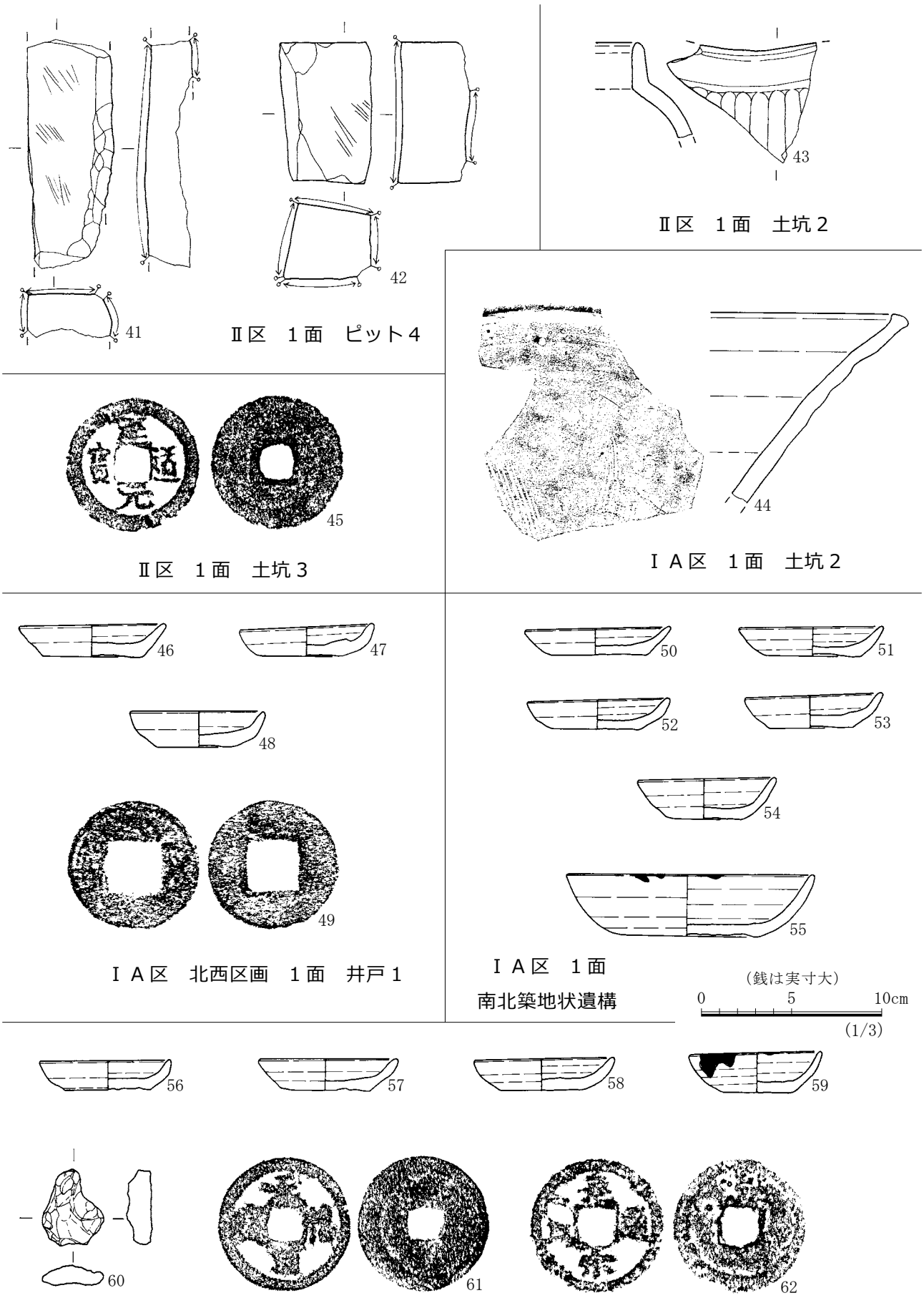
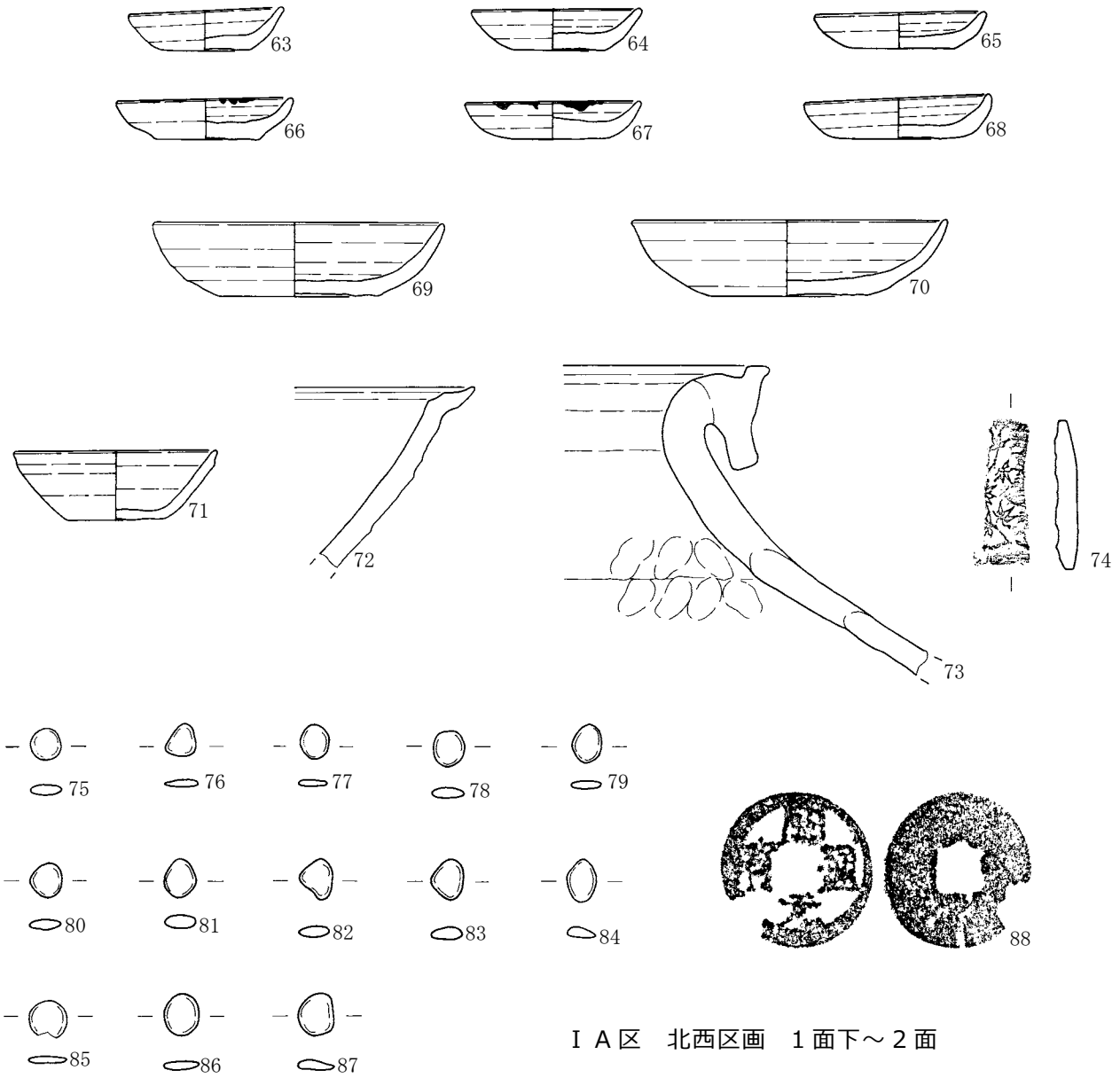
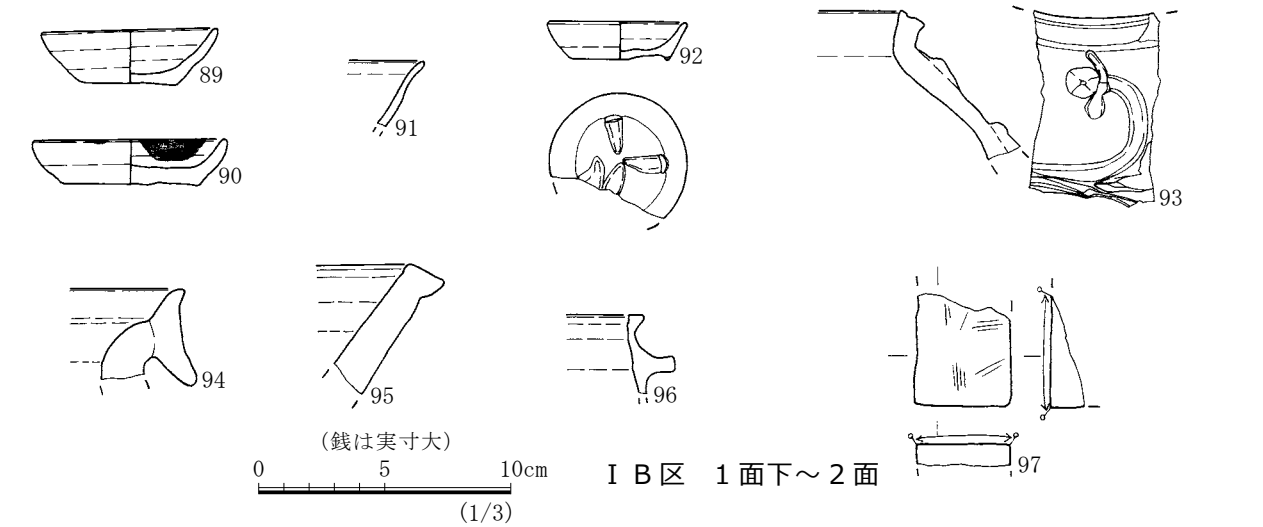

41
42
Ⅱ区　１面　ピット４
43
Ⅱ区　１面　土坑２
44
ＩＡ区　１面　土坑２
45
Ⅱ区　１面　土坑３
46
47
48
49
ＩＡ区　北西区画　１面　井戸１
50
51
52
53
54
55
ＩＡ区　１面
南北築地状遺構
（銭は実寸大）
0
5
10cm
(1/3)
56
57
58
59
60
61
62
ＩＡ区　北西区画　１面　遺構外

図 16　出土遺物（３）



ＩＡ区　北西区画　１面下～２面



ＩＢ区　１面下～２面

図 17　出土遺物（４）

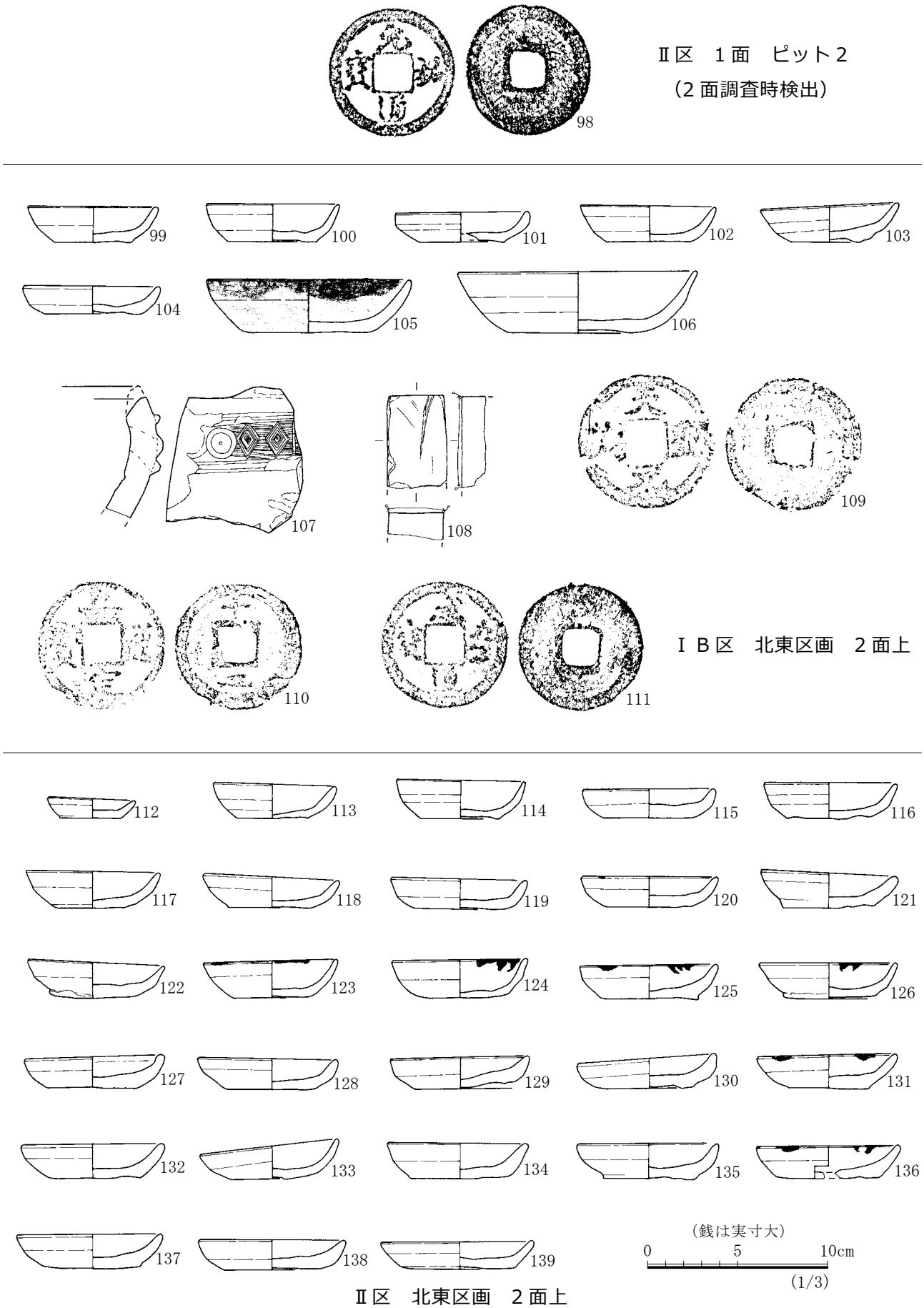
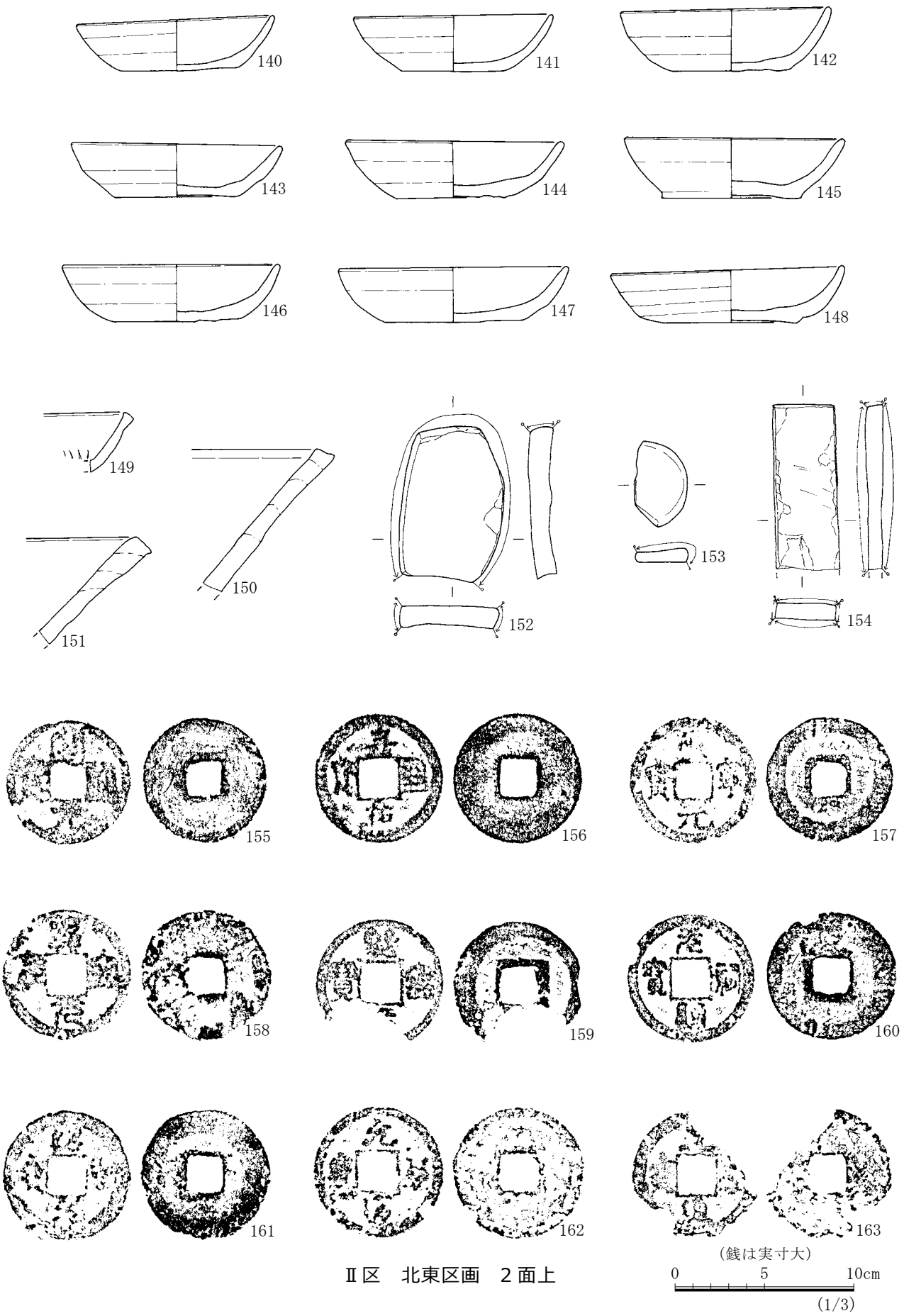
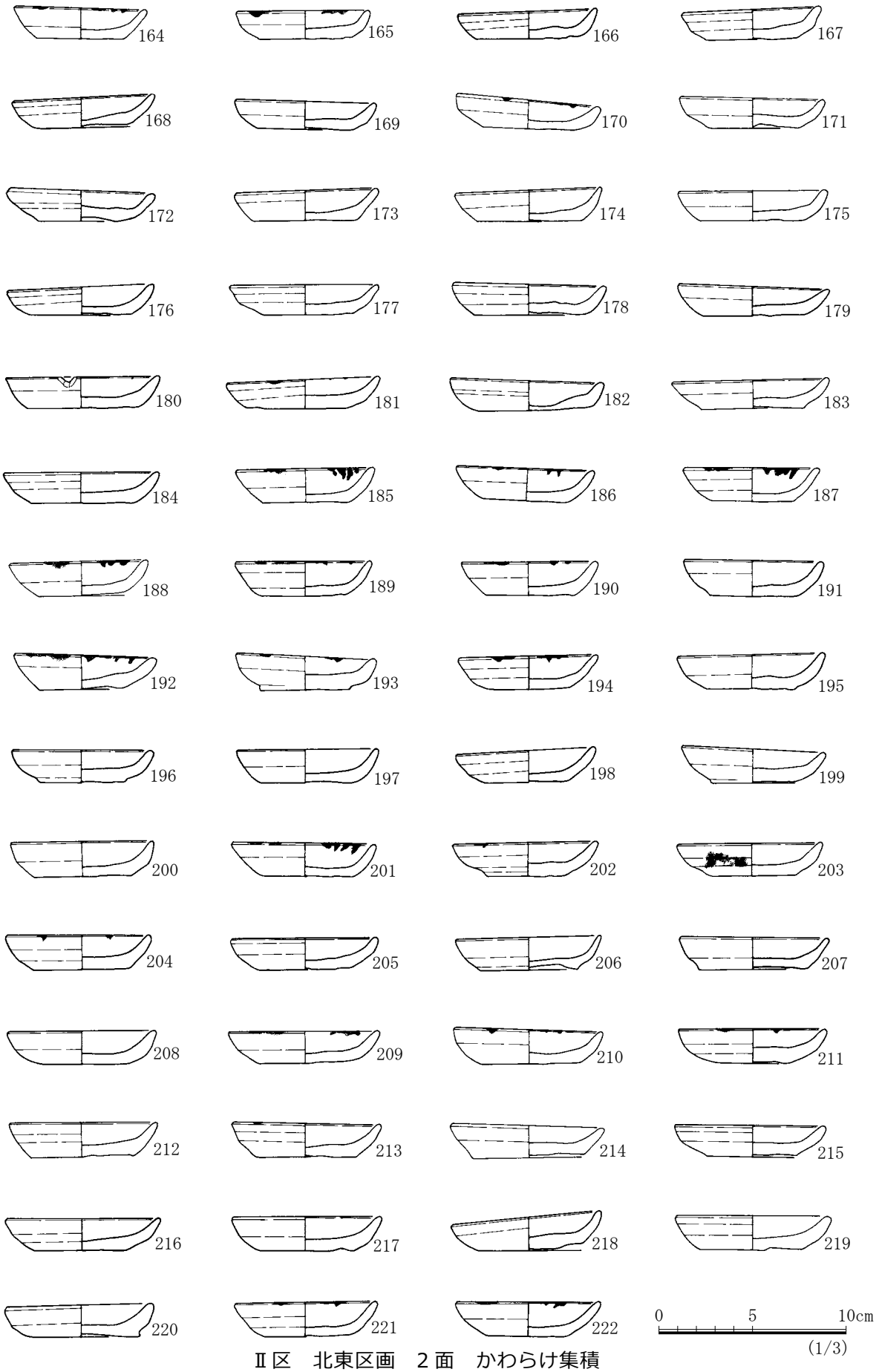

98
Ⅱ区　1面　ピット2
（2面調査時検出）
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
Ⅰ B 区　北東区画　2面上
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
（銭は実寸大）
0
5
10cm
(1/3)
Ⅱ区　北東区画　2面上

図 18　出土遺物（5）



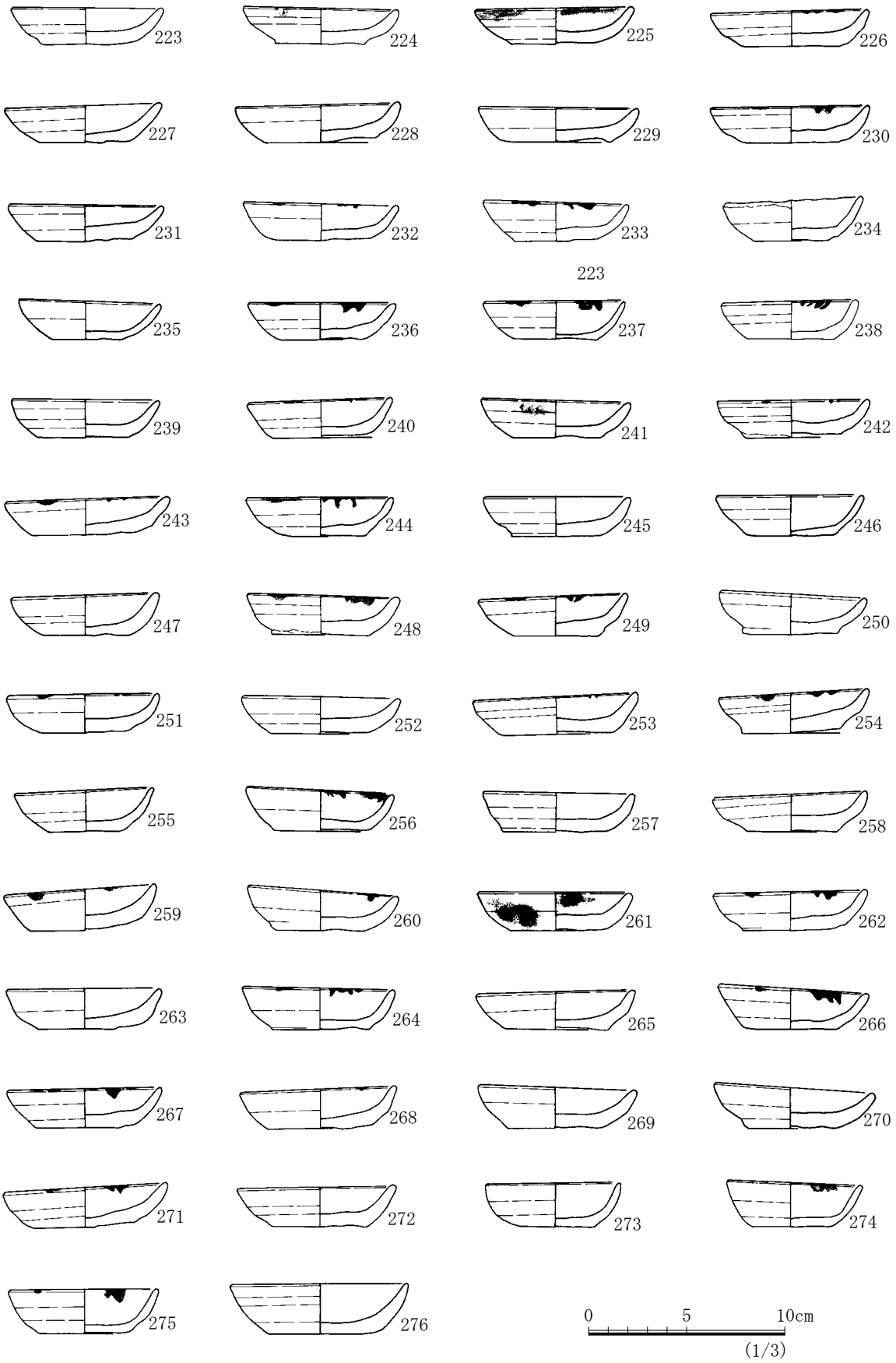
Ⅱ区　北東区画　２面上

図 19　出土遺物（６）



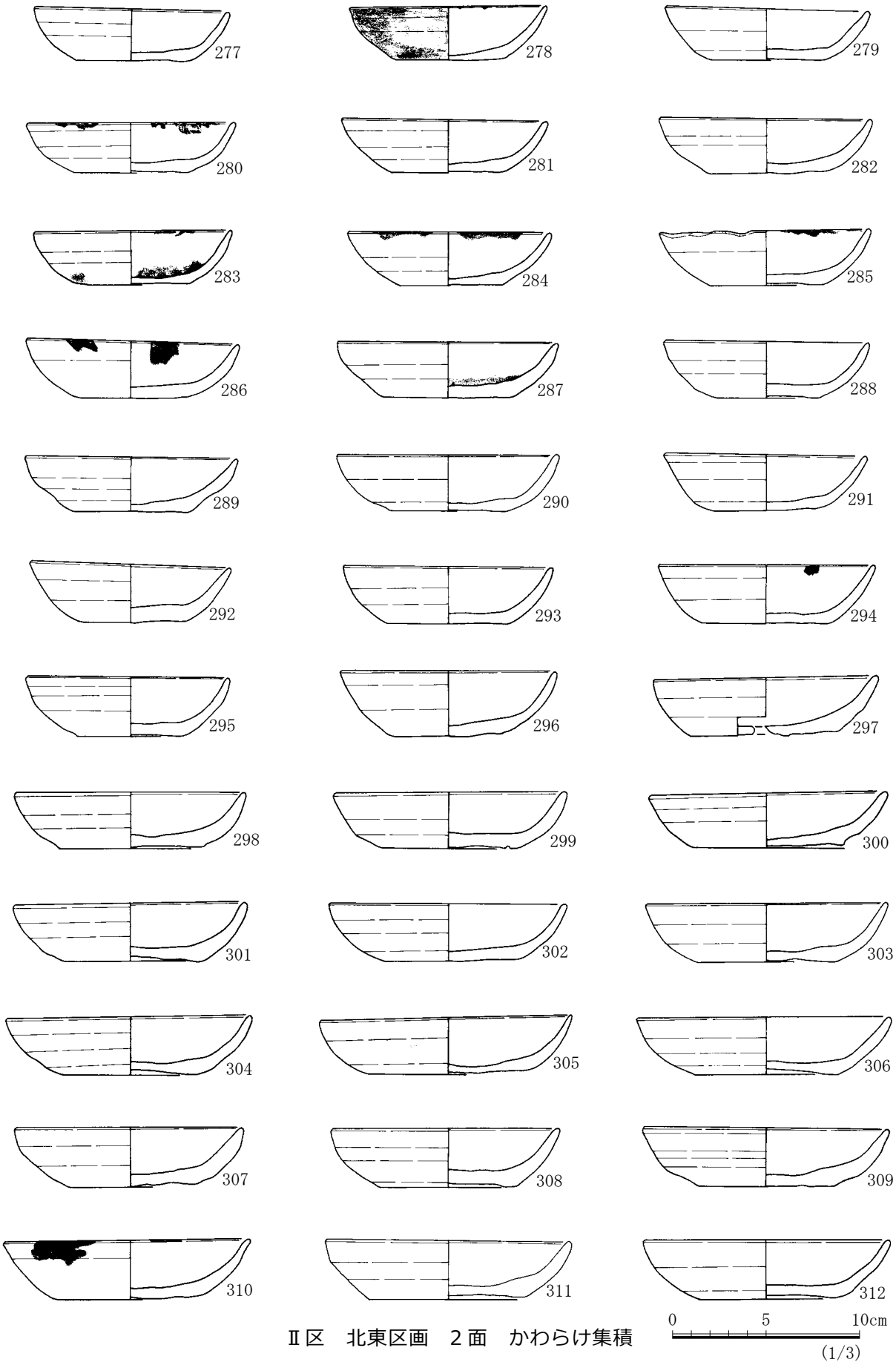
Ⅱ区　北東区画　２面　かわらけ集積

図 20　出土遺物（７）



Ⅱ区　北東区画　２面　かわらけ集積

図 21　出土遺物（８）



Ⅱ区　北東区画　２面　かわらけ集積

図 22　出土遺物（９）

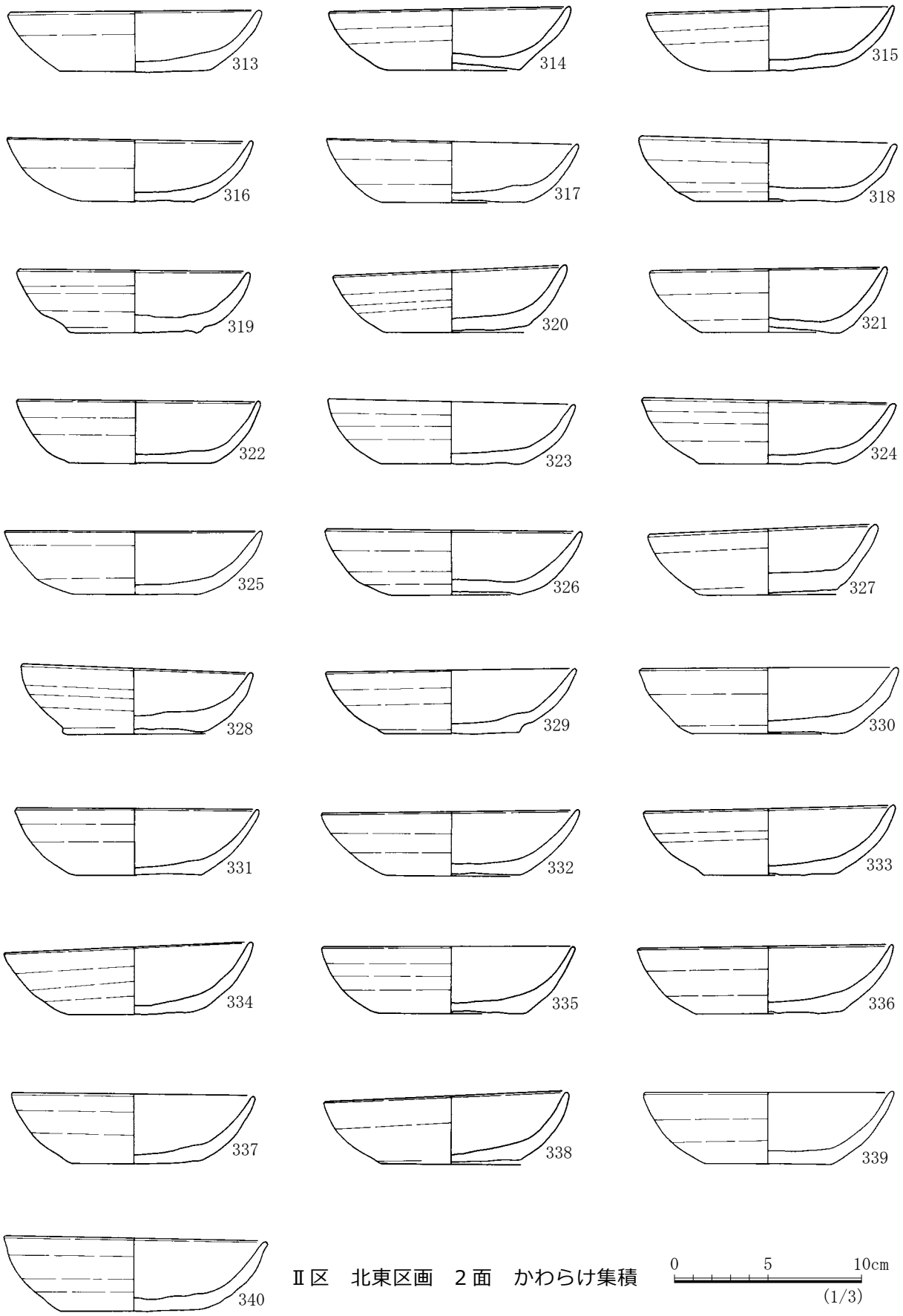
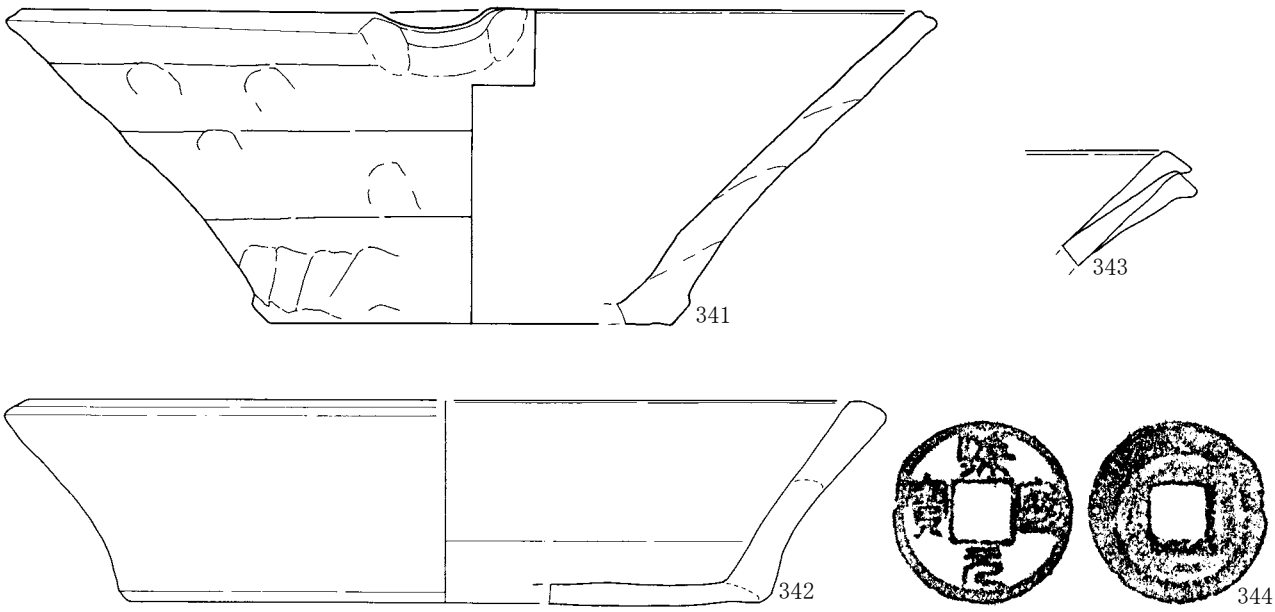
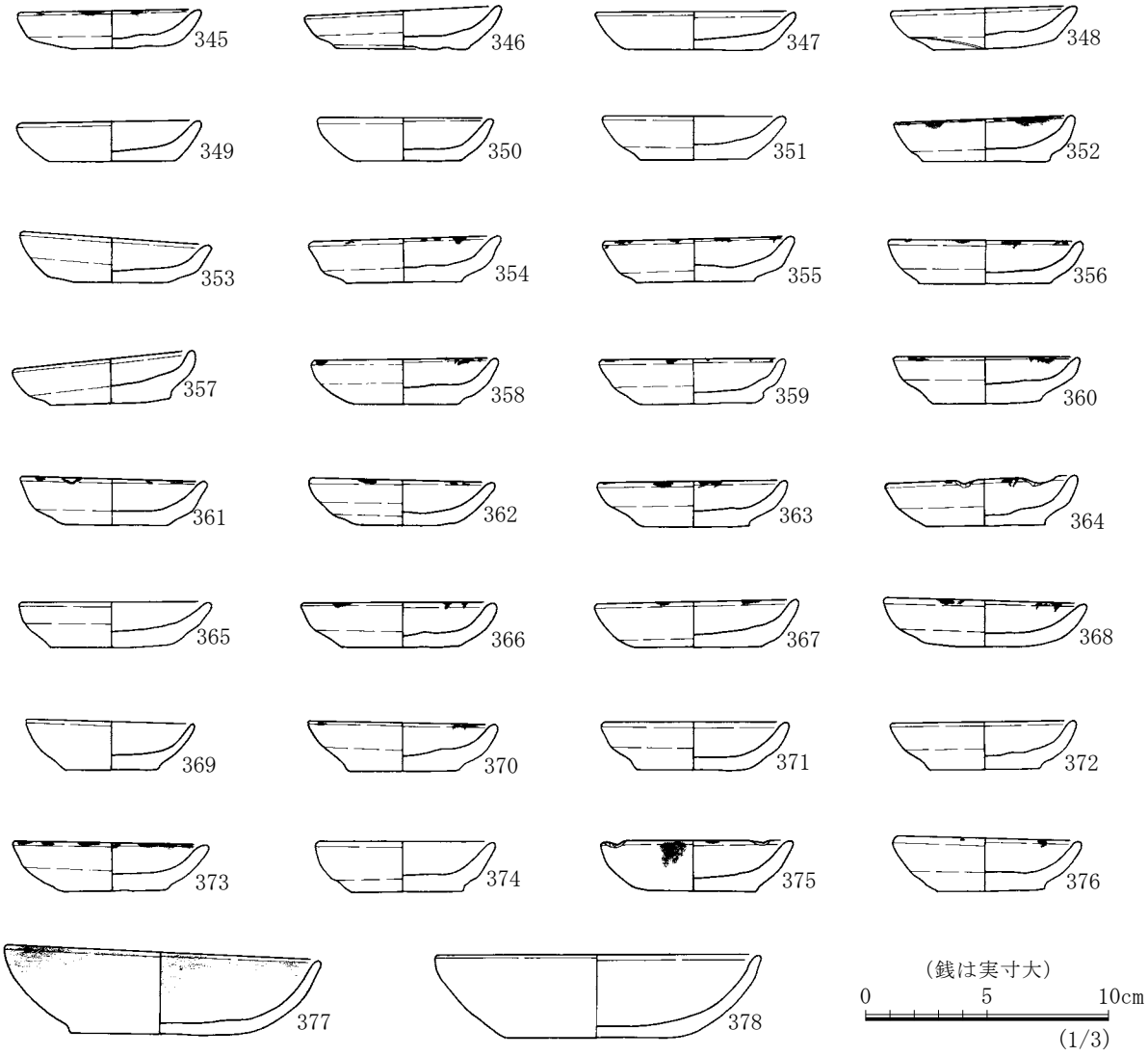

313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
Ⅱ区　北東区画　２面　かわらけ集積
0
5
10cm
(1/3)

図 23　出土遺物（10）

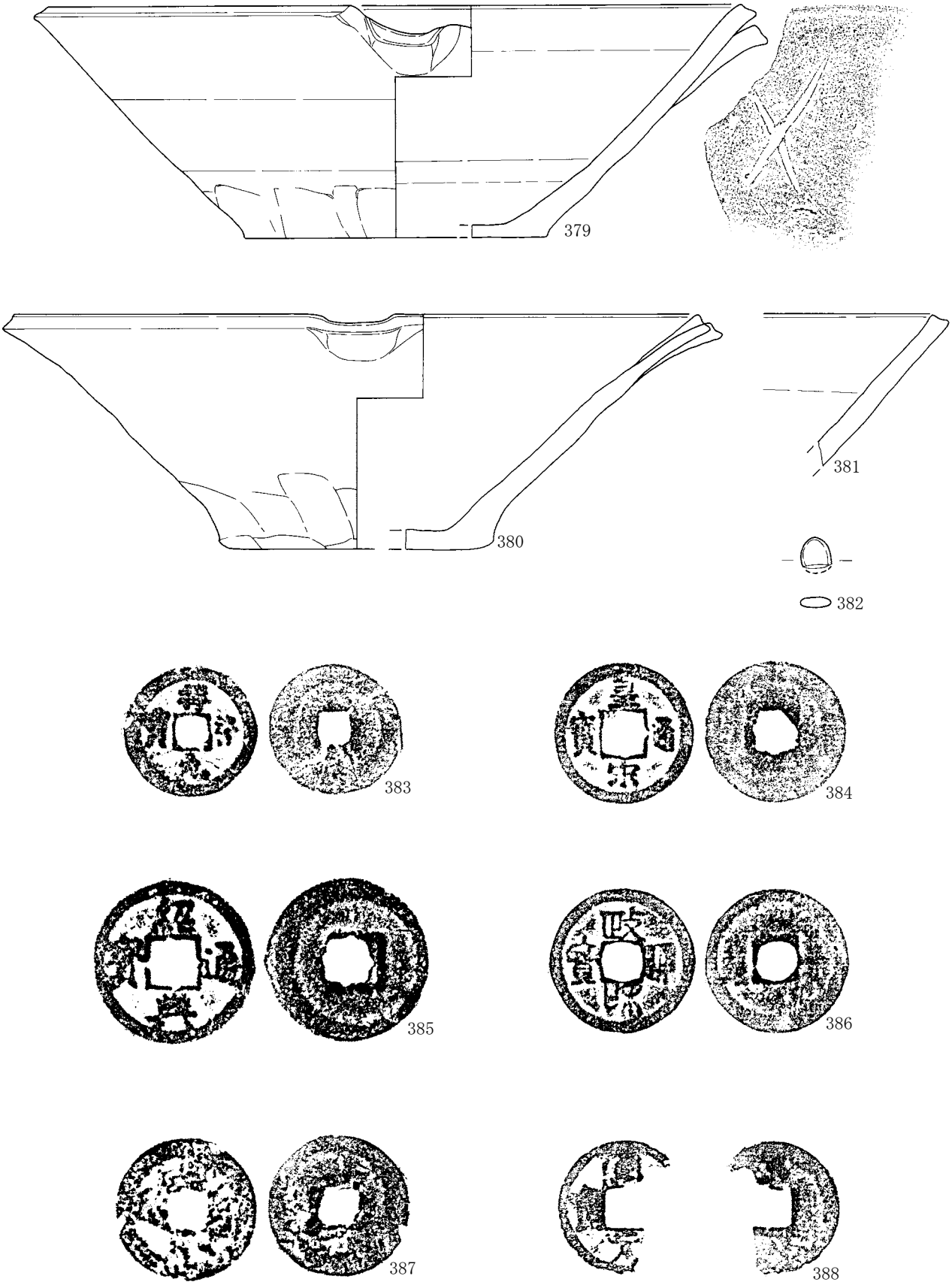


Ⅱ区　北東区画　２面　かわらけ集積



ＩＢ･Ⅱ区　北東区画　２面　かわらけ集積（下層）

図 24　出土遺物（11）



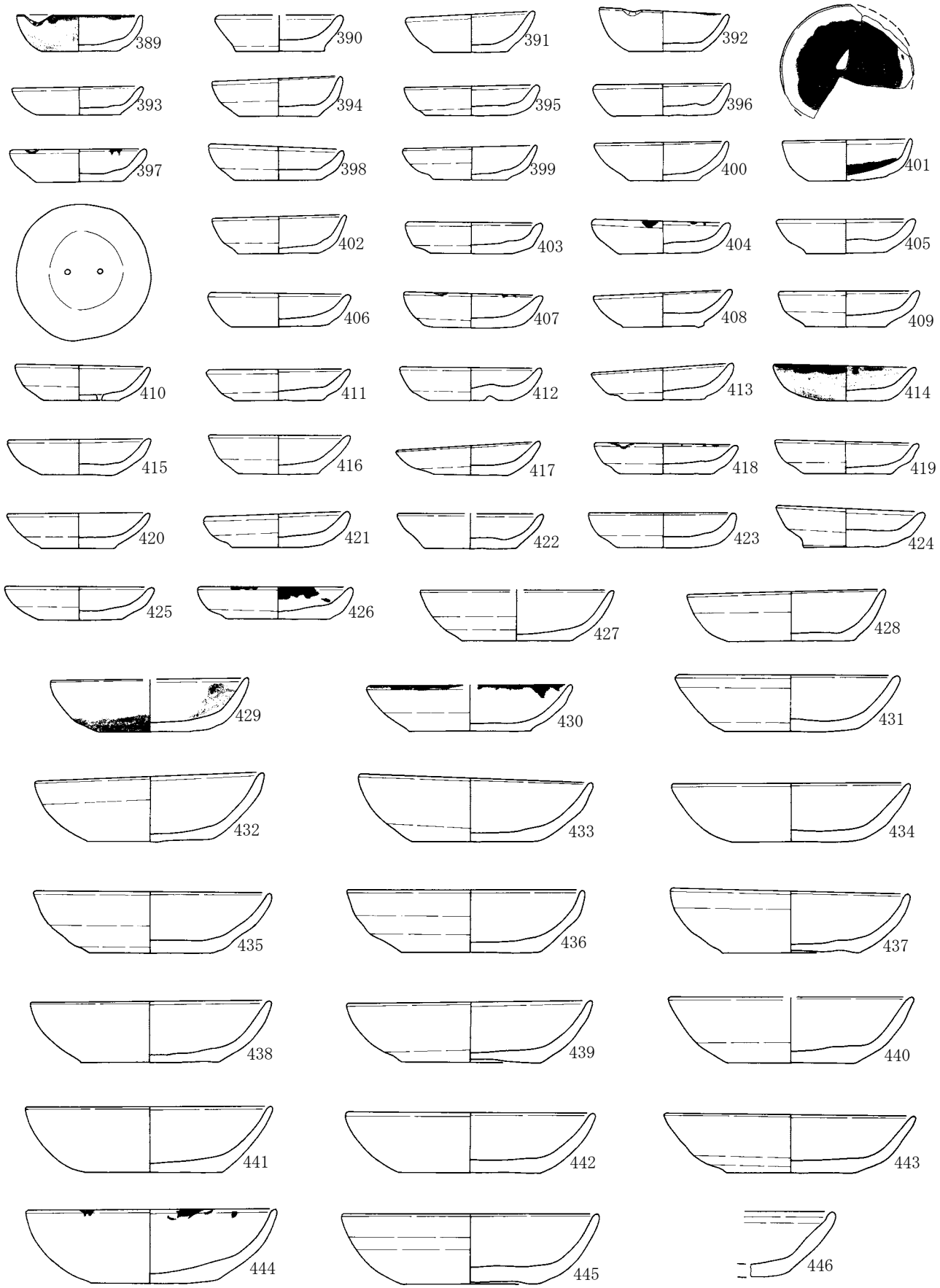
Ⅱ区　北東区画　２面　かわらけ集積（下層）

（銭は実寸大）

0　5　10cm

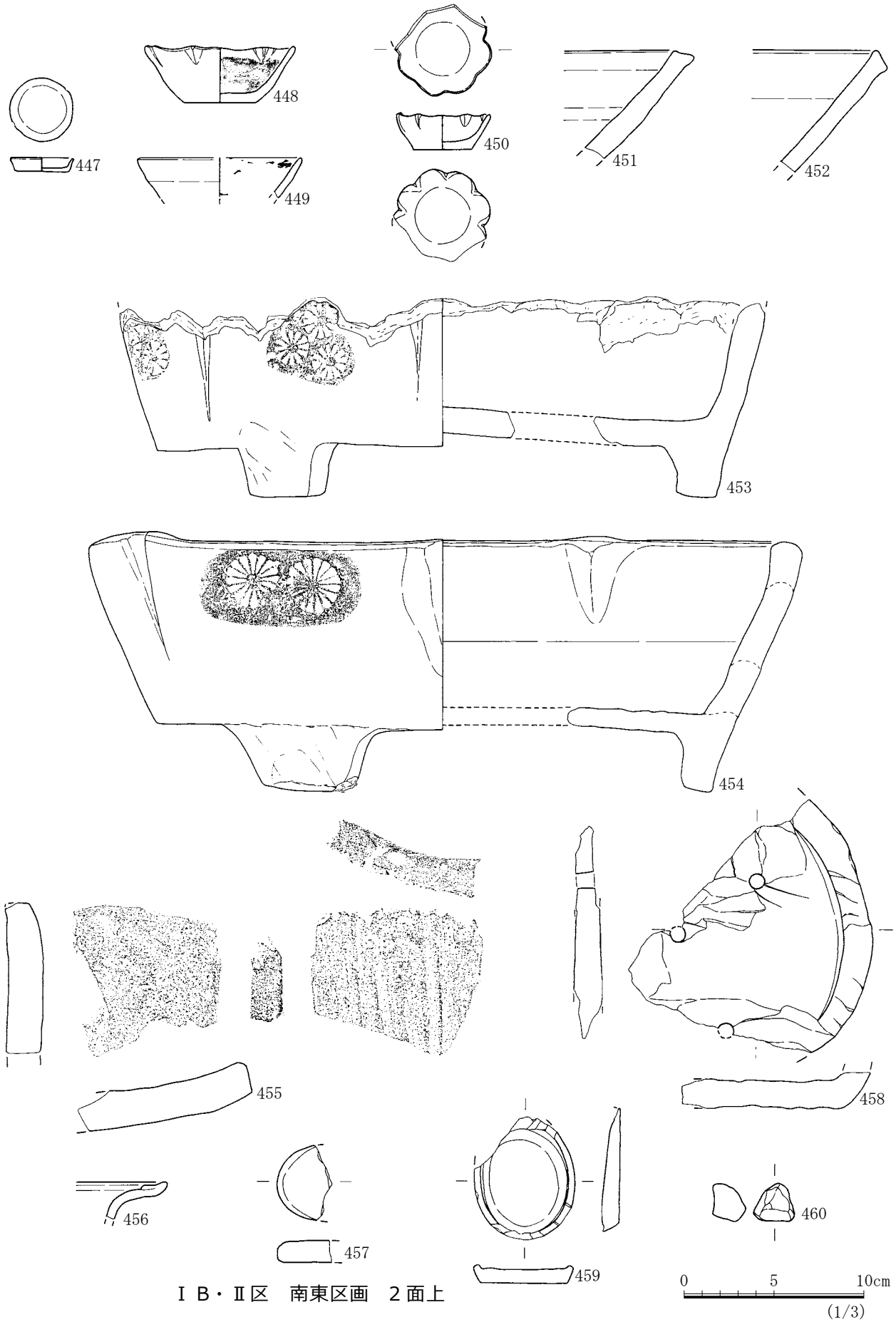
(1/3)

図 25　出土遺物（12）



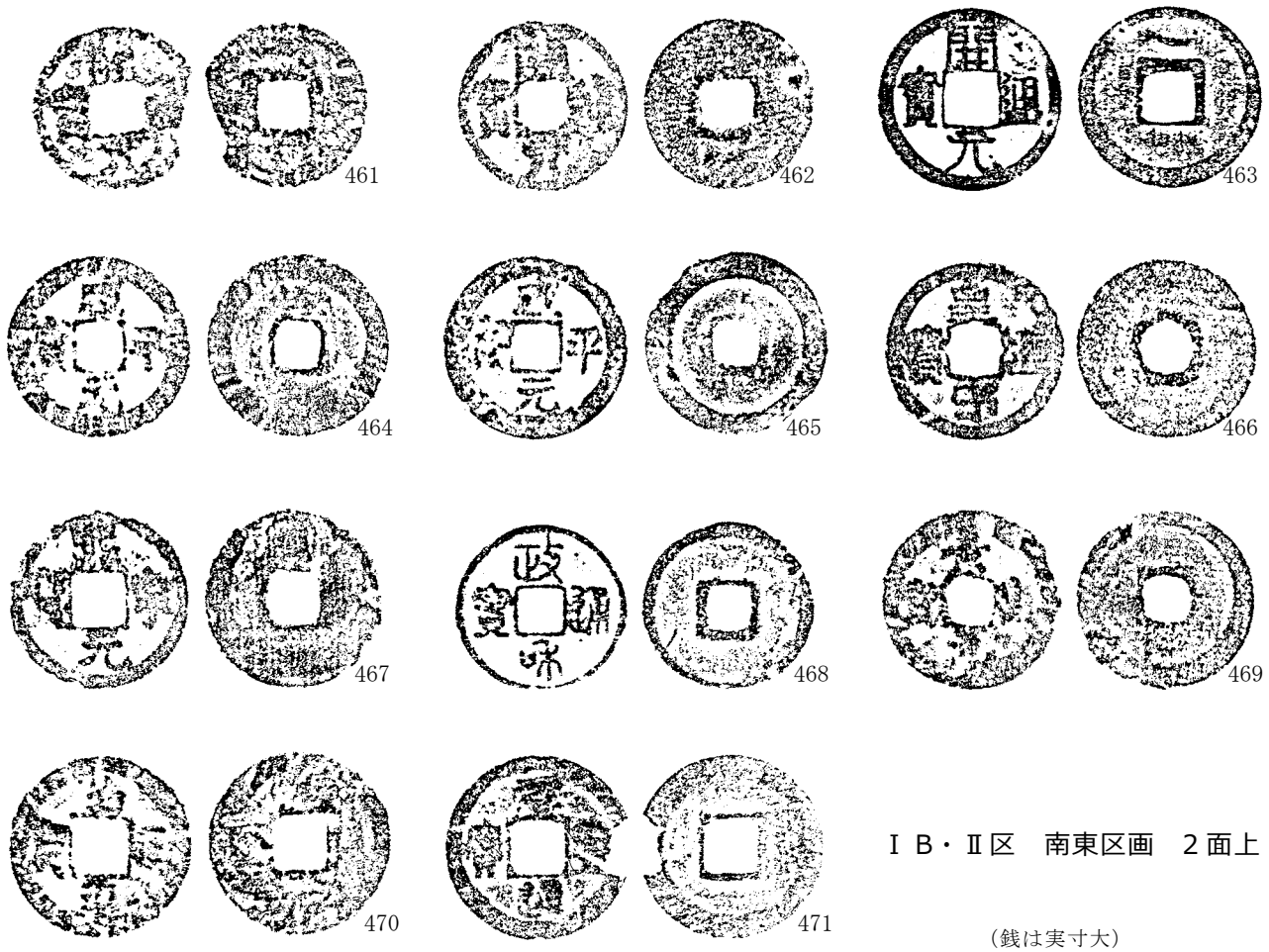
ＩＢ・Ⅱ区　南東区画　２面上

図 26　出土遺物（13）



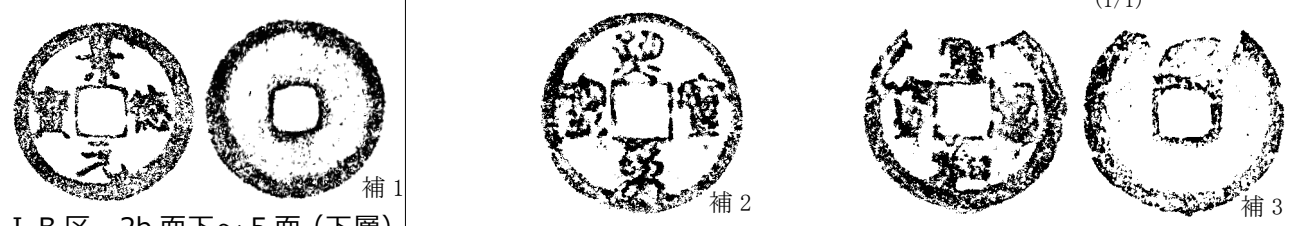
ＩＢ・Ⅱ区　南東区画　２面上

図 27　出土遺物（14）



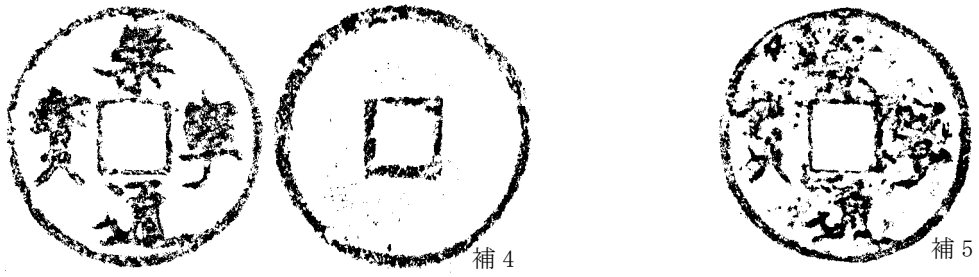
ＩＢ・Ⅱ区　南東区画　２面上

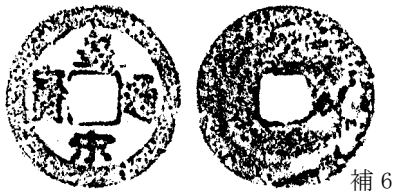
（銭は実寸大）
0　1　2cm
(1/1)



ＩＢ区　2b 面下～５面（下層）

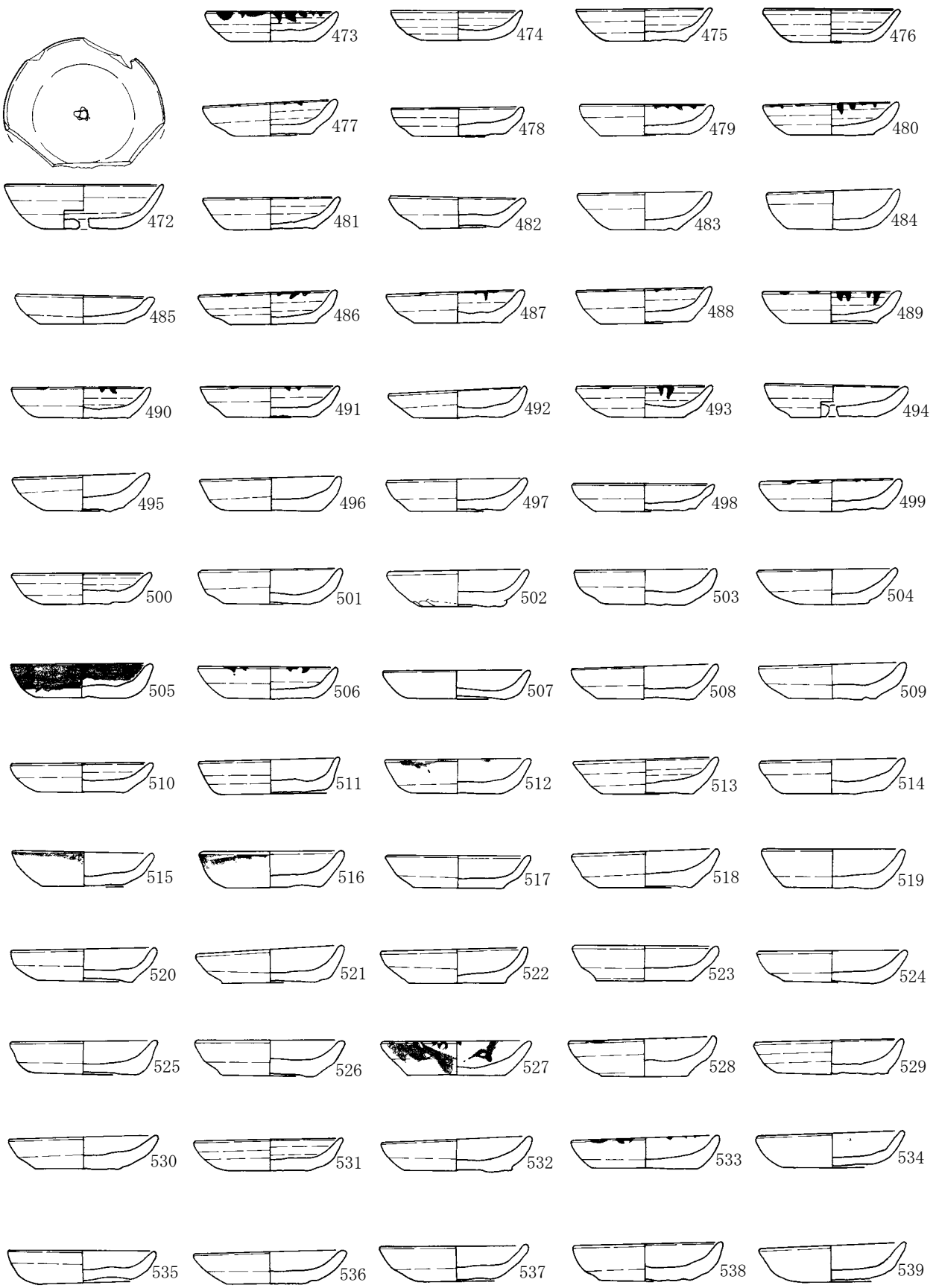
ＩＢ区　２面
南北築地状遺構上
（築成土か）





ＩＢ区　南東区画　２面
かわらけ集積周辺　崩落土

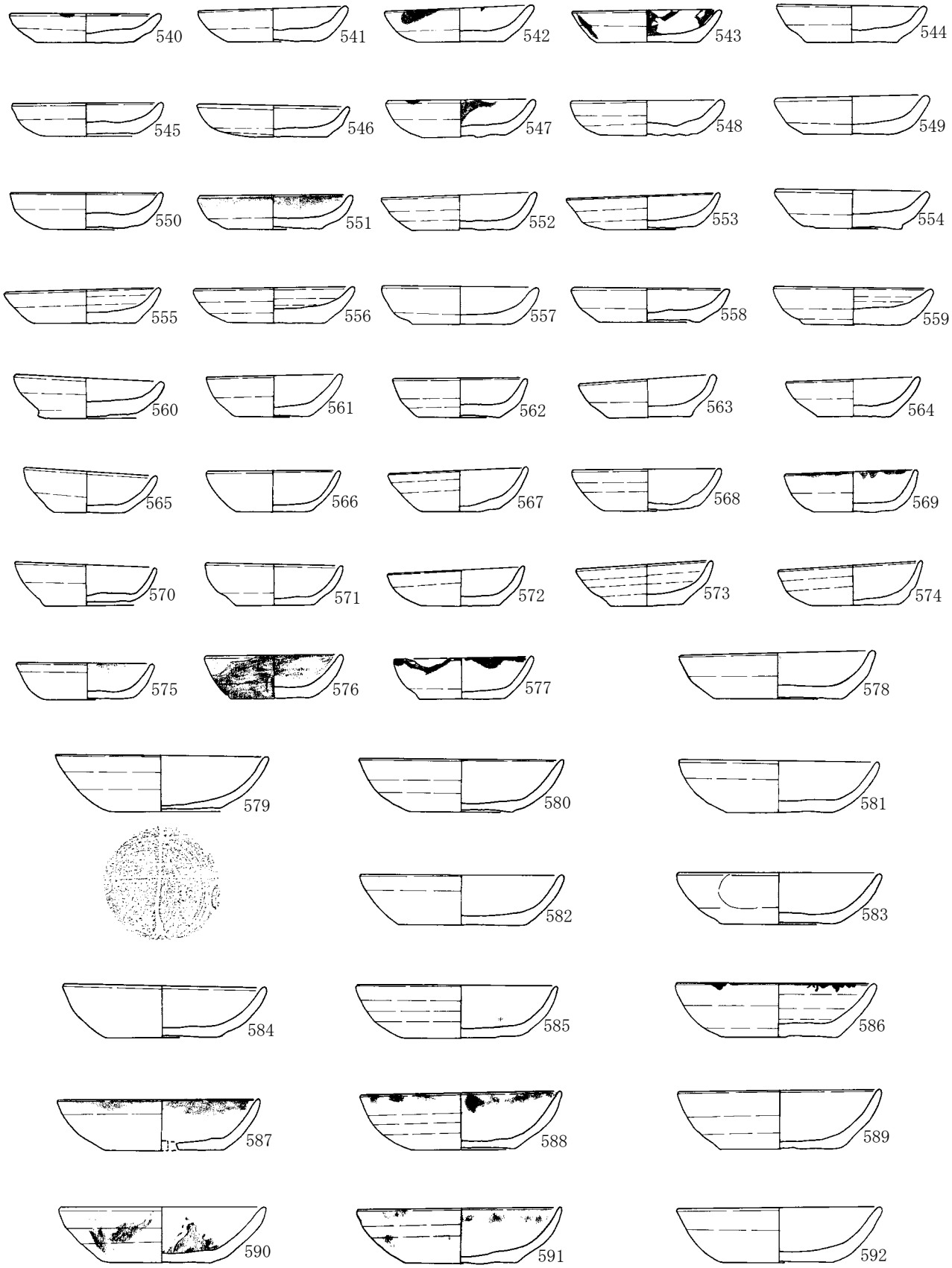
図 28　出土遺物（15）



ＩＢ・Ⅱ区　南東区画　２面　かわらけ集積

0　5　10cm
(1/3)

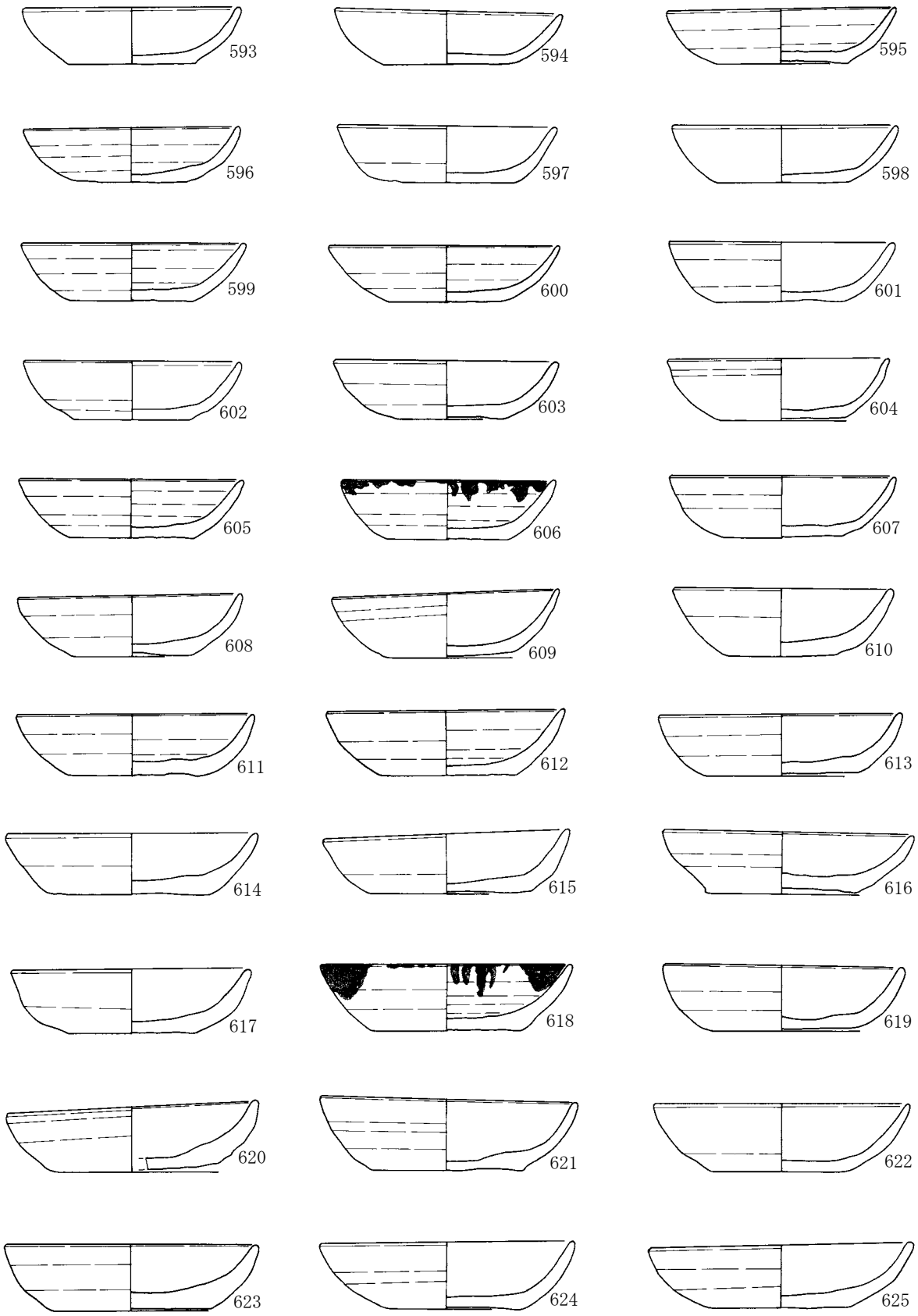
図 29　出土遺物（16）



ＩＢ・Ⅱ区　南東区画　２面　かわらけ集積

0　5　10cm
(1/3)

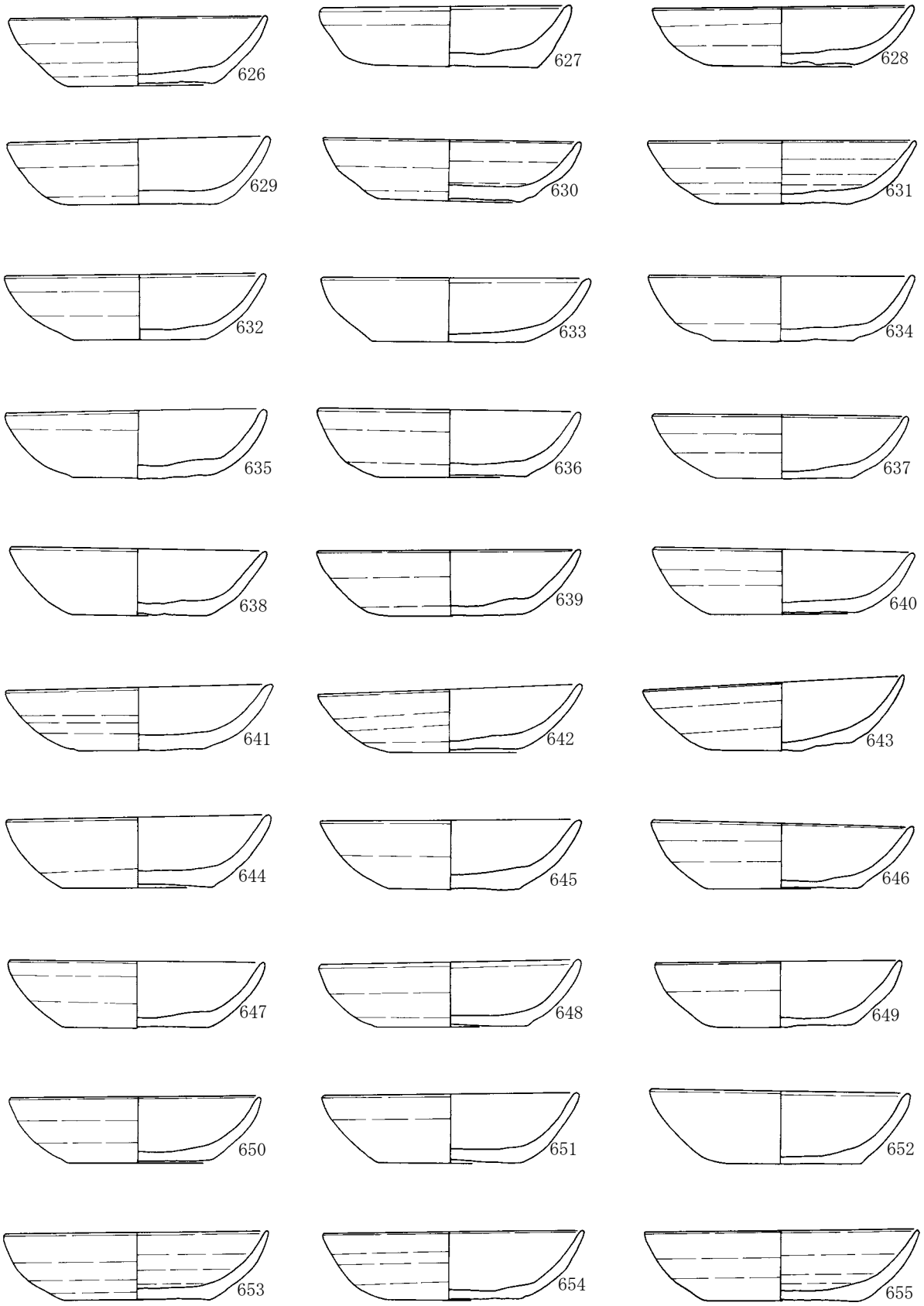
図 30　出土遺物（17）



ＩＢ・Ⅱ区　南東区画　２面　かわらけ集積

0　5　10cm
(1/3)

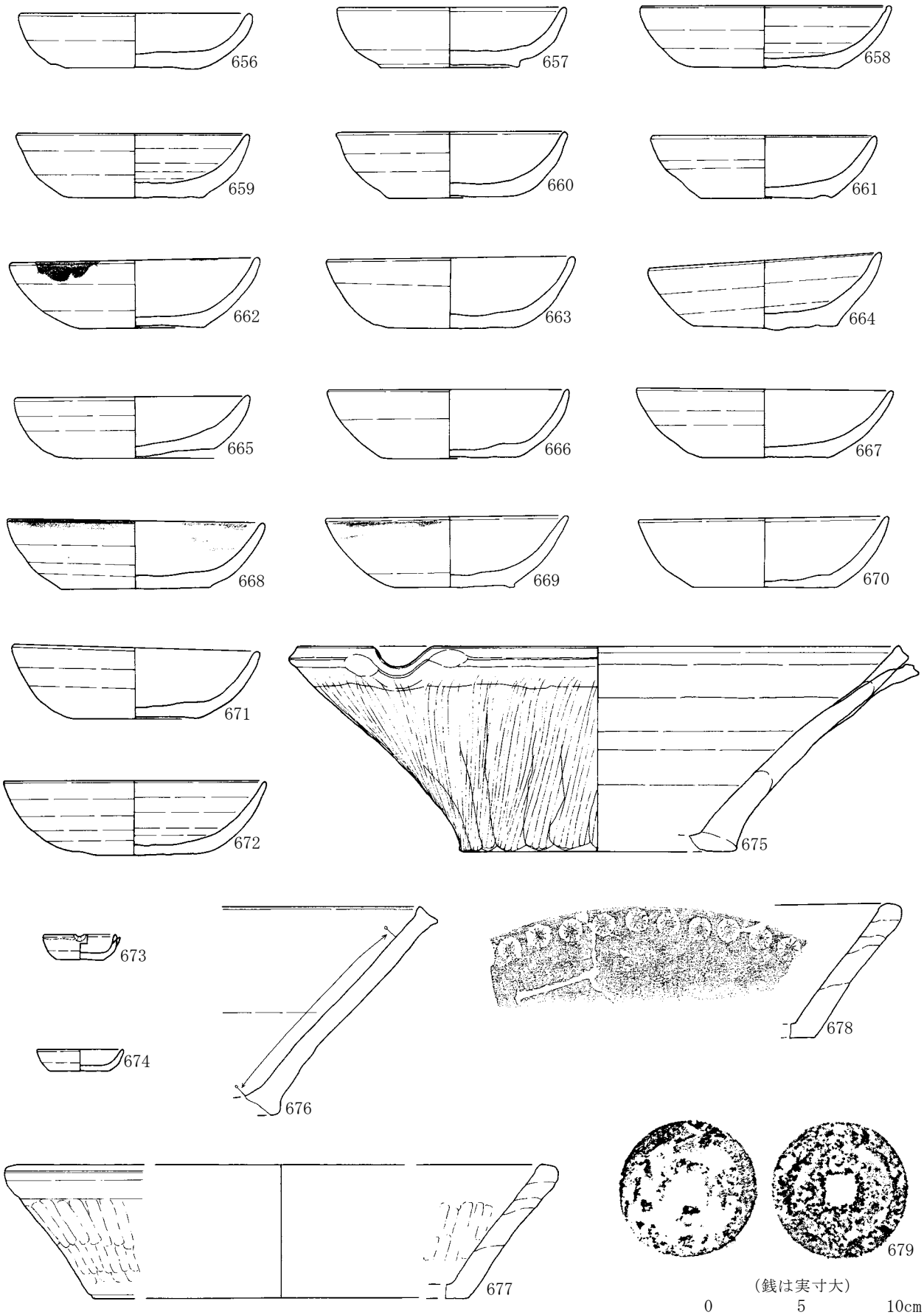
図 31　出土遺物（18）



ＩＢ・Ⅱ区　南東区画　２面　かわらけ集積

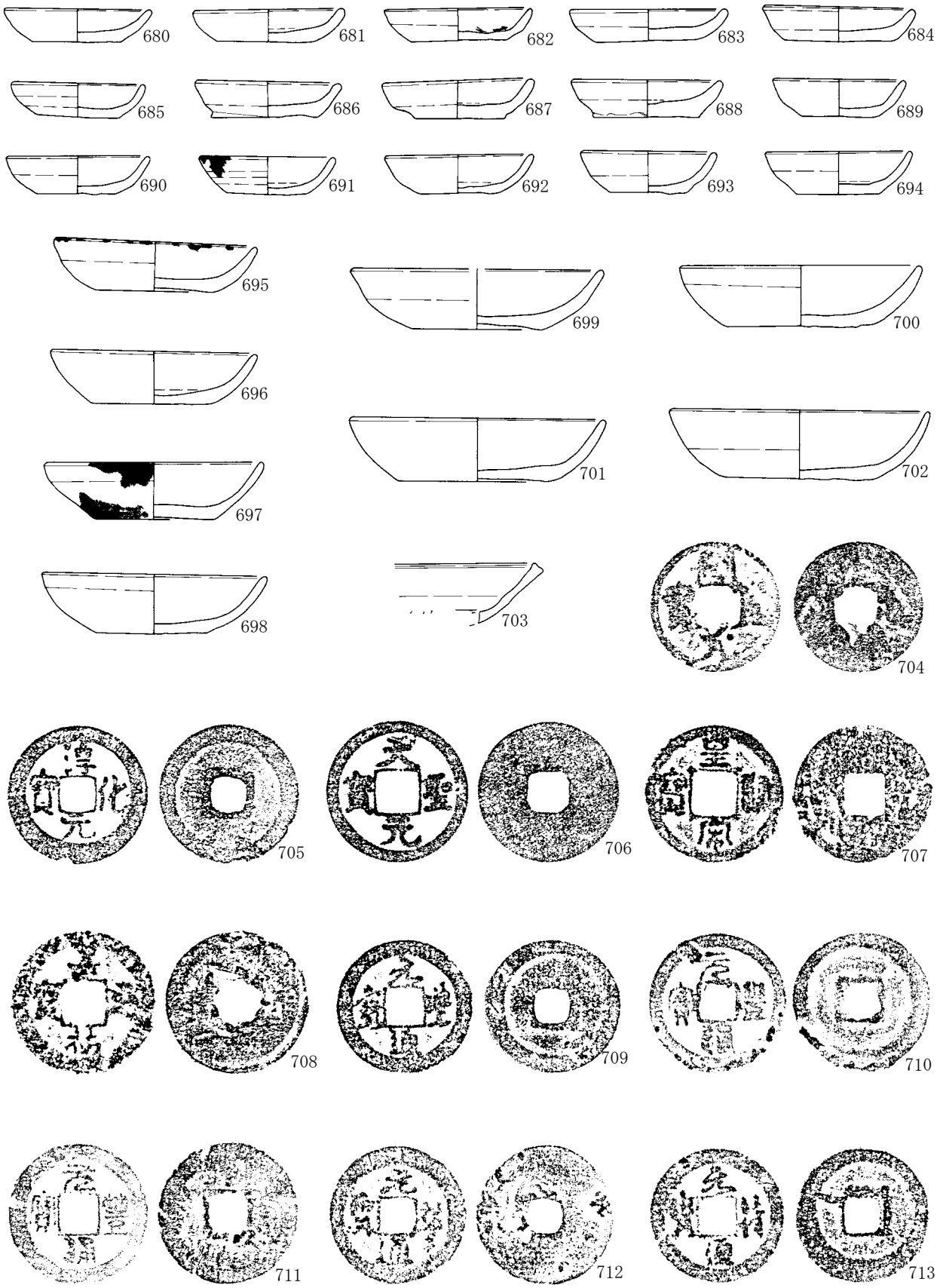
0　5　10cm
(1/3)

図 32　出土遺物（19）



ＩＢ・Ⅱ区　南東区画　２面　かわらけ集積

図 33　出土遺物（20）



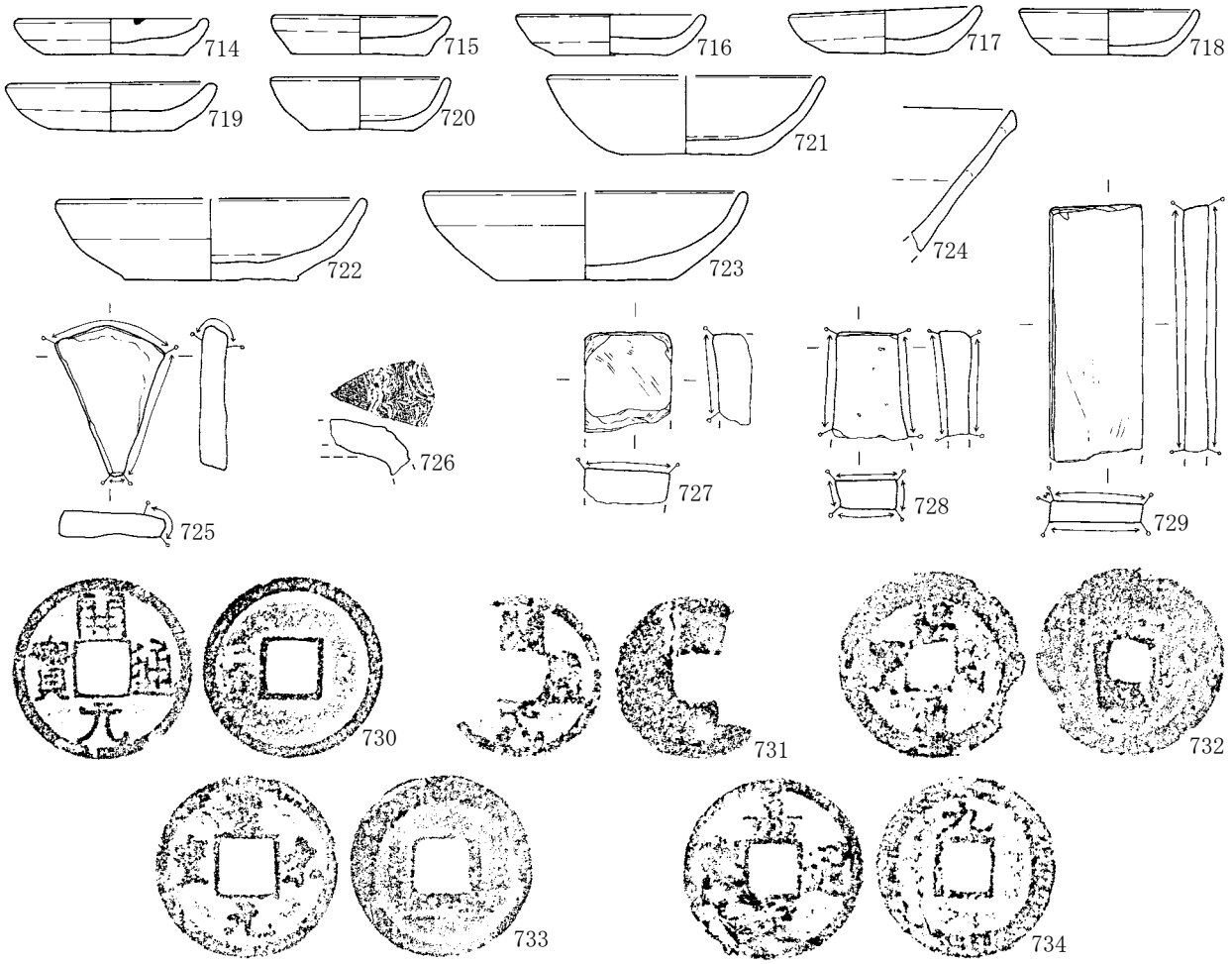
（銭は実寸大）

0　5　10cm

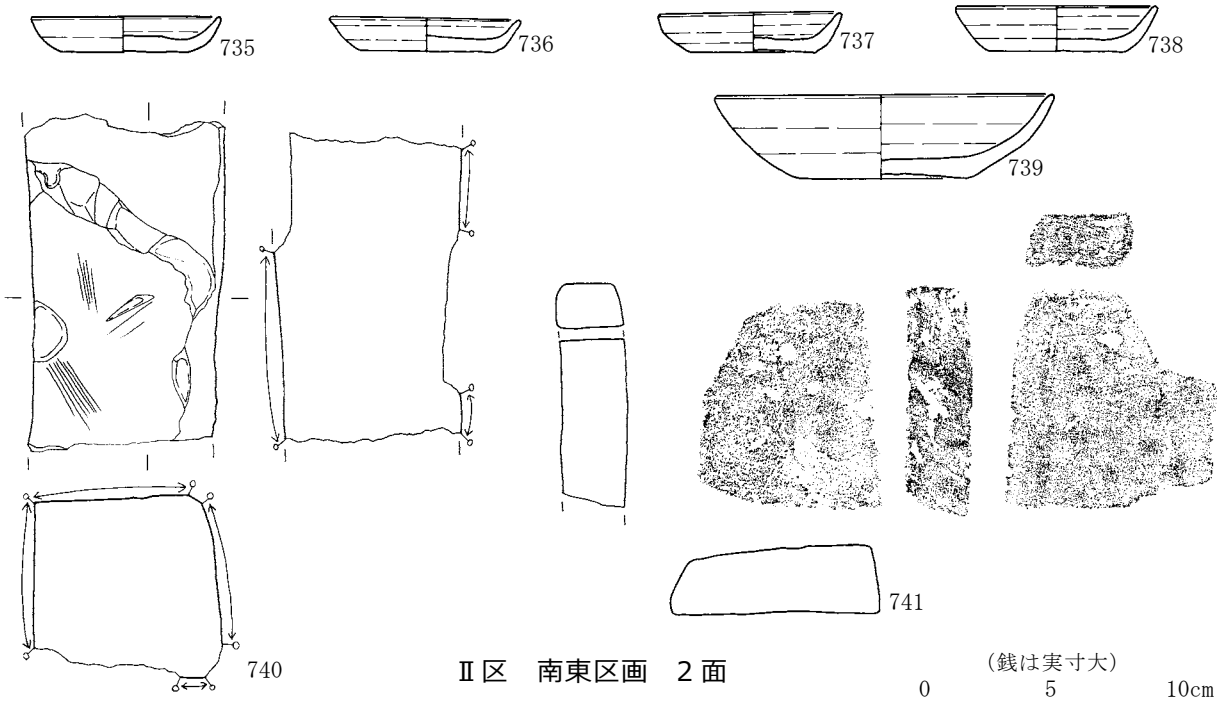
(1/3)

Ⅰ B・Ⅱ区　南東区画　２面　かわらけ集積

図 34　出土遺物（21）



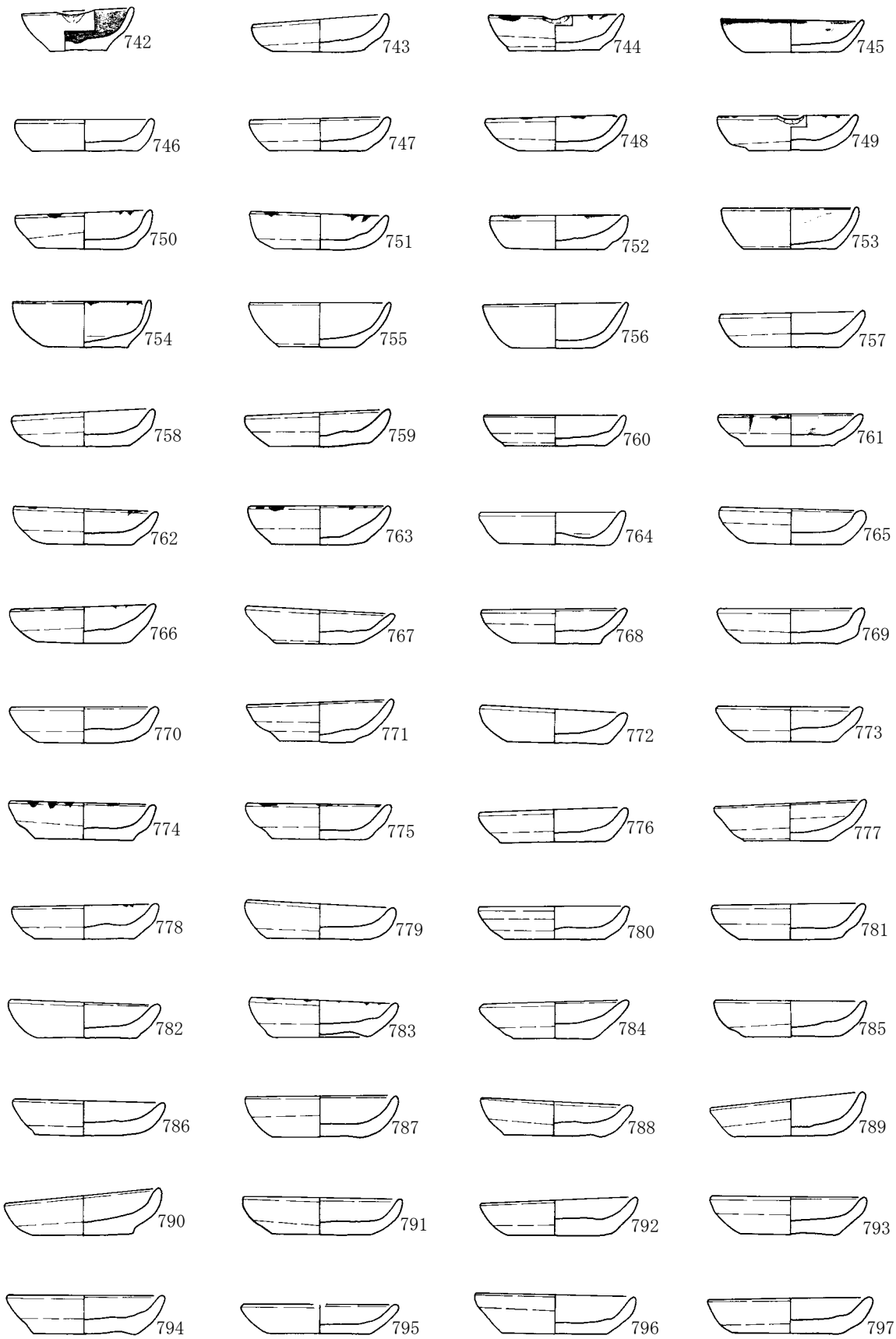
Ⅰ B 区　南東区画　２面かわらけ集積（下層）



Ⅱ区　南東区画　２面
かわらけ集積（下層）

（銭は実寸大）
0　5　10cm
(1/3)

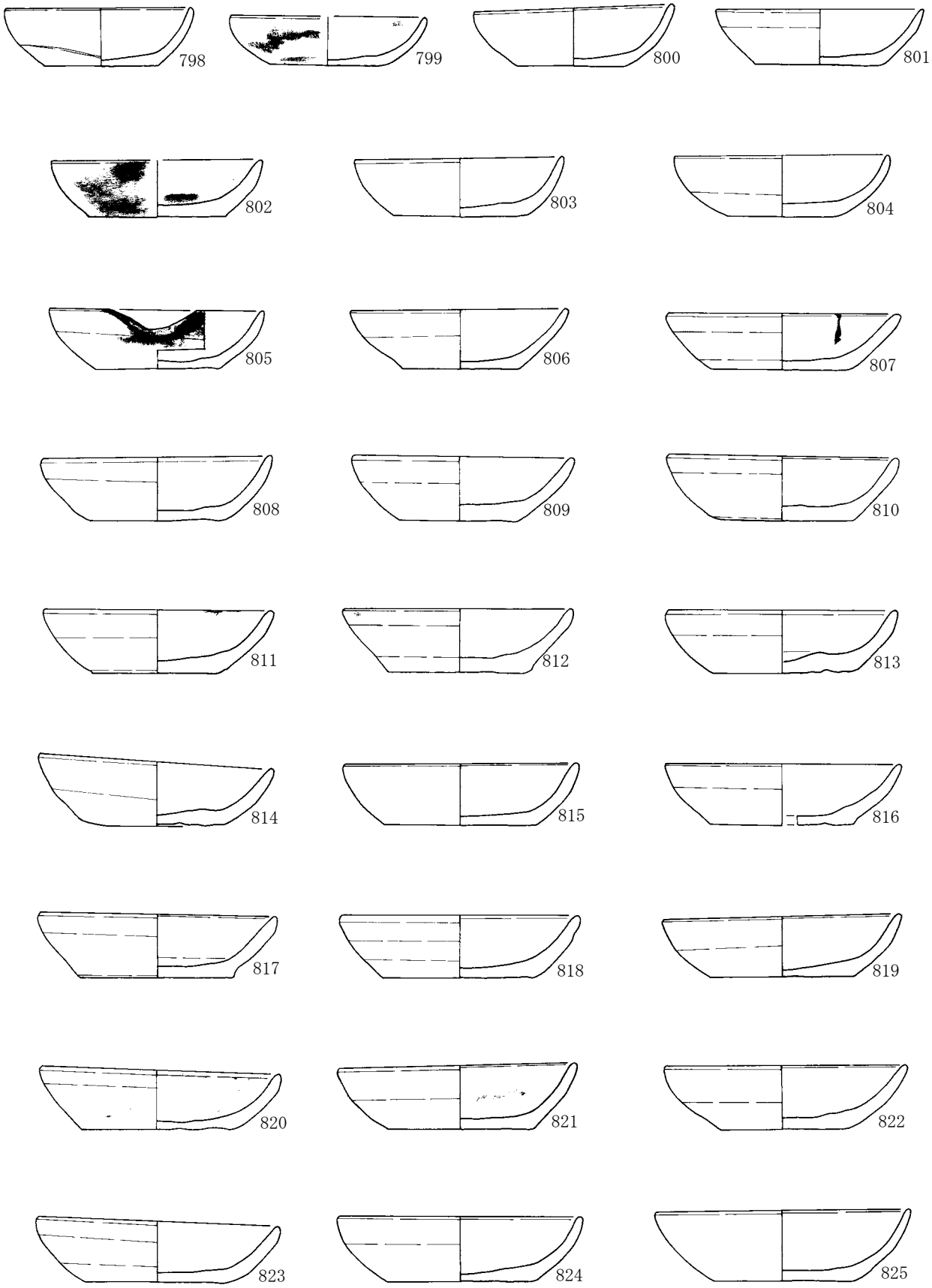
図 35　出土遺物（22）



ＩＢ区　北東区画　2b 面　かわらけ集積

0　5　10cm
(1/3)

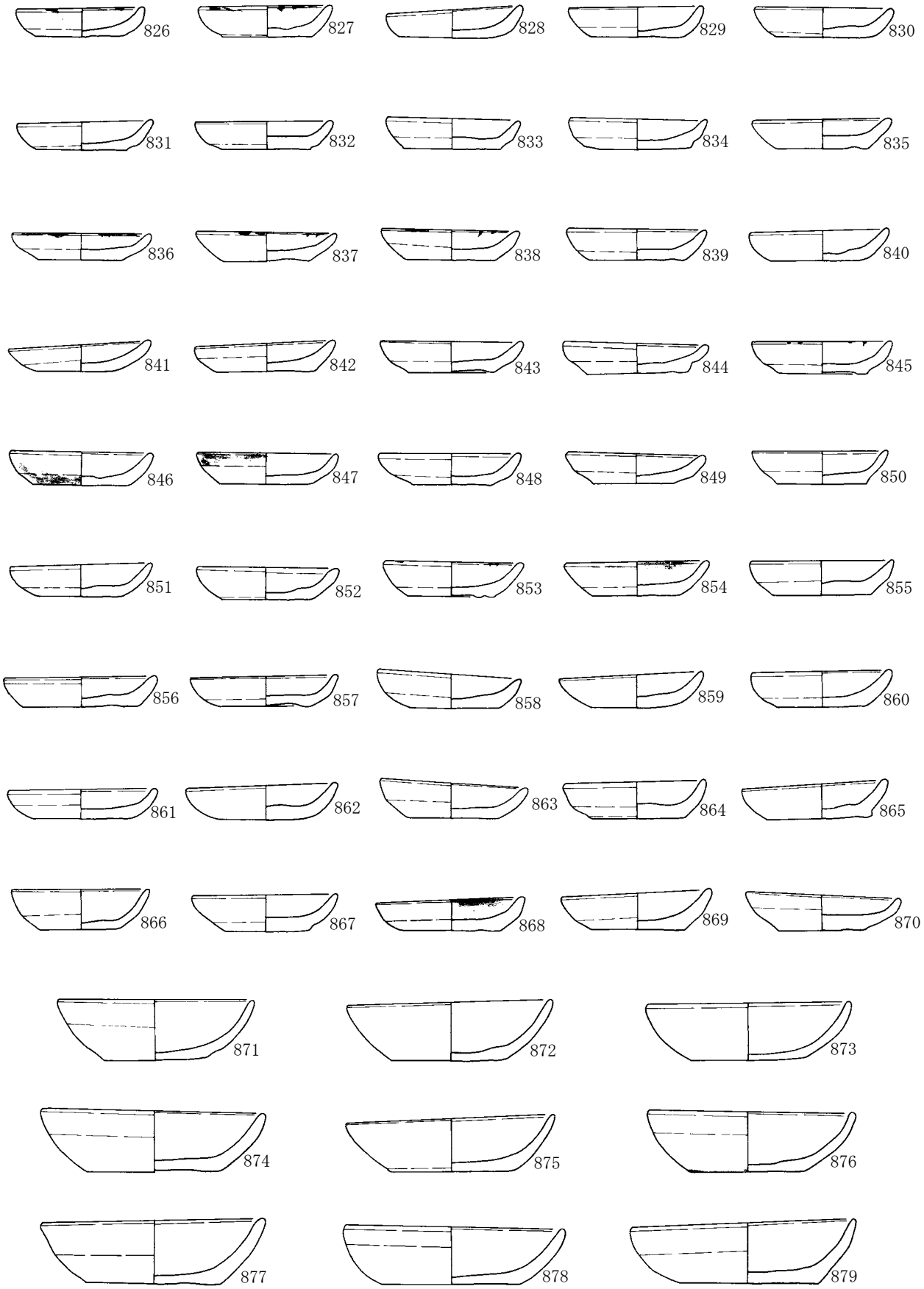
図 36　出土遺物（23）



ＩＢ区　北東区画　2b 面　かわらけ集積

0　5　10cm
(1/3)

図 37　出土遺物（24）

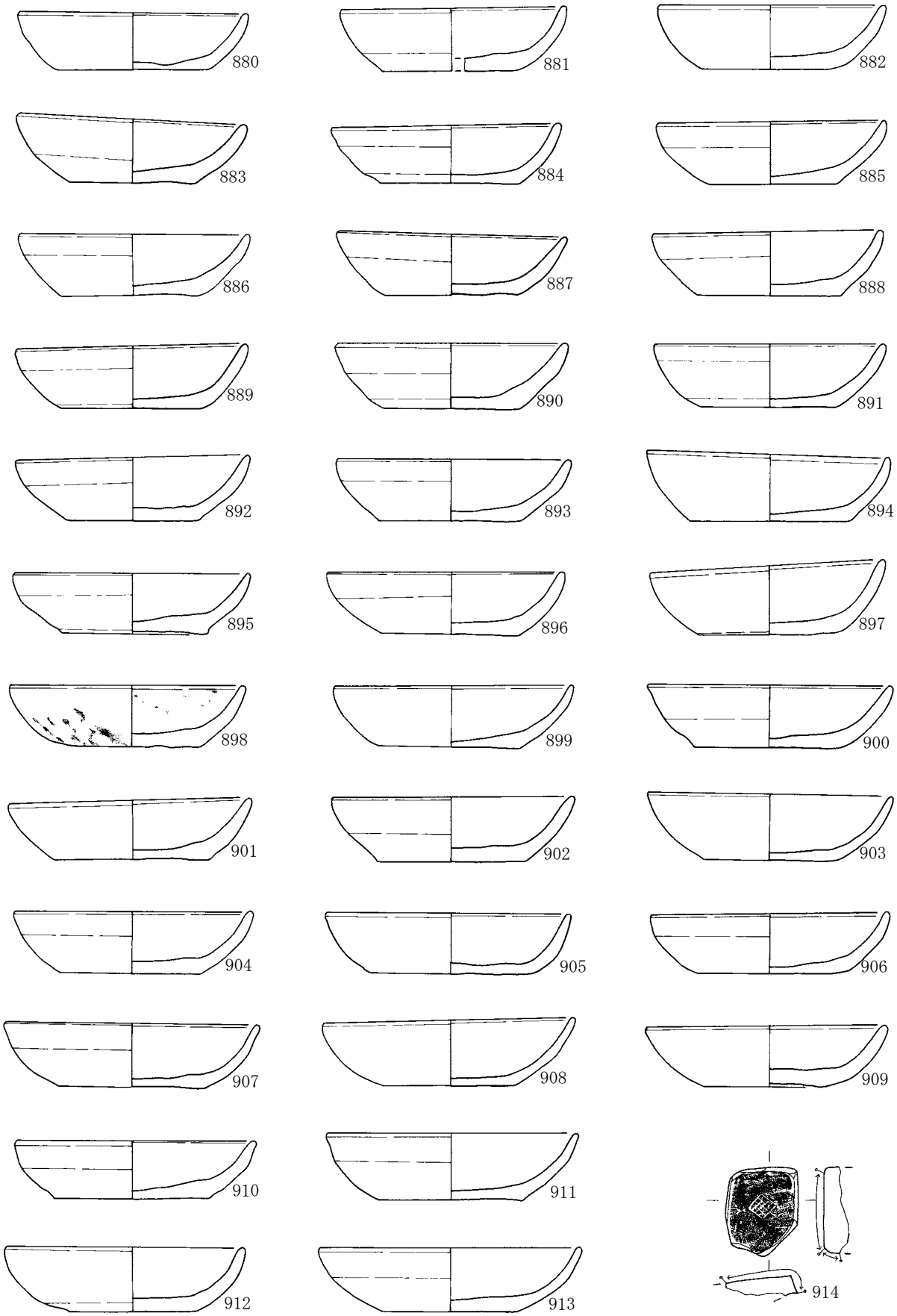


ＩＢ区　南東区画　2b 面　かわらけ集積

0　5　10cm

(1/3)

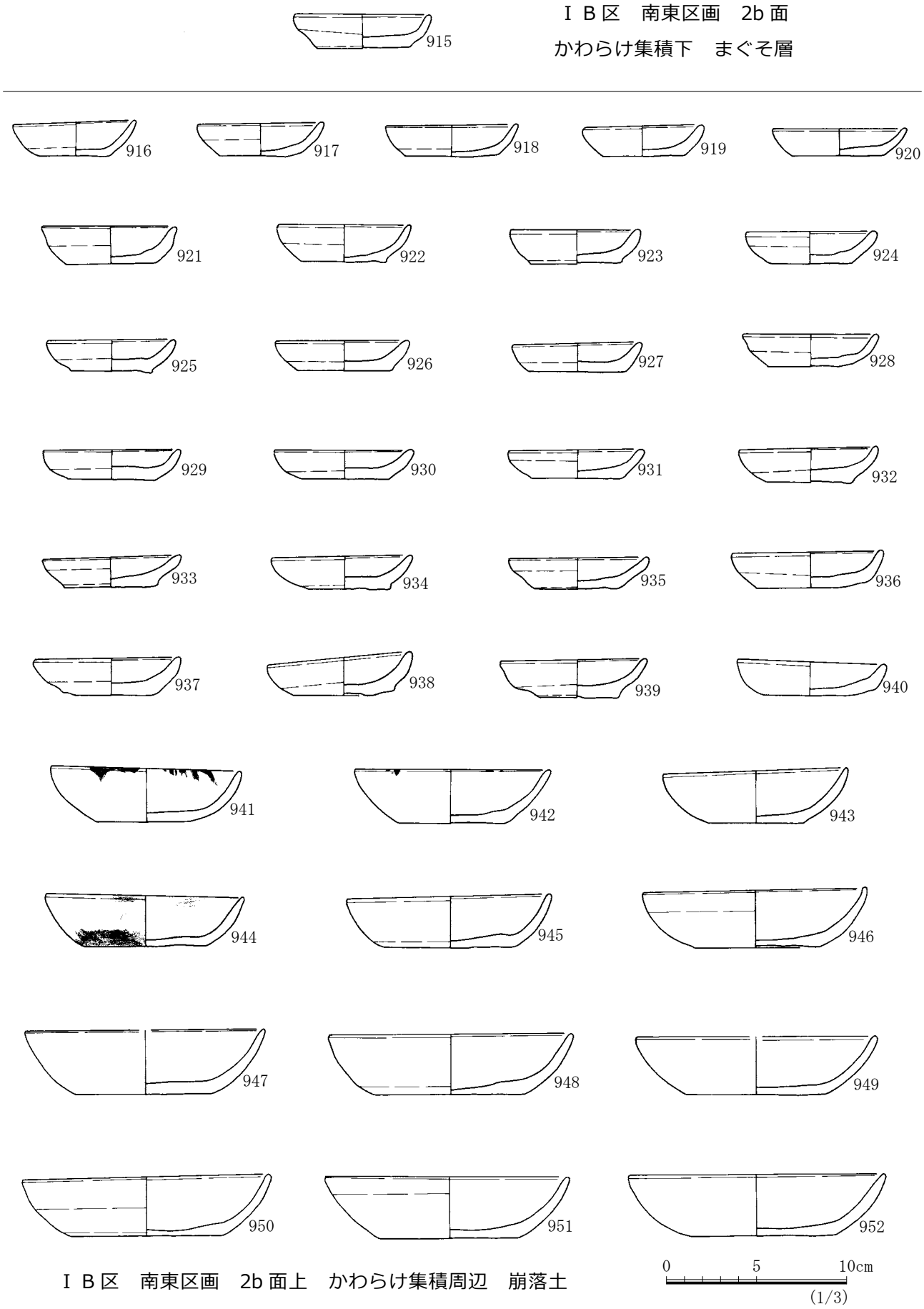
図 38　出土遺物（25）



ＩＢ区　南東区画　2b 面　かわらけ集積

0　5　10cm
(1/3)

図 39　出土遺物（26）



Ⅰ B 区　南東区画　2b 面
かわらけ集積下　まぐそ層

Ⅰ B 区　南東区画　2b 面上　かわらけ集積周辺　崩落土

図 40　出土遺物（27）

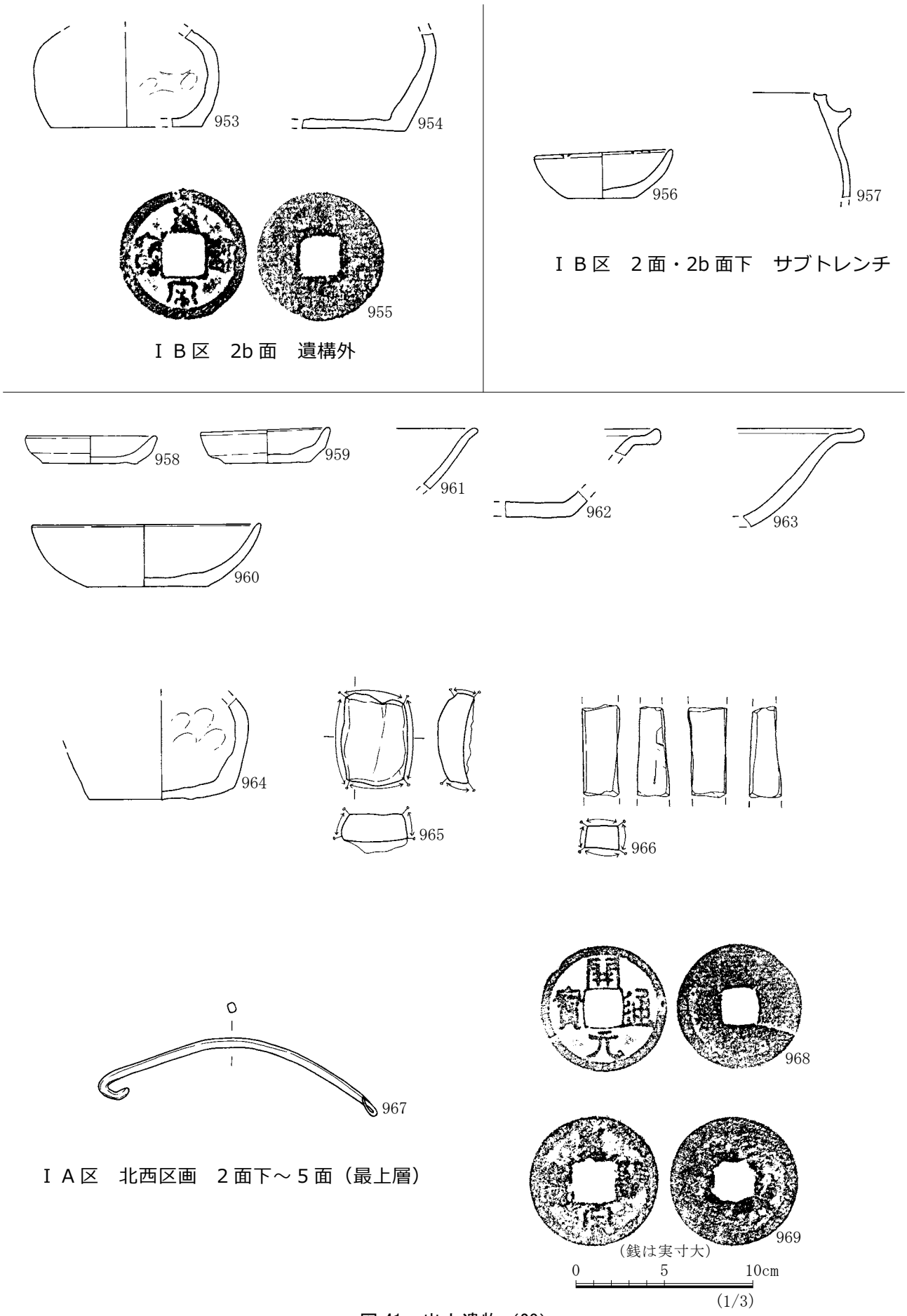
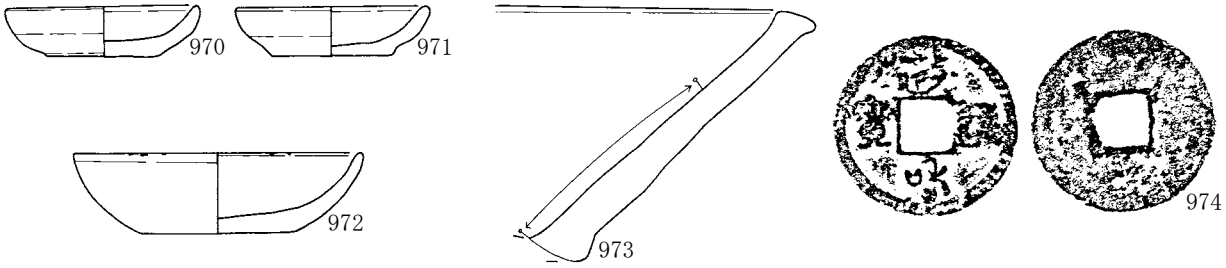
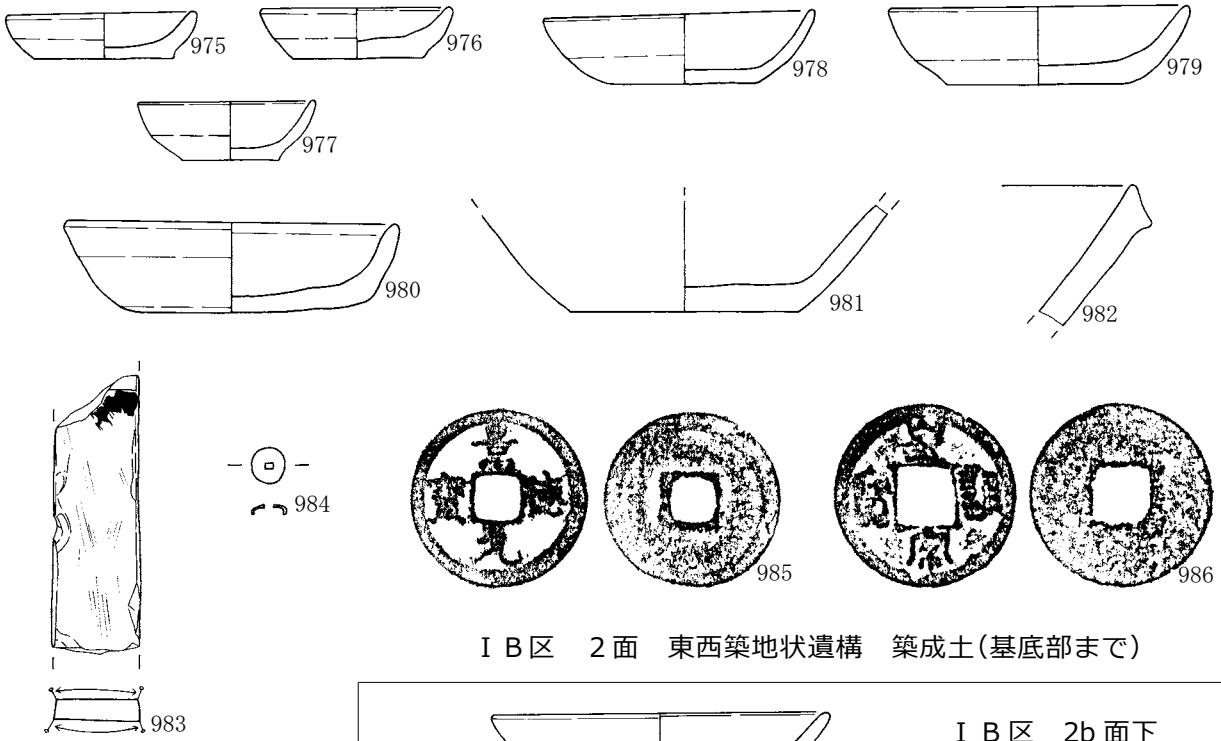

953
954
955
Ⅰ B 区　2b 面　遺構外
956
957
Ⅰ B 区　2 面・2b 面下　サブトレンチ
958
959
960
961
962
963
964
965
966
967
968
969
Ⅰ A 区　北西区画　2 面下～ 5 面（最上層）
（銭は実寸大）
0
5
10cm
(1/3)

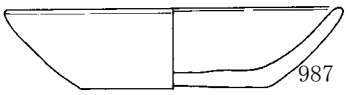
図 41　出土遺物（28）



Ⅰ B 区　2b 面　南北築地状遺構上　土坑 1（炭プラン）



Ⅰ B 区　2 面　東西築地状遺構　築成土(基底部まで)



Ⅰ B 区　2b 面下
～ 5 面（最上層）

Ⅰ A 区　北西区画　2b 面下～ 5 面（上層）

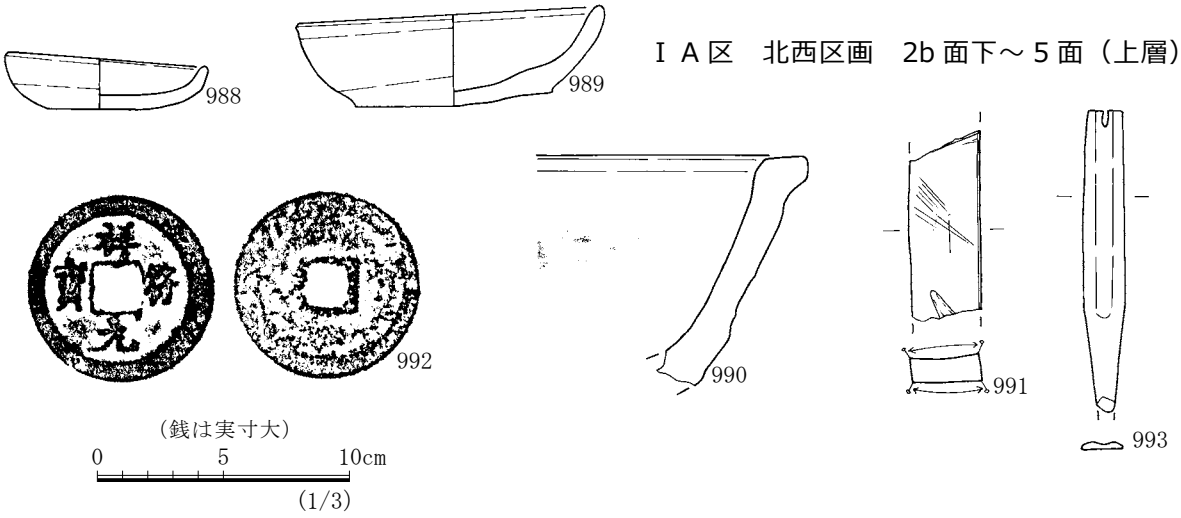


図 42　出土遺物（29）

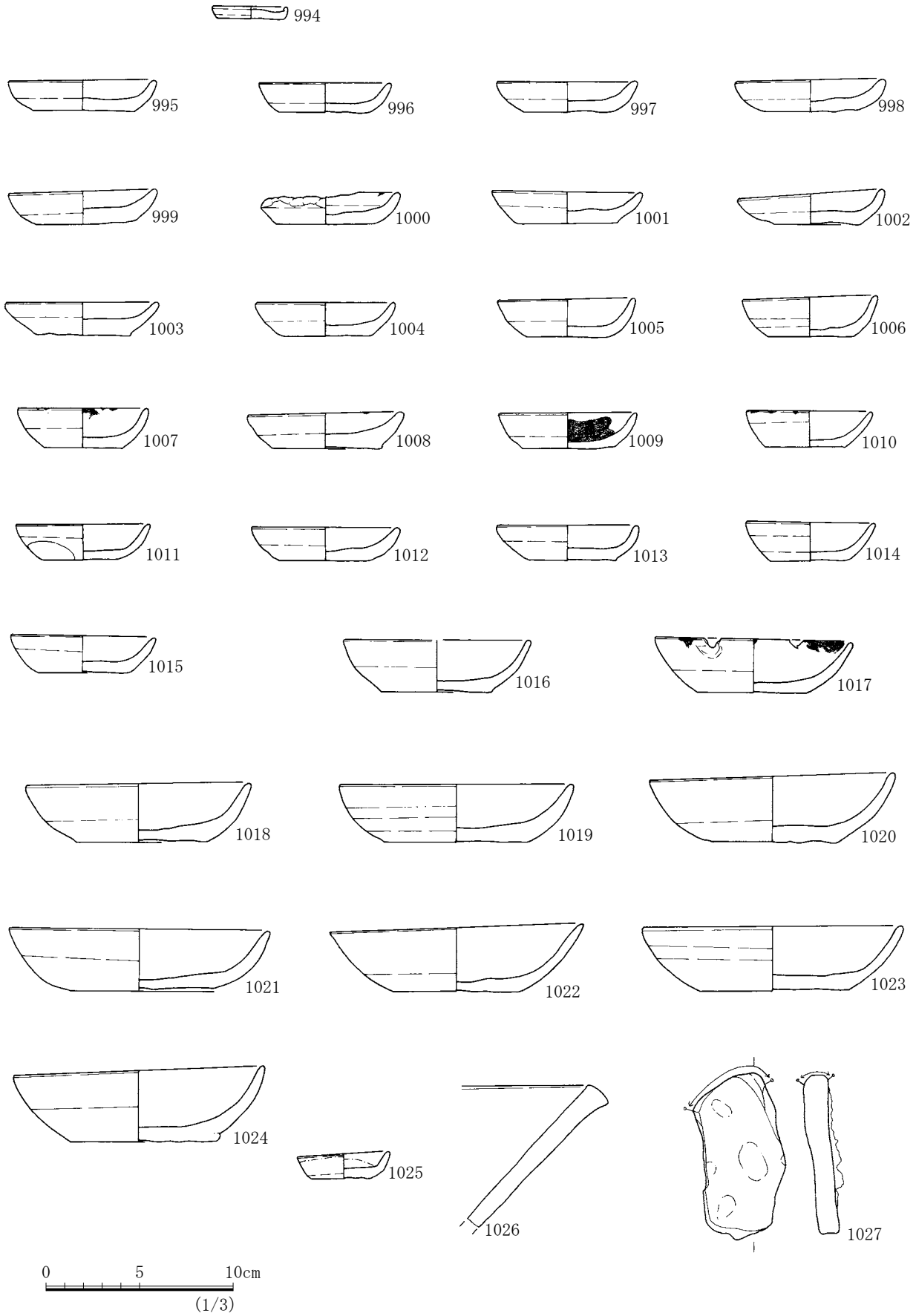

994
995
996
997
998
999
1000
1001
1002
1003
1004
1005
1006
1007
1008
1009
1010
1011
1012
1013
1014
1015
1016
1017
1018
1019
1020
1021
1022
1023
1024
1025
1026
1027
0
5
10cm
(1/3)

図 43　出土遺物（30）

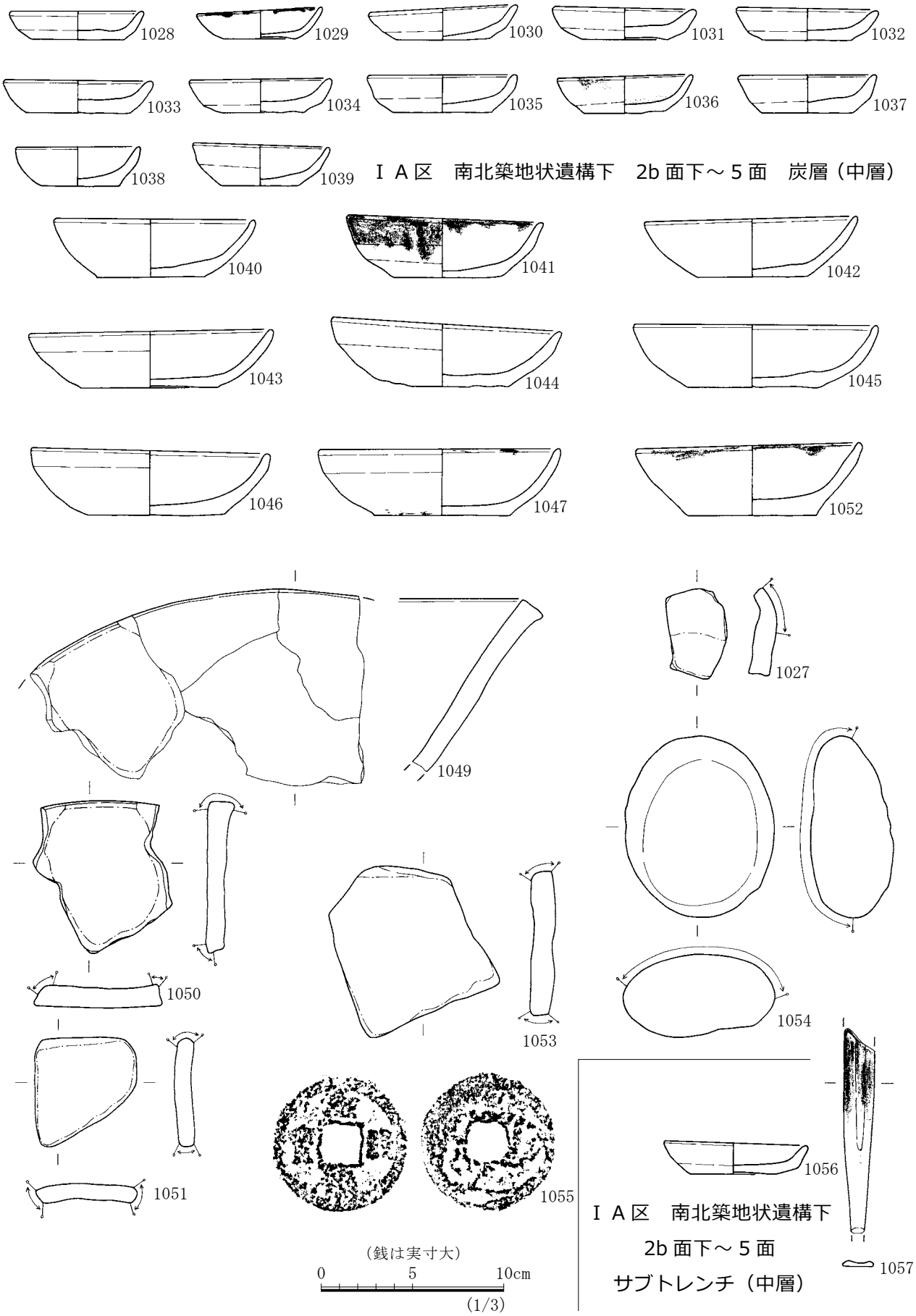
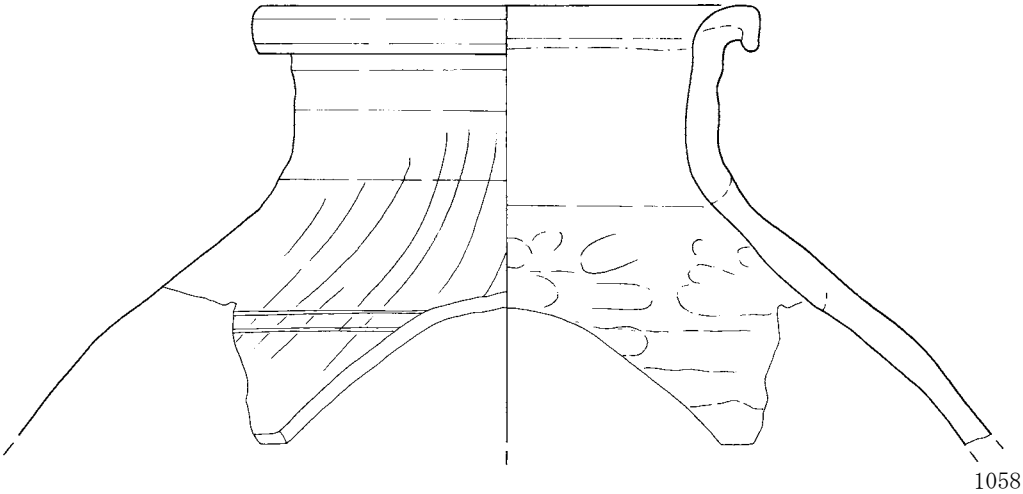
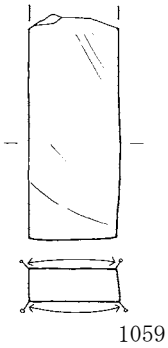
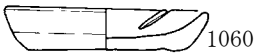

1028
1029
1030
1031
1032
1033
1034
1035
1036
1037
1038
1039
ＩＡ区　南北築地状遺構下　2b 面下～５面　炭層（中層）
1040
1041
1042
1043
1044
1045
1046
1047
1052
1027
1049
1050
1053
1054
1051
1055
1056
1057
ＩＡ区　南北築地状遺構下
2b 面下～５面
サブトレンチ（中層）
（銭は実寸大）
0
5
10cm
(1/3)

図 44　出土遺物（31）

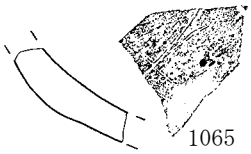


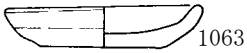


Ⅰ A 区　北西区画　2b 面下～ 5 面（下層）



Ⅰ A 区　南北築地状遺構下
2b 面下～ 5 面　地割れ状痕跡

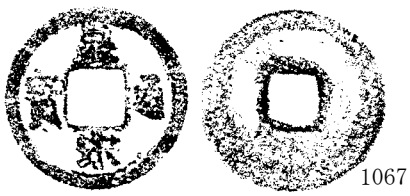




Ⅰ A 区　南北築地状遺構下
2b 面下～ 5 面　泥岩集積（下層）

Ⅰ A 区　南北築地状遺構下
2b 面下～ 5 面（下層）

Ⅰ A 区　5 面　囲炉裏 1



（銭は実寸大）
0　5　10cm
(1/3)

図 45　出土遺物（32）

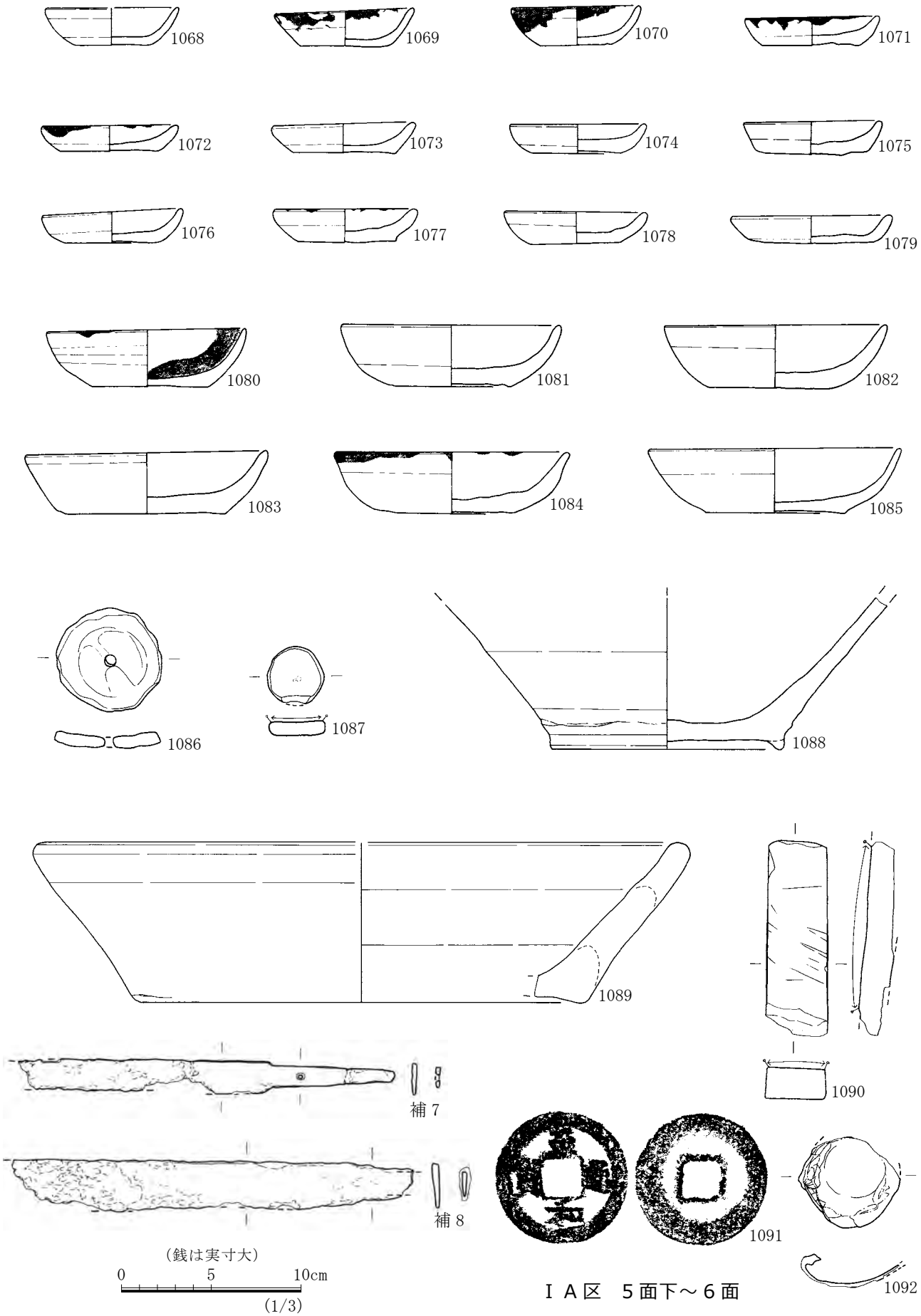
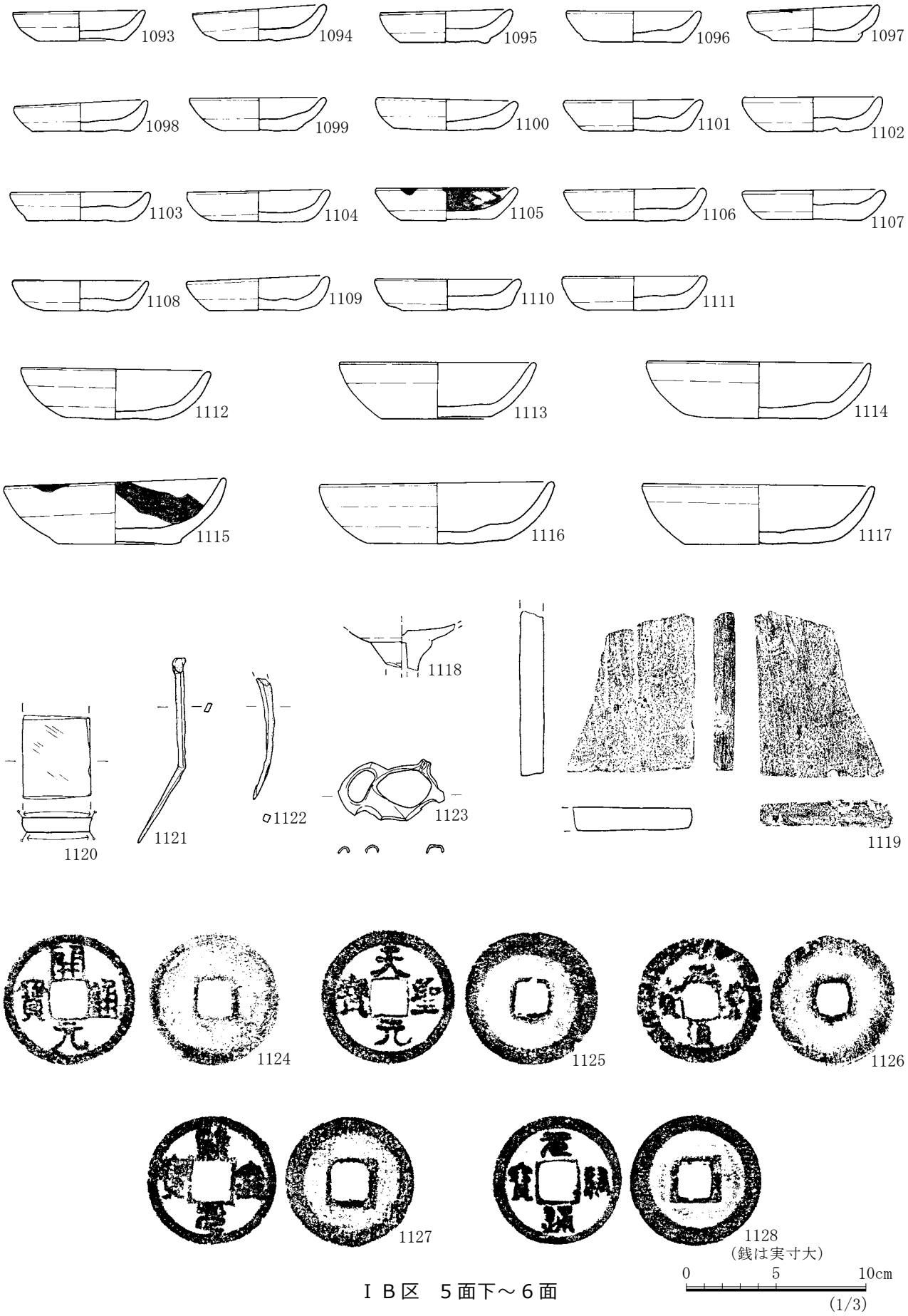
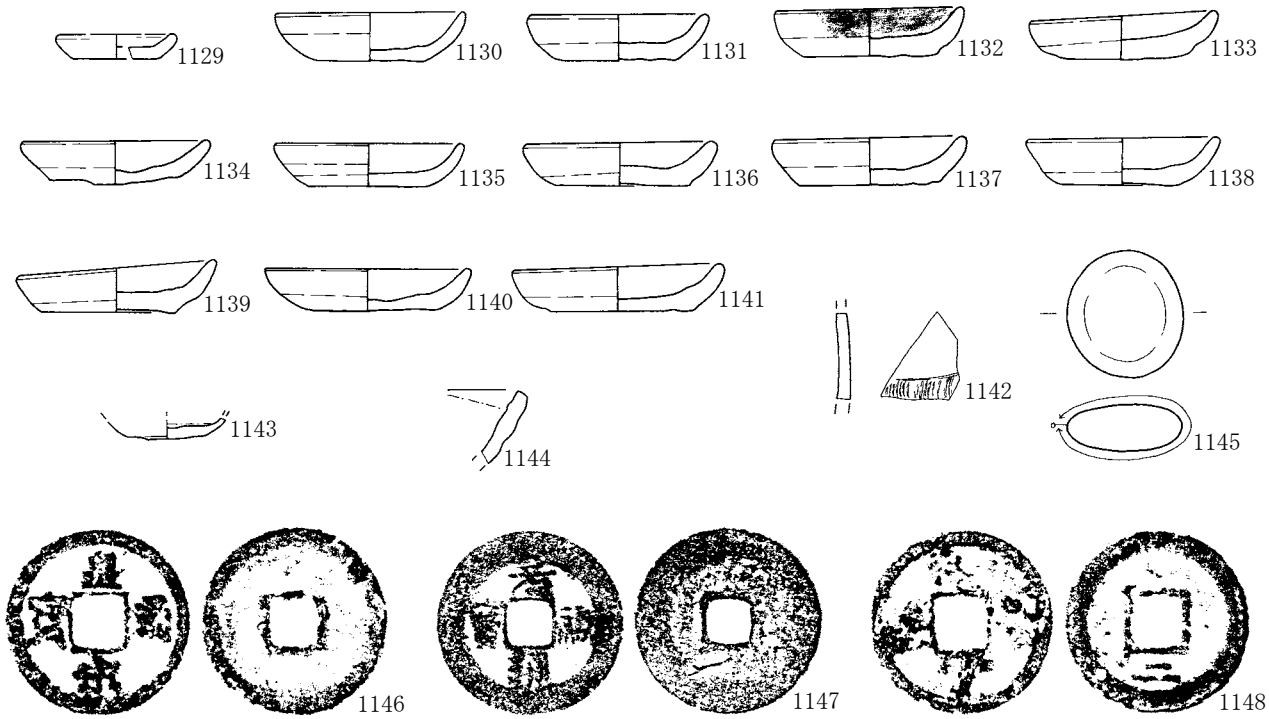

1068
1069
1070
1071
1072
1073
1074
1075
1076
1077
1078
1079
1080
1081
1082
1083
1084
1085
1086
1087
1088
1089
1090
補 7
補 8
1091
1092
（銭は実寸大）
0
5
10cm
(1/3)
ＩＡ区　５面下～６面

図 46　出土遺物（33）



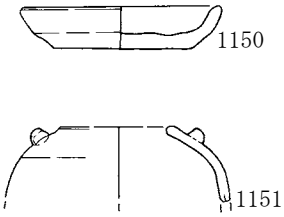
ＩＢ区　５面下～６面

図 47　出土遺物（34）

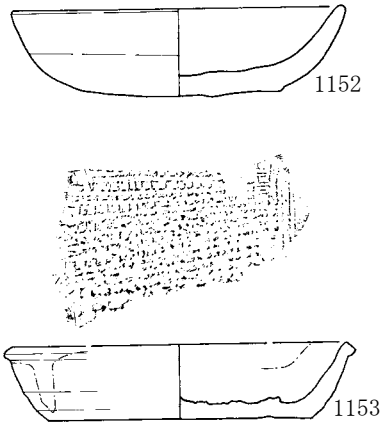


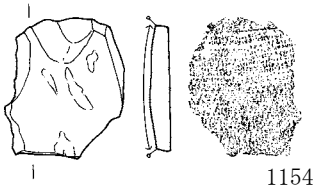
ＩＢ区　５面下～６面

ＩＢ区　６面上　遺構外

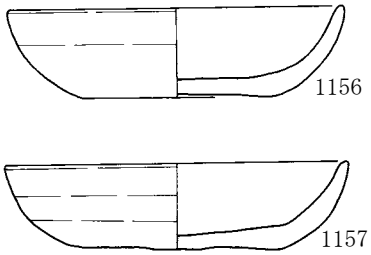


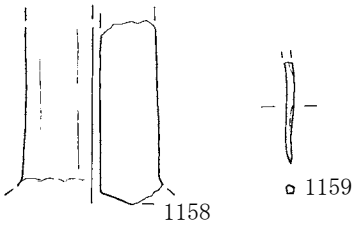
ＩＢ区　５面下
サブトレンチ





ＩＢ区　６面　井戸状遺構１





ＩＢ区　６面　板壁建物状遺構　埋土

（銭は実寸大）
0　5　10cm
(1/3)

図 48　出土遺物（35）

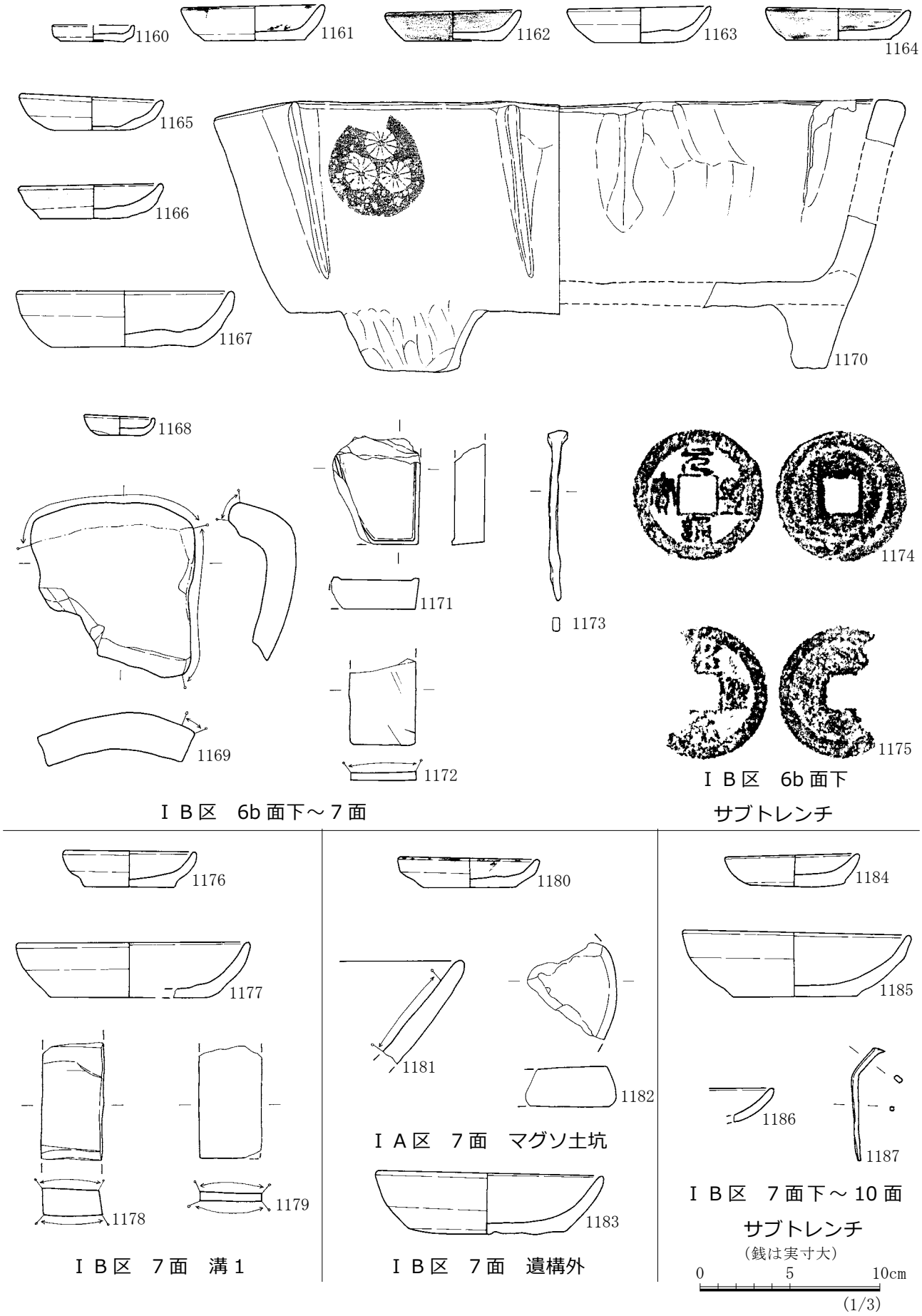

1160
1161
1162
1163
1164
1165
1166
1167
1170
1168
1169
1171
1172
1173
1174
1175
ＩＢ区　6b 面下～７面
ＩＢ区　6b 面下
サブトレンチ
1176
1177
1178
1179
ＩＢ区　７面　溝１
1180
1181
1182
ＩＡ区　７面　マグソ土坑
1183
ＩＢ区　７面　遺構外
1184
1185
1186
1187
ＩＢ区　７面下～10 面
サブトレンチ
（銭は実寸大）
0
5
10cm
(1/3)

図 49　出土遺物（36）

1188
ＩＡ区 北西区画
１面　井戸１
1189
1190
ＩＡ区　２ｂ面下
～５面　（上層炭層）
ＩＡ区　２ｂ面下
～５面（上層）
1191
ＩＡ区 ２ｂ面下
～５面（下層）
1192
ＩＡ区　２ｂ面下
～５面（下層）
1193
ＩＡ区
５面上　遺構外
1194
1195
ＩＡ区
５面下～６面
遺構外
1196
1197
1198
1199
ＩＡ区
出土位置不明
1200
ＩＡ区　６面下～６ｂ面
※内面朱漆地
1205
1206
ＩＡ区　７面　土坑１
0　5　10cm
(1/3)
1201
1202
ＩＡ区　６ｂ面下～７面
1203
1204
ＩＡ区　６ｂ面下
サブトレンチ

図 50　出土遺物（37）

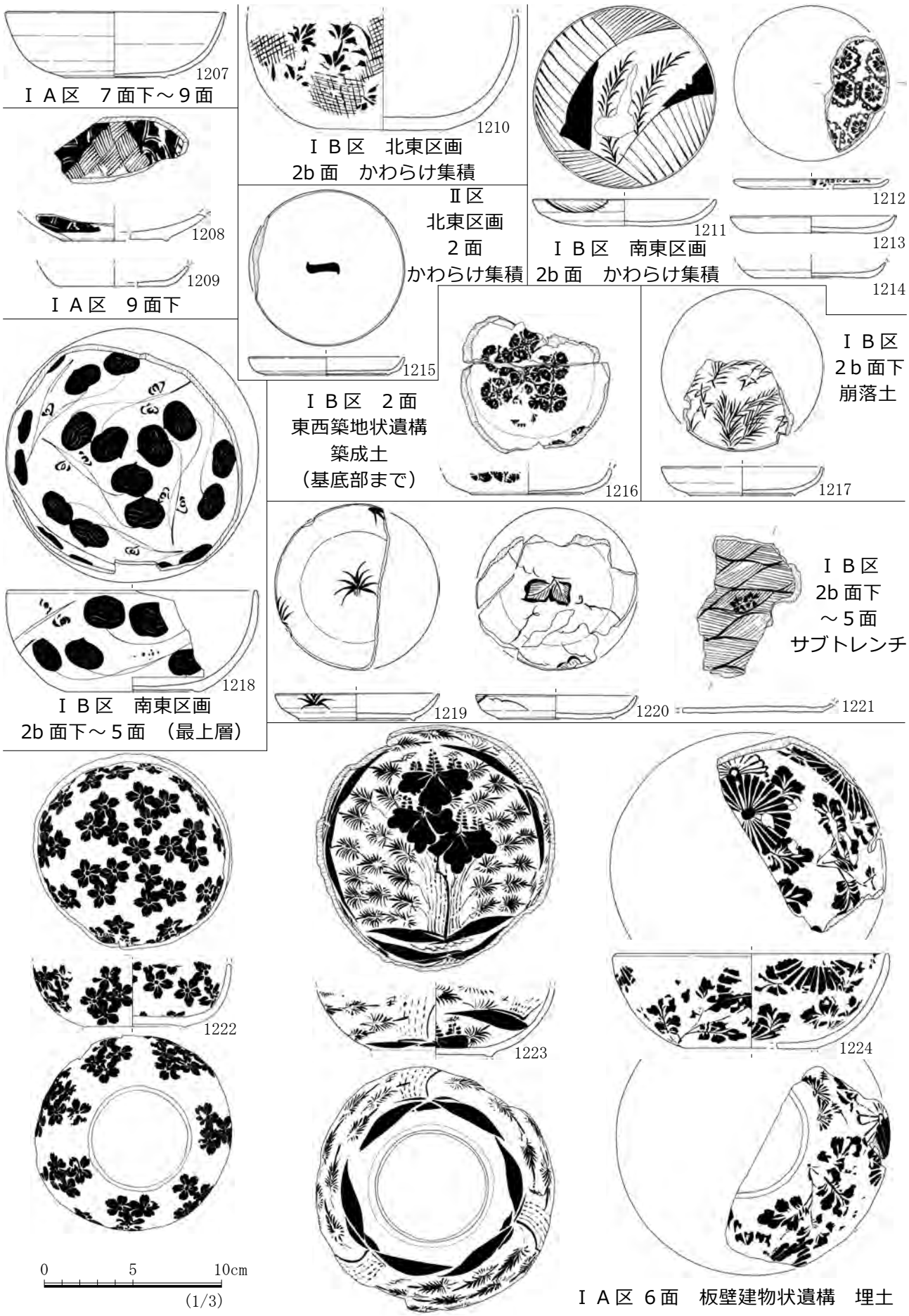

1207
Ⅰ A 区　7 面下～9 面
1208
1209
Ⅰ A 区　9 面下
1210
Ⅰ B 区　北東区画
2b 面　かわらけ集積
Ⅱ区
北東区画
2 面
かわらけ集積
1211
1212
1213
1214
Ⅰ B 区　南東区画
2b 面　かわらけ集積
1215
Ⅰ B 区　2 面
東西築地状遺構
築成土
（基底部まで）
1216
1217
Ⅰ B 区
2 b 面下
崩落土
1218
Ⅰ B 区　南東区画
2b 面下～5 面　（最上層）
1219
1220
1221
Ⅰ B 区
2b 面下
～5 面
サブトレンチ
1222
1223
1224
0
5
10cm
(1/3)
Ⅰ A 区 6 面　板壁建物状遺構　埋土

図 51　出土遺物（38）

1225
1226
1227
1228
ＩＢ区　６面
板壁建物状遺構　埋土（マグソ層）
ＩＢ区
６面上
遺構外
1229
1230
1231
1232
1233
1234
1235
1236
1237
1238
1239
1240
1241
1242
1243
1244
1245
1246
1247
0
5
10cm
(1/3)
ＩＢ区　６面上　マグソ層
1248
1249
1250
ＩＢ区　７面　溝１

図 52　出土遺物（39）

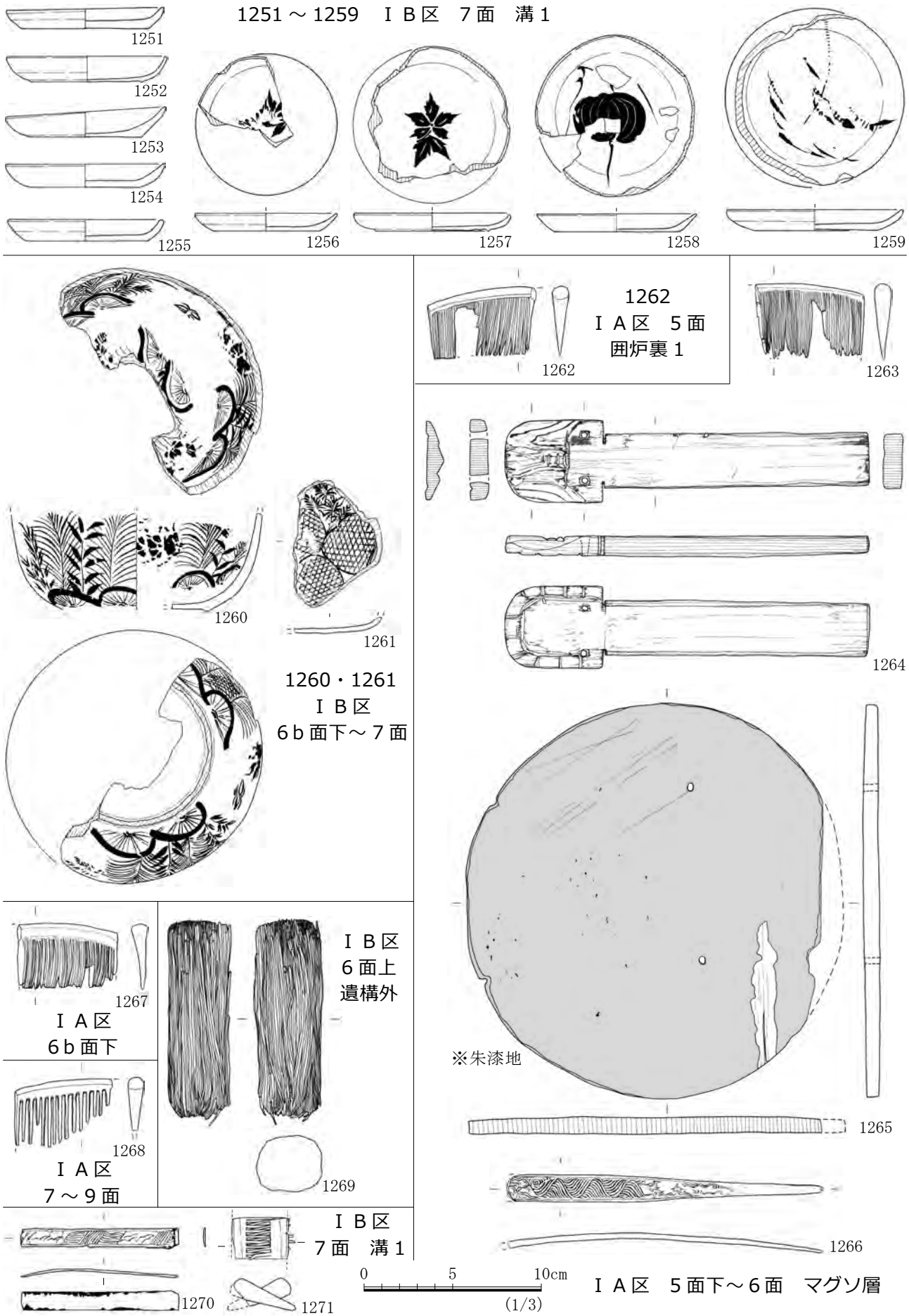
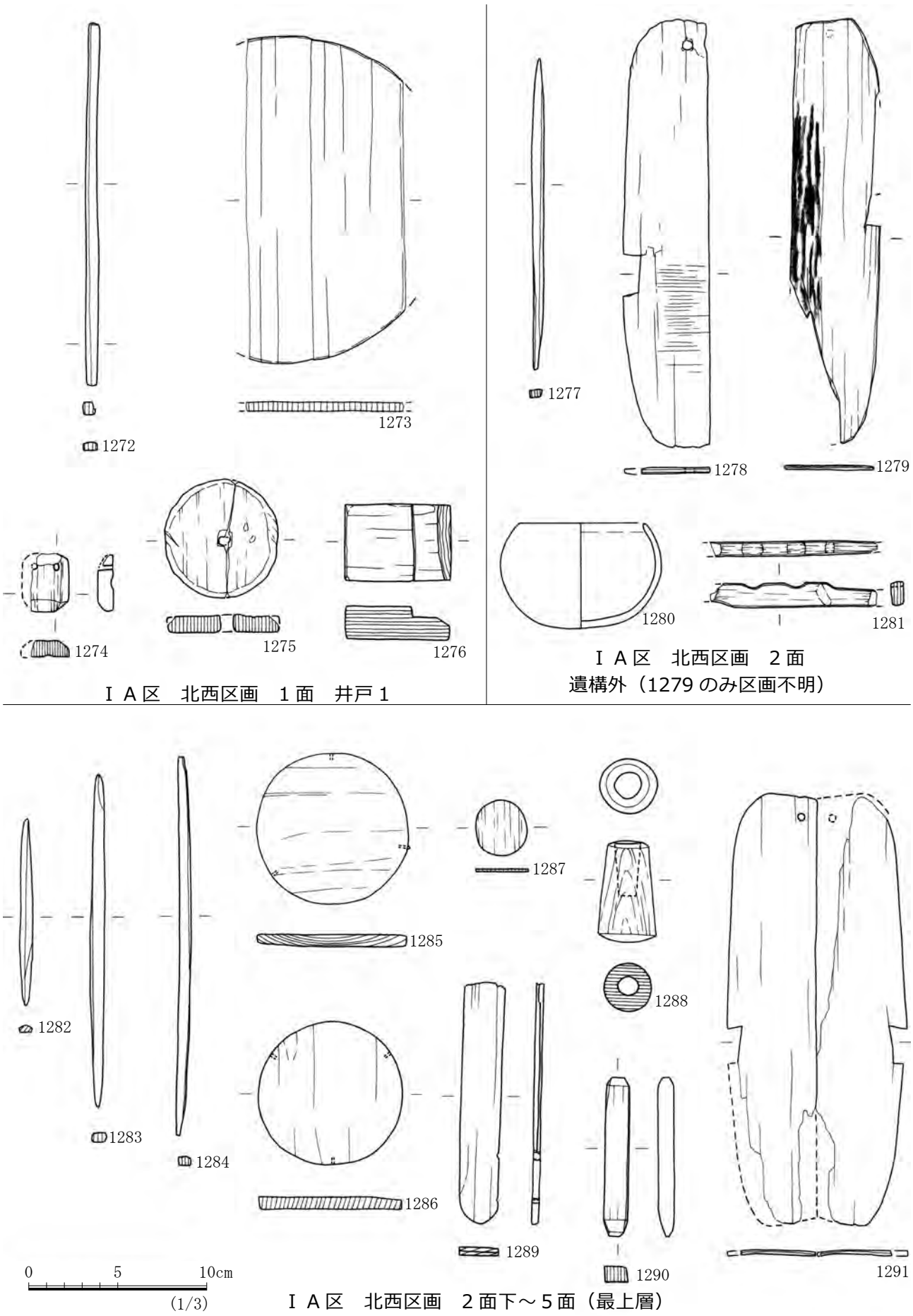

1251～1259　ＩＢ区　７面　溝１
1251
1252
1253
1254
1255
1256
1257
1258
1259
1262
ＩＡ区　５面
囲炉裏１
1262
1263
1260
1261
1260・1261
ＩＢ区
６ｂ面下～７面
1264
※朱漆地
1265
1266
1267
ＩＡ区
６ｂ面下
ＩＢ区
６面上
遺構外
1268
ＩＡ区
７～９面
1269
ＩＢ区
７面　溝１
1270
1271
0
5
10cm
(1/3)
ＩＡ区　５面下～６面　マグソ層

図 53　出土遺物（40）



Ⅰ A 区　北西区画　１面　井戸１

Ⅰ A 区　北西区画　２面
遺構外（1279 のみ区画不明）

Ⅰ A 区　北西区画　２面下～５面（最上層）

図 54　出土遺物（41）

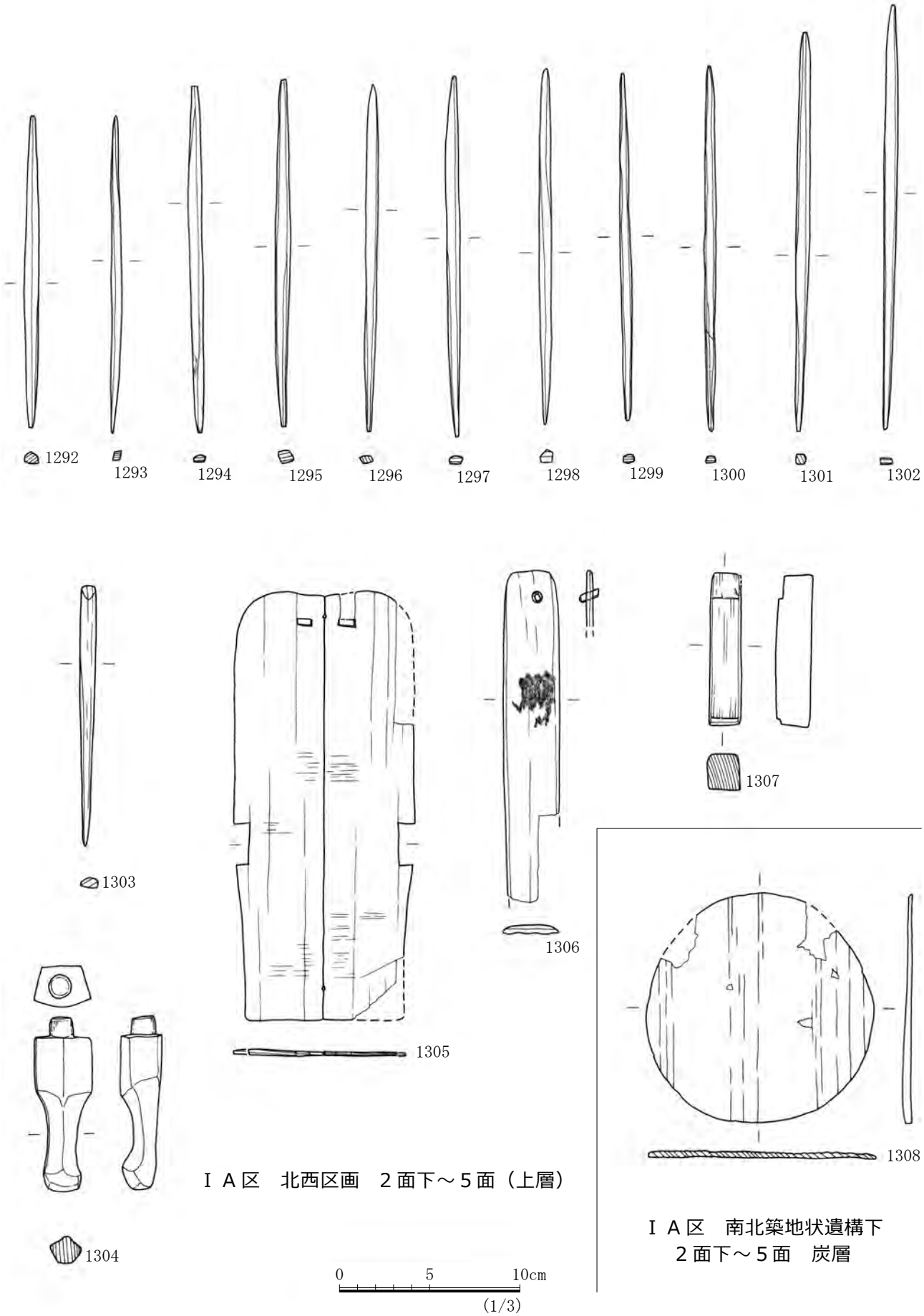

1292
1293
1294
1295
1296
1297
1298
1299
1300
1301
1302
1303
1304
1305
1306
1307
1308
ＩＡ区　北西区画　２面下～５面（上層）
ＩＡ区　南北築地状遺構下
２面下～５面　炭層
0
5
10cm
(1/3)

図 55　出土遺物（42）

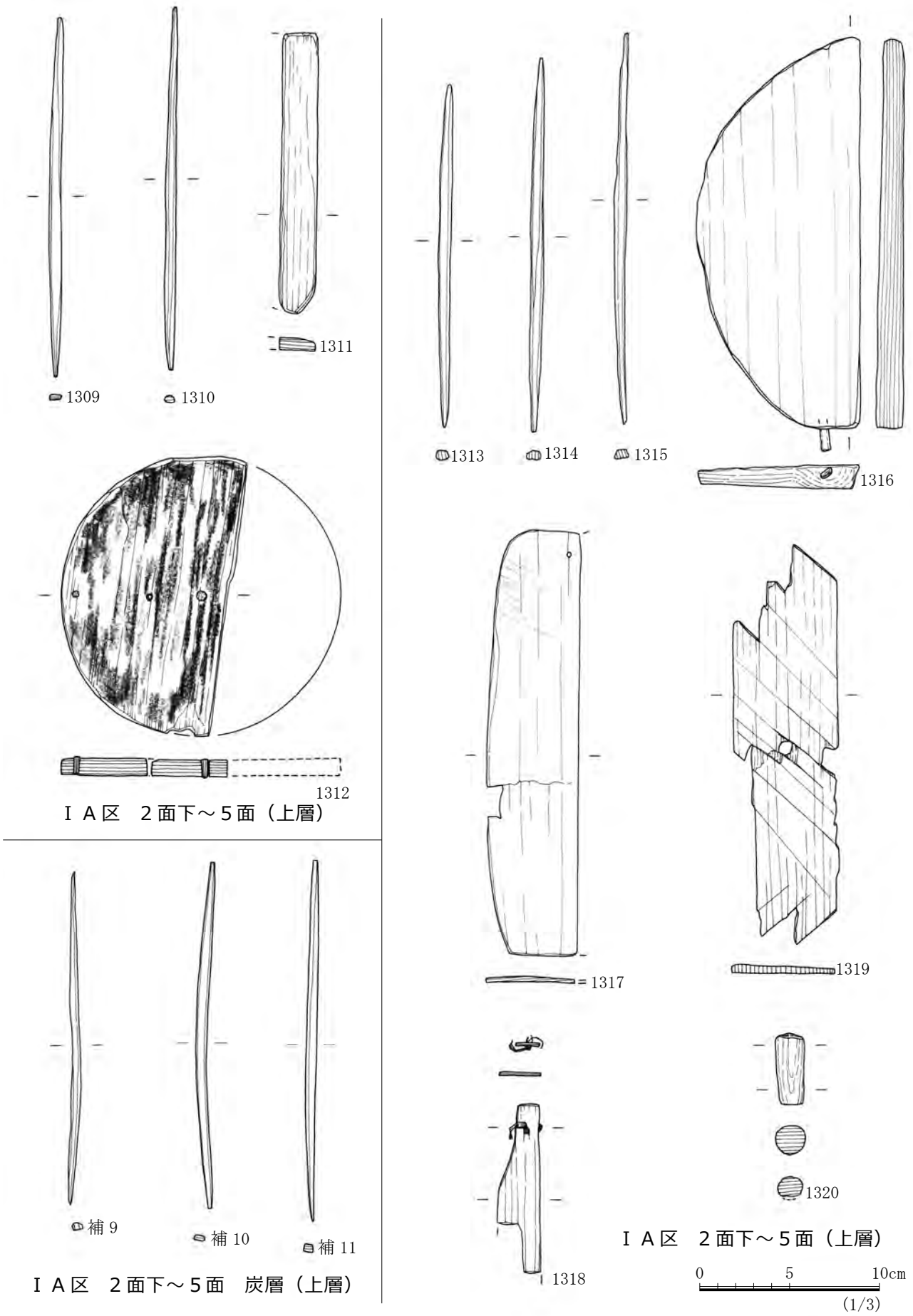

1309
1310
1311
1312
ＩＡ区　２面下～５面（上層）
補 9
補 10
補 11
ＩＡ区　２面下～５面　炭層（上層）
1313
1314
1315
1316
1317
1318
1319
1320
ＩＡ区　２面下～５面（上層）
0
5
10cm
(1/3)

図 56　出土遺物（43）

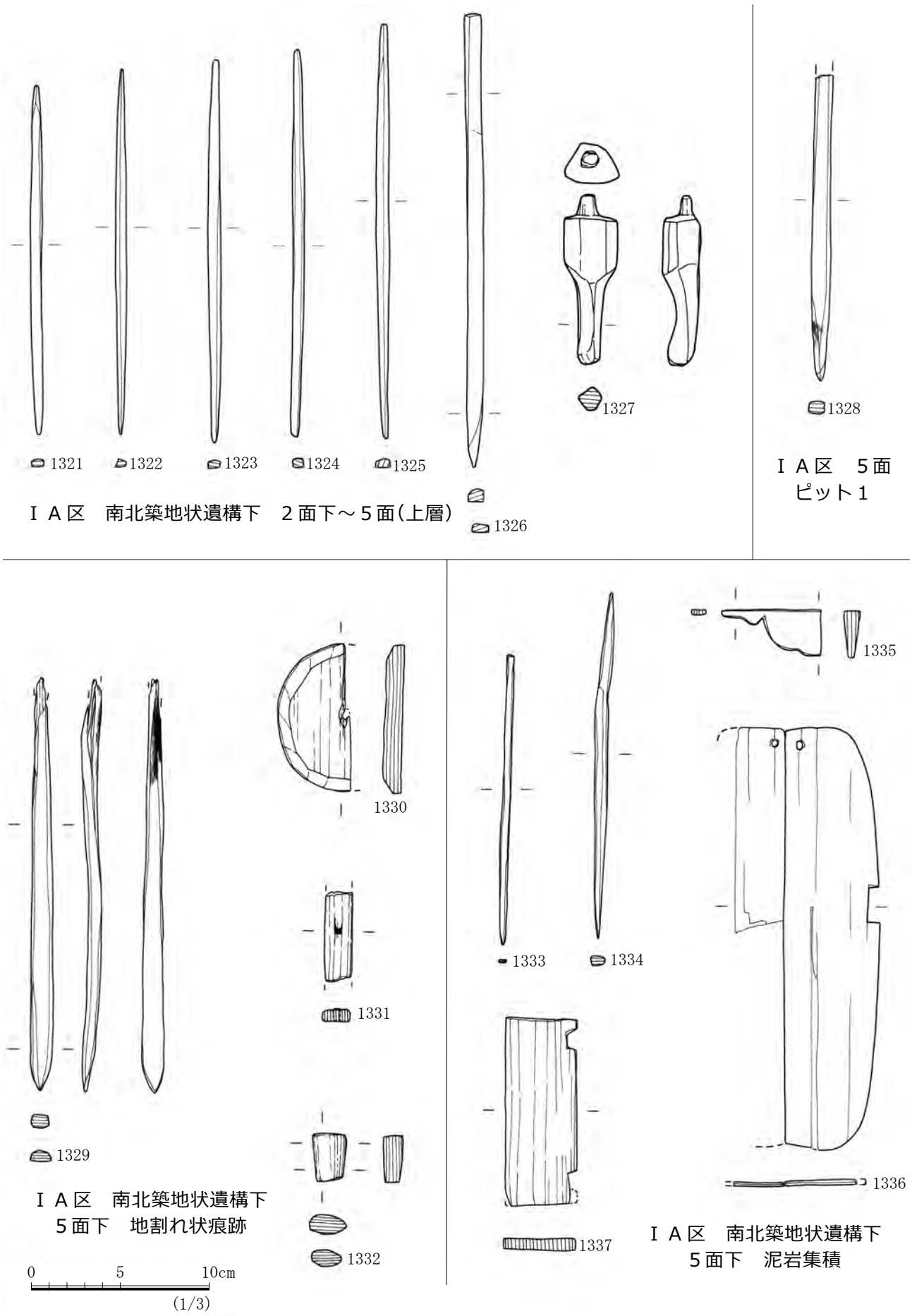
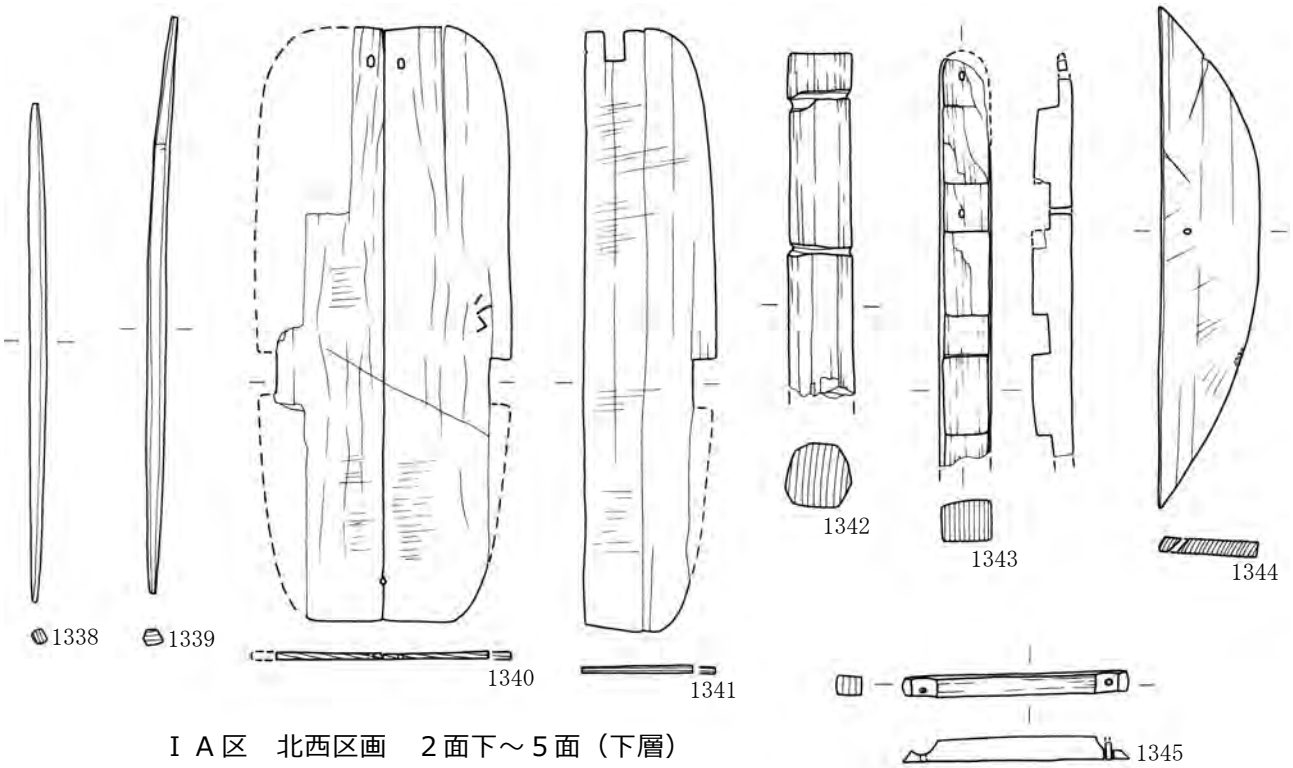
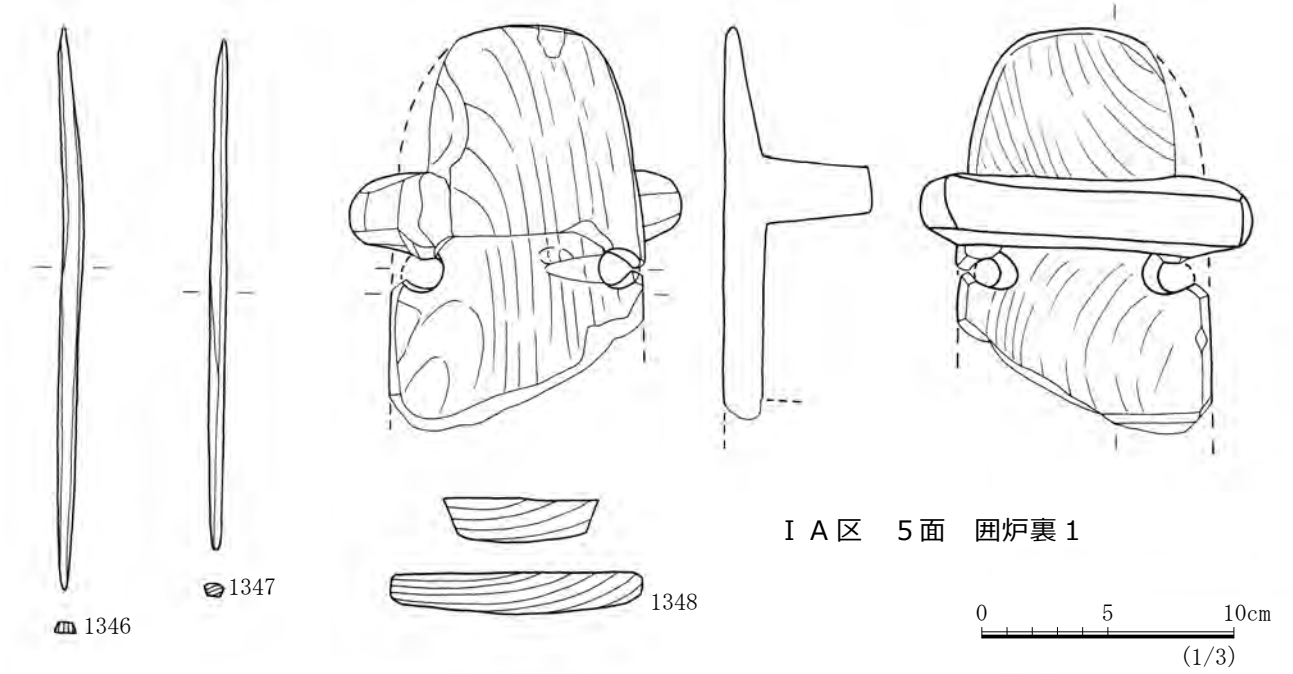

1321
1322
1323
1324
1325
1326
1327
1328
ＩＡ区　南北築地状遺構下　２面下～５面（上層）
ＩＡ区　５面
ピット１
1329
1330
1331
1332
ＩＡ区　南北築地状遺構下
５面下　地割れ状痕跡
0
5
10cm
(1/3)
1333
1334
1335
1336
1337
ＩＡ区　南北築地状遺構下
５面下　泥岩集積

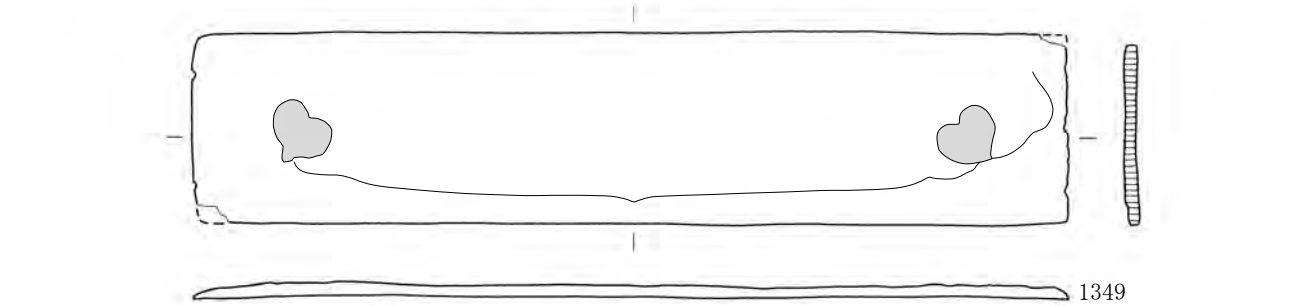
図 57　出土遺物（44）



Ⅰ A 区　北西区画　２面下～５面（下層）



Ⅰ A 区　５面　囲炉裏１



Ⅰ A 区　５面上　遺構外

図 58　出土遺物（45）

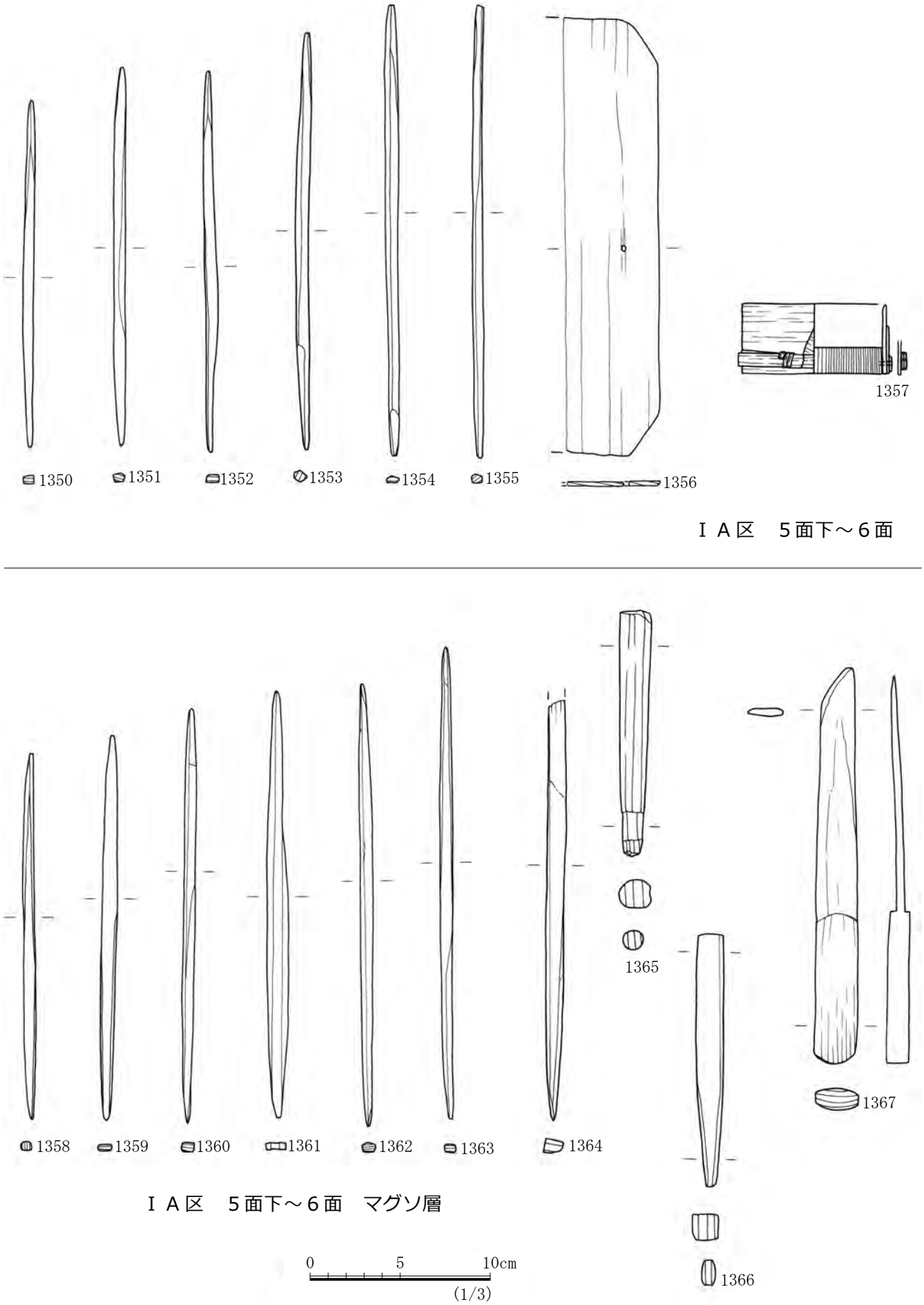
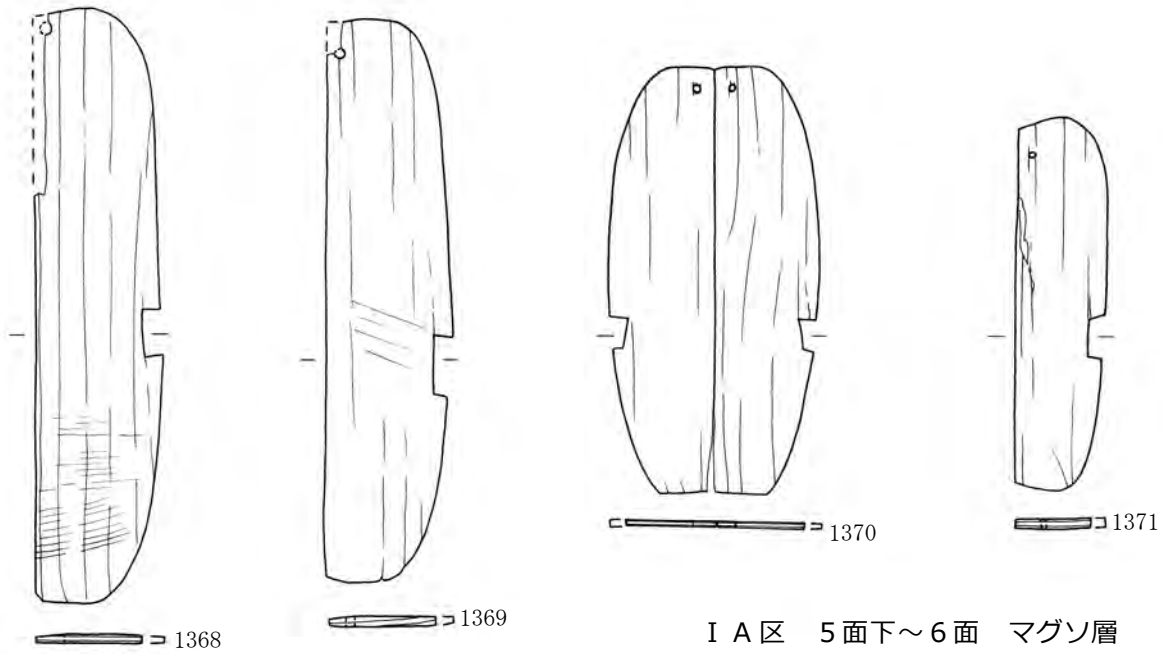
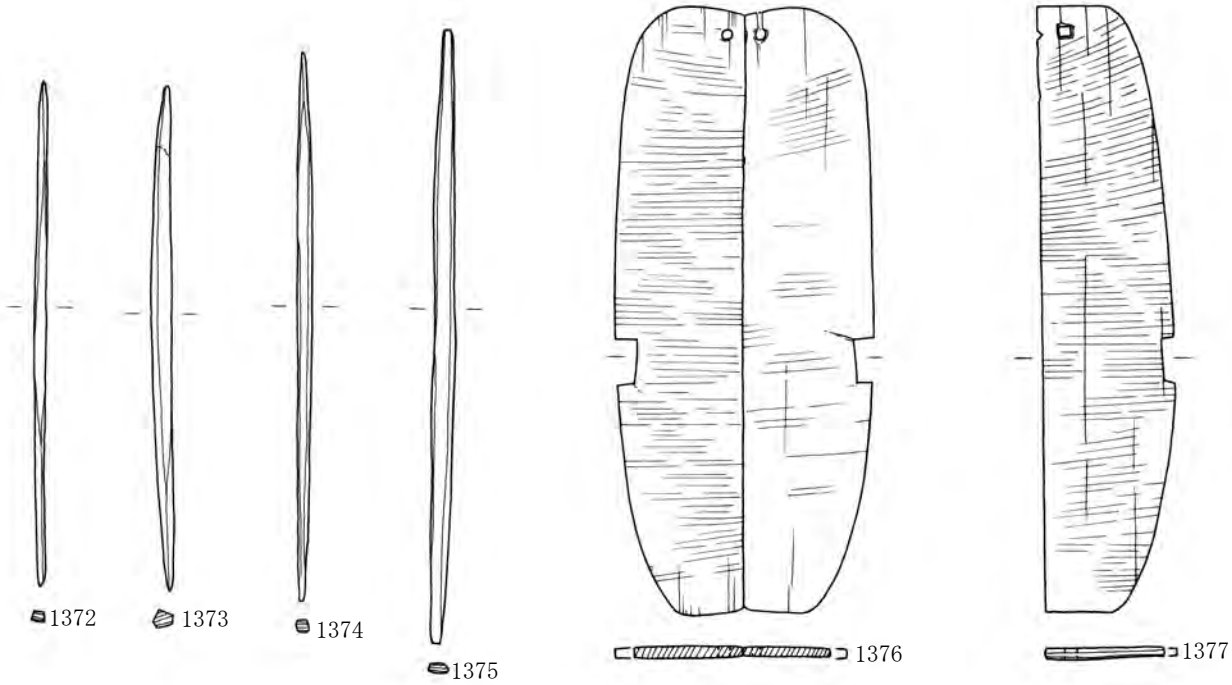

1350
1351
1352
1353
1354
1355
1356
1357
ＩＡ区　５面下～６面
1358
1359
1360
1361
1362
1363
1364
1365
1366
1367
ＩＡ区　５面下～６面　マグソ層
0
5
10cm
(1/3)

図 59　出土遺物（46）



ＩＡ区　５面下～６面　マグソ層



ＩＡ区　５面下　サブトレンチ

0　5　10cm
(1/3)

図 60　出土遺物（47）

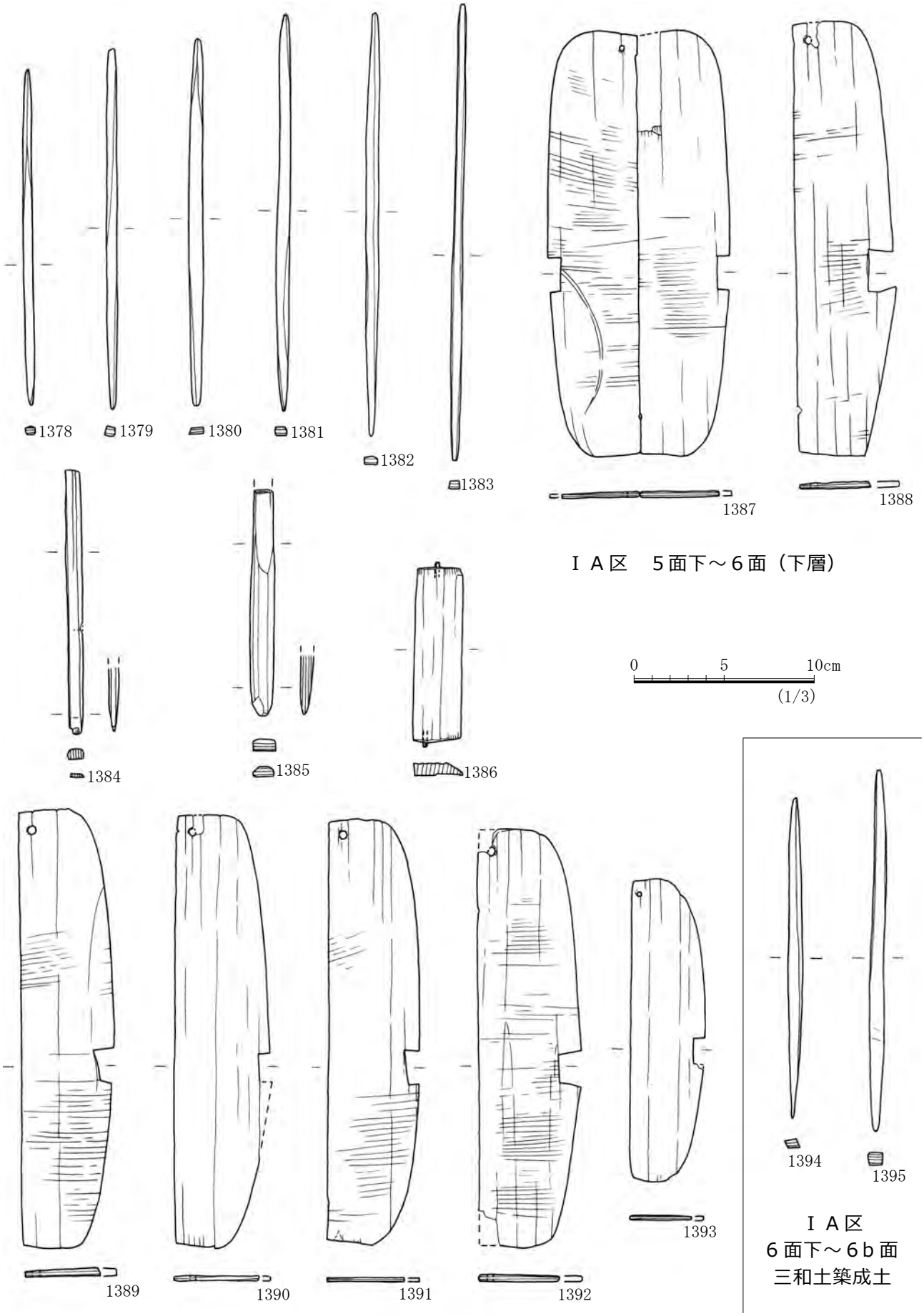

1378
1379
1380
1381
1382
1383
1387
1388
ＩＡ区　５面下～６面（下層）
0
5
10cm
(1/3)
1384
1385
1386
1389
1390
1391
1392
1393
1394
1395
ＩＡ区
６面下～６ｂ面
三和土築成土

図 61　出土遺物（48）

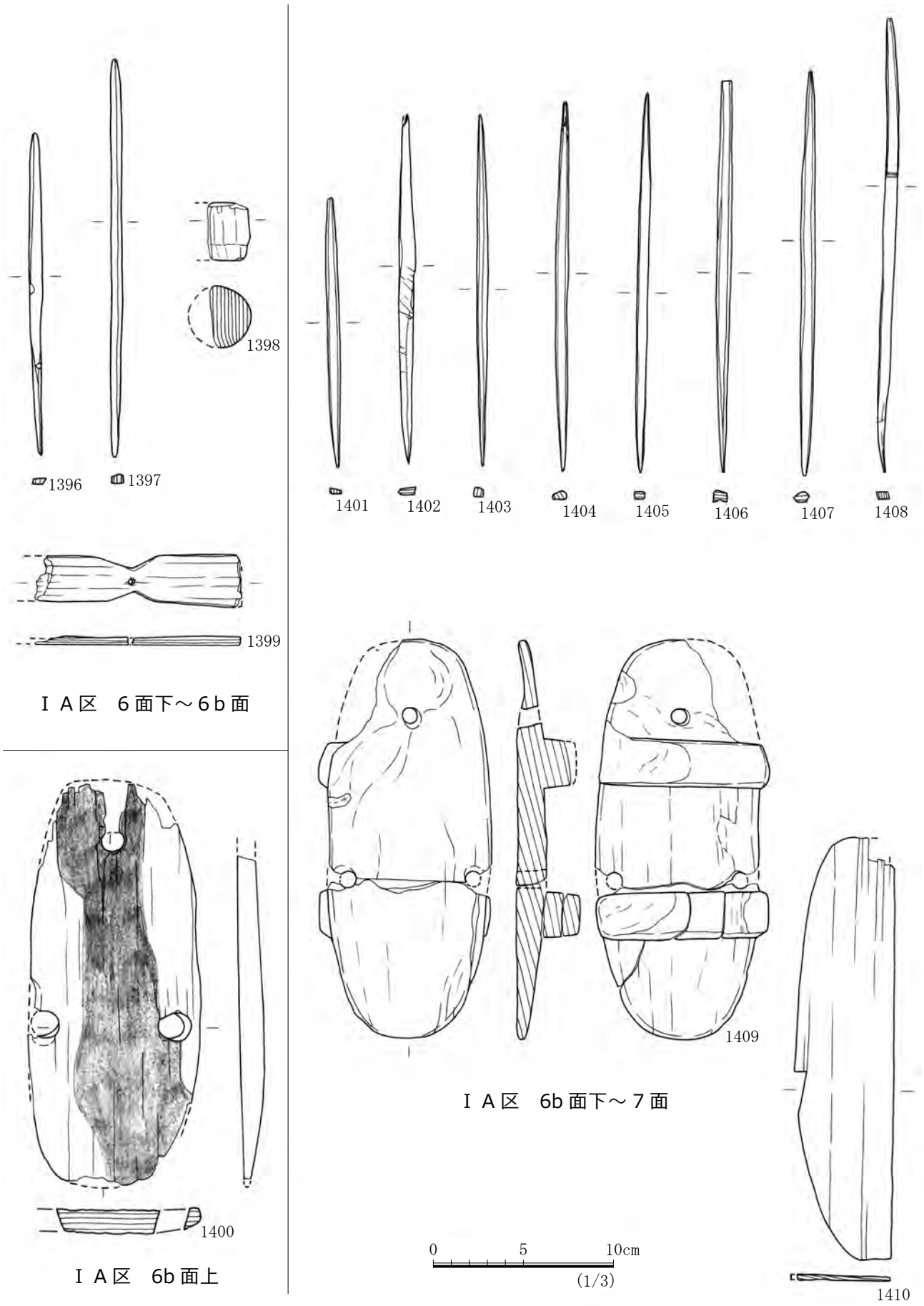

1396
1397
1398
1399
1401
1402
1403
1404
1405
1406
1407
1408
1409
1400
1410
ＩＡ区　６面下～６ｂ面
ＩＡ区　6b 面下～７面
ＩＡ区　6b 面上
0
5
10cm
(1/3)

図 62　出土遺物（49）

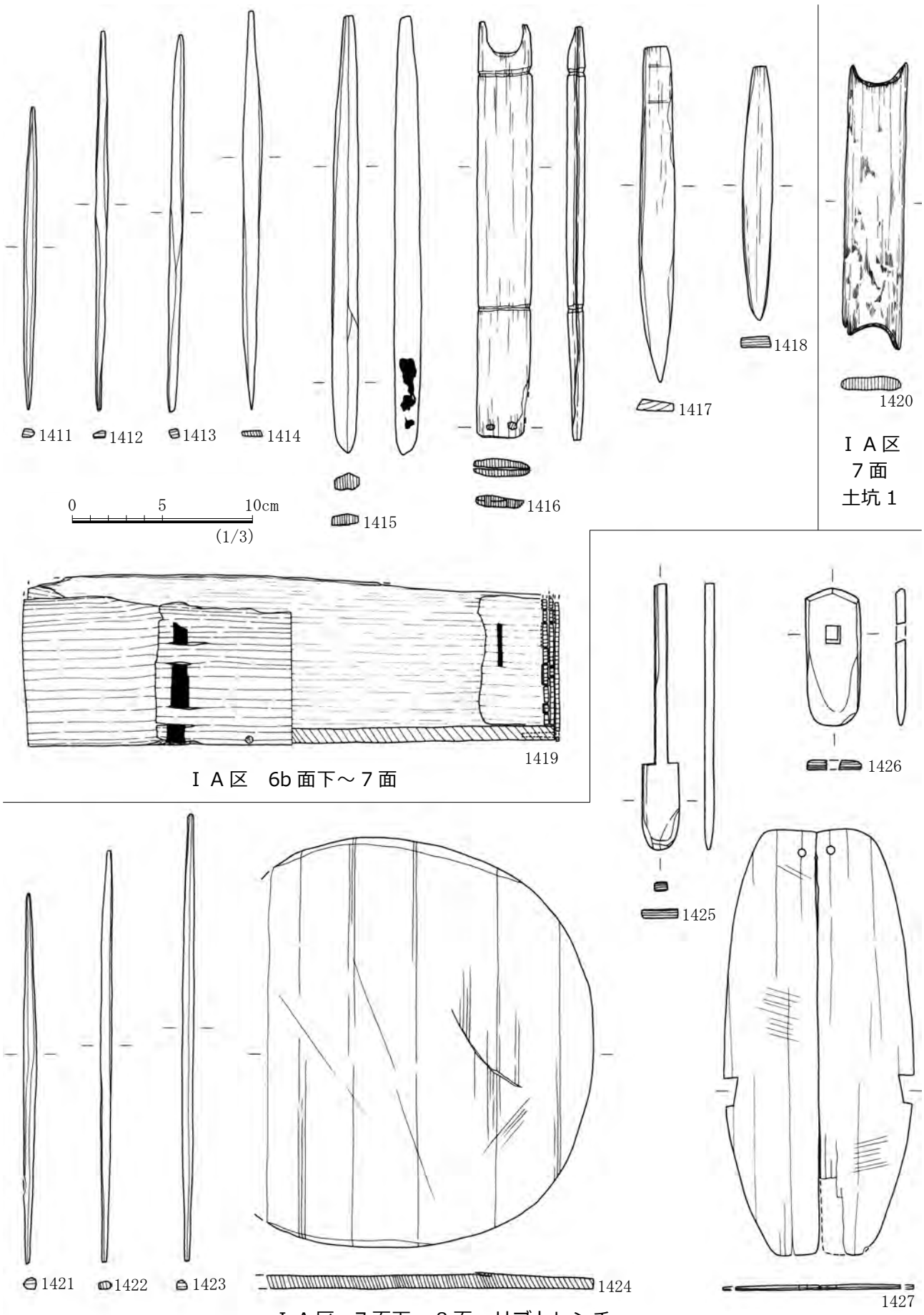
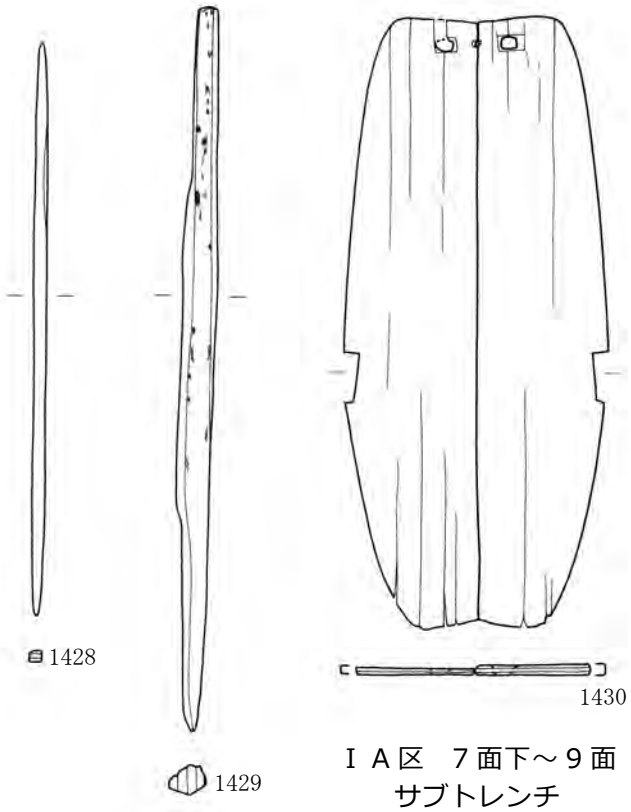
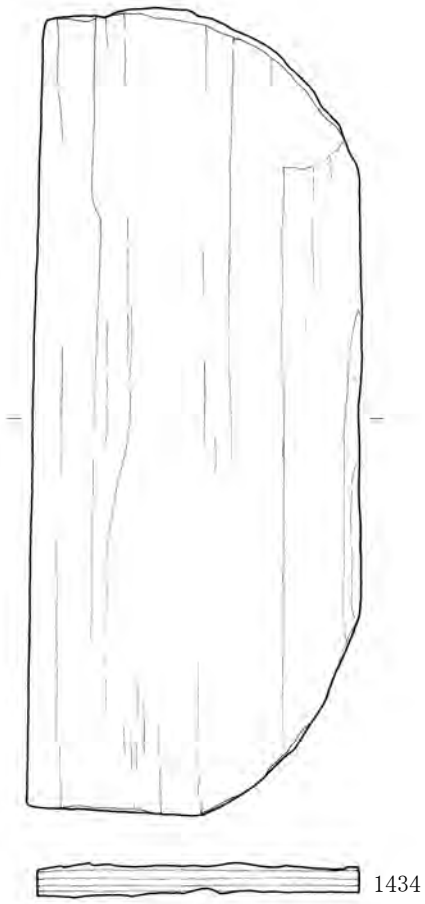

1411
1412
1413
1414
1415
1416
1417
1418
1419
1420
1421
1422
1423
1424
1425
1426
1427
0
5
10cm
(1/3)
ⅠA区
7面
土坑1
ⅠA区　6b面下～7面
ⅠA区　7面下～8面　サブトレンチ

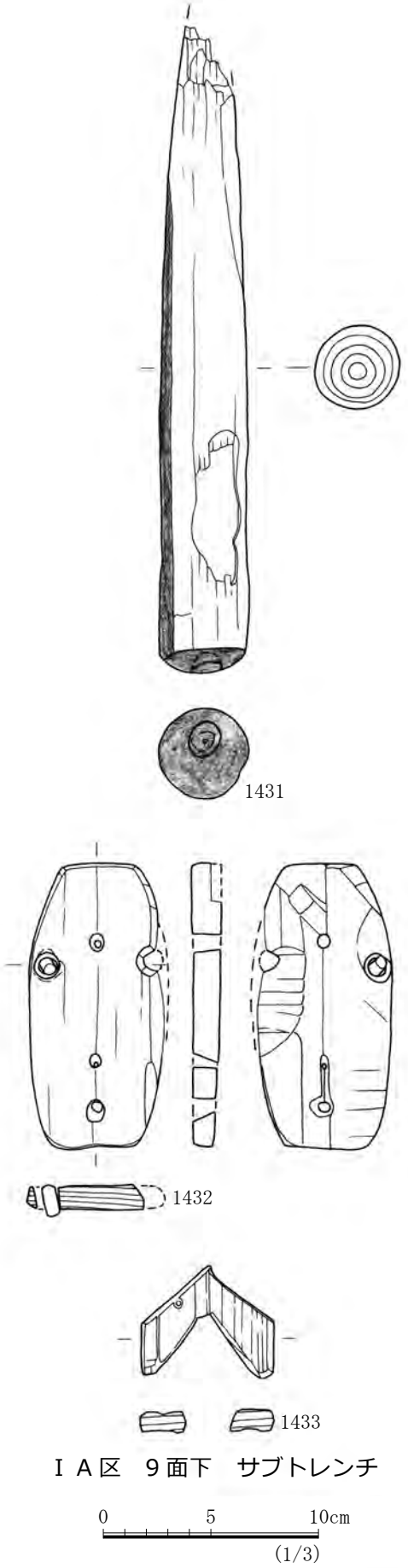
図63　出土遺物（50）



Ⅰ A区　7面下～9面
サブトレンチ



Ⅰ B区　南東区画　2面　かわらけ集積



Ⅰ A区　9面下　サブトレンチ

図 64　出土遺物（51）

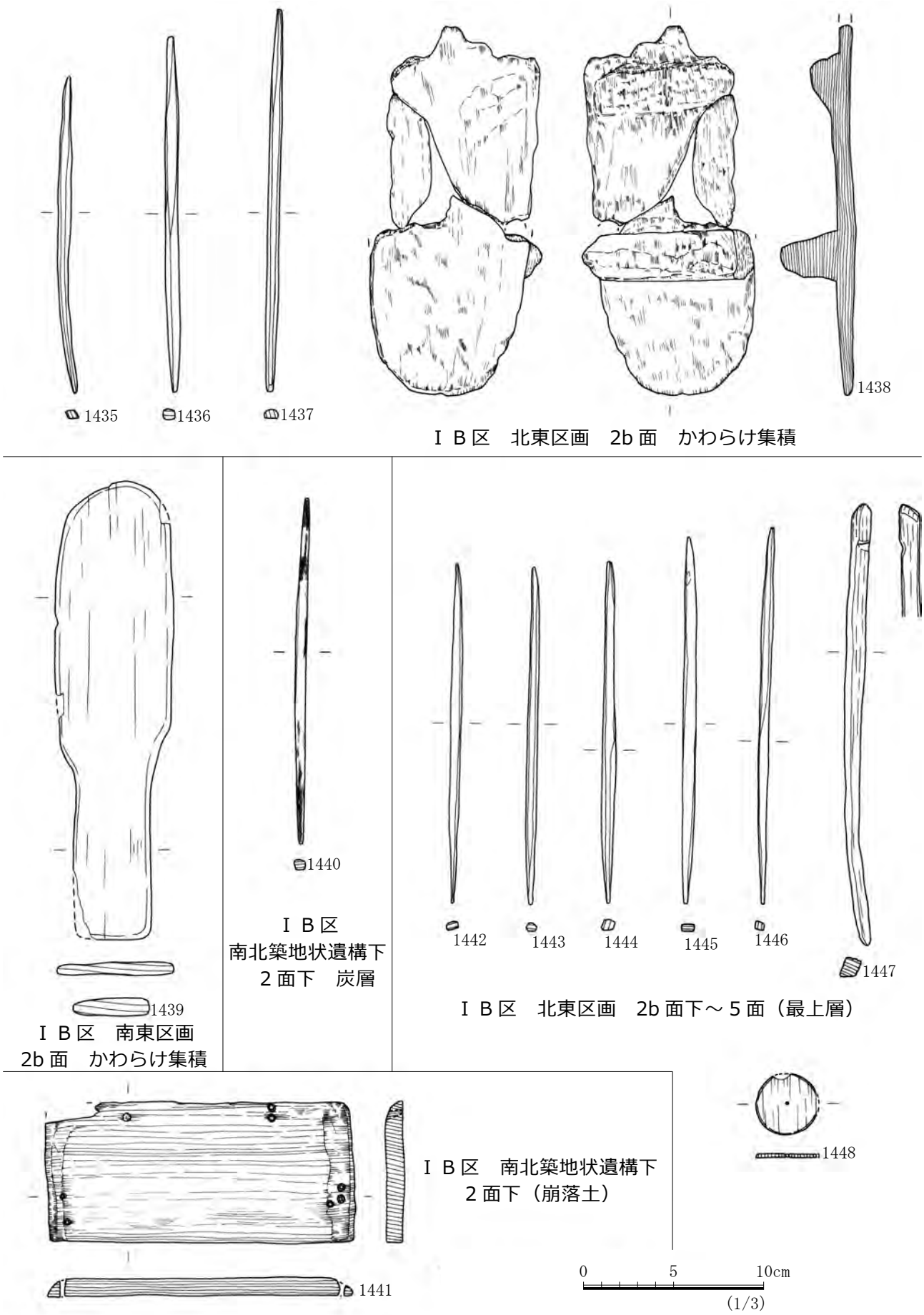

1435
1436
1437
1438
Ⅰ B 区　北東区画　2b 面　かわらけ集積
1439
Ⅰ B 区　南東区画
2b 面　かわらけ集積
1440
Ⅰ B 区
南北築地状遺構下
２面下　炭層
1442
1443
1444
1445
1446
1447
Ⅰ B 区　北東区画　2b 面下～５面（最上層）
1448
Ⅰ B 区　南北築地状遺構下
２面下（崩落土）
1441
0
5
10cm
(1/3)

図 65　出土遺物（52）

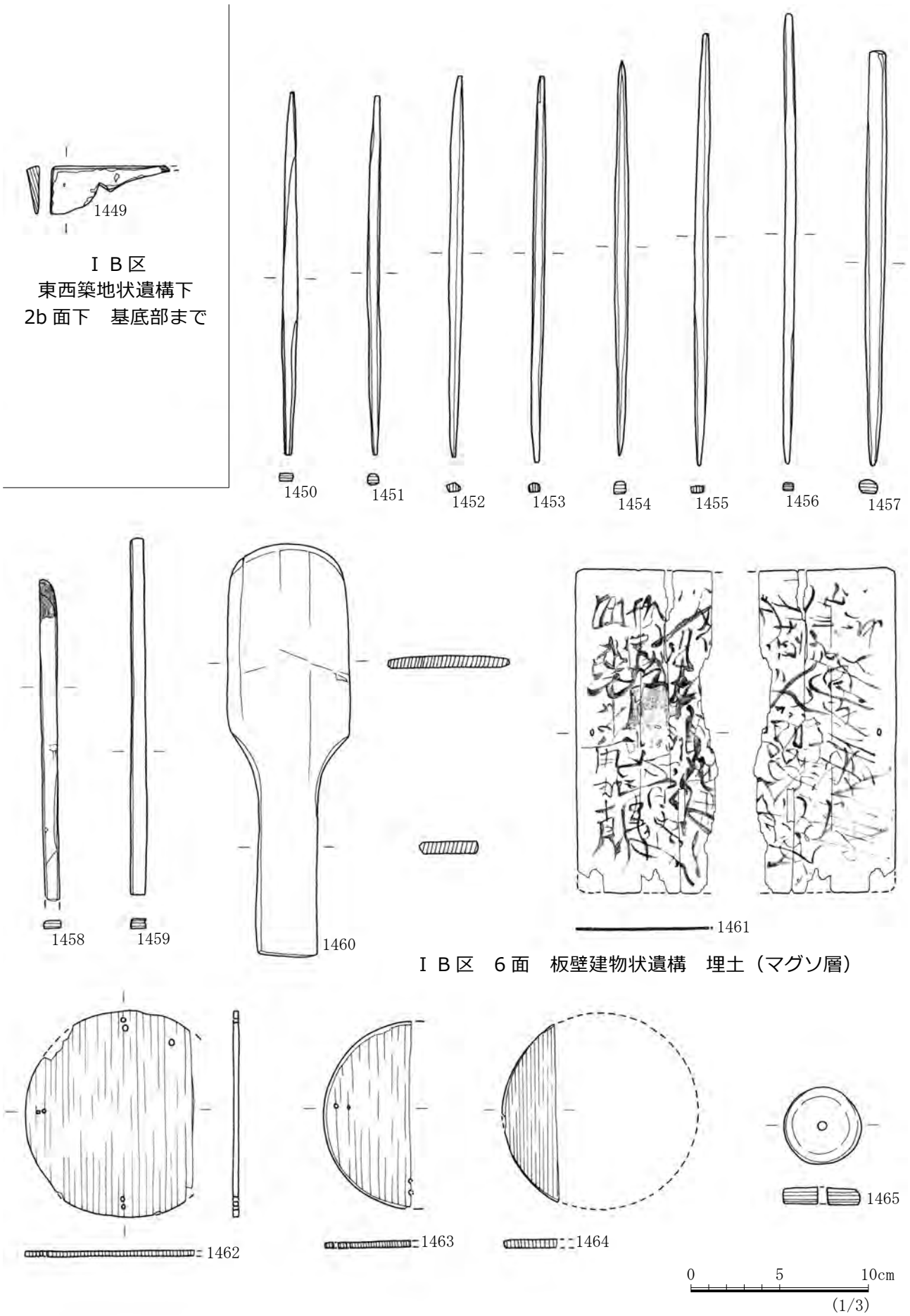

1449
Ⅰ B区
東西築地状遺構下
2b 面下　基底部まで
1450
1451
1452
1453
1454
1455
1456
1457
1458
1459
1460
1461
Ⅰ B区　6 面　板壁建物状遺構　埋土（マグソ層）
1462
1463
1464
1465
0
5
10cm
(1/3)

図 66　出土遺物（53）

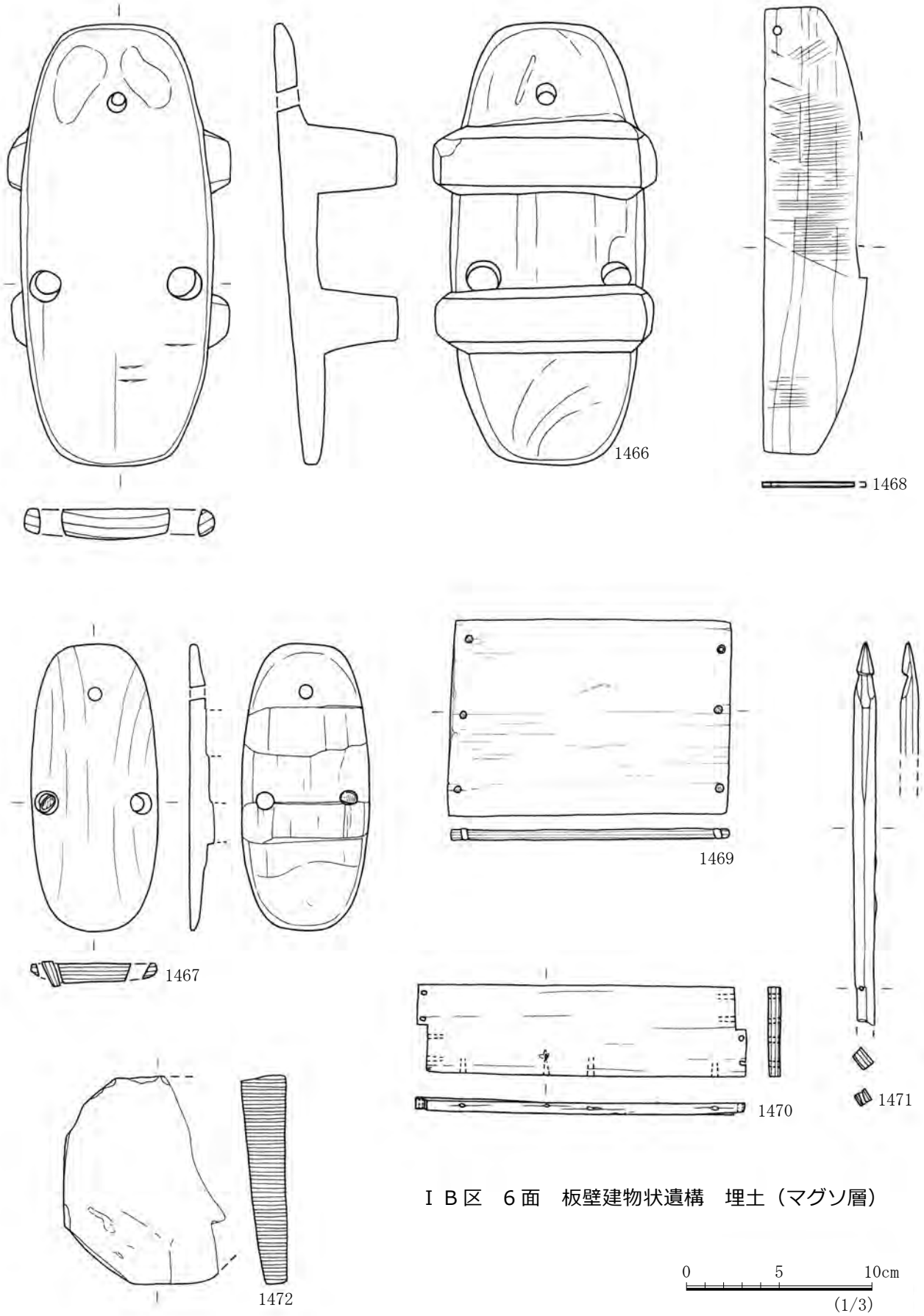

1466
1468
1467
1469
1470
1471
1472
ＩＢ区　６面　板壁建物状遺構　埋土（マグソ層）
0
5
10cm
(1/3)

図 67　出土遺物（54）

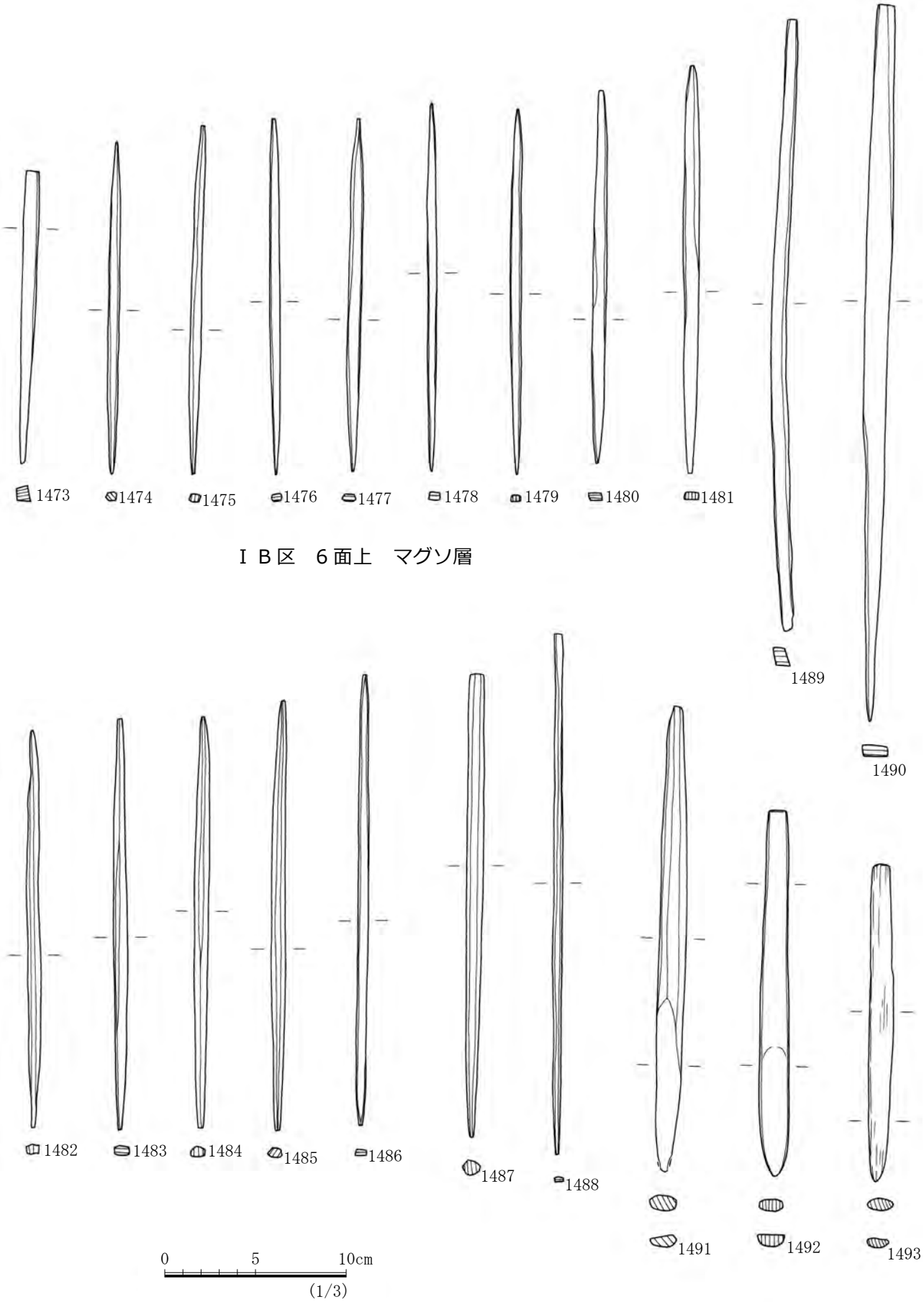
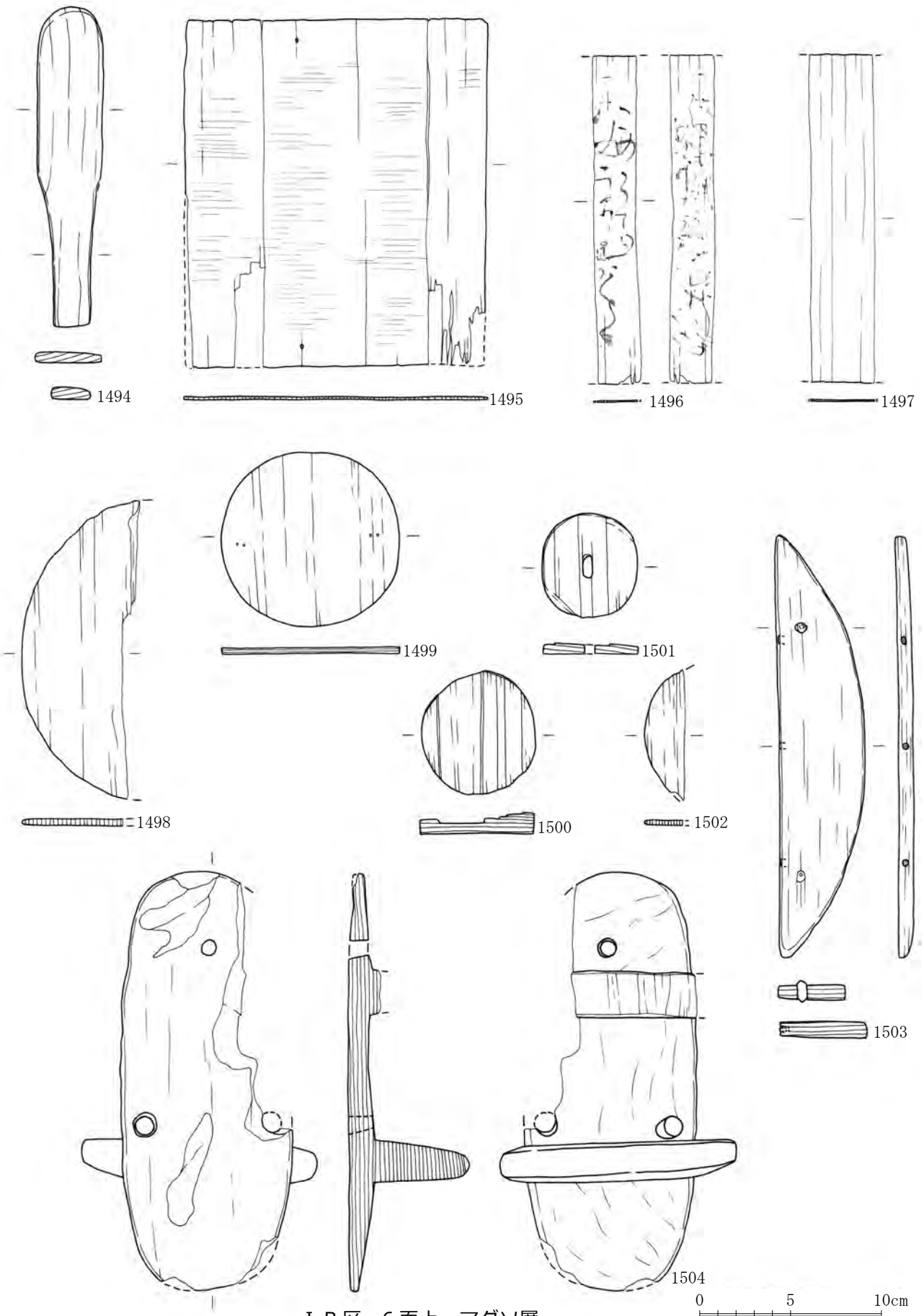
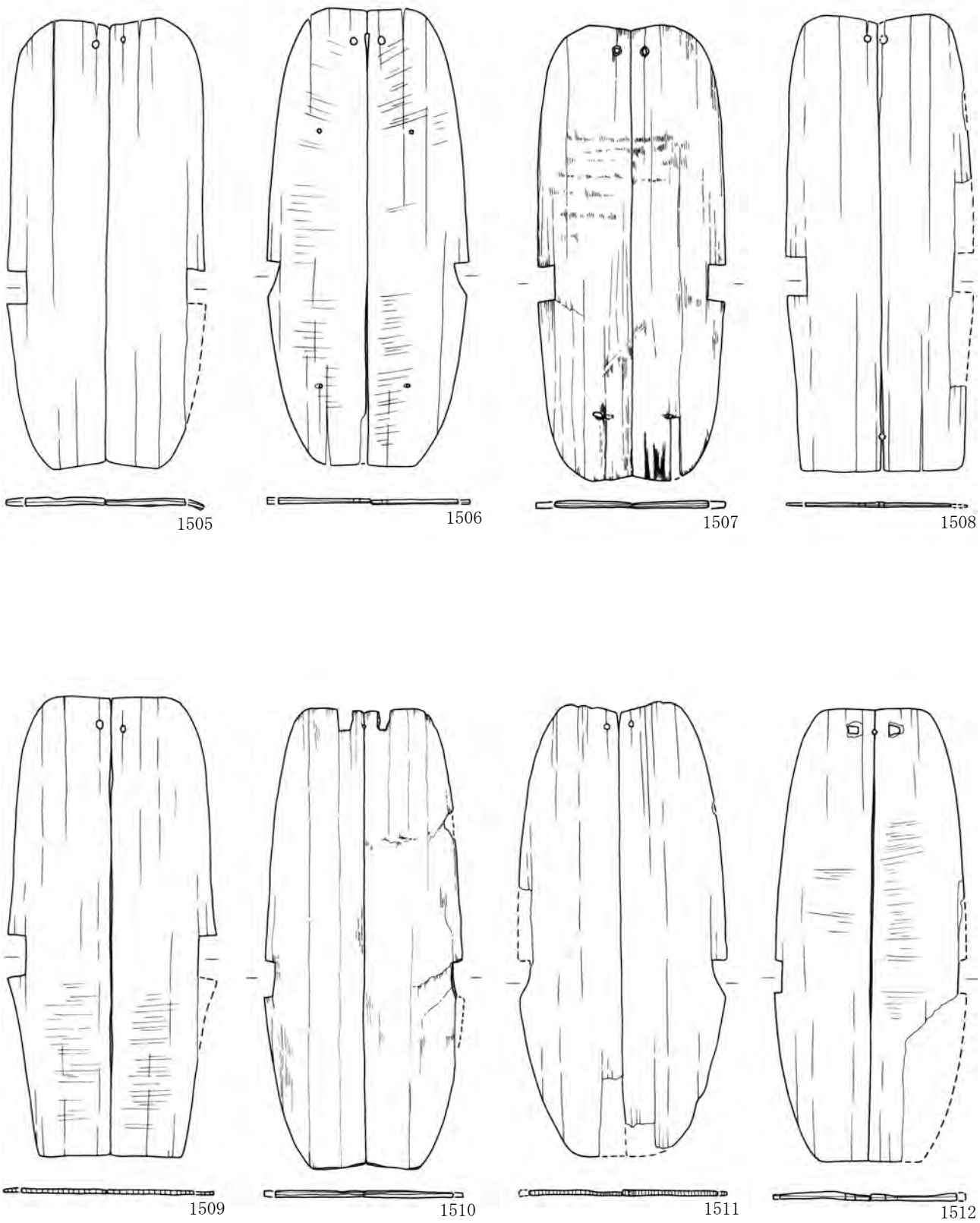

1473
1474
1475
1476
1477
1478
1479
1480
1481
ＩＢ区　６面上　マグソ層
1489
1490
1482
1483
1484
1485
1486
1487
1488
1491
1492
1493
0
5
10cm
(1/3)

図 68　出土遺物（55）



ＩＢ区　６面上　マグソ層

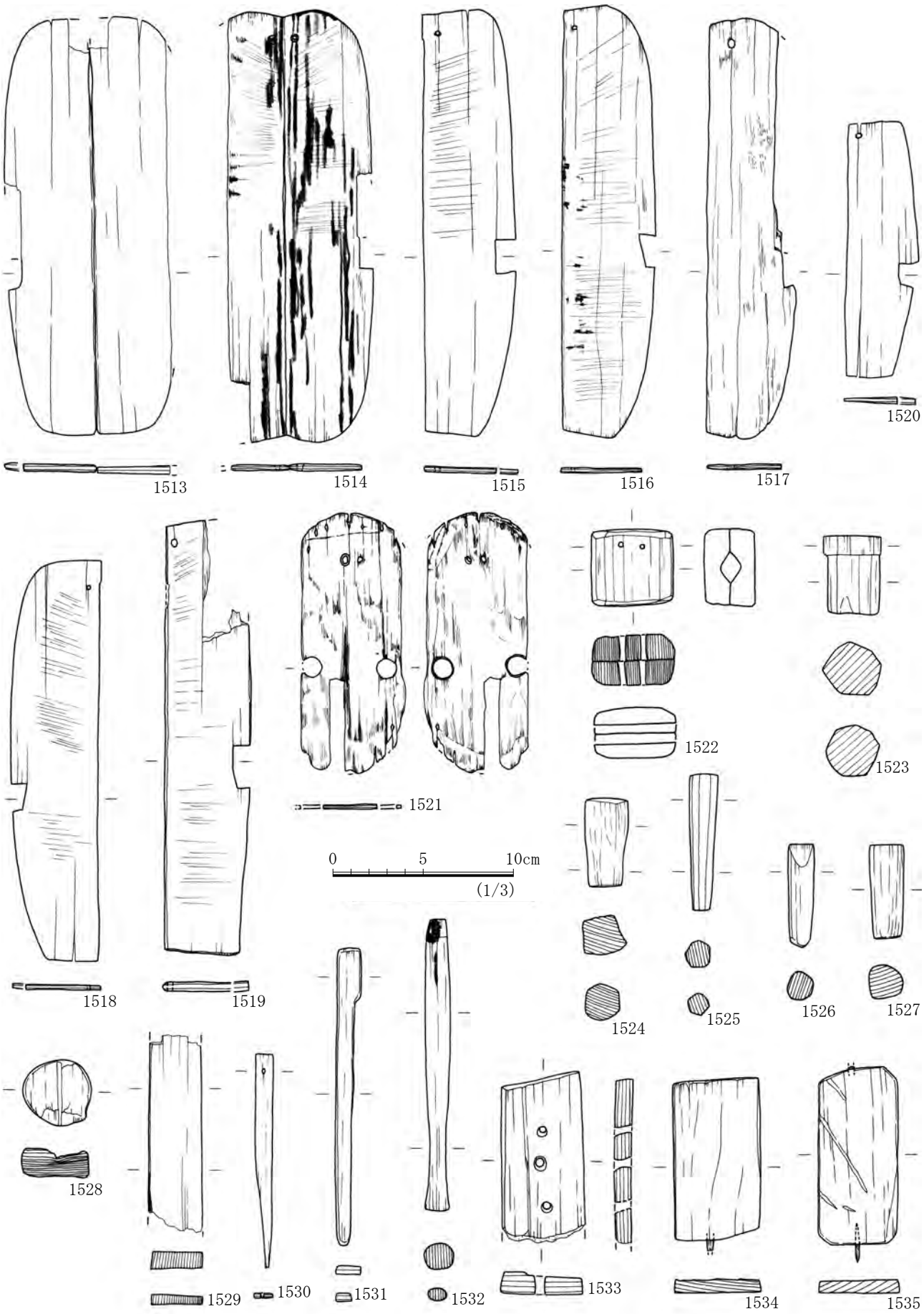
図 69　出土遺物（56）



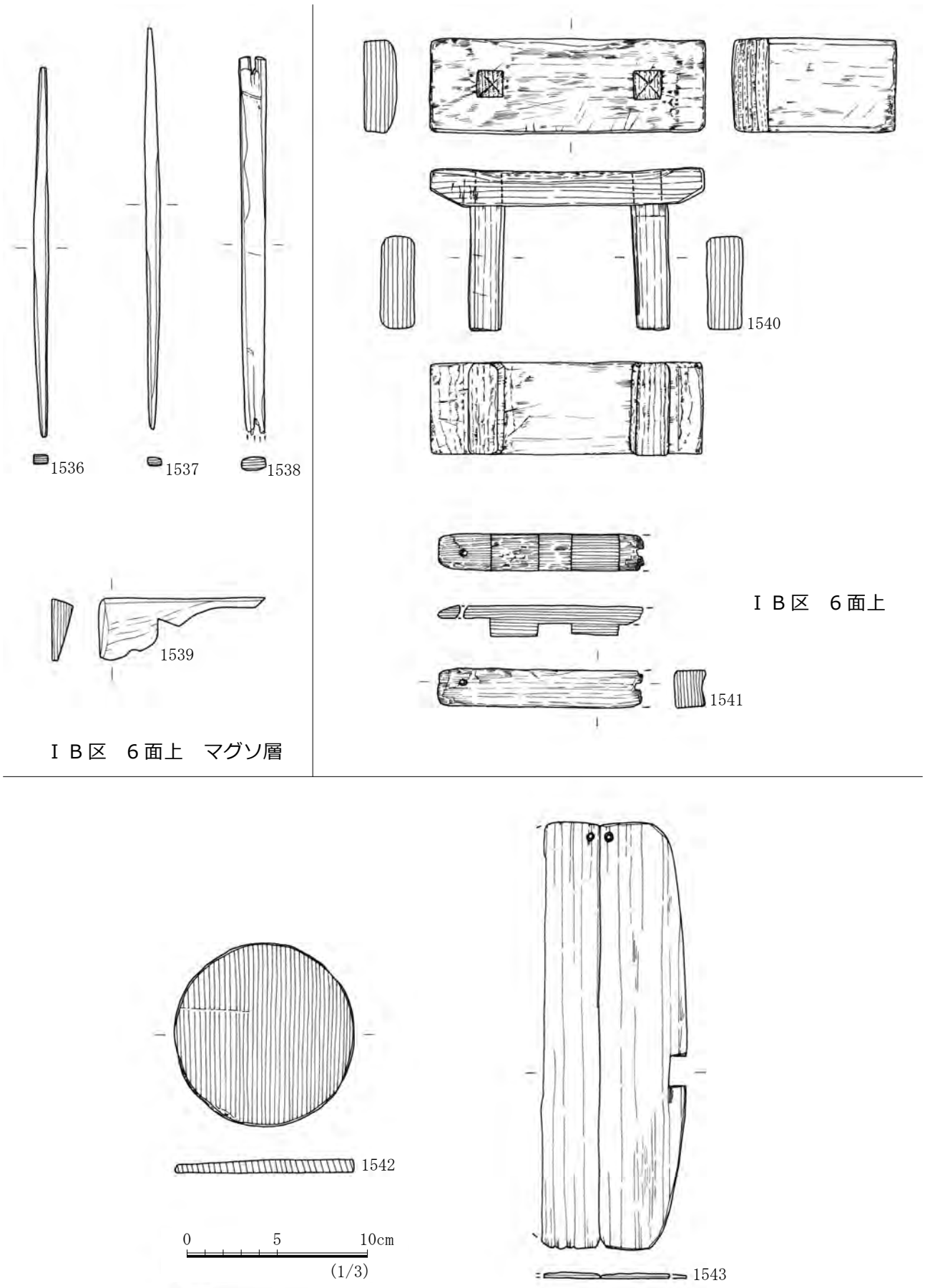
ＩＢ区　６面上　マグソ層

0　5　10cm
(1/3)

図 70　出土遺物（57）



ＩＢ区　６面上　マグソ層
図 71　出土遺物（58）

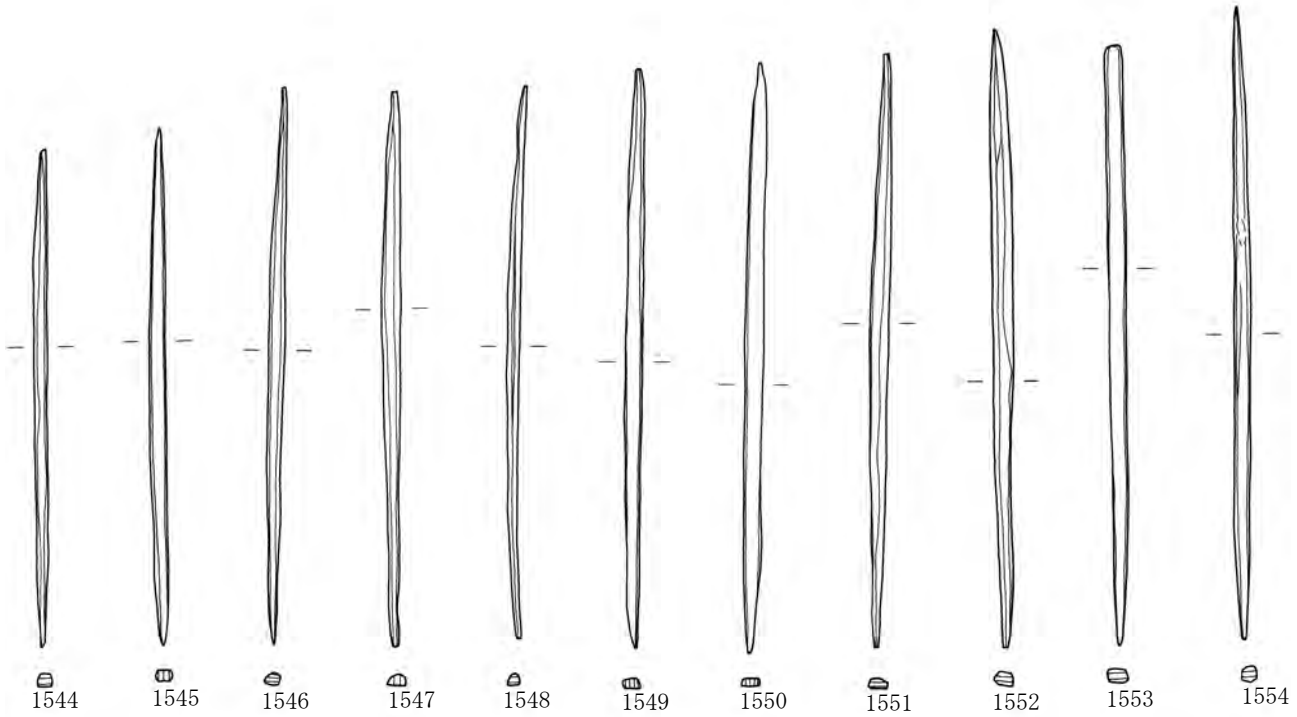


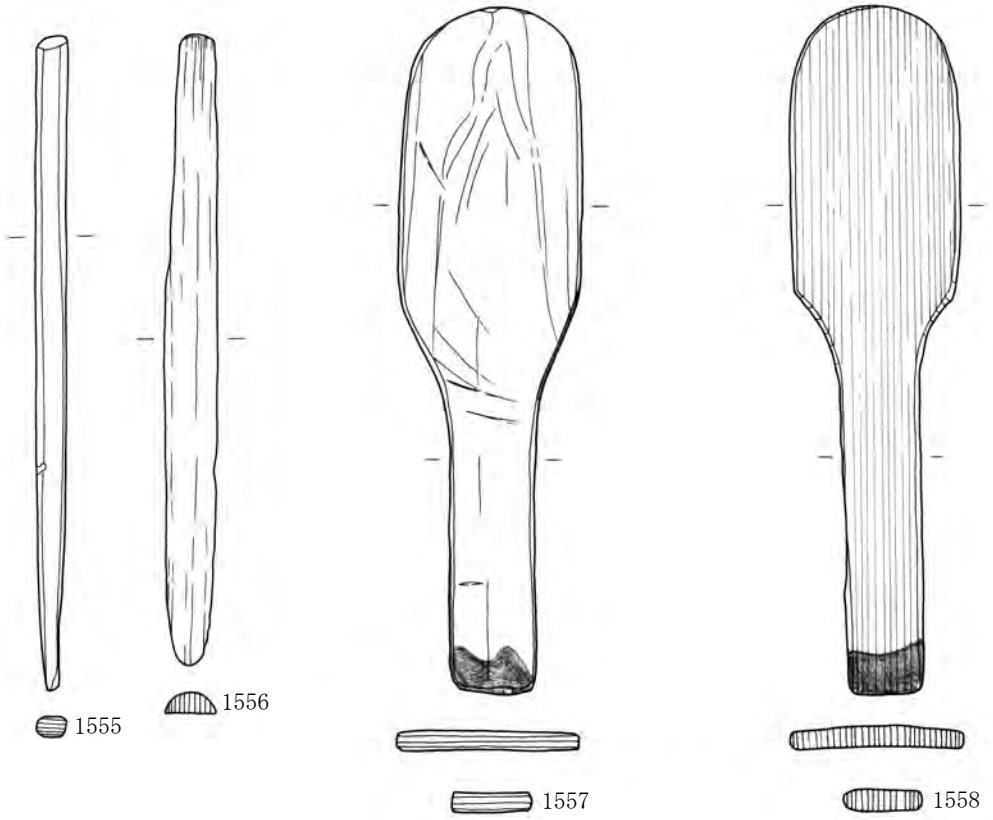
ＩＢ区　６面上　マグソ層

ＩＢ区　６面上

ＩＢ区　６面下～７面

図 72　出土遺物（59）





ＩＢ区　７面　溝１

0　5　10cm
(1/3)

図 73　出土遺物（60）

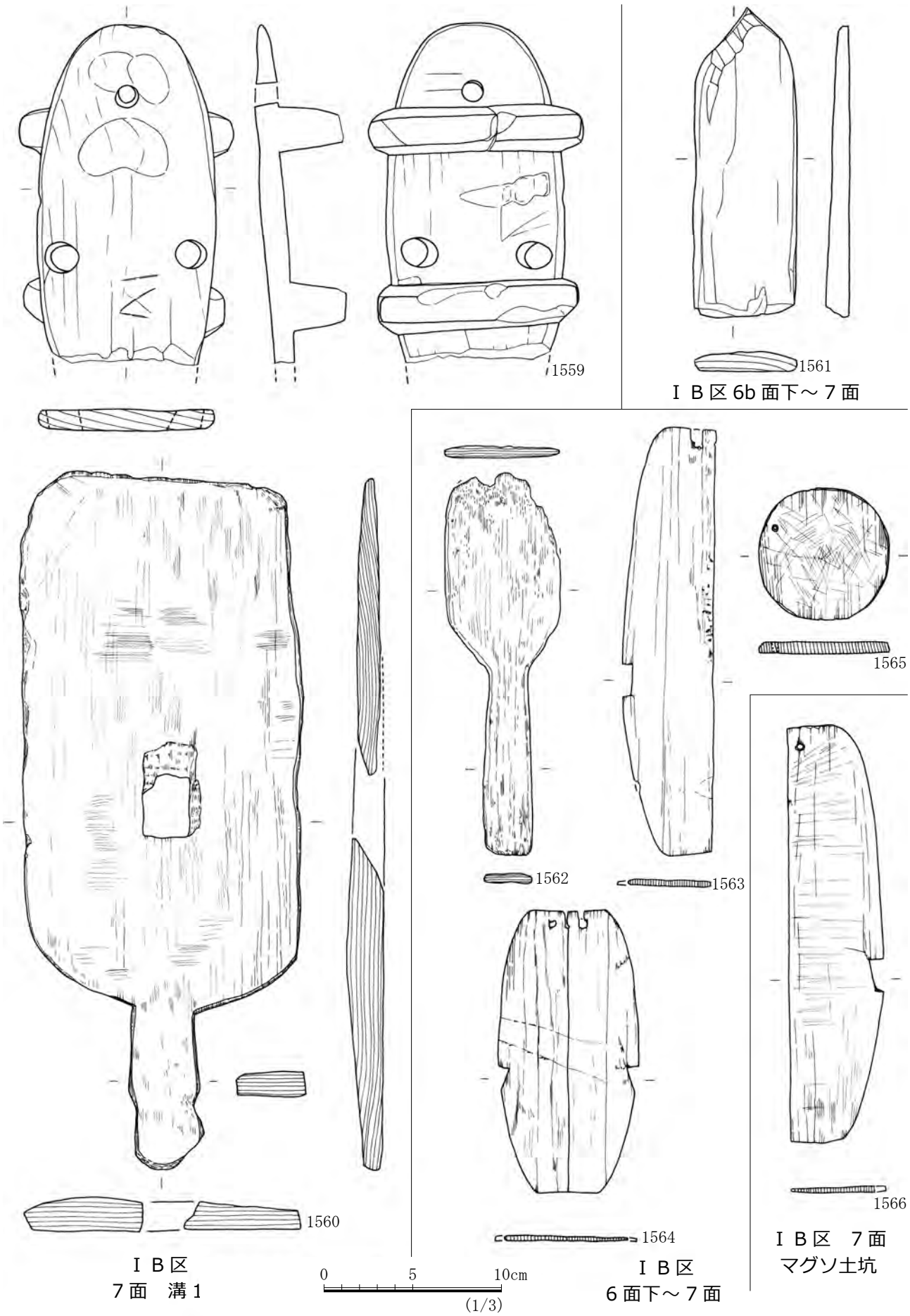

1559
1561
ＩＢ区 6b 面下～７面
1560
ＩＢ区
７面　溝１
1562
1563
1564
1565
1566
ＩＢ区
６面下～７面
ＩＢ区　７面
マグソ土坑
0
5
10cm
(1/3)

図 74　出土遺物（61）

表３　出土遺物カウント・計量表

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
調査区全域　表土～1面				
ロクロかわらけ	小			770
	大・中			3036
	小片			182
	A大・中A			277
	A′ 小			83
	C小			137
	C中			70
	C大・中			97
白かわらけ？	小片		1	5
搬入土器 ロクロかわらけ	大		1	55
龍泉窯系青磁	碗	ⅠB	1	18
		Ⅱ	1	90
		Ⅳか	1	4
瀬戸	平碗		1	37
	碗・皿		3	17
	折縁深皿or洗		1	29
	瓶類		1	19
常滑	片口鉢	Ⅰ	2	60
	片口鉢	Ⅱ	6	491
	小壺		2	83
	甕		22	1375
備前	擂鉢		1	176
瓦器	坏		1	3
瓦質土器	火鉢	Ⅲ	2	75
	火鉢		2	123
肥前系磁器	染付碗		1	2
石製品	中砥	上野	2	167
銅製品	銭		1	3
調査区全域　排土山				
ロクロかわらけ	小			88
	大・中			287
	小片			6
	C大・中			140
瀬戸	平碗		1	40
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	84
	甕		1	44
東濃型	山茶碗		1	3
瓦質土器	火鉢	ⅠA	1	87
銅製品	銭		1	3
ⅠA区　北西区画　1面上　遺物包含層				
ロクロかわらけ	小			5415
	大・中			18947
	小片			9103
	A′ 大			167
	C大・中			755
	転用円盤			9
白かわらけ？	小片		6	14
搬入土器	鍔付鍋		6	84
	鍋・釜		5	41
ⅠA区　北西区画　1面上遺物包含層				
白磁	皿	Ⅸ	2	10
			1	1
	碗		1	3
	碗・皿	Ⅸ	1	2
			1	2
青白磁	梅瓶		2	27
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	2	23
			1	5
	碗・皿		2	8
	坏	Ⅲ	1	5

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ⅠA区　北西区画　1面上遺物包含層				
瀬戸	入子		7	44
	平碗		5	49
	灰釉天目碗		1	12
	折縁深皿		4	77
	卸皿（中Ⅲまで）		6	238
	直縁大皿		1	13
	碗・皿		1	1
	すり鉢		1	5
	瓶子		1	47
	水注		1	15
	花瓶か		1	112
	瓶類		1	8
猿投？	壺か		1	7
鉄製品	釘		1	6
常滑	片口鉢	Ⅰ	3	127
		Ⅱ	10	604
	片口か		1	33
	広口壺（6a）		1	316
	甕（6aまで）		46	2141
備前	すり鉢		2	93
瀬戸美濃	染付碗		1	2
近世陶磁器	小片		5	12
瓦質土器	火鉢	ⅠB	1	28
		Ⅰ	4	212
		Ⅲ	12	367
		Ⅳ	1	32
			14	400
瓦	平瓦	女瓦F	1	77
瓦?	器種不明		1	15
石製品	碁石か		4	7
	硯	鞍馬か	1	142
	仕上げ砥	鳴滝	1	18
	中砥	天草	1	150
		伊予	1	20
		砥沢	1	54
	火打石	石英	3	38
	軽石		1	42
鉄製品	釘		1	8
銅製品	銭		4	12
木製品	箸		1	
	棒状		1	
ⅠA区　北西区画　1面　井戸1				
ロクロかわらけ	小			356
ロクロかわらけ	大・中			1854
ロクロかわらけ	小片			272
ロクロかわらけC	C小			26
ロクロかわらけC	C大・中			156
手づくねかわらけ	大			11
白かわらけ？	片		1	1
龍泉窯系青磁	碗	ⅡorⅢ	1	9
尾張型	山茶碗		1	14
常滑	片口鉢	Ⅰ	8	312
		Ⅱ	1	71
	甕		24	987
渥美	甕		1	138
瓦質土器	火鉢		4	127
自然遺物	種子		5	
石製品	硯	鳴滝	1	16
	仕上げ砥	鳴滝	1	3
銅製品	銭		1	2
木製品	漆器皿		1	
	漆器不明		1	
	箸		4	
	折敷		4	

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ＩA区　北西区画　1面　井戸1				
木製品	曲げ物底板か		1	
	円板		1	
	角棒状		7	
	棒状		7	
	板状		1	
	八角形板		1	
	端材		1	
	部材		2	
ＩA区　北西区画　1面　溝2				
ロクロかわらけ	小			3
ロクロかわらけ	大・中			88
ＩA区　北西区画　1面　溝3				
ロクロかわらけ	大・中			53
	小片			59
ＩA区　北西区画　1面　土坑1				
ロクロかわらけ	小			6
	大・中			115
	小片			67
龍泉窯系青磁	碗		1	2
瀬戸	折縁深皿か		2	19
	柄付片口		1	12
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	24
		Ⅱ	1	17
	甕		1	29
瓦質土器	火鉢		2	43
自然遺物	種子		1	
ＩA区　北西区画　1面　土坑3				
ロクロかわらけ	小片			6
ＩA区　北西区画　1面　ピット2				
ロクロかわらけ	小			16
	小片			7
常滑	甕		1	52
ＩA区　北西区画　1面　ピット3				
ロクロかわらけ	小			19
	大・中			63
	小片			66
ＩA区　北西区画　1面　ピット4				
ロクロかわらけ	小片			9
ＩA区　南北築地状遺構上　1面　土坑2				
ロクロかわらけ	小			4
	大・中			20
	小片			118
瀬戸	折縁深皿		1	5
	すり鉢（後Ⅳか）	B	2	187
常滑	片口鉢	Ⅱ	1	7
瓦質土器	不明		1	4
鉄製品	釘		1	1
ＩA区　北西区画　1面下～2面　整地層				
ロクロかわらけ	小			710
	大・中			5666
	小片			1994
	C小			85
ＩA区　北西区画　1面下～2面　整地層				
ロクロかわらけ	C中			52
	C大・中			592
搬入土器	鍋・釜		10	38
	不明		1	2
白磁	碗	Ⅸ	1	6
青白磁	梅瓶		1	3
龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	1	10
		Ⅳ？	1	12

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ＩA区　北西区画　1面下～2面				
瀬戸	入子		4	28
	卸皿		2	9
	折縁深皿（後Ⅱ頃）		1	107
	折縁深皿（中Ⅱ～Ⅲ）		1	4
	折縁深皿or洗		1	27
	柄付片口か		1	29
常滑	片口鉢	Ⅰ	5	230
	片口鉢	Ⅱ	3	203
	甕（5型式まで）		31	2269
	甕（8型式）		1	2
不明陶器			1	1
石製品	滑石スタンプ	鍋転用	1	35
	碁石		13	23
瓦質土器	火鉢	Ⅰ	2	89
		ⅠA	1	50
		Ⅲ	2	135
銅製品	銭		1	2
木製品	角棒状		1	
	棒状		1	
漆器	不明		2	
自然遺物	種子		3	
ＩA区　北西区画　2面　木組み1埋土				
ロクロかわらけ	小			49
	大・中			729
	小片			194
	C大・中			329
白かわらけ	小片		1	3
常滑	小壺		1	240
	甕		1	120
備前	すり鉢		1	75
瓦質土器	火鉢		1	75
石製品	中砥	上野	1	30
木製品	漆器椀か		1	
	箸		7	
	草履芯		1	
	筆置き？		1	
	部材		1	
ＩA区　北西区画　2面　木組み1北（裏込め？）				
ロクロかわらけ	極小			6
	大・中			59
東海産陶器？	不明		1	4
自然遺物	種子		1	
ＩA区　南北築地状遺構下　2面上				
ロクロかわらけ	C′大			176
ＩA区　南北築地状遺構下　2面上　炭層				
ロクロかわらけ	内折れ極小			9
	小			1969
	大・中			7221
	小片			2592
	C小			380
	C中			407
	C大・中			869
	C′小			45
	C′中			136
ＩA区　南北築地状遺構下　2面上　炭層				
白かわらけ	小片		2	6
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	1	8
瀬戸	入子		4	53
常滑	片口鉢	Ⅱ	10	932
	片口		1	58
	甕（5型式）	5型式	1	1184
	甕		8	494

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ＩA区　南北築地状遺構下　2面上　炭層				
常滑	転用研磨具	片口Ⅱ片	1	86
		甕片	1	123
瓦質土器	火鉢	ＩB	2	180
		Ⅲ	2	299
			4	152
石製品	硯石	鳴滝	1	42
	仕上げ砥	鳴滝	2	26
	磨り石		1	291
銅製品	銭		1	3
木製品	漆器皿		2	
	漆器椀		1	
	漆器不明		5	
	曲げ物底板		1	
	棒状		5	
	角棒状		2	
	板状		1	
自然遺物	種子		2	
	ハマグリ		1	6
	獣骨		2	5
ＩA区　南北築地状遺構下　2面　土坑5				
ロクロかわらけ	小			106
	大・中			438
	小片			46
ＩA区　南北築地状遺構下　2面　ピット5				
ロクロかわらけ	小			32
	大・中			40
	小片			13
ＩA区　南北築地状遺構下　2面　ピット6				
ロクロかわらけ	小片			11
	C小			104
ＩA区　北西区画　2面下～5面（最上層）				
ロクロかわらけ	小			540
	大・中			3944
	小片			812
	C大			162
搬入土器	鍋・釜		1	8
白磁	壺		1	10
青白磁	梅瓶		1	12
龍泉窯系青磁	坏	Ⅲ(大)	1	5
瀬戸	入子		2	7
	折縁深皿（中Ⅱ～Ⅲ）		1	258
常滑	片口鉢	Ⅰ	2	80
		Ⅱ	4	162
	壺		4	104
	甕		26	1803
	転用研磨具	甕片	1	52
渥美	甕		4	186
瓦質土器	火鉢	ＩB	1	63
		Ⅲ	3	244
			2	46
瓦器質	黒縁坏		1	1
鉄製品	鍋弦		1	15
銅製品	銭		2	5
木製品	漆器椀		1	
	箸		19	
	折敷		4	
ＩA区　北西区画　2面下～5面（最上層）				
木製品	草履芯		3	
	曲げ物底板か		4	
	箱底板		1	
	円板		1	
	軸端		1	
	形代		1	

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ＩA区　北西区画　2面下～5面（最上層）				
木製品	杼か		4	
	角棒状		3	
	棒状		13	
	端材		1	
自然遺物	栗核		1	
	種子		14	
ＩA区　北西区画　2面下～5面（上層）				
ロクロかわらけ	小			473
	小片			321
	大・中			2056
	C小			48
	C中			101
	C大・中			652
手づくねかわらけ	小			16
	大			6
龍泉窯系青磁	坏（大）	Ⅲ	1	10
瀬戸	入子		1	8
尾張型	山茶碗		1	6
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	118
		Ⅱ	2	126
	甕（6aまで）		24	1175
渥美	甕		2	344
瓦質土器	火鉢	Ⅲ	1	55
			2	67
石製品	中砥	伊予	1	44
骨製品	笄		1	6
銅製品	銭		1	3
木製品	漆器椀		1	
	漆器不明		1	
	膳脚		1	
	箸		35	
	折敷		8	
	栓		1	
	草履芯		1	
	曲げ物 底板		3	
	角棒状		4	
	棒状		15	
	板状		6	
	用途不明		1	
	部材		1	
	端材		1	
自然遺物	種子		12	
ＩA区　北西区画　2面下～5面（下層）				
ロクロかわらけ	小			221
	大・中			924
	小片			89
	C中			47
	C大・中			95
	C′小			44
	C′中			25
瀬戸	入子		4	76
常滑	片口鉢	Ⅰ	2	58
	広口壺		1	1068
	甕（6b型式まで）		17	1020
瓦質土器	火鉢	ＩA	1	93
		ＩB	2	195
石製品	仕上げ砥	出羽	1	42
		鳴滝	1	10
鉄製品	釘		1	4
木製品	漆器椀		1	
	漆器合子身		2	
	漆器不明		1	
	漆塗り雲形		1	

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ＩA区　北西区画　2面下～5面（下層）				
木製品	箸		11	
	折敷		2	
	草履芯		7	
	調度具か		1	
	曲げ物底板か		2	
	角棒状		2	
	棒状		1	
	板状		6	
ＩA区　北西区画　2面下～5面（下層マグソ層）				
ロクロかわらけ	小			84
	大・中			210
	小片			29
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	28
瓦質土器	火鉢	Ⅲ	1	24
石製品	中砥	天草	1	44
木製品	円板		1	
	栓か		1	
	串状		1	
	板状		1	
ＩA区　南北築地状遺構下　2面下～5面				
ロクロかわらけ	極小			4
	小			978
	大・中			3265
	小片			703
	C小			164
	C中			54
	C大・中			1494
	C′小			40
白かわらけ	手づくね小片		2	6
瀬戸	卸皿		1	130
常滑	甕		12	488
	転用研磨具	甕片	3	154
瓦	丸瓦（くすべ）		1	43
木製品	漆器皿		1	
	漆塗り膳脚		1	
	箸		11	
	角棒状		5	
	棒状		1	
	板状		2	
自然遺物	種子		1	
ＩA区　2面下　サブトレンチ				
ロクロかわらけ	小			50
	大・中			1035
	小片			185
手づくねかわらけ	小片			5
青白磁	瓜形水注か		1	2
同安窯系青磁	碗か		1	10
瓦質土器	火鉢	ⅠB	6	469
		ⅡA	6	660
常滑	片口鉢	Ⅱ	2	165
	甕（6型式まで）		15	1053
瓦質土器	火鉢		3	29
鉄製品	不明		1	40
骨製品	笄		1	7
木製品	箸		28	
	折敷		1	
	箱か		1	
	草履芯		2	
	栓		1	
	串状		1	
	板状		1	
	角材		1	

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ＩA区　5面　面上				
木製品	漆器椀		1	
ＩA区　北西区画　5面　囲炉裏状遺構1				
ロクロかわらけ	大・中			213
銅製品	銭		1	4
木製品	箸		1	
	横櫛		2	
	下駄		1	
ＩA区　北西区画　5面　ピット1				
ロクロかわらけ	大			9
木製品	串状		1	
ＩA区　北西区画　5面　ピット2				
ロクロかわらけ	大・中			12
自然遺物	種子		1	
ＩA区　5面下～6a面				
ロクロかわらけ	小			405
	大・中			3098
	特大			98
	小片			766
	転用円盤		1	8
	C小			101
	C大・中			248
搬入土器	小片		3	13
白磁	碗	Ⅸ	1	5
同安窯系青磁	碗	Ⅰ-1b	1	5
瀬戸	入子		1	10
常滑	片口鉢	Ⅰ	2	30
	甕		13	937
瓦質土器	火鉢	ⅠC	1	753
		ⅡA	4	365
銅製品	銭		1	4
木製品	漆器皿		2	
	箸		63	
	折敷		2	
	下駄		1	
	草履芯		9	
	へら状		3	
	串状		15	
	円板		1	
	角棒状		5	
	用途不明（板状）		4	
	用途不明（角材）		1	
	部材		4	
漆喰			1	58
自然遺物	種子		5	
	竹皮		1	
ＩA区　5面下～6a面　マグソ層				
ロクロかわらけ	小			590
	大・中			1996
	転用円盤			24
	小片			154
	C小			36
	C中			101
	C大・中			291
	C′小			37
手づくねかわらけ	小			63
白かわらけ	小片		1	1
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ	1	7
常滑	片口鉢	Ⅰ～Ⅱ	1	764
		Ⅱ	3	111
	甕		7	591
瓦質土器	火鉢	ⅡA	1	159
石製品	砥石		1	107

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ＩA区　5面下～6a面　マグソ層				
木製品	漆器皿		1	
	漆器碗		5	
	漆塗り横櫛		1	
	箸		64	
	折敷		4	
	草履芯		6	
	栓		2	
	獅子頭（形代か）		1	
	刀形		1	
	円板		1	
	串状		21	
	へら状		1	
	角棒状		5	
	部材（板状）		6	
	用途不明（棒状）		6	
	角材		1	
自然遺物	貝		1	7
ＩA区　5面下　サブトレンチ				
ロクロかわらけ	小			89
	大・中			268
	C小			21
白磁	碗	Ⅸ	1	8
常滑	甕		3	100
瓦質土器	火鉢		1	20
鉄製品	刀子		2	
	水注か		1	51
骨製品	笄		1	
木製品	漆器椀		2	
	箸		16	
	草履芯		2	
	串状		1	
	板状		1	
	杭		2	
自然遺物	種子		9	
ＩA区　6a面　三和土面上				
ロクロかわらけ	小			12
	大・中			66
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	41
木製品	箸		2	
	角棒状		2	
	部材（板状）		1	
自然遺物	種子		2	
ＩA区　6a面下～6b面　貼り増し整地層				
ロクロかわらけ	小			111
	大・中			592
	小片			239
	C大・中			22
白かわらけ	小片		2	4
龍泉窯系青磁	坏	Ⅲ（大）	1	20
常滑	片口鉢	Ⅱ	2	101
	甕		8	94
木製品	漆器皿		1	
	漆器椀		1	
	漆器合子蓋		1	
	漆器小片		2	
	箸		7	
	形代か		1	
	角棒状		2	
	用途不明（板状）		2	
	用途不明（棒状）		5	
	角材		1	
自然遺物	種子		30	

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ＩA区　6b面下～7面				
ロクロかわらけ	小			238
	大・中			1759
	小片			300
	C小			19
	C大・中			231
	C′小			46
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ	1	5
		Ⅲ	4	31
	坏	Ⅲ-4	1	16
白かわらけ	手づくね		1	4
白かわらけ？	小片		2	5
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	62
		Ⅱ	3	139
	甕		17	1040
	転用研磨具	広口壺片	1	208
石製品	滑石鍋		1	617
	仕上げ砥	鳴滝	1	10
木製品	漆器皿		3	
	漆器椀		3	
	漆器小片		11	
	箸		24	
	草履芯		1	
	用途不明（棒状）		1	
自然遺物	種子		33	
	樹皮か		1	
ＩA区　6面下～7面				
ロクロかわらけ	大・中			48
木製品	箸		2	
	草履芯		1	
	曲物		1	
	串状		1	
ＩA区　6b面下　サブトレンチ				
ロクロかわらけ	極小			9
	小			88
	大・中			474
	小片			23
	C大・中			61
白かわらけ	小片		1	2
龍泉窯系青磁	坏（大）	Ⅲ-4	1	19
常滑	片口鉢	Ⅱ	1	169
	甕		10	465
石製品	滑石片	西彼杵	1	9
木製品	漆器皿		1	
	漆器小片		2	
	漆器椀		1	
	漆塗り横櫛		1	
	箸		14	
	杼か		1	
	漆箆か		1	
	形代か		2	
	角棒状		3	
	串状		1	
自然遺物	種子		16	
ＩA区　7面　面上				
ロクロかわらけ	大・中			259
木製品	曲げ物		1	
	下駄		1	
	板状		1	
ＩA区　7面　土坑1				
ロクロかわらけ	小			100
	大・中			365
	小片			51
	C大・中			33

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ＩA区　7面　土坑1				
常滑	片口鉢（6a型式まで）	Ⅱ	2	82
	甕		10	626
骨製品	笄		1	5
壁土？			1	38
木製品	漆器皿		2	
	箸		2	
	下駄		1	
	草履芯		1	
	杼		1	
自然遺物	種子		1	
ＩA区　7面下～8面				
ロクロかわらけ	小			92
	大・中		1	237
	小片		1	77
	C大・中		1	130
白かわらけ	手づくね		2	20
	小片		2	2
白磁	碗	Ⅸ	1	6
常滑	片口鉢	Ⅰ	4	247
	甕		8	153
木製品	箸		13	
	曲げ物底板		1	
	草履芯		1	
	鋤形代		2	
	へら状		1	
ＩA区　7面下～8面				
木製品	串状		1	
	角棒状		2	
	棒状		2	
	杭		5	
	部材		1	
自然遺物	種子		5	
ＩA区　7面下　サブトレンチ				
ロクロかわらけ	小			26
	大・中			659
	小片			116
	C大・中			23
白かわらけ	手づくね	伊豆か	1	7
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	1	19
瀬戸	入子		1	19
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	64
		Ⅱ	2	68
	小壺		1	25
	甕		8	302
木製品	漆器椀		1	
	漆塗り横櫛		1	
	箸		6	
木製品	草履芯		1	
	円板		1	
	角棒状		2	
	棒状		3	
自然遺物	種子		6	
ＩA区　8面下　サブトレンチ				
ロクロかわらけ	小			4
	大・中			12
常滑	甕		12	658
石製品	滑石鍋	西彼杵	1	75
木製品	箸		1	
ＩA区　9面下　サブトレンチ				
ロクロかわらけ	小		1	10
	大・中		1	285
	小片		1	29
搬入土器？	小皿		1	3

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ＩA区　9面下　サブトレンチ				
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ	1	22
		Ⅲ	1	7
常滑	片口鉢	Ⅱ	1	56
	壺		1	66
	甕		20	1639
渥美	甕		1	229
木製品	漆器皿		2	
	箸		3	
	すり粉木か		1	
	下駄		1	
	角棒状		3	
	棒状		1	
	角棒状		3	
	用途不明（琴柱形）		1	
	角材		1	
	部材		1	
自然遺物	種子		4	
ＩA区　10面下　サブトレンチ				
ロクロかわらけ	小			43
	大・中			98
	小片			51
	C大・中			14
手づくねかわらけ	大			85
常滑	片口鉢		2	19
	甕	Ⅰ	8	409
ＩA区　10面下　サブトレンチ				
木製品	箸		2	
	形代か		1	
自然遺物	種子		1	
ＩA区　11面下～12面（ネチャ）				
ロクロかわらけ	小片			3
鉄製品	釘		1	3

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ＩB・Ⅱ区　確認調査（試掘）時				
ロクロかわらけ	小			402
	大・中			671
	C小			26
	C大・中			253
	C′ 中			65
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	1	12
常滑	片口鉢	Ⅱ	1	86
	小壺		1	33
	甕		4	446
瓦質土器	火鉢		1	36
石製品	仕上げ砥	備水	1	18
木製品	漆器椀		1	—
ＩB・Ⅱ区　確認調査坑　埋め土				
ロクロかわらけ	大・中			115
ＩB・Ⅱ区　現代ゴミ穴				
ロクロかわらけ	小			5
	大・中			106
	小片			26
青白磁	梅瓶		1	2
常滑	片口鉢	Ⅱ	1	15
ＩB・Ⅱ区　1面上　表土混じり耕作痕				
ロクロかわらけ	小			86
	大・中			459
	小片			232
	C中			72
瀬戸	瓶類		1	24
常滑	甕（7型式まで）		3	122
石製品	硯	鳴滝	1	45
銅製品	銭		1	3
ＩB・Ⅱ区　1面　土坑1				
ロクロかわらけ	大・中			31
	小片			28
	C大・中			6
常滑	甕		1	18
ＩB・Ⅱ区　1面　土坑2				
ロクロかわらけ	小			7
	大・中			385
	小片			152
	C小			67
白磁	皿	Ⅸ	1	2
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	1	3
	酒会壺		1	56
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	39
ＩB・Ⅱ区　1面　土坑3				
ロクロかわらけ	小			44
	大・中			110
	小片			28
	C小			9
	C中			27
銅製品	銭		1	3
ＩB・Ⅱ区　1面　ピット1				
ロクロかわらけ	小片			4
ＩB・Ⅱ区　1面　ピット2				
ロクロかわらけ	大・中			19
ロクロかわらけ	小片			31
ＩB・Ⅱ区　1面　ピット3				
ロクロかわらけ	小片		1	9
ＩB・Ⅱ区　1面　ピット4				
ロクロかわらけ	小			4
石製品	中砥	天草	2	457
ＩB・Ⅱ区　1面　ピット5				
ロクロかわらけ	小片			10

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ＩB・Ⅱ区　2面上　精査時				
ロクロかわらけ	小			31
	大・中			176
	小片			72
	C大・中			58
瀬戸	碗・皿		1	2
	小壺か		1	13
瓦質土器	火鉢	Ⅲ	1	11
ＩB・Ⅱ区　全体　2面上　粘質土層				
ロクロかわらけ	小			118
	大・中			479
	小片			110
搬入土器	鍔付鍋		1	55
瀬戸	瓶類		1	11
常滑	片口鉢	Ⅱ	1	45
	甕（6a型式まで）		4	330
ＩB・Ⅱ区　北東区画　2面　かわらけ集積				
ロクロかわらけ	極小			14
	小			9784
	中			233
	大・中			23659
	小片			3629
	C小			570
	C中			2056
	C大・中			4956
	C小片			48
	C′ 小			1831
	C′ 中			471
	C′ 大・中			2235
	転用円盤		1	11
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲか	1	1
瀬戸	卸皿（前Ⅳ～中Ⅱ）		1	30
	卸皿		1	7
	直縁大皿か		1	5
	花瓶		2	31
尾張型	山茶碗		1	6
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	96
		Ⅱ	19	2083
	甕		12	491
	転用研磨具	甕片	1	99
瓦質土器	火鉢	ⅠA	2	102
		ⅠB	6	549
			5	425
	風炉か		1	99
石製品	仕上げ砥	鳴滝	2	106
	碁石		1	2
石材	石英核		1	41
銅製品	銭		13	38
木製品	棒状		1	
ＩB・Ⅱ区　南東区画　2面　かわらけ集積				
ロクロかわらけ	内折れ極小			2
	小			13077
	中			1652
	大・中			41459
	大（取瓶転用）		1	45
	小片			8874
	C小			1352
	C中			3477
	C大・中			7349
	C′ 小			457
	C′ 中			1036
	C′ 大・中			3579
白かわらけ？			9	29
搬入かわらけ？	皿か		1	14

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ＩB・Ⅱ区　南東区画　2面　かわらけ集積				
搬入土器	南伊勢系鍋		2	19
搬入土器	鍔付鍋		1	43
搬入土器	鍋・釜		7	69
白磁	皿		1	1
青白磁	梅瓶		1	6
龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	2	31
		Ⅱ	1	6
		Ⅲ	2	12
		Ⅳか	1	5
			1	2
	碗・皿		1	2
	坏	Ⅲ（大）	1	11
舶載施釉陶器	泉州窯系緑釉盤		1	26
瀬戸	入子		12	141
	卸皿（前Ⅲか）		1	5
	卸皿（前Ⅳ～中Ⅰ）		3	53
	碗・皿		2	8
	広口壺（中Ⅰ～Ⅲ）		1	85
常滑	片口鉢	Ⅰ	3	119
		Ⅱ	28	3017
	壺		2	34
	甕（7型式まで）		61	4671
瓦質土器	火鉢	ＩA	16	686
		ＩB	2	198
		Ⅰ	4	782
		Ⅲ	10	9246
			3	130
	火鉢（内面押印）	ＩB	2	292
瓦器質	黒縁坏か		1	22
瓦	平瓦		1	224
石製品	硯	高島硯	1	52
	仕上げ砥	鳴滝	3	7
			1	16
			1	5
		産地不明	1	29
	中砥	天草	1	12
			1	117
	滑石鍋	西彼杵	2	281
			1	40
	滑石鍋転用品		2	684
	碁石		3	6
	火打石	石英	1	11
鉄製品	釘		2	14
銅製品	銭		22	78
土製品	円盤		1	14
木製品	漆器皿		1	
	板状		1	
自然遺物	種子		7	
ＩB・Ⅱ区　南東区画　2面　ピット1				
ロクロかわらけ	小			17
	大・中			25
	小片			16
白かわらけ	手づくね大		1	6
常滑	甕		1	29
ＩB・Ⅱ区　南北築地状遺構上　2面　土坑1（炭充填土坑）				
ロクロかわらけ	小			268
	大・中			1173
	小片			579
	C小			106
	C中			127
	C大・中			317
ＩB・Ⅱ区　南北築地状遺構上　2面　土坑1（炭充填土坑）				
常滑	片口鉢	Ⅱ	7	600
	小壺		3	29

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ＩB・Ⅱ区　南北築地状遺構上　2面　土坑1（炭充填土坑）				
常滑	甕		1	48
瓦質土器	火鉢	ＩB	1	276
			1	38
銅製品	銭		1	3
ＩB区　2面　南北築地状遺構　築成土か				
銅製品	銭		5	30
ＩB・Ⅱ区　2面　東西築地状遺構　築成土				
ロクロかわらけ	小			1207
	大・中			8898
	小片			2148
	C中			16
	C大・中			745
瀬戸	平碗		1	6
	卸皿（前Ⅲ～Ⅳ）		1	20
	折縁深皿or洗か		1	13
尾張型	山茶碗		1	7
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	12
		Ⅱ	4	801
	鳶口壺		2	125
	甕（6a型式まで）		25	1785
東播系須恵器？	鉢		1	250
瓦質土器	火鉢		3	241
瓦	丸瓦（くすべ）		1	163
石製品	仕上げ砥	鳴滝	1	60
	中砥	天草	2	51
鉄製品	釘		5	6
	釘隠し		1	1
銅製品	銭		2	6
木製品	漆器皿		3	
	漆器小片		2	
	漆塗り雲形か		1	
	箸		32	
	草履芯		1	
	栓		1	
	ヘラ状		1	
	棒状		4	
	角棒状		5	
	板状		2	
	用途不明		1	
	部材		1	
自然遺物	種子		4	
ＩB・Ⅱ区　北東区画　2b面　かわらけ集積				
ロクロかわらけ	小			4284
	中			96
	大・中			16326
	小片			1427
	C小			170
	C中			893
	C大・中			1604
	C′小			116
	C′中			58
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ	1	103
		Ⅲ	1	13
	坏	Ⅲ（大）	1	17
瀬戸	入子		1	27
	四耳壺		1	155
常滑	片口鉢	Ⅱ	4	2665
	甕		3	119
瓦質土器	火鉢		4	92
鉄製品	碗か		1	16
銅製品	銭		7	19
木製品	漆器椀		2	
	箸		26	
	下駄		1	

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ＩB・Ⅱ区　北東区画　2b面　かわらけ集積				
木製品	角棒状		2	
	棒状		2	
	板状		3	
	部材		1	
	端材		1	
自然遺物	種子		3	
ＩB・Ⅱ区　南東区画　2b面　かわらけ集積				
ロクロかわらけ	小			3944
	中			220
	大・中			14961
	小片			1781
	C小			436
	C中			596
	C大・中			1723
白かわらけ	小片		1	2
白磁	皿	Ⅸ	1	4
瀬戸	入子		1	3
尾張型	山茶碗		3	97
常滑	片口鉢	Ⅰ	5	150
		Ⅱ	1	82
	甕		22	790
	転用研磨具		1	27
珠洲か	小壺		1	11
瓦質土器	火鉢	ⅠA	1	92
		ⅠB	2	398
		Ⅲ	2	84
瓦	熨斗瓦	平瓦片	1	263
石製品	粗砥	天草	1	1155
	中砥		1	23
	仕上げ砥	鳴滝	1	31
		奥殿	1	71
銅製品	銭		5	13
木製品	漆器皿		2	
木製品	漆器不明		3	
	箸		94	
	板杓子		1	
	曲げ物底板か		1	
	栓		1	
	串状		4	
	部材		5	
自然遺物	種子		2	
ＩB・Ⅱ区　南東区画　崩落土（2b面上の粘質土層が主体か）				
ロクロかわらけ	小			1446
	中			97
	大・中			2377
	小片			116
	C小			261
	C中			767
	C大・中			1473
	C′小			49
瀬戸	瓶類		1	37
常滑	片口鉢	Ⅱ	3	352
	甕（6a型式まで）		11	682
瓦質土器	火鉢	Ⅲ	1	92
			2	84
瓦器質	黒縁坏		1	4
銅製品	銭		1	4
木製品	漆器皿		2	
	漆器椀		1	
	漆器不明		3	
	箸		3	
	ヘラ状		1	
	棒状		2	
	板状		6	

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ＩB・Ⅱ区　南東区画　崩落土（2b面上の粘質土層が主体か）				
木製品	用途不明		1	
自然遺物	種子		1	
ＩB・Ⅱ区　北東区画　2b面下～5面（最上層）				
ロクロかわらけ	小			1019
	大・中			2497
	小片			147
	C小			62
	C中			293
	C大・中			1831
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	1	8
瀬戸	入子		1	15
常滑	片口鉢	Ⅱ	2	42
	甕		1	182
瓦質土器	火鉢	ⅠA	1	57
銅製品	銭		3	9
木製品	漆器皿		3	
	箸		32	
	草履芯		1	
	円板		1	
	角棒状		2	
	棒状		2	
ＩB・Ⅱ区　北東区画下　2b面下～5面（上層マグソ層）				
ロクロかわらけ	小			1688
	中			88
	大・中			6877
	小片			863
	C中			124
白かわらけ？			2	6
白土器	高坏		1	38
龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	1	17
		Ⅱ	1	11
		ⅡorⅢ	1	6
瀬戸	入子		1	2
常滑	片口鉢	Ⅱ	1	27
	甕		22	2390
瓦質土器	火鉢	ⅠA	16	686
		Ⅲ	4	180
瓦	平瓦		1	126
石製品	仕上げ砥	鳴滝	1	30
鉄製品	釘		3	10
銅製品	銭		2	9
	不明		1	4
木製品	漆器皿		9	
	漆器不明		2	
	漆器椀		1	
	箸		234	
	折敷		23	
	墨書折敷		1	
	板杓子		1	
	曲げ物底板か		4	
	円板		2	
	下駄		2	
	草履芯		19	
	小猿鉤（横木）か		1	
	建具		2	
	栓		5	
	箱		2	
	ヘラ状		3	
	串状		3	
	角棒状		53	
	棒状		36	
	板状		9	
	杭		1	
	部材		9	

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ＩB・Ⅱ区　北東区画下　2b面下～5面（上層マグソ層）				
木製品	端材		5	
自然遺物	栗殻		1	
	種子		24	
ＩB・Ⅱ区　北東区画下　2b面下～5面（下層）				
ロクロかわらけ	小			17
	大・中			389
	小片			7
	C大・中			25
常滑	甕		1	16
石製品	砥石	合掌寺	1	109
木製品	漆器皿		1	
	箸		3	
	棒状		2	
	板材		1	
自然遺物	種子		1	
ＩB・Ⅱ区　南東区画下　2b面下～5面（最上層）				
ロクロかわらけ	極小			5
	小			972
	大・中			991
	小片			210
白かわらけ？	小片		1	8
瀬戸	入子		1	10
	卸皿（前Ⅲか）		1	8
常滑	片口鉢	Ⅱ	1	14
	甕（6b型式まで）		5	238
銅製品	銭		3	9
ＩB・Ⅱ区　南東区画下　2b面下～5面（上層マグソ層）				
ロクロかわらけ	小			500
	大・中			2413
	小片			106
	C小			35
	C大・中			86
白かわらけ	手づくね小片		1	1
白磁	合子蓋		1	7
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	2	26
	坏	Ⅲ	1	4
高麗青磁	壺		1	6
瀬戸	入子		1	6
	卸皿		1	191
常滑	片口鉢	Ⅰ	5	145
	壺		2	79
	甕（6b型式まで）		20	1450
東海系陶器	壺		1	27
瓦質土器	火鉢	Ⅰa	1	34
石製品	磨石か		1	65
鉄製品	釘		2	17
木製品	漆器皿		8	
	漆器椀		4	
	漆器不明		1	
	漆塗り雲形		1	
	箸		250	
	折敷		2	
	曲げ物底板		7	
	栓		1	
	脚付き台		1	
	箱		1	
	草履芯		7	
	角棒状		22	
	ヘラ状		2	
	串状		1	
	棒状		16	
	板状		17	
	杭		2	
	部材		7	

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ＩB・Ⅱ区　南東区画下　2b面下～5面（上層マグソ層）				
木製品	端材		1	
植物製品	ブラシ状		1	
自然遺物	種子		4	
ＩB・Ⅱ区　全域　2b面下～5面（上層）				
ロクロかわらけ	小			113
	大・中			385
	小片			126
	C大・中			288
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	1	17
	坏	Ⅲ-4	1	10
常滑	小壺		5	142
	甕		10	274
瓦質土器	火鉢	ＩB	2	291
			4	76
銅製品	銭		1	4
木製品	箸		8	
	形代か		1	
ＩB・Ⅱ区　全域　2b面下～5面（下層）				
ロクロかわらけ	小			48
	大・中			190
	C大・中			148
常滑	片口鉢	Ⅱ	1	47
瓦質土器	火鉢	ＩB	1	133
			1	15
銅製品	銭		1	3
木製品	箸		33	
	折敷		1	
	円板		1	
	草履芯		1	
	角棒状		1	
	棒状		1	
	板状		1	
自然遺物	種子		1	
ＩB・Ⅱ区　6面　板壁建物状遺構				
ロクロかわらけ	小		1	96
	大・中		1	252
	小片		1	12
	C′ 大・中			380
鉄製品	釘		1	1
土製品	鞴羽口か		1	104
木製品	漆器皿		3	
	漆器椀		5	
	漆器小片		2	
	箸		54	
	折敷		2	
	板杓子		1	
	下駄		2	
	曲げ物底板か		6	
	有孔円板		1	
	草履芯		1	
	箱か		2	
	櫛状		1	
	角棒状		2	
	棒状		7	
	八角形板		1	
	板状		2	
	部材		1	
ＩB・Ⅱ区　6面　板壁建物状遺構				
木製品	角材		3	
	板材		1	
自然遺物	栗殻		4	
	種子		2	

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ＩB・Ⅱ区　6面　井戸1（池状遺構）				
ロクロかわらけ	小			9
	大・中			367
	小片			7
青白磁	梅瓶		1	1
瀬戸	卸皿		1	17
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	27
	甕		3	214
瓦質土器	火鉢		2	108
瓦	転用研磨具か	平瓦片	1	19
木製品	漆器皿		1	
	漆塗り雲形か		1	
	箸		53	
	折敷		1	
	板杓子		1	
	下駄再加工品		1	
	角棒状		6	
	串状		1	
自然遺物	種子		1	
ＩB・Ⅱ区　6面下～7面				
ロクロかわらけ	小			6
	大・中			500
	小片			26
	C中			77
	C大・中			9
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ-1b	1	12
瀬戸	入子		1	10
瓦質土器	火鉢	ＩB	1	80
石製品	硯	赤間	1	83
	仕上げ砥	鳴滝	1	16
鉄製品	釘		1	9
木製品	漆器皿		1	
	箸		3	
	円板		1	
	板状		3	
	部材		2	
ＩB・Ⅱ区　6面下～7面　マグソ層				
ロクロかわらけ	小			196
	大・中			1110
	小片			18
	C大・中			197
白かわらけ	小片		1	3
白磁	合子蓋		1	3
瀬戸	入子		1	4
常滑	甕		5	201
東濃型	山茶碗		1	4
漆製品	烏帽子		1	
木製品	漆器皿		2	
	漆器椀		4	
	箸		66	
	折敷		3	
	曲げ物底板		1	
	円板		1	
	下駄		1	
	草履芯		5	
	角棒状		2	
	棒状		6	
	板状		6	
	部材		1	
ＩB・Ⅱ区　6面下～7面　マグソ層				
自然遺物	種子		24	
ＩB・Ⅱ区　7面上				
ロクロかわらけ	小			54
	大・中			106

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ＩB・Ⅱ区　7面上				
木製品	曲げ物		1	
ロクロかわらけ	小			315
	大・中			2073
	小片			177
	C小			17
	C中			94
	C大・中			327
白かわらけ	手づくね		13	54
白磁	碗		1	2
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ	1	5
常滑	片口鉢	Ⅰ	4	63
		Ⅱ	1	9
	甕（6b型式まで）		4	231
石製品	仕上げ砥	鳴滝	2	27
		奥殿	2	81
骨製品	不明		1	
漆製品	烏帽子		1	
木製品	漆器皿		14	
	漆器椀		4	
	漆塗り横櫛		1	
	箸		83	
	折敷		1	
	板杓子		2	
	下駄		1	
	草履芯		2	
	鋤先		1	
	栓		1	
	漆ベラか		1	
	円板		1	
	ヘラ状		2	
	角棒状		3	
	棒状		8	
	板状		3	
	部材		3	
	端材		1	
自然遺物	種子		12	
ＩB・Ⅱ区　7面　マグソ土坑				
ロクロかわらけ	小			8
	大・中			73
	小片			16
常滑	甕		2	106
金属製品	銭		2	6
木製品	箸		1	
	墨書折敷		1	
	草履芯		2	
	角棒状		1	
	棒状		1	
自然遺物	種子		2	
ＩB・Ⅱ区　7面下　水抜きトレンチ				
ロクロかわらけ	小			28
	大・中			412
	C中			29
白かわらけ	手づくね		1	4
白磁	碗・皿	X	1	2
常滑	片口鉢	Ⅰ	3	41
	甕		1	60
銅製品	銭		1	2
木製品	箸		2	
ＩB・Ⅱ区　7面下　水抜きトレンチ				
木製品	折敷		2	
木製品	ヘラ状		1	
木製品	板状		1	

表４　出土遺物観察表

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図14 1	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.8	1.8	61	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図14 2	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	5.2	1.6	[47]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図14 3	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.8	1.9	55	B	黄灰	ナデ	板状	
図14 4	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.4	5.2	1.9	[42]	C+E	黄橙	ナデ	板状	
図14 5	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.2	4.4	2.0	[26]	C+E	黄橙	ナデ	板状	
図14 6	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.6	5.4	1.6	[37]	B	灰黄	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図14 7	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.6	4.8	2.0	1	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図14 8	石製品	砥石	両端欠	[4.3]	3.0	0.8	[18]		白			備水仕上砥ヵ 2面使用
図14 9	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					慶元通寶 南宋1195年
図14 10	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.3	5.8	1.8	[45]	B	黄橙	ナデ	ケズリ	底部焼成後穿孔 外底面調整は焼成前
図14 11	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	5.0	1.5	44	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図14 12	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	(7.0)	4.4	2.3	[31]	B	黄橙	ナデ	板状	
図14 13	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	9.0	5.0	2.5	[83]	B	橙	ナデ	板状	A′　外面黒変
図14 14	在地土器	ロクロ かわらけ・大	1/2	(11.8)	(5.6)	3.6	[67]	B	橙	ナデ	板状	
図14 15	搬入土器	ロクロ かわらけ・大	1/5	(13.0)	(9.0)	3.5	[55]		灰黄	ナデ	—	A 外面黒変
図14 16	国産陶器	瀬戸 平椀	口～ 体片	(15.4)	—	[6.0]	[72]		淡黄			内底面に重ね焼き痕ヵ
図14 17	国産陶器	常滑 片口鉢	口片	—	—	[8.0]	[181]		暗褐			Ⅱ類
図14 18	石製品	砥石	一端欠	[10.6]	3.6	1.6	[114]		灰黄			上野中砥 4面使用
図14 19	石製品	砥石	両端欠	[7.7]	2.5	[1.4]	[53]		灰緑			上野中砥 15c以降ヵ
図14 20	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					紹聖元寶 北宋1094年 行書
図14 21	在地土器	ロクロ かわらけ・中	3/4	(11.0)	6.2	3.0	[72]		黄橙	ナデ	板状	C
図14 22	石製品	硯	完形	7.5	3.2	0.9	45		灰黒			鳴滝硯 鎌倉手
図14 23	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.8	厚さ 0.2	3					元祐通寶 北宋1086年 行書
図15 24	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	8.2	5.2	2.0	[42]	B	灰黄	ナデ	板状	
図15 25	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.2	6.0	1.8	[65]	B	灰黄	ナデ	板状	
図15 26	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.0	5.4	1.8	[56]	B	灰黄	ナデ	板状	
図15 27	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	5.4	2.2	[49]	B+C	灰黄	ナデ	板状	
図15 28	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.4	7.0	2.9	[156]	B	黄橙	ナデ	板状	
図15 29	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	(15.0)	8.0	3.9	[167]	C+E	橙	ナデ	板状	A′
図15 30	国産陶器	瀬戸 入子	完形	4.7	3.4	1.6	16		灰			内底面に紅付着
図15 31	国産陶器	瀬戸 卸皿	ほぼ 完形	13.0	7.0	3.3	[199]		淡灰緑			中Ⅲ期
図15 32	国産陶器	常滑 広口壺	口片	—	—	[9.5]	[316]		灰黒			6a型式
図15 33	在地土器	瓦質土器 火鉢	胴片	—	—	[5.8]	[30]		黒灰			外面亀甲+花菱文スタンプ
図15 34	石製品	砥石	両端欠	[10.1]	4.7	1.7	[149]		明赤灰			天草中砥 3面使用

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図15 35	石製品	碁石ヵ	完形	2.0	1.7	0.4	2		灰黒			
図15 36	銅製品	銭	完形	径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					熙寧元寶 北宋1068年 篆書
図15 37	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	13.5	7.4	3.6	[169]	C+E	橙	ナデ	板状	
図15 38	土製品	かわらけ転用 円盤	ほぼ 完形	3.5	3.5	0.7	9		橙			
図15 39	石製品	砥石	一端欠	[6.3]	2.9	1.6	[53]		灰緑			上野砥沢中砥 4面使用
図15 40	銅製品	銭	完形	径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					治平通寶 北宋1064年 篆書
図16 41	石製品	砥石	両端欠	[12.7]	4.8	2.4	[206]		灰			天草中砥 4面使用
図16 42	石製品	砥石	完形	7.9	4.8	4.3	251		灰			天草中砥 4面使用
図16 43	舶載磁器	青磁 酒会壺ヵ	口小片	—	—	[5.3]	[56]		灰緑			気泡、貫入
図16 44	国産陶器	瀬戸 すり鉢	口小片	—	—	[10.5]	[187]		暗褐			B類
図16 45	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					
図16 46	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	8.0	5.4	1.8	[51]	B	黄灰	ナデ	板状	
図16 47	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.2	5.4	1.6	[44]	B	黄灰	ナデ	板状	
図16 48	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.3	4.6	2.0	[53]	B	黄灰	ナデ	板状	
図16 49	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 1.0	厚さ 0.1	2					五銖 後漢AD24年
図16 50	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.9	5.4	1.5	[48]	B	灰黄	ナデ	板状	
図16 51	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.2	1.6	44	C+E	黄橙	ナデ	板状	
図16 52	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.7	5.0	1.7	48	B	灰黄	ナデ	板状	
図16 53	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.6	1.8	50	B	灰黄	ナデ	板状	
図16 54	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	4.2	2.3	[44]	C	灰黄	ナデ	板状	
図16 55	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.5	7.8	3.5	176	C+E	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図16 56	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.1	4.8	1.6	[42]	B	橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図16 57	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	5.0	1.8	[43]	B	黄灰	ナデ	板状	
図16 58	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	4.8	1.8	[51]	B	灰黄	ナデ	—	外面の一部黒色に変色
図16 59	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.2	3.8	2.2	[35]	C+B	橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図16 60	石製品	火打石	—	[4.2]	[3.4]	[1.4]	[16]		白色半透明			石英
図16 61	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					天禧通寶 北宋1017年 真書
図16 62	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					皇宋通寶 北宋1038年 真書
図17 63	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	6.8	4.0	1.8	[32]	B	灰黄	ナデ	板状	
図17 64	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.4	4.6	1.9	[44]	B	灰黄	ナデ	板状	
図17 65	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	5.0	1.6	[41]	B	灰黄	ナデ	板状	
図17 66	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.6	4.6	1.8	[49]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図17 67	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.0	1.7	59	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図17 68	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	8.2	6.0	1.9	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図17 69	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ完形	12.8	7.4	3.3	[175]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C
図17 70	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.8	7.4	3.4	[175]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図17 71	国産陶器	瀬戸 入子	1/2	(8.8)	(4.4)	3.1	[41.6]		灰	ナデ	—	漆パレット(黒色系) 歪み大
図17 72	国産陶器	瀬戸 折縁深皿	口片	—	—	[8]	[107]		灰白			後Ⅱ期頃
図17 73	国産陶器	常滑 甕	口片	—	—	[13.9]	[1950]		暗褐			8型式
図17 74	石製品	滑石鍋片 転用スタンプ	—	[6.7]	[2.8]	[1.0]	[35.3]		灰			
図17 75	石製品	碁石	完形	1.4	1.4	0.5	2					
図17 76	石製品	碁石	完形	1.4	1.4	0.3	1					
図17 77	石製品	碁石	完形	1.6	1.3	0.3	1					
図17 78	石製品	碁石	完形	1.6	1.4	0.5	2					
図17 79	石製品	碁石	完形	1.7	1.3	0.4	2					
図17 80	石製品	碁石	完形	1.5	1.4	0.5	2					
図17 81	石製品	碁石	完形	1.7	1.4	0.6	2					
図17 82	石製品	碁石	完形	1.8	1.5	0.5	2					
図17 83	石製品	碁石	完形	1.8	1.4	0.6	2					
図17 84	石製品	碁石	完形	1.9	1.3	0.5	2					
図17 85	石製品	碁石	完形	1.6	1.7	0.3	1					
図17 86	石製品	碁石	完形	1.9	1.6	0.4	2					
図17 87	石製品	碁石	完形	1.9	1.6	0.4	2					
図17 88	銅製品	銭	一部欠	径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	[2]					
図17 89	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.8	7.6	2.2	38	C	灰黄	ナデ	板状	
図17 90	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.5	5.4	1.8	[54]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図17 91	舶載磁器	龍泉窯青磁 碗	口小片	—	—	[2.6]	[5]		緑灰 半透明			Ⅳ類ヵ 貫入
図17 92	国産陶器	瀬戸 入子	3/4	5.4	3.8	1.5	[17]		灰			
図17 93	国産陶器	瀬戸 広口壺	口片	—	—	[5.9]	[85]		緑黒			
図17 94	国産陶器	常滑 甕	口小片	—	—	[3.8]	[64]		暗褐			6b～7型式
図17 95	国産陶器	常滑 片口鉢	口片	—	—	[5.1]	[95]		褐			Ⅱ類
図17 96	搬入土器	鍔付鍋	口片	—	—	[3.1]	[43]		灰白			
図17 97	石製品	砥石	一端欠	[4.4]	[3.8]	[1.4]	[29]		白			産地不明 仕上砥
図18 98	銅製品	銭	完形	径 2.30	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					元祐通寶 北宋1086年 行書
図18 99	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	(7.1)	(4.3)	2.0	[36]	B	黄橙	ナデ	板状	C′
図18 100	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.3	4.9	2.1	[31]	B	黄橙	ナデ	板状	C′
図18 101	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.3	4.7	1.6	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	
図18 102	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	4.8	2.1	[41]	B	黄橙	ナデ	板状	C′

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図18 103	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.6	4.3	2.0	[45]	B	灰黄	ナデ	板状	
図18 104	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.6	5.4	1.5	[43]	B	黄橙	ナデ	板状	
図18 105	在地土器	ロクロ かわらけ・中	3/4	11.2	7.1	3.0	[113]	B	灰黄	ナデ	板状	内外面黒変 口縁部煤付着
図18 106	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	13.2	7.3	3.4	[187]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図18 107	在地土器	瓦質土器 火鉢ヵ風炉	小片	—	—	[7.3]	[99]		暗灰			胎土は永福寺女瓦D類に近似
図18 108	石製品	砥石	一端欠	[5.1]	3.2	[1.5]	[44]		白			鳴滝ヵ仕上砥 1面使用
図18 109	銅製品	銭	ほぼ完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	[3]					天聖元寶 北宋 1023年 真書
図18 110	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					嘉定通寶 南宋1208年 背十二 真書
図18 111	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					銭種不明
図18 112	在地土器	ロクロ かわらけ・極小	5/6	4.8	3.4	1.1	[14]	C	灰黄	ナデ	板状	
図18 113	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	6.7	4.0	1.9	[28]	C	黄橙	ナデ	板状	
図18 114	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.1	4.3	2.1	[35]	C	黄橙	ナデ	板状	
図18 115	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	(7.2)	(5.0)	1.6	[47]	B	灰黄	ナデ	—	
図18 116	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.3	4.6	2.0	[37]	C+B	黄橙	ナデ	板状	
図18 117	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.3	4.1	2.1	[39]	C	灰黄	ナデ	板状	
図18 118	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.4	4.8	1.7	[44]	B	橙	ナデ	板状	
図18 119	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.4	5.0	1.7	[46]	B	黄橙	ナデ	板状	
図18 120	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.4	4.8	1.7	[59]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図18 121	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.4	5.0	2.0	[57]	B	灰黄	ナデ	板状	
図18 122	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.5	4.7	2.0	[49]	B	灰黄	ナデ	—	
図18 123	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/5	7.4	4.4	2.1	[38]	C	黄橙	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図18 124	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.4	4.9	2.1	[41]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図18 125	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.4	1.9	53	B	灰黄	ナデ	板状	
図18 126	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.5	5.0	2.0	[44]	B	橙	ナデ	板状	
図18 127	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.6	5.0	1.7	[54]	B	灰黄	ナデ	—	
図18 128	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/7	7.6	4.9	1.8	[55]	B	灰黄	ナデ	板状	
図18 129	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.6	5.0	1.7	[59]	B	灰黄	ナデ	板状	
図18 130	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.6	4.8	1.7	[62]	B	灰黄	ナデ	板状	歪み大
図18 131	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.6	4.4	1.9	[44]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図18 132	在地土器	ロクロ かわらけ・小	1/2	7.8	5.2	1.9	[43]	B	灰黄	ナデ	—	
図18 133	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	4.6	1.8	44	C	灰黄	ナデ	板状	
図18 134	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.7	5.6	2.0	[67]	B	灰黄	ナデ	板状	
図18 135	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.7	5.0	2.0	[62]	B	灰黄	ナデ	板状	
図18 136	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.8	5.7	1.8	[52]	B	黄橙	ナデ	—	焼成後の穿孔1ヶ所 口縁部煤付着

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図18 137	在地土器	ロクロかわらけ・小	5/6	7.9	5.4	1.9	[61]	B	灰黄	ナデ	板状	
図18 138	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	8.0	5.3	1.7	[72]	B	灰黄	ナデ	板状	
図18 139	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	8.3	4.9	1.6	[54]	B	灰黄	ナデ	—	
図19 140	在地土器	ロクロかわらけ・中	3/4	11.0	6.4	2.9	[87]	C	灰黄	ナデ	板状	
図19 141	在地土器	ロクロかわらけ・中	3/4	11.0	5.8	3.1	[88]	C	黄橙	ナデ	板状	
図19 142	在地土器	ロクロかわらけ・大	5/6	11.6	6.6	3.4	[137]	B	黄橙	ナデ	板状	
図19 143	在地土器	ロクロかわらけ・大	完形	11.6	7.0	3.0	148	B	灰黄	ナデ	板状	
図19 144	在地土器	ロクロかわらけ・大	完形	12.0	6.6	3.2	145	B	橙	ナデ	板状	
図19 145	在地土器	ロクロかわらけ・大	完形	12.0	7.8	3.4	160	B	黄橙	ナデ	板状	
図19 146	在地土器	ロクロかわらけ・大	完形	12.1	7.4	3.2	159	C+B	黄橙	ナデ	板状	
図19 147	在地土器	ロクロかわらけ・大	完形	12.6	7.6	3.0	174	B	橙	ナデ	板状	底部粘土紐巻き上げ成形ヵ 内底面ナデ弱い
図19 148	在地土器	ロクロかわらけ・大	ほぼ完形	12.9	7.6	3.0	[163]	B	黄橙	ナデ	板状	底部粘土紐巻き上げ成形ヵ 内底面ナデ弱い
図19 149	国産陶器	瀬戸卸皿	小片	—	—	[3.3]	[30]		灰緑			前Ⅳ～中Ⅱ期ヵ
図19 150	国産陶器	常滑片口鉢	口小片	—	—	[7.9]	[157]		暗茶			Ⅱ類
図19 151	国産陶器	常滑片口鉢	口小片	—	—	[5.9]	[206]		明茶褐			Ⅱ類
図19 152	国産陶器	常滑転用研磨具	甕片	8.5	5.5	1.0	99		褐			
図19 153	土製品	ロクロかわらけ転用円盤	1/2	径 4.4	—	0.7	[11]		灰黄			
図19 154	石製品	砥石	一端欠	[9.2]	3.4	0.8	[62]		灰黄			鳴滝仕上砥 2面使用
図19 155	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	2					開元通寶 唐621年初鋳
図19 156	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					嘉祐通寶 北宋1056年 真書
図19 157	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	2					熙寧元寶 北宋1068年 真書
図19 158	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	4					熙寧元寶 北宋1068年 篆書
図19 159	銅製品	銭	一部欠	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	[4]					熙寧元寶 北宋1068年 篆書
図19 160	銅製品	銭	ほぼ完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	[3]					元祐通寶 北宋1086年 篆書
図19 161	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					紹聖元寶 北宋1094年 行書
図19 162	銅製品	銭	ほぼ完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	[3]					元□通寶 行書
図19 163	銅製品	銭	一部欠	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	[2]					元□通寶 行書
図20 164	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	6.9	4.7	1.7	39	C+B	橙	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図20 165	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.0	5.0	1.5	[44]	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 166	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.3	5.4	1.5	[44]	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 167	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	7.3	4.8	1.6	[41]	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 168	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.4	5.0	1.6	[44]	B	黄橙	ナデ	板状	
図20 169	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.4	5.2	1.5	43	B	黄橙	ナデ	板状	
図20 170	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.5	4.8	1.6	50	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図20 171	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.6	4.8	1.6	51	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 172	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.6	4.4	1.7	49	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 173	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.5	5.6	1.7	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 174	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.7	5.6	2.2	42	C	橙	ナデ	板状	C′
図20 175	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	7.8	5.6	1.6	[42]	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 176	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	7.8	5.4	1.5	[42]	B	灰黄	ナデ	板状	歪み大
図20 177	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	7.8	4.4	1.6	[43]	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 178	在地土器	ロクロかわらけ・小	5/6	7.9	5.8	1.7	[53]	B	橙	ナデ	板状	
図20 179	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.9	5.5	1.6	[56]	B	灰黄	ナデ	板状	内側面に刻み痕あり
図20 180	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	8.1	5.5	1.7	[64]	B	灰黄	ナデ	板状	1ヶ所打ち欠き 口縁部煤付着
図20 181	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	8.0	4.6	1.6	61	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 182	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	8.1	6.2	1.6	50	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 183	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	8.2	5.5	1.5	51	C+B	橙	ナデ	板状	
図20 184	在地土器	ロクロかわらけ・小	5/6	8.2	5.4	2.2	[60]	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 185	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	7.2	4.6	1.8	[43]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 186	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.2	4.5	1.8	47	B	灰黄	ナデ	―	口縁部煤付着
図20 187	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.1	4.5	1.8	40	C+B	灰黄	ナデ	板状	C′　口縁端部煤付着
図20 188	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.2	4.6	1.9	[47]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 189	在地土器	ロクロかわらけ・小	5/6	7.2	4.5	1.9	[45]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 190	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.2	4.6	1.8	[42]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 191	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.3	4.5	2.0	46	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 192	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.3	4.5	1.8	45	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 193	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.3	4.8	1.8	60	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 194	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.3	4.3	1.8	[40]	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図20 195	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.7	4.6	1.9	52	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 196	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.4	4.6	1.8	53	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 197	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.4	4.9	1.8	52	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 198	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.4	4.4	1.7	46	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 199	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.5	4.3	1.8	51	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 200	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.5	5.2	1.9	56	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図20 201	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.5	4.9	1.8	48	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 202	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.6	4.4	1.8	56	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 203	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.6	4.8	1.8	54	B	灰黄	ナデ	板状	C′　口縁部煤付着
図20 204	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.6	5.0	1.9	60	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図20 205	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.7	5.0	1.7	53	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図20 206	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.7	5.2	1.8	[38]	C+E	橙	ナデ	板状	C′
図20 207	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.8	5.8	1.8	49	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 208	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.8	5.2	1.8	59	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 209	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.9	4.9	1.7	50	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 210	在地土器	ロクロかわらけ・小	5/6	7.8	5.3	1.9	[63]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 211	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	7.7	4.4	1.9	[55]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 212	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.8	5.4	1.9	60	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 213	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.8	5.4	1.8	58	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 214	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	8.1	6.0	1.7	[62]	C+B	橙	ナデ	板状	
図20 215	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	8.0	4.8	1.7	51	B	黄橙	ナデ	板状	
図20 216	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	8.1	4.8	1.7	57	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 217	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.9	5.0	1.9	[55]	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 218	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.9	5.5	1.8	56	B	灰黄	ナデ	板状	歪み大
図20 219	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	8.1	5.6	1.9	68	B	黄橙	ナデ	板状	外面黒変
図20 220	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.8	6.2	1.7	58	B	灰黄	ナデ	—	
図20 221	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.4	4.6	1.9	50	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 222	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	7.5	4.4	1.9	[45]	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図21 223	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.6	4.6	1.9	51	B	灰黄	ナデ	板状	C′　口縁部煤付着
図21 224	在地土器	ロクロかわらけ・小	5/6	7.8	4.5	1.9	[56]	B	灰黄	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図21 225	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.8	4.5	1.9	52	B	橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 226	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.9	5.0	1.8	60	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 227	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.8	4.6	1.9	49	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 228	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	8.1	5.4	2.0	[68]	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 229	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	8.0	5.6	1.8	59	B	灰黄	ナデ	板状	歪み大
図21 230	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.9	5.0	1.9	65	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 231	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.7	4.9	1.9	[57]	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 232	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.7	5.0	1.9	50	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 233	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.3	4.2	2.1	48	B	灰黄	ナデ	板状	C′　口縁部煤付着
図21 234	在地土器	ロクロかわらけ・小	5/6	6.9	3.8	2.1	[41]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C′　口縁部全体欠く
図21 235	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.0	3.8	2.0	35	C+E	橙	ナデ	板状	C
図21 236	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.3	4.1	1.9	45	B	灰黄	ナデ	板状	口縁端部煤付着
図21 237	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	7.1	4.2	2.0	[28]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図21 238	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	6.8	4.5	1.9	42	C+B	灰黄	ナデ	—	C′　口縁端部煤付着

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図21 239	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.4	4.4	2.0	[46]	C+B	橙	ナデ	板状	
図21 240	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	5.0	1.9	45	B	灰黄	ナデ	板状	C′　口縁端部煤付着
図21 241	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.5	1.9	47	B	灰黄	ナデ	板状	外側面一部黒色に変色
図21 242	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.6	5.0	1.9	[55]	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 243	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.1	5.5	2.0	66	B	灰黄	ナデ	板状	口縁端部煤付着
図21 244	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.5	2.0	44	C+B	黄橙	ナデ	板状	C′　口縁端部煤付着
図21 245	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.6	2.0	53	B	灰黄	ナデ	—	
図21 246	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	4.4	2.1	37	C+E	灰黄	ナデ	板状	C
図21 247	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.4	4.4	2.1	[53]	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 248	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	5.0	2.0	[56]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁端部煤付着
図21 249	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.5	2.1	57	B	灰黄	ナデ	板状	口縁端部煤付着
図21 250	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.3	4.8	2.1	[45]	B	灰黄	ナデ	板状	回転糸切り後、意図的に粘土盤を貼付ヵ
図21 251	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.6	4.4	2.0	[57]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 252	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.9	5.0	1.9	[63]	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 253	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	8.2	5.8	1.9	[60]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 254	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.5	5.0	2.1	[56]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着 外底部歪み大
図21 255	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.0	4.0	2.1	[37]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図21 256	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.6	2.1	53	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 257	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.4	2.0	59	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 258	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.7	4.7	1.9	[62]	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 259	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	5.5	2.1	65	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 260	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.6	4.4	2.0	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 261	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	4.5	2.0	[65]	B	灰黄	ナデ	板状	内外面一部黒変
図21 262	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	4.8	2.0	57	C	黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 263	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.7	4.8	2.1	[52]	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 264	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	5.0	2.1	54	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 265	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.9	5.4	2.1	57	B	黄橙	ナデ	板状	
図21 266	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.8	2.1	46	C+B	灰黄	ナデ	板状	C′
図21 267	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.1	1.9	56	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 268	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.8	5.3	2.0	[45]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 269	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.9	4.9	2.1	[66]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 270	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.0	4.4	2.1	62	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 271	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.1	5.0	2.1	59	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 272	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	8.9	4.8	2.0	[58]	B	灰黄	ナデ	板状	

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図21 273	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	6.8	4.1	2.3	41	C	灰黄	ナデ	板状	C
図21 274	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	6.8	4.9	2.3	[36]	B	灰黄	ナデ	—	C′　口縁部煤付着
図21 275	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.5	4.6	2.3	[44]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図21 276	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	8.9	5.2	2.6	[70]	B	灰黄	ナデ	—	
図22 277	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	10.3	5.9	1.8	99	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図22 278	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	10.4	5.6	2.9	86	C	灰黄	ナデ	板状	C　口縁端煤付着
図22 279	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	10.8	6.0	2.9	103	C+B	黄橙	ナデ	板状	C
図22 280	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	11.0	6.0	2.7	104	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図22 281	在地土器	ロクロかわらけ・中	3/4	10.8	6.1	2.8	[102]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C
図22 282	在地土器	ロクロかわらけ・中	4/5	11.2	6.6	3.0	[123]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C
図22 283	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	10.3	6.0	2.9	89	C	黄橙	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図22 284	在地土器	ロクロかわらけ・中	4/5	10.7	5.5	2.9	[91]	C	灰黄	ナデ	—	C 口縁部煤付着
図22 285	在地土器	ロクロかわらけ・中	ほぼ完形	11.2	6.0	2.9	[111]	C+E	灰黄	ナデ	板状	C 打ち欠き 口縁部煤付着
図22 286	在地土器	ロクロかわらけ・中	4/5	11.2	6.3	3.1	[120]	C	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図22 287	在地土器	ロクロかわらけ・中	3/4	11.7	7.2	3.0	[134]	B	黄橙	ナデ	板状	内底面煤付着
図22 288	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	10.8	5.4	3.1	117	C	灰黄	ナデ	板状	C
図22 289	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	11.2	6.0	2.9	114	C+B	黄橙	ナデ	板状	C
図22 290	在地土器	ロクロかわらけ・中	4/5	11.7	6.2	3.0	[117]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C′
図22 291	在地土器	ロクロかわらけ・中	3/4	10.7	5.6	3.0	[95]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図22 292	在地土器	ロクロかわらけ・中	3/4	10.6	5.8	3.1	[114]	B	灰黄	ナデ	板状	C′
図22 293	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	11.0	6.4	3.1	120	C	灰黄	ナデ	板状	C
図22 294	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	11.4	6.6	3.2	114	C	灰黄	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図22 295	在地土器	ロクロかわらけ・中	5/6	10.7	5.8	3.2	[107]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図22 296	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	11.4	6.4	3.5	138	B	灰黄	ナデ	板状	C′
図22 297	在地土器	ロクロかわらけ・大	完形	11.8	8.0	3.1	151	B	灰黄	ナデ	板状	
図22 298	在地土器	ロクロかわらけ・大	1/2	12.1	7.8	3.0	[122]	B	灰黄	ナデ	板状	C 外面一部黒変
図22 299	在地土器	ロクロかわらけ・大	完形	12.2	7.2	3.1	195	B	灰黄	ナデ	板状	
図22 300	在地土器	ロクロかわらけ・大	5/6	12.6	8.3	3.0	[145]	B	黄橙	ナデ	板状	
図22 301	在地土器	ロクロかわらけ・大	完形	12.3	7.5	3.1	174	B	黄橙	ナデ	板状	
図22 302	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	12.5	7.0	3.1	[145]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C′
図22 303	在地土器	ロクロかわらけ・大	3/4	(12.8)	(7.4)	3.1	[128]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C′
図22 304	在地土器	ロクロかわらけ・大	5/6	13.0	7.0	3.1	[164]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図22 305	在地土器	ロクロかわらけ・大	5/6	13.4	8.5	3.0	[163]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図22 306	在地土器	ロクロかわらけ・大	完形	13.3	7.6	3.1	158	C	灰黄	ナデ	—	C

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図22 307	在地土器	ロクロかわらけ・大	完形	12.0	6.8	3.2	190	B	灰黄	ナデ	板状	
図22 308	在地土器	ロクロかわらけ・大	完形	12.0	7.4	3.2	188	B	灰黄	ナデ	板状	
図22 309	在地土器	ロクロかわらけ・大	3/4	13.0	(7.4)	3.1	[154]	B	黄橙	ナデ	板状	C
図22 310	在地土器	ロクロかわらけ・大	5/6	12.9	6.8	3.2	[165]	C+B	橙	ナデ	板状	C′　口縁一部黒変
図22 311	在地土器	ロクロかわらけ・大	ほぼ完形	12.9	8.4	3.2	[190]	B	灰黄	ナデ	板状	内底面黒変
図22 312	在地土器	ロクロかわらけ・大	完形	13.0	7.1	3.2	172	C+B	灰黄	ナデ	板状	C
図23 313	在地土器	ロクロかわらけ・大	3/4	13.4	8.0	3.2	[163]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C′
図23 314	在地土器	ロクロかわらけ・大	完形	12.7	7.3	3.3	163	C	橙	ナデ	板状	C
図23 315	在地土器	ロクロかわらけ・大	5/6	13.1	7.0	3.3	[170]	C+B	橙	ナデ	板状	C′
図23 316	在地土器	ロクロかわらけ・大	3/4	13.1	6.6	3.3	[122]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図23 317	在地土器	ロクロかわらけ・大	5/6	13.4	7.6	3.3	[187]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C
図23 318	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	13.6	8.1	3.3	[187]	C+E	灰黄	ナデ	板状	C
図23 319	在地土器	ロクロかわらけ・大	ほぼ完形	12.2	7.1	3.4	[190]	B	灰黄	ナデ	板状	
図23 320	在地土器	ロクロかわらけ・大	完形	12.3	7.3	3.6	182	B	灰黄	ナデ	板状	
図23 321	在地土器	ロクロかわらけ・大	完形	12.5	7.4	3.4	157	C+E	橙	ナデ	板状	C′
図23 322	在地土器	ロクロかわらけ・大	5/6	13.0	7.7	3.4	[160]	C	橙	ナデ	板状	C
図23 323	在地土器	ロクロかわらけ・大	ほぼ完形	13.1	7.7	3.4	[173]	C+E	橙	ナデ	板状	C′
図23 324	在地土器	ロクロかわらけ・大	ほぼ完形	13.4	7.5	3.4	[180]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図23 325	在地土器	ロクロかわらけ・大	5/6	13.7	6.8	3.4	[172]	C	灰黄	ナデ	板状	C′
図23 326	在地土器	ロクロかわらけ・大	ほぼ完形	13.6	7.6	3.4	[185]	C+E	橙	ナデ	板状	C
図23 327	在地土器	ロクロかわらけ・大	5/6	12.0	7.6	3.5	[170]	B	橙	ナデ	板状	
図23 328	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	12.3	7.5	3.5	[208]	B+E	橙	ナデ	板状	
図23 329	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	13.3	7.3	2.9	[171]	C+E	灰黄	ナデ	板状	C′
図23 330	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	13.6	8.4	5.5	[201]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C′　外側面一部黒色に変色
図23 331	在地土器	ロクロかわらけ・大	3/4	12.9	7.1	3.6	[142]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図23 332	在地土器	ロクロかわらけ・大	ほぼ完形	13.7	7.6	3.5	[197]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図23 333	在地土器	ロクロかわらけ・大	完形	13.3	7.0	3.6	163	C	黄橙	ナデ	板状	C
図23 334	在地土器	ロクロかわらけ・大	完形	13.1	7.6	3.6	172	B	黄橙	ナデ	板状	
図23 335	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	13.5	8.0	3.6	[171]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図23 336	在地土器	ロクロかわらけ・大	5/6	13.6	8.0	3.6	[208]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C
図23 337	在地土器	ロクロかわらけ・大	5/6	12.9	7.0	3.7	[174]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C′
図23 338	在地土器	ロクロかわらけ・大	5/6	13.0	7.6	3.7	[171]	C+B	橙	ナデ	板状	C
図23 339	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	13.2	6.8	3.9	[178]	C+B	黄橙	ナデ	—	C′
図23 340	在地土器	ロクロかわらけ・大	3/4	13.9	7.9	3.9	[209]	B	黄橙	ナデ	板状	

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図24 341	国産陶器	常滑 片口鉢	1/6	(35.6)	(16.0)	12.5	[674]		明茶褐			Ⅱ類
図24 342	在地土器	瓦質土器 火鉢	1/4	(32.8)	(24.8)	8.0			橙			Ⅰ類
図24 343	国産陶器	常滑 片口鉢	口小片	—	—	[4.5]	[165]		明茶褐			Ⅱ類 輪積み技法
図24 344	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					熙寧元寶 北宋1068年 篆書
図24 345	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	5.4	1.5	48	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 346	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.9	4.4	1.6	[49]	B	黄灰	ナデ	板状	
図24 347	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	8.1	5.6	1.6	[54]	B		ナデ	—	
図24 348	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	4.3	1.7	[47]	B	黄灰	ナデ	板状	
図24 349	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.4	5.2	1.7	[48]	B	黄灰	ナデ	板状	外底部赤く変色
図24 350	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.0	4.7	1.8	[34]	B	灰黄	ナデ	板状	
図24 351	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.4	4.4	1.8	[44]	B	黄灰	ナデ	板状	
図24 352	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.3	5.3	1.8	[54]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 353	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.2	1.8	54	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 354	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.7	4.8	1.8	[44]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 355	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.8	4.9	1.8	[50]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 356	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.8	5.4	1.8	[60]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 357	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.3	4.8	1.9	[51]	B	黄灰	ナデ	板状	
図24 358	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	4.6	1.9	[55]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 359	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.0	1.9	49	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 360	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	4.5	1.9	[61]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 361	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	4.6	1.9	[51]	B	黄灰	ナデ	—	口縁部煤付着
図24 362	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.6	1.9	45	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 363	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	4.6	1.9	58	B	黄灰	ナデ	—	口縁部煤付着
図24 364	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.7	4.8	1.9	[59]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部打ち欠き、煤付着
図24 365	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.7	5.0	1.9	[53]	B	黄灰	ナデ	板状	
図24 366	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	4.9	1.9	54	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 367	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.3	5.6	1.9	71	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 368	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.2	5.0	1.9	68	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 369	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	6.8	3.8	2.0	[34]	C	橙	ナデ	板状	
図24 370	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	4.5	2.0	[59]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 371	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	4.8	2.0	[50]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 372	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.5	4.7	2.0	[48]	B	黄灰	ナデ	板状	
図24 373	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.9	4.6	2.0	[58]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 374	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.2	4.8	2.1	[51]	B	黄灰	ナデ	板状	

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図24 375	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.7	5.2	2.1	[56]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部打ち欠き、煤付着
図24 376	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.5	4.7	2.2	[59]	B	灰黄	ナデ	板状	割れ口に煤付着
図24 377	在地土器	ロクロかわらけ・大	2/3	12.9	7.4	3.4	[131]	C	灰黄	ナデ	板状	内外面黒変
図24 378	在地土器	ロクロかわらけ・大	3/4	13.2	7.5	3.4	[139]	C	黄灰	ナデ	板状	C
図25 379	国産陶器	常滑片口鉢	1/2	(36.5)	(16.0)	12.3	[1442]		明茶褐			Ⅱ類 8～9型式
図25 380	国産陶器	常滑片口鉢	1/3	(35.9)	(14.4)	12.4	[1250]		暗褐			Ⅱ類 8型式
図25 381	国産陶器	常滑片口鉢	口小片	—	—	[8.0]	[125]		赤褐			Ⅱ類 8型式
図25 382	石製品	碁石ヵ	一部欠	[1.6]	1.6	0.6	[2]		灰黒			
図25 383	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.5	厚さ 0.1	2					祥符元寶 北宋1009年 真書
図25 384	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					皇宋通寶 北宋1038年 真書
図25 385	銅製品	銭	完形	径 2.9	孔径 0.7	厚さ 0.1	4					紹興通寶 折二銭 南宋1163年 小穿孔
図25 386	銅製品	銭	完形	径 2.6	孔径 0.7	厚さ 0.1	2					政和通寶 北宋1111年 篆書
図25 387	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					銭種不明
図25 388	銅製品	銭	1/2強	径 [2.4]	孔径 0.7	厚さ 0.1	[2]					開元通寶ヵ
図26 389	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	6.7	4.5	1.9	[33]	C+B	灰	ナデ	—	口縁部煤付着
図26 390	在地土器	ロクロかわらけ・小	1/4	(6.7)	(4.8)	2.0	[20]	B	灰黄	ナデ	板状	二次的被熱により器表剥離
図26 391	在地土器	ロクロかわらけ・小	2/3	6.9	4.2	2.1	[34]	C+B	橙	ナデ	板状	
図26 392	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	6.9	4.4	2.2	39	C	黄橙	ナデ	板状	C 口縁部打ち欠き、煤付着
図26 393	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.0	4.4	1.5	36	C+B	黄灰	ナデ	板状	
図26 394	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.0	4.4	2.1	[40]	C	黄橙	ナデ	板状	
図26 395	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	7.2	5.1	1.6	[42]	B	灰	ナデ	板状	
図26 396	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.2	6.0	1.7	51	B	黄灰	ナデ	板状	
図26 397	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.2	4.7	1.8	43	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図26 398	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.2	4.6	1.8	55	B	黄灰	ナデ	板状	
図26 399	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	7.2	4.2	1.8	[31]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図26 400	在地土器	ロクロかわらけ・小	2/3	7.2	3.8	1.6	[27]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図26 401	在地土器	ロクロかわらけ・小	1/2強	6.9	4.6	2.2	[25]	C	灰	ナデ	板状	内底面煤付着
図26 402	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.2	4.8	2.0	[40]	C	黄灰	ナデ	板状	
図26 403	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.3	4.6	1.7	51	B	灰	ナデ	板状	
図26 404	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.3	4.9	1.8	57	B	灰黄	ナデ	—	口縁部煤付着
図26 405	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.4	4.4	1.9	49	B	黄灰	ナデ	板状	
図26 406	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.5	5.4	1.8	51	B	灰黄	ナデ	板状	
図26 407	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.5	5.3	1.9	50	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図26 408	在地土器	ロクロかわらけ・小	2/3	7.5	4.4	1.9	[42]	B	灰黄	ナデ	板状	

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図26 409	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.4	1.9	54	B	黄灰	ナデ	板状	
図26 410	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	4.5	1.9	36	C	黄橙	ナデ	板状	底部焼成後の穿孔2ヶ所
図26 411	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.6	4.8	1.7	[45]	B	灰黄	ナデ	板状	内面剥離
図26 412	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.6	5.2	1.8	[57]	B	灰黄	ナデ	—	
図26 413	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	4.5	1.8	51	B	灰黄	ナデ	板状	
図26 414	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	4.8	1.9	49	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図26 415	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	4.0	1.9	52	B	灰黄	ナデ	板状	
図26 416	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.6	4.4	2.1	[47]	C	黄灰	ナデ	板状	
図26 417	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.7	4.0	1.6	[46]	B	灰黄	ナデ	—	
図26 418	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.7	5.3	1.7	[47]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図26 419	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.0	1.8	41	B	灰黄	ナデ	板状	
図26 420	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	4.0	1.9	42	C+B	黄灰	ナデ	板状	
図26 421	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.8	5.0	1.9	[44]	B	灰黄	ナデ	板状	
図26 422	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	(7.8)	5.0	1.9	[39]	B	黄灰	ナデ	板状	
図26 423	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.9	5.0	1.9	60	B	黄灰	ナデ	—	
図26 424	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.9	4.6	2.1	[56]	B	黄灰	ナデ	板状	
図26 425	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	8.0	4.6	1.8	[45]	B	灰黄	ナデ	板状	
図26 426	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	8.3	5.6	1.8	[54]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部、割れ口煤付着
図26 427	在地土器	ロクロ かわらけ・中	1/2	(10.4)	(6.0)	2.8	[51]	C+E	橙	ナデ	板状	
図26 428	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	10.7	6.8	2.7	100	C+E	黄橙	ナデ	—	
図26 429	在地土器	ロクロ かわらけ・中	1/2	(10.7)	(6.8)	1.9	[68]	C+B	灰黄	ナデ	板状	底部付近内外面煤付着
図26 430	在地土器	ロクロ かわらけ・小	1/2	(11.0)	(6.6)	2.5	[53]	C	黄灰	ナデ	板状	C口縁部煤付着
図26 431	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.1	7.4	3.1	172	B	灰黄	ナデ	板状	
図26 432	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ完形	12.3	7.0	3.6	[147]	C	黄橙	ナデ	板状	
図26 433	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.6	7.3	3.5	[147]	B	黄橙	ナデ	板状	
図26 434	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	(12.8)	(6.5)	3.2	[118]	C+B	橙	ナデ	板状	
図26 435	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.8	6.6	3.4	[160]	C+B	黄灰	ナデ	板状	
図26 436	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.8	7.6	3.4	[138]	C+B	黄橙	ナデ	板状	
図26 437	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.9	7.5	3.4	148	C+E	橙	ナデ	板状	
図26 438	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.0	7.4	3.3	[159]	C+B	黄灰	ナデ	板状	
図26 439	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.2	7.5	3.3	[156]	C+E	黄橙	ナデ	板状	
図26 440	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	(13.2)	7.0	3.5	[95]	B	橙	ナデ	板状	
図26 441	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.3	8.0	3.6	[173]	C	黄灰	ナデ	板状	C
図26 442	在地土器	ロクロ かわらけ・大	1/3	(13.4)	(7.6)	3.3	[112]	C+E	灰黄	ナデ	板状	

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図26 443	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	13.5	6.9	3.2	[158]	C	黄橙	ナデ	板状	
図26 444	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	13.5	7.5	4.0	[162]	C+E	黄橙	ナデ	—	口縁部煤付着
図26 445	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	(13.8)	(7.4)	3.8	[158]	C+B	橙	ナデ	板状	
図26 446	在地土器	ロクロ かわらけ・大	1/3	—	—	3.6	[45]		黄灰	—	—	取瓶転用 スラグ付着、歪み大
図27 447	国産陶器	瀬戸 入子	ほぼ 完形	3.4	3.0	7.5	[6]		黄灰			内面面に紅付着
図27 448	国産陶器	瀬戸 入子	2/3	(8.4)	(4.0)	3.2	[41]		灰			輪花型 内面煤付着ヵ
図27 449	国産陶器	瀬戸 入子	口1/4	(9.0)	—	[2.25]	[8]		灰			内面黒色系漆付着ヵ
図27 450	国産陶器	瀬戸 入子	口1/2 ～底完	5.4	3.2	2.0	[20]		灰			輪花型 内全面と外底面に紅付着
図27 451	国産陶器	常滑 片口鉢	口小片	—	—	[6]	[91]		明茶褐			Ⅱ類 8型式
図27 452	国産陶器	常滑 片口鉢ヵ	口小片	—	—	[6.7]	[135]		赤褐			口縁部内面二次的被熱
図27 453	在地土器	瓦質土器 火鉢	口欠	—	30.5	[10.8]	—		黒灰			Ⅲ類 外面12弁の菊花文スタンプ
図27 454	在地土器	瓦質土器 火鉢	一部欠	38.0	31.0	14.2	—		暗灰			Ⅲ類 外面16弁の菊花文スタンプ
図27 455	瓦	平瓦	小片	[9.1]	[9.5]	2.0	[224]		黒灰			
図27 456	搬入土器	南伊勢系 土鍋	口小片	—	—	[2]	[14]		灰白			口縁部外面黒変
図27 457	土製品	円盤	1/2強	径 4.2	—	1.2	[14]		黄灰			
図27 458	石製品	滑石鍋転用品 用途不明	底片	[13.6]	[14]	2.0	[319]		灰			加工途中ヵ 穿孔3ヶ所
図27 459	石製品	硯		[6.9]	[5.6]	1.0	[52.2]		灰黒			頁岩 高島硯 14cヵ
図27 460	石製品	火打石	完形	(2.0)	(2.3)	(1.8)	[10.5]		灰白			石英
図28 461	銅製品	銭	一部欠	径 2.3	孔径 0.6	厚さ 0.1	[2]					開元通寶 唐621年 真書
図28 462	銅製品	銭	完形	径 2.3	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					開元通寶 唐621年 真書
図28 463	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					開元通寶 唐621年 真書 背上月
図28 464	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					咸平元寶 北宋998年 真書
図28 465	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					咸平元寶 北宋998年 真書
図28 466	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.5	厚さ 0.1	3					皇宋通寶 北宋1038年 真書
図28 467	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					熙寧元寶 北宋1068年 真書
図28 468	銅製品	銭	完形	径 2.3	孔径 0.5	厚さ 0.1	2					政和通寶 北宋1111年 篆書 磨銭ヵ(側縁)
図28 469	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.5	厚さ 0.1	3					□元通寶
図28 470	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					銭種不明
図28 471	銅製品	銭	一部欠	径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	[2]					銭種不明
図28 補1	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					景徳元寶 北宋1004年
図28 補2	銅製品	銭	完形	径 3.4	孔径 0.8	厚さ 0.3						凞寧重寶 北宋1071年 篆書
図28 補3	銅製品	銭	完形	径 2.7	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					宣和通寶 北宋1119年 分階
図28 補4	銅製品	銭	完形	径 3.5	孔径 0.8	厚さ 0.3	9					崇寧通寶 当十銭 北宋1103年
図28 補5	銅製品	銭	完形	径 3.4	孔径 0.8	厚さ 0.3						崇寧通寶 当十銭 北宋1103年 銭3枚が固着 合計18.5g

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図28 補6	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.16	4					皇宋通寶 北宋1038年 真書
図29 472	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	8.3	4.8	2.4	[44]	C	黄灰	ナデ	板状	C 底部穿孔1ヶ所
図29 473	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.9	4.8	1.6	48	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図29 474	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	6.8	4.0	1.6	[38]	C+B	黄灰	ナデ	板状	
図29 475	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	4.4	1.8	35	C	黄橙	ナデ	板状	C
図29 476	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	4.4	1.8	36	C	灰黄	ナデ	板状	C
図29 477	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	4.4	1.8	41	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図29 478	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	5.0	2.0	41	B	黄橙	ナデ	板状	
図29 479	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	4.8	1.7	41	C+B	黄橙	ナデ	板状	口縁部一部黒変
図29 480	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.1	4.4	1.7	[41]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図29 481	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	4.8	1.7	36	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図29 482	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	4.3	1.7	49	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 483	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	3.9	2.0	37	C	灰黄	ナデ	板状	C
図29 484	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.0	5.0	2.1	42	C	黄橙	ナデ	板状	C′
図29 485	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.2	4.6	1.5	[39]	B	黄灰	ナデ	板状	
図29 486	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	4.6	1.7	41	B	黄橙	ナデ	板状	口縁端部1ヶ所煤付着
図29 487	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	4.8	1.7	44	B	黄橙	ナデ	板状	口縁端部1ヶ所煤付着
図29 488	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.1	4.8	1.9	[44]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁端部1ヶ所煤付着
図29 489	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	5.0	1.7	41	B	黄橙	ナデ	板状	口縁端部2ヶ所煤付着
図29 490	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	5.0	1.7	45	B	黄橙	ナデ	板状	口縁端部1ヶ所煤付着
図29 491	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.3	4.8	1.7	[40]	B	黄橙	ナデ	板状	口縁端部2ヶ所煤付着
図29 492	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.3	4.9	1.5	[49]	B	灰黄	ナデ	板状	歪み大
図29 493	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	4.2	1.7	42	B	黄灰	ナデ	板状	口縁端部1ヶ所煤付着
図29 494	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	4.5	1.7	[55]	B	灰黄	ナデ	板状	中心部に1ヶ所穿孔あり
図29 495	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.2	4.3	1.9	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	内外側面一部黒色に変色
図29 496	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.4	5.5	1.8	[48]	B	黄橙	ナデ	板状	
図29 497	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	5.0	1.8	48	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 498	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.5	5.3	1.5	[37]	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図29 499	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.5	2.2	54	B	灰黄	ナデ	板状	口縁端部煤付着
図29 500	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.3	4.8	1.7	[52]	B	黄灰	ナデ	板状	
図29 501	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.0	2.9	56	B	灰黄	ナデ	板状	歪み大
図29 502	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.7	1.9	45	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 503	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.8	1.9	60	B	黄橙	ナデ	板状	
図29 504	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.1	1.9	46	B	灰黄	ナデ	板状	

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図29 505	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.4	5.0	1.8	[46]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図29 506	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.3	5.0	1.7	[44]	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図29 507	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.3	1.5	50	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図29 508	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.6	5.0	1.8	[36]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図29 509	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.6	4.7	1.8	[57]	B	黄橙	ナデ	板状	
図29 510	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	5.0	1.6	[48]	B	黄灰	ナデ	板状	
図29 511	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.9	1.8	55	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 512	在地土器	ロクロ かわらけ・小	7/8	7.6	5.0	1.8	[47]	C+E	橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図29 513	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.6	5.0	1.9	[54]	B	黄灰	ナデ	板状	
図29 514	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	5.4	1.8	52	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 515	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.5	1.8	48	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図29 516	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.6	1.9	62	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図29 517	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	4.8	2.7	46	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 518	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.6	5.1	1.9	[49]	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 519	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	5.2	2.1	62	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 520	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.6	5.0	1.7	[43]	C+E	灰黄	ナデ	板状	
図29 521	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.7	5.5	1.7	53	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 522	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.7	5.2	1.8	[47]	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 523	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.2	1.9	57	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 524	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.1	1.7	54	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 525	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.7	6.0	1.7	[52]	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 526	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.7	5.1	1.9	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 527	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.3	1.8	50	B	灰黄	ナデ	板状	内外面煤付着
図29 528	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.7	4.7	2.0	[52]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図29 529	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	6.0	1.8	53	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 530	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	4.9	1.7	56	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 531	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.8	4.8	1.7	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 532	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.8	1.7	60	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 533	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.8	6.0	1.7	[53]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図29 534	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.0	1.8	47	C+E	灰黄	ナデ	板状	内面一部黒変
図29 535	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.1	1.7	59	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 536	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.9	4.8	1.7	[50]	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 537	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	4.3	1.9	56	B	灰黄	ナデ	板状	外面一部黒変
図29 538	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.8	5.0	2.0	[67]	B	灰黄	ナデ	板状	

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図29 539	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	4.2	1.9	53	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 540	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.0	5.4	1.6	57	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図30 541	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.8	5.0	1.8	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	C
図30 542	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	4.6	1.8	44	C+B	灰黄	ナデ	板状	C′　口縁部煤付着
図30 543	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.8	5.7	1.7	[39]	C	黄橙	ナデ	板状	内外面煤付着
図30 544	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.8	4.9	2.0	[55]	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 545	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.9	5.1	1.8	61	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 546	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.0	5.8	1.7	52	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 547	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.8	4.7	2.0	[53]	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図30 548	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.0	5.6	1.9	58	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 549	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	8.0	5.2	2.0	[52]	B	黄橙	ナデ	板状	
図30 550	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	8.0	5.0	2.0	[66]	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 551	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.1	4.9	1.8	58	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図30 552	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.1	5.1	1.9	43	C	橙	ナデ	板状	
図30 553	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	8.1	4.9	1.9	[49]	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図30 554	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.1	5.2	2.0	61	B	黄橙	ナデ	板状	
図30 555	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	8.2	5.4	1.8	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 556	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.4	5.4	1.9	76	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 557	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.2	5.3	2.0	[67]	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 558	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.2	5.5	1.8	61	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 559	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.4	5.4	2.0	76	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 560	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.0	5.2	2.2	[73]	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 561	在地土器	ロクロ かわらけ・小	7/8	7.1	3.9	2.2	[39]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C′
図30 562	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.1	4.5	2.1	[48]	C+E	灰黄	ナデ	板状	C
図30 563	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	4.5	2.0	44	C+B	黄橙	ナデ	板状	C′
図30 564	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	3.9	2.0	35	C	灰黄	ナデ	板状	C
図30 565	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	4.1	2.2	39	C	黄橙	ナデ	板状	C
図30 566	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	3.9	2.2	35	C+E	灰黄	ナデ	板状	C
図30 567	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.2	2.2	37	C	灰黄	ナデ	板状	
図30 568	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.9	5.1	2.2	[44]	C	黄橙	ナデ	板状	
図30 569	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	4.4	2.2	44	C+B	灰黄	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図30 570	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.5	4.6	2.2	[34]	C+E	灰黄	ナデ	板状	C′
図30 571	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.1	2.2	38	C	黄灰	ナデ	板状	C
図30 572	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.1	2.0	40	C+B	灰黄	ナデ	板状	C′

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図30 573	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.1	4.0	2.2	47	C+E	灰黄	ナデ	板状	C
図30 574	在地土器	ロクロかわらけ・小	口～底1/4	7.6	4.9	2.2	40	C	黄橙	ナデ	板状	C
図30 575	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	7.3	4.6	2.0	[37]	C	灰黄	ナデ	—	口縁部煤付着
図30 576	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.1	4.6	2.3	51	C	灰黄	ナデ	板状	C′　内外面煤付着
図30 577	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.3	4.6	2.2	[40]	C	灰黄	ナデ	板状	C 口縁端部内外面煤付着
図30 578	在地土器	ロクロかわらけ・中	7/8	10.2	6.9	2.5	[95]	C+E	灰黄	ナデ	板状	C′　内面薄く黒変
図30 579	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	11.2	6.1	3.0	93	C	黄橙	ナデ	板状	C
図30 580	在地土器	ロクロかわらけ・中	4/5	10.7	5.7	2.8	[99]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C
図30 581	在地土器	ロクロかわらけ・中	ほぼ完形	10.5	6.0	1.8	[98]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C′
図30 582	在地土器	ロクロかわらけ・中	ほぼ完形	10.7	6.6	2.7	[88]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図30 583	在地土器	ロクロかわらけ・中	ほぼ完形	10.7	6.3	1.8	[93]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C′
図30 584	在地土器	ロクロかわらけ・中	ほぼ完形	10.7	6.0.	1.8	[105]	C+E	黄灰	ナデ	—	C′
図30 585	在地土器	ロクロかわらけ・中	5/6	10.7	6.5	2.9	[100]	C	灰黄	ナデ	板状	C 内外面黒変
図30 586	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	10.5	6.4	2.9	108	C+E	黄橙	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図30 587	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	10.7	6.2	2.7	99	C	灰黄	ナデ	板状	C 口縁部煤付着 穿孔1ヶ所
図30 588	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	10.6	5.4	3.1	102	C	灰黄	—	板状	C 口縁部煤付着
図30 589	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	10.8	6.6	3.2	116	C	灰黄	ナデ	板状	C
図30 590	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	10.8	6.3	3.0	[118]	C	橙	ナデ	板状	C 内底外側面の一部煤付着
図30 591	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	10.8	6.0	3.0	115	C+B	灰黄	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図30 592	在地土器	ロクロかわらけ・中	ほぼ完形	10.8	6.0	2.9	[116]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図31 593	在地土器	ロクロかわらけ・中	ほぼ完形	10.9	6.4	2.9	[116]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図31 594	在地土器	ロクロかわらけ・中	ほぼ完形	11.5	6.6	2.7	[119]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図31 595	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	11.4	6.8	2.8	109	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図31 596	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	10.8	5.8	2.8	98	C	灰黄	ナデ	板状	C
図31 597	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	11.0	7.5	2.9	107	C	橙	ナデ	板状	C′
図31 598	在地土器	ロクロかわらけ・中	ほぼ完形	11.3	6.6	2.9	[111]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C
図31 599	在地土器	ロクロかわらけ・中	5/6	11.2	6.0	3.0	[107]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図31 600	在地土器	ロクロかわらけ・中	5/6	11.5	6.0	2.9	[99]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図31 601	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	11.3	7.0	3.0	125	C	灰黄	ナデ	板状	C
図31 602	在地土器	ロクロかわらけ・中	ほぼ完形	10.9	5.9	3.1	[103]	C	灰黄	ナデ	—	C
図31 603	在地土器	ロクロかわらけ・中	ほぼ完形	11.2	6.0	3.0	[126]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C′
図31 604	在地土器	ロクロかわらけ・中	3/4	11.1	6.4	3.2	[93]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図31 605	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	11.2	6.4	3.0	127	C	灰黄	ナデ	板状	C
図31 606	在地土器	ロクロかわらけ・中	完形	10.7	6.2	3.1	117	B	黄灰	ナデ	板状	C 口縁部内外面煤付着

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図31 607	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	11.3	6.0	3.2	112	C	黄橙	ナデ	—	C
図31 608	在地土器	ロクロ かわらけ・中	5/6	11.3	6.0	3.1	[123]	C+E	灰黄	ナデ	板状	C 内外面一部黒変
図31 609	在地土器	ロクロ かわらけ・中	3/4	11.4	6.6	3.3	[102]	C	黄橙	ナデ	板状	C′
図31 610	在地土器	ロクロ かわらけ・中	4/5	11.1	5.9	3.5	[140]	B	灰黄	ナデ	板状	
図31 611	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	11.9	6.8	3.2	148	B	黄橙	ナデ	板状	
図31 612	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	11.9	7.0	3.3	[149]	B	黄灰	ナデ	板状	
図31 613	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.2	7.6	3.2	158	B	黄橙	ナデ	板状	
図31 614	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.5	8.3	3.1	195	B	灰黄	ナデ	板状	
図31 615	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.3	8.3	3.0	[165]	B	黄橙	ナデ	板状	
図31 616	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.6	7.8	3.2	187	B	黄橙	ナデ	板状	
図31 617	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.0	7.2	3.2	190	B	黄橙	ナデ	板状	
図31 618	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.6	7.6	3.4	[191]	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図31 619	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.0	8.0	3.4	[160]	B	灰黄	ナデ	板状	
図31 620	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.6	8.6	3.3	[170]	B	灰黄	ナデ	板状	
図31 621	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.9	7.7	3.7	[174]	B	灰黄	ナデ	板状	
図31 622	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.9	7.2	3.5	[179]	C+E	黄灰	ナデ	板状	C
図31 623	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.6	8.0	3.4	[230]	B	黄橙	ナデ	板状	
図31 624	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.8	7.1	3.4	[154]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図31 625	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	13.1	7.3	3.2	[155]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C′
図32 626	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.2	7.6	3.5	[169]	C	橙	ナデ	板状	C 底部内外面黒変
図32 627	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.5	9.2	3.1	[198]	B	灰黄	ナデ	板状	
図32 628	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.2	7.8	3.0	[166]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C′
図32 629	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.2	8.0	3.3	[176]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図32 630	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	13.0	7.4	3.2	[153]	C+B	橙	ナデ	板状	C
図32 631	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.6	7.4	3.3	169	C	黄橙	ナデ	板状	C
図32 632	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.3	6.8	3.3	167	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図32 633	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.6	7.9	3.3	199	C+B	黄橙	ナデ	板状	C
図32 634	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	13.4	7.5	3.4	[139]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C′
図32 635	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.1	7.9	3.4	[172]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C′
図32 636	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.3	8.0	3.4	183	C	灰黄	ナデ	板状	C
図32 637	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.9	7.2	3.8	156	C	黄橙	ナデ	板状	C
図32 638	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.1	7.2	3.4	[154]	B	黄橙	ナデ	板状	
図32 639	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.4	7.5	3.4	[159]	C+B	橙	ナデ	板状	C′
図32 640	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.2	7.5	3.3	[178]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図32 641	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.6	6.8	3.2	[190]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C
図32 642	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	13.3	7.1	3.2	[132]	C	黄橙	ナデ	板状	C′
図32 643	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.2	7.1	3.5	141	C	橙	ナデ	板状	C
図32 644	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.4	7.8	3.6	[181]	C+E	橙	ナデ	板状	C′
図32 645	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.1	7.1	3.6	[201]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C′　口縁部内外面黒変
図32 646	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.3	7.8	3.4	159	C	灰黄	ナデ	板状	C
図32 647	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.9	7.6	3.4	[157]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C
図32 648	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.3	7.6	3.3	[176]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図32 649	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.5	7.5	3.4	[150]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図32 650	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.7	7.5	3.4	[133]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図32 651	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.0	7.5	3.5	[157]	C	灰黄	ナデ	板状	C′
図32 652	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	13.1	8.2	3.7	[151]	C+B	黄灰	ナデ	板状	C
図32 653	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.3	7.4	3.5	[155]	C	橙	ナデ	板状	C
図32 654	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.3	7.5	3.5	172	C+B	黄橙	ナデ	板状	C
図32 655	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.9	8.0	3.6	[191]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図33 656	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.3	7.1	3.0	[165]	B	灰黄	ナデ	板状	
図33 657	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.1	7.4	3.3	[193]	B	灰黄	ナデ	板状	
図33 658	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.3	8.0	3.4	[174]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図33 659	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	12.4	7.6	3.5	[171]	B	橙	ナデ	板状	
図33 660	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.3	6.8	3.5	194	B	灰黄	ナデ	板状	
図33 661	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.0	7.0	3.4	184	B	灰黄	ナデ	板状	
図33 662	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.2	7.5	3.6	[164]	C	橙	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図33 663	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.2	7.9	3.8	[201]	C+E	灰黄	ナデ	板状	C
図33 664	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	12.4	7.8	3.8	[183]	B	灰黄	ナデ	板状	二次的被熱ヵ　歪み大
図33 665	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	12.5	8.8	3.3	[176]	B	灰黄	ナデ	板状	
図33 666	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.9	7.5	3.7	[147]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図33 667	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.7	6.0	3.7	185	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図33 668	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.7	8.0	3.7	[219]	C	黄橙	ナデ	板状	C 内底面に銅銭1枚付着 口縁部煤付着
図33 669	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.0	7.0	3.8	175	C+B	黄橙	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図33 670	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.3	7.7	3.8	[176]	C+E	灰黄	ナデ	板状	C
図33 671	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.2	7.7	3.8	[203]	C+B	橙	ナデ	板状	C′
図33 672	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	14.0	7.0	4.1	[201]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図33 673	国産陶器	瀬戸 入子	完形	3.9	2.8	1.4	13		灰			片口部整形
図33 674	国産陶器	瀬戸 入子	完形	4.5	3.2	1.2	14		灰黄			

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図33 675	国産陶器	常滑 片口鉢	1/3	(32.2)	(15.0)	11.1	[914]		褐			Ⅱ類 片口2ヶ所ヵ
図33 676	国産陶器	常滑 片口鉢	口小片	—	—	[11.2]	[312]		褐			Ⅱ類 8～9型式
図33 677	在地土器	瓦質土器 火鉢	口～底片	(30.0)	(20.4)	7.1	[30]		赤橙			体部内面に菊花文スタンプ 678と同一
図33 678	在地土器	瓦質土器 火鉢	口～底片	(30.0)	(20.4)	7.1	[30]		赤橙			体部内面に菊花文スタンプ 678と同一
図33 679	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.5	厚さ 0.1	3					咸平元寶ヵ 北宋998年 真書
図34 680	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.6	1.8	49	B	灰黄	ナデ	板状	
図34 681	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.1	1.8	56	B	灰黄	ナデ	板状	
図34 682	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	5.1	1.7	39	C+E	黄橙	—	—	内底面に黒色の付着物
図34 683	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.1	5.3	1.7	62	B	黄橙	ナデ	板状	
図34 684	在地土器	ロクロ かわらけ・小	1/2	7.7	5.7	1.9	[39]	B	黄橙	ナデ	板状	
図34 685	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	6.8	4.3	1.8	[30]	C+B	灰白	ナデ	板状	C
図34 686	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	5.6	1.9	57	B	灰黄	ナデ	板状	
図34 687	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.7	4.8	2.0	[51]	B	灰黄	ナデ	—	
図34 688	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.6	2.0	69	B	黄橙	ナデ	板状	
図34 689	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.8	4.0	2.0	37	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図34 690	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.4	4.4	2.0	[44]	C	黄橙	ナデ	板状	
図34 691	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.0	4.2	2.0	33	C	橙	ナデ	板状	口縁付近黒変
図34 692	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	4.0	2.0	41	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図34 693	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.9	4.0	2.2	40	C+B	灰黄	ナデ	板状	C
図34 694	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.5	4.4	2.3	[50]	C	灰黄	ナデ	板状	
図34 695	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ完形	10.4	6.0	2.6	[103]	C+E	橙			口縁部煤付着
図34 696	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ完形	10.8	6.3	2.8	[97]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図34 697	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	11.3	6.2	3.0	111	C	黄橙	ナデ	板状	外底面黒変
図34 698	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ完形	11.6	5.8	3.2	[116]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C
図34 699	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口1/4～底完	(13.0)	7.5	3.2	[128]	B	黄橙	ナデ	—	
図34 700	在地土器	ロクロ かわらけ・大	7/10	12.4	7.5	3.2	[162]	B	黄橙	ナデ	板状	
図34 701	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ完形	13.2	7.9	3.3	[174]	C+E	橙	ナデ	—	C
図34 702	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ完形	13.5	7.6	3.6	[170]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図34 703	国産陶器	瀬戸 卸皿	口～胴片	—	—	[4.5]	[33]		灰			前Ⅳ～中Ⅰ期ヵ
図34 704	銅製品	銭	完形	径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					開元通寶 唐621年 真書
図34 705	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					淳化元寶 北宋990年 真書
図34 706	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					天聖元寶 北宋1023年 真書
図34 707	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.8	厚さ 0.1	3					皇宋通寶 北宋1086年 篆書
図34 708	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					嘉祐通寶 北宋1056年 真書

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図34 709	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					元豊通寶 北宋1078年 行書
図34 710	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					元豊通寶 北宋1078年 行書
図34 711	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					元豊通寶 北宋1078年 行書
図34 712	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					元祐通寶 北宋1086年 行書
図34 713	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					元符通寶 北宋1098年 行書
図35 714	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/5	7.6	5.6	1.4	[37]	B	灰黄	ナデ	板状	
図35 715	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.0	5.5	1.6	[43]	B	灰黄	ナデ	板状	
図35 716	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.5	1.6	42	C	灰白	ナデ	板状	C
図35 717	在地土器	ロクロ かわらけ・小	1/2	7.6	4.9	1.8	[32]	B	灰黄	ナデ	板状	
図35 718	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	4.6	1.8	32	C	黄橙	ナデ	板状	C
図35 719	在地土器	ロクロ かわらけ・小	1/2	8.3	5.0	2.0	[48]	B	灰	ナデ	板状	
図35 720	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	4.2	2.1	37	C	黄橙	ナデ	板状	C
図35 721	在地土器	ロクロ かわらけ・中	3/5	(10.9)	5.2	3.1	[63]	C	灰白	ナデ	板状	C 外面薄く黒変
図35 722	在地土器	ロクロ かわらけ・大	1/2	(12.2)	7.0	3.3	[114]	B	黄橙	ナデ	—	
図35 723	在地土器	ロクロ かわらけ・大	1/2	(12.8)	7.0	3.6	[105]	B	黄橙	ナデ	板状	
図35 724	国産陶器	尾張型 山茶碗	口片	—	—	[5.7]	[79]		橙			
図35 725	国産陶器	常滑 転用研磨具	甕片	6.0	4.4	1.1	27		褐			
図35 726	国産陶器	珠洲 小壺	肩片	—	—	[2.2]	[11]		灰			
図35 727	石製品	砥石	一端欠	[4.0]	3.4	[1.3]	[31.7]		白			鳴滝仕上砥ヵ 二次的被熱
図35 728	石製品	砥石	一端欠	[4.2]	3.0	1.2	[22.7]		暗灰			天草中砥
図35 729	石製品	砥石	一端欠	[1.02]	3.7	1.0	[71.3]		灰			鳴滝奥殿仕上砥
図35 730	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					開元通寶 唐621年 行書
図35 731	銅製品	銭	2/3	径 2.2	孔径 0.6	厚さ 0.1	[1]					開元通寶 唐621年 行書
図35 732	銅製品	銭	ほぼ 完形	径 2.6	孔径 0.6	厚さ 0.1	[3]					祥符通寶 北宋1009年 行書
図35 733	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	2					聖宋元寶 北宋1101年 行書
図35 734	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	4					景定通寶 南宋1260年 真書
図35 735	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	5.2	1.4	[38]	C	灰黄	ナデ	板状	
図35 736	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	5.4	1.3	[34]	C	灰黄	ナデ	板状	二次的被熱ヵ
図35 737	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	5.0	1.6	38	C	灰黄	ナデ	板状	
図35 738	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.9	5.4	1.8	[43]	C	灰黄	ナデ	板状	
図35 739	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	13.3	7.0	3.3	[142]	C	灰黄	ナデ	板状	
図35 740	石製品	砥石	両端欠	[13.4]	7.9	7.2	[1155]		灰			天草荒砥
図35 741	瓦	平瓦	小片	[9.4]	[8.6]	2.8	[263]		灰			熨斗瓦に再加工 穿孔1ヶ所
図36 742	国産陶器	瀬戸 入子	4/5	5.6	2.8	3.1	[27]		灰緑			片口整形 内底面中央凹み 内面煤付着

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図36 743	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.7	4.4	1.7	43	B	黄橙	ナデ	板状	
図36 744	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.8	4.6	1.8	44	B	灰黄	ナデ	板状	打ち欠き 口縁部煤付着
図36 745	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.2	4.6	1.7	[40]	C	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図36 746	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	6.9	5.4	1.6	[40]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 747	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	6.9	5.0	1.7	[41]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 748	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	4.4	1.8	42	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図36 749	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.0	4.4	1.8	[47]	B	灰黄	ナデ	板状	打ち欠き 口縁部煤付着
図36 750	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	6.9	4.8	1.9	[46]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図36 751	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.9	4.6	1.8	46	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図36 752	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.8	5.1	1.7	51	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着 歪み大
図36 753	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	6.9	4.6	2.1	[37]	C+B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図36 754	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.9	4.4	1.9	42	C	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図36 755	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.1	4.1	2.3	[36]	C	黄灰	ナデ	板状	
図36 756	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.2	4.2	1.8	[35]	C	黄橙	ナデ	板状	
図36 757	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.2	5.0	1.8	[56]	B	黄灰	ナデ	板状	
図36 758	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.0	4.4	1.8	[45]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 759	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.2	5.1	1.8	[53]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 760	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.0	5.0	1.6	[38]	B	黄灰	ナデ	板状	
図36 761	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	4.6	1.6	47	B	灰黄	ナデ	―	口縁部一部黒変
図36 762	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	5.0	1.8	49	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図36 763	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.0	4.6	2.0	[43]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図36 764	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	5.6	2.7	57	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 765	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	5.2	1.8	57	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 766	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	4.6	1.9	53	B	灰黄	ナデ	―	口縁部煤付着
図36 767	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.4	4.2	1.8	[39]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 768	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	4.4	1.8	49	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 769	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	5.0	1.8	53	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 770	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.4	5.1	1.9	[56]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 771	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	3.8	2.0	42	B	黄橙	ナデ	板状	
図36 772	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.3	5.2	1.8	[50]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 773	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.6	1.8	51	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 774	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.3	5.0	1.9	[52]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図36 775	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.8	1.9	48	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着 歪み大
図36 776	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	5.4	1.7	59	B	灰黄	ナデ	板状	

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図36 777	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.6	4.2	1.9	[47]	B	灰黄	ナデ	板状	歪み大
図36 778	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.3	5.0	1.8	61	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図36 779	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.3	5.2	1.8	59	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 780	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.5	5.0	1.7	[53]	B	灰黄	ナデ	—	
図36 781	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.1	5.1	1.8	[52]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 782	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.6	5.4	1.8	61	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 783	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.3	5.2	1.9	52	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図36 784	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.3	4.1	1.9	57	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 785	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.6	5.0	1.9	[63]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 786	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.6	4.9	1.8	[57]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 787	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.1	4.8	2.1	[55]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 788	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.5	5.0	1.8	[57]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 789	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.7	5.6	1.9	[56]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 790	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.8	5.0	2.1	[66]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 791	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.9	5.0	1.9	[57]	B+C	黄橙	ナデ	板状	
図36 792	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.8	4.6	1.8	[57]	B	黄橙	ナデ	—	
図36 793	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.7	5.0	1.9	50	B	黄橙	ナデ	板状	
図36 794	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.8	5.2	2.0	[59]	B	灰黄	ナデ	板状	内面に黒色の付着物
図36 795	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	(7.8)	5.0	1.5	[46]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 796	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	8.0	5.3	2.0	[63]	B	灰黒	ナデ	板状	
図36 797	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	8.2	5.2	1.8	[66]	B	灰黄	ナデ	板状	
図37 798	在地土器	ロクロかわらけ・中	ほぼ完形	9.7	6.0	3.1	[89]	C	橙	ナデ	板状	
図37 799	在地土器	ロクロかわらけ・中	1/2	10.2	5.8	2.6	[48]	C	橙	ナデ	板状	内外面黒変
図37 800	在地土器	ロクロかわらけ・中	4/5	10.4	5.8	3.1	[112]	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図37 801	在地土器	ロクロかわらけ・中	3/5	10.8	6.7	3.0	[80]	C+B	橙	ナデ	—	
図37 802	在地土器	ロクロかわらけ・中	3/4	11.0	7.2	3.0	[96]	B	不明	ナデ	板状	内外面黒変
図37 803	在地土器	ロクロかわらけ・中	4/5	10.8	7.0	3.1	[115]	C+B	黄灰	ナデ	—	
図37 804	在地土器	ロクロかわらけ・中	3/5	10.2	5.6	3.3	[114]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図37 805	在地土器	ロクロかわらけ・中	4/5	11.2	6.4	3.1	[112]	C	灰黄	ナデ	板状	C 打ち欠きヵ
図37 806	在地土器	ロクロかわらけ・中	ほぼ完形	10.3	6.1	3.2	[106]	C	橙	ナデ	板状	C
図37 807	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	12.5	7.2	3.0	[147]	B	灰黄	ナデ	板状	煤付着
図37 808	在地土器	ロクロかわらけ・大	3/4	12.0	7.4	3.4	[127]	B	橙	ナデ	板状	
図37 809	在地土器	ロクロかわらけ・大	完形	11.6	6.0	3.4	143	B	黄橙	ナデ	板状	歪み大
図37 810	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	11.9	7.3	3.4	[157]	B	灰黄	ナデ	板状	

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図37 811	在地土器	ロクロかわらけ・大	ほぼ完形	11.9	6.8	3.4	[167]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図37 812	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	11.9	7.5	3.4	[152]	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図37 813	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	12.0	7.6	3.3	[159]	B	灰黄	ナデ	板状	
図37 814	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	12.3	7.6	3.5	[162]	B	灰黄	ナデ	板状	
図37 815	在地土器	ロクロかわらけ・大	ほぼ完形	12.2	8.0	3.3	[178]	B	灰黄	ナデ	板状	内外面薄く黒変
図37 816	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	12.3	7.4	3.3	[137]	B	黄橙	ナデ	板状	
図37 817	在地土器	ロクロかわらけ・大	3/4	12.3	8.0	3.4	[202]	B	灰黄	ナデ	板状	
図37 818	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	12.4	7.8	3.3	[172]	B	黄灰	ナデ	板状	
図37 819	在地土器	ロクロかわらけ・大	ほぼ完形	12.4	7.4	3.2	[149]	C+B	灰黄	ナデ	—	C
図37 820	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	12.6	8.0	3.2	[156]	B	灰黄	ナデ	板状	内外面黒変
図37 821	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	12.4	7.6	3.4	[151]	B	灰黄	ナデ	板状	
図37 822	在地土器	ロクロかわらけ・大	3/4	12.6	6.8	1.4	[154]	B	灰黄	ナデ	板状	
図37 823	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	12.7	8.0	3.3	[160]	B	黄橙	ナデ	板状	
図37 824	在地土器	ロクロかわらけ・大	2/3	12.7	7.6	3.5	[127]	B+C	灰黄	ナデ	板状	
図37 825	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	13.3	7.2	3.8	[174]	B+C	灰黄	ナデ	板状	
図38 826	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	6.8	4.8	1.6	47	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部と外底面に煤付着
図38 827	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	6.9	4.8	1.7	47	B	灰黄	ナデ	—	口縁部煤付着 二次的被熱により器面剥離
図38 828	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	7.2	5.6	1.5	[38]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 829	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.1	5.0	1.2	43	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 830	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.2	5.0	1.6	51	B	灰黄	ナデ	—	
図38 831	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.3	4.8	1.6	[43]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 832	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.3	4.6	1.5	[50]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 833	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.0	5.2	1.7	50	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 834	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.3	5.2	1.7	52	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 835	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.3	4.8	1.6	[53]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 836	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.4	4.6	1.4	[49]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図38 837	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.4	4.6	1.6	50	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図38 838	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.3	4.8	1.6	51	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 839	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	7.3	5.0	1.7	[47]	B	橙	ナデ	板状	
図38 840	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.3	5.2	1.7	51	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 841	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.5	4.4	1.5	[50]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 842	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.4	5.1	1.6	[41]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図38 843	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.4	4.6	1.7	47	B	灰黄	ナデ	板状	歪み大
図38 844	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.7	5.4	1.7	53	B	灰黄	ナデ	板状	

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図38 845	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.8	1.8	50	B	灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図38 846	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.0	1.8	57	B	灰黄	ナデ	—	内外面黒変
図38 847	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	5.0	1.7	50	B	灰黄	ナデ	板状	内外面黒変
図38 848	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.1	1.7	49	B	灰黄	ナデ	—	
図38 849	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.3	4.6	1.7	[50]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 850	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.2	4.8	1.8	[45]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 851	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	4.3	1.8	[43]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 852	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	4.7	1.8	[49]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 853	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.4	1.9	52	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 854	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.6	1.8	53	B	灰	ナデ	—	口縁部煤付着 内面鉄分様の付着物
図38 855	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.6	5.2	1.9	[58]	B	灰黄	ナデ	—	
図38 856	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.1	6.2	1.7	63	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 857	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	4.8	1.7	47	C+E	灰黄	ナデ	板状	
図38 858	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	5.0	1.9	58	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 859	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.8	1.8	51	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 860	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.4	4.4	1.9	[44]	B	橙	ナデ	板状	
図38 861	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.1	1.6	59	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 862	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.0	4.6	1.9	67	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 863	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.8	5.0	1.9	[58]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 864	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.4	5.0	2.0	[63]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 865	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.7	5.6	2.1	[60]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 866	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.3	4.4	2.2	[32]	C+B	黄橙	ナデ	板状	表面に鉄分付着
図38 867	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	4.8	2.0	62	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 868	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.9	5.2	1.7	[58]	B	灰	ナデ	板状	内外面黒変
図38 869	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.9	5.2	2.0	68	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 870	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	8.2	4.6	1.9	[65]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 871	在地土器	ロクロ かわらけ・中	4/5	10.4	5.2	3.3	[95]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図38 872	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	10.4	6.3	3.2	110	C	不明	ナデ	—	C 内外面全面に煤付着
図38 873	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	10.8	6.0	3.1	102	C	灰黄	ナデ	板状	内外面煤付着
図38 874	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	11.8	7.0	3.3	[163]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 875	在地土器	ロクロ かわらけ・中	4/5	11.1	6.6	2.9	[118]	C	黄橙	ナデ	板状	内外面煤付着
図38 876	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ完形	11.0	6.2	3.3	[103]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C 底部外面煤付着
図38 877	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	11.8	7.2	3.4	[159]	B	橙	ナデ	板状	
図38 878	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ完形	11.7	7.3	3.1	[160]	B	橙	ナデ	板状	

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図38 879	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ完形	11.9	7.3	3.3	[169]	B	灰黄	ナデ	—	
図39 880	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	12.1	7.9	3.1	[129]	B	橙	ナデ	板状	
図39 881	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	11.9	7.3	3.4	[152]	B	黄橙	ナデ	板状	
図39 882	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	11.9	7.0	3.5	[165]	B	橙	ナデ	板状	
図39 883	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	11.9	7.0	3.4	166	B	橙	ナデ	板状	
図39 884	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	12.0	7.4	3.1	[107]	B	橙	ナデ	板状	
図39 885	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.1	7.0	3.4	[141]	B	灰黄	ナデ	—	
図39 886	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ完形	12.1	7.6	3.3	[176]	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 887	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.0	7.0	3.3	[162]	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 888	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ完形	12.1	7.6	3.4	[176]	B+C	灰黄	ナデ	—	
図39 889	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ完形	12.1	7.4	3.3	[171]	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 890	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ完形	12.2	7.4	3.5	[178]	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 891	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.2	7.0	3.4	[171]	B	黄灰	ナデ	板状	
図39 892	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ完形	12.3	6.8	3.4	[178]	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 893	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ完形	12.3	7.5	3.3	[173]	B	灰黄	ナデ	—	
図39 894	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.3	8.4	3.6	166	C+E	橙	ナデ	板状	C
図39 895	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/5	12.4	7.4	3.2	[155]	B	橙	ナデ	板状	
図39 896	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ完形	12.4	7.3	3.3	[194]	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 897	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.4	7.5	1.7	[200]	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 898	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.4	7.4	3.3	[146]	B	橙	ナデ	板状	内外側面に煤付着
図39 899	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ完形	12.6	7.5	3.3	[156]	C	灰黄	ナデ	板状	
図39 900	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ完形	12.7	7.9	3.4	[210]	B	黄橙	ナデ	板状	
図39 901	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.7	8.2	3.2	[176]	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 902	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.8	7.8	3.5	189	B	黄灰	ナデ	板状	
図39 903	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.8	7.0	3.6	159	C+E	黄灰	ナデ	板状	
図39 904	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ完形	12.5	7.2	3.3	[176]	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 905	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.9	8.6	3.3	196	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 906	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.6	7.4	3.2	180	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 907	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	13.3	7.6	3.4	[169]	B	黄灰	ナデ	板状	
図39 908	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.3	7.0	3.5	160	C	灰黄	ナデ	板状	C
図39 909	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.6	6.9	3.2	168	B	黄橙	ナデ	板状	
図39 910	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ完形	12.6	8.2	3.1	[201]	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 911	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.3	7.6	3.5	169	C	黄灰	ナデ	板状	C
図39 912	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.6	7.0	3.5	172	B	灰黄	ナデ	—	

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図39 913	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	13.8	7.2	3.4	[116]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図39 914	石製品	滑石鍋 転用スタンプ	小片	4.8	3.8	1.3	33		灰黒			西彼杵産 製作途中ヵ 切金文
図40 915	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	5.2	1.9	[52]	B	灰黄	ナデ	—	全体に鉄分のような付着物あり
図40 916	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	6.7	3.8	1.9	[26]	B	灰黄	ナデ	—	C
図40 917	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	6.9	4.5	1.8	[35]	C+B	黄灰	ナデ	板状	C
図40 918	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.3	5.2	1.8	[34]	C	黄橙	ナデ	板状	C 歪み大
図40 919	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.6	4.4	1.7	38	B	灰黄	ナデ	—	
図40 920	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.9	4.8	1.5	[36]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図40 921	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.4	5.0	2.1	[49]	B	黄灰	ナデ	板状	C′
図40 922	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.3	4.8	2.1	[42]	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図40 923	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.1	5.0	1.9	[57]	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 924	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	4.8	1.8	51	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 925	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.0	4.6	1.8	[40]	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 926	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.3	5.2	1.7	[53]	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 927	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.1	5.3	1.6	[42]	B	灰	ナデ	板状	
図40 928	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.6	1.8	46	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 929	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.5	4.8	1.7	[54]	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 930	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.5	4.8	1.7	[57]	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 931	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	5.1	1.6	45	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 932	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	4.8	1.9	58	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 933	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.6	5.2	1.7	[55]	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 934	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.6	5.0	1.9	[56]	B	橙	ナデ	板状	
図40 935	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.6	5.0	1.8	[43]	B	灰黄	ナデ	—	
図40 936	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	8.3	6.0	2.0	[68]	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 937	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.9	5.4	2.1	[58]	B	灰黄	ナデ	—	
図40 938	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.9	4.6	2.1	[54]	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 939	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.0	4.6	2.1	58	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図40 940	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	8.2	5.7	1.9	[60]	B	灰黄	ナデ	—	
図40 941	在地土器	ロクロ かわらけ・中	4/5	10.5	5.4	3.0	[92]	C	灰黄	ナデ	板状	C 口縁部煤付着 歪み大
図40 942	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ完形	10.8	5.8	3.0	[104]	C	灰	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図40 943	在地土器	ロクロ かわらけ・中	4/5	10.2	5.2	2.9	[90]	C+B	黄橙	ナデ	板状	
図40 944	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ完形	10.9	6.7	2.8	[101]	C	灰黄	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図40 945	在地土器	ロクロ かわらけ・中	2/3	11.2	7.2	2.9	[97]	C+B	橙	ナデ	板状	
図40 946	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.3	7.0	3.2	[147]	C	灰黄	ナデ	板状	C

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図40 947	在地土器	ロクロかわらけ・大	2/3	13.2	7.0	3.6	[112]	C	灰黄	ナデ	—	C
図40 948	在地土器	ロクロかわらけ・大	2/3	13.4	8.2	3.4	[154]	C+B	橙	ナデ	板状	
図40 949	在地土器	ロクロかわらけ・大	1/3	(13.3)	(7.6)	3.3	[67]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図40 950	在地土器	ロクロかわらけ・大	2/3	13.7	8.2	3.3	[106]	C	黄灰	ナデ	—	C
図40 951	在地土器	ロクロかわらけ・大	2/3	13.5	7.6	3.5	[129]	C	灰黄	ナデ	—	C
図40 952	在地土器	ロクロかわらけ・大	ほぼ完形	14.2	8.7	3.4	[190]	C+B	黄灰	ナデ	板状	C
図41 953	国産陶器	常滑壺	胴～底1/4	—	(8.6)	[5.5]	[63]		暗褐			
図41 954	国産陶器	常滑壺	胴～底1/6	—	—	[5.6]	[57]		暗褐			二次的被熱で器面荒れる
図41 955	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.2	4					皇宋通寶 北宋1038年 篆書
図41 956	在地土器	ロクロかわらけ・小	2/3	7.6	4.0	2.6	[48]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図41 957	在地土器	鍔釜	口小片	—	—	[5.9]	[55]		灰白			鍔以下は焦げ付着
図41 958	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.3	5.2	1.6	[40]	B	灰黄	ナデ	板状	
図41 959	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.2	5.0	1.9	[50]	B	灰黄	ナデ	—	
図41 960	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	12.9	7.0	3.6	[162]	C+B	黄橙	ナデ	—	C　底部粘土板貼り付けヵ 二重に糸切痕
図41 961	舶載磁器	龍泉窯系青磁碗	口小片	—	—	[3.5]	[11.7]		緑			Ⅳ類ヵ
図41 962	国産陶器	瀬戸折縁深皿	口・底小片	—	—	—	[75]		灰緑			中Ⅱ～Ⅲ期ヵ
図41 963	国産陶器	瀬戸折縁深皿	口小片	—	—	[5.6]	[11.9]		灰緑			中Ⅱ～Ⅲ期ヵ
図41 964	国産陶器	常滑壺	底部片	—	8.2	[5.7]	[234.6]		暗褐			
図41 965	国産陶器	常滑転用研磨具	甕片	5.0	3.8	2.2	[52]		褐			
図41 966	石製品	砥石	両端欠	[5.1]	2.1	1.3	30		黄灰			上野中砥 15c以降ヵ
図41 967	鉄製品	鍋弦ヵ	完形	20.0	0.5	0.4	15					
図41 968	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					開元通寶 唐621年 真書
図41 969	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					皇宋通寶 北宋1038年 篆書
図42 970	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.5	4.4	2.0	[53]	B	黄灰	ナデ	板状	
図42 971	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.5	4.8	2.0	[51]	B	灰黄	ナデ	—	
図42 972	在地土器	ロクロかわらけ・中	4/5	11.3	6.0	3.2	[127]	B	黄橙	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図42 973	国産陶器	常滑片口鉢	口～底片	—	—	[10.1]	[280]		明茶褐			Ⅱ類 8～9型式
図42 974	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					政和通寶 北宋1111年 篆書
図42 975	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.4	5.4	1.8	[55]	B	灰黄	ナデ	板状	
図42 976	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.4	5.2	2.0	[65]	B	灰黄	ナデ	板状	
図42 977	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	6.9	3.8	2.4	[38]	C+B	黄灰	ナデ	板状	
図42 978	在地土器	ロクロかわらけ・中	4/5	10.6	5.6	1.8	[84]	C+B	黄橙	ナデ	板状	
図42 979	在地土器	ロクロかわらけ・大	3/4	11.7	7.2	3.1	[143]	B	灰黄	ナデ	板状	
図42 980	在地土器	ロクロかわらけ・大	3/4	12.9	8.8	3.6	[185]	B	灰黄	ナデ	板状	

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図42 981	国産陶器	常滑 壺	底4/5	—	(9.0)	[3.9]	[250]		橙			
図42 982	国産陶器	常滑？ 片口鉢Ⅱ類？	口小片	—	—	[5.5]	[40]		灰橙			
図42 983	石製品	砥石	両端欠	[11.0]	3.5	0.9	[59.6]		灰白			鳴滝仕上砥 黒色系漆付着
図42 984	銅製品	釘隠しヵ	完形	径 1.4	孔径 0.4	厚さ 0.4	1.0 未満					中心に小孔
図42 985	銅製品	銭	完形	2.3	孔径 0.6	厚さ 0.1	0					景徳元寶 北宋1004年 真書
図42 986	銅製品	銭	完形	2.6	孔径 0.7	厚さ 0.1	0					皇宋通寶 北宋1038年 篆書
図42 987	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	13.2	7.4	3.2	[135]	B	橙	ナデ	板状	C′　歪み大
図42 988	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.8	4.6	2.0	[50]	B	灰黄	ナデ	—	
図42 989	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	11.9	7.8	3.6	175	B	黄灰	ナデ	板状	
図42 990	在地土器	瓦質土器 火鉢	口小片	—	—	[9.1]	[660]		黄灰			ⅠA類
図42 991	石製品	砥石	両端欠	[7.6]	[2.8]	1.1	[44]	B	淡黄			伊予中砥
図42 992	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					祥符元寶 北宋1009年 真書
図42 993	骨製品	笄	両端欠	[11.9]	1.6	0.3	[6]					
図43 994	在地土器	ロクロかわらけ 内折れ・極小	ほぼ 完形	3.9	3.5	0.6	[9]	C+E	黄橙	ナデ	—	
図43 995	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2 ～底完	7.8	5.5	1.7	[47]	B	橙	ナデ	板状	
図43 996	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	6.9	4.9	1.6	39	B	黄橙	ナデ	板状	
図43 997	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.9	1.6	46	B	灰黄	ナデ	板状	
図43 998	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.8	1.7	5.6	[56]	B	灰黄	ナデ	板状	
図43 999	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2 ～底完	7.7	5.3	1.8	[43]	B	灰黄	ナデ	板状	
図43 1000	在地土器	ロクロ かわらけ・小	一部欠	(7.5)	5.5	1.7	[50]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部打ち欠き、煤付着
図43 1001	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口7/8 ～底完	7.8	5.6	1.7	[54]	B	灰黄	ナデ	—	
図43 1002	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	5.0	1.6	[42]	B	黄橙	ナデ	板状	
図43 1003	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口3/4 ～底完	8.1	5.1	1.8	[57]	C+E	黄橙	ナデ	板状	
図43 1004	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.3	5.0	1.8	[42]	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図43 1005	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	4.5	2.1	45	C+E	灰黄	ナデ	板状	C
図43 1006	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/4 ～底完	7.1	4.6	2.2	[37]	C+B	黄橙	ナデ	—	C
図43 1007	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.9	4.2	2.1	43	C	黄橙	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図43 1008	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.1	6.0	1.9	[76]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図43 1009	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	5.0	2.0	37	C	黄橙	ナデ	板状	C　内面煤付着
図43 1010	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	6.6	4.5	1.9	[34]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図43 1011	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	4.2	1.9	34	C	黄橙	ナデ	板状	C 外面1ヶ所ケズリ
図43 1012	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.2	1.8	60	B	灰黄	ナデ	板状	
図43 1013	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	5.1	1.9	49	B	黄橙	ナデ	板状	
図43 1014	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口2/3 ～底完	6.8	4.2	2.1	[32]	C	橙	ナデ	板状	C

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図43 1015	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.5	5.2	2.0	[36]	B	黄橙	ナデ	板状	
図43 1016	在地土器	ロクロ かわらけ・中	1/2	(9.8)	(6.0)	2.8	[47]	C+B	黄灰	ナデ	板状	C
図43 1017	在地土器	ロクロ かわらけ・中	1/2強	(10.4)	(5.9)	2.9	[49]	C+B	黄灰	ナデ	板状	C 口縁部打ち欠き、煤付着
図43 1018	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口3/4 ～底完	11.8	7.3	3.1	[141]	B	灰黄	ナデ	板状	
図43 1019	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口3/4 ～底完	12.3	7.7	3.1	[168]	B	黄灰	ナデ	板状	
図43 1020	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.0	6.8	3.5	[168]	C	黄橙	ナデ	板状	C′
図43 1021	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	13.7	8.0	3.3	[151]	C	橙	ナデ	板状	C′
図43 1022	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	13.4	6.7	3.4	[137]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図43 1023	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口3/4 ～底完	13.6	8.2	3.5	[168]	C	黄橙	ナデ	板状	
図43 1024	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口2/3 ～底完	13.2	8.0	3.8	[174]	C+B	橙	ナデ	板状	
図43 1025	国産陶器	瀬戸 入子	口1/4 ～底完	4.8	3.5	1.4	[19]		灰白			
図43 1026	国産陶器	常滑 片口鉢	口小片	—	—	[7.5]	[395]		赤褐			Ⅱ類 7～8型ヵ
図43 1027	国産陶器	常滑 転用研磨具	甕片	8.9	4.5	(1.5)	88		暗赤褐			
図44 1028	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	5.1	1.6	47	B	灰黄	ナデ	—	
図44 1029	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.7	4.0	1.6	26	C	灰	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図44 1030	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.9	5.2	1.8	[37]	B	灰黄	ナデ	板状	歪み大
図44 1031	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	4.6	1.7	58	B	灰黄	ナデ	板状	
図44 1032	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	4.8	1.8	52	B	黄灰	ナデ	—	
図44 1033	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	8.0	5.7	1.8	[63]	B	灰黄	ナデ	板状	
図44 1034	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	4.7	1.8	59	B	灰黄	ナデ	板状	
図44 1035	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.0	5.4	2.1	[65]	B	灰黄	ナデ	板状	
図44 1036	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.3	4.5	2.1	[38]	C+E	灰黄	ナデ	板状	C 内外面煤付着
図44 1037	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	5.0	2.1	[66]	B	灰黄	ナデ	板状	
図44 1038	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	6.7	4.4	2.2	[40]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C′
図44 1039	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.4	4.2	2.3	[45]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図44 1040	在地土器	ロクロ かわらけ・中	2/3	10.7	5.8	3.2	[92]	C+B	黄灰	ナデ	—	C
図44 1041	在地土器	ロクロ かわらけ・中	4/5	10.6	5.5	3.3	[109]	C+E	灰黄	ナデ	—	C′　口縁部煤付着
図44 1042	在地土器	ロクロ かわらけ・中	5/6	11.5	5.9	3.2	[111]	C+B	灰黄	ナデ	—	C
図44 1043	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.2	7.5	3.1	[162]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C やや薄手の器壁
図44 1044	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.4	7.2	3.5	[169]	B	灰黄	ナデ	板状	歪み大
図44 1045	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.3	7.0	3.5	[172]	C+E	黄灰	ナデ	板状	C
図44 1046	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.9	8.2	3.6	[162]	B	黄橙	ナデ	板状	
図44 1047	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.1	7.4	3.6	181	C+E	黄灰	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図44 1048	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.1	7.0	3.9	[181]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図44 1049	国産陶器	常滑 片口鉢	小片	—	—	[9.4]	[214]		明茶褐			Ⅱ類 7～8型式
図44 1050	国産陶器	常滑 転用研磨具	片口Ⅱ片	8.2	7.1	0.1	86		明茶褐			
図44 1051	国産陶器	常滑 転用研磨具	片口Ⅱ片	6.0	5.6	0.9	42		茶褐			
図44 1052	国産陶器	常滑 転用研磨具	壺片	5.0	3.2	1.1	24		茶褐			
図44 1053	国産陶器	常滑 転用研磨具	甕片	9.3	9.3	1.3	123		褐			
図44 1054	石製品	磨り石	完形	9.9	8.2	4.5	291		赤褐			片面のみ使用
図44 1055	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.2	3					銭種不明
図44 1056	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.8	4.8	1.7	[42]	B	灰黄	ナデ	板状	
図44 1057	骨製品	笄	両端欠	(11.2)	(1.7)	(0.3)	[9]					破損後に二次的被熱ヵ
図45 1058	国産陶器	常滑 広口壺	口1/4～肩部	(19.3)	—	[17.5]	[1068]		褐			
図45 1059	石製品	砥石	一端欠	[8.9]	3.6	1.3	[92]		灰			頁岩 出羽砥仕上砥 2面使用
図45 1060	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.8	6.0	1.7	[57]	B	黄灰	ナデ	板状	
図45 1061	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.0	1.6	49	B	黄灰	ナデ	板状	
図45 1062	在地土器	ロクロ かわらけ・小	1/2強	7.8	5.8	1.7	[34]	B	黄灰	ナデ	板状	
図45 1063	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	4.4	2.2	44	C	橙	ナデ	板状	C′
図45 1064	国産陶器	瀬戸 入子	1/2	(9.8)	(5.0)	3.8	[69]		黄灰			
図45 1065	国産陶器	常滑 甕	肩部片	—	—	[3.6]	[46]		黒褐			
図45 1066	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.6	8.6	3.2	[182]	B	橙	ナデ	板状	内面煤付着
図45 1067	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	4					皇宋通寶 北宋1038年 真書
図46 1068	在地土器	ロクロ かわらけ・小	1/2	(7.2)	(4.2)	2.1	[22]	C	黄灰	ナデ	板状	C
図46 1069	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口2/3～底完	7.5	5.0	2.0	[37]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C′　口縁部煤付着
図46 1070	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	4.2	2.1	42	C	黄橙	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図46 1071	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	5.4	1.6	50	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図46 1072	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ完形	7.4	5.6	1.4	[46]	B	灰黄	ナデ	板状	
図46 1073	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.6	1.6	48	B	黄灰	ナデ	板状	
図46 1074	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2～底完	7.4	5.2	1.6	[44]	B	灰黄	ナデ	板状	
図46 1075	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口5/6～底完	7.5	6.2	1.9	[60]	B	黄橙	ナデ	板状	
図46 1076	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口7/8～底完	7.7	6.0	1.7	[43]	B	橙	ナデ	板状	
図46 1077	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.4	1.9	70	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図46 1078	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/8～底完	7.8	5.1	1.7	[52]	B	黄灰	ナデ	板状	
図46 1079	在地土器	手づくね かわらけ・小	完形	8.7	—	1.5	63	D	黄灰	ナデ	ケズリ	底部外面ケズリ
図46 1080	在地土器	ロクロ かわらけ・中	3/4	10.8	6.5	3.2	[101]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図46 1081	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口2/3～底完	12.0	7.1	3.4	[170]	B	黄橙	ナデ	板状	
図46 1082	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.2	7.6	3.5	[190]	B	黄灰	ナデ	板状	

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図46 1083	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口3/4 ～底完	13.3	9.2	3.4	[231]	B	黄橙	ナデ	—	
図46 1084	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口3/4 ～底完	12.7	8.3	3.4	[199]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図46 1085	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	13.8	7.5	3.6	[142]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図46 1086	土製品	ロクロかわらけ 転用有孔円盤	完形	直径 5.8	孔径 0.6	厚さ 0.7	24		黄灰			紡錘車か
図46 1087	土製品	かわらけ転用 円盤	一部欠	(3.0)	3.2	0.8	[8]		黄橙			一面研磨
図46 1088	国産陶器	常滑 片口鉢	底5/6～ 胴部	—	12.8	[8.4]	[764]		灰			Ⅰ類～Ⅱ類の過渡期 内面二次的被熱ヵ
図46 1089	在地土器	瓦質土器 火鉢	1/6	(35.0)	(23.7)	8.8			灰橙			ⅡC類ヵ
図46 1090	石製品	砥石	両端欠	[10.8]	3.5	1.8	[107]		灰白			鳴滝仕上砥 1面使用
図46 1091	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	4					至和通寶 北宋1054年 真書
図46 1092	貝製品	ハマグリ殻 漆パレット	一部欠	5.5	[5.0]	1.8	[7]					内面に黒色系漆
図47 1093	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.2	4.9	1.6	[40]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図47 1094	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2 ～底完	7.2	5.1	1.8	[52]	B	灰黄	ナデ	板状	歪み大
図47 1095	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	5.0	1.8	55	B	黄灰	ナデ	板状	
図47 1096	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.2	5.6	1.7	[52]	B	灰黄	ナデ	板状	
図47 1097	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.2	4.9	1.9	[50]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図47 1098	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.3	5.5	1.6	[37]	B	黄灰	ナデ	板状	
図47 1099	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	5.0	1.8	[50]	B	灰黄	ナデ	板状	
図47 1100	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.7	6.1	1.7	[43]	B	灰黄	ナデ	板状	
図47 1101	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.7	1.7	57	B	灰黄	ナデ	板状	
図47 1102	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	5.7	1.9	[65]	B	灰黄	ナデ	板状	
図47 1103	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口2/3 ～底完	7.6	6.0	1.6	[47]	B	黄橙	ナデ	板状	
図47 1104	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.5	1.7	55	B	黄橙	ナデ	板状	
図47 1105	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口3/4 ～底完	7.7	5.3	1.8	[43]	C	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図47 1106	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口3/4 ～底完	7.7	6.0	1.7	[48]	B	灰黄	ナデ	板状	
図47 1107	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.6	1.6	69	B	灰黄	ナデ	板状	
図47 1108	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.4	5.1	1.7	[37]	B	灰黄	ナデ	板状	
図47 1109	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	6.2	1.8	58	B	黄橙	ナデ	板状	
図47 1110	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.9	6.2	1.8	[53]	B	灰黄	ナデ	板状	
図47 1111	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.8	6.1	1.9	[72]	B	灰黄	ナデ	板状	
図47 1112	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	10.4	5.8	2.8	88	C	黄橙	ナデ	板状	
図47 1113	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	10.8	6.0	3.2	[108]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C
図47 1114	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	12.3	8.1	3.1	[142]	B	黄橙	ナデ	板状	C
図47 1115	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口1/2 ～底完	12.1	7.1	3.5	[153]	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図47 1116	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.8	7.9	3.4	[186]	B	黄橙	ナデ	板状	

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図47 1117	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口3/4 ～底完	12.7	8.2	3.3	[160]	B	橙	ナデ	板状	
図47 1118	土製品	白土器 高坏	坏底～ 脚基部	—	—	[2.6]	[38]		乳白			灯明台ヵ
図47 1119	瓦	熨斗瓦	小片	[9.5]	[8.7]	1.3	[126]		黒灰			
図47 1120	石製品	砥石	両端欠	[4.6]	3.8	0.8	[29.6]		灰白			鳴滝仕上砥 2面使用
図47 1121	鉄製品	釘	完形	11.0	0.4	0.2	5					
図47 1122	鉄製品	釘	上部欠	[6.8]	0.5	0.4	3					
図47 1123	銅製品	用途不明	完形	5.9	3.4	0.1	4					
図47 1124	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					開元通寶 唐621年 真書
図47 1125	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	5					天聖元寶 北宋 1023年 真書
図47 1126	銅製品	銭	完形	径 2.3	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					元寶通寶 北宋1078年 行書
図47 1127	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					熙寧元寶 北宋1068年 篆書
図47 1128	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	4					元祐通寶 北宋1093年 篆書
図48 1129	在地土器	ロクロ かわらけ・極小	1/4	(4.1)	(3.5)	1.0	5	C+B	橙	ナデ	板状	
図48 1130	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.4	4.2	1.9	[35]	C	灰黄	ナデ	—	C
図48 1131	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.9	4.9	1.8	53	B	黄灰	ナデ	板状	
図48 1132	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.3	5.5	1.9	[56]	B	灰黄	ナデ	板状	
図48 1133	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.3	5.3	1.7	[58]	B	黄灰	ナデ	板状	
図48 1134	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	5.2	1.8	43	B	灰黄	ナデ	板状	
図48 1135	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	5.0	1.7	41	C+E	黄灰	ナデ	板状	
図48 1136	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	5.6	1.7	63	B	黄灰	ナデ	板状	
図48 1137	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	5.7	1.9	[62]	B	黄灰	ナデ	板状	
図48 1138	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.6	1.9	55	B	黄橙	ナデ	板状	
図48 1139	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.3	1.8	58	B	灰黄	ナデ	板状	
図48 1140	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.0	5.6	1.7	[61]	B	灰黄	ナデ	板状	
図48 1141	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口3/4 ～底完	8.2	5.7	1.8	[63]	B	黄灰	ナデ	板状	
図48 1142	舶載磁器	高麗青磁 壺ヵ	胴部片	—	—	[3.4]	[6]		水色 透明			
図48 1143	国産陶器	瀬戸 入子	底片	—	3.0	[0.8]	[10]		灰			
図48 1144	国産陶器	瀬戸 卸皿	口片	—	—	[3.2]	[8]		灰緑			前Ⅲ期ヵ
図48 1145	石製品	磨石ヵ	完形	5.1	4.6	1.8	65					全体研磨に使用か
図48 1146	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					皇宋通寶 北宋1038年 真書
図48 1147	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					元祐通寶 北宋1093年 篆書
図48 1148	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					銭種不明 背二
図48 1149	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.0	7.3	3.4	160	B	黄橙	ナデ	板状	
図48 1150	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	5.5	1.7	[51]	B	黄灰	ナデ	板状	

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図48 1151	鉄製品	水注ヵ	口1/2	(4.5)	—	[2.9]	[51]					
図48 1152	在地土器	ロクロかわらけ・大	ほぼ完形	13.0	8.2	[3.5]	[224]	B	黄橙	ナデ	板状	
図48 1153	国産陶器	瀬戸卸皿	1/4	(13.3)	(10.4)	3.0	[104]		灰緑			
図48 1154	瓦	平瓦転用研磨具ヵ	完形	5.5	4.6	0.8	19		灰			1面使用 凹面布目痕
図48 1155	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	7.4	4.8	1.6	[39]	B	灰黄	ナデ	—	口縁部煤付着
図48 1156	在地土器	ロクロかわらけ・大	ほぼ完形	13.2	8.3	3.6	[179]	C+E	橙	ナデ	板状	C′
図48 1157	在地土器	ロクロかわらけ・大	ほぼ完形	13.4	8.7	3.4	[201]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C′
図48 1158	在地土器	高坏ヵ	脚片ヵ	脚径(5.4)	孔径(1.5)	残存高[7.2]	[104]		黄灰			
図48 1159	鉄製品	釘	上部欠	[4.0]	0.3	0.4	1					
図49 1160	在地土器	ロクロかわらけ・極小	4/5	(4.5)	(3.6)	1.9	[9]	B	黄橙	ナデ	板状	
図49 1161	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	7.8	5.5	1.9	[50]	B	灰黄	ナデ	板状	内外面煤付着
図49 1162	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.4	5.4	1.7	48	C+B	灰褐	ナデ	板状	内外面煤付着
図49 1163	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.9	5.1	1.9	[46]	B	灰黄	ナデ	板状	
図49 1164	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.9	5.8	1.8	[54]	B	灰褐	ナデ	板状	内外面煤付着
図49 1165	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.9	5.0	1.8	52		灰黄	ナデ	板状	
図49 1166	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.9	6.0	1.9	[63]	B	灰黄	ナデ	板状	内外面一部黒変
図49 1167	在地土器	ロクロかわらけ・大	ほぼ完形	11.8	8.0	3.1	[175]	B	橙	ナデ	—	
図49 1168	国産陶器	瀬戸入子	4/5	3.9	2.4	1.1	[10]		灰緑			
図49 1169	国産陶器	常滑転用研磨具	広口壺片	9.6	9.1	1.9	[208]		緑			
図49 1170	在地土器	瓦質土器火鉢	一部欠	35.2	32.0	15.0			暗灰			Ⅲ類
図49 1171	石製品	硯	—	[6.0]	[4.9]	1.8	[82.6]		暗茶褐			赤間ヶ関 4×2.5寸の方硯を二次加工ヵ
図49 1172	石製品	砥石	一端欠	[4.8]	3.7	0.5	[15.3]		灰白			鳴滝仕上砥
図49 1173	鉄製品	釘	完形	9.5	0.4	0.7	9					
図49 1174	銅製品	銭	完形	径2.5	孔径0.6	厚さ0.2	4					元豊通寶 北宋1078年 篆書
図49 1175	銅製品	銭	1/2	径2.5	孔径0.6	厚さ0.2	2					紹聖元寶 北宋1094年 真書
図49 1176	在地土器	ロクロかわらけ・小	2/3	7.3	5.0	2.0	[36]	B	灰	ナデ	板状	
図49 1177	在地土器	ロクロかわらけ・大	2/3	12.8	8.6	3.1	[163]	B	橙	ナデ	板状	
図49 1178	石製品	砥石	両端欠	[6.5]	3.3	1.5	[60.3]		灰白			鳴滝奥殿仕上砥
図49 1179	石製品	砥石	一端欠	[6.3]	3.4	0.6	[20.7]		灰白			鳴滝奥殿仕上砥
図49 1180	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.7	5.1	1.6	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図49 1181	国産陶器	常滑片口鉢	口小片	—	—	[5.6]	[67]		灰			Ⅱ類 6a型式ヵ
図49 1182	土製品	鋳型ヵ	小片	[5.0]	[5.2]	2.3	[38]		橙			片面に離れ砂付着 片面は黒変
図49 1183	在地土器	ロクロかわらけ・大	5/6	12.4	8.8	3.4	[174]	B	灰褐	ナデ	板状	
図49 1184	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	7.4	5.6	1.8	[44]	B	橙	ナデ	板状	

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図49 1185	在地土器	ロクロかわらけ・大	2/3	12.5	6.8	3.6	[106]	B	橙	ナデ	板状	
図49 1186	在地土器	手づくねかわらけ・小	口小片	—	—	[1.8]	[10.4]		黄白			
図49 1187	鉄製品	釘	完形	6.8	0.4	0.3	3					
図50 1188	木製品	漆器 皿	1/2	(9.0)	(6.0)	1.1	無文					
図50 1189	木製品	漆器 椀	1/3	—	8.0	[4.1]	内外面に波+扇文(扇面の意匠は秋草ヵ)を手描き 高台内「十三」の線刻					
図50 1190	木製品	漆器 椀	1/2	—	7.0	[2.9]	内外面に松+不明文を手描き 内外面一部炭化					
図50 1191	木製品	漆器 皿	1/5	(9.0)	(7.0)	0.9	底部内面に千鳥文を手描き					
図50 1192	木製品	漆器 合子身	1/2	(11.0)	(11.8)	2.2	無文					
図50 1193	木製品	漆器 合子身	1/2	11.2	(12.0)	2.2	無文					
図50 1194	木製品	漆器 皿	ほぼ完形	10.1	7.0	1.4	内面に葛文を手描き					
図50 1195	木製品	漆器 椀	4/5	(12.0)	6.7	3.5	内外面に情景文を手描き 橋+松+笹文、波文+筋雲文					
図50 1196	木製品	漆器 椀	2/3	(14.1)	(7.5)	[4.9]	外面に波文を手描き					
図50 1197	木製品	漆器 椀	ほぼ完形	(14.6)	8.0	5.8	内外面に葉文様の手描き					
図50 1198	木製品	漆器 椀	1/3	(15.2)	(7.9)	5.0	外面に柏文を手描き					
図50 1199	木製品	漆器 椀	小片	[4.9]	[4.6]	[0.4]	内外面に葉文様の手描き					
図50 1200	木製品	合子蓋ヵ	1/5	(14.3)	—	[1.7]	無文					
図50 1201	木製品	漆器 椀	底片	—	(8.0)	[2.9]	内面情景文(笹文+薄文+土坡+波文)、外面情景文(笹文+薄文)を手描き					
図50 1202	木製品	漆器 椀	2/3	(14.4)	7.0	4.7	内外面籠目文+瓜文を手描き					
図50 1203	木製品	漆器 皿	底片	—	4.9	[0.6]	内外面に葉文様の手描き					
図50 1204	木製品	漆器 皿	底片	—	6.0	[0.8]	内面すすき文を手描き					
図50 1205	木製品	漆器 皿	3/4	9.9	6.8	1.4	内面赤色漆地に対蝶文・蝶文を手描き　外面黒漆地に波文+扇文 扇面は雁+月・花文・笹文など					
図50 1206	木製品	漆器 皿	4/5	9.9	6.8	1.5	内外面に竹文を手描き					
図51 1207	木製品	漆器 椀	3/4	[12.3]	5.8	3.7	無文					
図51 1208	木製品	漆器 椀ヵ	底片	—	(6.0)	[1.5]	内外面情景文(波+土坡)を手描き					
図51 1209	木製品	漆器 皿	1/8	—	(6.0)	[1.1]	無文					
図51 1210	木製品	漆器 椀	1/3	—	(7.4)	[6.5]	外面黒花文+垣文(籠目ヵ) を手描き					
図51 1211	木製品	漆器 皿	ほぼ完形	10.2	7.9	1.5	内面に波文+扇文(扇面草文)　外面に波文					
図51 1212	木製品	漆器 皿	1/4	(8.8)	(6.6)	0.6	内面に鐶+花弁文のスタンプ					
図51 1213	木製品	漆器 皿	4/5	9.2	7.3	1.0	無文					
図51 1214	木製品	漆器 皿	4/5	—	6.5	[0.8]	無文					
図51 1215	木製品	漆器 皿	ほぼ完形	8.8	7.0	1.0	内面「一」を手描き					
図51 1216	木製品	漆器 皿	4/5	—	(6.4)	[1.4]	内外面に四花弁文のスタンプ					
図51 1217	木製品	漆器 皿	1/3	(9.0)	(6.0)	1.6	内面情景文(笹文+千鳥文ヵ) を手描き					
図51 1218	木製品	漆器 椀	4/5	(14.0)	7.7	5.7	内外面に双葉葵文を手描き					

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm) 口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	重量(g)	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
図51 1219	木製品	漆器 皿	2/3	(9.3)	(6.6)	1.5	内外面に笹文を手描き					
図51 1220	木製品	漆器 皿	2/3	(9.2)	(6.6)	1.3	内外面に瓜文を手描き					
図51 1221	木製品	漆器 皿ヵ	底片	—	—	[0.5]	内面に波文+花文を手描き					
図51 1222	木製品	漆器 椀	4/5	—	[5.8～6.0]	[3.6]	内外面に桜文のスタンプ					
図51 1223	木製品	漆器 椀	4/5	—	(6.4)	[3.8]	内外面に情景文(桐文+笹文+土坡) を手描き					
図51 1224	木製品	漆器 椀	1/4	(15.3)	(7.5)	5.4	内外面に菊花文+菊葉文を手描き					
図52 1225	木製品	漆器 皿	ほぼ完形	9.2	7.5	1.2	内面に亀甲花文？を手描き					
図52 1226	木製品	漆器 皿	4/5	10.0	7.5	1.4	内面に情景文(笹文+松文+土坡+波文)を手描き					
図52 1227	木製品	漆器 皿	2/3	(9.5)	(6.7)	1.5	内面に情景文(笹文+松文+土坡+波文)を手描き					
図52 1228	木製品	漆器 皿	ほぼ完形	8.8	7.5	0.9	無文					
図52 1229	木製品	漆器 椀	1/2	—	(6.2)	[3.2]	内外面赤色漆と銀or錫で情景文(波文+梅文+笹文+片輪車文+櫓文+籠目文) を手描き					
図52 1230	木製品	漆器 皿	ほぼ完形	(8.8)	(6.0)	1.2	内面に情景文(桐文+薄文+笹文+土坡)を手描き					
図52 1231	木製品	漆器 皿	4/5	8.6	6.1	1.5	内面に 情景文(波文+笹文)を手描き					
図52 1232	木製品	漆器 皿	4/5	9.0	6.5	1.1	内面に手描き施文 平行線で三分割後、籠目文を波文で挟む					
図52 1233	木製品	漆器 皿	2/3	(8.3)	6.8	1.1	内面に葉文様の手描き文					
図52 1234	木製品	漆器 皿	1/3	(9.0)	(8.0)	1.0	内面に意匠不明の手描き文					
図52 1235	木製品	漆器 皿	ほぼ完形	9.8	7.0	1.1	内面に蛇目+撫子文のスタンプ					
図52 1236	木製品	漆器 皿	完形	(9.8)	7.0	1.3	底部内面に19弁の菊花文+葉文、外面に葉文を手描き					
図52 1237	木製品	漆器 皿	4/5	9.3	6.6	1.2	底部内面と体部外面に瓜文を手描き					
図52 1238	木製品	漆器 皿	2/3	—	6.4	[1.2]	内面を平行線で三分割後、中央に波文を手描き					
図52 1239	木製品	漆器 皿	1/3	(8.6)	6.4	1.0	無文					
図52 1240	木製品	漆器 皿	1/2	(9.2)	6.2	0.9	無文					
図52 1241	木製品	漆器 皿	1/2	(10.0)	6.8	1.2	外面に葉文を手描き					
図52 1242	木製品	漆器 椀	1/2	—	7.0	[4.0]	外面に波文を手描き手描き					
図52 1243	木製品	漆器 椀	1/2	(12.4)	7.5	3.4	無文					
図52 1244	木製品	漆器 椀	1/3	(11.5)	(7.0)	(3.7)	無文					
図52 1245	木製品	漆器 皿	1/3	—	6.8	[1.1]	内面に桐文を手描き					
図52 1246	木製品	漆器 椀	完形	12.9	7.5	4.7	無文					
図52 1247	木製品	漆器 椀	1/3	(14.9)	(6.8)	5.1	無文					
図52 1248	木製品	漆器 椀	4/5	12.6	6.4	3.7	底部内面と体部外面3ヶ所に手描き施文 円形+抽象化した杉文を三方に配した意匠					
図52 1249	木製品	漆器 椀	2/3	(13.5)	7.0	4.2	内外面に平行線+鶴文を手描き					
図52 1250	木製品	漆器 椀	3/4	(14.3)	(7.4)	[5.2]	内外面に手描き施文 内面は文様不明 外面は土坡+草文(沢潟文)ヵ					
図53 1251	木製品	漆器 皿	ほぼ完形	8.7	7.2	1.1	無文					
図53 1252	木製品	漆器 皿	3/4	(8.9)	(6.2)	1.4	無文					

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底	外底	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面	調整	圧痕	
図53 1253	木製品	漆器 皿	完形	8.8	6.4	1.4	無文					
図53 1254	木製品	漆器 皿	1/4	(8.8)	(6.0)	1.3	無文					
図53 1255	木製品	漆器 皿	ほぼ完形	8.6	6.8	1.2	無文					
図53 1256	木製品	漆器 皿	1/4	(7.8)	(6.0)	1.0	内面に桐文を手描き					
図53 1257	木製品	漆器 皿	2/3	(8.6)	6.4	1.0	内面に楓文を手描き					
図53 1258	木製品	漆器 皿	ほぼ完形	(8.9)	7.0	1.0	内面に瓜文を手描き					
図53 1259	木製品	漆器 皿	4/5	(9.8)	6.8	1.2	内面に意匠不明の手描き文様					
図53 1260	木製品	漆器 椀	1/3	—	(8.4)	[5.5]	内外面に情景文(片輪車+薄文+笹文+花文+蝶文)を手描き					
図53 1261	木製品	漆器 皿	1/6	—	—	—	内面に籠目文+笹文を手描き					
図53 1262	木製品	漆塗り 横櫛	1/2	[6.0]	3.8	0.9	黒色系漆髹漆 梳き櫛					
図53 1263	木製品	漆塗り 横櫛	1/2	[6.1]	[4.3]	0.9	黒色系漆髹漆 梳き櫛					
図53 1264	木製品	獅子頭	完形	25.5	4.7	1.1	形代か 表面は顔面を、裏面は上顎をかたどる					
図53 1265	木製品	円板	ほぼ完形	22.3	22.3	0.9	曲物底板ヵ 正円形で片面赤色漆を髹漆 小孔2ヶ所					
図53 1266	骨製品	笄	一端欠	[17.8]	1.5	0.3	片面に波文+渦巻き文+千鳥文+花文を線刻 線刻部に黒色系漆を埋めて文様を際立たせる					
図53 1267	木製品	漆塗り 横櫛	1/2	[5.6]	[3.6]	0.9	黒色系漆髹漆 梳き櫛					
図53 1268	木製品	漆塗り 横櫛	1/2	[5.5]	[3.6]	0.9	黒色系漆髹漆 粗歯					
図53 1269	植物製品	ブラシ状	完形ヵ	—	直径3.7	11.0	植物の茎葉を荒縄で束ねる					
図53 1270	骨製品	飾り具	完形ヵ	8.9	1.0	0.1	片面に鳥文+波文を線刻 両端面と裏面に黒色系漆付着					
図53 1271	木製品	漆塗り 横櫛	—	[2.2]	[3.6]	[2.0]	黒色系漆髹漆 荒歯の2片が咬み合った状態で出土					
図54 1272	木製品	棒状	完形	20.3	0.8	0.8						
図54 1273	木製品	円板	2/3	[18.3]	[8.3]	0.5	曲物底板か					
図54 1274	木製品	用途不明	3/4	[3.3]	[2.6]	0.9	小孔2ヶ所、裏面に浅い刳り込み					
図54 1275	木製品	有孔円板	ほぼ完形	6.7	6.4	1.0	中央に穿孔					
図54 1276	木製品	端材	完形	6.0	4.3	1.9	端部を仕口状に整形					
図54 1277	木製品	箸	完形	17.5	0.7	0.5						
図54 1278	木製品	草履芯	1/2	24.0	[4.8]	0.4	表面に藁状圧痕					
図54 1279	木製品	草履芯	1/2	23.7	[5.0]	0.3	製作途中ヵ					
図54 1280	木製品	容器	1/4	(7.0)	—	5.9	最大径(9.0)cm ヒョウタン果皮の加工品ヵ					
図54 1281	木製品	用途不明 筆架ヵ	両端欠	[9.3]	1.4	0.8						
図54 1282	木製品	箸ヵ	完形	10.5	0.8	0.4						
図54 1283	木製品	箸	完形	18.7	0.8	0.6						
図54 1284	木製品	箸	完形	21.3	0.7	0.5						
図54 1285	木製品	円板	完形	8.5	8.5	0.7	側縁三方に1.5mmm径の小孔　1ヶ所に木釘が遺存 曲物底板ヵ					
図54 1286	木製品	円板	完形	8.0	8.1	0.8	側縁三方に1.5mmm径の小孔　1ヶ所に木釘が遺存 曲物底板ヵ					

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図54 1287	木製品	円板	完形	3.1	2.9	0.2						
図54 1288	木製品	軸端部	1/2	5.6	3.2	3.2	差し込み孔あり					
図54 1289	木製品	刀子鞘	ほぼ完形	[13.5]	2.3	0.4	鞘部分 端部近く側縁に抉り2ヶ所					
図54 1290	木製品	用途不明	完形	8.9	1.4	0.9	両端整形					
図54 1291	木製品	草履芯	5/6	[24.3]	10.1	0.3						
図55 1292	木製品	箸	完形	17.2	0.8	0.6						
図55 1293	木製品	箸	完形	17.5	5.5	0.5						
図55 1294	木製品	箸	完形	19.2	0.7	0.4	一端端炭化					
図55 1295	木製品	箸	完形	19.2	0.9	0.7						
図55 1296	木製品	箸	完形	19.3	0.7	0.4						
図55 1297	木製品	箸	完形	20.0	0.7	0.5						
図55 1298	木製品	箸	完形	19.6	0.7	0.7						
図55 1299	木製品	箸	完形	19.2	0.6	0.5						
図55 1300	木製品	箸	完形	20.2	0.5	0.4						
図55 1301	木製品	箸	完形	22.0	0.7	0.5						
図55 1302	木製品	箸	完形	23.5	0.7	0.3						
図55 1303	木製品	串状	完形	14.3	0.8	0.5						
図55 1304	木製品	漆塗り膳脚	完形	9.6	3.3	2.2	黒色系漆髹漆					
図55 1305	木製品	草履芯	ほぼ完形	23.7	9.9	0.3	後端は直線的り 藁状圧痕					
図55 1306	木製品	部材	一端欠	[18.4]	[3.0]	0.5	端部に貫通孔、木釘遺存 表面の一部に黒色の付着物有り					
図55 1307	木製品	用途不明	完形	8.4	1.7	2.0	両端を仕口状に整形					
図55 1308	木製品	円板	ほぼ完形	直径 12.5	—	0.5						
図56 1309	木製品	箸	完形	19.9	0.6	0.3						
図56 1310	木製品	箸	完形	20.1	0.6	0.4						
図56 1311	木製品	用途不明	完形	15.6	[2.0]	0.7						
図56 1312	木製品	蓋ヵ	1/2	径 (15.5)	—	1.0	炭化 3ヶ所に小孔、うち2穴に木釘遺存(把手との結合部ヵ)					
図56 1313	木製品	箸	完形	19.0	0.7	0.5						
図56 1314	木製品	箸	完形	20.8	0.8	0.5						
図56 1315	木製品	箸	完形	21.8	0.8	0.5						
図56 1316	木製品	曲物	1/3	径 (21.6)	—	1.5	底板ヵ 側縁に木釘遺存					
図56 1317	木製品	草履芯	1/2	23.5	[4.9]	0.3	藁状圧痕が遺存					
図56 1318	木製品	曲物ヵ	小片	[9.3]	[2.3]	0.2	側板ヵ 桜皮の閉じ紐が遺存					
図56 1319	木製品	用途不明	不明	[11.2]	[10.3]	0.4	片面に線刻					
図56 1320	木製品	栓ヵ	完形	3.9	1.6	1.5						

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図57 1321	木製品	箸	完形	19.8	0.7	0.4						
図57 1322	木製品	箸	完形	20.6	0.6	0.5						
図57 1323	木製品	箸	完形	21.6	0.8	0.4						
図57 1324	木製品	箸	完形	21.8	0.6	0.4						
図57 1325	木製品	箸	完形	23.3	0.8	0.5						
図57 1326	木製品	串状	完形	25.5	1.0	0.7	片端部鋭角に整形					
図57 1327	木製品	漆塗り 膳脚	完形	9.5	3.1	2.0	黒色系漆髹漆					
図57 1328	木製品	串状	一端欠	[17.2]	1.0	0.8	先端部鋭角に整形 炭化					
図57 1329	木製品	箆状	ほぼ完形	[23.1]	1.2	0.7	先端部鋭角に整形 炭化					
図57 1330	木製品	紡錘車	1/2	径(8.2)	—	1.0	中央に小孔 断面台形					
図57 1331	木製品	用途不明	完形	[5.0]	1.6	0.7	中央に樹皮の紐が遺存					
図57 1332	木製品	栓ヵ	完形	2.7	1.8	1.1						
図57 1333	木製品	箸	完形	16.2	0.4	0.2	片側先端部のみ整形 断面方形					
図57 1334	木製品	箸	完形	19.5	0.8	0.6						
図57 1335	木製品	漆塗り 調度具	完形	5.5	2.6	0.9	雲形装飾部 黒色系漆髹漆					
図57 1336	木製品	草履芯	4/5	23.7	[8.1]	0.3						
図57 1337	木製品	用途不明	完形か	10.6	4.0	0.7	調度具か 側面2ヶ所に台形状の抉り有り					
図58 1338	木製品	箸	完形	19.8	0.7	0.5						
図58 1339	木製品	箸	完形	22.8	0.7	0.6						
図58 1340	木製品	草履芯	3/4	23.5	[9.2]	0.3	藁状圧痕遺存					
図58 1341	木製品	草履芯	1/2	23.9	5.2	0.3	藁状圧痕遺存					
図58 1342	木製品	用途不明	一端欠	[13.7]	2.5	2.5	抉り2ヶ所					
図58 1343	木製品	格子子	両端欠	[16.0]	2.1	1.6						
図58 1344	木製品	用途不明	完形ヵ	19.9	3.9	0.7	円板状製品ヵ 斜めの小孔1ヶ所 表面に刃物痕					
図58 1345	木製品	用途不明	ほぼ完形	8.9	0.8	0.9	両端部を切り込み小孔を穿つ うち、片側の小孔に木釘遺存					
図58 1346	木製品	箸	完形	22.2	0.8	0.4						
図58 1347	木製品	箸	完形	20.2	0.7	0.5						
図58 1348	木製品	連歯下駄	3/5	[16.0]	10.0	1.8	前緒部分欠					
図58 1349	木製品	飾り板ヵ	完形	34.6	7.6	0.6	表面両側に手描きの猪目文を対で配す 黒色系漆の細線で縁取り、内区を赤色漆で埋める 猪目文を繋ぐ形で雲形レリーフ					
図59 1350	木製品	箸	完形	19.3	0.6	0.5						
図59 1351	木製品	箸	完形	21.0	0.7	0.5						
図59 1352	木製品	箸	完形	21.2	0.7	0.4						
図59 1353	木製品	箸	完形	23.2	0.7	0.6						
図59 1354	木製品	箸	完形	25.0	0.8	0.4						

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図59 1355	木製品	箸	完形	25.2	0.5	0.5						
図59 1356	木製品	板折敷	1/4	24.3	[5.1]	0.3	隅切り 小孔1ヶ所					
図59 1357	木製品	曲物	完形ヵ	(8.0)	8.1	3.9	底板径7.6cm 側板は二重で桜皮で綴じる 木釘2ヶ所の木釘で補強					
図59 1358	木製品	箸	完形	20.3	0.6	0.5						
図59 1359	木製品	箸	完形	21.2	0.8	0.3						
図59 1360	木製品	箸	完形	22.9	0.7	0.5						
図59 1361	木製品	箸	完形	23.5	1.2	0.4						
図59 1362	木製品	箸	完形	24.4	0.8	0.5						
図59 1363	木製品	箸	完形	26.0	0.7	0.4						
図59 1364	木製品	串状	一端欠	[23.5]	1.1	0.8						
図59 1365	木製品	栓	完形	13.7	1.8	1.5						
図59 1366	木製品	串状	完形	14.0	1.5	1.4						
図59 1367	木製品	形代 刀形	完形	22.0	2.3	1.2	小刀の刃部と柄をかたどる					
図60 1368	木製品	草履芯	1/2	23.6	5.1	0.4	表面に藁状圧痕遺存					
図60 1369	木製品	草履芯	1/2	22.3	5.0	0.4	表面に藁状圧痕遺存					
図60 1370	木製品	草履芯	完形	17.0	8.3	0.4						
図60 1371	木製品	草履芯	1/2	14.9	3.5	0.4						
図60 1372	木製品	箸	完形	20.0	0.5	0.4						
図60 1373	木製品	箸	完形	20.0	0.8	0.6						
図60 1374	木製品	箸	完形	21.9	0.5	0.5						
図60 1375	木製品	箸	完形	24.3	0.9	0.4						
図60 1376	木製品	草履芯	完形	24.2	10.3	0.5	表面に藁状圧痕遺存					
図60 1377	木製品	草履芯	1/2	24.0	[5.3]	0.5	表面に藁状圧痕遺存					
図61 1378	木製品	箸	完形	18.7	0.5	0.4						
図61 1379	木製品	箸	完形	20.0	0.6	0.5						
図61 1380	木製品	箸	完形	20.4	0.8	0.3						
図61 1381	木製品	箸	完形	22.0	0.7	0.5						
図61 1382	木製品	箸	完形	23.5	0.7	0.5						
図61 1383	木製品	箸	完形	25.3	0.6	0.4						
図61 1384	木製品	用途不明	完形ヵ	14.7	0.9	0.6	一端部篦状に整形					
図61 1385	木製品	篦状	一端欠	[12.5]	1.3	0.7						
図61 1386	木製品	用途不明	不明	9.7	2.7	0.7	両端に木釘遺存					
図61 1387	木製品	草履芯	完形	23.7	10.1	0.3	表面に藁状圧痕遺存					
図61 1388	木製品	草履芯	1/2	24.1	[5.5]	0.3	表面に藁状圧痕遺存					

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図61 1389	木製品	草履芯	1/2	24.4	[5.1]	0.5	表面に藁状圧痕遺存					
図61 1390	木製品	草履芯	1/2	24.0	[5.3]	0.3						
図61 1391	木製品	草履芯	1/2	23.6	[5.0]	0.3	表面に藁状圧痕遺存					
図61 1392	木製品	草履芯	1/2	23.2	5.6	0.3	表面に藁状圧痕遺存					
図61 1393	木製品	草履芯	1/2	16.7	[4.1]	0.3	子供用					
図61 1394	木製品	箸	完形	17.8	0.8	0.5						
図61 1395	木製品	箸	完形	20.0	0.8	0.7						
図62 1396	木製品	箸	完形	17.8	0.7	0.3						
図62 1397	木製品	箸	完形	22.0	0.7	0.5						
図62 1398	木製品	栓ヵ	ほぼ完形	3.2	[2.2]	3.4						
図62 1399	木製品	とんぼヵ	1/5	[11.3]	3.0	0.4	製作途中ヵ 中央に貫通孔をあけ、両側縁抉りを入れる					
図62 1400	木製品	連歯下駄ヵ	1/2	[22.2]	9.5	1.4	歯欠失 表面中央部が炭化している					
図62 1401	木製品	箸	完形	14.9	0.7	0.3						
図62 1402	木製品	箸	完形	19.4	1.0	0.4	端部炭化					
図62 1403	木製品	箸	完形	19.4	0.6	0.5						
図62 1404	木製品	箸	完形	20.4	0.7	0.5	端部に黒色の付着物					
図62 1405	木製品	箸	完形	21.0	0.6	0.4						
図62 1406	木製品	箸ヵ	完形	21.6	0.8	0.6	串状 片側端部のみ鋭角に削り出す					
図62 1407	木製品	箸	完形	22.4	0.8	0.5						
図62 1408	木製品	箸	完形	25.2	0.7	0.4						
図62 1409	木製品	連歯下駄	ほぼ完形	22.0	9.0	1.6	表面前緒の両脇に指圧痕					
図62 1410	木製品	草履芯	1/2	23.3	5.5	0.3						
図63 1411	木製品	箸	完形	16.8	0.7	0.4						
図63 1412	木製品	箸	完形	21.0	0.7	0.4						
図63 1413	木製品	箸	完形	20.8	0.6	0.5						
図63 1414	木製品	箸	完形	22.0	1.1	0.3						
図63 1415	木製品	箆ヵ	完形	24.2	1.4	1.0	端部付近に黒色系漆付着 漆箆ヵ					
図63 1416	木製品	刀子鞘	ほぼ完形	23.1	3.0	1.0	内面を刀身形に刳り抜いた板材2枚で構成 外面に紐で固着させるための抉り2ヶ所 端部は2ヶ所の木釘で固定					
図63 1417	木製品	用途不明	完形	18.5	1.9	0.6	端部付近に圧痕2条					
図63 1418	木製品	用途不明	完形	14.1	1.6	0.6						
図63 1419	木製品	曲物	下部完存	直径29.6	—	9.4	底板径29.0cm、厚さ0.8cm 側板は3重で桜皮で綴じる 底板と側板は木釘で固定					
図63 1420	木製品	用途不明	ほぼ完形	15.9	3.3	0.7	両端部を半円形に切り欠き					
図63 1421	木製品	箸	完形	20.4	0.7	0.6						
図63 1422	木製品	箸	完形	22.7	0.6	0.4						

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図63 1423	木製品	箸	完形品	24.7	0.6	0.5						
図63 1424	木製品	曲物底板ヵ	4/5	22.6	[18.0]	0.8	外縁付近がやや薄い 表面に刃物痕					
図63 1425	木製品	形代 鋤形	完形	14.7	2.1	0.5	柄幅0.7cm、鋤先幅2.1cm					
図63 1426	木製品	形代 鍬先形	完形	7.1	3.0	0.5	柄を差し込む方形の貫通孔を表現					
図63 1427	木製品	草履芯	ほぼ完形	23.4	10.5	0.2	藁状圧痕遺存					
図64 1428	木製品	箸	完形	22.5	0.5	0.4						
図64 1429	木製品	串状	完形	28.5	1.4	1.2	片側先端部を鋭角に整形 部分的に炭化					
図64 1430	木製品	草履芯	完形	24.1	10.5	0.5						
図64 1431	木製品	擂り粉木ヵ	上端欠	(30.1)	4.1	4.2	下端部摩耗 一部炭化					
図64 1432	木製品	連歯下駄ヵ	ほぼ完形	13.3	(6.2)	1.4	歯は欠失 緒穴以外、小孔2ヶ所 子ども用または形代ヵ					
図64 1433	木製品	用途不明	完形	5.2	6.2	1.0	琴柱状の形状					
図64 1434	木製品	曲物底板ヵ	1/3	31.8	[13.0]	1.3	本来は楕円形ヵ					
図65 1435	木製品	箸	完形	17.7	0.7	0.5						
図65 1436	木製品	箸	完形	19.8	0.7	0.6						
図65 1437	木製品	箸	完形	21.3	0.7	0.5						
図65 1438	木製品	連歯下駄	3/4	[20.5]	8.8	[4.2]	前緒周辺欠失					
図65 1439	木製品	板杓子	ほぼ完形	25.5	6.5	1.0						
図65 1440	木製品	箸	完形	19.1	0.6	0.5	両端付近薄く炭化					
図65 1441	木製品	箱側板ヵ	ほぼ完形	17.2	[7.7]	0.9	外周に小孔めぐる 1ヶ所に木釘遺存					
図65 1442	木製品	箸	完形	18.8	0.6	0.4						
図65 1443	木製品	箸	完形	18.7	0.6	0.5						
図65 1444	木製品	箸	完形	18.9	0.8	0.6						
図65 1445	木製品	箸	完形	20.3	0.8	0.4						
図65 1446	木製品	箸	完形	20.8	0.6	0.5						
図65 1447	木製品	用途不明	完形	24.4	0.9	1.1	端部付近に浅い抉り					
図65 1448	木製品	有孔円板	ほぼ完形	3.4	3.4	0.2	中央に小孔					
図66 1449	木製品	漆塗り 調度具	完形	6.6	2.7	0.7	雲形装飾部 黒色系漆桑漆					
図66 1450	木製品	箸	完形	20.5	0.9	0.5						
図66 1451	木製品	箸	完形	20.3	0.6	0.6						
図66 1452	木製品	箸	完形	21.6	0.7	0.5						
図66 1453	木製品	箸	完形	21.8	0.6	0.5						
図66 1454	木製品	箸	完形	22.3	0.8	0.7						
図66 1455	木製品	箸	完形	24.5	0.8	0.4						
図66 1456	木製品	箸	完形	25.5	0.5	0.4						

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図66 1457	木製品	串状	完形	23.5	1.1	0.7	片側端部を鋭角に切出す					
図66 1458	木製品	箆状	一端欠	[10.8]	1.0	0.4	片側端部を箆状に整形 端部炭化					
図66 1459	木製品	棒状	完形	20.1	0.9	0.6	断面方形					
図66 1460	木製品	板杓子	完形	23.3	6.8	0.7	端部摩耗					
図66 1461	木製品	折敷	1/2	18.1	[7.6]	0.1	表裏両面に墨書重複 判読不明 花押などの習書や筆ならし					
図66 1462	木製品	円板	5/6	11.6	[9.4]	0.3	外周部に貫通孔めぐる					
図66 1463	木製品	円板	1/2	10.5	[4.8]	0.5	外周部に貫通孔めぐる					
図66 1464	木製品	円板	1/5	[10.0]	[3.0]	0.5	曲物底板ヵ					
図66 1465	木製品	有孔円板	完形	4.3	4.3	1.0	側縁部面取り					
図67 1466	木製品	連歯下駄	1/2	23.8	10.4	6.3	連歯下駄 前緒の両脇に指圧痕					
図67 1467	木製品	連歯下駄	ほぼ完形	15.4	6.8	[1.3]	横緒1穴に木釘遺存					
図67 1468	木製品	草履芯	1/2	24.2	[5.5]	0.3	表面に藁状圧痕遺存					
図67 1469	木製品	箱底板ヵ	1/5	11.9	15.0	0.6	貫通孔三ヶ所孔 1ヶ所を除き木釘遺存					
図67 1470	木製品	箱側板ヵ	1/5	17.6	6.5	0.7	両端に互い違いの仕口を切る 表面と側縁に木釘遺存する小孔					
図67 1471	木製品	用途不明	一端欠	[20.7]	1.2	1.2	片側端部近くに抉り					
図67 1472	木製品	用途不明	2/3	11.2	[8.6]	1.2～2.4	平面八角形に整形					
図68 1473	木製品	串状	完形	16.1	0.8	0.8	断面方形					
図68 1474	木製品	箸	完形	18.2	0.6	0.4						
図68 1475	木製品	箸	完形	19.2	0.6	0.5						
図68 1476	木製品	箸	完形	19.6	0.6	0.4						
図68 1477	木製品	箸	完形	19.3	0.8	0.4						
図68 1478	木製品	箸	完形	20.2	0.5	0.9						
図68 1479	木製品	箸	完形	20.1	0.6	0.4						
図68 1480	木製品	箸	完形	20.5	0.7	0.4						
図68 1481	木製品	箸	完形	22.4	0.8	0.4						
図68 1482	木製品	箸	完形	21.8	0.7	0.5						
図68 1483	木製品	箸	完形	22.5	0.8	0.5						
図68 1484	木製品	箸	完形	22.6	0.8	0.6						
図68 1485	木製品	箸	完形	23.6	0.8	0.5						
図68 1486	木製品	箸	完形	24.7	0.6	0.3						
図68 1487	木製品	串状	完形	25.5	0.9	0.8	断面円形					
図68 1488	木製品	串状	完形	28.6	0.5	0.3						
図68 1489	木製品	串状	完形	33.7	0.8	1.0						
図68 1490	木製品	串状	完形	39.3	1.3	0.6						

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図68 1491	木製品	箆	完形	25.6	1.5	0.8						
図68 1492	木製品	箆	完形	20.0	1.6	0.6						
図68 1493	木製品	箆	完形	17.4	1.4	0.7						
図69 1494	木製品	板杓子	完形	17.7	3.6	0.6						
図69 1495	木製品	経木折敷	3/4	19.1	[16.6]	0.1	隅切り 上下端部に小孔 表面細か刃物痕					
図69 1496	木製品	経木折敷	1/8	18.1	[2.3]	0.1	表裏面に墨書有り 判読不明					
図69 1497	木製品	経木折敷	1/6	18.1	[3.5]	0.1						
図69 1498	木製品	円板	1/3	[16.4]	[5.6]	0.4						
図69 1499	木製品	円板	完形	9.8	9.8	0.4	中央両端に非貫通孔					
図69 1500	木製品	円板	完形	6.8	6.8	1.2	整形途中ヵ					
図69 1501	木製品	有孔円板	完形	5.8	5.8	0.6						
図69 1502	木製品	円板	1/2	[8.4]	[2.2]	0.3						
図69 1503	木製品	用途不明	1/5	[23.2]	[4.7]	0.9	もと曲物底板ヵ 側面3ヶ所木釘遺存に遺存 表面2ヶ所に小孔、1ヶ所には鉄釘遺存					
図69 1504	木製品	連歯下駄	4/5	23.0	[9.3]	1.4	前方の歯欠失					
図70 1505	木製品	草履芯	完形	23.5	10.3	0.4						
図70 1506	木製品	草履芯	完形	24.1	10.6	0.4	表面に藁状圧痕遺存					
図70 1507	木製品	草履芯	完形	23.8	9.9	0.3						
図70 1508	木製品	草履芯	ほぼ完形	23.9	[9.6]	0.3						
図70 1509	木製品	草履芯	5/6	23.7	[10.0]	0.4	表面に藁状圧痕遺存					
図70 1510	木製品	草履芯	完形	24.1	10.4	0.4						
図70 1511	木製品	草履芯	完形	23.6	[11.0]	0.3						
図70 1512	木製品	草履芯	ほぼ完形	23.7	[10.0]	0.4	表面に藁状圧痕遺存					
図71 1513	木製品	草履芯	ほぼ完形	23.0	[9.0]	0.5						
図71 1514	木製品	草履芯	3/4	25.5	[8.1]	0.4						
図71 1515	木製品	草履芯	1/2	23.6	5.1	0.3	表面に藁状圧痕遺存					
図71 1516	木製品	草履芯	1/2	23.5	5.1	0.3						
図71 1517	木製品	草履芯	1/2	23.3	4.9	0.3						
図71 1518	木製品	草履芯	1/2	22.1	4.8	0.3	表面に藁状圧痕遺存					
図71 1519	木製品	草履芯	1/2	[23.9]	4.8	0.5	表面に藁状圧痕遺存					
図71 1520	木製品	草履芯	1/2	14.2	4.0	0.4						
図71 1521	木製品	下駄状	3/4	[13.8]	[5.7]	0.3	非常に薄く、履物としての実用性に疑問 草履芯として使用、 または形代の類ヵ					
図71 1522	木製品	用途不明 小猿鉤ヵ	完形	4.2	4.6	2.8	二材一組結合部に対の溝を切り棒状品を挟み込む形態に 上端側に二材を通す貫通孔2ヶ所 紐通し孔ヵ					
図71 1523	木製品	栓ヵ	完形	4.4	3.2	2.9						
図71 1524	木製品	栓ヵ	完形	4.9	2.4	2.1						

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図71 1525	木製品	栓ヵ	完形	7.5	1.5	1.5						
図71 1526	木製品	栓ヵ	完形	5.7	1.5	1.5						
図71 1527	木製品	栓ヵ	完形	5.2	2.0	1.8						
図71 1528	木製品	用途不明	完形	3.7	3.8	1.5						
図71 1529	木製品	用途不明	両端欠	[10.8]	2.9	1.0						
図71 1530	木製品	用途不明	完形	11.8	0.9	0.3	端部に小孔					
図71 1531	木製品	用途不明	完形	16.5	1.8	0.5						
図71 1532	木製品	用途不明	完形	16.1	1.4	1.5	先端部焼痕　先端近くに横位の切り込み有り					
図71 1533	木製品	用途不明	一端欠	9.5	4.5	1.0	中心に貫通孔3ヶ所					
図71 1534	木製品	用途不明	完形ヵ	8.9	4.8	0.8	短辺側縁に木釘遺存					
図71 1535	木製品	用途不明	ほぼ完形	9.8	4.5	0.8	隅切り　両短辺の側縁に木釘遺存					
図72 1536	木製品	箸	完形	20.5	0.7	0.5						
図72 1537	木製品	箸	完形	22.4	0.8	0.4						
図72 1538	木製品	部材	一端欠	[21.0]	1.5	0.7						
図72 1539	木製品	漆塗り調度具	完形	9.3	3.4	1.1	雲形装飾部　黒色系漆桑漆					
図72 1540	木製品	脚付台	完形	15.1	5.2	9.0	長方形台座に枘組みで脚を装着					
図72 1541	木製品	格子子	一端欠	[11.4]	2.1	1.7	再加工品ヵ					
図72 1542	木製品	曲物底板ヵ	完形	直径 9.9	—	0.7	片面黒変					
図72 1543	木製品	草履芯	完形	23.7	8.0	0.3						
図73 1544	木製品	箸	完形	19.8	0.6	0.5						
図73 1545	木製品	箸	完形	20.5	0.7	0.4						
図73 1546	木製品	箸	完形	22.3	0.6	0.5						
図73 1547	木製品	箸	完形	22.0	0.7	0.5						
図73 1548	木製品	箸	完形	21.9	0.6	0.5						
図73 1549	木製品	箸	完形	22.9	0.7	0.4						
図73 1550	木製品	箸	完形	28.4	0.8	0.3						
図73 1551	木製品	箸	完形	23.5	0.8	0.4						
図73 1552	木製品	箸	完形	24.4	0.7	0.5						
図73 1553	木製品	箸ヵ	完形	23.8	0.7	0.5	片側端部を鋭角に整形					
図73 1554	木製品	箸	完形	25.1	0.7	0.6						
図73 1555	木製品	串状	完形	25.9	1.2	0.8	片側端部を鋭角に整形					
図73 1556	木製品	用途不明	完形	24.9	2.0	0.8						
図73 1557	木製品	板杓子	完形	27.1	7.2	0.9	柄の先端部炭化					
図73 1558	木製品	板杓子	完形	27.1	6.8	0.8	柄の先端部炭化					

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底	外底	出土遺構・
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面	調整	圧痕	胎土ほかの特徴
図74 1559	木製品	連歯下駄	5/6	[18.9]	10.0	1.2	前緒の両脇と下方に指圧痕 横緒近くに線刻ヵ					
図74 1560	木製品	鋤先	完形	38.5	15.5	2.0	柄の差し込み孔長 さ5.5×幅2.6cm					
図74 1561	木製品	用途不明	完形ヵ	(17.5)	(5.8)	1.3						
図74 1562	木製品	板杓子	5/6	[21.4]	6.4	0.5						
図74 1563	木製品	草履芯	1/2	24.1	5.1	0.3	藁状圧痕遺存					
図74 1564	木製品	草履芯	完形	15.9	7.8	0.3						
図74 1565	木製品	円板	完形	直径 7.3	—	0.3	曲物底板ヵ外周近くに小孔1ヶ所 片面のみ無数の刃物痕					
図74 1566	木製品	草履芯	1/2	23.5	5.3	0.4						

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底	外底	出土遺構・
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面	調整	圧痕	胎土ほかの特徴
図46 補7	鉄製品	刀子	5/6	[20.8]	1.8	0.3						目釘穴遺存
図46 補8	鉄製品	刀子	?	[22.4]	[2.8]	0.1～0.4						錆付着 刃部のみ残存か
図56 補9	木製品	箸	完形	18.5	0.6	0.4						
図56 補10	木製品	箸	完形	20.0	0.6	0.9						
図56 補11	木製品	箸	完形	19.2	0.6	0.3						

図 28 －補１～６は、119 ～ 120 頁に掲げた。

第六章　調査成果のまとめ

第１節　調査の課題

今回の調査では、築地状遺構を中心とする区画施設と、それによって分割された各土地空間（区画）の使用状況を一定程度は把握できたかと思う。ただし、築地とした解釈の当否や、各空間の利用実態については判断に迷うところも多くあり、第五章で述べてきた見方については、逐次検証を行う必要性を感じている。また、安全面への配慮から生じた未調査域と南北・東西築地状遺構の接続部分が重なってしまった点など､必要な情報を取り残す結果となったことは反省点である。ピットや土坑などと異なり、築地は地表に立ち上がる構築物であることから、現地では、どの整地面に対応させるべきかも苦慮した。今後、同種の遺構を調査する機会があれば、今回の経験を活かせるように心掛けたい。

今のところ、武蔵大路周辺遺跡における発掘調査例は10例に満たず、それぞれの地点が一定の距離を隔てていることから、遺跡の性格について総合的に述べることは難しい。また、谷地形を占めるゆえに中世基盤層までは相当の深さがあり、土地利用の開始時期や実態に関する情報は、ほとんど得られていないのが実情である。本地点でも地表下3.5ｍで中世基盤層と思しき暗灰色シルト質土を確認したが、かかる深さの堆積層を面的に広げて調査するためには、安全性を確保するための土工的措置が必要で、より多くの期間と経費を盛り込んだ調査計画を立てる必要がある。今後の課題として、指摘しておく。

第２節　出土かわらけと遺跡の年代

本地点の調査では、出土遺物の大多数をロクロかわらけが占めていた。特に２面・２ｂ面の北東区画と南東区画では、東西築地状遺構を挟む形でかわらけ集積が検出され、完形もしくはそれに準じる資料が多く出土した。手づくねかわらけは一切含まれていないため、この消失後の所産かわらけであることは間違いない。表４の遺物観察表で「Ｃ」としたのは従来「薄手丸深」タイプと呼ばれてきたもので、水簸された精良な胎土で薄く作られ、小さい底部から、内湾・身深の体部が立ち上がる。出土量的には客体的な存在で、やや粗い泥質の胎土を用いた内湾器形の製品（ここでは「Ｂ」と呼称する）が主体を占める。表４中、「Ｃ′」としたのは「Ｃ」に準じる資料で、胎土・成整形ともに粗さが見て取れる。各類型とも、精粗に個体差があるため厳密に分けきれないもどかしさは抱えつつ、大よそ上記の分類に従って、簡単な考察を進める。

Ｂ・Ｃ・Ｃ′とも、大・中・小の三法量に分けられる。口径や重量を子細に見ると、さらなる細分も可能かもしれない。２面かわらけ集積出土の資料について、表４中の完形品から類型・法量ごとの平均重量を算出すると、以下のようになる（単位＝ｇ、（　）内は完形個体数、小数点以下は四捨五入)。

【Ｂ大：179（14）　Ｂ中：111（２）　Ｂ小：53（113）　Ｃ大：169（14）　Ｃ中：108（20）　Ｃ小：39（20）
Ｃ′大：157（１）　Ｃ′中：123（２）　Ｃ′小：45（14)】

計算の母数が１・２点程度では有効性をもたないので、Ｃ′については、ひとまず行論の脇に置いておく。２ｂ面の資料でも概ね近似した計算結果が得られたので、２面のデータをもって代替する。上掲平均値を利用し、表３の計量データから個体数換算を試みると、以下の結果となる（単位＝個、小数点以下は四捨五入)。

２面北東区画【Ｂ大・中：133　Ｂ小：185　Ｃ大・中：42　Ｃ小：15　小計：375】
２面南東区画【Ｂ大・中：179　Ｂ小：247　Ｃ大・中：64　Ｃ小：35　小計：525】
２ｂ面北東区画【Ｂ大・中：92　Ｂ小：81　Ｃ大・中：15　Ｃ小：４　小計：192】
２ｂ面南東区画【Ｂ大・中：85　Ｂ小：74　Ｃ大・中：14　Ｃ小：11　小計：184】合計 1276 点

破片資料では大と中の判別を厳密に行い得ない限界はあるが、一定の指標にはなるだろう。同じ武蔵大路周辺遺跡の扇ガ谷二丁目 298 番イ地点でも、類型・法量ごとにかわらけの平均重量を算出し、提示している(瀬田 2002)。こちらは遺構単位ではなく、調査者による分類基準の差も考慮する必要はあるが、以下に参考値として掲げておく（単位＝ｇ、類型は本地点の名称に統一、小数点以下は四捨五入)。

【Ｃ大：170　Ｃ中：117　Ｃ小：42　Ｂ大 187　Ｂ中：138　Ｂ小：53】

かわらけ以外の遺物では、常滑７型式の片口鉢Ⅱ類と、瓦質土器の火鉢Ⅲ類に復元実測できた資料があるが、いずれも破片資料を接合したもので、一定の使用期間と廃棄・破片化の過程を経て、かわらけ集積に混入したと考えるのが妥当だろう。つまり、片口鉢Ⅱ類ほかが集積遺構の上限年代を示す資料となり、近年における常滑編年の再検討では、７型式を 13 世紀第４四半期に位置付ける見方も支持されている（藤澤・山本 2015)。従来、14 世紀前半としていたところを一型式分遡らせた見解とはなるが、鎌倉における在地産かわらけの年代観を考える上では、むしろ整合的かと思われる。上述の使用～廃棄・破片化に至る経過を考慮すれば、一括廃棄されたであろう、これら 1200 個体を超えるロクロかわらけについては、13 世紀末～ 14 世紀前半という、鎌倉時代から南北朝時代への移行期に位置付けることが可能であろう。２個体を復元できた瓦質火鉢Ⅲ類についても、年代観に触れた先行研究と整合性をもつ(河野 1993)。

５面以下のロクロかわらけについては、２面・２ｂ面の集積資料と顕著な型式差を見出せず、ＩＢ区６ｂ面下～７面で出土した瓦質土器の火鉢Ⅲ類（図 49-1170）も、２面出土の図 27-453・454 と同型式なので、明確な年代差を見出すことはできない。７面下～ 10 面のサブトレンチでは手づくねかわらけの小皿片が出土しており、13 世紀前半には土地利用が開始されていた可能性を示唆するが、７面以降、２面までは 13 世紀後葉～ 14 世紀前半という年代幅の中で、整地面・構築物を更新しながら土地利用の変遷が進んだものと理解できよう。

第３節　築地状遺構について

２面では南北･東西２条の築地状遺構が検出された。それぞれの構造については第五章で説明したが、ともに削平を免れた基底部が残るのみで、上部構造の復元に資する情報は無いに等しい。おそらく頂部は上土で、草葺きのような、簡素な屋根を組み上げていた可能性も考えられる。『吾妻鏡』などに記述がある「築垣」に相当する遺構と推察され、寺院地や屋敷地の内外を区画・遮蔽する目的で構築されたものであろう。同様の機能を有する遺構には、比較的短いスパンの柱穴列として検出される柵列・板塀があるが、築地はこれらよりも格式高い建造物であり、中世の鎌倉でも構築できる階層は限られていたことだろう。鎌倉でも最上級の武家屋敷として名高い、今小路西遺跡（御成小学校地点）の北谷３面で検出された土塁は築地であった可能性が指摘されているが、これと本地点の築地状遺構とは版築の状況が近似しており、鎌倉時代後～末期という存続期間も共通している。北谷３面とは比肩し得ないにせよ、本地点の居住・所有者が、同時代にあって一定の社会的地位に置かれていたことは指摘して良いように思う。

第４節　出土遺物の特徴

前節の指摘は、整然とした遺構配置のみならず、1200 個体を超えるロクロかわらけや優美な文様を施した漆器の椀・皿、また、個体数は 10 点に満たないが、化粧用具の紅皿として使用された瀬戸窯産の入子など､数々の出土品からも窺い知ることができる。ＩＡ区の５面上で出土した板材には「猪の目」文様が配されていたが、中世鎌倉出土の木製品では初めての事例かもしれない。古来、魔除けの意味をもつ文様であったとされ、現在でも神社仏閣の建築意匠などに見ることができるし、市内では永福寺跡出土の金銅製吊金具に配された事例がある。今後、鎌倉に限らず、古代～中世遺跡における出土例を探してみたい。この他、これも鎌倉では初の出土例となる獅子頭形木製品をはじめ、鋤形などの木製形代類もわずかながら出土している。大量のロクロかわらけのうち、小皿を中心に灯明皿としての痕跡を留める個体が多くあった。一括廃棄にともなうことから、日常の灯火具というよりは法会などの儀式や、かわらけの主たる用途とされる武家儀礼の一環としての饗宴に供された資料群と見なしておきたい。日常の実用品だけでなく、こうした精神世界に関わる品々もまた、本地点の性格を考える上で有用な資料となることは間違いない。

第５節　まとめ

第二章において、本地点周辺が町屋免許地として鎌倉でも賑わいあるエリアの一つであった旨を説明したが、少なくとも今回の調査範囲の限りにおいては、商業・手工業従事者の活動にともなうような、雑多な印象を抱かせる遺構・遺物は希薄であった。鎌倉時代、幕府の実務を担った多くの京下り官人がここ扇ガ谷地区に居を構えたとされる。一連の成果が、こうした史実と直結するかは綿密な考証を必要とするが、今回の調査内容を瞥見する限り、町屋的な賑わいというよりも、現在の扇ガ谷地区と同様に閑静な一面を感じさせる調査成果となった。

参考文献（発表年順）

河野眞知郎 1993「中世鎌倉火鉢考察―東国との関連において―」『考古論叢　神奈河』第２集　神奈川県考古学会

瀬田哲夫 2002「武蔵大路周辺遺跡（No. 194）扇ガ谷二丁目 298 番イ」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 18（第１分冊)』鎌倉市教育委員会

藤澤良祐・山本智子 2015「付編　中世常滑窯編年の再検討―５型式期以降を中心に―」『上県２号窯跡第９次発掘調査概要報告書』愛知学院大学文学部歴史学科

付編１　武蔵大路周辺遺跡から出土した大型植物遺体

バンダリ スダルシャン（パレオ・ラボ）

１．はじめに

神奈川県鎌倉市に所在する武蔵大路周辺遺跡は、鎌倉時代の遺跡である。ここでは、武蔵大路周辺遺跡の堆積物から採取された大型植物遺体の同定結果を報告し、食用などに利用された植物について検討した。

２．試料と方法

分析試料は、武蔵大路周辺遺跡のＩＡ区５面下（No.102 サンプル（押木））から採取された堆積物１試料である（**編者註：図４の土層断面図、Ｇ－Ｄの 14 層から採取**）。

堆積物試料は、パレオ・ラボにて全量を計量し、0.5mm 目の篩を用いて水洗した。各試料の水洗量については、表１を参照されたい。大型植物遺体の抽出および同定、計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても１個体とみなせるものは完形として数え、１個体に満たないものは破片とした。計数が難しい分類群については、おおよその数を記号（+）で表記した。

３．結果

同定した結果、木本植物では針葉樹のヒノキ葉の１分類群、広葉樹のスモモ核とクリ果実、スダジイ果実、ヒメグルミ核、ハンノキ属果実、カキノキ種子の６分類群、草本植物ではスゲ属Ａ果実とスゲ属Ｂ果実、ヒメクグ果実、カヤツリグサ属果実、テンツキ属果実、ホタルイ属炭化果実、メヒシバ属炭化有ふ果、ヒエ属有ふ果・炭化有ふ果、イネ炭化籾・籾殻・炭化籾殻・炭化種子（頴果）、オオムギ炭化種子（頴果）、コムギ炭化種子（頴果）、キケマン属種子、ダイズ属炭化種子、オランダイチゴ属－ヘビイチゴ属果実、クワクサ種子、メロン仲間種子、カタバミ属種子、ヤナギタデ果実、サナエタデ－オオイヌタデ果実、イヌタデ果実、ウシハコベ種子、アカザ属種子、スベリヒユ属種子、ナス種子、ゴマ種子、メナモミ属果実、オトコエシ属果実の 25 分類群、シダ植物のワラビ炭化裂片１分類群の、計 33 分類群が見いだされた。また、種実以外には、不明動物遺体や不明昆虫遺体が得られた（表１）。

スダジイとイネが非常に多く、ゴマが多く、クリとキケマン属、ウシハコベ、アカザ属が少量、カキノキとホタルイ属、ヒエ属、メロン仲間、ヤナギタデがわずかに得られた。この他の分類群は、産出数が３点未満であった。

次に、主な分類群の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田（2003-）に準拠し、APG Ⅲリストの順とした。

（１）スモモ　Prunus salicina Lindl.　核　バラ科

暗褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観はいびつな楕円形。縫合線に沿ってやや深い溝が入る。表面は平滑だが、臍付近に縦方向の不規則な皺がある。高さ 12.3mm、残存幅 11.0mm、厚さ 8.7mm。

（２）クリ　Castanea crenata Sieb. et Zucc.　果実　ブナ科

黒褐色で、完形ならば側面は広卵形。表面は平滑で、細い縦筋がみられる。底面にある殻斗着痕はざらつく。果皮内面にはいわゆる渋皮が厚く付着する。残存高 24.7㎜、残存幅 15.8㎜。

（３）スダジイ　Castanopsis sieboldii (Makino) Hatus. ex T.Yamaz. et Mashiba　果実　ブナ科

黒褐色で、卵形。上部に向かって幅が徐々に狭くなる。縦の条線が目立つ。ほとんどの破片は横方向に割れている。高さ 14.4㎜、幅 9.2㎜（図版 1-3）、残存高 8.4㎜、幅 9.3㎜（図版１－４）、残存高 8.4㎜、幅 7.8㎜（図版１－５）。

（４）ヒメグルミ　Juglans mandshurica Maxim. var. cordiformis (Makino) Kitam.　核　クルミ科

黄褐色で、完形ならば上面観は楕円形、側面観は先端が尖る広卵形。外面中央にやや深い溝が走るが、それ以外は表面が平滑な点で、オニグルミとは異なる。明瞭な縫合線がある。高さ 24.2㎜、幅 22.2㎜、残存厚 7.6㎜。

（５）カキノキ　Diospyros kaki Thunb.　種子　カキノキ科

黒褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形で、基部がやや曲がり、突出する。表面にはちりめん状のしわが見られる。明らかに大型の果実であったと推定される種子をカキノキとした。高さ 15.6㎜、幅 11.0㎜。

（６）スゲ属Ａ　Carex sp. A　果実　カヤツリグサ科

灰色で、残存状態では変形していたが、完形ならば上面観は三稜形、側面観はやや下端が窄まる倒卵形。三面はややくぼむ。表面には微細な網目状隆線がある。先端に円形の穴がある。長さ 1.5㎜、幅 1.0㎜。

（７）スゲ属Ｂ　Carex sp. B　果実　カヤツリグサ科

暗褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形。表面には微細な網目状隆線があり、先端は明瞭に突出する。長さ 1.7㎜、幅 1.3㎜。

（８）ヒエ属　Echinochloa spp.　有ふ果・炭化有ふ果　イネ科

赤褐色で、紡錘形。縦方向に細かい筋がある。内穎は膨らまず、外穎は中央部が最も膨らむ。那須(2017)に示された現生種の長幅比と比較すると、栽培型のヒエよりも野生植物のタイヌビエやイヌビエの長幅比に近い。長さ 3.2㎜、幅 1.8㎜。炭化有ふ果の残存長 2.2㎜、幅 1.8㎜。

（９）イネ　Oryza sativa L.　炭化籾・籾殻・炭化籾殻・炭化種子（頴果）　イネ科

籾は、上面観が楕円形で、側面観が長楕円形。縦方向に明瞭な稜線があり、基部は突出する。表面には規則的な縦方向の顆粒状突起がある。長さ 7.0㎜、幅 3.8㎜。種子（頴果）は、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形。一端に胚が残り、両面に縦方向の 2 本の浅い溝がある。長さ 5.0㎜、幅 3.0㎜。

(10) ダイズ属　Glycine sp.　炭化種子　マメ科

やや発泡しているが、上面観は楕円形、側面観は臍側が直線的な楕円形。臍は楕円形で、全長の 1/2 未満。小畑ほか（2007）に示されたダイズ属の特徴である、へその中央の縦溝とその周囲の隆線がある。残存長 4.8㎜、幅 3.3㎜、幅 2.6㎜。

(11) メロン仲間　Cucumis melo L.　種子　ウリ科

赤褐色で、上面観は扁平、側面観は完形ならば狭卵形。頂部が尖り、表面は平滑。藤下（1984）によると、長さ 6.0㎜以下は雑草メロン型、長さ 6.1 ～ 8.0㎜はマクワウリ・シロウリ型、長さ 8.1㎜以上はモモルディカメロン型と、種子の大きさからおおむね 3 群に分けられる。今回同定されたメロン仲間種子は、長さ 7.2㎜、幅 4.0㎜で、マクワウリ・シロウリ型であった。

(12) ナス　Solanum melongena L.　種子　ナス科

赤褐色で、完形ならば上面観は長楕円形、側面観は楕円形。表面には畝状突起が覆瓦状となる細かい

網目状隆線がある。残存長 3.2mm、残存幅 3.0mm。

(13) ゴマ　Sesamum orientale L.　種子　ゴマ科

黄褐色で、上面観は扁平、側面観は狭倒卵形。表面は平滑で、縁に沿って浅い溝がある。長さ 3.3mm、幅 2.4mm。

４．考察

ＩＡ区５面下の No.102 サンプル（押木）からは、栽培植物で果樹のモモとカキノキ、水田作物のイネと畑作物のメロン仲間（マクワウリ・シロウリ型)、ナス、ゴマ、野生植物で食用可能なクリとスダジイ、ヒメグルミ、ヒエ属、ダイズ属、カタバミ属、アカザ属が得られた。スモモ核やカキノキ種子は、果肉を食べた後に捨てられた可能性がある。スモモ核には、ネズミ類によるとみられる動物食害痕が確認されたため、捨てられた後にネズミにかじられた可能性がある。クリやスダジイの子葉は食用となる部位であるが、果実は食用ではないため、破片については殻を剥いた後に不要な果実が捨てられた可能性がある。スダジイは、ほとんどが横方向に割れており、人為的に割られた可能性がある。半割の状態で得られたヒメグルミ核には打撃痕は見られず、自然に割れた可能性がある。

イネは籾も出土しており、籾の状態で保管されていたイネがなんらかの要因で炭化して堆積した可能性が考えられる。籾殻が多く得られており、籾殻がまとめて廃棄された可能性がある。さらに、ナスやゴマなどの栽培植物が産出しており、何らかの人為的要因で堆積した可能性がある。また、メロン仲間の種子が産出しており、利用後に種子が廃棄された可能性が考えられる。

それ以外では、ヒノキ葉やハンノキ属果実もわずかに産出しており、試料採取地点の周辺にこれらの植物が生育していたと推定される。野生の草本植物では、湿地性のスゲ属Ａとスゲ属Ｂ、ヒメクグ、カヤツリグサ属、テンツキ属、ホタルイ属、ヤナギタデなどが産出しており、周辺の湿った場所に生育していた可能性がある。また、周辺の乾いた場所には、キケマン属やオランダイチゴ属－ヘビイチゴ属、クワクサ、カタバミ属、イヌタデ、ウシハコベ、アカザ属、スベリヒユ属、メナモミ属、オトコエシ属なども生育していたと考えられる。

引用文献

藤下典之（1984）出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法．渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学―総括報告書」: 638-654, 同朋舎出版.

那須浩郎（2017）縄文時代にヒエは栽培化されたのか？ SEEDS CONTACT, 4, 27-29.

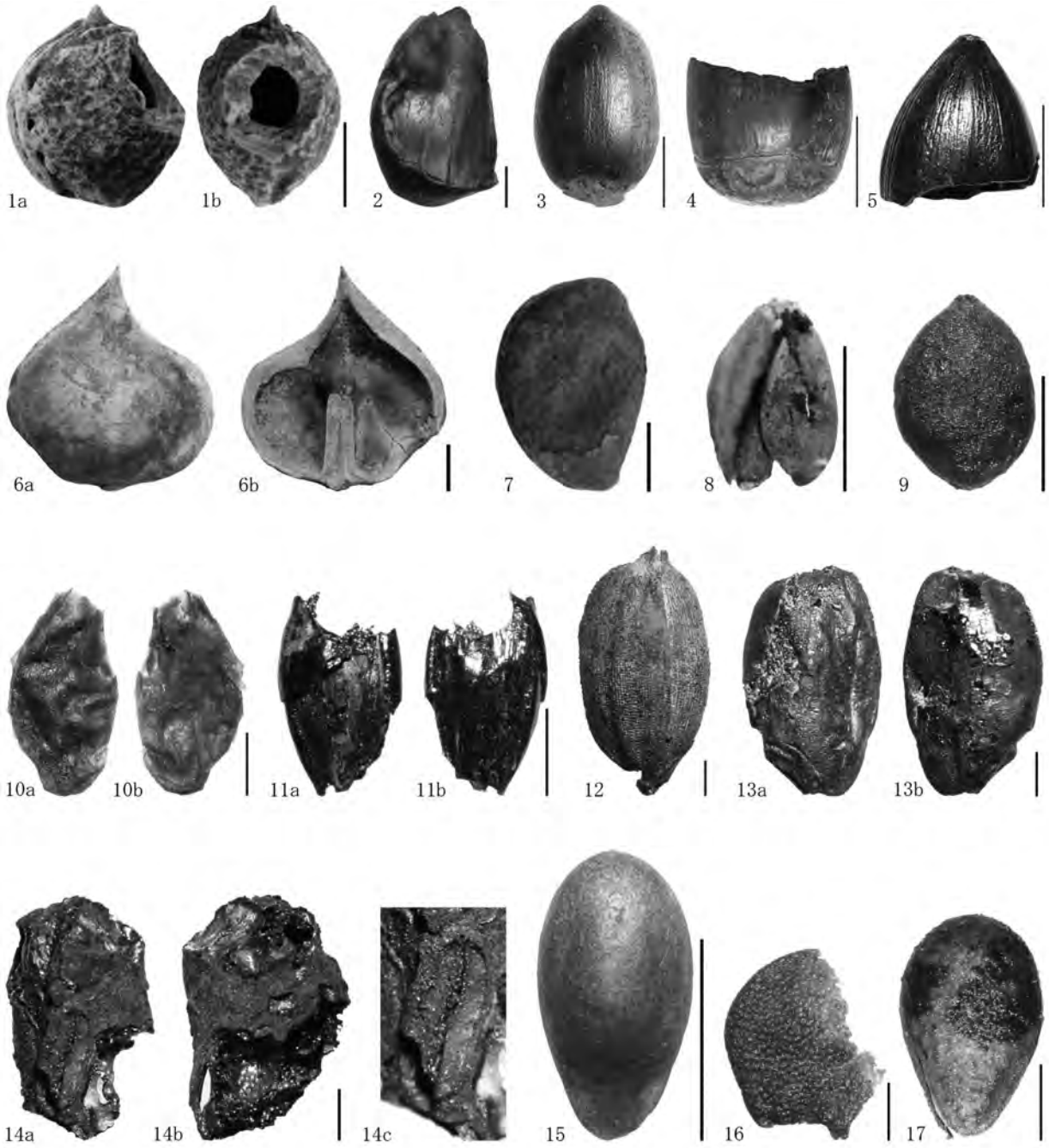
小畑弘己・佐々木由香・仙波靖子（2007）土器圧痕からみた縄文時代後・晩期における九州のダイズ栽培．植生史研究, 15-2, 97-114.

米倉浩司・梶田　忠（2003-）BG Plants 和名－学名インデックス（YList), http://ylist.info

表１　武蔵大路周辺遺跡から出土した大型植物遺体（括弧内は破片数）

	遺跡名	M01903
	区	ＩA区
	面	5面下
	試料No.	No.102サンプル（押木）
	時期	鎌倉時代
分類群	水洗量（cc）	500
ヒノキ	葉	1
スモモ	核	1
クリ	果実	(37)
スダジイ	果実（完形）	1
	果実（半分）	(240)
	果実（破片）	(++++)
ヒメグルミ	核	(1)
ハンノキ属	果実	1
カキノキ	種子	5 (1)
スゲ属A	果実	1
スゲ属B	果実	2
ヒメクグ	果実	1
カヤツリグサ属	果実	1
テンツキ属	果実	1
ホタルイ属	炭化果実	7
メヒシバ属	有ふ果	1
ヒエ属	有ふ果	2 (1)
	炭化有ふ果	2
イネ	炭化籾	3 (2)
	籾殻	205 (++++)
	炭化籾殻	14 (++)
	炭化種子	16 (29)
キケマン属	種子	30
ダイズ属	炭化種子	1
オランダイチゴ属ーヘビイチゴ属	果実	1
クワクサ	種子	2
メロン仲間	種子	2 (4)
カタバミ属	種子	1
ヤナギタデ	果実	4
サナエタデーオオイヌタデ	果実	1
イヌタデ	果実	(3)
ウシハコベ	種子	35
アカザ属	種子	16
スベリヒユ属	種子	1
ナス	種子	(2)
ゴマ	種子	24 (98)
メナモミ属	果実	1
オトコエシ属	果実	2
ワラビ	炭化裂片	1
不明	動物遺体	(++)
	昆虫遺体	(+++)
土器片		(+)

+:1-9, ++:10-49, +++:50-99, ++++:100以上



スケール 1-7, 15:5mm, 8-14a-b, 16, 17:1mm, 14cは任意

図版１　武蔵大路周辺遺跡から出土した大型植物遺体

1. スモモ核、2. クリ果実、3-5. スダジイ果実、6. ヒメグルミ核、7. カキノキ種子、8. スゲ属A果実、9. スゲ属B果実、10. ヒエ属有ふ果、11. ヒエ属炭化有ふ果、12. イネ炭化籾、13. イネ炭化種子、14. ダイズ属炭化種子、15. メロン仲間種子、16. ナス種子、17. ゴマ種子

付編２　武蔵大路周辺遺跡の花粉分析、プラント・オパール分析、寄生虫卵分析

森　将志（パレオ・ラボ）

１．はじめに

武蔵大路周辺遺跡（MO1903）では、環境復元を目的として堆積物試料が採取された。以下では、試料について行った花粉分析とプラント・オパール分析、寄生虫卵分析の結果を示し、考察した。

２．試料と方法

分析試料は、標高14.7ｍ前後に堆積した暗灰色粘土質土２点(No. ２、No. ３)である。No. ２については、花粉分析とプラント･オパール分析を行い、No. ３については花粉分析とプラント･オパール分析に加え、寄生虫卵分析も行った。これらの試料について、以下の処理を施した（**編者註：No. ２＝図３の土層断面図、Ｃ－Ｄの49層から、No. ３＝図３の土層断面図、Ａ－Ｂの21層から採取**）。

２－１．花粉分析

試料（湿重量約３～４ｇ）を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え、10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え、１時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理（無水酢酸９：濃硫酸１の割合の混酸を加え20分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し、保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは樹木花粉が200を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。なお、No. ３については、十分な量の花粉化石が含まれていなかったため、プレパラート１枚を検鏡するにとどめた。さらに、単体標本（PLC.3261～3266）を作製し、写真を図版１に載せた。

２－２．プラント・オパール分析

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約１ｇ（秤量）をトールビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ（直径約0.04mm）を加える。これに30%の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波洗浄機による試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパールについて、ガラスビーズが300個に達するまで行った。また、植物珪酸体の写真を撮り、図版２に載せた。

２－３．寄生虫卵分析

試料を乾燥後、遠沈管にとり、計量した。花粉分析と同様の処理を施し、得られた残渣に適容量のグリセリンを加えて計量した。この残渣からプレパラートを作製し、プレパラート全面に渡り検鏡した。なお、試料１ｇ中の寄生虫卵含有数は、次式で求めた。

Ｘ＝ＢＤ／ＡＣ

Ｘ：試料1g中の寄生虫卵含有数、Ａ：分析に用いた試料の重量(g)、Ｂ：濃縮試料＋グリセリンの重量(g)、Ｃ:濃縮試料＋グリセリンのうち、封入に用いた重量(g)、Ｄ:プレパラート中の寄生虫卵数。

また、保存状態の良好な寄生虫卵を選んで単体標本（PLC.3267、3268）を作製し、写真を図版１に載せた。

３．結果

３－１．花粉分析

２試料から検出された花粉・胞子の分類群数は樹木花粉 15、草本花粉 16、形態分類のシダ植物胞子２の、総計 33 である。これらの花粉・胞子の一覧表を表１に、花粉分布図を図１に示した。分布図における樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を基数とした百分率で、草本花粉と胞子の産出率は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン (-) で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。さらに、クワ科の花粉には樹木起源と草本起源の分類群があるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して入れてある。

検鏡の結果、No. ３には十分な量の花粉化石は含まれていなかった。No. ２では、マツ属複維管束亜属とイネ科の産出が目立つ。

表１　産出花粉胞子一覧表

学名	和名	No.2	No.3
樹木			
Podocarpus	マキ属	1	-
Abies	モミ属	3	-
Tsuga	ツガ属	3	-
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	112	2
Cryptomeria	スギ属	26	1
Pterocarya－*Juglans*	サワグルミ属－クルミ属	2	-
Carpinus－*Ostrya*	クマシデ属－アサダ属	1	-
Betula	カバノキ属	1	-
Alnus	ハンノキ属	3	2
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属	9	1
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	23	2
Castanea	クリ属	8	-
Castanopsis－*Pasania*	シイノキ属－マテバシイ属	3	2
Ulmus－*Zelkova*	ニレ属－ケヤキ属	3	-
Araliaceae	ウコギ科	2	-
草本			
Gramineae	イネ科	1730	36
Cyperaceae	カヤツリグサ科	2	-
Moraceae	クワ科	1	-
Polygonum sect. *Persicaria*－*Echinocaulon*	サナエタデ節－ウナギツカミ節	2	-
Fagopyrum	ソバ属	6	-
Chenopodiaceae－Amaranthaceae	アカザ科－ヒユ科	115	14
Caryophyllaceae	ナデシコ科	2	-
Ranunculaceae	キンポウゲ科	3	-
Brassicaceae	アブラナ科	127	20
Sanguisorba	ワレモコウ属	2	-
Apiaceae	セリ科	4	-
Ambrosia－*Xanthium*	ブタクサ属－オナモミ属	1	-
Carthamus	ベニバナ属	1	-
Artemisia	ヨモギ属	205	16
Tubuliflorae	キク亜科	8	2
Liguliflorae	タンポポ亜科	3	4
シダ植物			
monolete type spore	単条溝胞子	1	1
trilete type spore	三条溝胞子	1	-
Arboreal pollen	樹木花粉	200	10
Nonarboreal pollen	草本花粉	2212	92
Spores	シダ植物胞子	2	1
Total Pollen & Spores	花粉・胞子総数	2414	103
unknown	不明	4	3

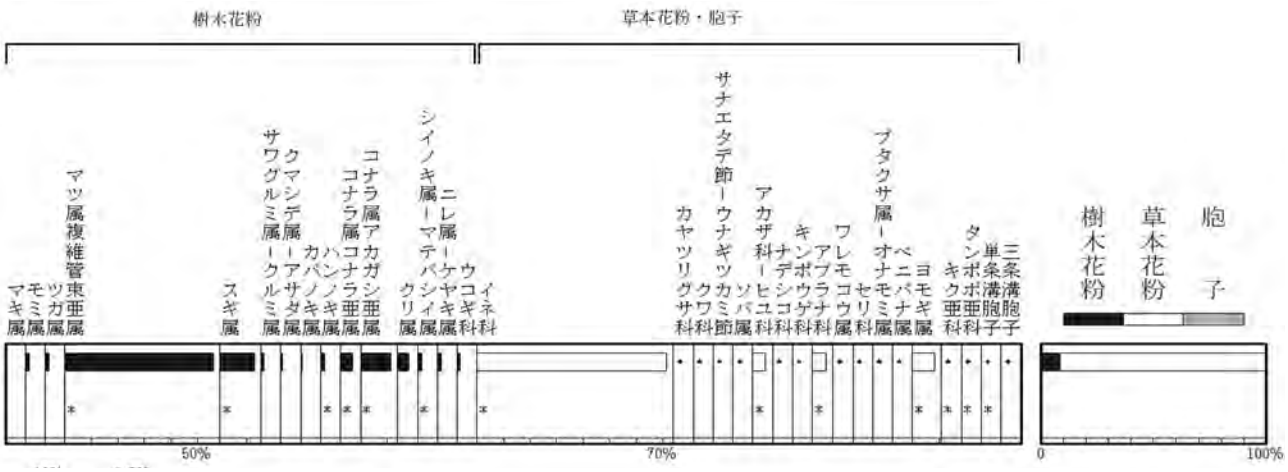


図１　武蔵大路周辺遺跡における花粉分布図

樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は産出花粉胞子総数を基数として百分率で産出した。

※は樹木花粉 200 個未満の試料について、検出した分類群を示す。

３－２．プラント・オパール分析

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料１ｇ当りの各プラント・オパール個数を求め（表２）、分布図に示した（図２）。

２試料を検鏡した結果、イネ機動細胞珪酸体とネザサ節型機動細胞珪酸体、ササ属型機動細胞珪酸体、他のタケ亜科機動細胞珪酸体、シバ属機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の産出が確認できた。その他、イネの籾殻に形成されるイネ穎破片の産出も確認された。

表２　試料１ｇ当りのプラント・オパール個数

	イネ（個/ｇ）	イネ穎破片（個/ｇ）	ネザサ節型（個/ｇ）	ササ属型（個/ｇ）	他のタケ亜科（個/ｇ）	シバ属（個/ｇ）	キビ族（個/ｇ）	ウシクサ族（個/ｇ）	不明（個/ｇ）
M01903 No.2	92,100	48,000	60,000	2,000	0	2,000	164,100	46,000	6,000
M01903 No.3	44,200	6,500	83,100	5,200	9,100	0	71,500	14,300	2,600

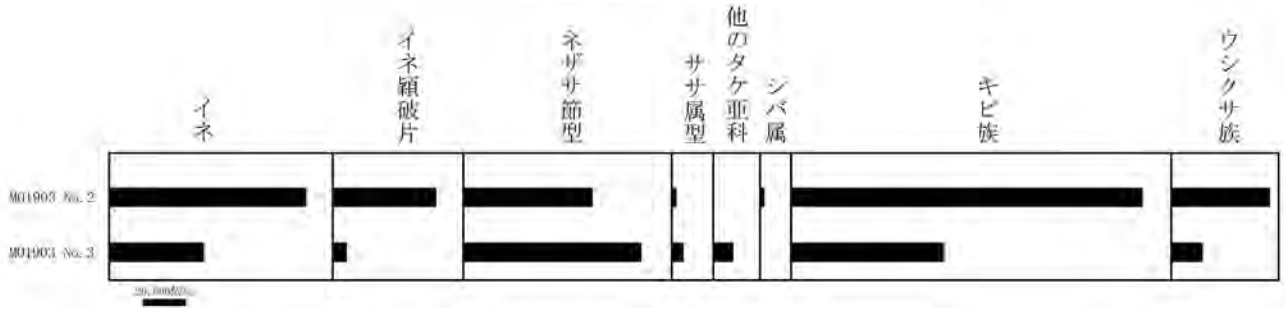


図２　植物珪酸体分布図

３－３．寄生虫卵分析

計量し、検鏡した結果を表３に示す。No. ３では回虫卵と鞭虫卵が検出された。寄生虫卵数は試料１㎤あたり 274 個である。

表３　試料の計量値と寄生虫卵数

	No. 3
分析に用いた試料(g)	3.0876
残渣＋グリセリン(g)	1.3411
封入に用いた量(g)	0.0433
試料の密度 (g/cm^3)	1.44
回虫卵	15
(試料1g当たりの個数)	150
鞭虫卵	4
(試料1g当たりの個数)	40
計	19
(試料1g当たりの個数)	191
(試料1cm^{3}当たりの個数)	274

４．古植生について

花粉分析の結果では、No. ２においてマツ属複維管束亜属の産出が目立つ花粉組成を示している。No. ２堆積当時は周辺にニヨウマツ林が分布を広げていた可能性がある。なお、鎌倉市の花粉

分析では、12 世紀末～ 13 世紀末の期間はスギ属やコナラ属アカガシ亜属、シイノキ属－マテバシイ属が優勢で、13 世紀末にマツ属維管束亜属が増加する傾向が知られている（鈴木・吉川，1994）。よって、No. ２は 13 世紀末以降のニヨウマツ林の存在を示している可能性がある。No. ２の草本花粉では、イネ科が突出しており、アカザ科－ヒユ科、アブラナ科、ヨモギ属などの産出が目立つ。よって、試料採取地点周辺には、これらの分類群からなる草本植生が広がっていたと思われる。なお、No. ２のプラント・オパール分析の結果では、イネ穎破片が多く検出されているため、No. ２から産出するイネ科花粉は､イネの籾殻に付着していた花粉も含まれている可能性がある。さらには､No. ２の花粉化石群集には、糞便に混じっていた花粉も含まれている可能性もあるが、その根拠は後述する。

No. ２からはその他、ネザサ節型やササ属型、シバ属、キビ族、ウシクサ族が産出しているため、ネザサ節やササ属などのタケ亜科や、キビ族やウシクサ族などのイネ科が分布していた可能性がある。さらには、イネ機動細胞珪酸体の産出から、No. ２採取地点周辺には稲藁も堆積していたと考えられる。

No. ３においても No. ２と同様な植物珪酸体が産出しているが、産出量が大きく異なる。No. ２に比べると、No. ３ではイネとイネ穎破片、キビ族、ウシクサ族の産出量が少なく、ネザサ節型の産出量が多い。地点によってイネ科植物の分布が異なっていたか、何らかの堆積過程や人為的影響を受けて産出量が異なっていた可能性などが考えられる。

５．寄生虫卵について

No. ３の寄生虫卵分析の結果では、回虫卵と鞭虫卵が検出された。鎌倉時代の鎌倉では、いたるところで寄生虫卵の産出が確認されており、市内各地に糞便が溢れ出ていた状況が推測されている（鈴木，2008）。今回の分析試料でも寄生虫卵が検出され､鈴木(2008)の状況と合致する。寄生虫卵数については、試料１㎤中に 1,000 個以上あれば糞便の可能性があると考えられており（金原，1997）、この目安に照らし合わせると、No. ３から検出された寄生虫卵の密度は糞便堆積物の目安を下回る。寄生虫卵数が少ない理由については、酸化が影響している可能性がある。すなわち、No. ３では、十分な量の花粉化石が得られていない。一般的に花粉は湿乾を繰り返す環境に弱く、酸化的環境下で堆積すると、紫外線や土壌バクテリアなどによって分解され、消失してしまう。したがって、堆積物が酸素と接触する機会の多い堆積環境では花粉化石が残りにくい。寄生虫卵も同様の条件で分解されるため（金原，2004）、もともと含まれていた寄生虫卵が分解され、密度が下がった可能性がある。

ちなみに、定量分析は行っていないが、No. ２においても回虫卵や鞭虫卵が検出された。No. ２に糞便が混じりこんでいたとすると、花粉化石の中には糞便に含まれていた花粉が抽出されている可能性がある。例えば、イネ科やアカザ科－ヒユ科、アブラナ科、ソバ属、ベニバナ属といった花粉は、食用や薬用として人が食し、排出されてトイレ遺構に堆積する例が知られている（黒崎，1997：金原，1998）。No. ２の花粉化石群集においても、寄生虫卵の産出とともにこれらの分類群の産出が見られるため、糞便に含まれていた花粉なのか、周辺に生育していた植物から供給された花粉なのかを判断するのが難しい。

引用文献

金原正明（1997）自然科学的研究からみたトイレ文化．大田区立郷土博物館編「トイレの考古学」：197-216，東京美術．

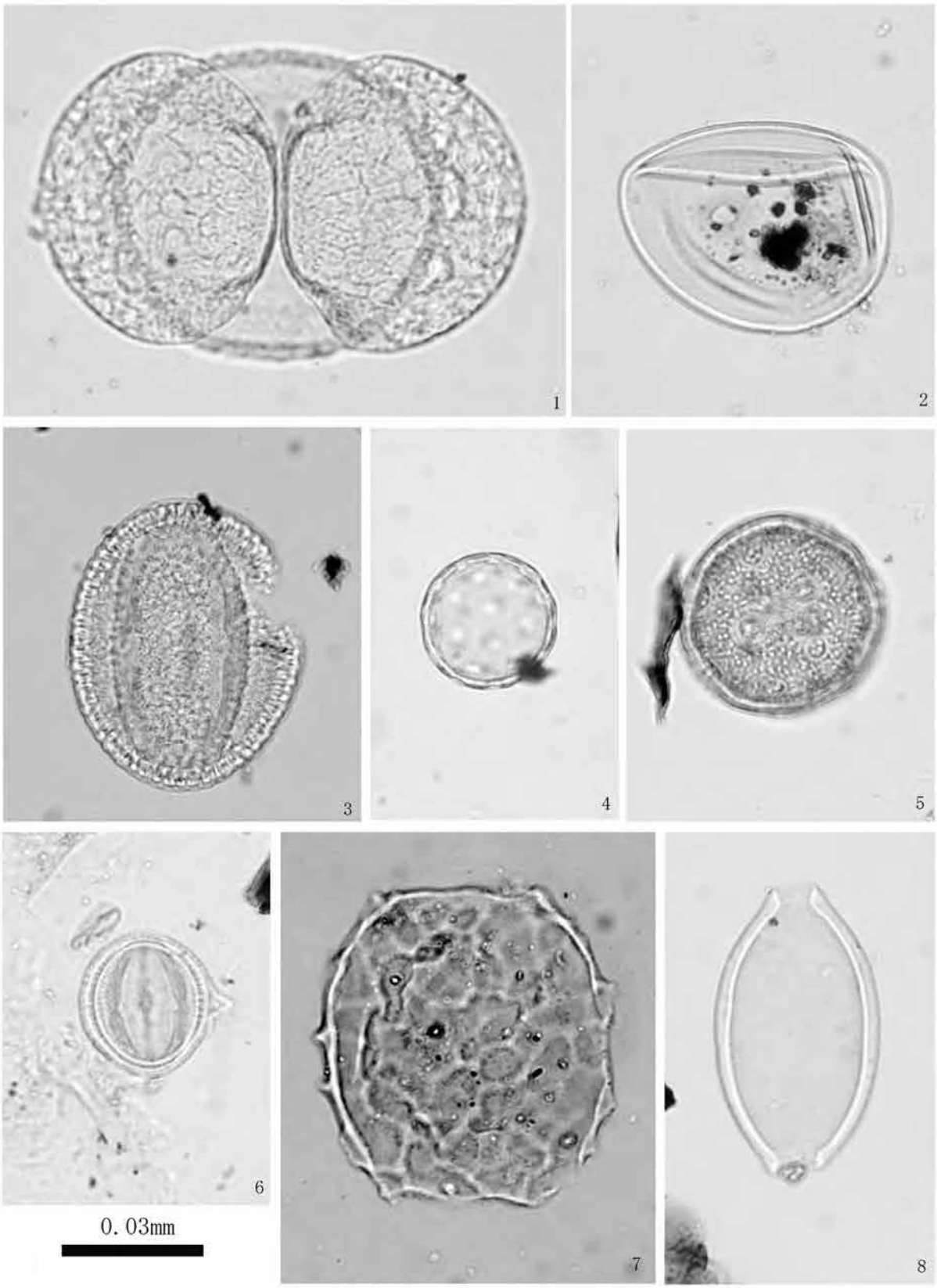
金原正明（1998）トイレ跡は生活のるつぼ：排泄物の生物学．遺伝，52，39-45．

金原正明（2004）寄生虫卵分析．安田喜憲編「環境考古学ハンドブック」：419-429，朝倉書店．

黒崎　直（1997）考古学の発掘現場におけるトイレ研究．大田区立郷土博物館編「トイレの考古学」：183-196，東京美術．

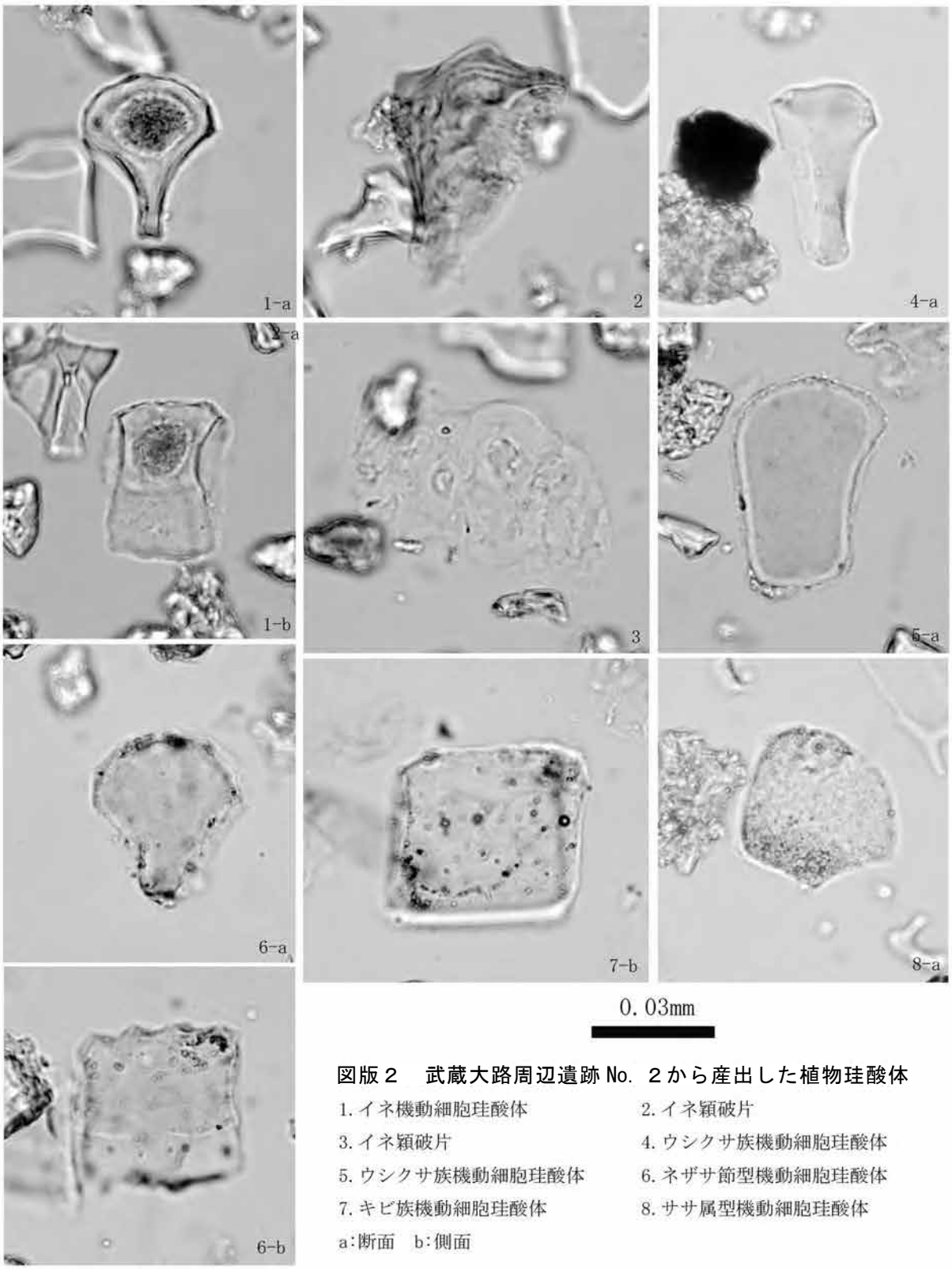
鈴木　茂（2008）鎌倉の遺跡と寄生虫卵．考古論叢神奈河，16，77-83．

鈴木　茂・吉川昌伸（1994）鎌倉市永福寺跡における鎌倉時代の植生変遷．植生史研究，2，45-51．



図版１　武蔵大路周辺遺跡から産出した花粉化石および寄生虫卵

1. マツ属複維管束亜属（PLC. 3261）　2. イネ科（PLC. 3262）　3. ソバ属（PLC. 3263）
4. アカザ科−ヒユ科（PLC. 3264）　5. ナデシコ科（PLC. 3265）　6. ヨモギ属（PLC. 3266）
7. 回虫卵（PLC. 3267）　8. 鞭虫卵（PLC. 3268）

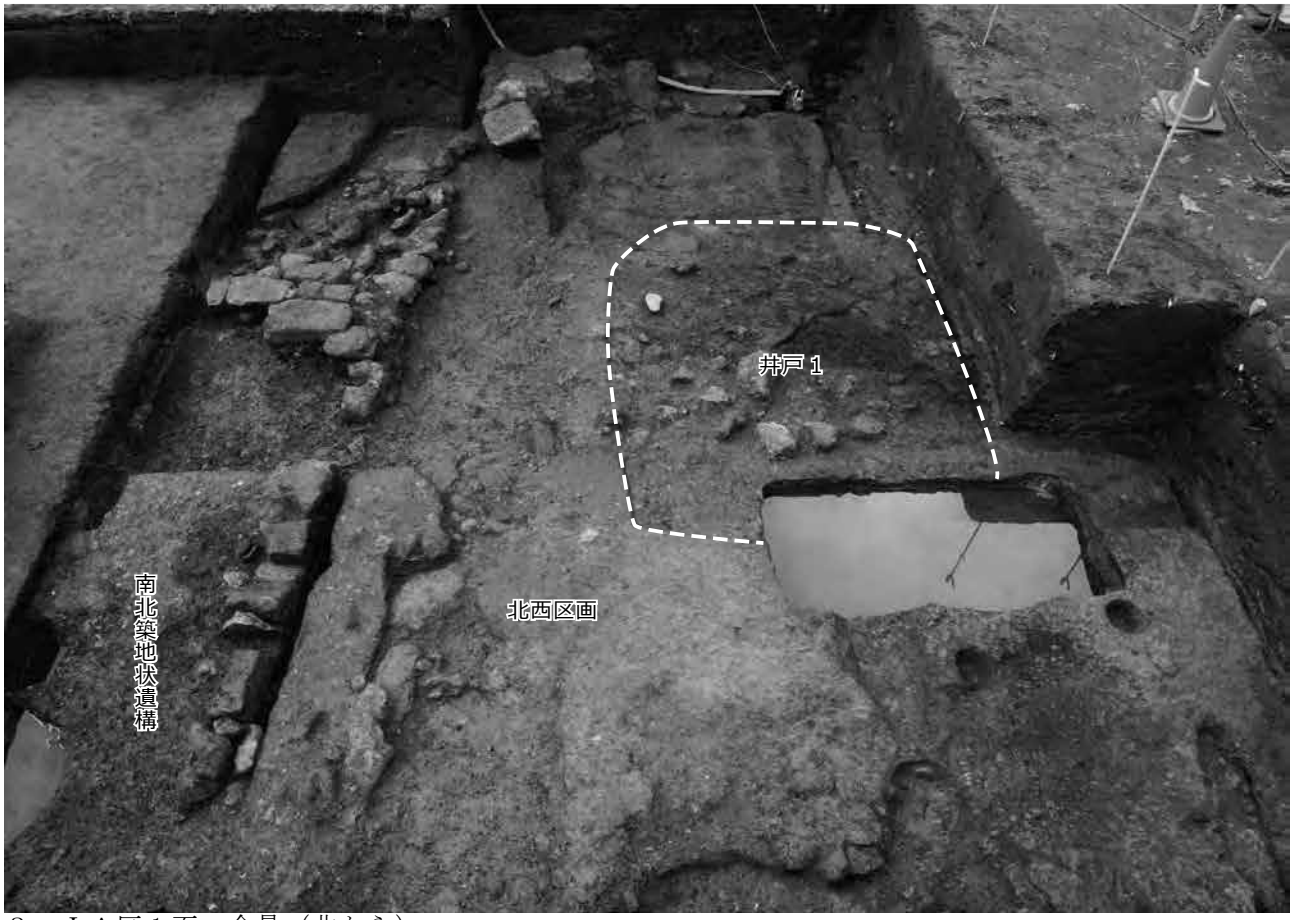


図版２　武蔵大路周辺遺跡 No. ２から産出した植物珪酸体

1. イネ機動細胞珪酸体　　2. イネ穎破片
3. イネ穎破片　　4. ウシクサ族機動細胞珪酸体
5. ウシクサ族機動細胞珪酸体　　6. ネザサ節型機動細胞珪酸体
7. キビ族機動細胞珪酸体　　8. ササ属型機動細胞珪酸体
a:断面　b:側面

１．Ｉ区　表土掘削前（北西から）

２．Ｉ区　表土掘削状況（南西から）

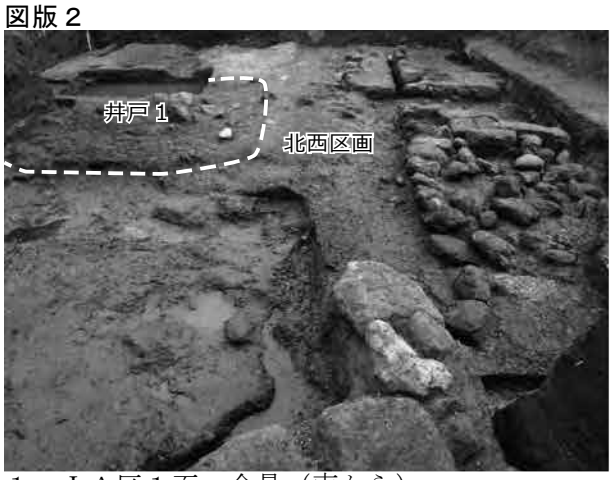


３．ＩＡ区１面　全景（北から）

４．ＩＡ区１面　全景（西から）

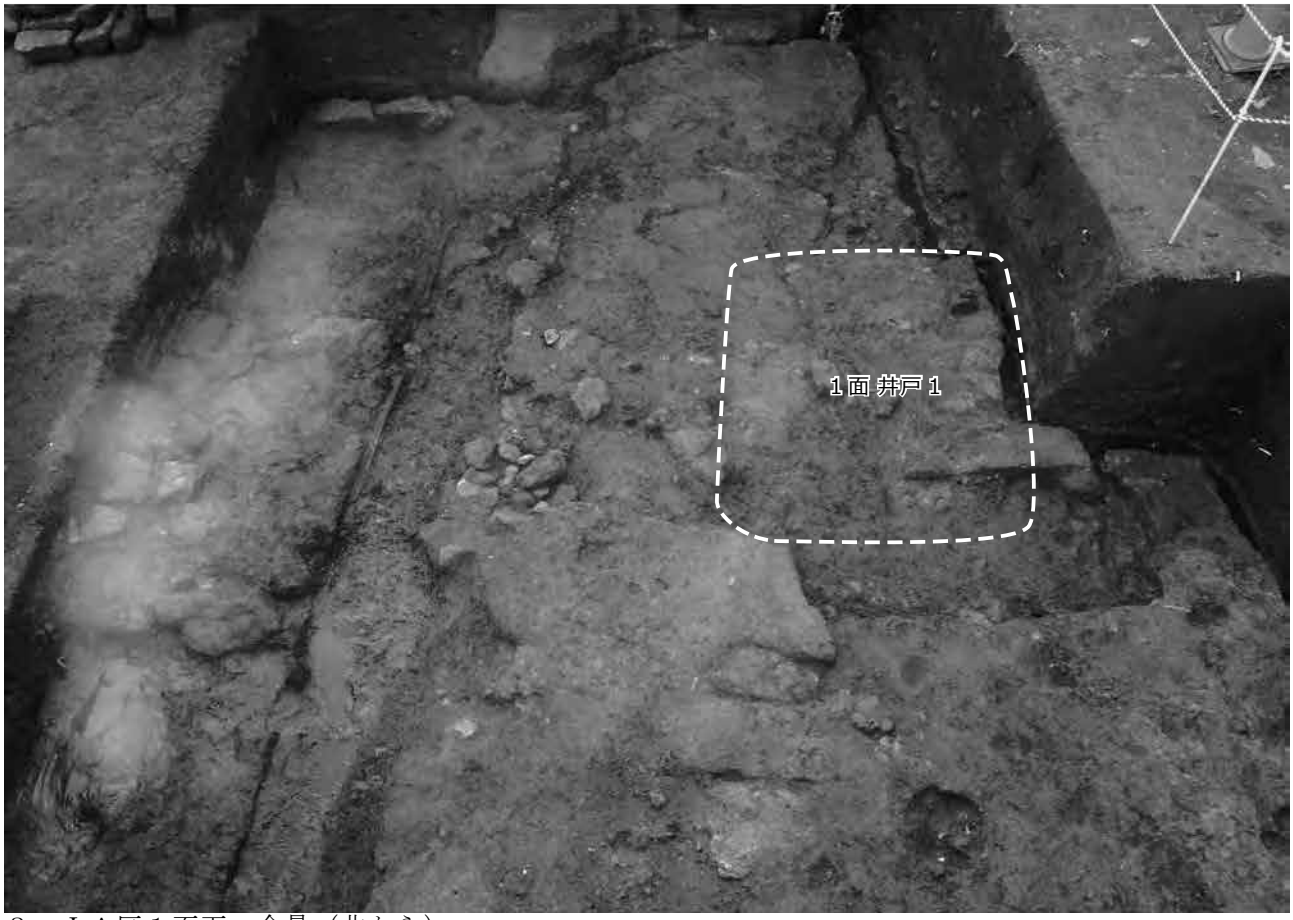
５．ＩＡ区１面　全景（北東から）

図版２



１．ＩＡ区１面　全景（南から）

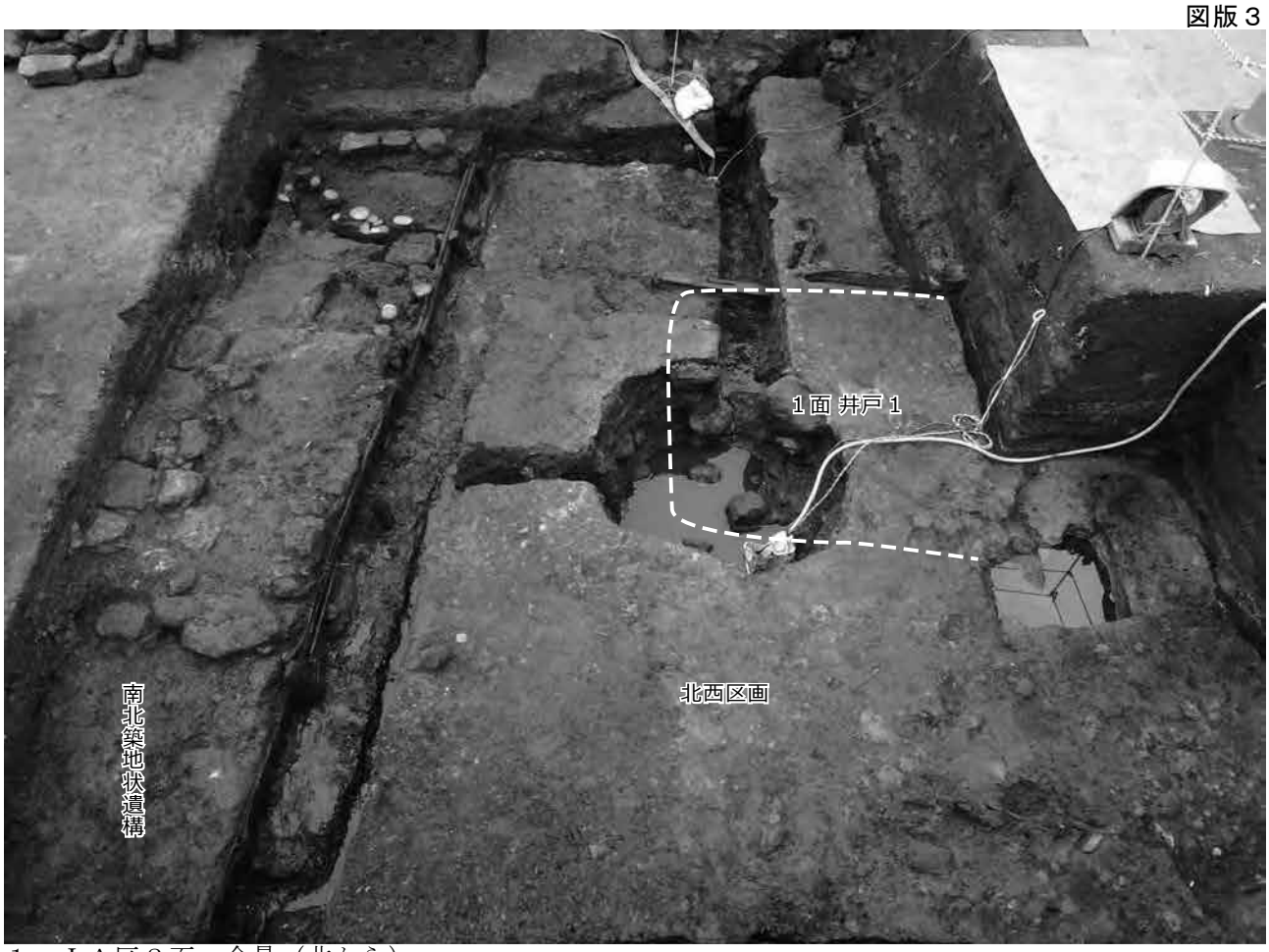
２．ＩＡ区１面　土坑１（西から）



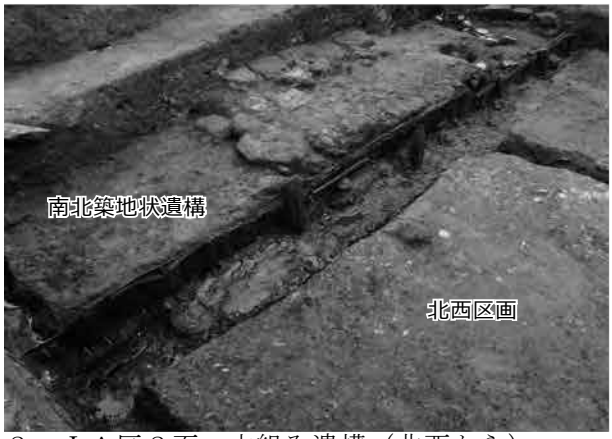
３．ＩＡ区１面下　全景（北から）

４．ＩＡ区１面下　全景（北東から）

５．ＩＡ区１面下　木組み１（西から）



１．ＩＡ区２面　全景（北から）

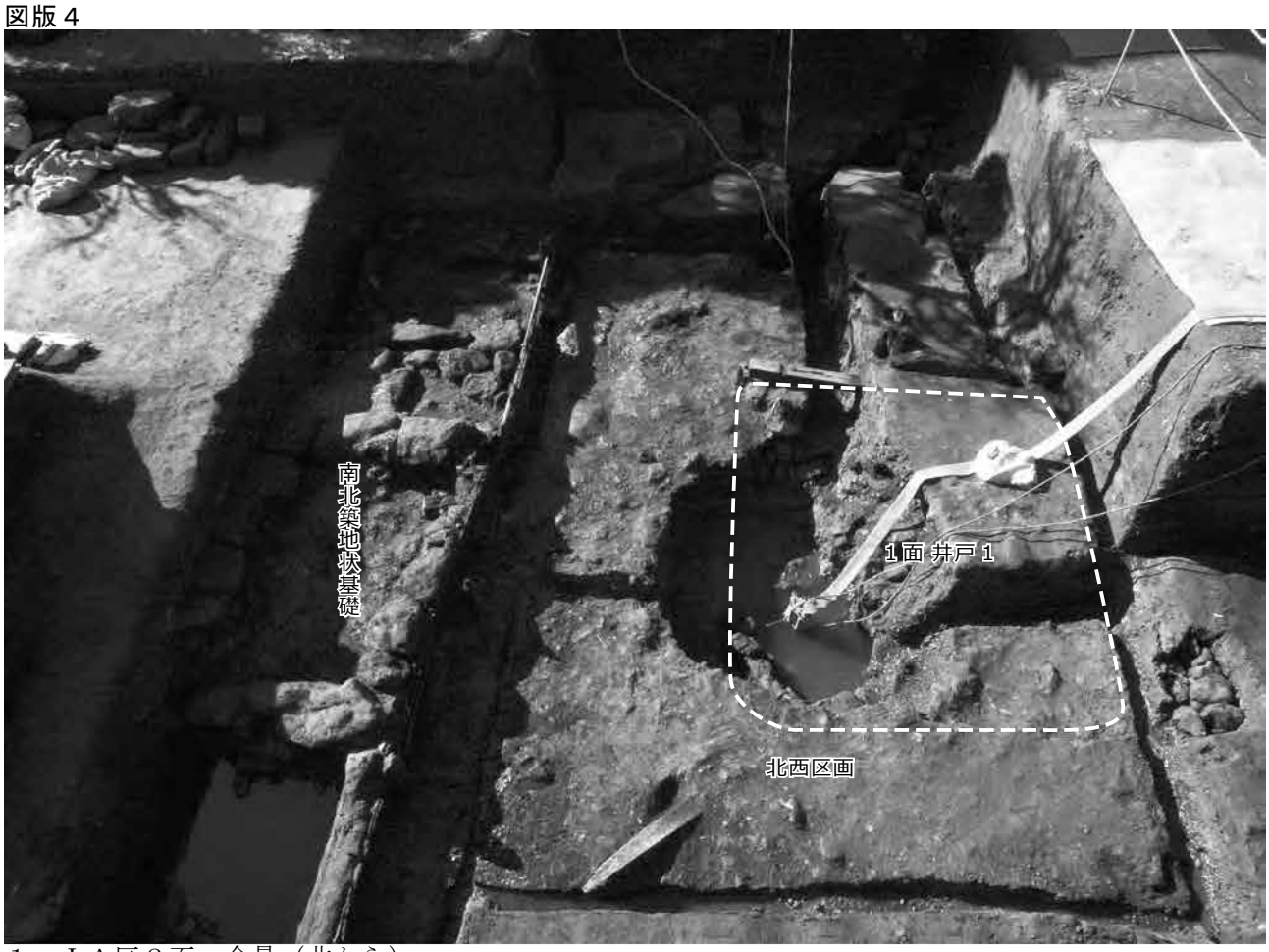


２．ＩＡ区２面　木組み遺構（北西から）

３．ＩＡ区２面　木組み遺構（南西から）

４．ＩＡ区２面　南北築地状遺構下（南東から）

図版４

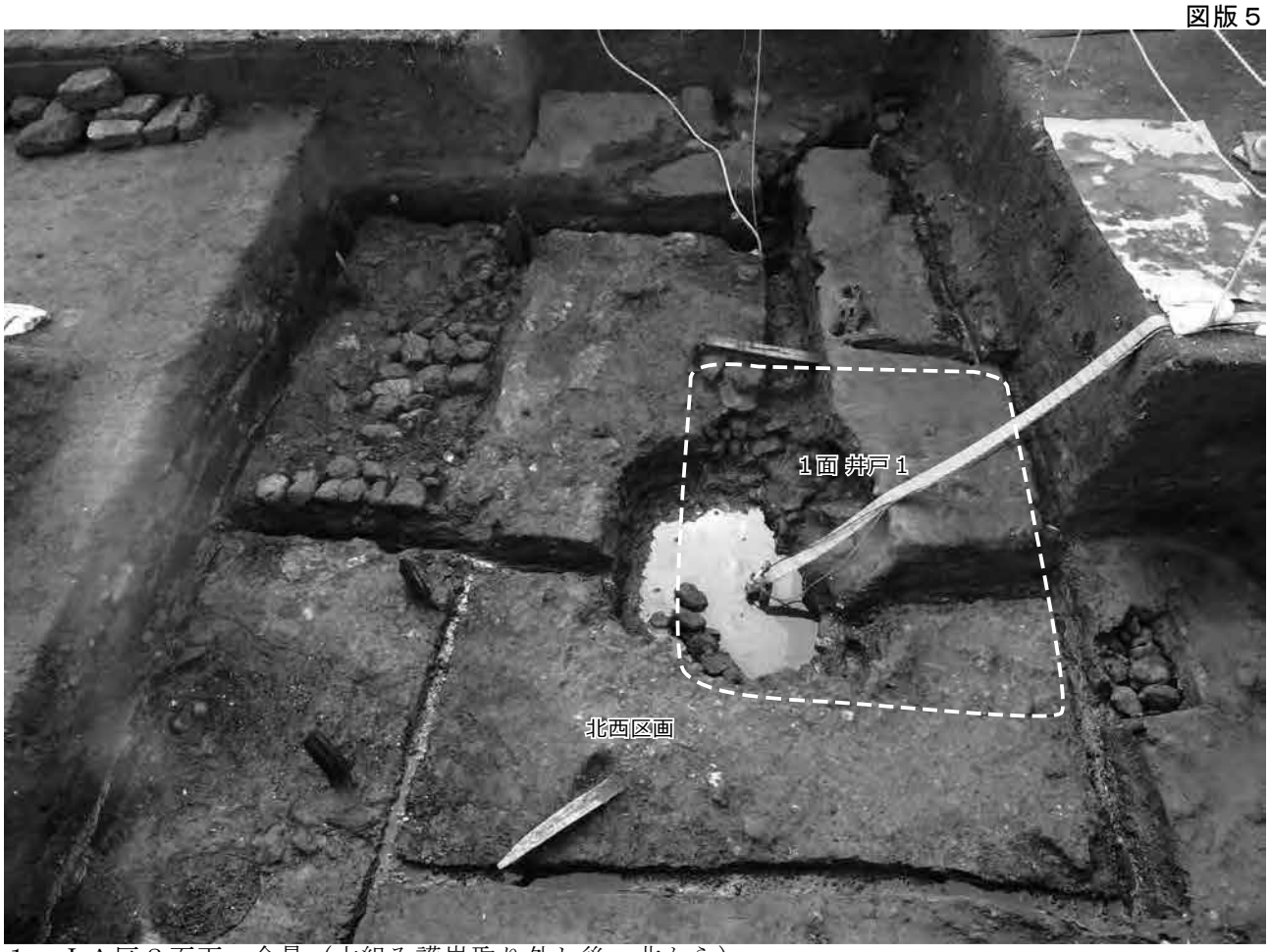


１．ＩＡ区２面　全景（北から）

２．ＩＡ区２面　全景（北東から）

３．ＩＡ区２面　木組み遺構（南西から）

４．ＩＡ区２面　作業風景（南西から）



１．ＩＡ区２面下　全景（木組み護岸取り外し後・北から）

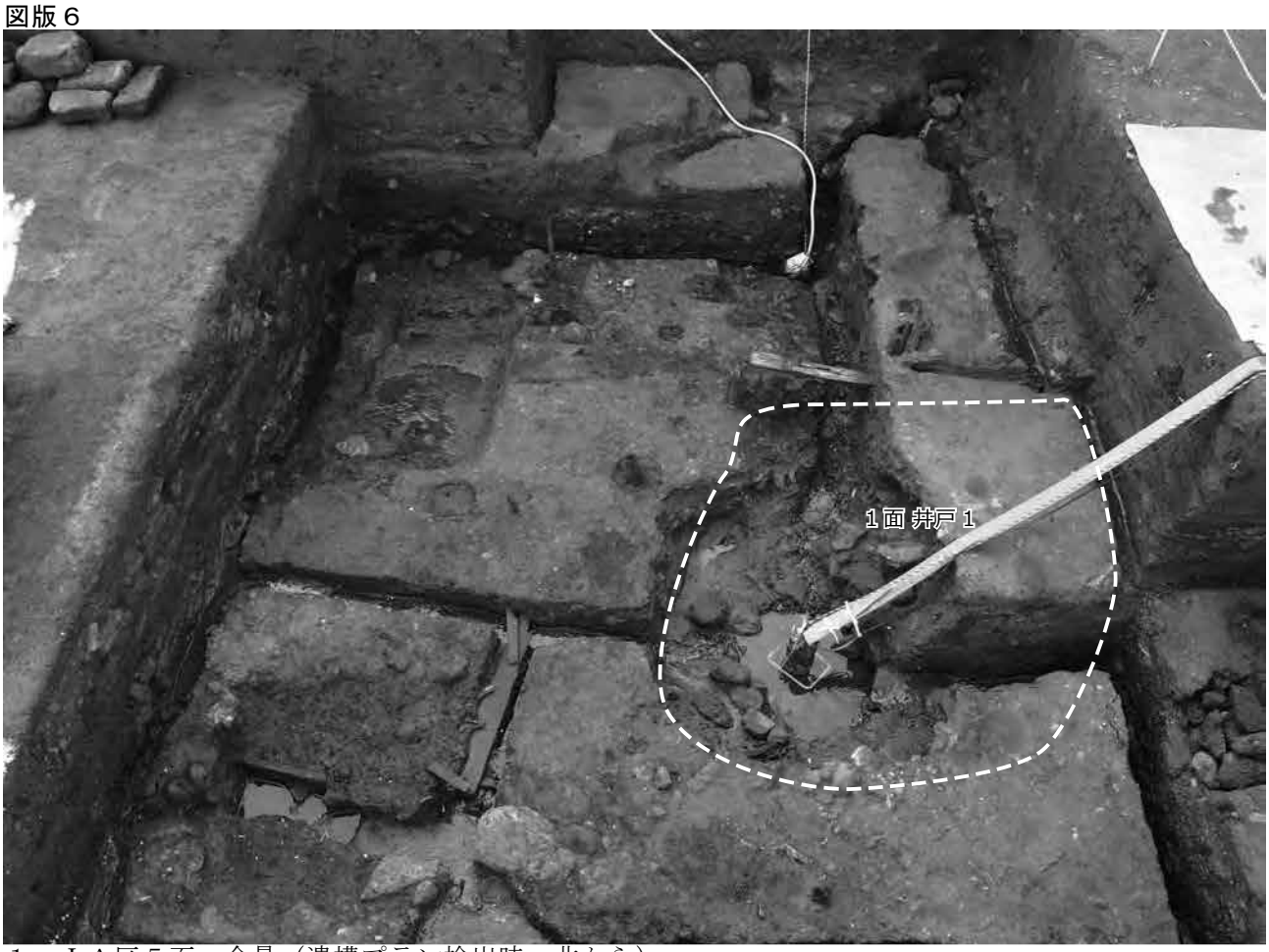
２．ＩＡ区５面　泥岩塊集積（北東から）

３．ＩＡ区５面　泥岩塊集積（東から）

４．ＩＡ区５面上　遺構プラン（東から）

５．ＩＡ区５面上　遺物出土状況（瀬戸入子）

図版６



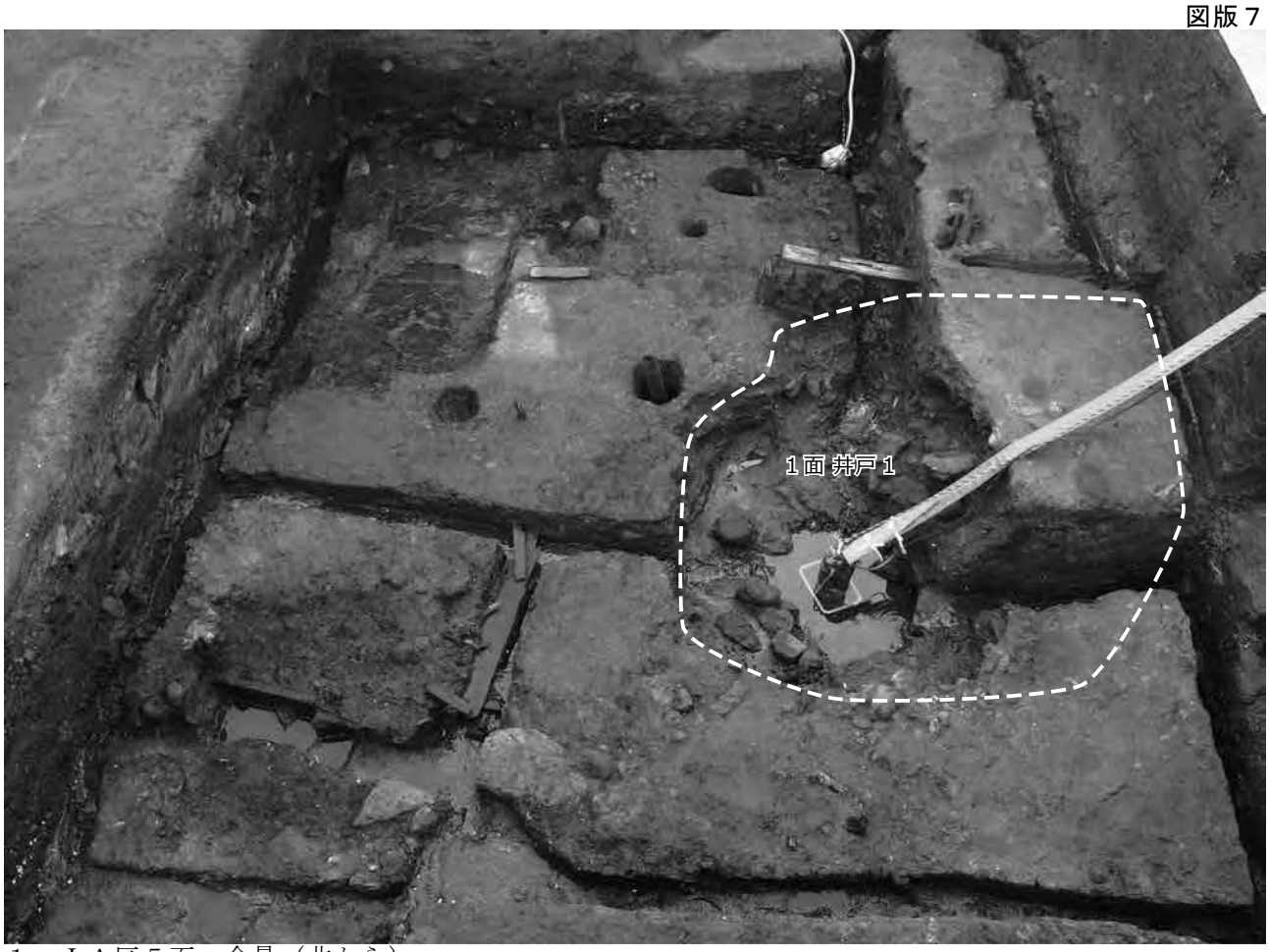
１．ＩＡ区５面　全景（遺構プラン検出時・北から）

２．ＩＡ区５面上　南部遺構プラン（西から）

３．ＩＡ区５面上　南部遺構プラン（東から）

４．ＩＡ区５面　北東部遺構プラン（東から）

５．ＩＡ区５面上　遺物出土状況（漆器椀）



１．ＩＡ区５面　全景（北から）

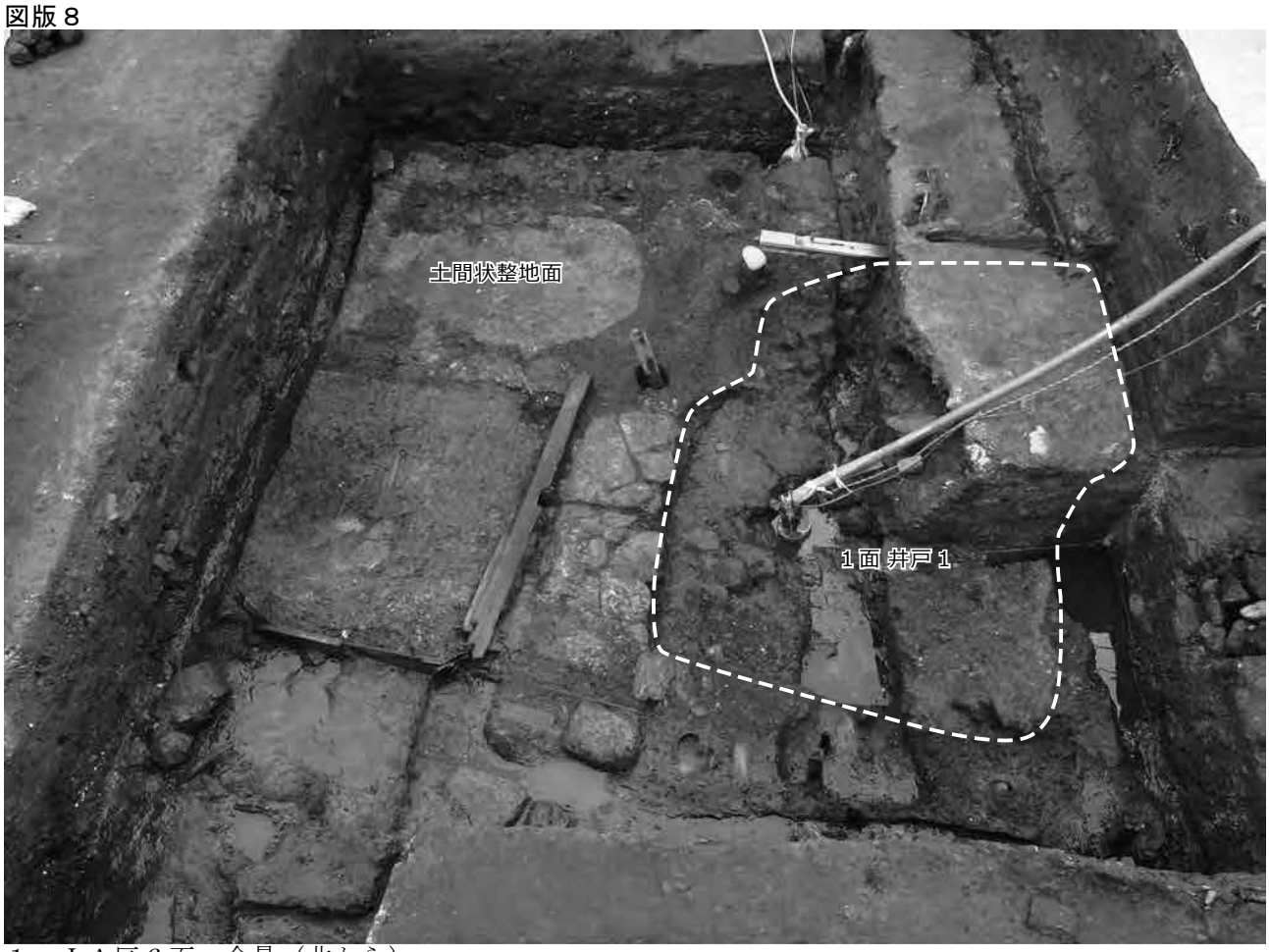
２．ＩＡ区５面　全景（西から）

３．ＩＡ区５面　南部（東から）

４．ＩＡ区５面　囲炉裏状痕跡（西から）

５．ＩＡ区５面上　遺物出土状況（飾り板）

図版８

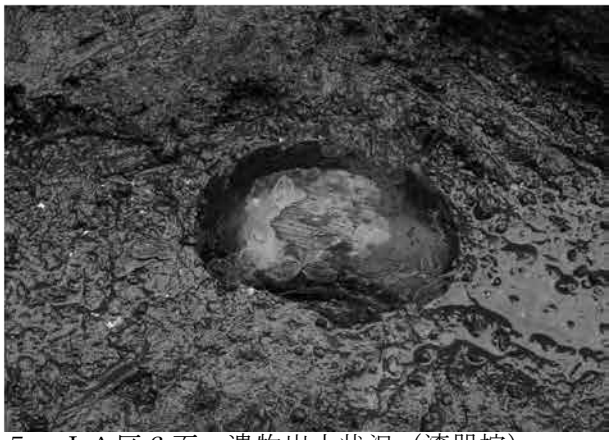


１．ＩＡ区６面　全景（北から）

２．ＩＡ区６面　南東部（北東から）

３．ＩＡ区６面　北西部（北から）

４．ＩＡ区６面　全景（南西から）



５．ＩＡ区６面　遺物出土状況（漆器椀）

１．ＩＡ区６ｂ面　全景（北から）

２．ＩＡ区６ｂ面　全景（西から）

３．ＩＡ区６ｂ面　切石敷き遺構（南から）

３．ＩＡ区６ｂ面　南部炭層（南から）

５．ＩＡ区６ｂ面　北東部（東から）

図版 10

１．ＩＡ区７面　全景（北から）

２．ＩＡ区７面　全景（西から）

３．ＩＡ区７面　全景（南から）

４．ＩＡ区７面　木材出土状況（東から）

５．ＩＡ区７面　曲物出土状況（西から）

1．ＩＡ区７面下トレンチ　全景（南から）

2．ＩＡ区７面下トレンチ南部　西壁土層断面

3．ＩＡ区７面下トレンチ北部　西壁土層断面

4．ＩＡ区　埋め戻し後（南西から）

5．Ⅱ区　表土掘削状況（北東から）

図版 12

１．ＩＡ区　北壁土層断面

２．ＩＡ区　東壁土層断面

１．ＩＡ区２面　木組み１下部角材（北東から）

２．ＩＡ区　西壁土層断面（２面　木組み１の落ち込み部分）

図版 14

１．Ⅱ区　表土除去後（北から）

２．Ⅱ区２面　全景（北から）

1．Ⅱ区２面　北部（北西から）

2. Ⅱ区２面　東西築地状遺構（西から）

3．Ⅱ区２面　東西築地状遺構（西から）

4．Ⅱ区２面　東西築地状遺構断面（西から）

5．ＩＢ区・Ⅱ区２面　全景（西から）

図版 16

１．ＩＢ区・Ⅱ区２面（上空から、写真上が北）

２．南東区画２面　遺物出土状況

３．南東区画２面　遺物出土状況

４．南東区画２面　遺物出土状況

５．南東区画２面　遺物出土状況

１．ＩＢ区・Ⅱ区２面（北西上空から）

２．第１回空撮状況（2020 年３月 13 日）

３．Ⅱ区２面下（制限深度まで、北から）

図版 18

１．Ⅱ区　２面下（制限深度まで、東から）

２．Ⅱ区北壁　土層断面（南から）

３．Ⅱ区北壁　土層断面（２面かわらけ集中層、南から）

1．ＩＢ区２ｂ面　全景（上空から、写真左が北）

2．ＩＢ区２ｂ面　全景（北から）

図版 20

１．ＩＢ区２ｂ面　東西築地状遺構下部(西から)

２．ＩＢ区２ｂ面　遺物出土状況

３．北東区画２ｂ面（北から）

４．南東区画２ｂ面（東から）

５．ＩＢ区２ｂ面　出土遺物

６．ＩＢ区２ｂ面　遺物取り上げ作業

1．北東区画２ｂ面（北から）

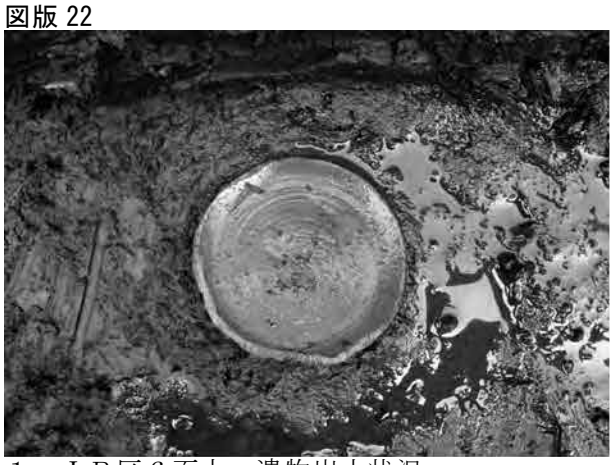
2．ＩＢ区２ｂ面下（西から）

3．北東区画２ｂ面下　泥岩塊検出状況(北から)

4．南東区画２ｂ面下　木組み遺構（北西から）

5．ＩＢ区２ｂ面下　遺物出土状況

図版 22



1．ＩＢ区６面上　遺物出土状況

2．ＩＢ区６面上　遺物出土状況

3．ＩＢ区６面上　遺物出土状況アップ

4．ＩＢ区６面上　遺物出土状況

5．ＩＢ区６面　全景（北から）

1．ＩＢ区６面　全景（西から）

2．ＩＢ区６面　切石列･木組みなど（南西から）

3．ＩＢ区６面　木組み遺構　側面（西から）

4．ＩＢ区６面　竹垣（南東から）

5．ＩＢ区６面　竹垣アップ（南から）

図版 24

1．ＩＢ区　大雨後の冠水状況(2020 年４月 14 日)

2．ＩＢ区７面　北半部（西から）

3．ＩＢ区７面　遺物出土状況（北西から）

4．ＩＢ区７面　遺物出土状況

5．ＩＢ区７面　遺物出土状況

6．ＩＢ区７面　遺物出土状況

7．ＩＢ区７面　遺物出土状況

8．ＩＢ区５面下～７面　遺物出土状況

1．ＩＢ区７面　全景（西から）　○の位置で鋤先が出土

2．ＩＢ区　大雨後の冠水状況(2020 年４月 19 日)

3．ＩＢ区７面　全景（北から）

4．ＩＢ区７面　北半部（北西から）

5．ＩＢ区７面　木組み遺構（北から）

図版 26

１．ＩＢ区７面　北半部（北から）

２．ＩＢ区７面　北半部（東から）

1．ＩＢ区７面　溝１木組み護岸（西から）

2．ＩＢ区７面　溝１土層断面（西から）

3．ＩＢ区７面　溝１木組み護岸（北から）

4．ＩＢ区７面　溝１木組み護岸アップ(北から)

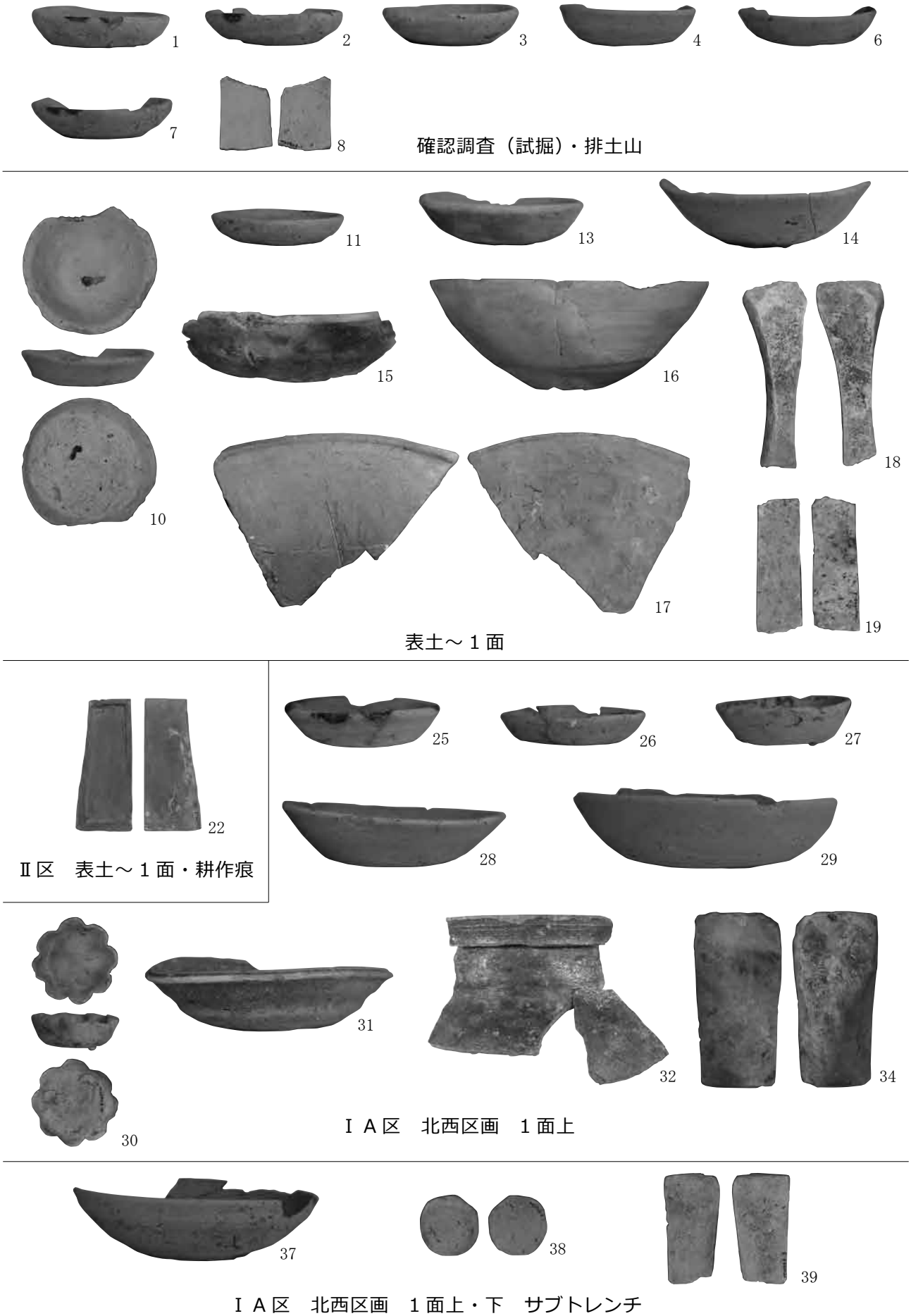
5．ＩＢ区７面　溝１木組み護岸（北西から）

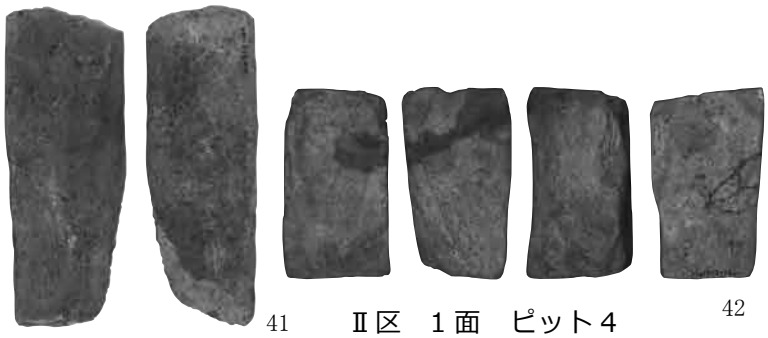
6．ＩＢ区７面　溝１木組み護岸（北東から）

7．ＩＢ区　埋め戻し作業状況（北東から）

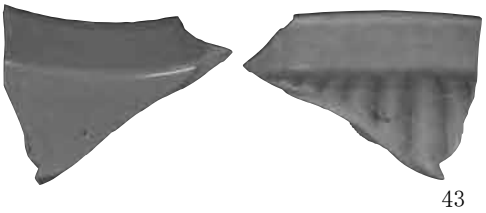
8．ＩＢ区　埋め戻し作業終了後（東から）

図版 28

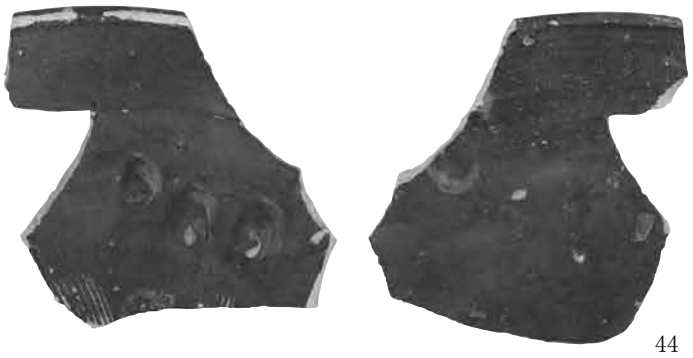

1
2
3
4
6
7
8
確認調査（試掘）・排土山
11
13
14
15
16
18
10
17
19
表土～１面
22
Ⅱ区　表土～１面・耕作痕
25
26
27
28
29
31
32
34
30
ＩＡ区　北西区画　１面上
37
38
39
ＩＡ区　北西区画　１面上・下　サブトレンチ



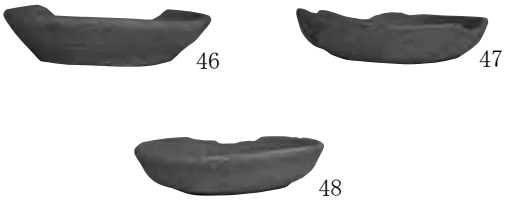
Ⅱ区　１面　ピット４



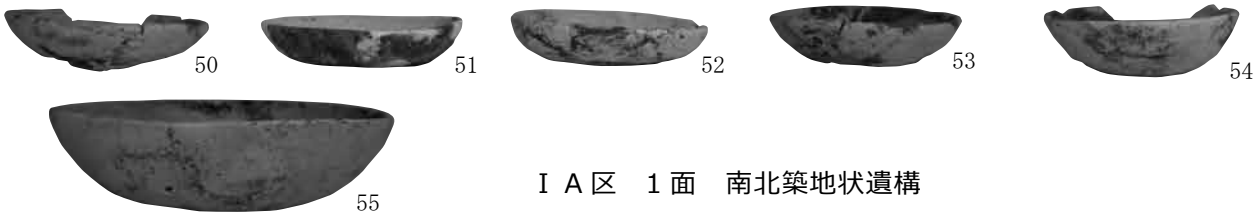
Ⅱ区　１面　土坑２



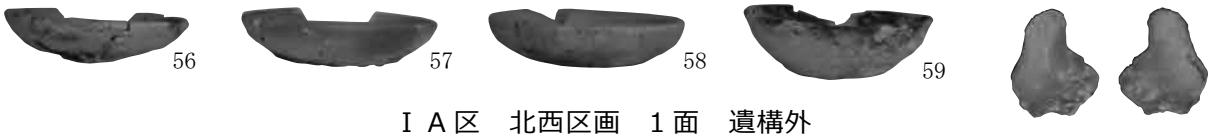
ＩＡ区　１面　土坑２



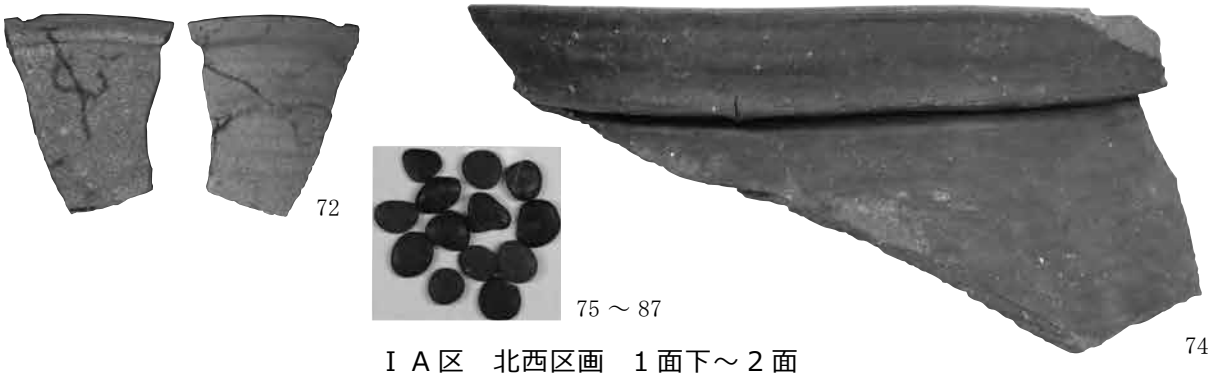
ＩＡ区　北西区画　１面　井戸１



ＩＡ区　１面　南北築地状遺構

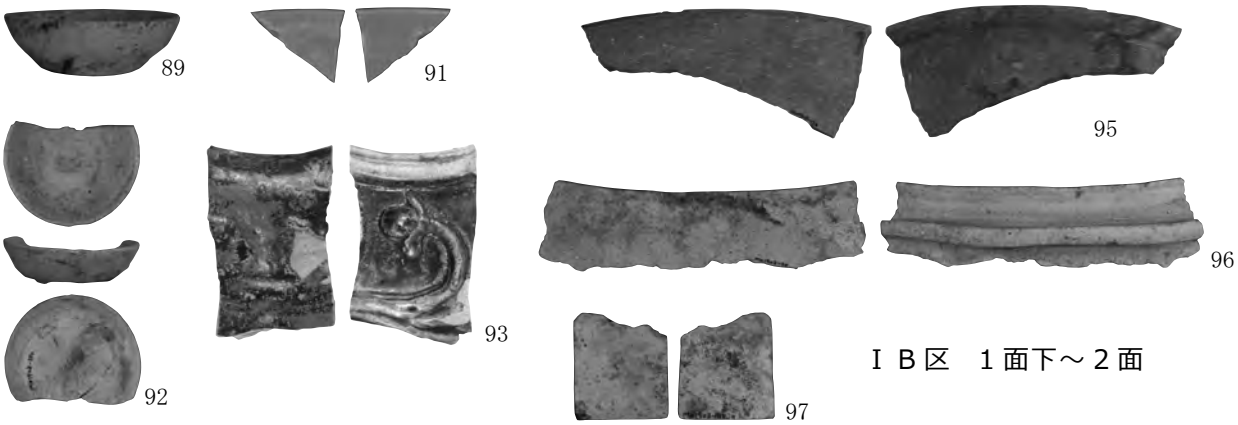


ＩＡ区　北西区画　１面　遺構外

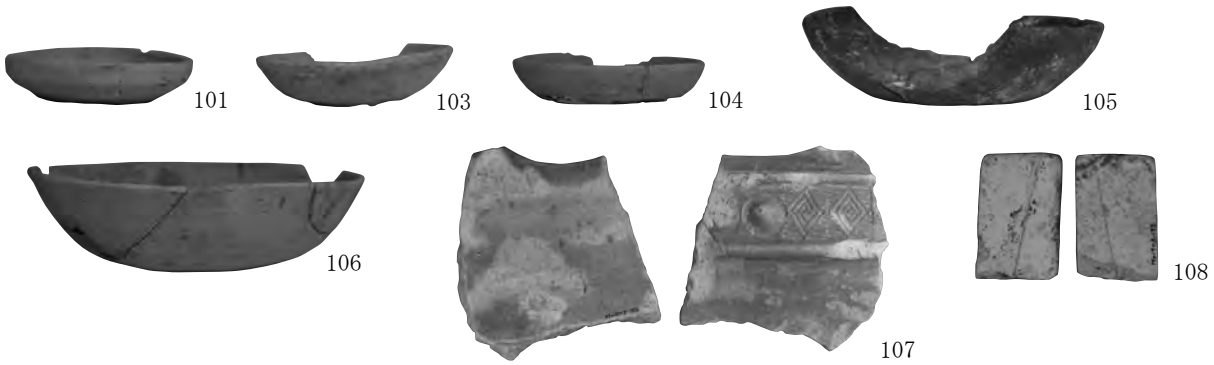


ＩＡ区　北西区画　１面下～２面

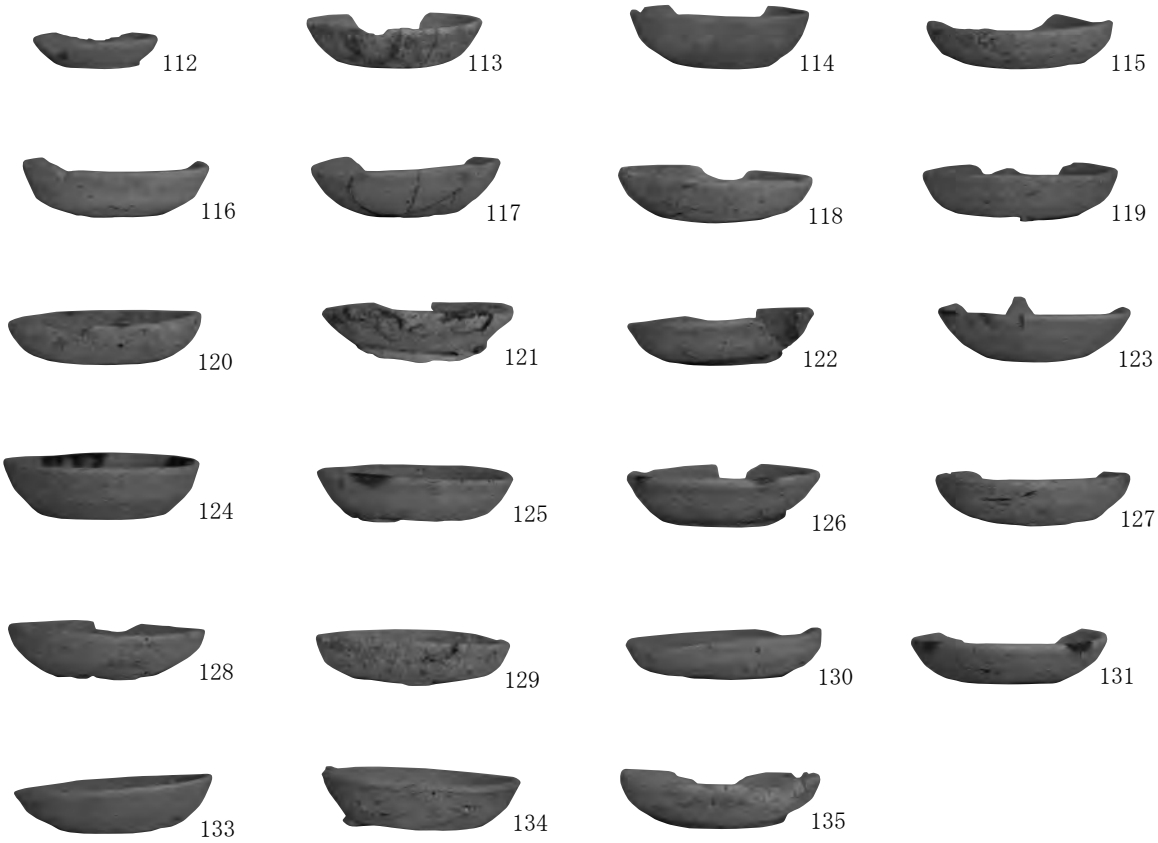
図版 30



Ⅰ B 区　1 面下～ 2 面



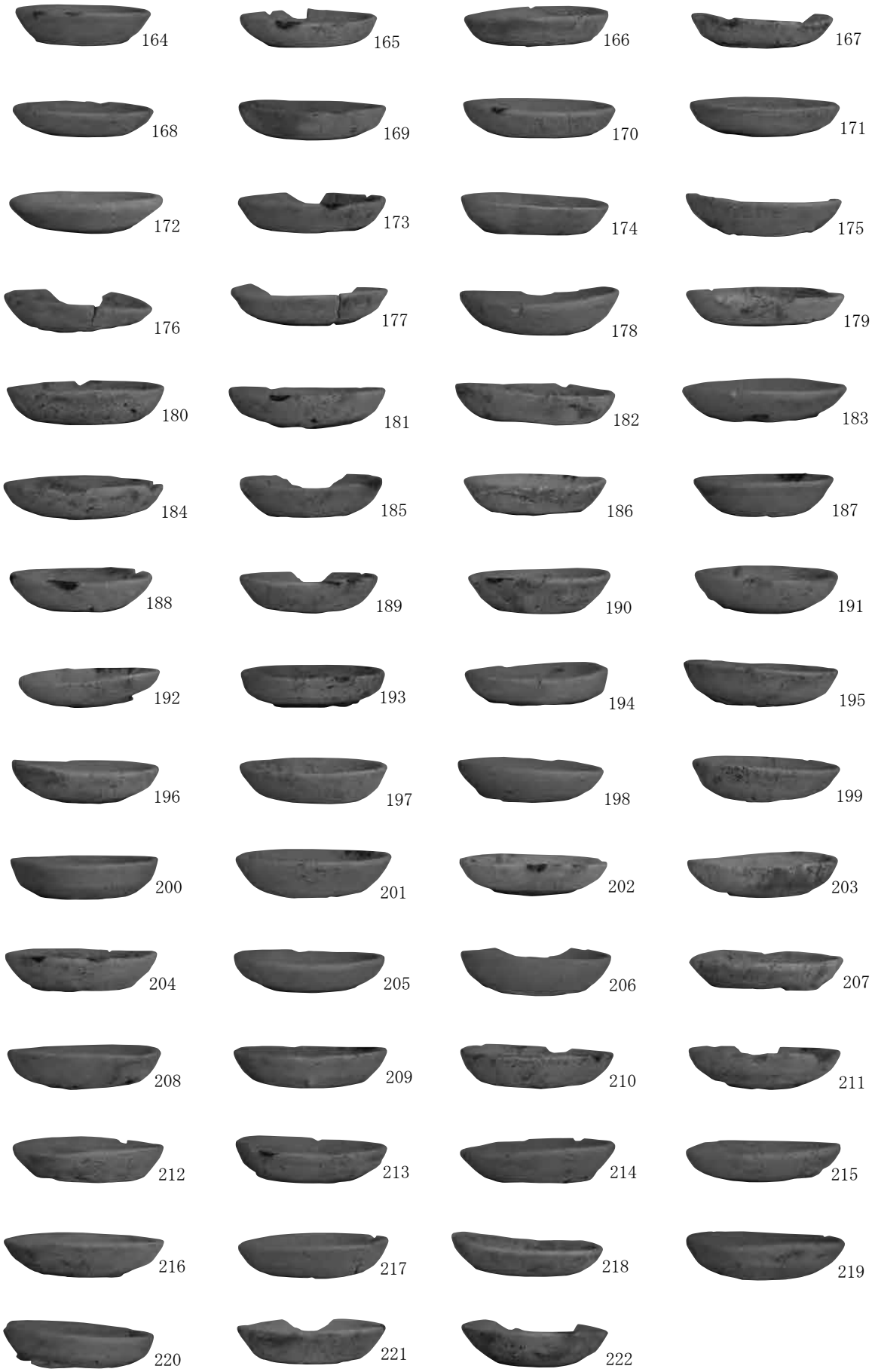
Ⅰ B 区　北東区画　2 面上



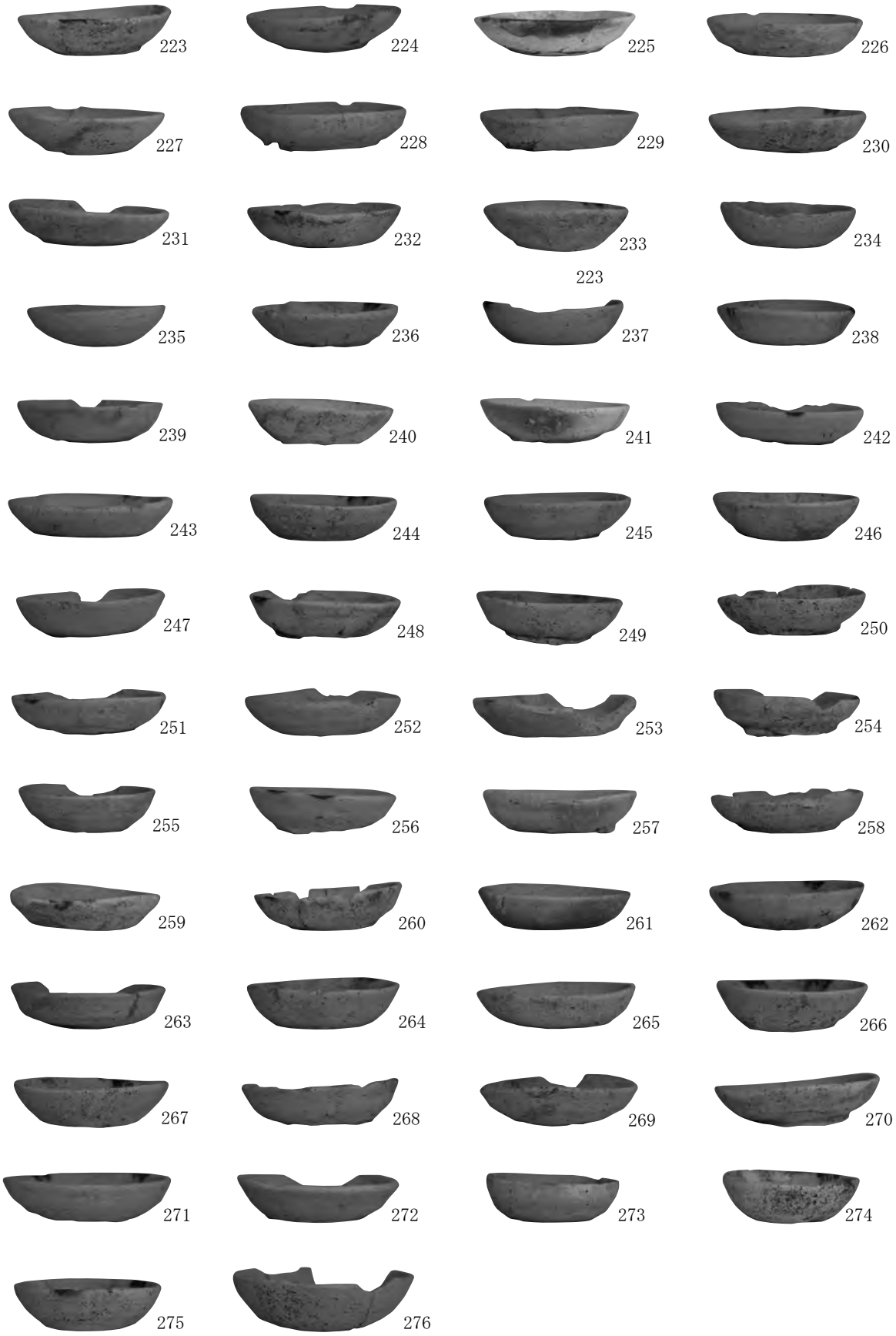
137
138
139
136
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154

Ⅱ区　北東区画　2面上

図版 32

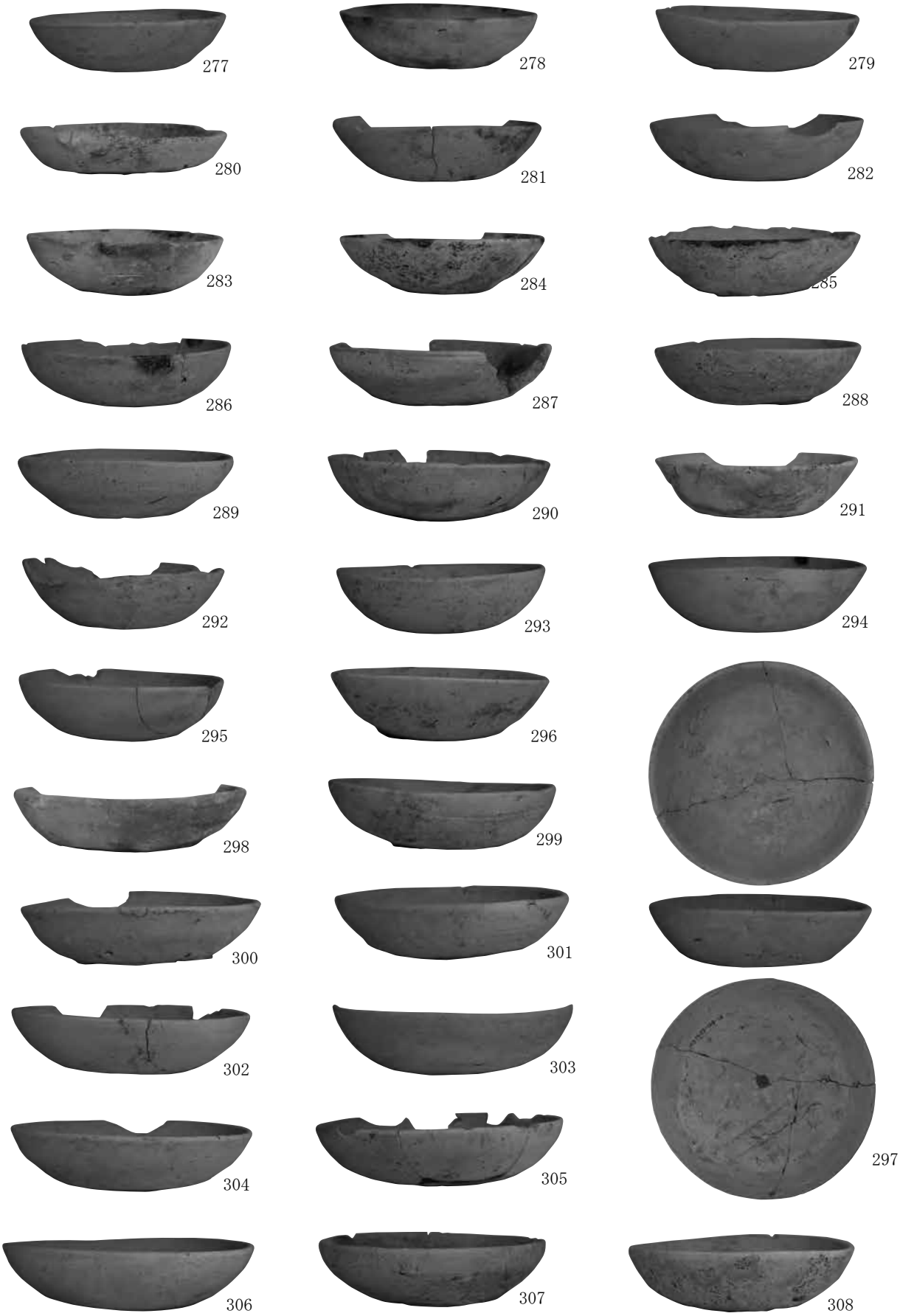


Ⅱ区　北東区画　2 面　かわらけ集積

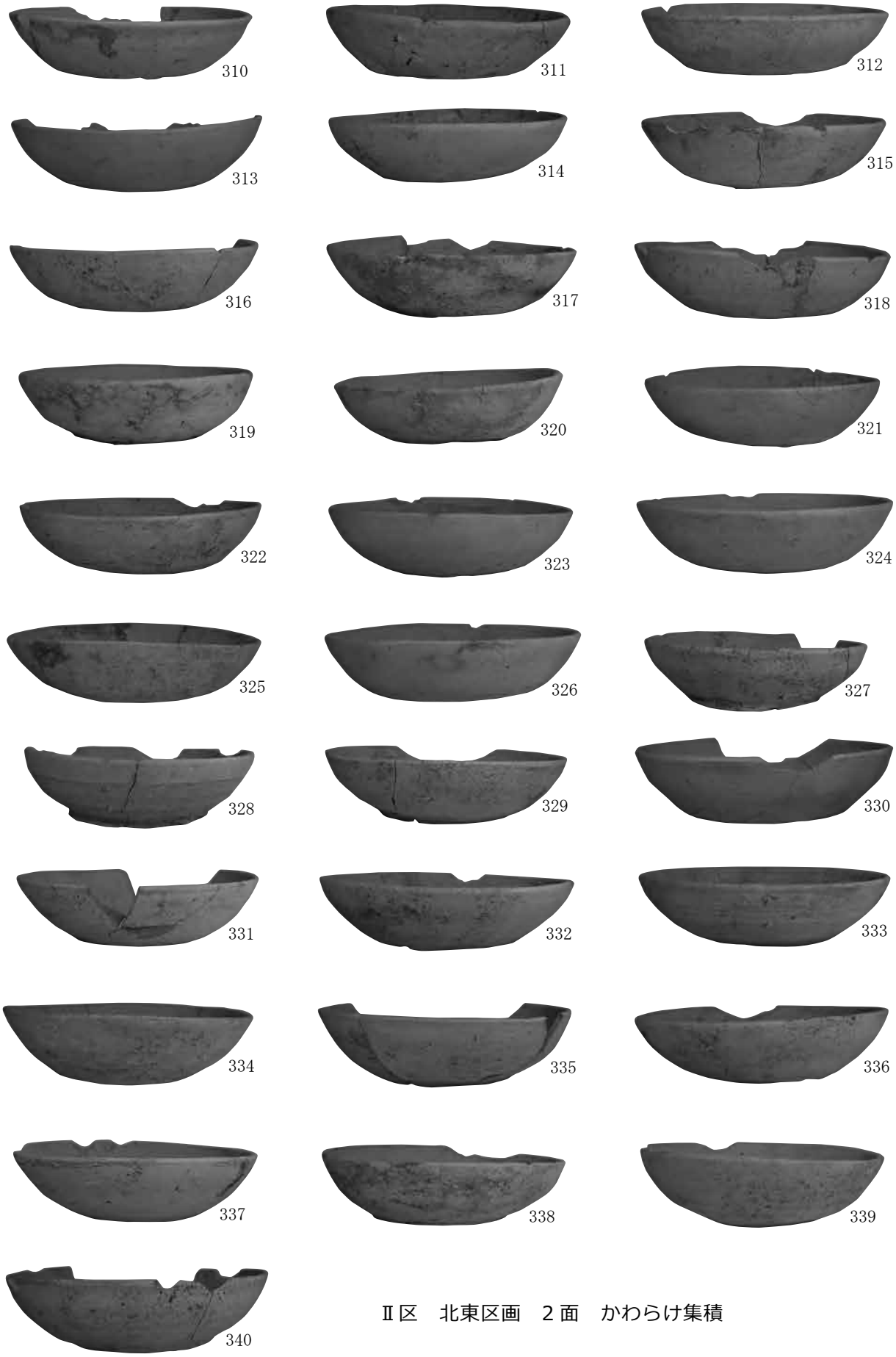


Ⅱ区　北東区画　２面　かわらけ集積

図版 34

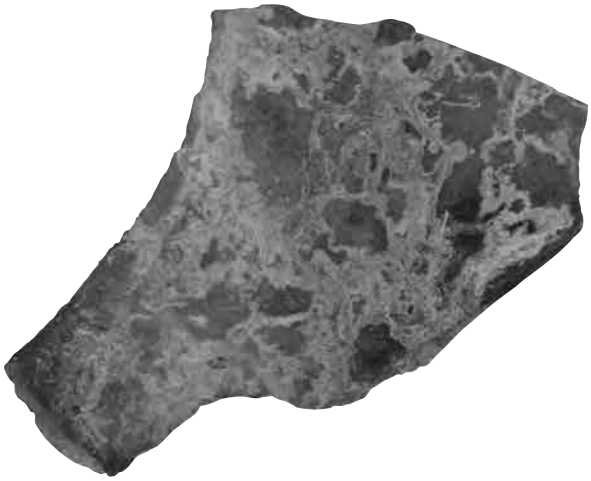


Ⅱ区　北東区画　2 面　かわらけ集積



Ⅱ区　北東区画　２面　かわらけ集積

図版 36



341

343

Ⅱ区　北東区画　２面　かわらけ集積

345

346

347

348

349

350

351

352

353

354

355

356

357

358

359

360

361

362

363

364

365

366

367

368

369

370

371

372

373

374

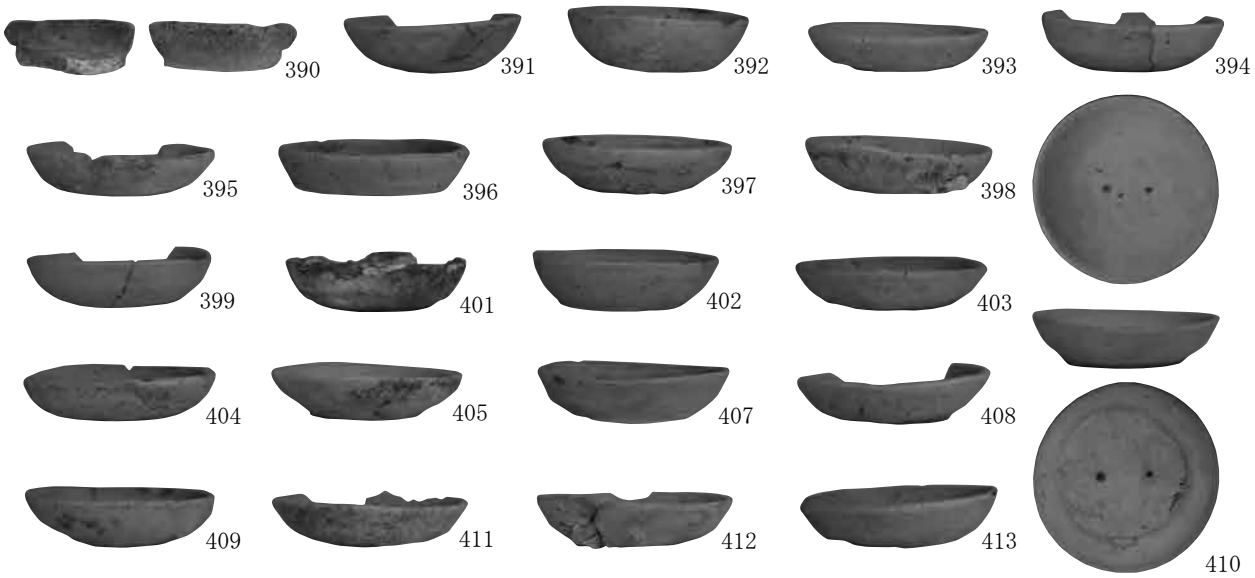
375

376

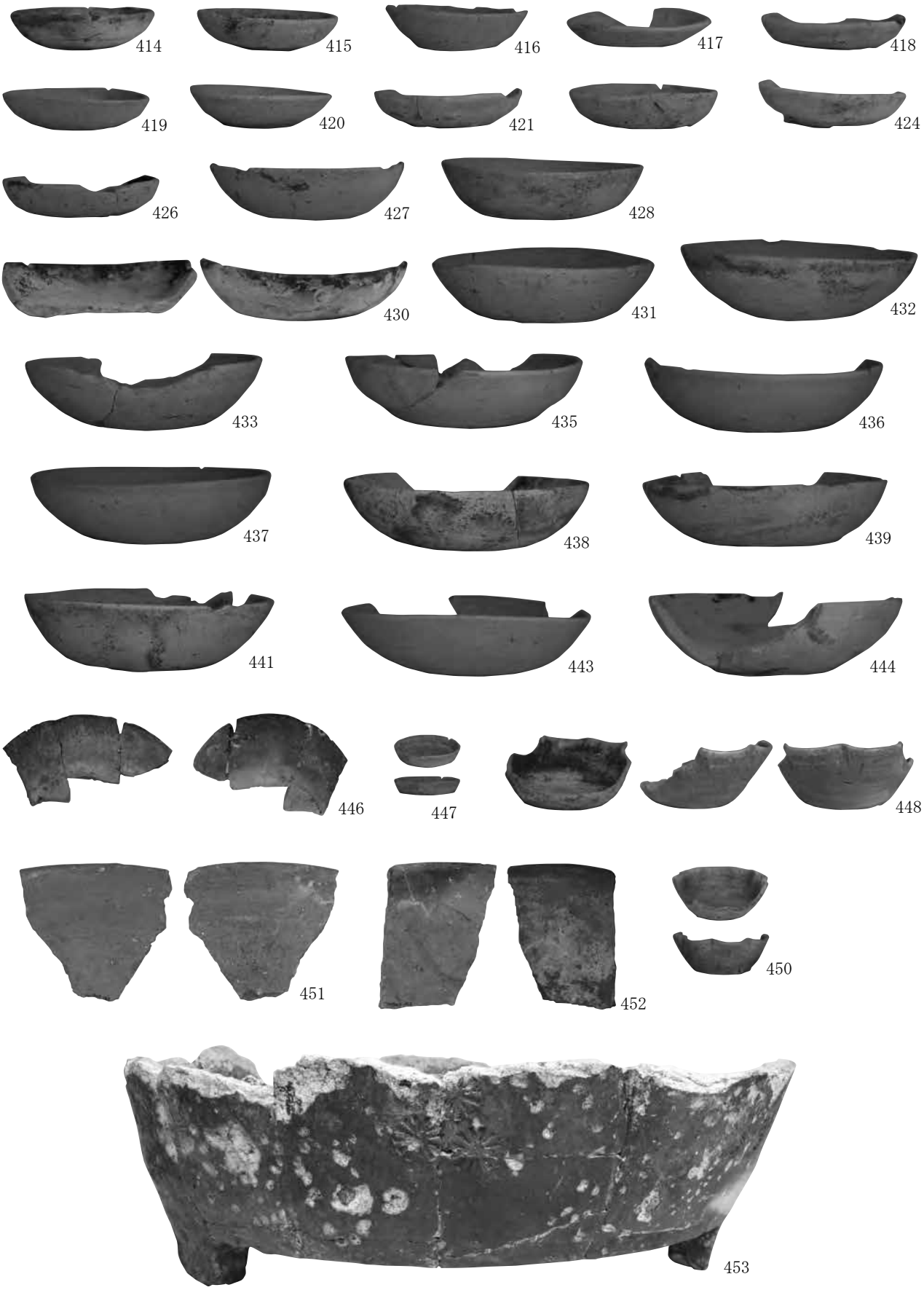
377

378

ＩＢ･Ⅱ区　北東区画　２面　かわらけ集積（下層）



図版 38



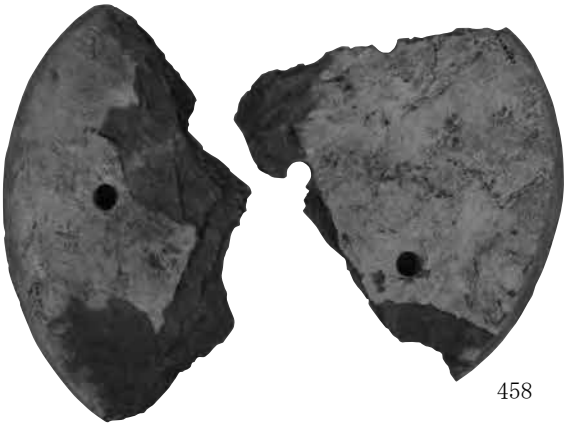
ⅠB・Ⅱ区　南東区画　２面上

454

455

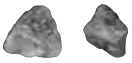
456

457



458

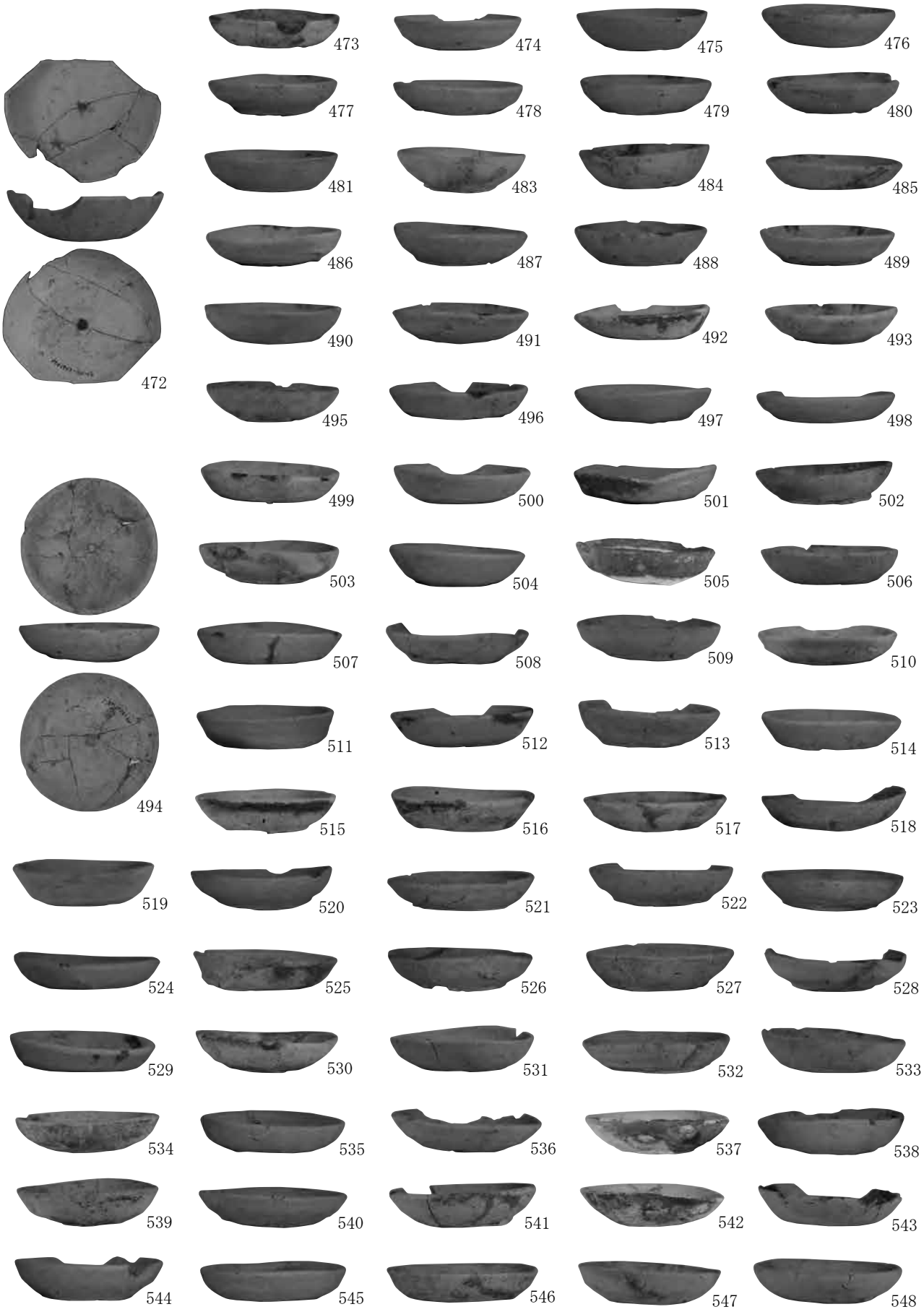
459



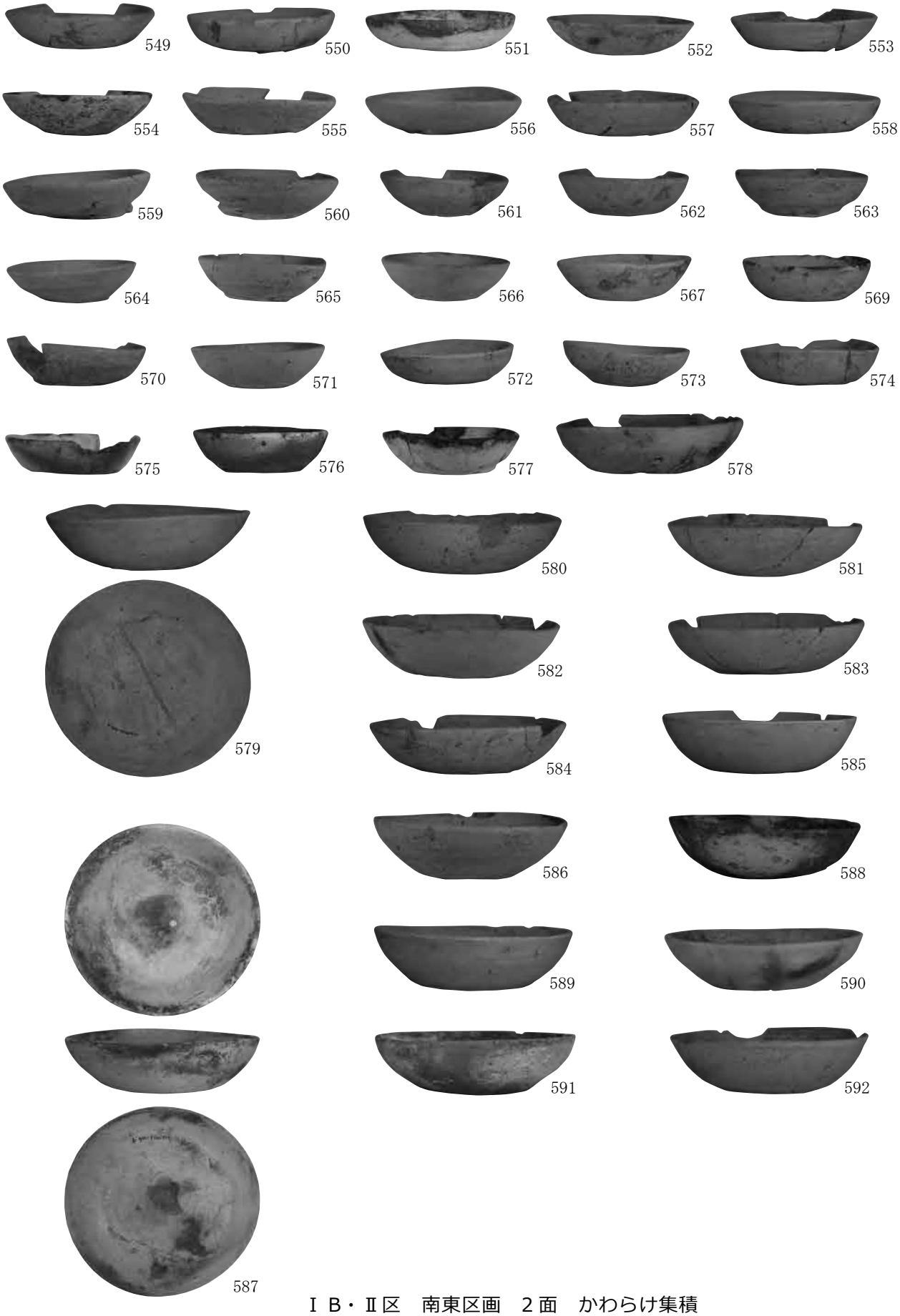
460

ＩＢ・Ⅱ区　南東区画　２面上

図版 40

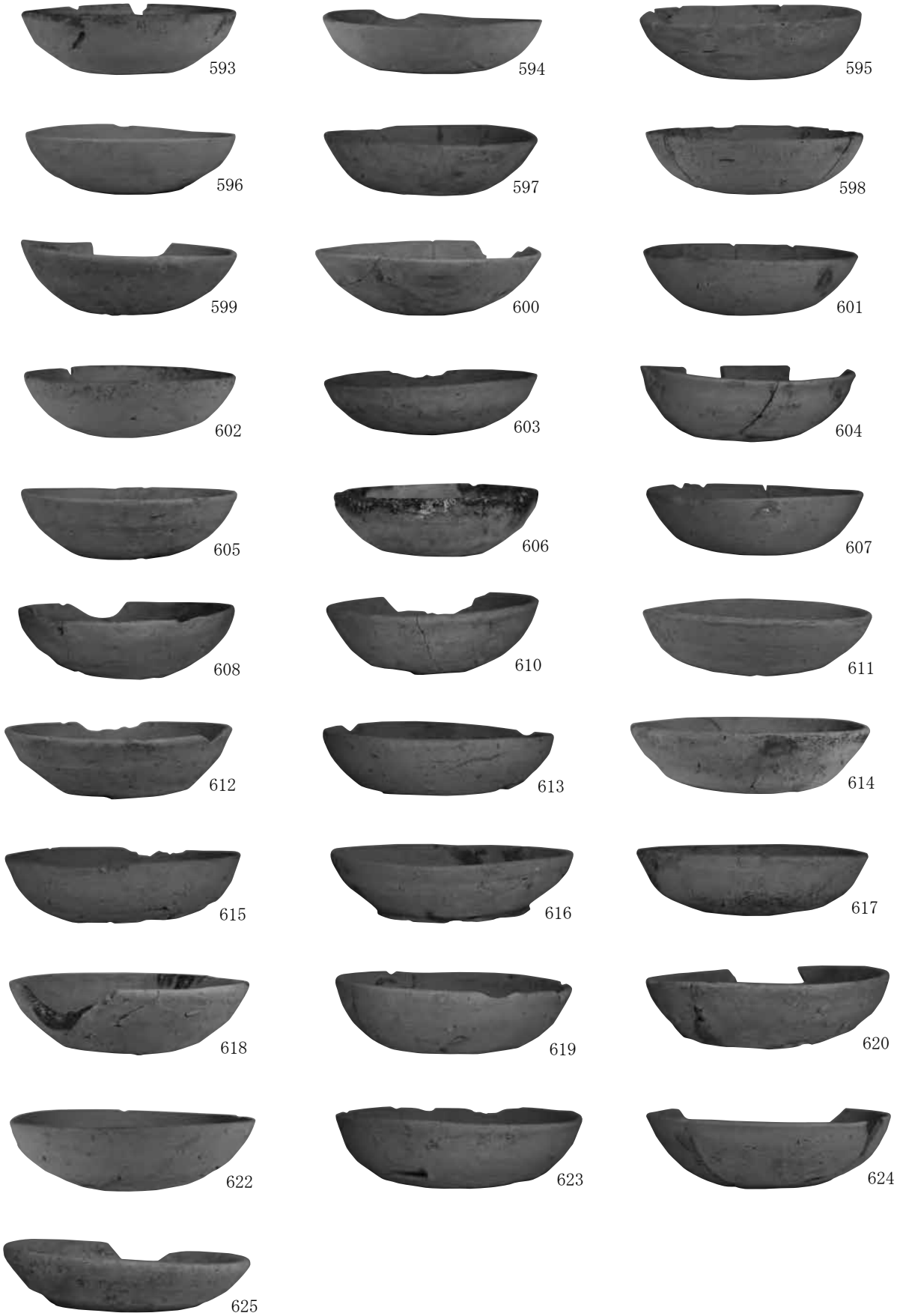


Ⅰ B・Ⅱ区　南東区画　２面　かわらけ集積

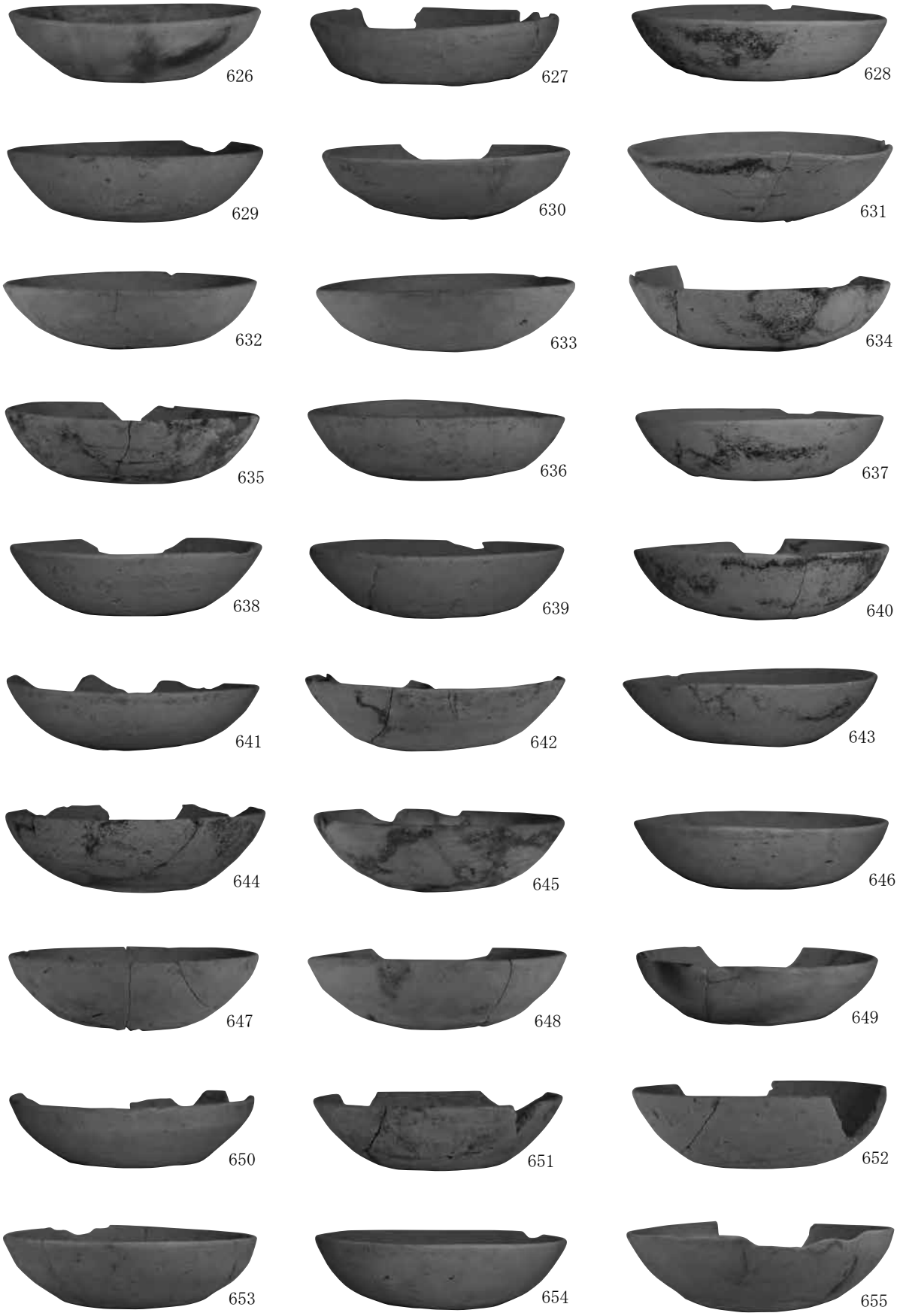


ⅠB・Ⅱ区　南東区画　２面　かわらけ集積

図版 42



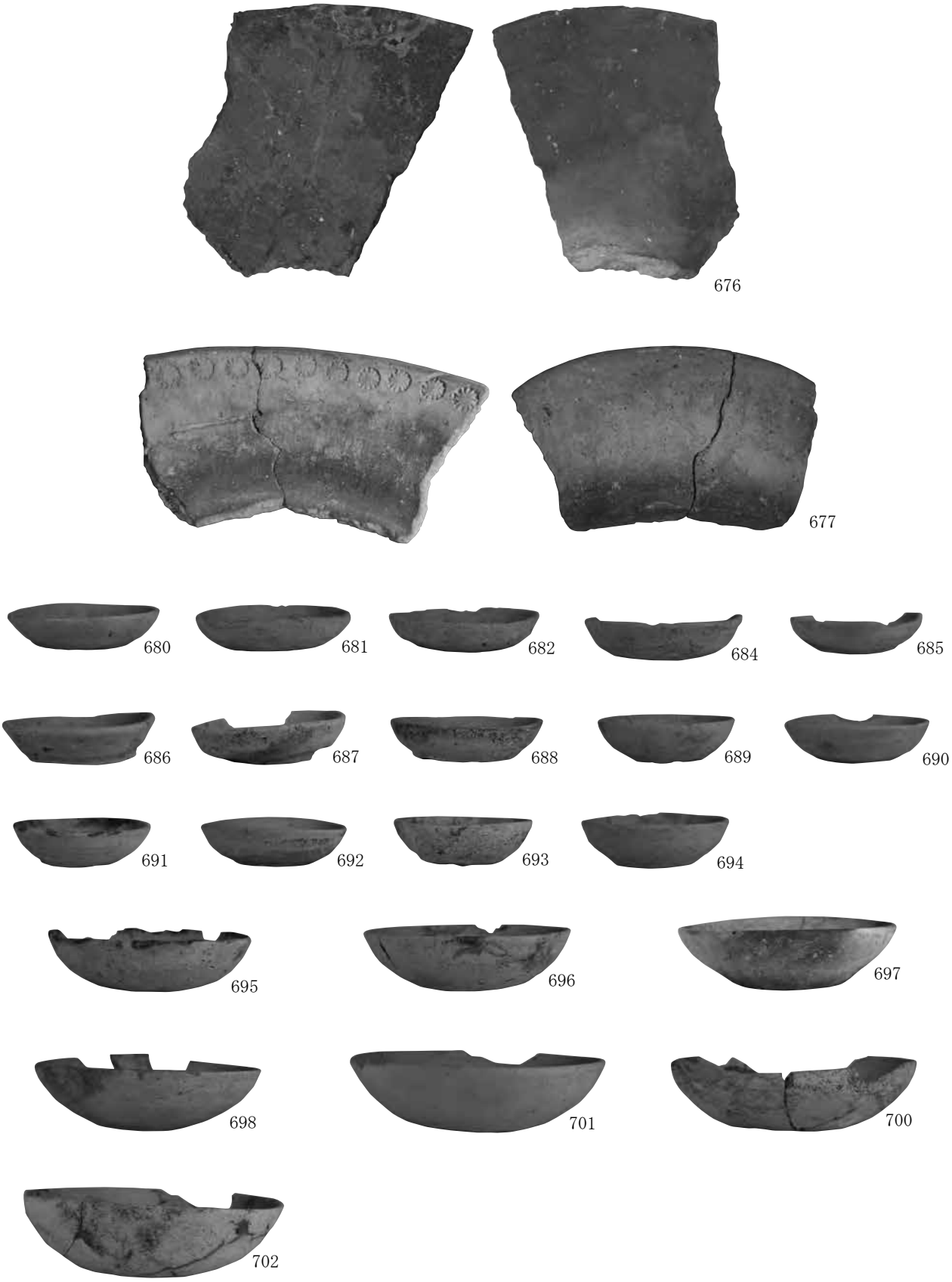
Ⅰ B・Ⅱ区　南東区画　２面　かわらけ集積



ＩＢ・Ⅱ区　南東区画　２面　かわらけ集積

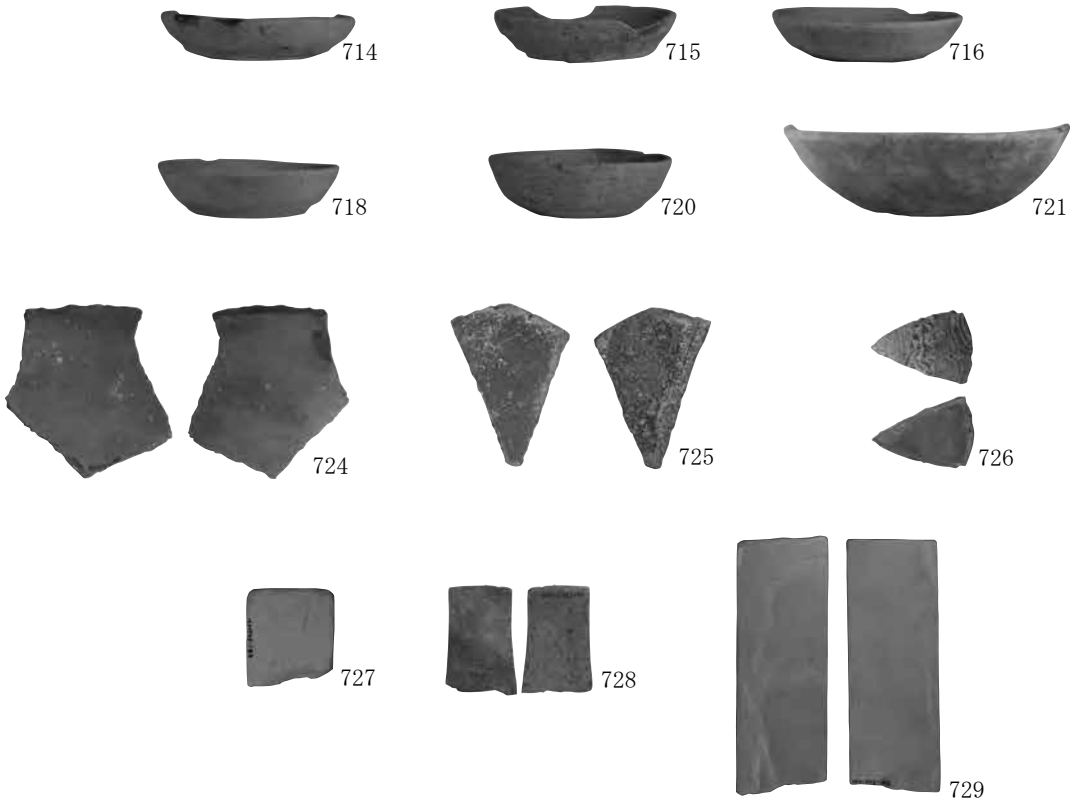
図版 44

ＩＢ・Ⅱ区　南東区画　２面　かわらけ集積

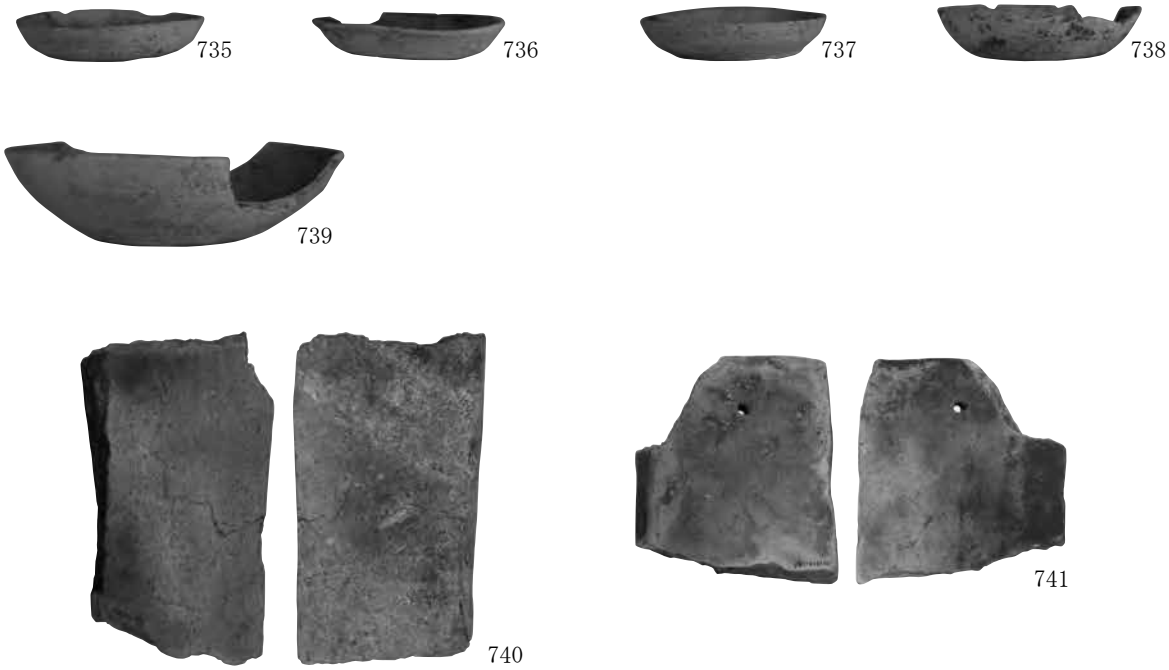


ＩＢ・Ⅱ区　南東区画　２面　かわらけ集積

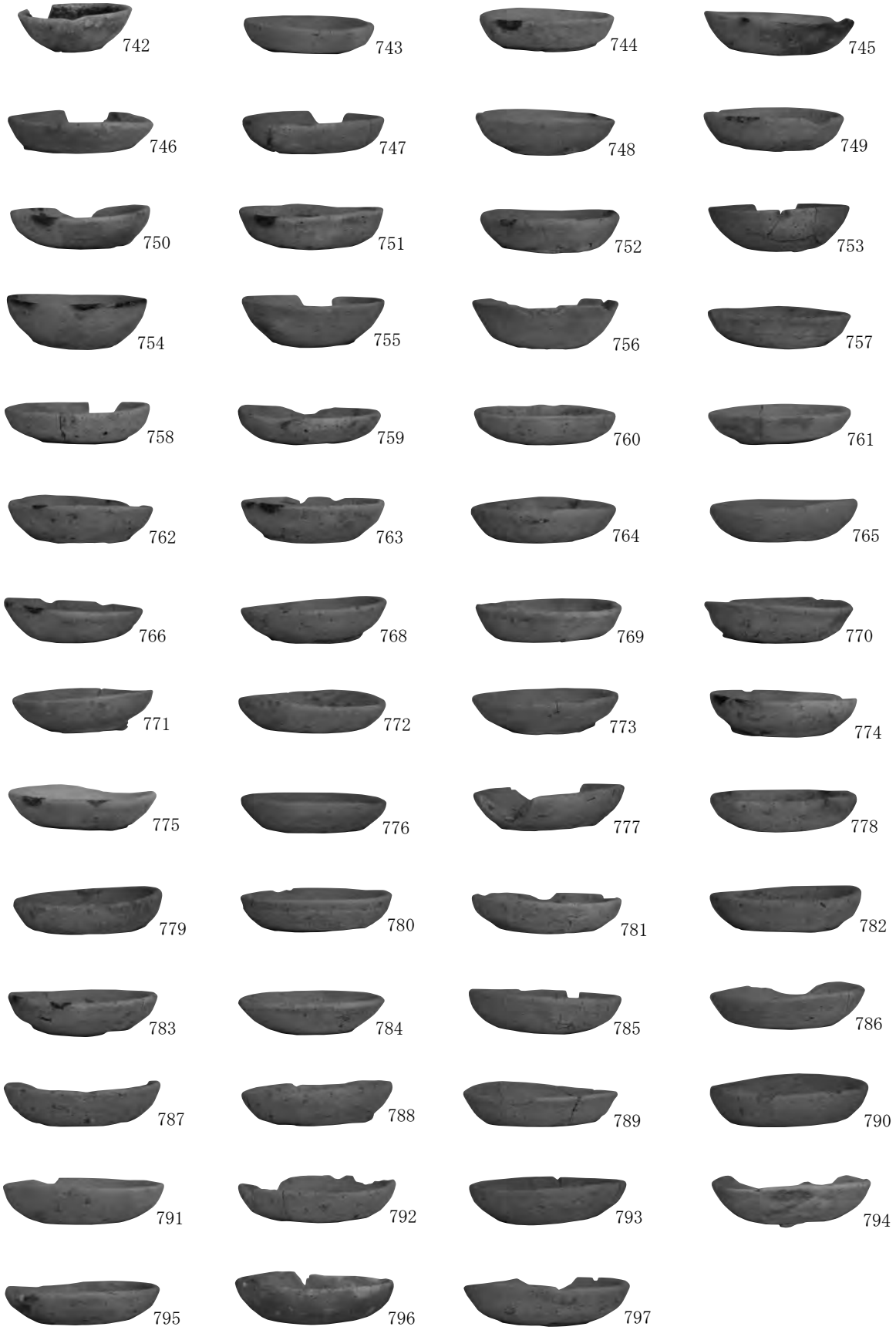
図版 46



Ⅰ B　南東区画　２面かわらけ集積（下層）

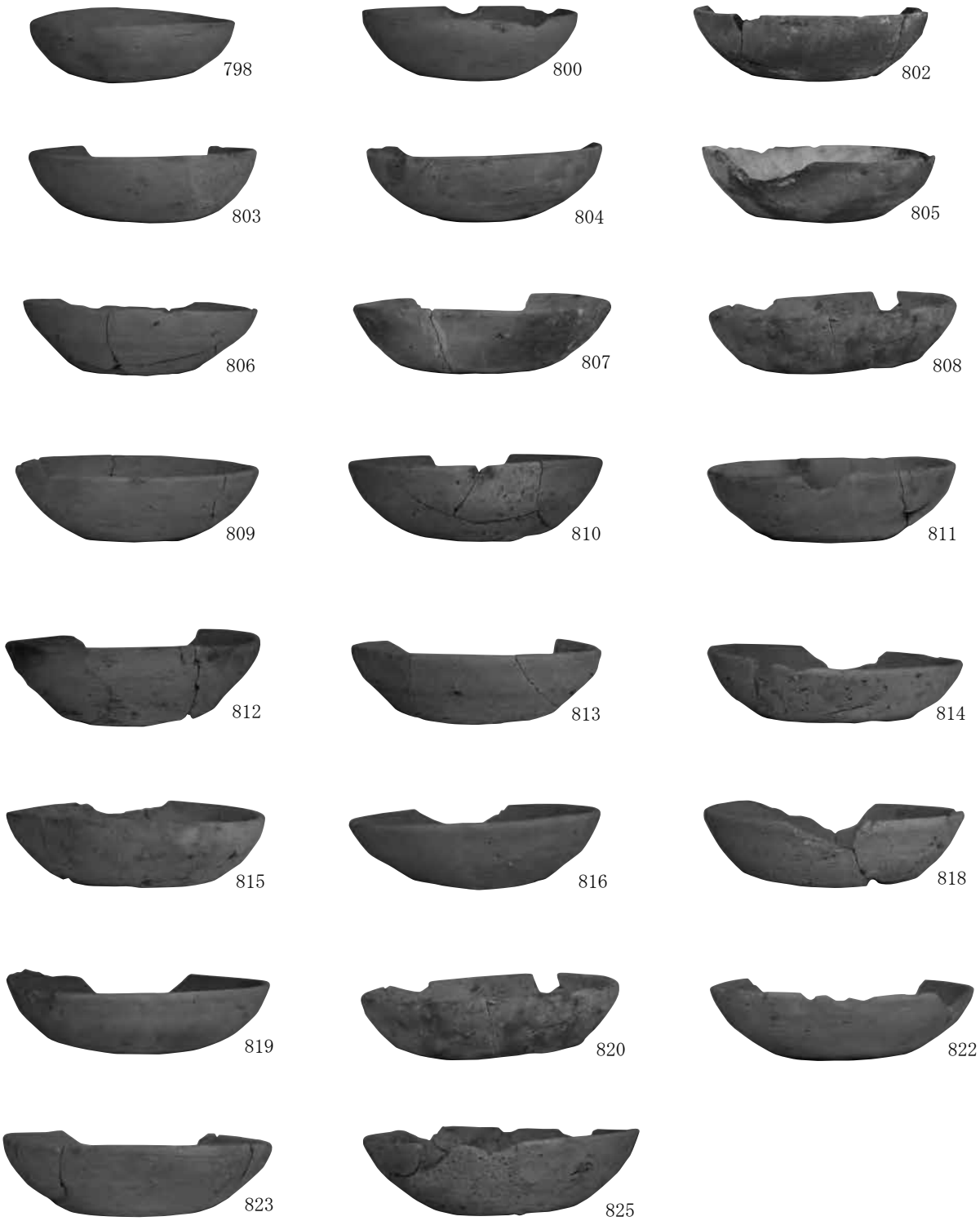


Ⅱ区　南東区画　２面　かわらけ集積（下層）



Ⅰ B 区　北東区画　2b 面　かわらけ集積

図版 48



Ⅰ B 区　北東区画　2b 面　かわらけ集積

Ⅰ B 区　南東区画　2b 面　かわらけ集積

図版 50

Ⅰ B 区　南東区画　2b 面　かわらけ集積

915

Ⅰ B 区　南東区画　2b 面
かわらけ集積下　マグソ層

916

917

918

919

920

921

922

923

924

926

927

928

929

930

931

932

933

934

935

936

937

938

939

940

941

942

943

944

945

946

948

950

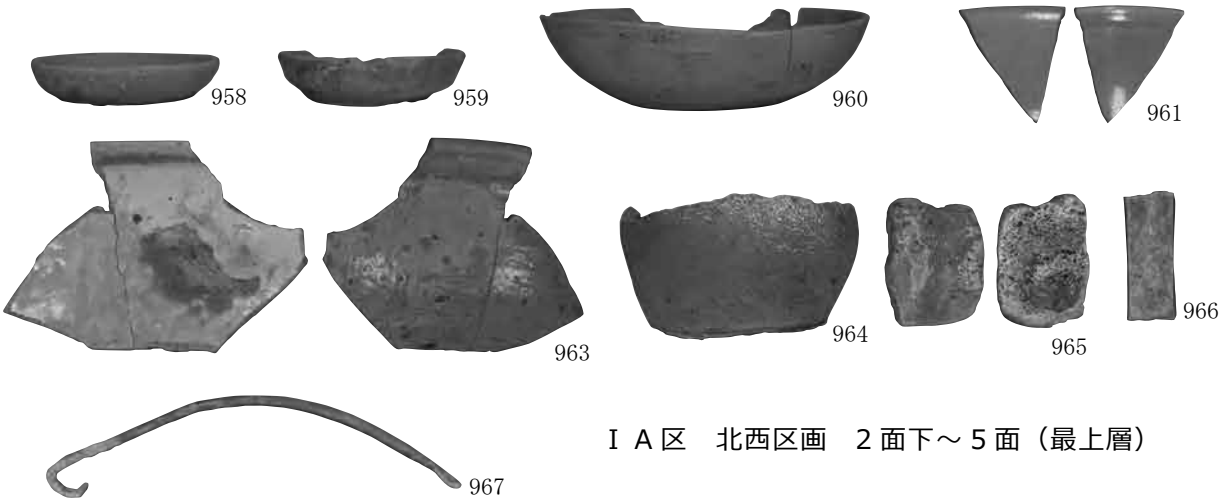
952

Ⅰ B 区　南東区画　２面　かわらけ集積周辺　崩落土

図版 52

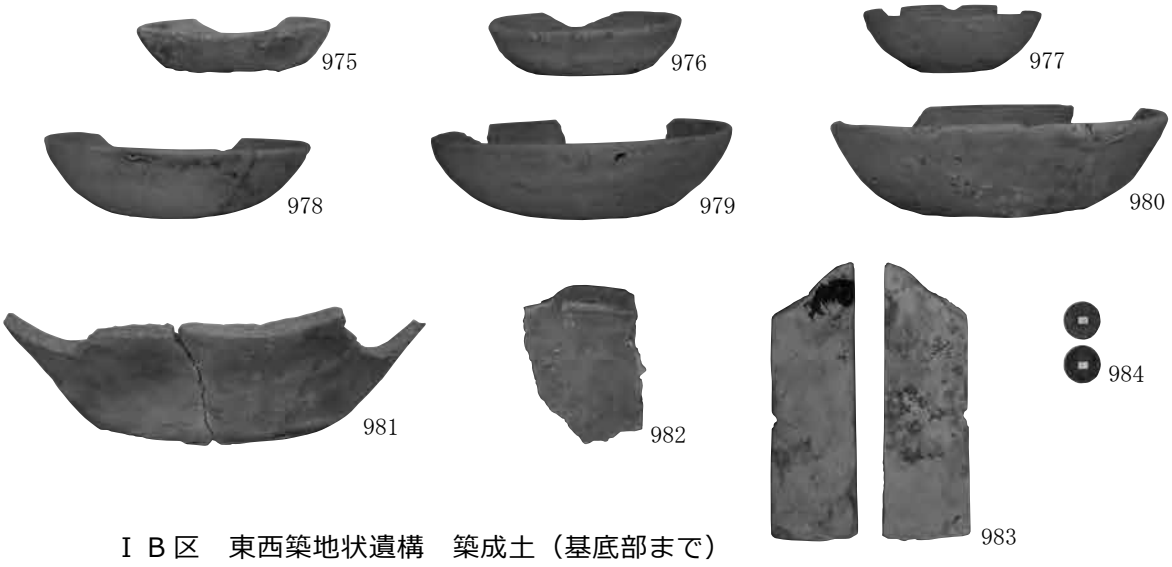
Ⅰ B 区　2b 面　遺構外

Ⅰ B 区　2 面・2b 面下　サブトレンチ

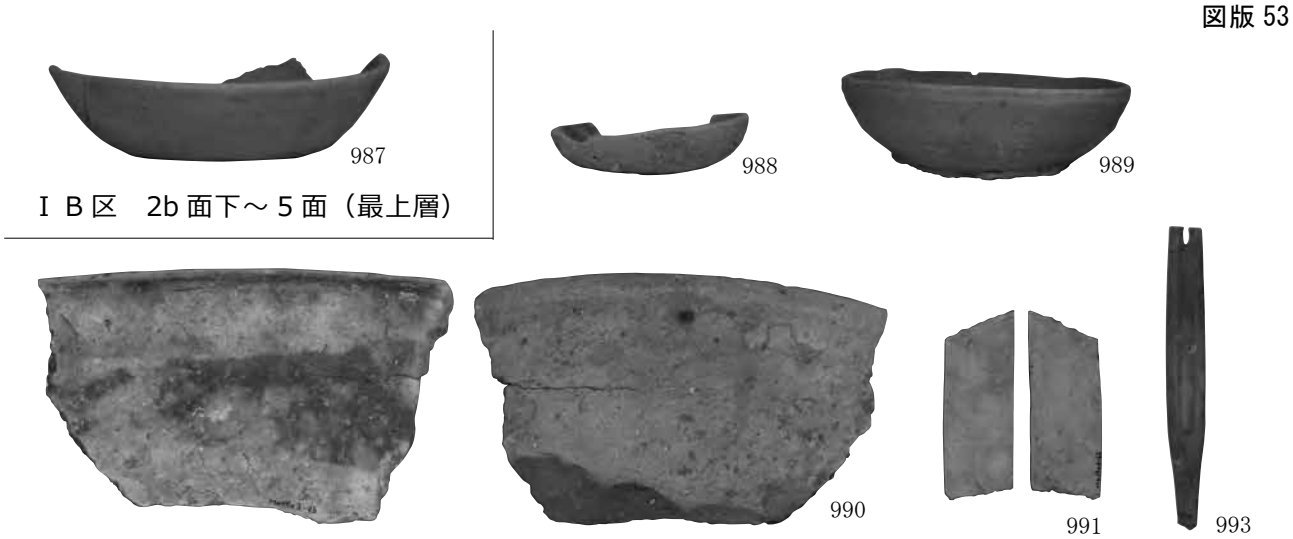


Ⅰ A 区　北西区画　2 面下～ 5 面（最上層）

Ⅰ B 区　2b 面　南北築地状遺構上　土坑 1（炭プラン）

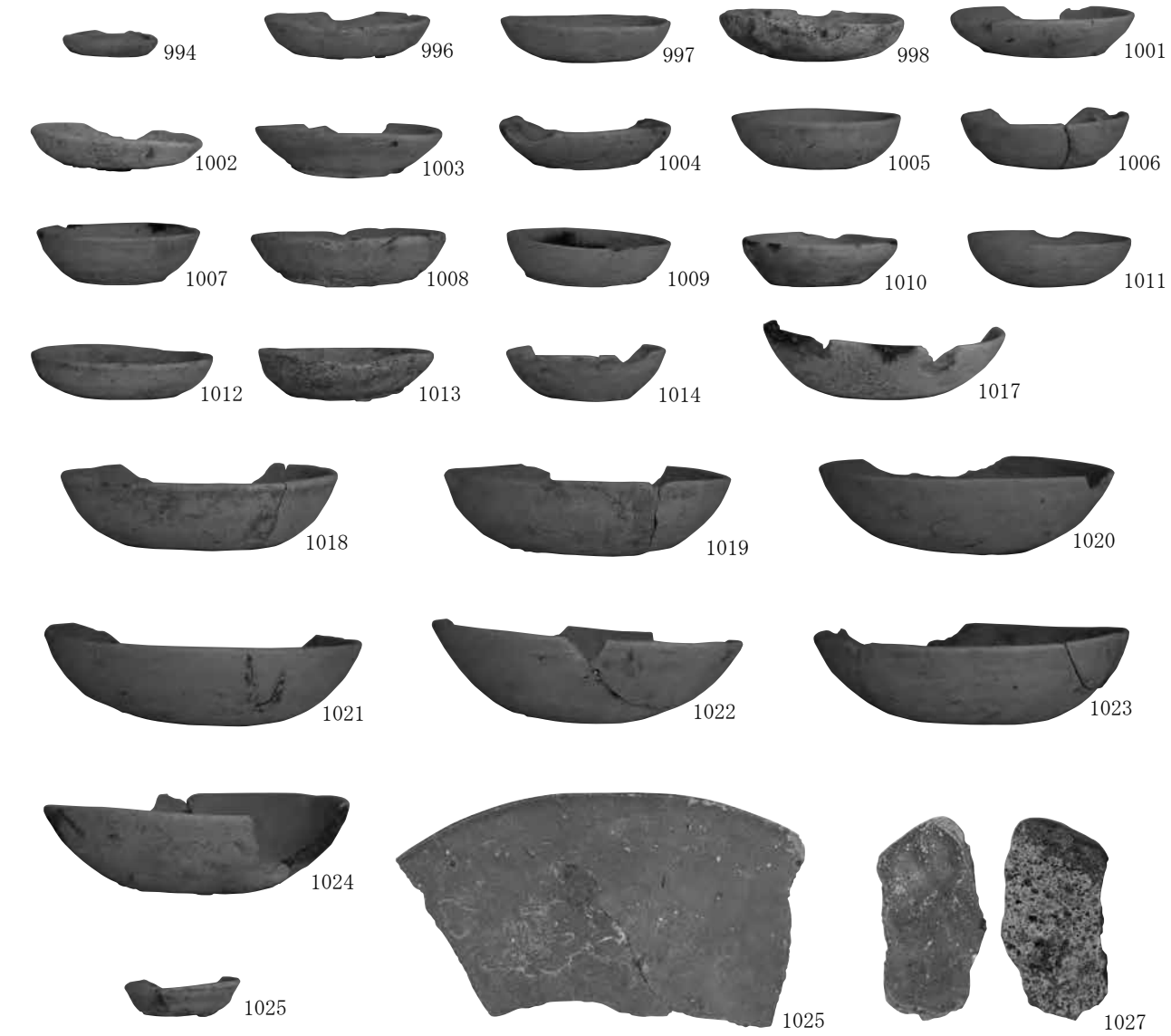


Ⅰ B 区　東西築地状遺構　築成土（基底部まで）



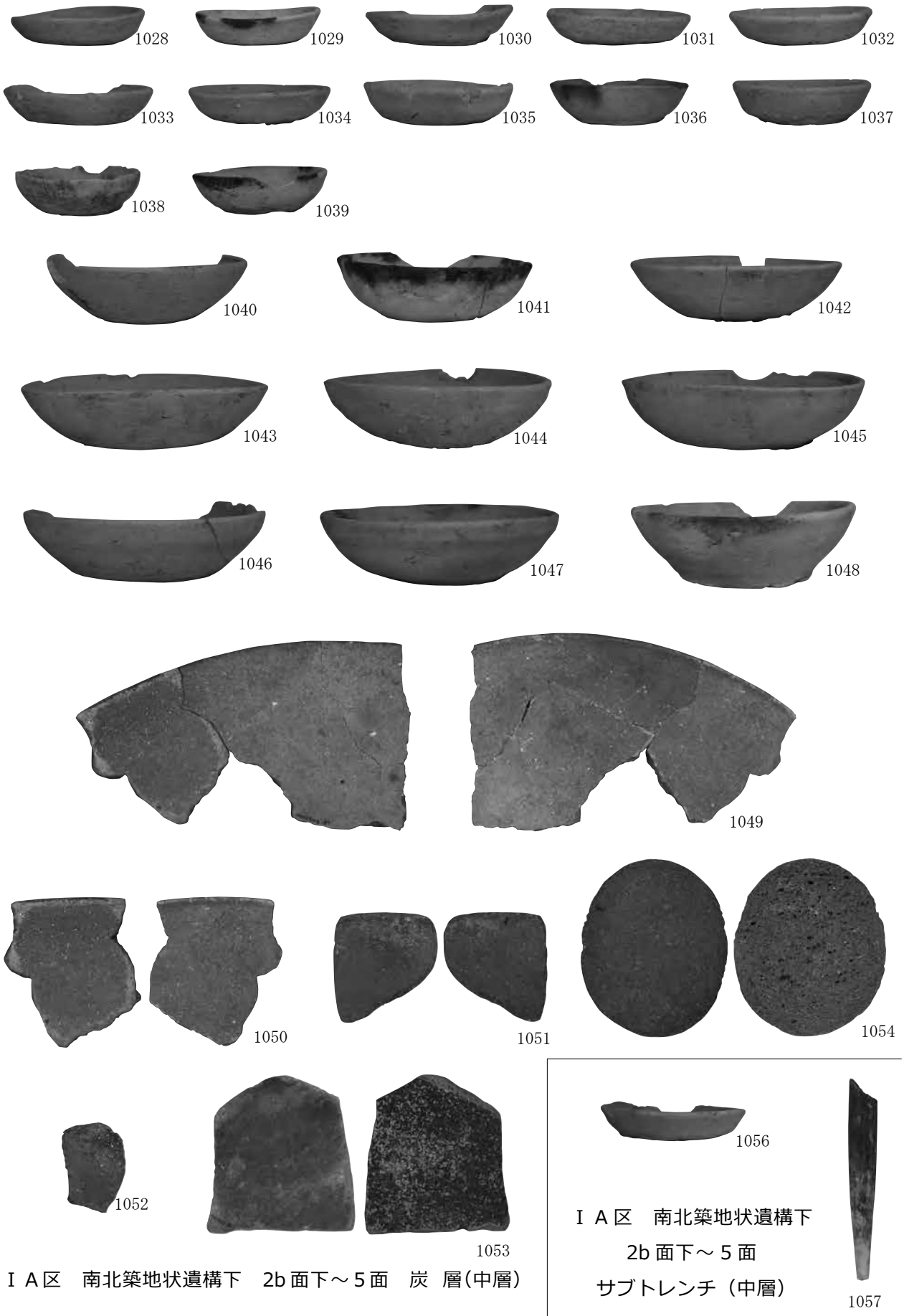
Ⅰ B 区　2b 面下～ 5 面（最上層）

Ⅰ A 区　北西区画　2b 面下～ 5 面（上層）



Ⅰ A 区　南北築地状遺構下　2b 面下～ 5 面　炭層（上層）

図版 54



Ⅰ A 区　南北築地状遺構下　2b 面下～ 5 面　炭　層（中層）

Ⅰ A 区　南北築地状遺構下
2b 面下～ 5 面
サブトレンチ（中層）

1060

Ⅰ A 区　南北築地状遺構下
2b 面下～ 5 面　地割れ状痕跡

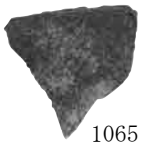
1063

Ⅰ A 区　南北築地状遺構下
2b 面下～ 5 面　泥岩集積（下層）

1061

1062

1064


1065

Ⅰ A 区　南北築地状遺構下
2b 面下～ 5 面（下層）

1066

Ⅰ A 区　5 面　囲炉裏 1

1069

1070

1071

1072

1073

1075

1076

1077

1078

1079

1080

1081

1082

1083

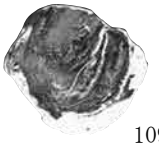
1084

1085

1088

1087

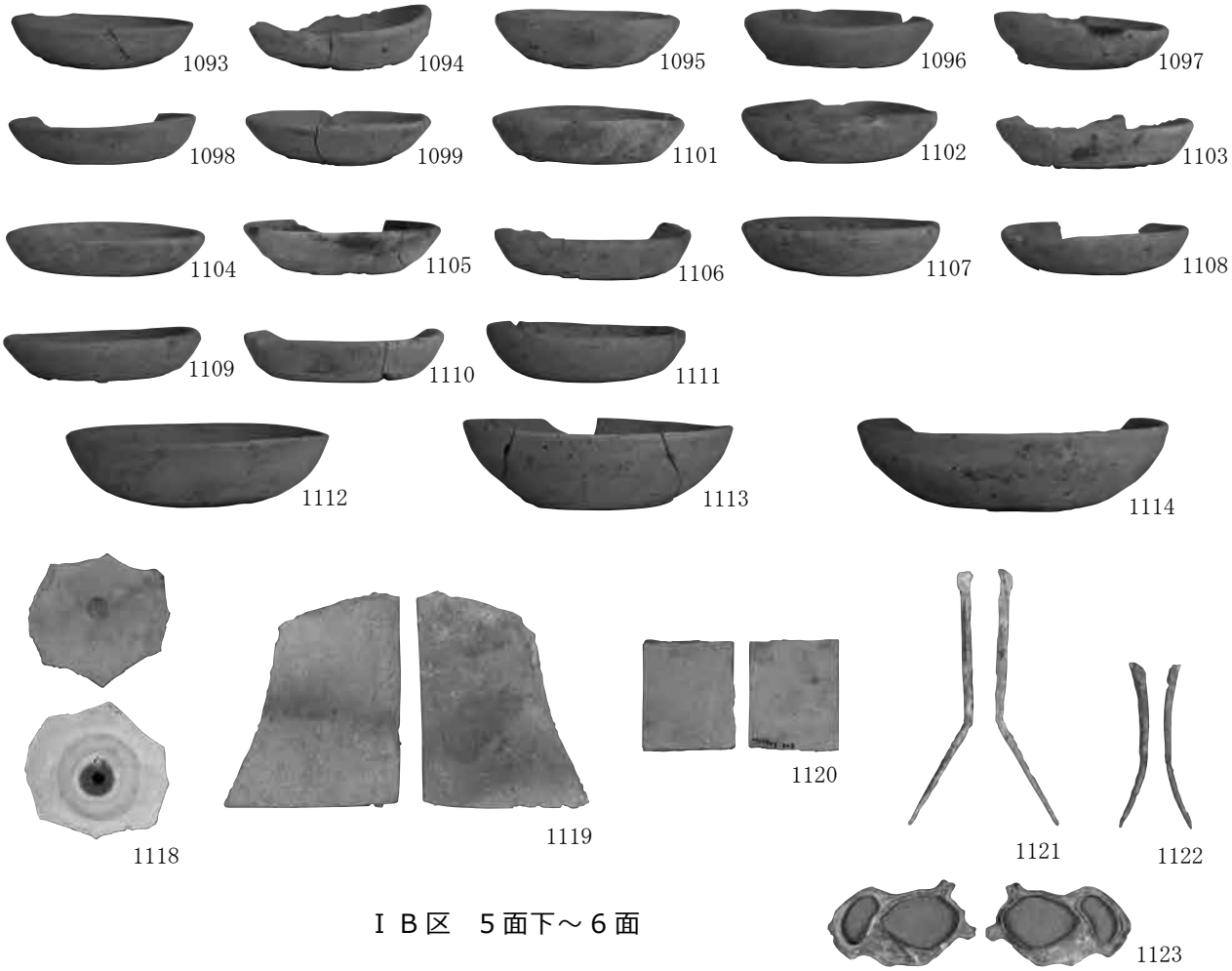
1090


1092

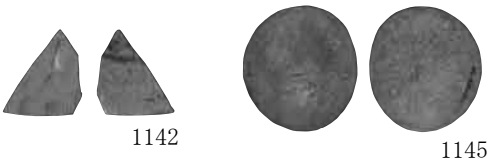
1086

Ⅰ A 区　5 面下～ 6 面

図版 56

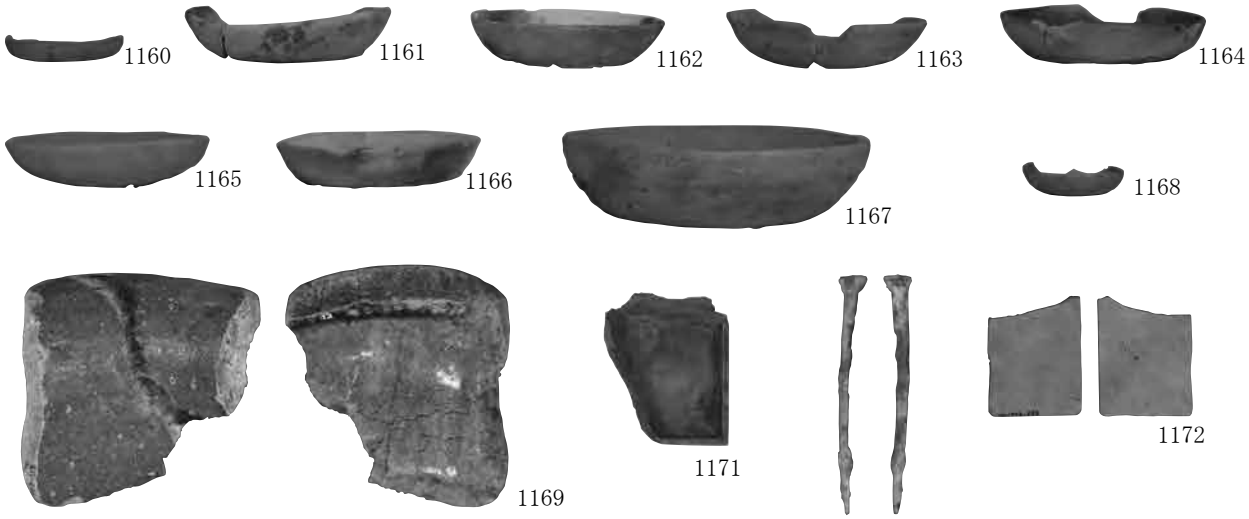


Ⅰ B 区　5 面下～ 6 面

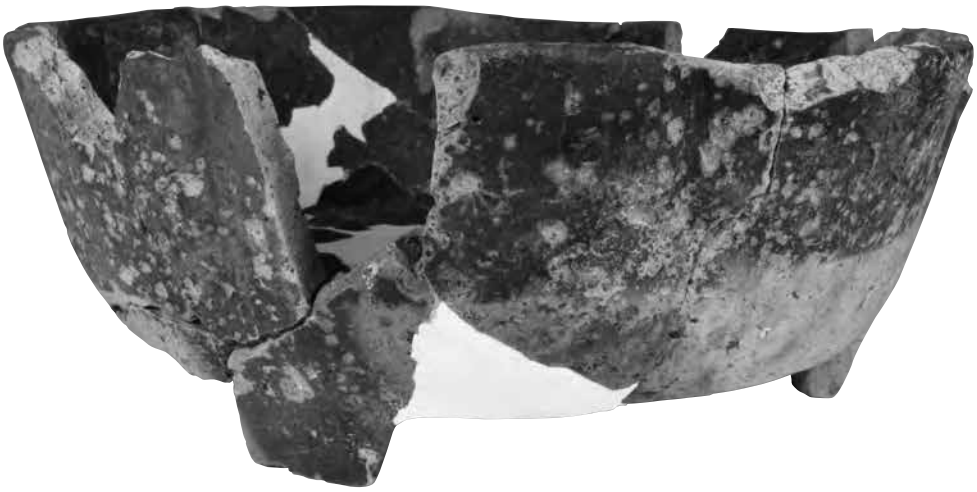


Ⅰ B 区　5 面下～ 6 面

Ⅰ B 区　6 面　井戸状遺構 1

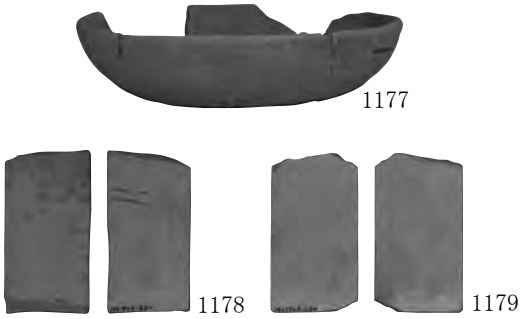


Ⅰ B 区　6b 面下～ 7 面

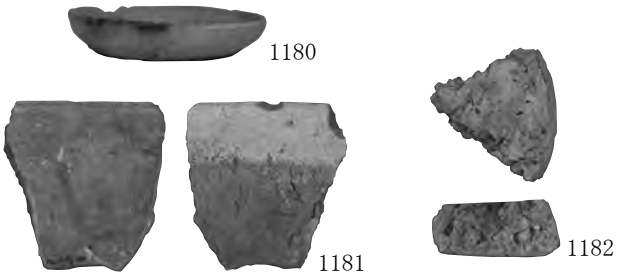


ＩＢ区　6b 面下～７面

図版 58

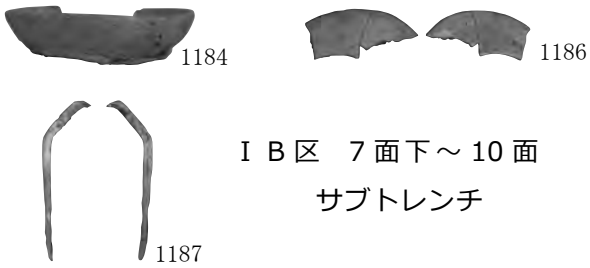


Ⅰ B 区　7 面　溝 1

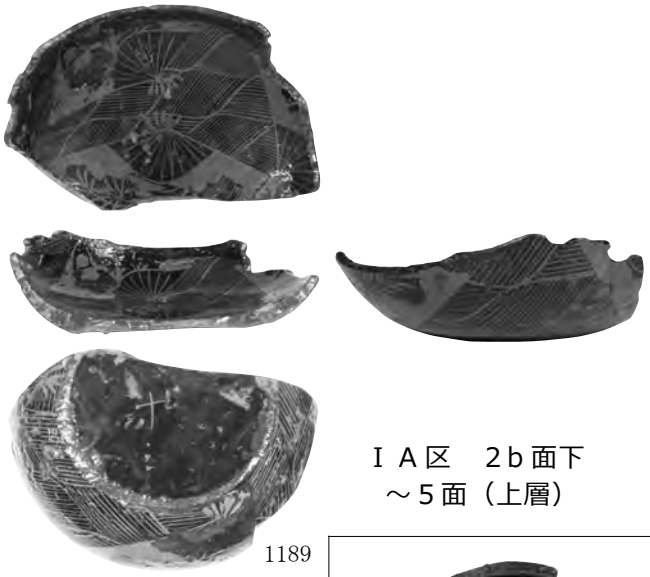


Ⅰ A 区　7 面　マグソ土坑

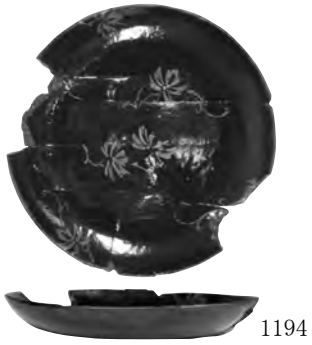
Ⅰ B 区　7 面　遺構外

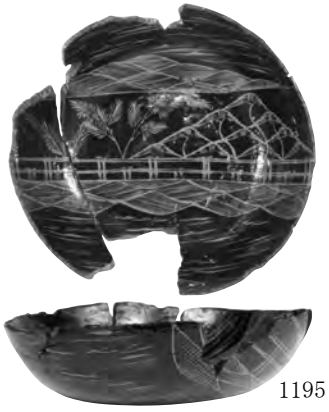


Ⅰ B 区　7 面下～ 10 面
サブトレンチ

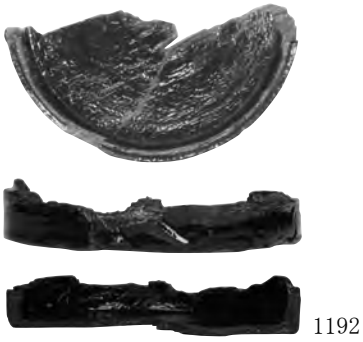


Ⅰ A 区　2b 面下
～ 5 面（上層）





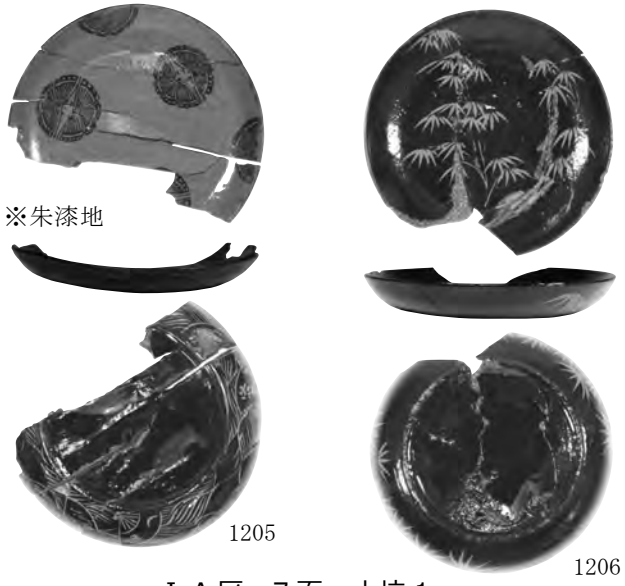
Ⅰ A 区 5 面下～ 6 面　遺構外



Ⅰ A 区　2b 面下
～ 5 面（下層）

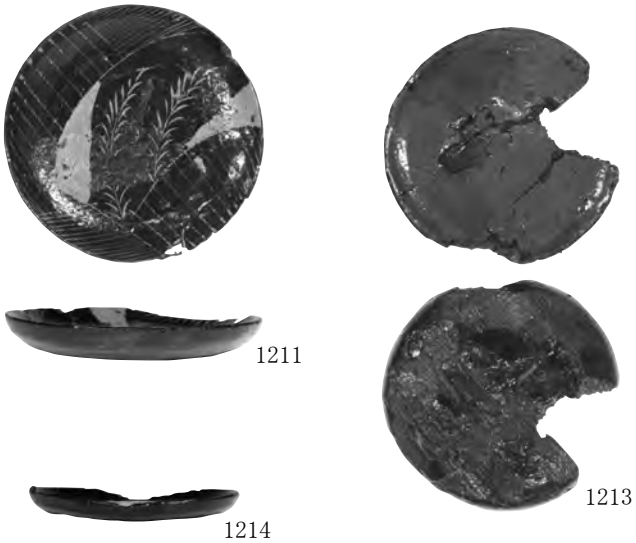
Ⅰ A 区
5 面上　遺構外

Ⅰ A 区 5 面下～6 面　遺構外

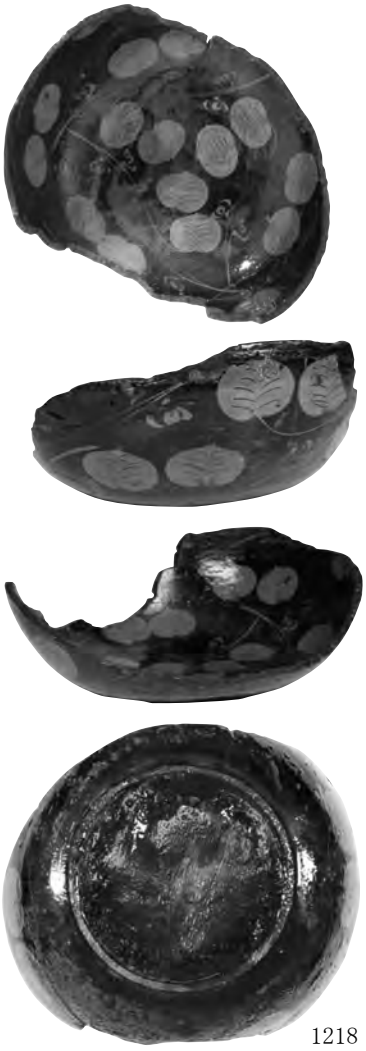


Ⅰ A 区　7 面　土坑 1

Ⅰ B 区　2 面
東西築地状遺構
築成土
（基底部まで）



Ⅰ B 区　南東区画
2b 面　かわらけ集積



Ⅰ B 区　南東区画
2b 面下～ 5 面　（最上層）

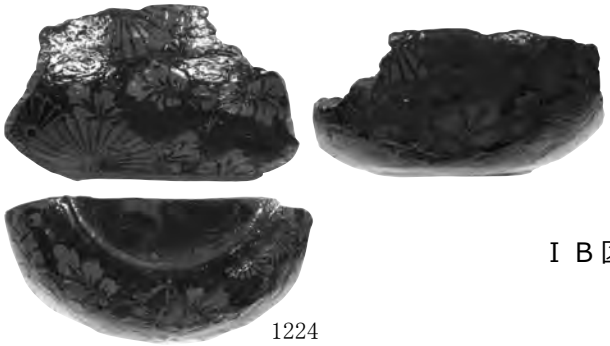
図版 60

1219

Ⅰ B 区
2b 面下
～ 5 面
サブトレンチ

1222

1223



1224

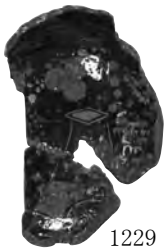
Ⅰ B 区 6 面　板壁建物状遺構　埋土

1225

1226

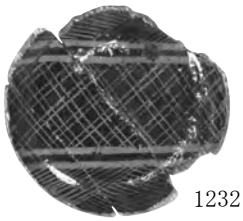
1227

Ⅰ B 区　6 面
板壁建物状遺構　埋土（マグソ層）



1229

Ⅰ B 区
6 面上
遺構外


1232

1237

1242

Ⅰ B 区　6 面上　マグソ層

1246

1248

1250

1251

1253

1255

1257

1259

Ⅰ B 区　7 面　溝 1

1260

1260・1261
Ⅰ B 区
6 b 面下～ 7 面

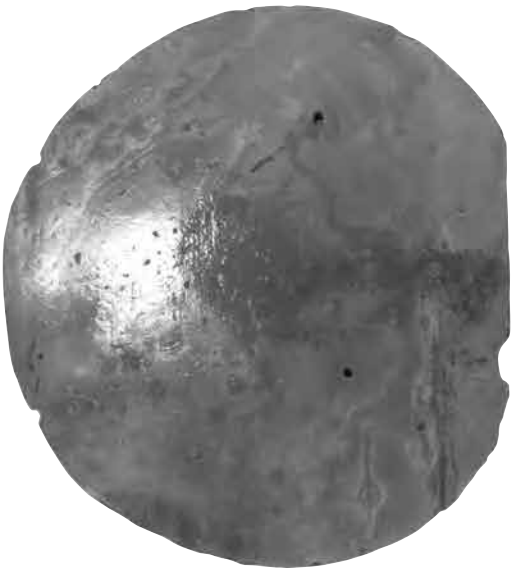
図版 62

1262

Ⅰ A 区　5 面囲炉裏 1

1264

1263



1265

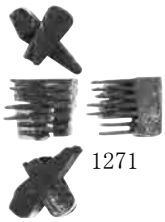
Ⅰ A 区　5 面下～6 面　マグソ層

1266

1268

Ⅰ A 区　7 ～ 9 面

1270


1271

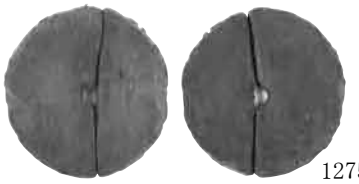
Ⅰ B 区
7 面　溝 1

1273

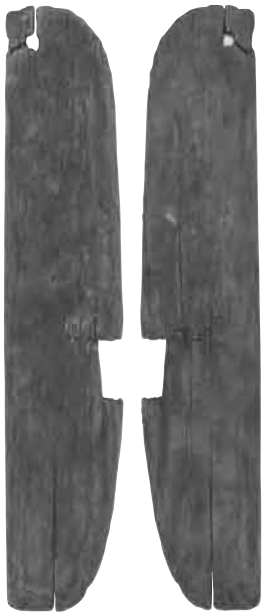
1269

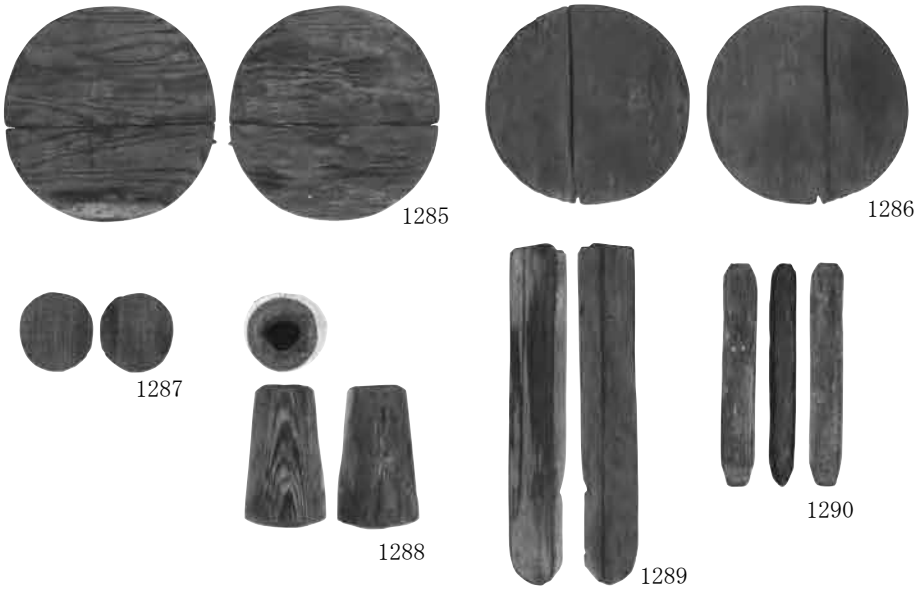
Ⅰ B 区　6 面上　遺構外

1274


1275

Ⅰ A 区
北西区画　1 面　井戸 1


1278


1285 1286 1287 1288 1289 1290

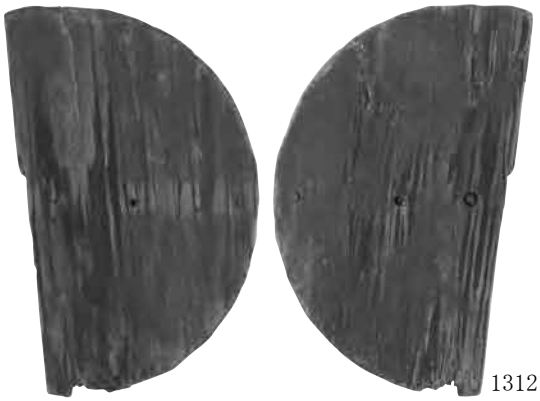
Ⅰ A 区　北西区画　2 面下～ 5 面（最上層）

1280 1281

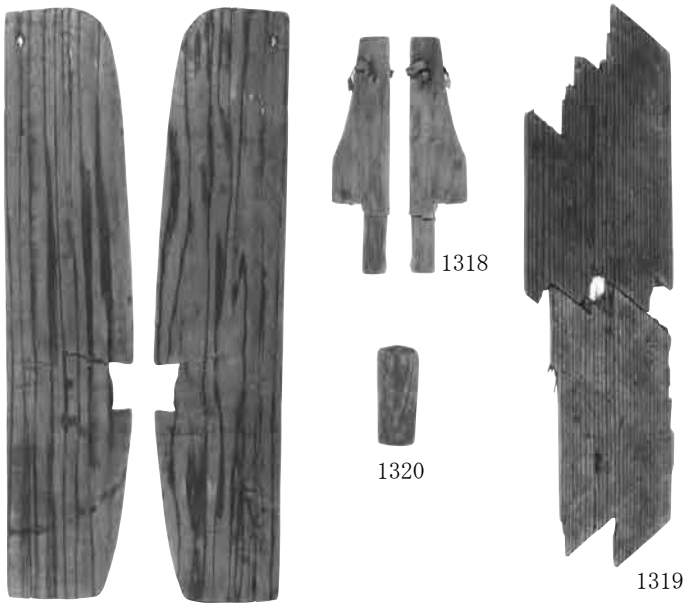
Ⅰ A 区　北西区画
2 面　遺構外
（1 279 のみ区画不明）

1304 1306

Ⅰ A 区　北西区画　2 面下～ 5 面（上層）


1312

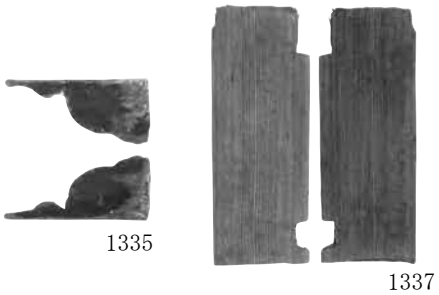
Ⅰ A 区　2 面下～ 5 面（上層）


1317 1318 1319 1320

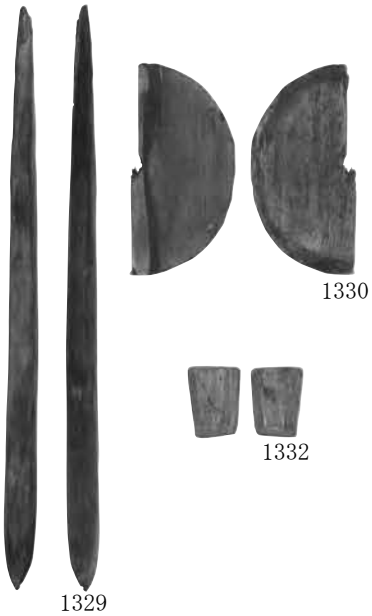
Ⅰ A 区　2 面下～ 5 面（上層）

図版 64

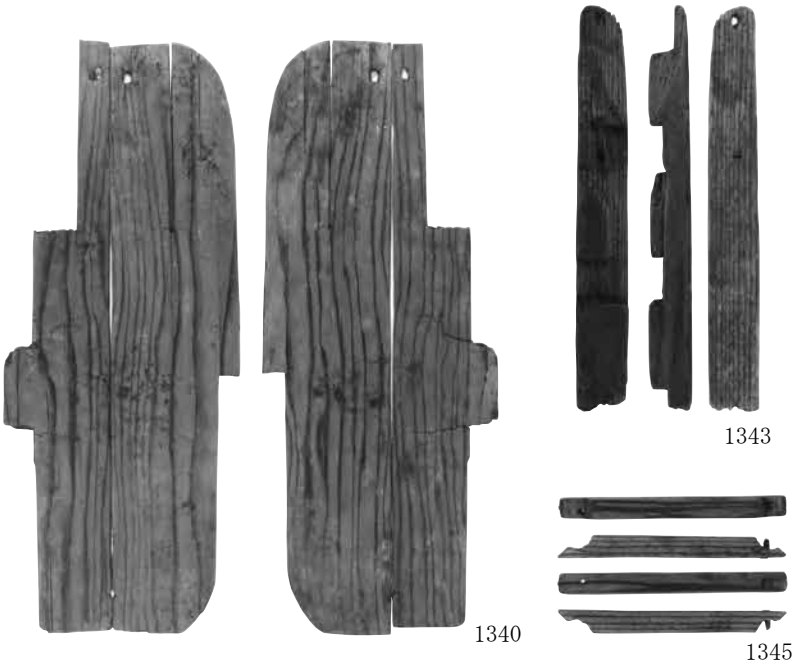
Ⅰ A 区　南北築地状遺構下
２面下～５面（上層）



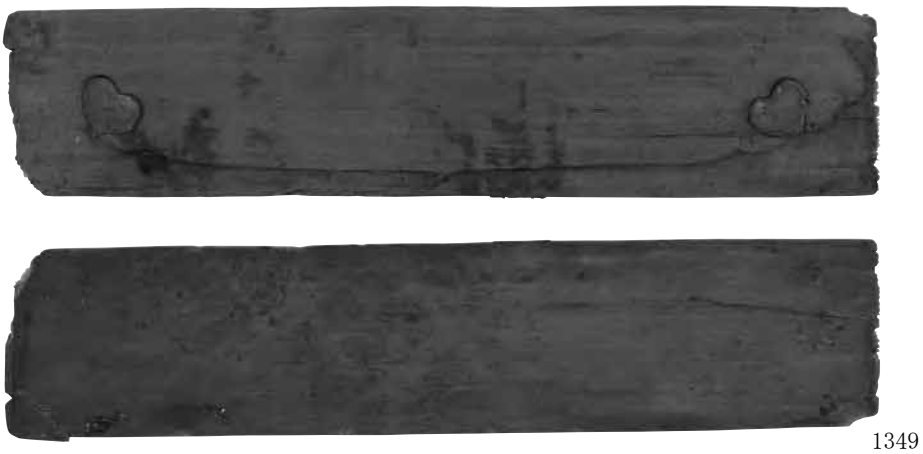
Ⅰ A 区　南北築地状遺構下
５面下　泥岩集積



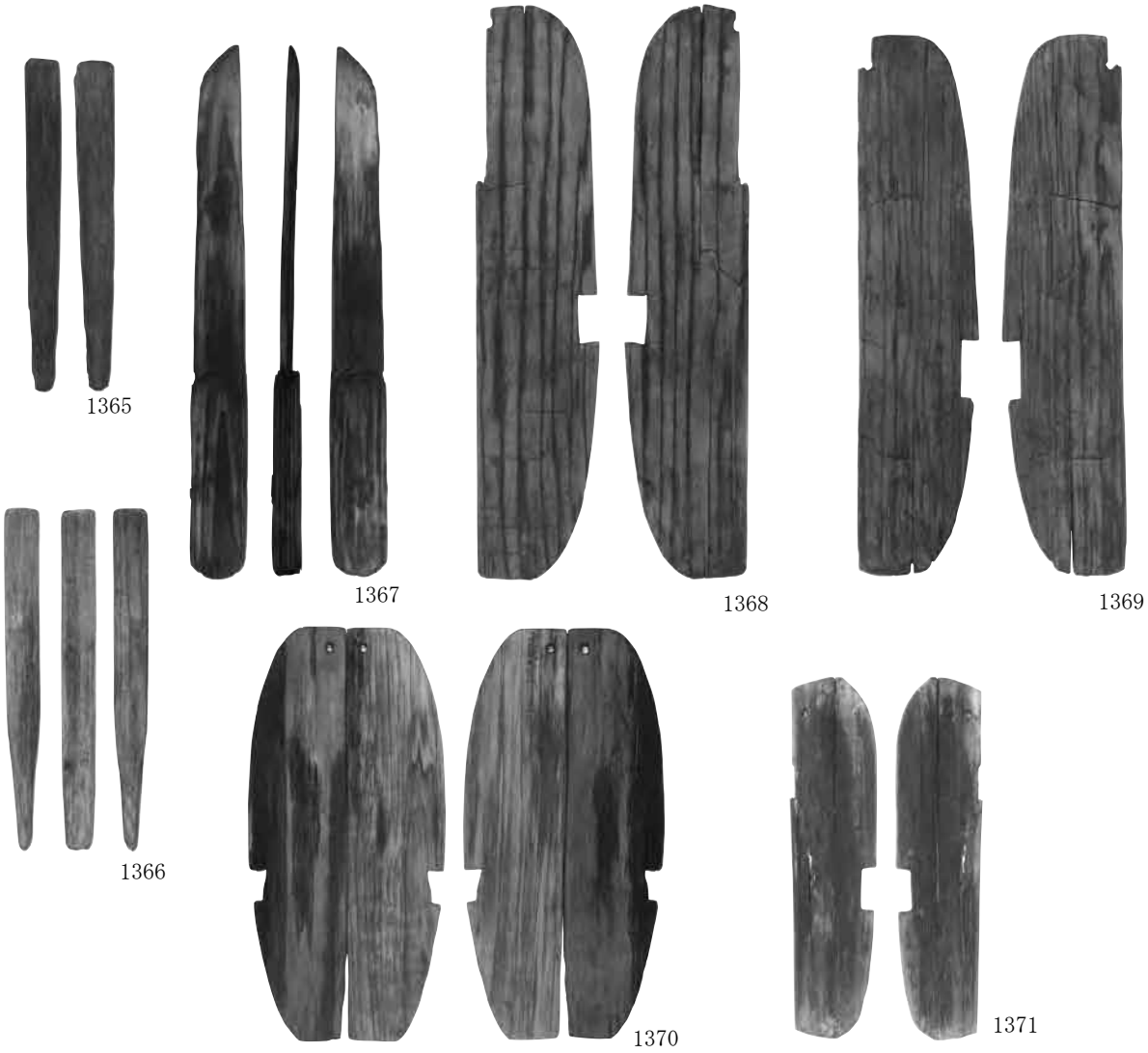
Ⅰ A 区　南北築地状遺構下
５面下　地割れ状痕跡



Ⅰ A 区　北西区画　２面下～５面（下層）



Ⅰ A 区　５面上　遺構外



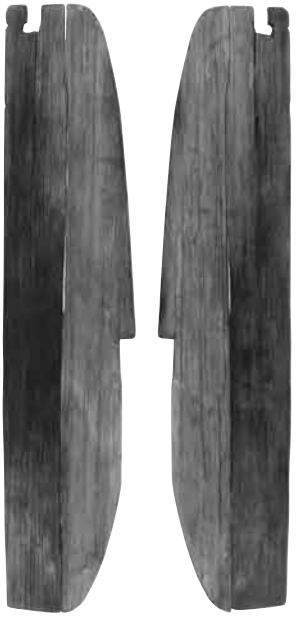
Ⅰ A区　5面下～6面　マグソ層

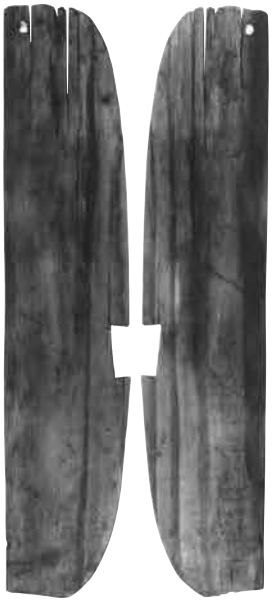
Ⅰ A区　5面下　サブトレンチ

図版 66

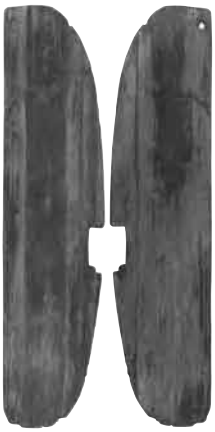
1387

1388


1389


1390

1391


1393

ＩＡ区　５面下～６面（下層）

1410

Ⅰ A 区　6b 面下～７面

1415

1416

1417

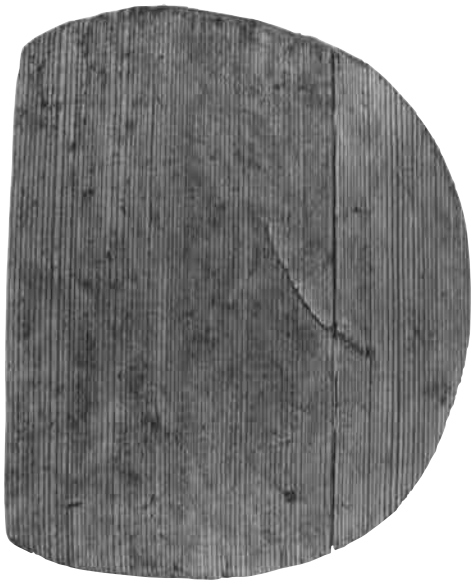
1418

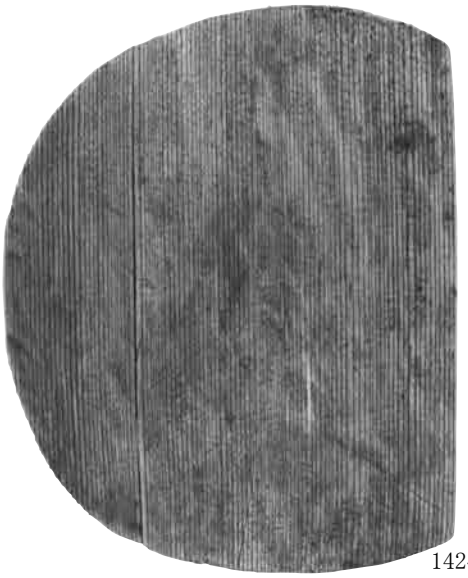
1419

Ⅰ A 区　6b 面下～７面

1420

Ⅰ A 区　７面　坑１





1424

1425

1426

Ⅰ A 区　7 面下～ 8 面　サブトレンチ

Ⅰ A 区　7 面下～ 9 面
サブトレンチ

Ⅰ B 区　南東区画　2 面　かわらけ集積

1431

1432

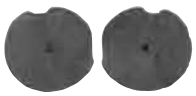
1433

Ⅰ A 区　9 面下　サブトレンチ

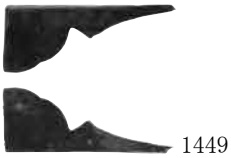
1439

Ⅰ B 区　南東区画
2b 面　かわらけ集積

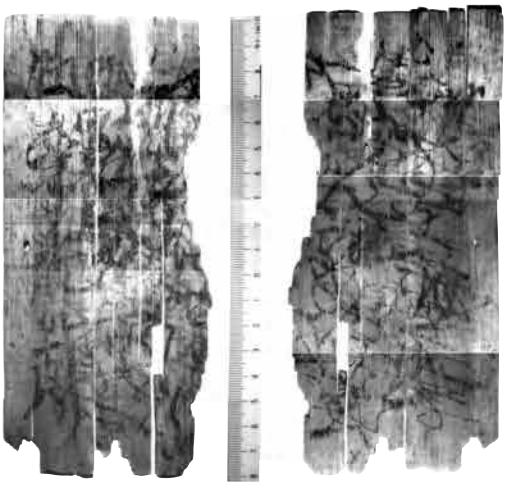
1447


1448

Ⅰ B 区
北東区画
2b 面下～ 5 面（最上層）


1449

Ⅰ B 区
東西築地状遺構下
2b 面下　基底部まで


1461

1460

1463

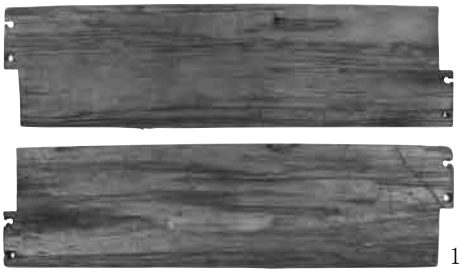
1465

Ⅰ B 区　6 面　板壁建物状遺構　埋土（マグソ層）

図版 70

1467

1469


1470

1471

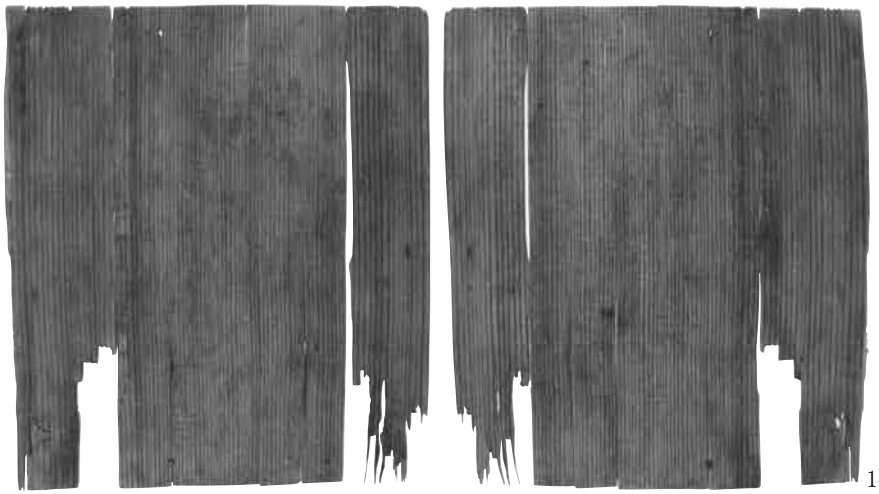
1468

Ⅰ B 区　6 面　板壁建物状遺構　埋土（マグソ層）

1492

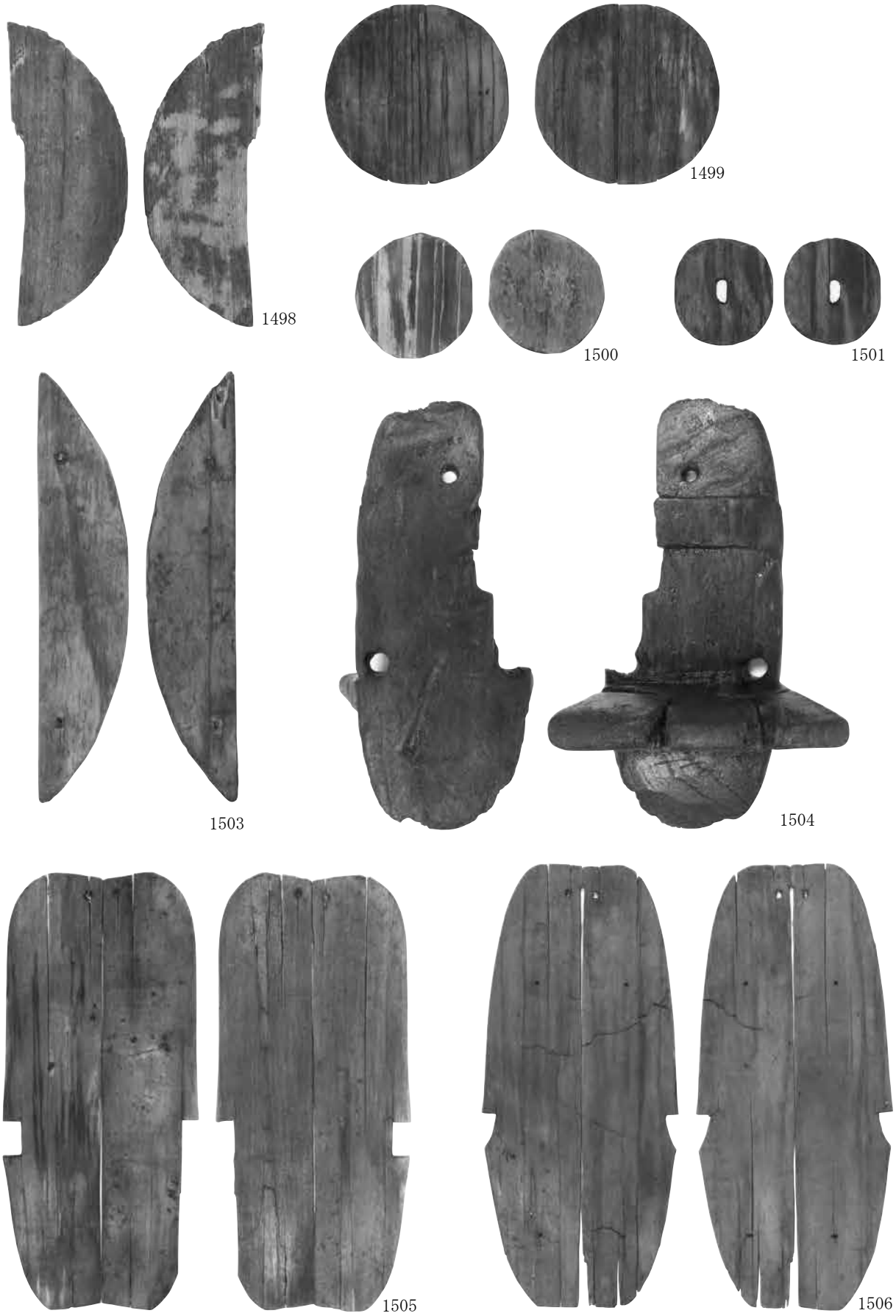
1493

1494


1495

1496

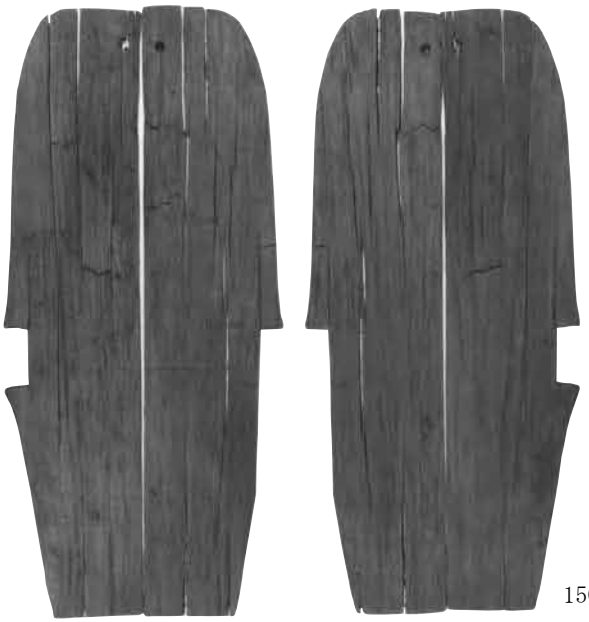
Ⅰ B 区　6 面上　マグソ層



ＩＢ区　６面上　マグソ層

図版 72

1507



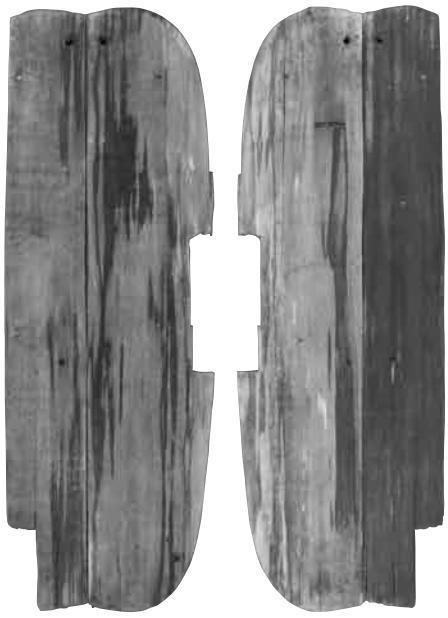
1509

1510

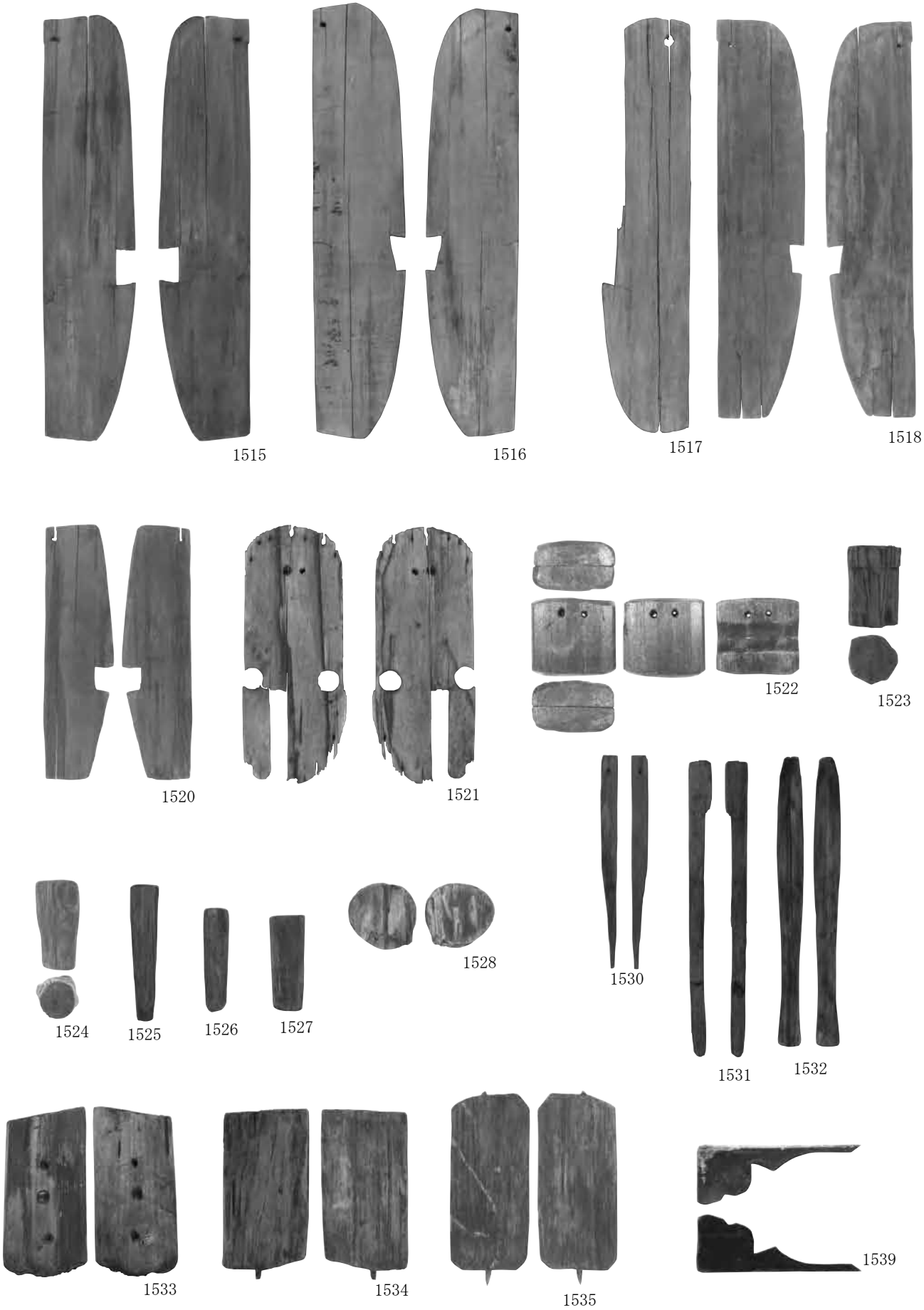
1512

1513

ＩＢ区
６面上
マグソ層



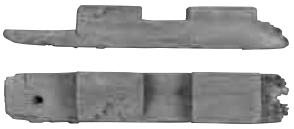
1514


1515
1516
1517
1518
1520
1521
1522
1523
1524
1525
1526
1527
1528
1530
1531
1532
1533
1534
1535
1539

ＩＢ区　６面上　マグソ層

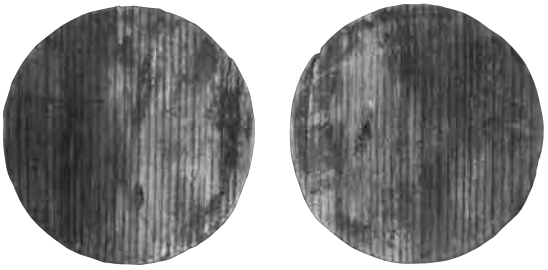
図版 74

1540



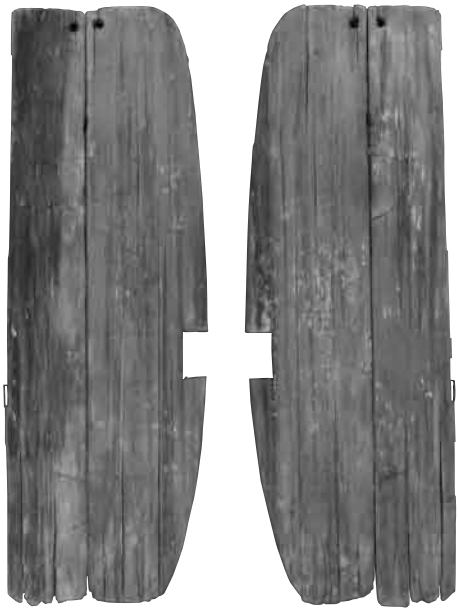
1541

Ⅰ B区　6面上



1542

Ⅰ B区　6面下～7面



1543

1556　1557　1558

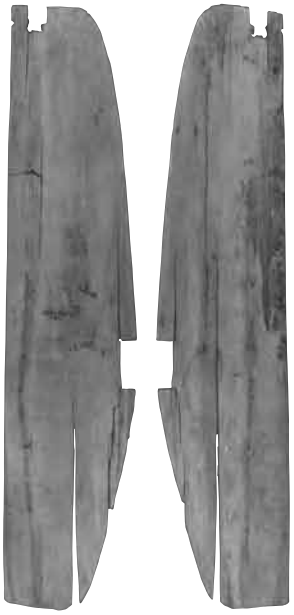
Ⅰ B区　7面　溝1

1559

1560

ＩＢ区 ７面 溝１

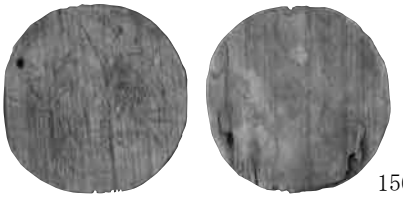
1562



1563

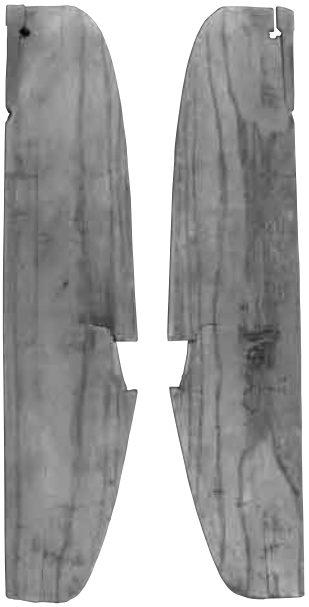
ＩＢ区 ６面下～７面

1564



1565

1561



1566

ＩＢ区 ７面
マグソ土坑

佐助ヶ谷遺跡（No.203）

佐助一丁目601番6地点

例　言

1．本編は、鎌倉市佐助一丁目601番６において実施した、「佐助ヶ谷遺跡」（鎌倉市No.203遺跡）の発掘調査報告である。

2．発掘調査は令和２年９月１日から同年12月25日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。調査の対象面積は、113.0㎡である。

3．発掘調査体制は、以下のとおりである。

調査担当者　　押木弘己

調　査　員　　菅野知子、栂岡ケイト、廣田倫子、小川さやか、髙坂明子

作　業　員　　小口照男、吉澤　功、星　栄人、石田光久、遠藤雅廣、大澤清春、森野　修、高橋裕喜（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター 文化財班）

調 査 協 力　　株式会社 博通

資料整理・報告書作成　　押木、菅野、栂岡、廣田、太田しのぶ、菊川　泉、吉田桂子

4．本報告の執筆は、第一章を米澤雅美が、第二章～第六章を押木が行った。

5．資料整理および本報告の作成は、鎌倉市文化財課分室で行った。

6．本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「ＳＳＫ２００３」とし、出土品への注記などに使用した。

凡　例

1．挿図の縮尺は、遺構・遺物ともに図中に表示している。

2．本書中に記載した国土座標値は、世界測地系（JGD2011-第Ⅸ系）に基づいている。

3．挿図に示した方位標は座標北（Ｙ軸）で、真北はこれより0°　09′　25″ほど東に振れている。

4．遺構挿図中の水糸高は、海抜値を示す。

5．出土遺物の年代観は以下の文献を参考としたが、 筆者が各所見を理解し切れていない部分もある。

◆かわらけ・遺物全体の様相：宗臺秀明　2019「鎌倉出土かわらけの系譜と編年―東国社会の変質と中世の成立（後）：かわらけの編年と中世社会」『鶴見大学紀要　第56号 第4部 人文・社会・自然科学編』鶴見大学

◆瓦質土器：河野眞知郎　1993「中世鎌倉火鉢考」『考古論叢神奈河　第2集』神奈川県考古学会

◆輸入陶磁器：『大宰府条坊跡ＸＶ―陶磁器分類編―』太宰府市教育委員会　2000

◆瀬戸窯製品：藤澤良祐　2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院

◆常滑・渥美窯製品：『愛知県史　別編窯業3　中世・近世常滑系』愛知県　2012

◆遺物観察表（表３）のうち、かわらけ胎土の分類記号（Ａ～Ｅ）は以下の内容を示す。

Ａ：粉質　Ｂ：泥質　Ｃ：精良・硬質　Ｄ：泥質・精良　Ｅ：砂質・硬質

これらはいずれも在地産土器であり、基本的に白色針状物質（骨針化石）・泥岩粒・雲母片などの混入物を含むが、 個体ごとに有無・多寡もある。大よそＥ・Ｄ→Ｂ・Ｃ→Ａという順で新しくなり、Ｃは所謂「薄手丸深型」に、Ａは所謂「戦国タイプ」に使用される。

目　次

本文目次

第一章　調査に至る経緯 …… 249
第二章　遺跡の位置と歴史的環境
　第１節　遺跡の位置と歴史 …… 249
　第２節　周辺の発掘調査成果 …… 250
第三章　調査の経過と方法 …… 253
第四章　基本土層 …… 253
第五章　検出遺構と出土遺物
　第１節　１面の遺構と遺物 …… 255
　第２節　２面の遺構と遺物 …… 262
　第３節　３面の遺構と遺物 …… 276
　第４節　４面の遺構と遺物 …… 278
　第５節　４面下 …… 289
　第６節　遺構外の出土遺物 …… 289
第六章　調査成果のまとめ …… 316

挿図目次

図１　調査地点の位置 …… 251
図２　調査区配置図 …… 254
図３　土層断面図（表土～１面）…… 256
図４　土層断面図（１面以下）…… 257
図５　１ａ面全体図 …… 260
図６　１ｂ面全体図 …… 261
図７　２面全体図 …… 263
図８　３ａ面全体図 …… 264
図９　３ｂ面全体図 …… 265
図 10　４面全体図 …… 266
図 11　４面下全体図 …… 267
図 12　出土遺物（１）…… 268
図 13　出土遺物（２）…… 269
図 14　出土遺物（３）…… 270
図 15　出土遺物（４）…… 271
図 16　出土遺物（５）…… 272
図 17　出土遺物（６）…… 273
図 18　出土遺物（７）…… 274
図 19　出土遺物（８）…… 275
図 20　出土遺物（９）…… 276
図 21　出土遺物（10）…… 277
図 22　出土遺物（11）…… 278
図 23　出土遺物（12）…… 279
図 24　出土遺物（13）…… 280
図 25　出土遺物（14）…… 281
図 26　出土遺物（15）…… 282
図 27　出土遺物（16）…… 283
図 28　出土遺物（17）…… 284
図 29　出土遺物（18）…… 285
図 30　出土遺物（19）…… 286
図 31　出土遺物（20）…… 287
図 32　出土遺物（21）…… 288
図 33　隣接地点合成図 …… 289

表目次

表１　佐助ヶ谷遺跡（佐助一丁目 601 番６）
　　発掘調査にかかる届出等の文書 ････ 249
表２　周辺の主な調査地点　･････････････ 252
表３　出土遺物カウント・計量表　･･･ 291 ～ 300
表４　出土遺物観察表　･････････････ 301 ～ 315

写真図版目次

図版１
1. 発掘調査着手前（北から）
2. Ⅰ区　表土掘削状況（南西から）
3. ⅠＡ区 1b 面　全景（南西から）
4. ⅠＡ区 1b 面下　全景（南西から）
5. ⅠＡ区２面下　全景（南から）

図版２
1. ⅠＢ区 1b 面　全景（南西から）
2. ⅠＢ区 1b 面　溝 1b 護岸材（北東から）
3. ⅠＢ区 1b 面　竪穴１（西から）
4. ⅠＢ区 1b 面下　全景（南西から）
5. ⅠＢ区２面下時　竪穴１基礎部分(南西から)

図版３
1. ⅠＢ区３面　かわらけ集中（北東から）
2. ⅠＢ区３面　かわらけ集中（北から）
3. ⅠＢ区３面　遺構プラン（北東から）
4. ⅠＢ区３面　遺構プラン（南西から）
5. ⅠＢ区３面　全景（南西から）

図版４
1. ⅠＢ区４面　全景（北西から）
2. ⅠＣ区 1b 面　全景（北東から）
3. ⅠＣ区２面　全景（南東から）
4. ⅠＣ区２面下　全景（南西から）
5. ⅠＣ区２面下　遺物出土状況（漆器蓋）

図版５
1. ⅠＣ区３面　全景（南西から）
2. ⅠＣ区４面　全景（南西から）

図版６
1. ⅠＤ区 1b 面　全景（南西から）
2. ⅠＤ区 1b 面　全景（南東から）
3. ⅠＤ区２面　全景（南西から）
4. ⅠＤ区２面上　遺物出土状況（南西から）
5. ⅠＤ区２面上　遺物出土状況（漆器椀）
6. ⅠＤ区３面　全景（南西から）
7. ⅠＤ区４面　全景（北東から）
8. ⅠＤ区４面上　遺物出土状況（かわらけ）

図版７
1. Ⅱ区 1a 面　遺構プラン（北西から）
2. Ⅱ区 1a 面時　作業状況（南西から）
3. Ⅱ区 1a 面　全景（北西から）
4. Ⅱ区 1a 面　溝 1a 遺物出土状況（常滑甕）
5. Ⅱ区 1a 面　切石検出状況

図版８
1. Ⅱ区 1b 面　全景（北西から）
2. Ⅱ区 1b 面　遺物出土状況（漆器台座）
3. Ⅱ区 1b 面時　溝 1b・溝 1c（北東から）
4. Ⅱ区 1b 面時　溝 1b・溝 1c（北から）
5. Ⅱ区 1b 面　遺物出土状況（鯨椎骨）

図版９
1. Ⅱ区２面　遺構プラン（北西から）
2. Ⅱ区２面　全景（北西から）

図版 10
1. Ⅱ区　２面下　全景（北西から）
2. Ⅱ区　３面炭層上　全景（北西から）

図版 11
1. Ⅱ区３面　遺構プラン（北西から）
2. Ⅱ区３面　遺物出土状況（漆器皿）
3. Ⅱ区３面　遺物出土状況（漆器皿）
4. Ⅱ区３面　遺物出土状況
5. Ⅱ区３面　遺物出土状況（漆器皿）

図版 12
1. Ⅱ区３面　全景（北西から）
2. Ⅱ区４面　全景（北西から）

図版 13
1. Ⅲ区 1a 面　全景（北西から）
2. Ⅲ区 1a 面　全景（南西・低位から）

図版 14
1. Ⅲ区２面　全景（北西から）
2. Ⅲ区３面　全景（北西から）

図版 15
1. Ⅲ区３面　全景（北東から）
2. Ⅲ区３面上　遺物出土状況（南から）
3. Ⅲ区３面上　遺物出土状況（東低位から）
4. Ⅲ区４面上　遺構検出状況（北東から）
5. Ⅲ区４面　遺構プラン（北西から）

図版 16
1. Ⅲ区４面　全景（北西から）
2. Ⅲ区４面　全景（南西から）

図版 17
1. Ⅲ区４面　ピット内　礎板と柱材(北西から)
2. Ⅲ区４面上　遺物出土状況（北低位から）
3. Ⅲ区４面下（北東から、ピットは 3･4 面遺構）
4. Ⅲ区南壁　土層断面（北西から）
5. Ⅲ区東壁　土層断面（南西から）

図版 18 ～ 28　出土遺物

第一章　調査に至る経緯

平成30年12月、当該地における土木工事について事業者より鎌倉市教育委員会文化財課へ相談があった。その内容は、現地表下600cmに達する鋼管杭工事を行う個人専用住宅建設の計画であった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地であり、事前に行なった確認調査の結果、現況地盤面より深さ140㎝で中世遺物包含層、160cmで遺構を確認し、更に下層まで遺跡が残存していることが確認された。その結果により、当該工事計画が埋蔵文化財に影響を及ぼすことが避けられないとの判断に至った。

令和２年２月10日付で事業者より文化財保護法第93条の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出を受理した。これに対して、令和２年３月19日付で神奈川県教育委員会教育長より発掘調査を実施する旨の指示が通知され、当該地の埋蔵文化財については発掘調査を実施して、記録保存の措置を図ることとなった。事業者は令和２年８月７日付で鎌倉市教育委員会に発掘調査依頼書を提出し、発掘調査は令和２年９月１日に開始し、令和２年12月25日に終了した。

表１　佐助ヶ谷遺跡（佐助一丁目601番６）発掘調査にかかる届出等の文書

文書種別・内容		文書番号	日付	発信者	受信者	備考
確認調査	依頼		令和元年12月18日	事業者	鎌倉市教育委員会	
	実施		令和２年１月29日・30日			
文化財保護法93条	提出		令和２年２月10日	事業者	神奈川県教育委員会	
	通知	文遺第61113号	令和２年３月19日	神奈川県教育委員会	事業者	
出土品の手続き	発見届		令和３年１月26日	鎌倉市教育委員会	鎌倉警察署	
	保管証		令和３年１月26日	鎌倉市教育委員会	神奈川県教育員会	
	認定と帰属	文遺第51042号	令和３年２月８日	神奈川県教育委員会	鎌倉市教育委員会 土地所有者	

第二章　遺跡の位置と歴史的環境

第１節　遺跡の位置と歴史

本調査地は鎌倉市佐助一丁目601番６に所在する。遺跡名となっている佐助ヶ谷は鎌倉中心市街地の西側、源氏山から南に派生する二筋の丘陵に挟まれた南北900ｍほどの開析谷で、谷筋に沿って佐助川が南流する。開口部は東西200ｍほどの幅をもち、佐助川は御成山（天狗堂崎）の南端裾で東に流れを変える。谷戸内は樹枝状に支谷が刻まれ、天保三年（1832）作成の「扇ヶ谷村絵図」には「坂下谷」や「法蓮寺谷」といった名称が記載されている。

佐助地域の歴史については、最近、分かりやすくまとめられた成果があるので詳しくはそちらを参照されたいが（鎌倉考古学研究所2021）、以下、これに準拠しながら、中世を中心とする当地域の歴史について述べたい。

地名としての佐助（佐介）の史料上の初見は、『吾妻鏡』の寛元四年（1246）六月二十七日条という。ここには「入道越後守時盛佐介第」と表され、この２年前に将軍職を譲り出家していた九条頼経（入道大納言家）が京に送還されるに先立ち、佐介にあった北条（佐介）時盛邸に移ったことを記している。建長四年（1251）三月二十一日条では頼経の子で前将軍の頼嗣が、文永三年（1266）七月四日条では現

将軍の宗尊親王がやはり政変の末に京へ送還されるに先立ち、時盛の「佐介亭」に移っている。実質は送還であっても建前上は「帰洛之御出門」であり、「佐介亭」が将軍経験者の帰洛に関わる儀礼の場として位置付けられていた可能性を窺わせる記事といえるだろう。当時の認識として、谷戸奥から丘陵を越えて鎌倉の外へと抜けるという、境界領域という性格が強い地域であったのかもしれない。ただ、この時盛「佐介亭」が具体的に佐助の那辺に所在したのか、そのことを示す史・資料は現時点では皆無である。

室町時代の応永二十三年（1416)、前の関東管領上杉氏憲（禅秀）が挙兵すると鎌倉公方足利持氏は関東管領上杉憲基の「佐介館」に身を寄せて防戦したという。このことからも、鎌倉府が機能していた15 世紀前半までは、佐助は要職者が邸宅を構える政治・軍事上の一拠点となり得たことを窺うことができよう。

第２節　周辺の発掘調査成果

佐助ヶ谷遺跡の範囲は谷戸の開口部から最奥部まで続くが、幾筋かの支谷には廃寺伝承が残り、その寺名が遺跡名となっている（国清寺跡・宝蓮寺跡など)。谷戸内全域を通じて発掘調査の事例は少なく、佐助ヶ谷遺跡で 21 地点、松谷寺跡で２地点、宝蓮寺跡で２地点などを数えるに過ぎない。佐助ヶ谷の21 地点のうち、谷戸の開口部～「市役所通り」付近にかけての調査例で半数以上を占めており、その位置を図１に示した。各地点が隔たって分布しているため、それぞれの成果を相互に関連付けることは難しいが、本節では今回の調査地に程近い、代表的な成果について概略を述べる。図１－地点③では、鎌倉税務署の建設工事に先立って 900 ㎡の調査が実施され、13 世紀中頃以降、鎌倉時代後期～南北朝時代に営まれた建物群や井戸・道路といった遺構が検出され、土器・陶磁器の他、漆器を含む多種多様な出土遺物が注目された。特に囲炉裏を備えた「板壁掘立柱建物」の展開が良好な形で確認されており、「中世鎌倉でごく一般的な構造の建物」という評価がなされている。ただ、14 世紀前半～ 15 世紀初頭に比定されるⅢ期では瓦を利用した基壇や門、内部に倉が付属する建物、池などが営まることから寺院の一画という位置付けがなされ、前段階のⅡ期＝ 13 世紀後半～ 14 世紀初頭頃における板壁建物を中心とする空間構成についても、「工務所」など寺社に関連していた可能性が指摘され、建物周辺で数多く出土した木製形代類や、宝塔の図像および「勧進中道□建立」との字句が陽刻された木印なども、これを補強し得る要素としている。

本調査地の西隣となる地点⑯では 44 ㎡について調査が実施され、調査区のほぼ全域にわたり佐助川の旧流路と考えられる落ち込みが検出されている。実測図化できた遺物が皆無なため時期の特定はできないが、現状、当地点の西に接して流れる佐助川と流下方向が同じであることから、検出された河川跡を埋め立てて現行の流路に付け替えたことが考えられる。なお、当地点では河川の西岸のみが検出され東岸の確認には至っていないため今回の調査で確認できることを期待していたが、後述するように思惑通りの結果とはならなかった。

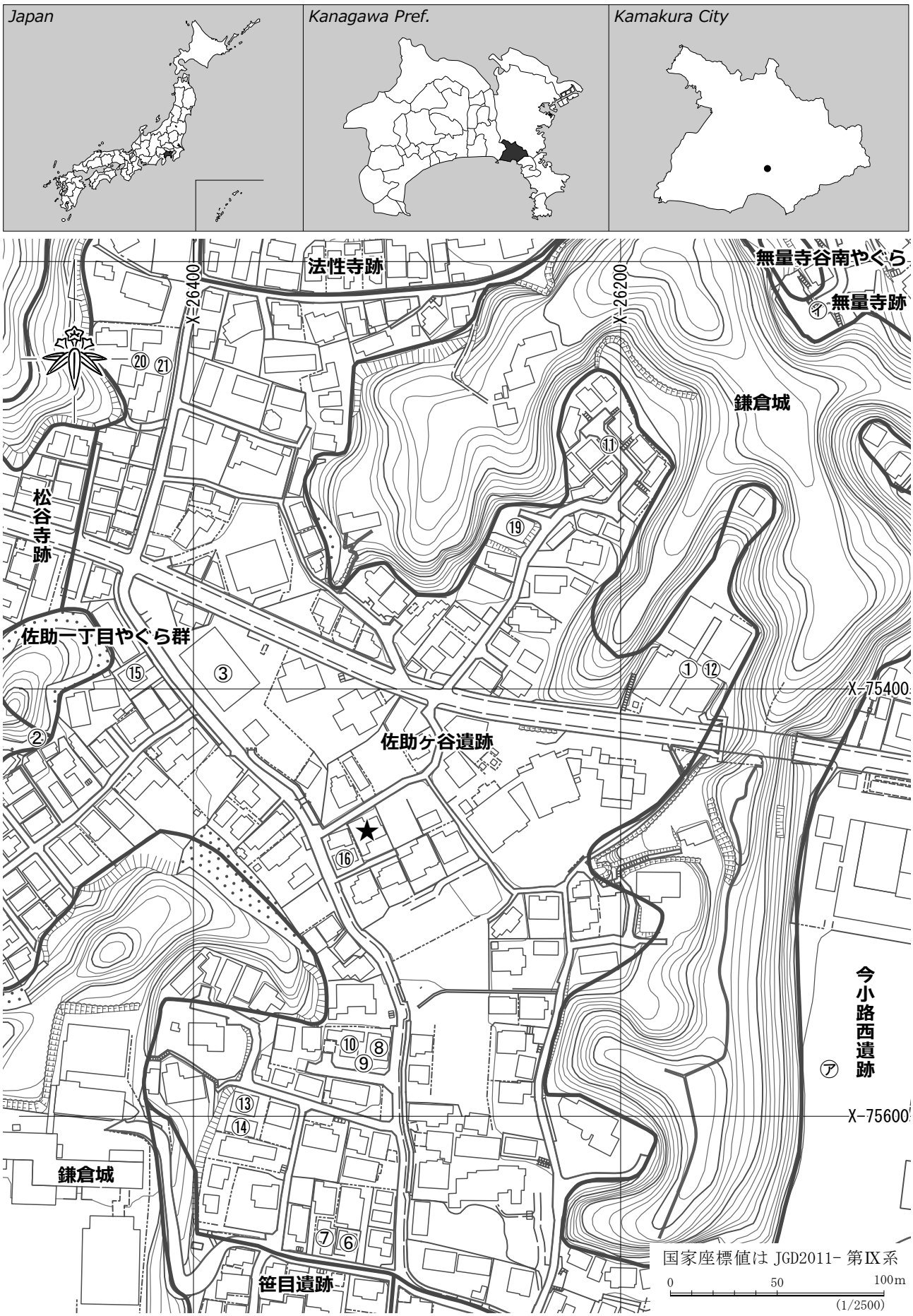

Japan
Kanagawa Pref.
Kamakura City
法性寺跡
無量寺谷南やぐら
無量寺跡
X-26400
X-26200
鎌倉城
松谷寺跡
佐助一丁目やぐら群
佐助ケ谷遺跡
X-75400
今小路西遺跡
X-75600
鎌倉城
笹目遺跡
国家座標値は JGD2011- 第Ⅸ系
0
50
100m
(1/2500)

図１　調査地点の位置

表２　周辺の主な調査地点（番号は図１に対応。①～㉑は佐助ヶ谷遺跡遺跡内の調査次数）

No.	地番	調査年度 (開始年度)	面積 (㎡)	所収文献
佐助ヶ谷遺跡（No. 203）				
★	**佐助一丁目 601 番 6**	**2020 年度**	**113**	**本報告**
①	佐助一丁目 620 番	1986 年度	600	『佐助ヶ谷遺跡』佐助ヶ谷遺跡発掘調査団　大三輪龍彦・他 1989
②	佐助一丁目 B	1986 年度		『平成元年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』 佐助ヶ谷遺跡内やぐら発掘調査団・他　継　実・他 1991
③	佐助一丁目 566 番 1	1990 ～ 1991 年度	900	『佐助ヶ谷遺跡（鎌倉税務署用地）発掘調査報告書』 佐助ヶ谷遺跡発掘調査団　齋木秀雄・他 1993
⑥	佐助一丁目 450 番 24	1996 年度	80	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 14（第 2 分冊）』 鎌倉市教育委員会　高野昌巳 1998
⑦	佐助一丁目 450 番 25、27	1996 年度	62	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 14（第 2 分冊）』 鎌倉市教育委員会　滝澤晶子・他 1998
⑧	佐助一丁目 476 番 1	2000 年度	26	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 18（第 1 分冊）』 鎌倉市教育委員会　降矢順子・他 2002
⑨	佐助一丁目 476 番 1 の一部	2000 ～ 2001 年度	250	未報告
⑩	佐助一丁目 476 番 1 の一部	2001 年度	120	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 20（第 1 分冊）』 鎌倉市教育委員会　原　廣志・他 2004
⑪	佐助一丁目 583 番外	2001 ～ 2002 年度	518	『佐助ヶ谷遺跡発掘調査報告書』 ㈲鎌倉遺跡調査会　瀬田哲夫 2005
⑫	佐助一丁目 615 番 1 外	2003 年度	1618	『佐助ヶ谷遺跡発掘調査報告書』 ㈲鎌倉遺跡調査会　齋木秀雄・他 2007
⑬	佐助一丁目 450 番 5 外	2004 年度	52	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 25（第 1 分冊）』 鎌倉市教育委員会　滝澤晶子・他 2009
⑭	佐助一丁目 450 番 29 外	2004 年度	47	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 25（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会　滝澤晶子・他 2009
⑮	佐助一丁目 496 番 5	2004 年度	56	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 25（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会　齋木秀雄・他 2009
⑯	佐助一丁目 601 番 4	2005 年度	44	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 27（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会　熊谷　満 2011
⑲	佐助一丁目 576 番 2、 578 番甲	2015 年度	217	『佐助ヶ谷遺跡（No. 203）発掘調査報告書』㈱博通　森　健一郎・他 2019
⑳	佐助一丁目 537 番 2、13、 541 番 3	2019 年度	500	未報告
㉑	佐助一丁目 537 番 2 の一部	2020 年度	675	未報告
今小路西遺跡（No. 201）				
㋐	御成町 625 番 3	1984 ～ 1985 年度	6000	『今小路西遺跡（御成小学校内）発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会　河野眞知郎・他 1990
鎌倉城（No. 87）				
㋑	御成町 39 番 36	2005 年度 2006 年度	847 120	『鎌倉城（No. 87）発掘調査報告書』㈱斉藤建設　菊川英政・他 2005 『鎌倉城（No. 87）発掘調査報告書　第 2 次調査』㈱斉藤建設　瀬田哲夫 2007

参考文献（表２掲載分以外）

鎌倉市教育委員会・鎌倉国宝館 1969『鎌倉の古絵図Ⅱ』

NPO 法人 鎌倉考古学研究所 2021『佐助地域を学ぶ　資料集』

・松吉大樹「佐助地域の歴史」

・大三輪龍哉「佐助周辺の社寺」

・宮田　眞「佐助ヶ谷地域の発掘調査」

第三章　調査の経過と方法

確認調査の結果により、本地点では地表下 140 ㎝までは表土層であることが判明していた。発掘調査に当たり、この部分は重機で掘削する予定であったが、これによる発生土を敷地内に仮置きする必要があったことから、植栽や重機の搬入経路などの安全面も考慮した結果、調査区は大きく３分割することとした。調査の着手順にⅠ→Ⅱ→Ⅲ区の名称を付した。Ⅰ区については、この方法でも発生土置き場が不足する状況が生じたため、中世遺物包含層の以下ではさらに４分割して人力掘削と記録作業を進め、調査が完了した順に、次なる調査区の掘削発生土で埋め戻して行く方法を取った。このため、Ⅰ区にはＡ～Ｄの４つの細分区名称を付す結果となった（図２）。なお、今回の調査では、安全面への配慮から止むを得ず未調査範囲が生じることとなった。

各区とも、重機掘削後の地表下 140 ㎝より下位は人力による掘削作業に移行し、地表下 250 ㎝の中世基盤層（中世以前の自然堆積層）の上面も含め、大別４枚の中世遺構面を確認した。

各区とも遺構確認面ごとに写真撮影・測量図作成などの記録作業を行った。測量には国家座標系（JGD2011）の基準軸を用い、市道上に打設された都市再生街区多角点 20A97、および同補助点 3A113 の２点間関係を起点とし、開放トラバース測量によって調査地の敷地内に基準点を移設した。標高は街区多角点 20A97（13.049 ｍ）を起点に、光波測距儀で測定を繰り返して現地敷地内まで移設した。

発掘調査は令和２年９月１日に調査区南西側となるⅠ区の表土掘削から着手し、順次Ⅱ・Ⅲ区と掘削～記録作業を進めた結果、12 月 25 日に調査用具を引き上げて現地での作業工程は完了した。

出土品・記録類の整理作業と報告書作成は、令和２年度末～３年度にかけて断続的に、文化財課分室において行った。

第四章　基本土層

本地点の土層堆積状況を、図３・４に示した。現地表面の標高は 13.6 ～ 13.7 ｍ前後で、以下 140 ㎝までは大型の泥岩ブロックを主体とする盛土層（０層）と、それ以前の水田耕作土と思われる暗灰褐色粘質土層（Ⅰ層）が堆積していた。この下位にⅡ層・中世遺物包含層およびⅢ層・中世整地層の堆積が順次確認された。Ⅲ層中には、３枚程度の遺構面を確認できる。地表下 230 ㎝となる標高 11.3 ｍ前後ではごく少量の中世遺物を含むⅣ層が検出され、標高 11.1 ｍ前後では中世基盤層（中世以前の自然堆積層の意、以下同）となるⅤ層・黒褐色粘質土が検出された。Ⅳ層はⅤ層をベースとし近似した見た目であるが、若干軟質で多少の濁りがあることで識別できる。従来、鎌倉の遺跡調査者が「ネチャ」と呼んできたものに相当しよう。Ⅳ層の上面が、中世の遺構面として最も古い４面である。Ⅴ層からの出土遺物は皆無であったことから、鎌倉時代より遡る時期に堆積したものと考えて大過ないだろう。

なお、Ⅳ層とⅤ層についてはプラント･オパールなどの分析を行う目的で土壌サンプルを採取したが、令和３年 12 月時点において、分析は実施中である。

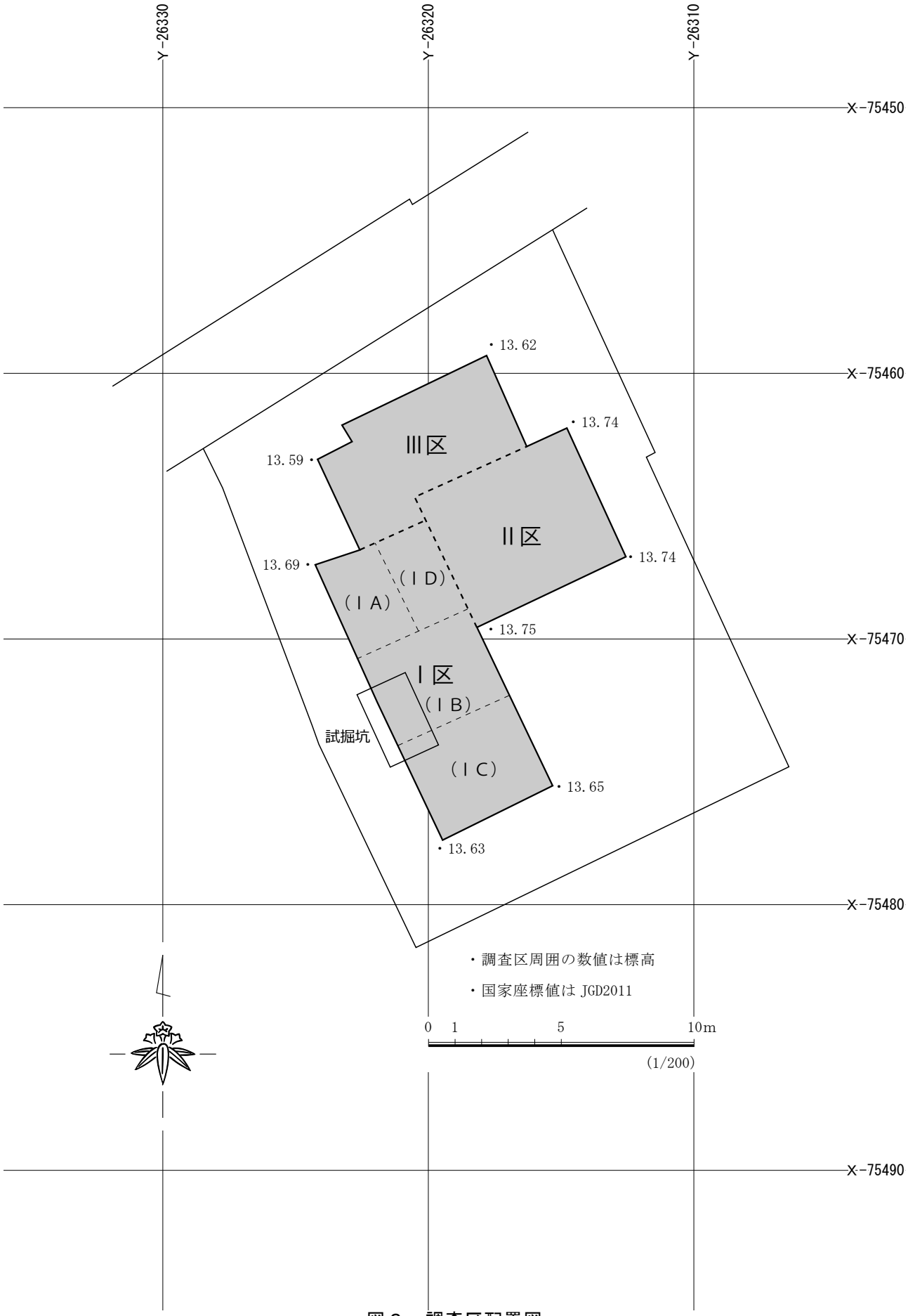

Y-26330
Y-26320
Y-26310
X-75450
X-75460
X-75470
X-75480
X-75490
・13.62
・13.74
13.59・
Ⅲ区
Ⅱ区
13.69・
・13.74
（ⅠD）
（ⅠA）
・13.75
Ⅰ区
（ⅠB）
試掘坑
（ⅠC）
・13.65
・13.63
・調査区周囲の数値は標高
・国家座標値は JGD2011
0 1 5 10m
(1/200)

図２　調査区配置図

第五章　検出遺構と出土遺物

以下、上層から順に、検出遺構と出土遺物について説明して行く。遺物図（図 12 ～ 32）については、トレース時の縮尺率が異なることから、微細な文様をもつ漆器類（図 31・32）とその他（図 12 ～ 30）とで分けて作成した。そのため、同一の層序や遺構から出土した遺物であっても、両者に分かれて掲載してしまっている可能性がある。注意されたい。

第１節　１面の遺構と遺物

表土および中世遺物包含層を除去した後、Ⅱ・Ⅲ区の東部では破砕泥岩を用いた整地面が検出され、この上面を１ａ面とした。これ以西は 30 ㎝ほど下がった平坦面となっており、ここを１ｂ面とした。１ｂ面は１ａ面下にも続いていることから、１ａ面は部分的な貼り増し整地面であったと考えている。

１ａ面の西辺はＮ 40°Ｗで直線状になっており、土留めの護岸材は確認できなかった。上面の標高は 12.3 ～ 12.4 ｍ前後で、長径 60 ～ 70 ㎝、深さ 10 ～ 20㎝ 程度の土坑が 40 ～ 60 ㎝前後の間隔で検出された。一見すると整地面の西辺と同一方向に並んでいるようだが、間隔が一定していないことから、調査範囲内の限りでは建物の柱穴、もしくは礎石の据え方であったのか、判断ができない。整地面西辺に接した１基に凝灰岩の切石（鎌倉石）が、もう１基には安山岩の扁平石（伊豆石）据わっていたが、それ以外の土坑には栗石も含め、礎石を据えた痕跡は残っていなかった。埋土は一様に暗褐色土の単層であることから、廃絶後、まとめて埋め戻された可能性を指摘できる。加えて、浅いすり鉢状を呈する断面形態からは何かを据え並べた状況が推察され、礎石列または埋め甕（据え甕）などが復元案として提示できる。

Ⅱ区１ａ面の南東隅では東西溝（溝１）が検出され、後述する１ｂ面の溝１ｂと同位置にあることから、これに後続して営まれたものと考えている。部分的な検出ながら、上場幅 100 ㎝以上、底面幅 30㎝ 前後で、底面標高は 12.0 ｍ前後を測る。流下方向は不明（おそらく河川のある西だろう）ながらＮ 50°Ｅで延び、整地面の西辺ラインとは直交関係にある。埋土は黒褐色土の単層で、この上層から常滑窯産６ｂ～７型式の甕（広口壺）が正位で出土している（図 12-5）。胴下部より上位が割れて器内に落ち込んでおり、その上部には、人頭大程度の泥岩塊が置かれるように埋まっていた。甕の出土位置や下端レベルには、上述した土坑列とも近似した要素が見られることから、この部分に溝を切って構築された据え甕土坑があった可能性も考えられる。その場合、図３最下段の断面図Ｈ－Ｉ間における９層について、右（西）側の立ち上がり線を見落としてしまったおそれがある。この他、７型式期の常滑甕口縁部片も出土しているので、本遺構には 13 世紀後半～ 14 世紀前半に存続→廃絶という年代観が付与できよう。

１ａ面は泥岩を細かく砕いて丁寧に築成・整地されており、下層の１ｂ面築成土とは明らかに異なるものであった。上述した状況を総合すると、１ａ面は１ｂ面の存続期間中、部分的に増設された基壇状整地面で、ここに礎石建物ないし据え甕などの施設を構え、一段低い西側平坦面とは違った役割を担う空間であったと推察できる。

１ｂ面は標高 12.2 ｍ～ 11.9 ｍ前後で確認し、佐助川のある南西側に向けて低くなる。全体に１ａ面より粗い整地面であるが、Ｉ区中央部（Ｉｂ区）の周辺など、一部エリアで細かい泥岩粒を用いた丁寧

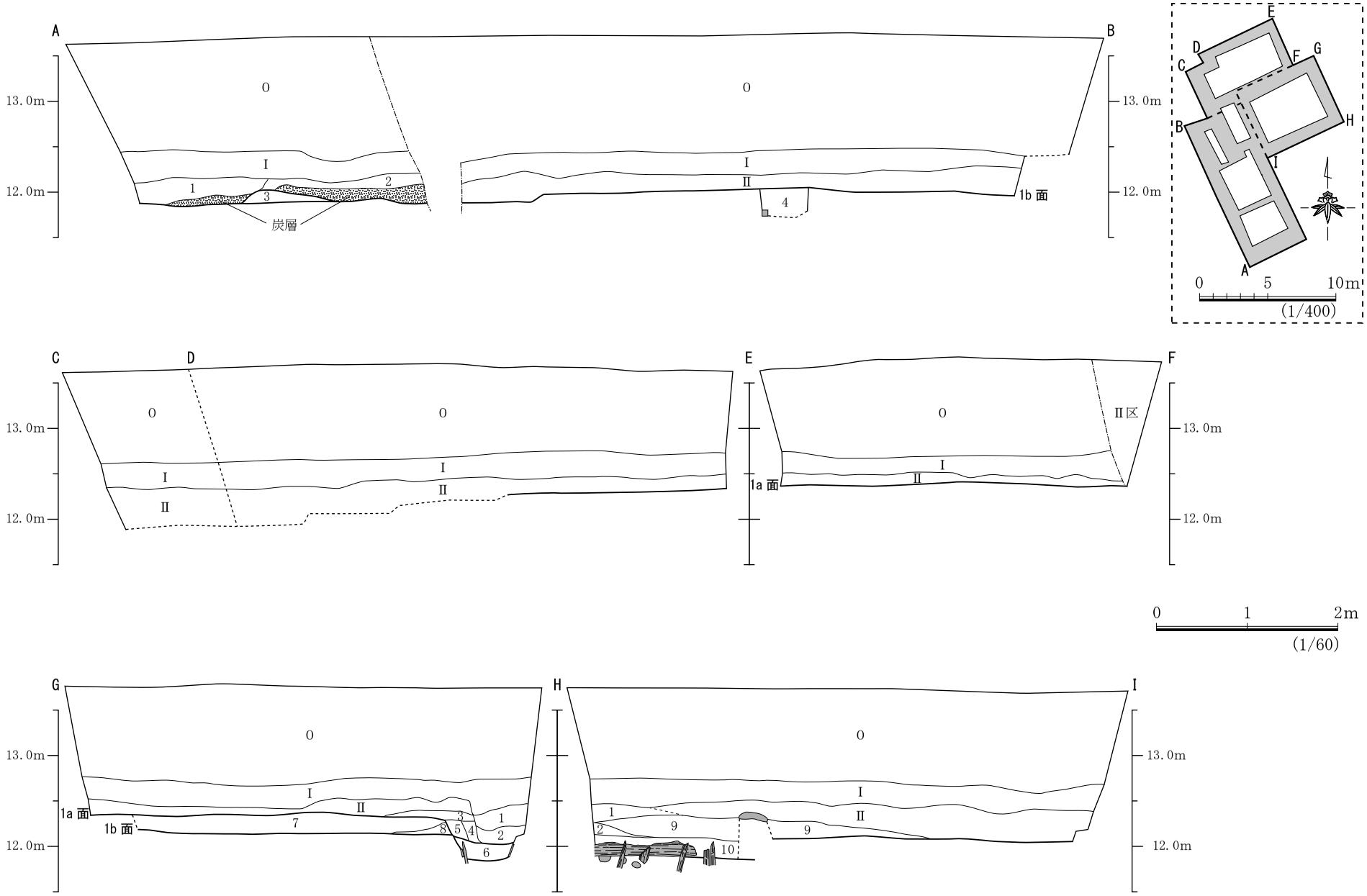


図３　土層断面図（表土～１面）

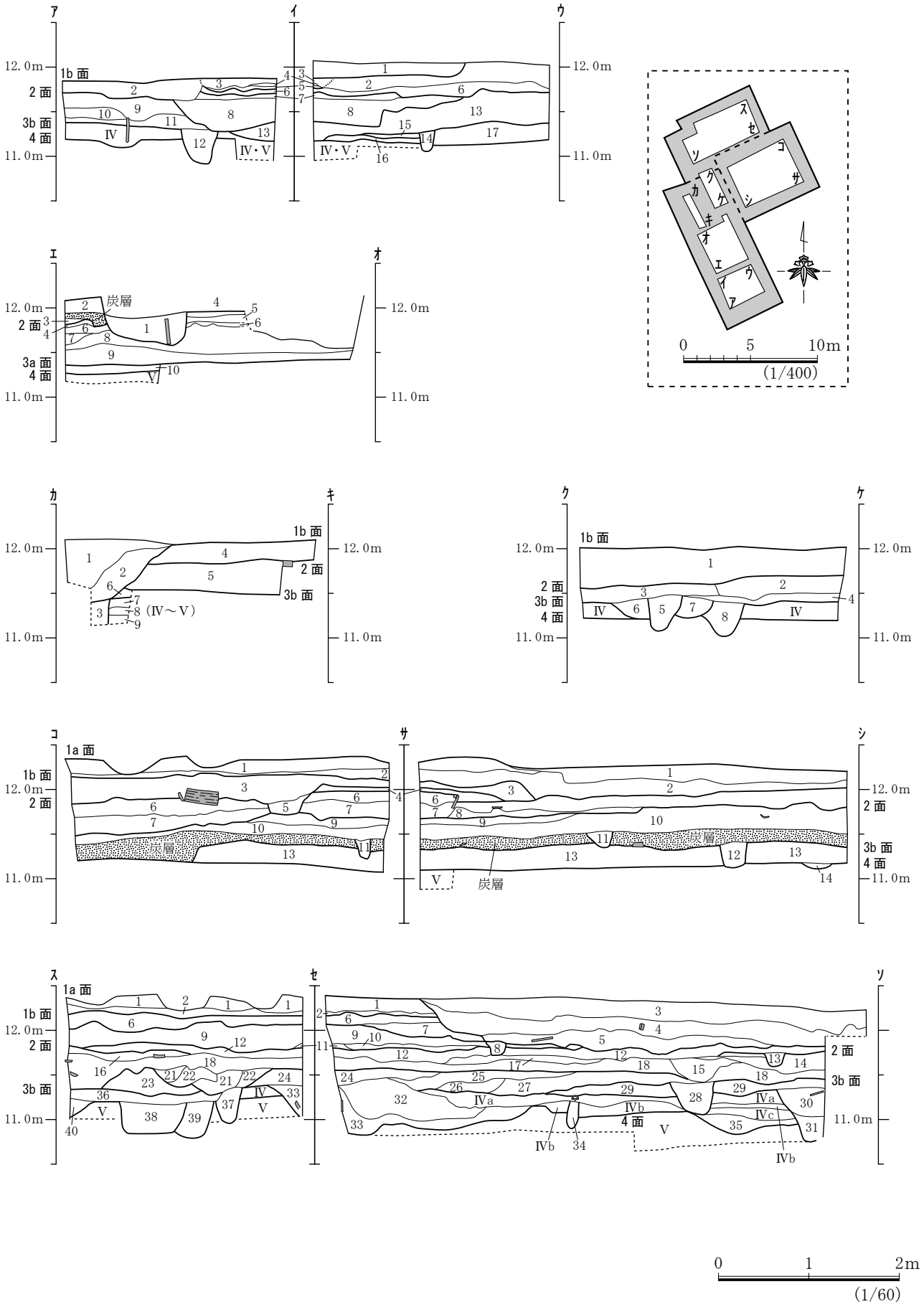


図４　土層断面図（１面以下）

土層説明（図３・４に対応）

基本土層（各図共通）

Ｏ．明黄褐色土　泥岩ブロック主体。
現代の盛土。
Ⅰ．暗灰褐色土　粘質土。
近現代の水田耕土か。
Ⅱ．暗褐色土　中世遺物包含層。
Ⅲ．中世整地層・遺構埋土・遺物包含層。
Ⅳ．黒褐色土　粘質土。中世遺物をわずかに包含。「ネチャ」。
Ⅳa．黒色土　粘質土。
Ⅳb．黒灰色土　粘質土。
Ⅳc．暗灰色土　粘質土。
Ⅴ．黒褐色土　締まり強い粘質土。
中世基盤層。

A-B

1. 赤褐色土　焼けた泥岩粒主体。
2. 赤褐色土　焼土。
3. 灰色土　粘質土主体で泥岩粒含む。
4. 黄灰色土　泥岩粒多く硬い。
1b 面築成土。

G-H-I

1. 暗灰色土　泥岩粒多い。
2. 暗灰色土　粘質土。
3. 黒褐色土　炭粒多い。
4. 暗灰色土　粘質土。
5. 暗灰色土　粘質土。泥岩粒少量。
6. 黒灰色土　粘質土＋砂質土。
7. 黄灰色土　泥岩粒主体。1a 面築成土。
8. 暗灰色土　粘質土。
9. 暗灰色土　泥岩粒・ブロック多い。
10. 黄褐色土　泥岩粒主体。
1b 面築成土か。

ｱ－ｲ－ｳ

1. 赤褐色土　炭粒・スラグ多い。
2. 黄灰色土　泥岩粒主体。1b 面築成土。

4. 黒褐色土　粘質土。
5. 灰色土　粘質土。
6. 黒褐色土　粘質土。締まり強い。
7. 黄灰色土　泥岩粒主体。
8. 暗褐色土　有機質腐植土（マグソ）＋炭粒。
9. 黄灰色土　泥岩ブロック主体。
10. 灰黒色土　粘性ややあり。
11. 灰黒色土　粘質土。
12. 褐色土　粘質土。
13. 暗褐色土　有機質腐植土（マグソ）＋炭粒。泥岩粒少量。
14. 褐色土　粘質土。
15. 黒灰色土　粘質土。
16. 灰色土　泥岩粒主体。3b 面築成土。
17. 灰黒色土　ほぼ無遺物層。Ⅳ層に準じるか。

ｴ－ｵ

1. 暗灰色土　粘質土。締まり弱い。
2. 暗褐色土　やや焼けている。
3. 灰色土　粘質土。
4. 黄灰色土　泥岩粒主体。1b 面築成土。
5. 暗褐色土　粘質土。
6. 黒褐色土　粘質土。締まり強い。
7. 暗青灰色土　泥岩粒多い。
8. 暗青灰色土
9. 青灰色土　泥岩粒主体。3b 面築成土。
10. 黒灰色土　Ⅳ層上面にごく薄い泥岩整地層。

ｶ－ｷ

1. 黄灰色土　泥岩ブロック主体。
2. 黒褐色土　泥岩粒少量。
3. 暗褐色土　有機質腐植土（マグソ）。
4. 暗褐色土　泥岩粒多い。
5. 黒褐色土　泥岩粒やや多い。
6. 青灰色土　泥岩粒主体。3b 面築成土。
7. 黒色土　粘質土。Ⅳ層か。
8. 暗青灰色土　泥岩粒多い。Ⅴ層に準じるか。
9. 黒色土　粘質土。Ⅴ層に準じるか。

ｸ－ｹ

1. 黒褐色土　泥岩ブロック多い。
2. 黒褐色土　泥岩粒多い。
3. 暗褐色土　有機質腐植土（マグソ）＋泥岩粒。
4. 暗褐色土　有機質腐植土（マグソ）。
5. 黒褐色土　泥岩粒多い。
6. 黒褐色土　泥岩ブロック多い。
7. 黒褐色土　泥岩粒多い。
8. 黒色土　粘質土。

ｺ－ｻ－ｼ

1. 黄灰色土　泥岩粒主体 1a 面築成土。
2. 暗褐色土　締まり弱い。
3. 暗褐色土　泥岩粒多い。
4. 黄灰色土　泥岩粒主体。
5. 暗褐色土　締まり弱い。
6. 黄灰色土　泥岩粒主体。
7. 暗褐色土　泥岩粒多い。
8. 暗褐色土　有機質腐植土（マグソ）。
9. 黄灰色土　泥岩粒主体。
10. 暗褐色土　泥岩粒多い。
11. 暗褐色土　締まり弱い。
12. 暗褐色土　締まり弱い。
13. 青灰色土　泥岩粒主体。3b 面築成土。
14. 黒色土　粘質土。Ⅳ層に準じるか。

ｽ－ｾ－ｿ

1. 黄灰色土　泥岩粒主体。1a 面築成土。
2. 黒褐色土　締まり強い。
3. 暗褐色土　泥岩粒多い。
4. 暗褐色土
5. 暗褐色土
6. 黄灰色土　泥岩粒主体。1b 面築成土。
7. 暗褐色土
8. 暗灰色土
9. 暗黄灰色土　泥岩ブロック多い。
10. 暗褐色土　粘質土。有機質腐植土（マグソ）多い。
11. 黄灰色土　泥岩ブロック主体。
12. 暗褐色土　泥岩ブロック多い。
13. 黒褐色土　粘質土。
14. 暗褐色土　泥岩ブロック多い。
15. 黒褐色土　粘質土。
16. 暗褐色土　泥岩ブロック多い。
17. 暗褐色土　粘質土。有機質腐植土（マグソ）多い。
18. 暗褐色土　有機質腐植土（マグソ）主体。
19. 暗灰色土　粘質土。
20. 暗褐色土　粘質土。
21. 暗褐色土　泥岩ブロック多い。
22. 暗褐色土　泥岩粒多い。
23. 灰褐色土
24. 黒褐色土　泥岩粒多い。
25. 黒褐色土　泥岩粒多い。
26. 黒灰色土　粘質土。Ⅳ層に近似。
27. 黒褐色土　泥岩ブロック多い。
28. 黒褐色土
29. 灰色土　泥岩ブロック主体。
30. 黒褐色土
31. 黒褐色土　粘質土。
32. 黒褐色土　粘質土。貝殻片少量。
33. 黒褐色土　粘質土。泥岩粒少量。
34. 黒色土　粘質土。灰白色微粒多い。
35. 黒色土　粘質土。泥岩粒多い。
36. 青灰色土　泥岩粒主体。3b 面築成土。
37. 黒褐色土　粘質土。
38. 黒褐色土　粘質土。
39. 黒褐色土　粘質土。泥岩粒少量。
40. 黒褐色土　粘質土。泥岩粒多い。

な整地面も見て取れた。

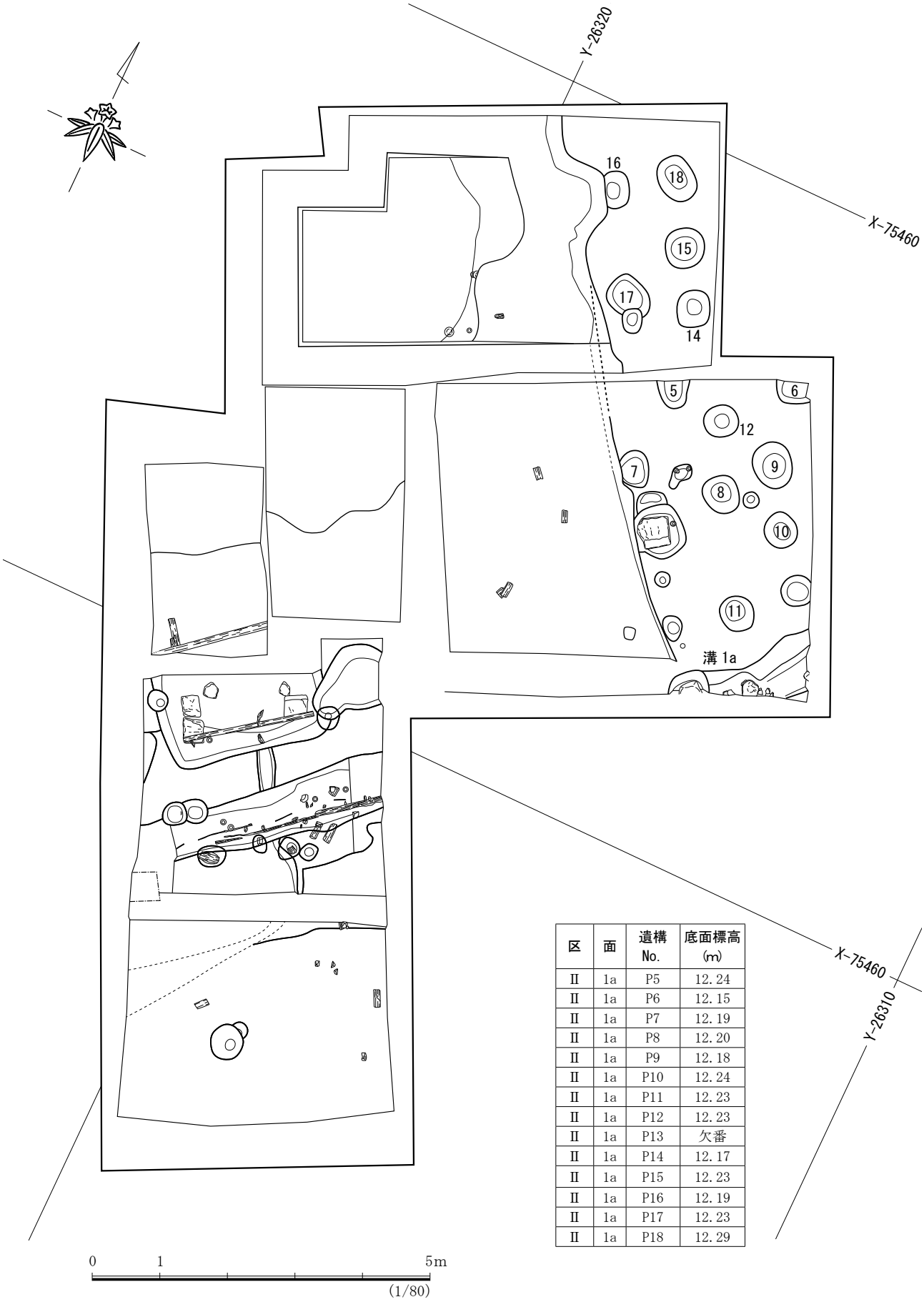
Ⅰ区北部（ＩＡ・ＩＢ区）の１ｂ面上では、比較的丁寧な整地面を掘り込んだ東西溝と小規模な竪穴建物、土坑などの遺構が検出された。東西溝（溝１ｂ）は東部１ａ面の溝１に先行する時期のもので、Ⅱ区の南東隅に向けて延びている。Ｎ 50°Ｅで延び、上幅が 60 ～ 80 ㎝、底面幅は 20 ～ 30㎝を測る。確認面からの深さは 20 ～ 30㎝を測り、底面標高は 11.67 ～ 11.85 ｍで僅かにⅡ区側が高いことから、西方の佐助川旧流路に向けて流下させる溝であったと推察している。南岸には横板を打ち込み杭で抑えただけの簡素な護岸施設が残り、その北側にも、横板こそなかったものの打ち込み杭は散見されたため、本来は南北の両岸に護岸材を設置していたものと考えている。ＩＢ区の溝１ｂでは、底面付近の埋土中から完形か、それに準じるロクロかわらけが少量出土している（図 12 下段）。破損品である瀬戸窯産の卸皿（15）は前Ⅲ期の製品と見なせることから、完形かわらけには、その生産時期＝ 13 世紀後半より下る年代観を与えて良いだろう。

竪穴１は溝１ｂの北辺から 80 ㎝ほど北に位置する。ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ区に跨って検出され、その結果、未調査部分が生じてしまったこともあり、遺構の全体像を把握することができなかった。ＩＢ区で確認したところでは東西 2.5 ｍ程度の掘方規模を有し、そのラインは溝１ｂと同じＮ 50°Ｅ前後であった。確認面の標高は 12.0 ｍ前後で、掘方底面の標高は 11.4 ｍ前後を測る。南辺の底面上には凝灰岩の切石が置かれ、その上に長さ２ｍ弱、一辺８㎝の角材が置かれていた。南辺に沿って置かれており、角材上端の標高は 11.8 ｍ前後である。ここから 1.5 ｍほど北に離れた位置にも同じ規模・レベルの角材が据わっており、両者は一対で上屋構造物の土台となっていた可能性が考えられる。北側の角材下には、切石は据わっていなかった。掘方北辺は明確には確認できていないが､両角材の位置を基に反転すると、南北 2.2 ｍ前後の平面規模に復元できるものと考えている。主たる用途が半地下式の倉庫と考えられている竪穴建物としては小規模かつ簡素な構造であるが、形態の類似性から、収納目的の施設であったと考えておきたい。竪穴１の南辺と溝１ｂの北辺は上幅 25 ㎝、深さ３㎝程度の溝２で繋がっているが、人為的に営まれたものであるかは定かでない。出土遺物は、図 13 の上段に掲げた。鉄製品 21 は欠損のため不確実だが、火打ち金ではないかと判断した。ＩＢ区１ｂ面上の堆積土からは、２㎝角ほどの備前すり鉢片が多く出土している（写真図版 21 の右下隅）。

Ⅰ区南端部（ＩＣ区）の１ｂ面直上には厚さ 20㎝ほどの炭層が堆積し、同層およびその上部包含層からは焼けた泥岩塊や焼土とともに鉄滓や鞴羽口（土製送風管）が大量に出土している。炭層直下には灰色粘質土層が５～ 10㎝の厚さで堆積し、これらはなだらかな落ち込み上に堆積していることから、ここに竪穴２の名称を付した。土層断面の観察から、溝１ｂに切られることが判明している。検出状況としては不明瞭であったが、この一帯に精錬もしくは鍛冶工程にともなう炉が存在し、使用後は故意に破壊された可能性を窺わせる状況であった。鉄滓は７㎏強、鞴羽口は４㎏ほどの重量に上り（表３）、後者のうち比較的残りの良いものは１点 400g 強を量ることから（表４）、少なくとも 10 点程度を採集できた計算になる。これら一連の堆積層はＩＢ区南端～ＩＣ区北部の西外に広がるため、さらに多くの鉄滓・鞴羽口が地中に遺存している可能性が高い。ここからの出土遺物は、図 13 の下段に掲示した。鞴羽口の他、常滑甕片の転用研磨具（30）などが出土している。

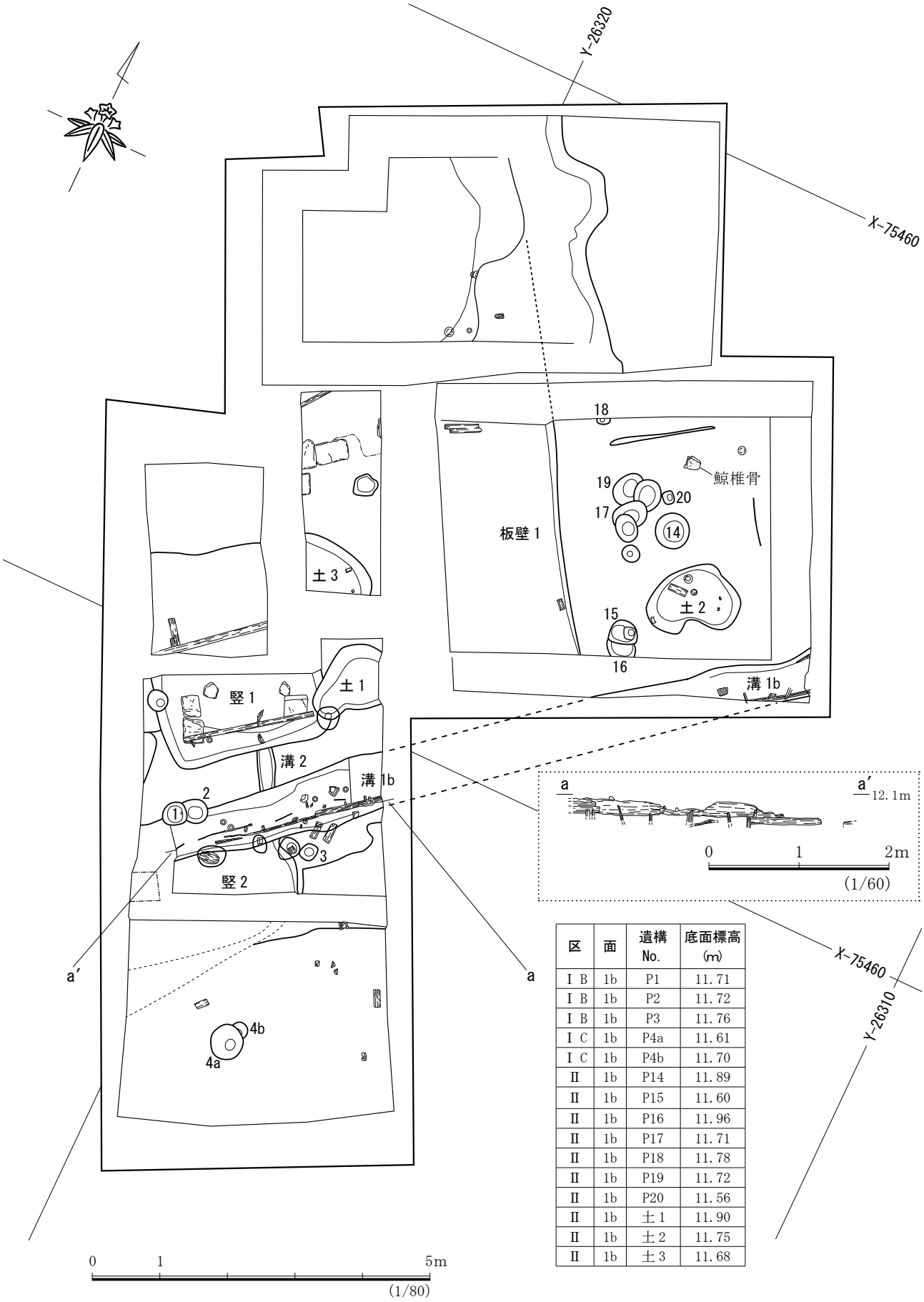
Ⅱ区１ｂ面の土坑２からは、全面が黒色系漆塗りで蓮花形の灯明台座（図 31-484）が出土している。

Ⅱ・Ⅲ区の西部の整地面は東側より５～ 10㎝の差で一段低くなっており、この境目部分では横板を杭で抑えただけの木組み護岸の痕跡が辛うじて遺存していた。板壁１の呼称を付したが、建物の部材であるのか、簡便な区画施設であるかの断定はできなかった。板壁１の西側整地面は、東側よりやや丁寧



区	面	遺構 No.	底面標高 (m)
Ⅱ	1a	P5	12.24
Ⅱ	1a	P6	12.15
Ⅱ	1a	P7	12.19
Ⅱ	1a	P8	12.20
Ⅱ	1a	P9	12.18
Ⅱ	1a	P10	12.24
Ⅱ	1a	P11	12.23
Ⅱ	1a	P12	12.23
Ⅱ	1a	P13	欠番
Ⅱ	1a	P14	12.17
Ⅱ	1a	P15	12.23
Ⅱ	1a	P16	12.19
Ⅱ	1a	P17	12.23
Ⅱ	1a	P18	12.29

図５　１ａ面全体図



区	面	遺構No.	底面標高(m)
ⅠB	1b	P1	11.71
ⅠB	1b	P2	11.72
ⅠB	1b	P3	11.76
ⅠC	1b	P4a	11.61
ⅠC	1b	P4b	11.70
Ⅱ	1b	P14	11.89
Ⅱ	1b	P15	11.60
Ⅱ	1b	P16	11.96
Ⅱ	1b	P17	11.71
Ⅱ	1b	P18	11.78
Ⅱ	1b	P19	11.72
Ⅱ	1b	P20	11.56
Ⅱ	1b	土1	11.90
Ⅱ	1b	土2	11.75
Ⅱ	1b	土3	11.68

図６　１ｂ面全体図

な印象を受けたので、ここを境に空間構成が異なっていた可能性が推察できる。上層１ａ面の泥岩盛土へと踏襲される前身施設であったかもしれない。板壁１以西の出土遺物は、図 14-39 にロクロかわらけの小皿１点を示した。

この他、Ⅱ区の１ｂ面上では、大型哺乳類（鯨か）の未加工椎骨が出土している（写真図版８－５）。

第２節　２面の遺構と遺物

標高 11.6 ～ 11.9 ｍで検出された、やや弱い泥岩整地面を２面とした。１ｂ面との間に、中世基盤層に近似した黒色粘質土の薄層が堆積していた。各区、細切れ状態で確認したため、検出レベルに若干のバラツキはあったが、北西側がやや高い傾向にあった。面上では小規模な溝、ピットなどが検出された。

溝１はＩＣ区～Ⅱ区南東部に続き、１ｂ面の溝１ｂと同じ位置・方向（Ｎ 51°Ｅ）にあることから、この前身遺構と判断できる。上幅は最大でも 50cm 程度、深さ 10 ～ 15cm と小規模なもので、護岸施設の痕跡は確認できなかった。底面レベルは、検出東端部で 11.75 ｍ、西端部で 11.67 ｍを測る。埋土中の出土遺物を、図 14-40 ～ 42 に示した。ロクロかわらけで、41・42 は下層（底面付近）からの出土である。

溝２はＩＢ～ＩＣ区にかけて検出された。ＩＢ区では溝１の南側に同方向で延び、やや弧を描きつつ南に曲がり、ＩＣ区で南への落ち込みに切られて消失する。底面レベルは 11.71 ｍでほぼ一定しており、確認面からの深さはＩＢ区で５～ 10cm、ＩＣ区で２～５㎝と、わずかな窪みに過ぎない。小規模かつ区画性を見出しにくい平面形態ゆえに、どのような機能を託されて構築されたものか、判断が難しい。

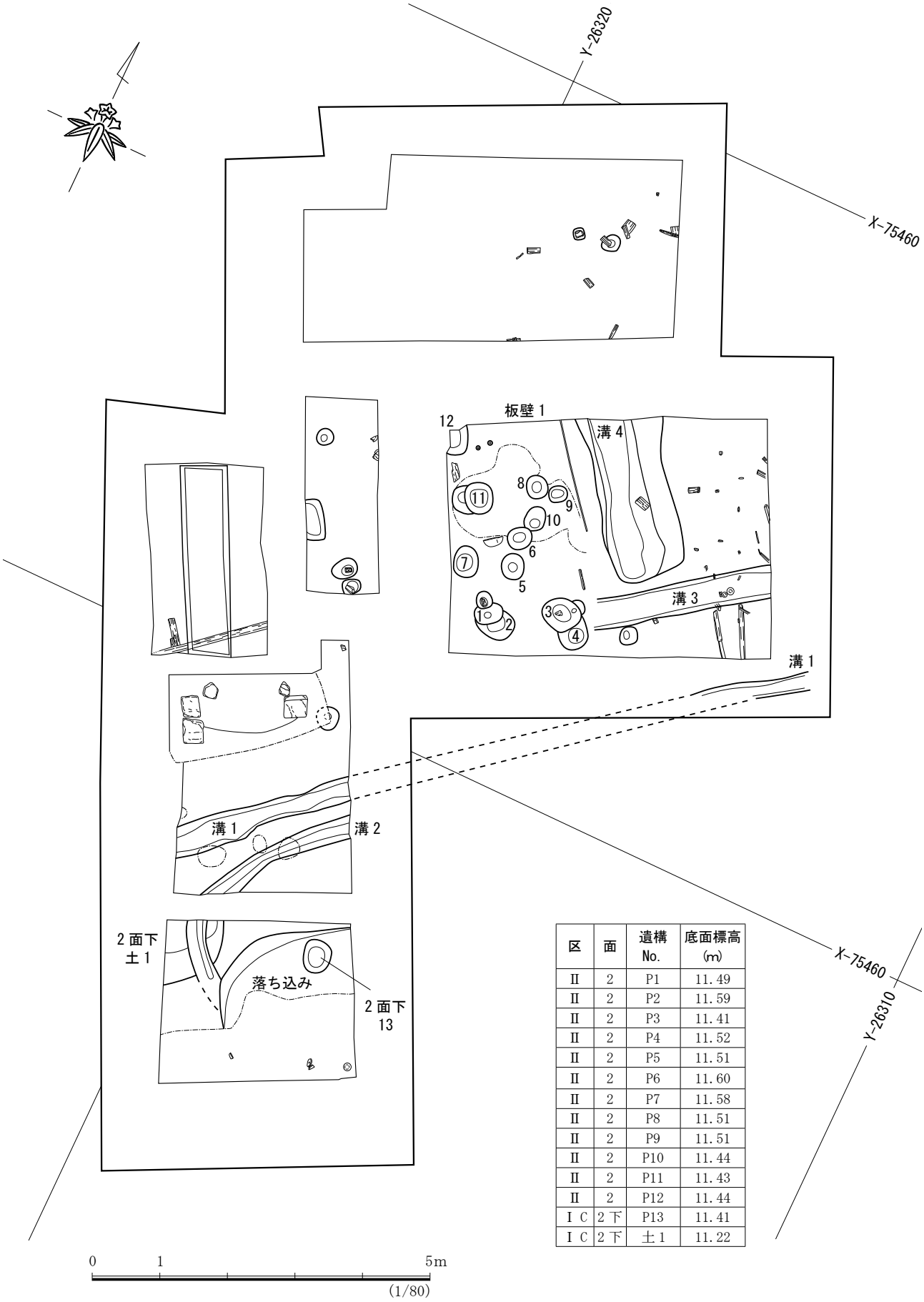
溝１・２付近では整地面が不明瞭で、浅い窪み状に黒色粘質土がやや厚く堆積していた。明確な遺構としては扱わず、２面直上の落ち込みとした。この埋土中からの出土遺物は、図 14-43 ～ 47 に示した。

溝３はⅡ区南東部で検出された。Ｎ 54°Ｅ前後で延び、概ね溝１と同じ方向軸といって良い。Ⅱ区の西半部で立ち消えとなっており、底面標高は検出西端部で 11.75 ｍ、東端部で 11.70 ｍを測る。上幅 50cm、底面幅は 25cm 程度で、確認面からの深さは 10 ～ 15cm と浅い。規模・構造や底面標高を見ても排水施設とは考えにくく、空間を仕切る区画機能を担ったものと推察している。ここからの出土遺物は、図 14-48・49 に示した。ともにロクロかわらけである。

溝４はⅡ区の北部、溝３の北側で検出された。Ｎ 37°Ｗ前後の方向軸を示し、溝１・３と直交する。溝３とは接続せず、北側手前で浅くなって途切れる。Ⅱ区の北外へと続くがⅢ区では検出されていないので、長さは3.5ｍ以下となろう。溝というより、土坑と呼ぶ方が適当かもしれない。上幅は最大で120㎝、底面幅は 50 ㎝前後を測り、確認面からの深さは 25 ㎝ほどである。東岸はなだらかな落ち込みを呈し、埋土は有機質腐植土（マグソ）が主体であった。掲図の位置が離れたが、埋土から図 24-312 が出土した。

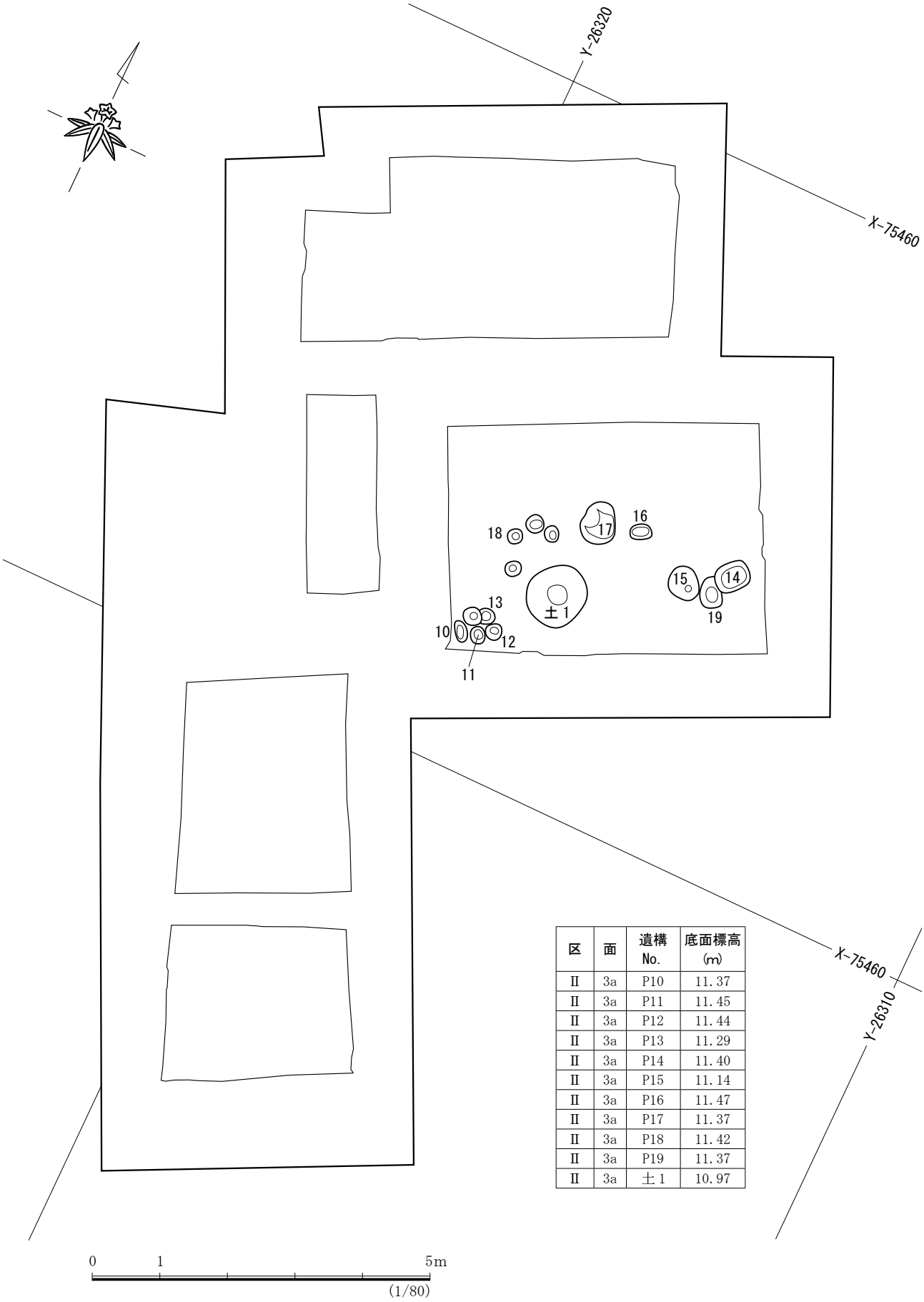
板壁１はⅡ区の西部、溝４の西側に沿う形で検出された。厚さ２㎝、幅９㎝の横板で、Ⅱ区の北外に続くため全長は定かでないが、検出できた限りでは約 170 ㎝を測り、Ⅲ区の延長部分では検出されていないので 290 ㎝を超えない。Ｎ 40°Ｗで延び、溝４と概ね同方向軸といって良い。横板のみの検出であり、これを固定するための杭は確認できなかった。ここより西側は 10cm ほど低く、比較的丁寧に仕上げられた泥岩整地面（土間状硬化面）が広がっていたことから、建物内の空間を仕切るとともに、段差が崩れないための補強材、といった用途が想定できようか。土間状硬化面上では深さ 10 ～ 20cm の小規模なピットが散見されたが、調査した範囲では柱穴列をなすものか、確認できなかった。

Ⅲ区の遺構は非常に希薄で、小穴２基に、板片が散在するのみであった。土間状遺構上の出土遺物は、



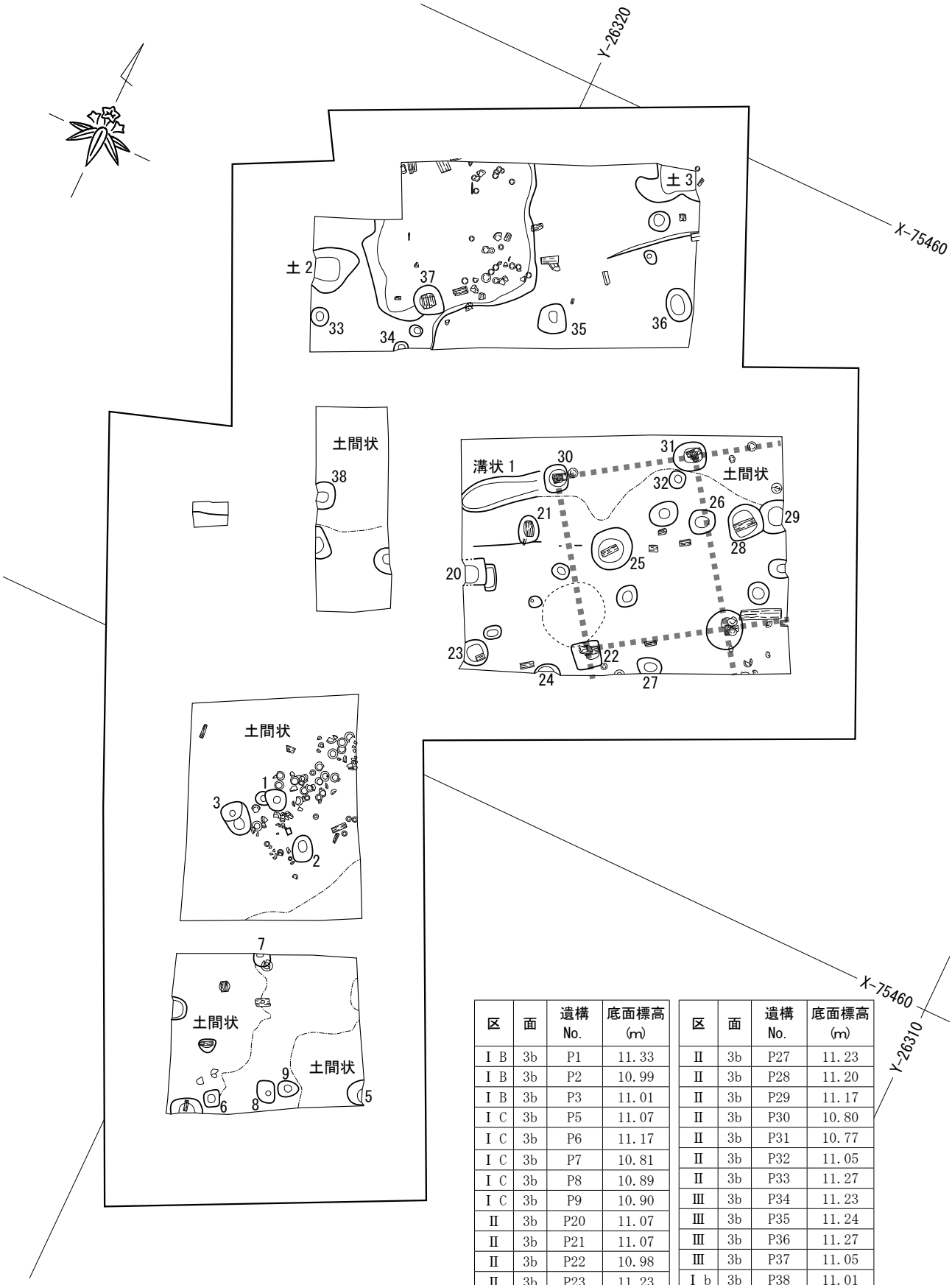
区	面	遺構 No.	底面標高 (m)
Ⅱ	2	P1	11.49
Ⅱ	2	P2	11.59
Ⅱ	2	P3	11.41
Ⅱ	2	P4	11.52
Ⅱ	2	P5	11.51
Ⅱ	2	P6	11.60
Ⅱ	2	P7	11.58
Ⅱ	2	P8	11.51
Ⅱ	2	P9	11.51
Ⅱ	2	P10	11.44
Ⅱ	2	P11	11.43
Ⅱ	2	P12	11.44
ⅠC	2下	P13	11.41
ⅠC	2下	土1	11.22

図７　２面全体図



区	面	遺構No.	底面標高(m)
Ⅱ	3a	P10	11.37
Ⅱ	3a	P11	11.45
Ⅱ	3a	P12	11.44
Ⅱ	3a	P13	11.29
Ⅱ	3a	P14	11.40
Ⅱ	3a	P15	11.14
Ⅱ	3a	P16	11.47
Ⅱ	3a	P17	11.37
Ⅱ	3a	P18	11.42
Ⅱ	3a	P19	11.37
Ⅱ	3a	土1	10.97

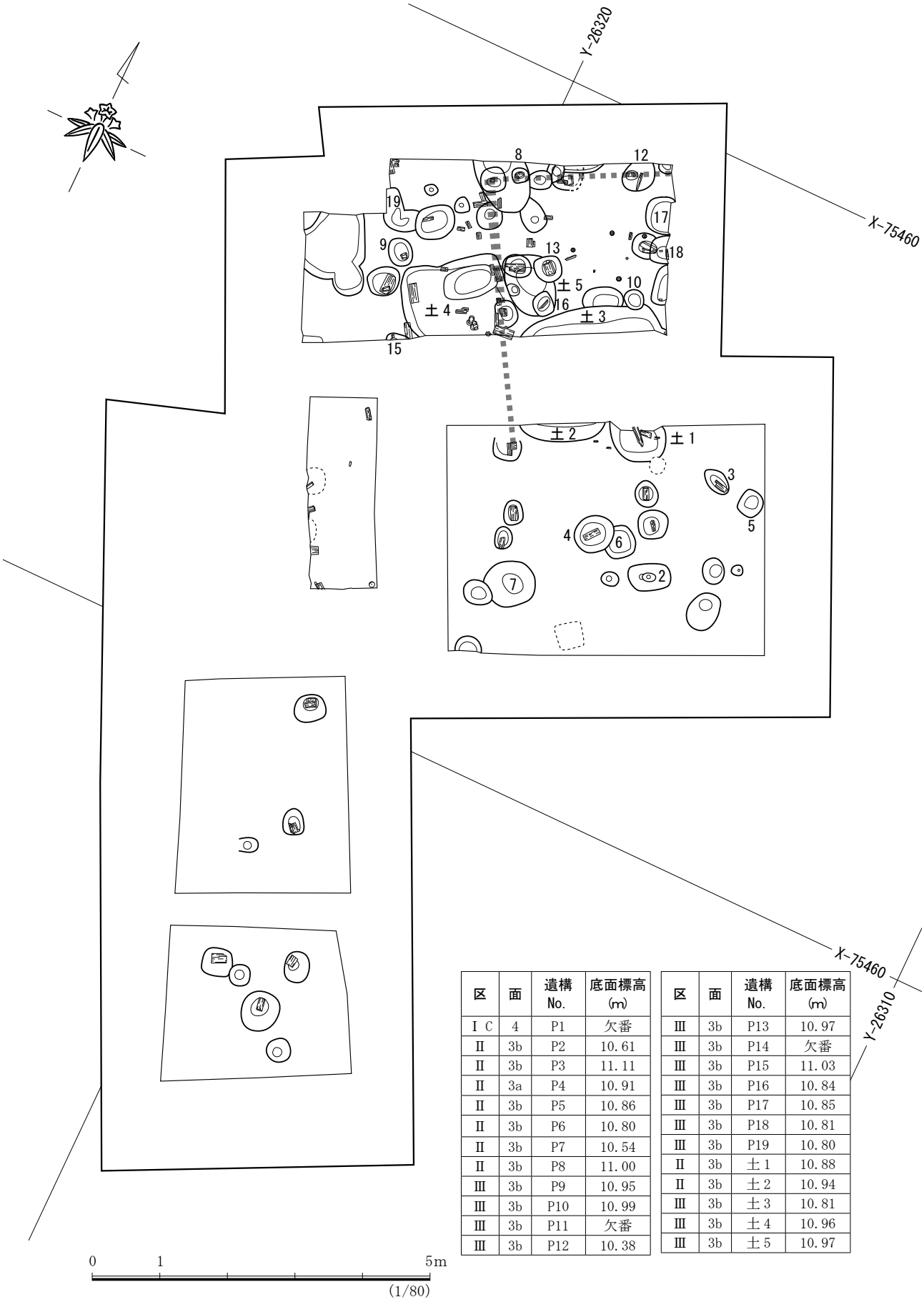
図８　３ａ面全体図



区	面	遺構No.	底面標高(m)
ⅠB	3b	P1	11.33
ⅠB	3b	P2	10.99
ⅠB	3b	P3	11.01
ⅠC	3b	P5	11.07
ⅠC	3b	P6	11.17
ⅠC	3b	P7	10.81
ⅠC	3b	P8	10.89
ⅠC	3b	P9	10.90
Ⅱ	3b	P20	11.07
Ⅱ	3b	P21	11.07
Ⅱ	3b	P22	10.98
Ⅱ	3b	P23	11.23
Ⅱ	3b	P24	11.09
Ⅱ	3b	P25	11.01
Ⅱ	3b	P26	11.15

区	面	遺構No.	底面標高(m)
Ⅱ	3b	P27	11.23
Ⅱ	3b	P28	11.20
Ⅱ	3b	P29	11.17
Ⅱ	3b	P30	10.80
Ⅱ	3b	P31	10.77
Ⅱ	3b	P32	11.05
Ⅱ	3b	P33	11.27
Ⅲ	3b	P34	11.23
Ⅲ	3b	P35	11.24
Ⅲ	3b	P36	11.27
Ⅲ	3b	P37	11.05
Ⅰb	3b	P38	11.01
Ⅱ	3b	溝状1	11.27
Ⅲ	3b	土2	11.34
Ⅲ	3b	土3	11.32

図９　３ｂ面全体図



区	面	遺構No.	底面標高(m)
ⅠC	4	P1	欠番
Ⅱ	3b	P2	10.61
Ⅱ	3b	P3	11.11
Ⅱ	3a	P4	10.91
Ⅱ	3b	P5	10.86
Ⅱ	3b	P6	10.80
Ⅱ	3b	P7	10.54
Ⅱ	3b	P8	11.00
Ⅲ	3b	P9	10.95
Ⅲ	3b	P10	10.99
Ⅲ	3b	P11	欠番
Ⅲ	3b	P12	10.38

区	面	遺構No.	底面標高(m)
Ⅲ	3b	P13	10.97
Ⅲ	3b	P14	欠番
Ⅲ	3b	P15	11.03
Ⅲ	3b	P16	10.84
Ⅲ	3b	P17	10.85
Ⅲ	3b	P18	10.81
Ⅲ	3b	P19	10.80
Ⅱ	3b	土1	10.88
Ⅱ	3b	土2	10.94
Ⅲ	3b	土3	10.81
Ⅲ	3b	土4	10.96
Ⅲ	3b	土5	10.97

図10　4面全体図

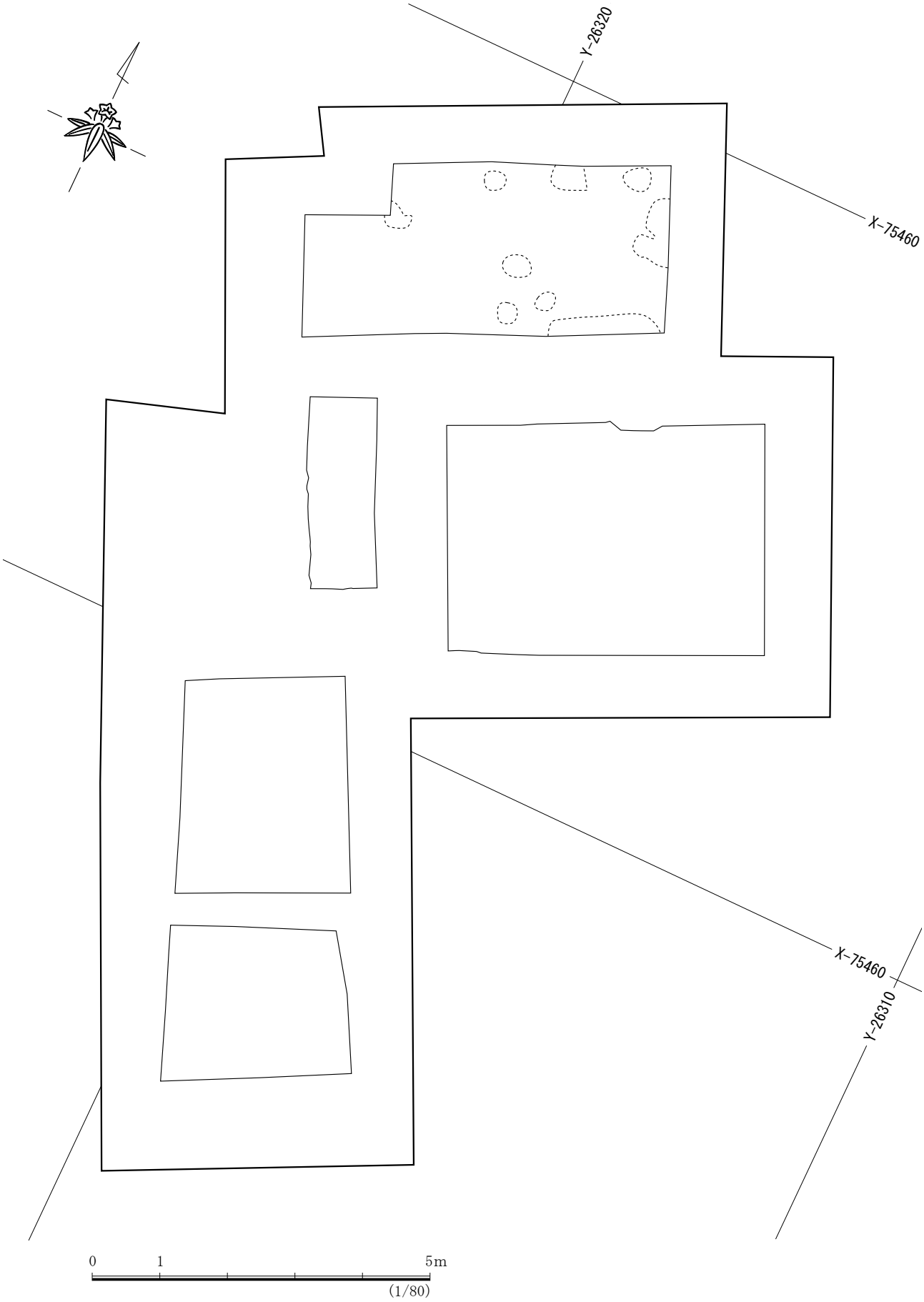


図 11　４面下全体図

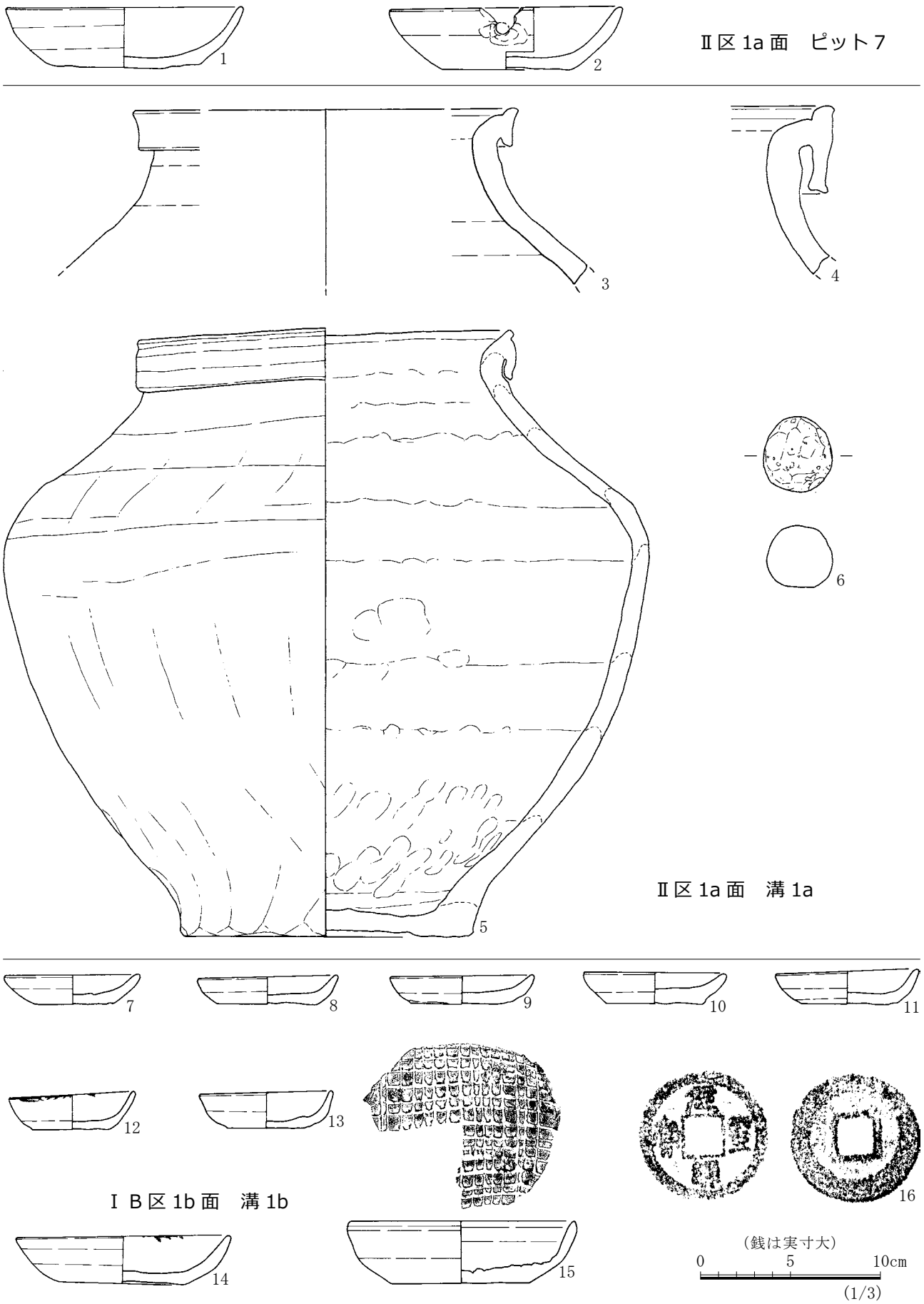
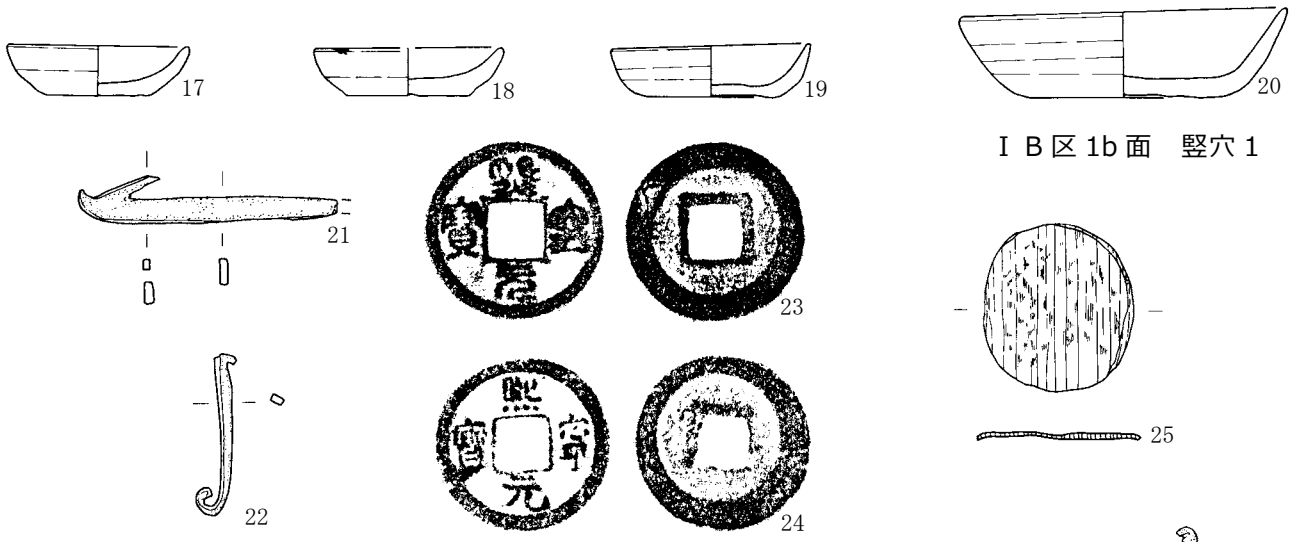
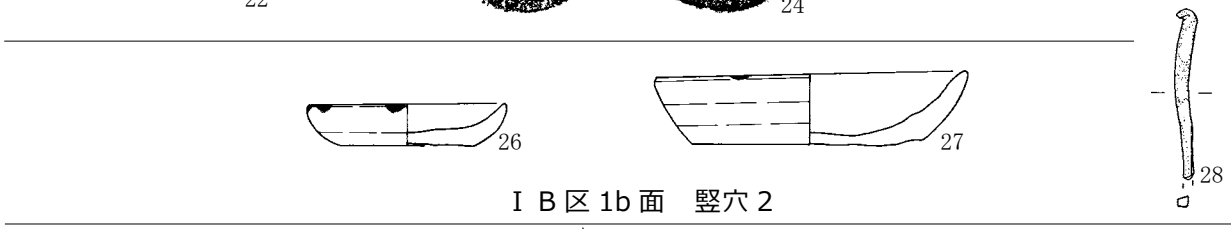


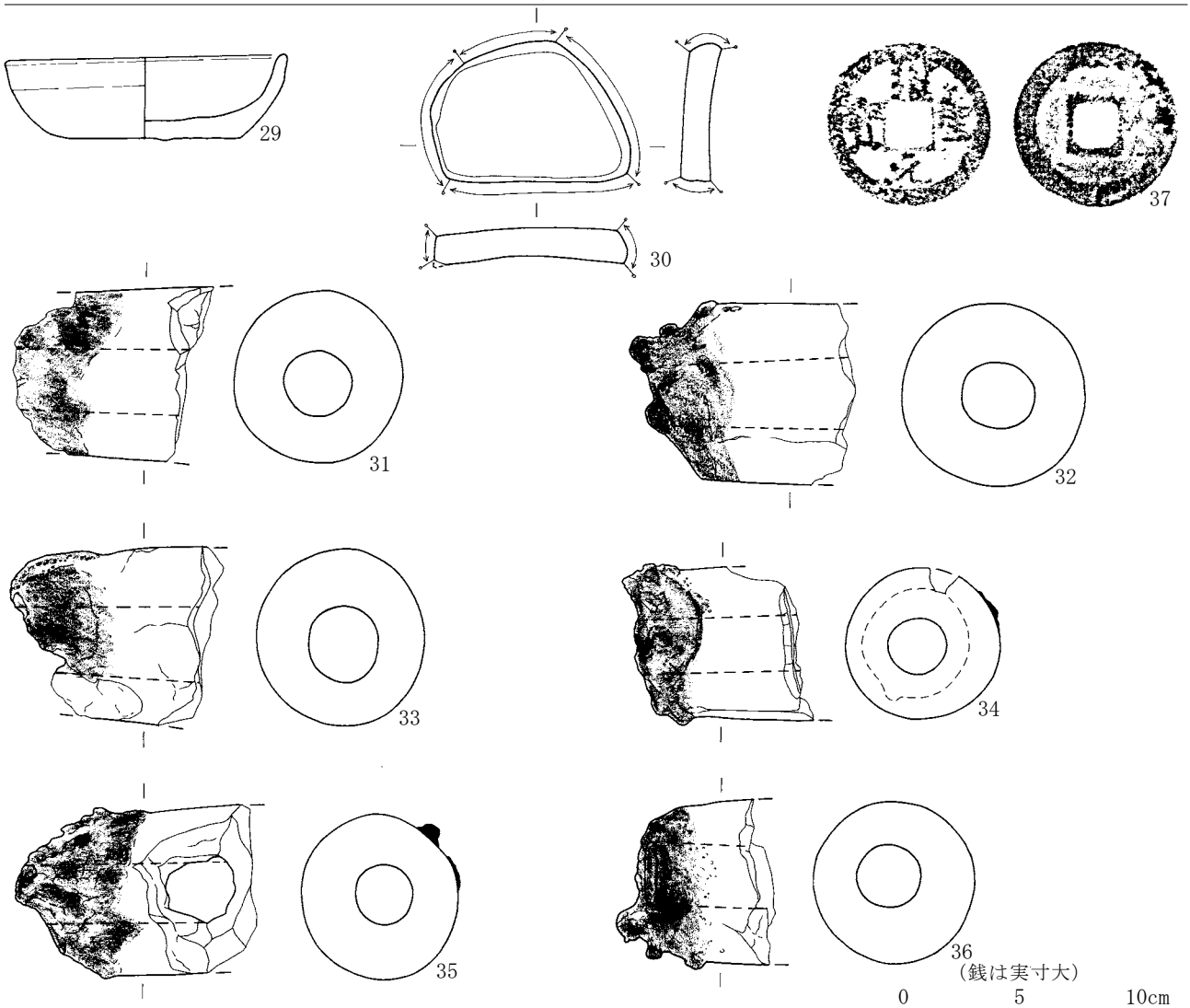
図 12　出土遺物（1）



Ⅰ B 区 1b 面　竪穴 1



Ⅰ B 区 1b 面　竪穴 2



（銭は実寸大）

0　5　10cm

(1/3)

Ⅰ C 区 1b 面直上　炭層

図 13　出土遺物（２）

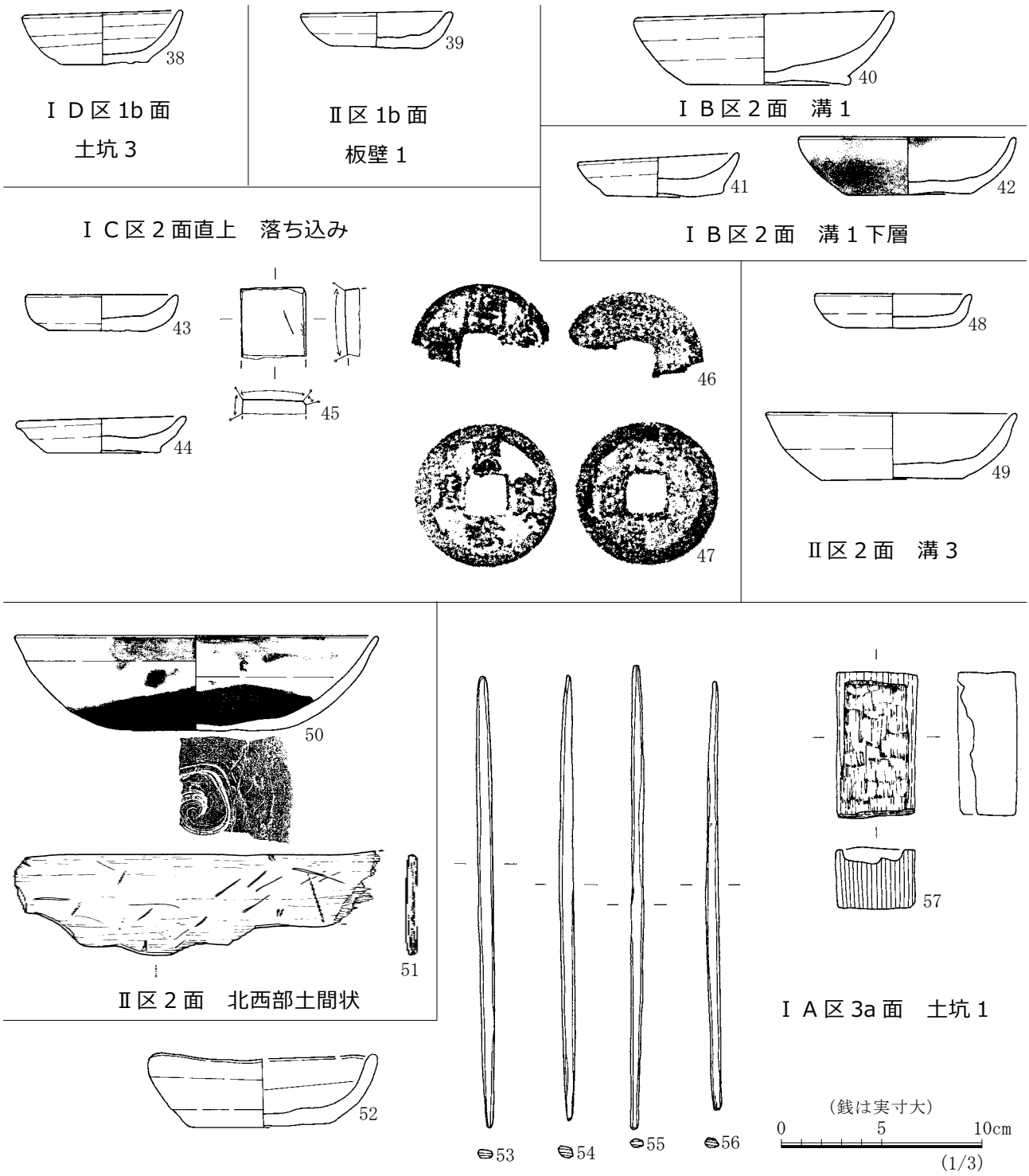


図 14　出土遺物（３）

図 14-50・51 として掲げた。

ＩＡ区の土坑１はサブトレンチ断面のみでの確認で、図４カ－キ間の３層が該当する。有機質腐植土（マグソ）を埋土とし、この層中から出土した遺物を図 14-52 ～ 57 として掲げた。断面図上、上位にも落ち込みが重複するため明確な掘り込み面は不明だが、後述するＩＣ区土坑１との類似性から、２面～２面下に属するものと考えている。

ＩＣ区の土坑１は、掘り込み面は２面だが確認は２面下～３面の掘り下げ時と遅れたため、平面図での表現が本来の広がりより小さいものとなった。埋土は有機質腐植土（マグソ）を主体とし、箸ほかの木製品が良好に遺存していた。土層断面での掘り込みの深さは 35 ㎝ほどで、底面標高は 11.2 ｍ前後を

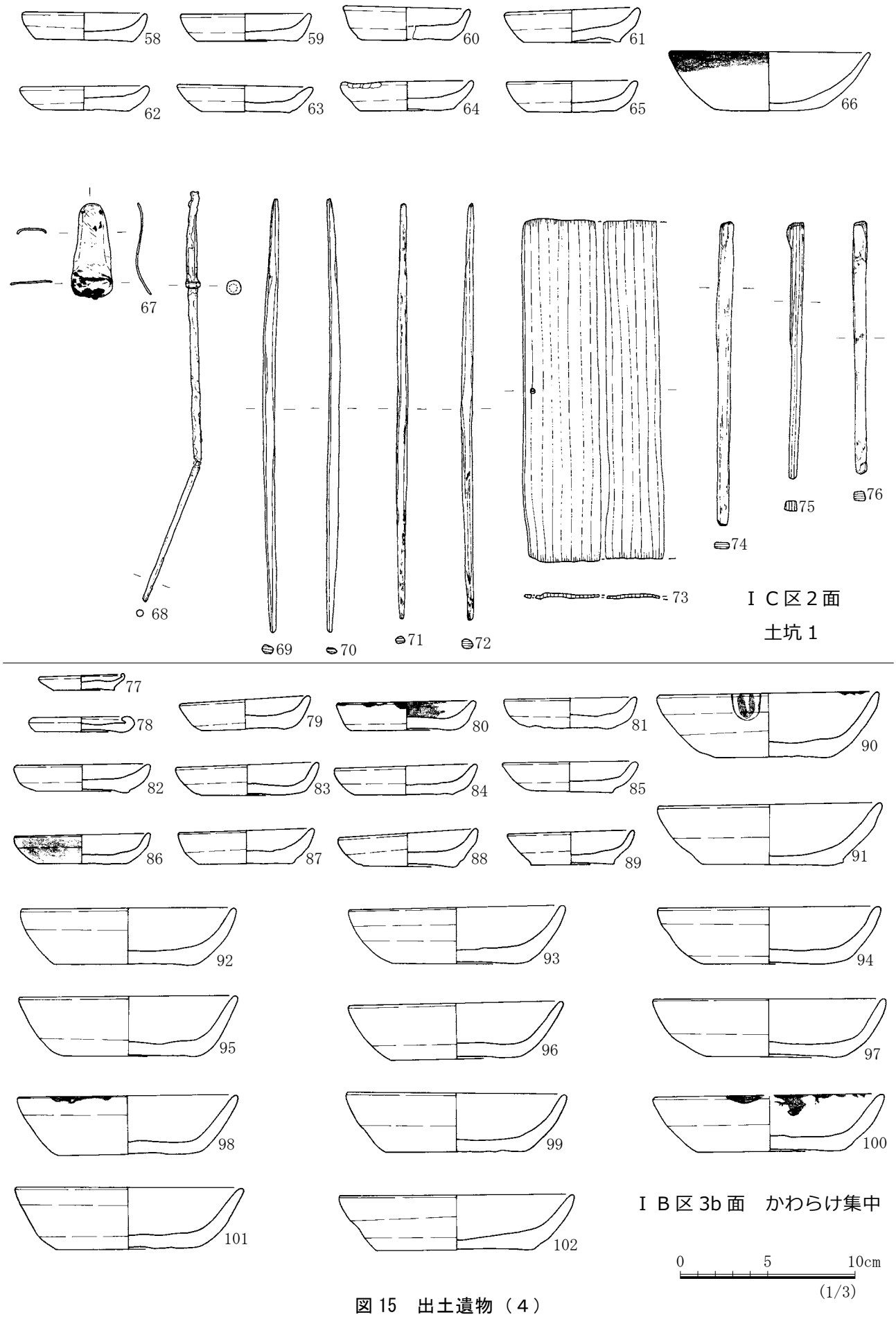

58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
ＩＣ区２面
土坑１
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
ＩＢ区3b面　かわらけ集中
0
5
10cm
(1/3)

図 15　出土遺物（４）

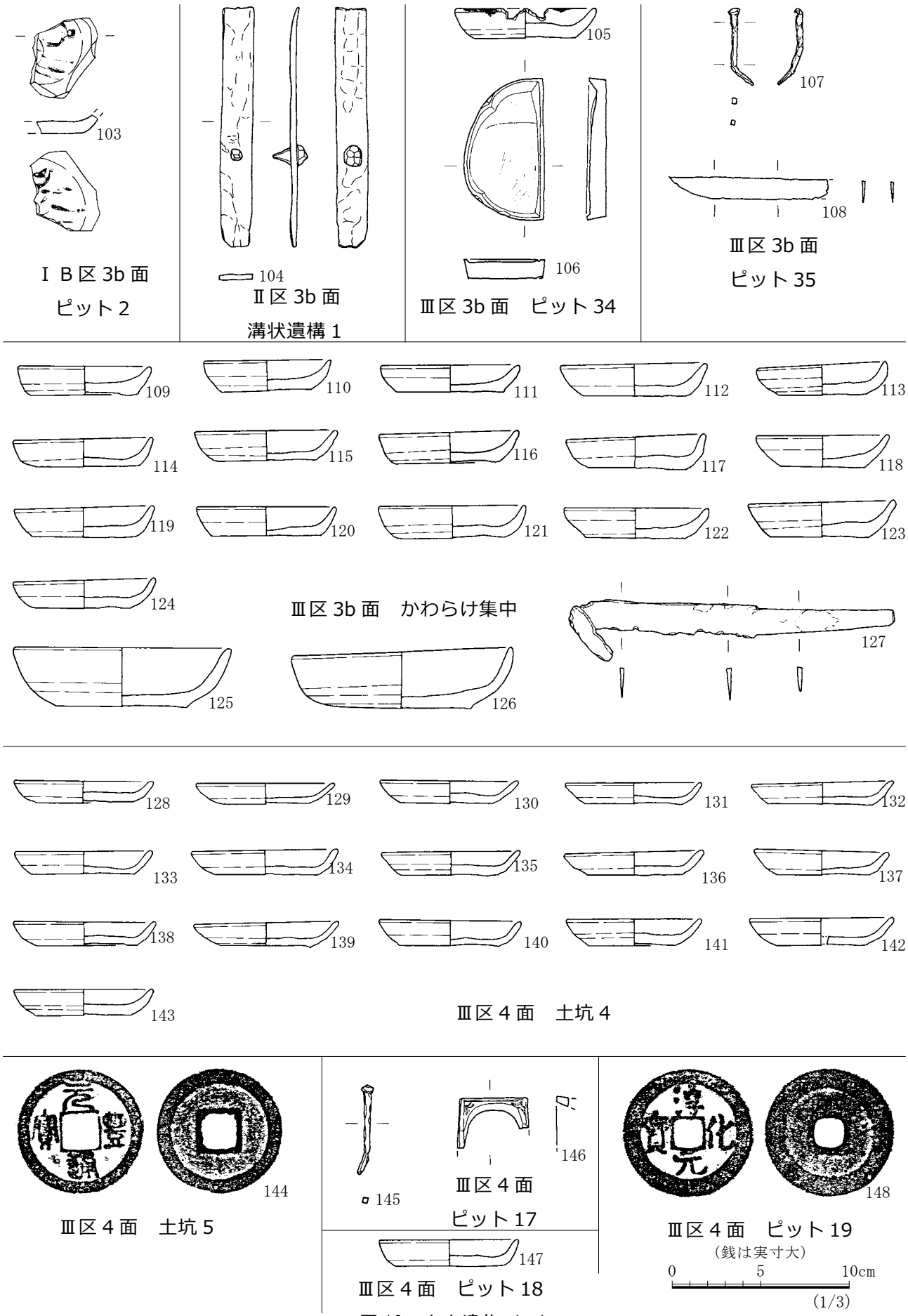

103
Ⅰ B 区 3b 面
ピット 2
104
Ⅱ区 3b 面
溝状遺構 1
105
106
Ⅲ区 3b 面　ピット 34
107
108
Ⅲ区 3b 面
ピット 35
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
Ⅲ区 3b 面　かわらけ集中
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
Ⅲ区４面　土坑４
144
Ⅲ区４面　土坑５
145
146
Ⅲ区４面
ピット 17
147
Ⅲ区４面　ピット 18
148
Ⅲ区４面　ピット 19
（銭は実寸大）
0
5
10cm
(1/3)

図 16　出土遺物（５）

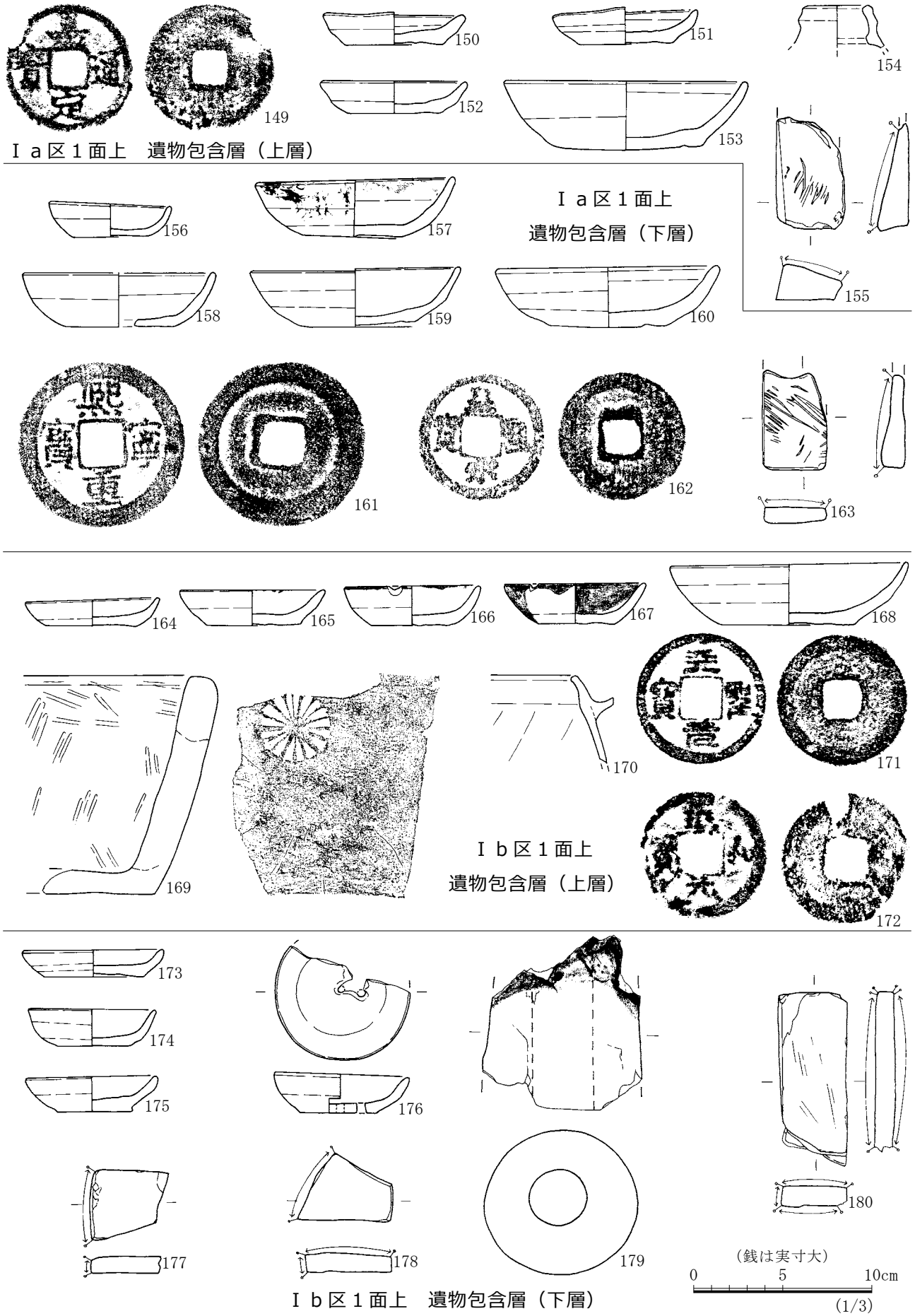

Ⅰａ区１面上　遺物包含層（上層）
Ⅰａ区１面上
遺物包含層（下層）
Ⅰｂ区１面上
遺物包含層（上層）
Ⅰｂ区１面上　遺物包含層（下層）
（銭は実寸大）
0
5
10cm
(1/3)

図 17　出土遺物（６）

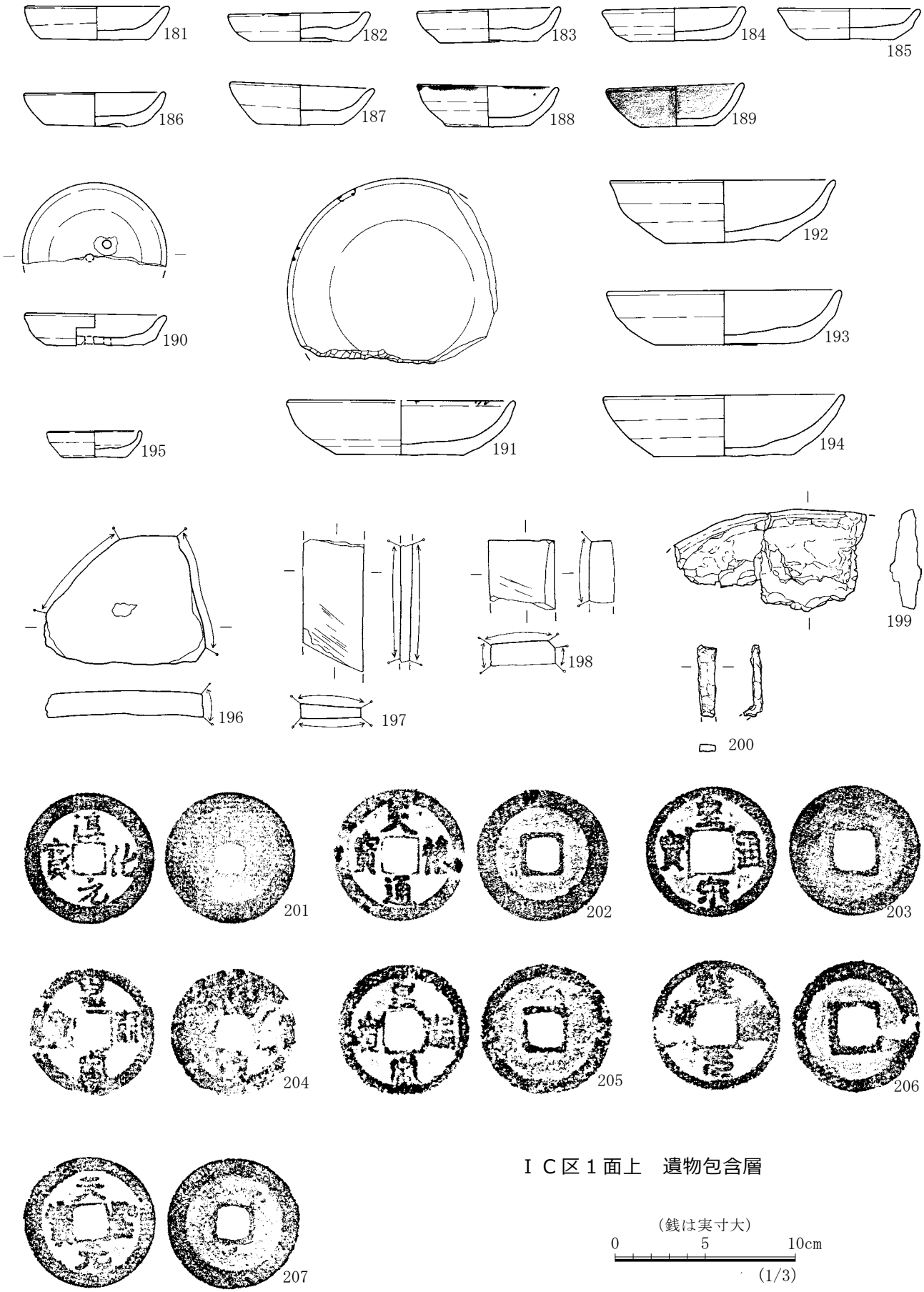

181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
ＩＣ区１面上　遺物包含層
（銭は実寸大）
0
5
10cm
(1/3)

図 18　出土遺物（７）

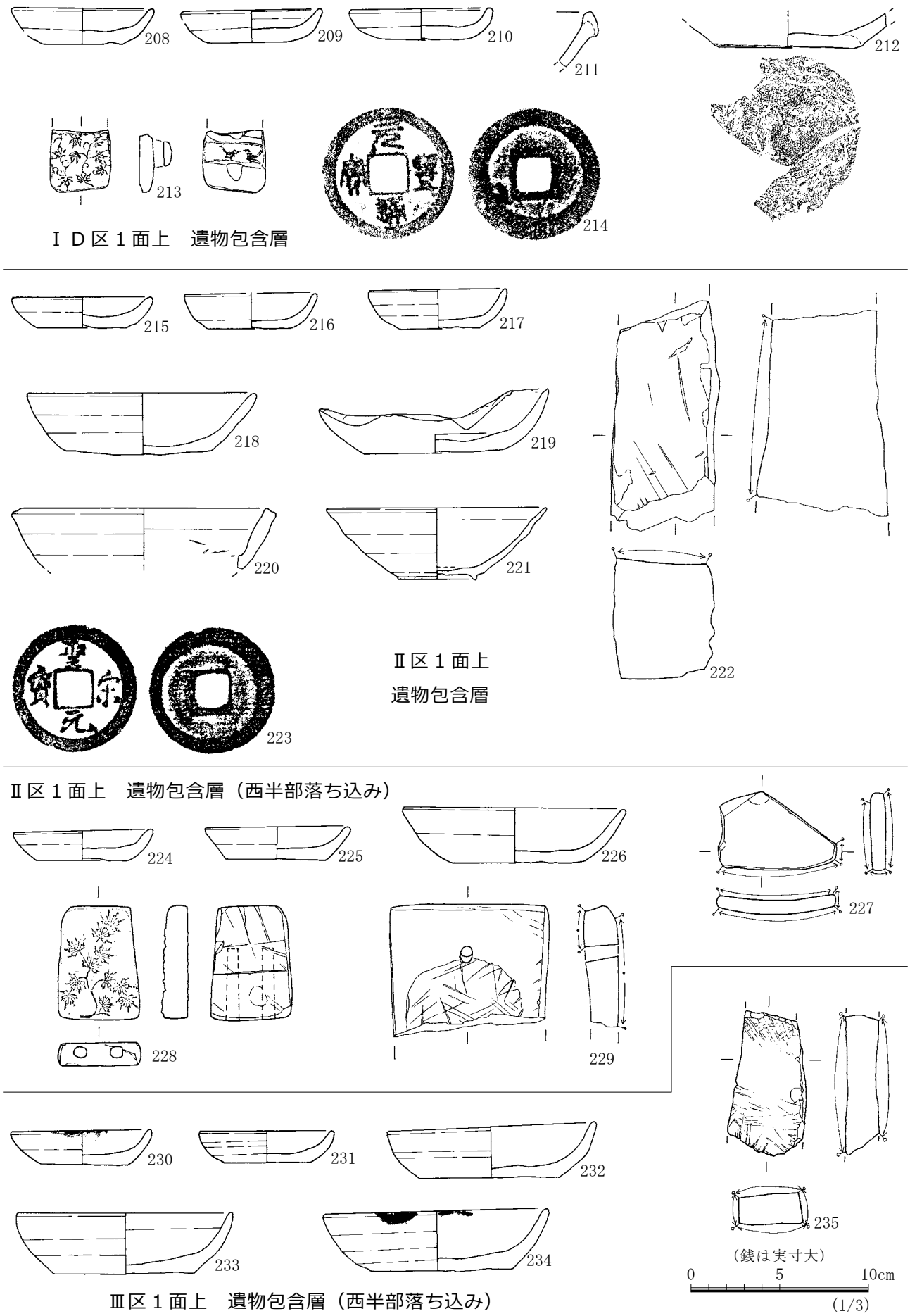

208
209
210
211
212
213
214
Ⅰ D 区 1 面上　遺物包含層
215
216
217
218
219
220
221
222
223
Ⅱ区 1 面上
遺物包含層
Ⅱ区 1 面上　遺物包含層（西半部落ち込み）
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
（銭は実寸大）
0
5
10cm
(1/3)
Ⅲ区 1 面上　遺物包含層（西半部落ち込み）

図 19　出土遺物（８）

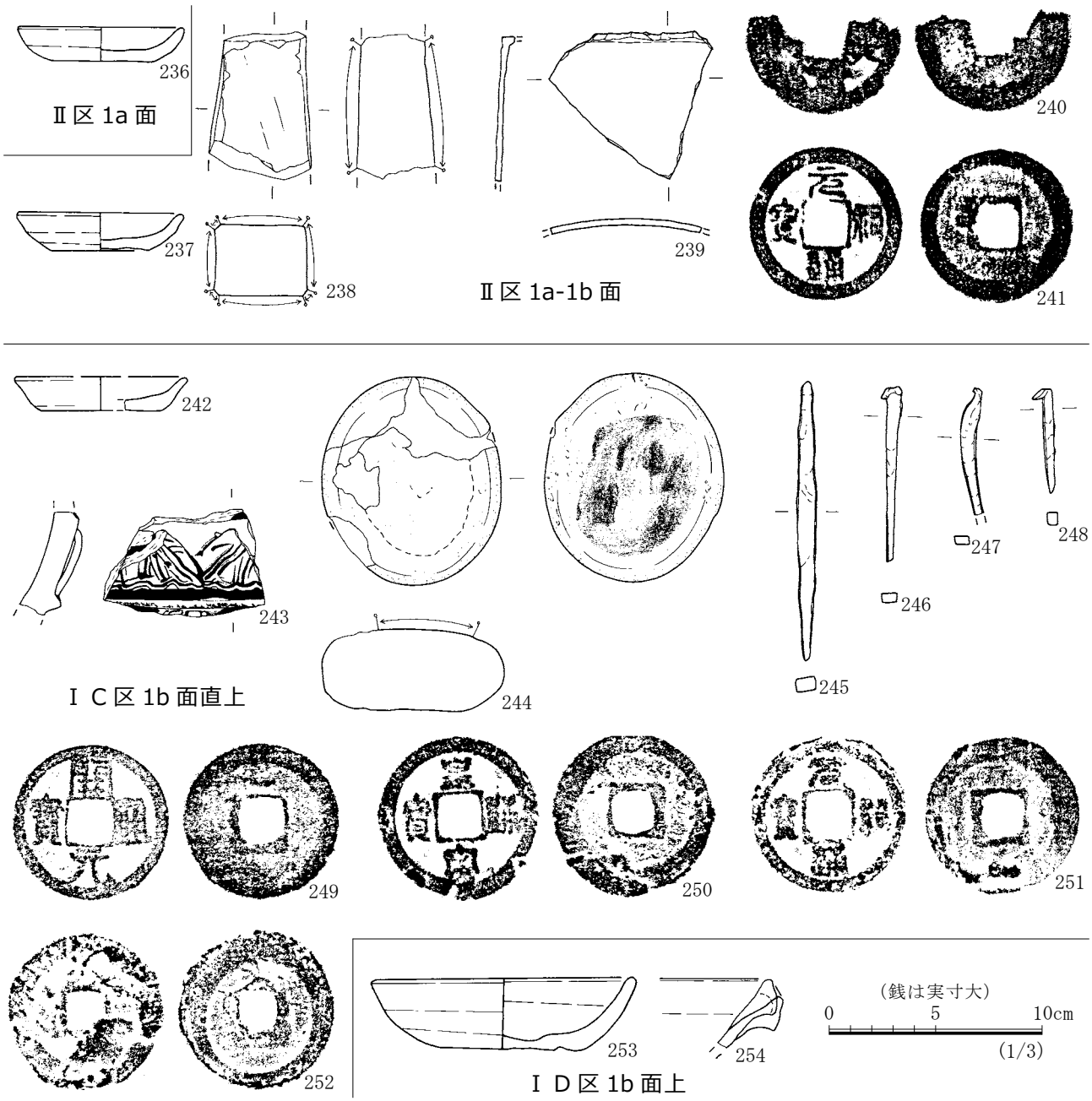


図 20　出土遺物（９）

測る。本遺構からの出土遺物は、図 15-58 ～ 76 に示した。58 ～ 66 はロクロかわらけ。67 は用途不明の銅製品で、平面形が舌状の非常に薄い銅板を折り曲げて成形している。68 は鉄製火箸で、木製の柄が付属していたと思われる。69 ～ 76 は木製品の箸、折敷など。

第３節　３面の遺構と遺物

標高 11.5 m前後で検出された炭層の上面を３ａ面とし、これを取り除いた後の 11.3 ～ 11.45 m前後で検出された泥岩整地面を３ｂ面とした。Ⅱ区３ａ面上では数基の小穴を確認したが、炭層上を生活面としていたとは考えにくいので、本来は炭層上に薄い盛土層を整えてから土地利用をしていたと考えられる。

３ａ面の土坑１は、Ⅱ区南西部で検出された。上場径 70 ㎝程度の円形プランを呈し、確認面からの

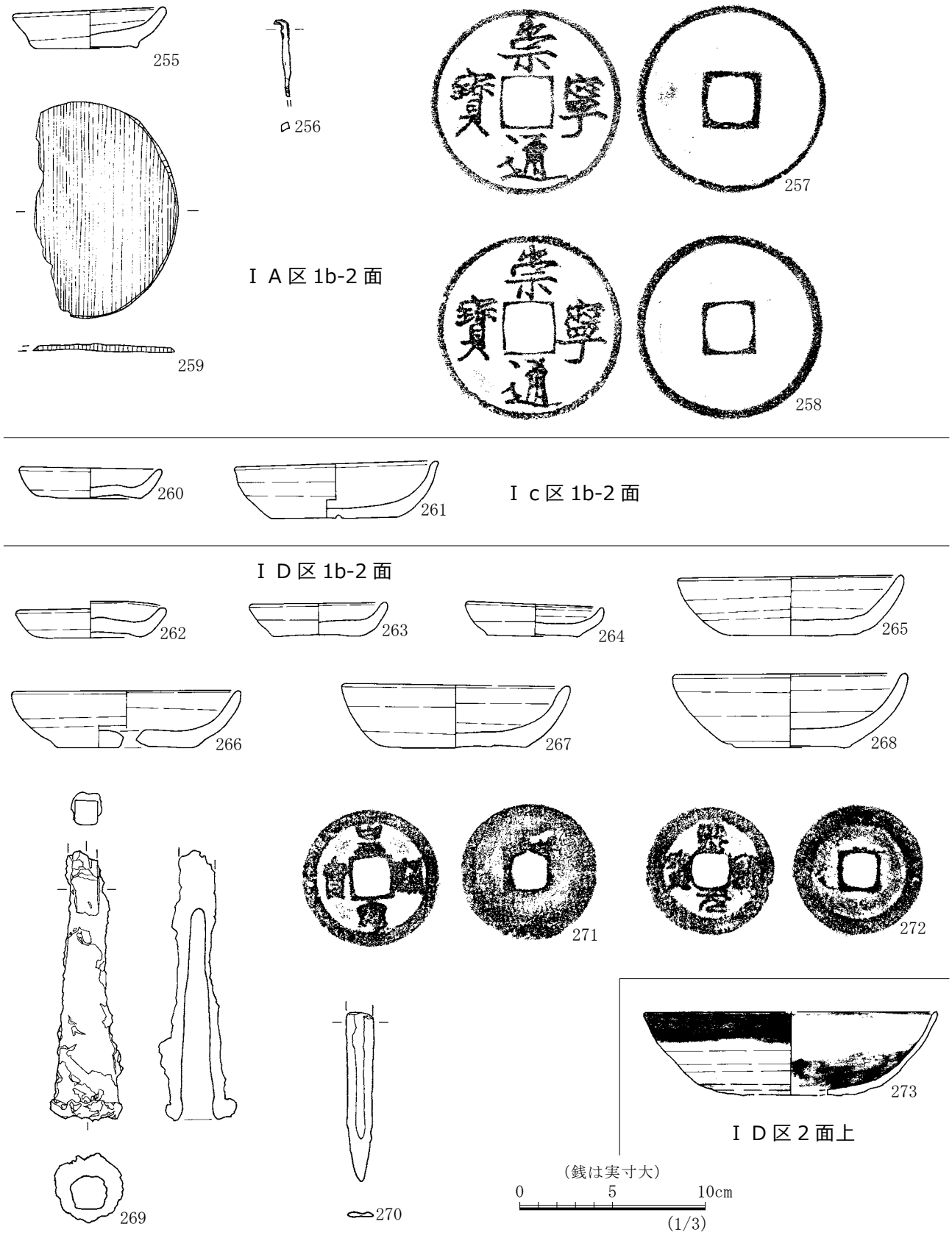

255
256
257
258
259
Ⅰ A 区 1b-2 面
260
261
Ⅰ c 区 1b-2 面
Ⅰ D 区 1b-2 面
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
Ⅰ D 区 2 面上
（銭は実寸大）
0
5
10cm
(1/3)

図 21　出土遺物（10）

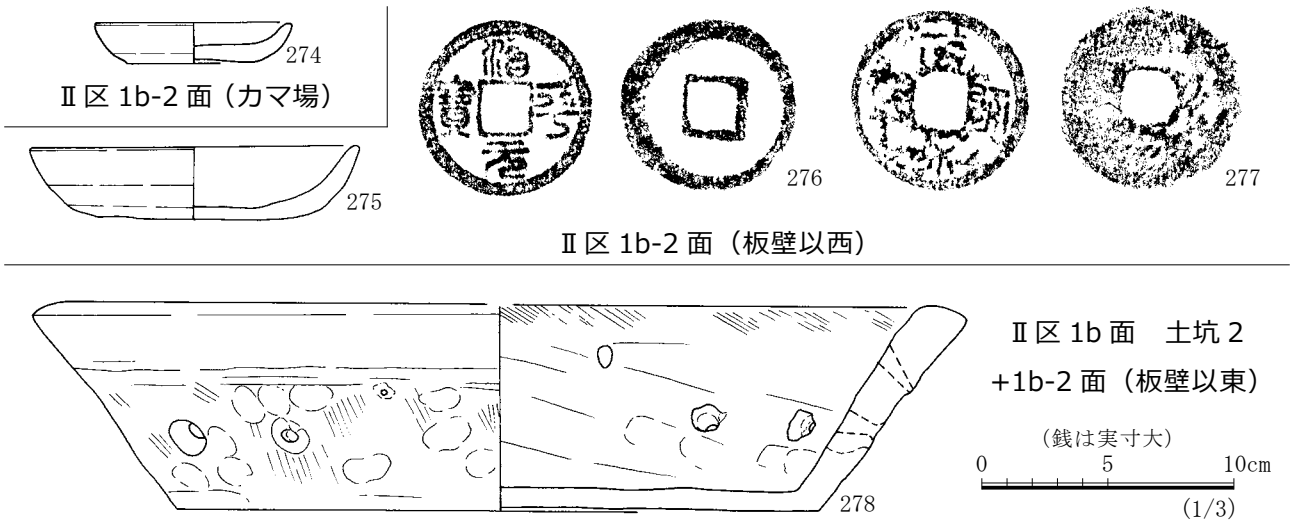


図 22　出土遺物（11）

深さは 50cm を測る。ここからの出土遺物で、図示すべき資料はなかった。

３ｂ面上では礎板上に柱が立った状態で遺存した柱穴列や、小規模なかわらけ集中、破砕泥岩で丁寧に仕上げられた土間状硬化面といった遺構が検出された。各調査区の間に未調査域が残ったため柱穴列の広範な展開を把握することは叶わなかったが、Ⅱ区では１×１間以上の並びを確認できた。南北軸はＮ 38°Ｗを指し、柱間距離は南北 250 ㎝、東西 220 ㎝を測る。構成する柱穴は円形または方形プランを呈し、上場径は 40 ～ 50 ㎝、確認面から掘方底面までの深さは 40 ～ 50 ㎝を測る。底面上には礎板を据え、その上に長辺 10cm ほどの角柱を立てていた。検出状況から、建物廃絶時には柱材の地上に出た部分だけを切断したことが推察される。埋土は黒褐色粘質土で、中世基盤層のⅣ層を軟質にしたような様相であった。復元建物を構成しない、他のピットも概ね同様の埋土様相を呈していた。各区、ピット埋土の出土遺物を図 16-103 ～ 108 に掲げた。103 はロクロかわらけで底部内外面に墨痕が残るものの、判読は叶わなかった。

３ｂ面上では、ＩＢ区とⅢ区の各１ヶ所で小規模なかわらけ集中が確認された。ＩＢ区では整地面上に１×２ｍ程度の平面的広がりとして確認された。若干量の陶磁器小片も混在していたが、ほぼ全てをロクロかわらけが占める。図 15-77 ～ 102 には、極小皿（内折れ）～大皿 26 点を掲げた。78 のみ搬入土器である。口縁部付近に油煤が付着した、灯明皿と見なせる資料も一定量ある。Ⅲ区では、約 2.4 ｍ四方で深さ５～ 10cm の落ち込みの底面上に、ロクロかわらけがまとまった状態で出土した。若干量の陶磁器小片も見られたが、一括廃棄資料には含むべきではない。本遺構の出土遺物は、図 16-109 ～ 127 と図 31-485 に掲げた。全体的にＩＢ区の出土小皿よりも胎土の砂質感が強く、器壁が薄い印象を受けた。口径がわずかに大きい傾向も見えそうだが、明確な型式差として区別するほどではなかった。また、Ⅲ区の図化資料中には灯明皿が全く含まれていない点も、Ｉ区資料との様相差として記しておく。485 は漆器椀。一括廃棄資料に含むべきではなく、混入品と見なしたい。

第４節　４面の遺構と遺物

標高 11.2 ～ 11.3 ｍ前後で確認された、Ⅳ層＝黒～黒灰色粘質土の上面を４面とした。Ⅳ層は、鎌倉の発掘従事者が伝統的に「ネチャ」と通称してきたものに相当し、本地点では３層に細分できた。面上では、掘方底面に礎板を据えたピットや土坑などの遺構が検出され、一部のピットには列をなすものも

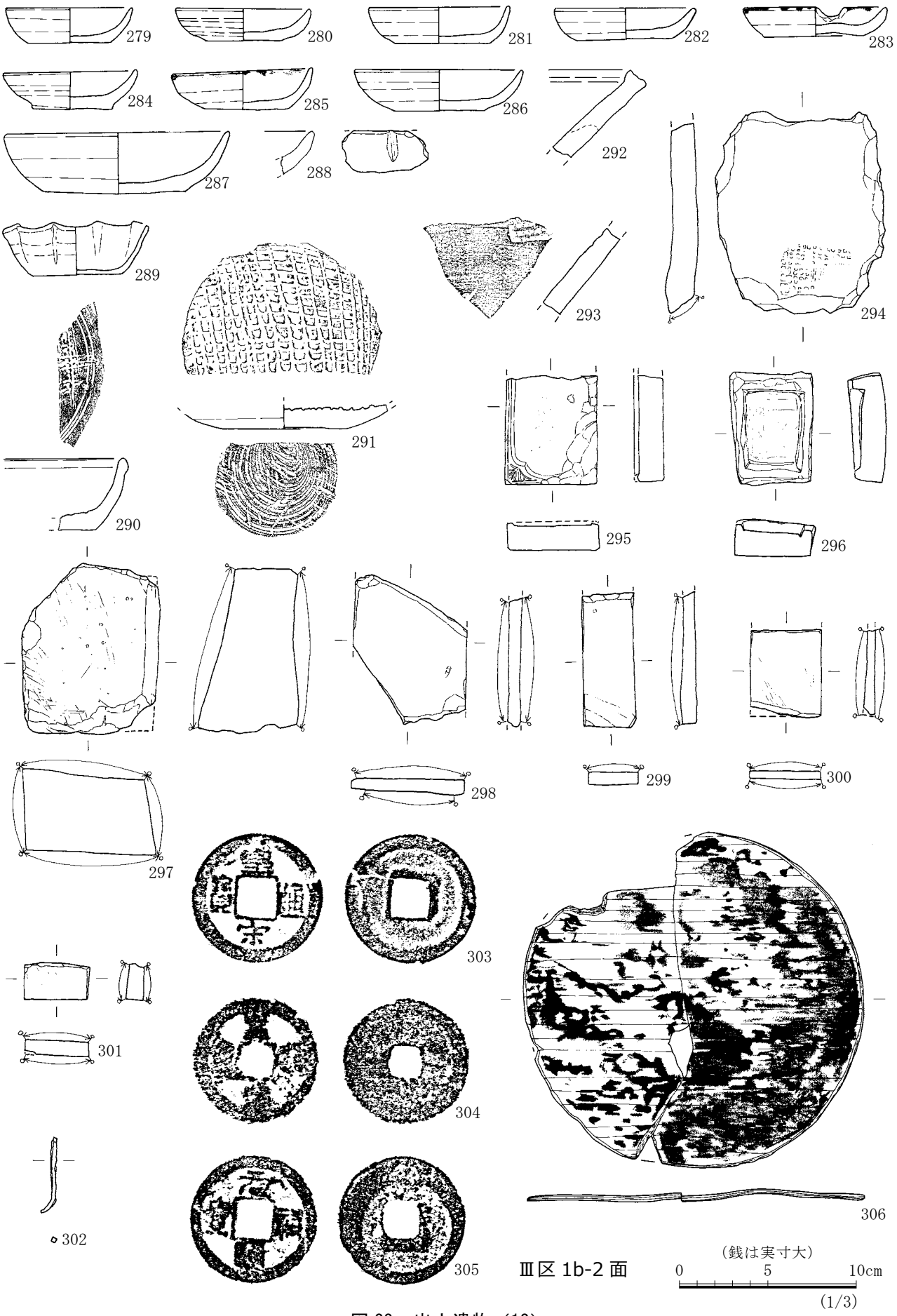

279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
Ⅲ区 1b-2 面
（銭は実寸大）
0
5
10cm
(1/3)

図 23　出土遺物（12）

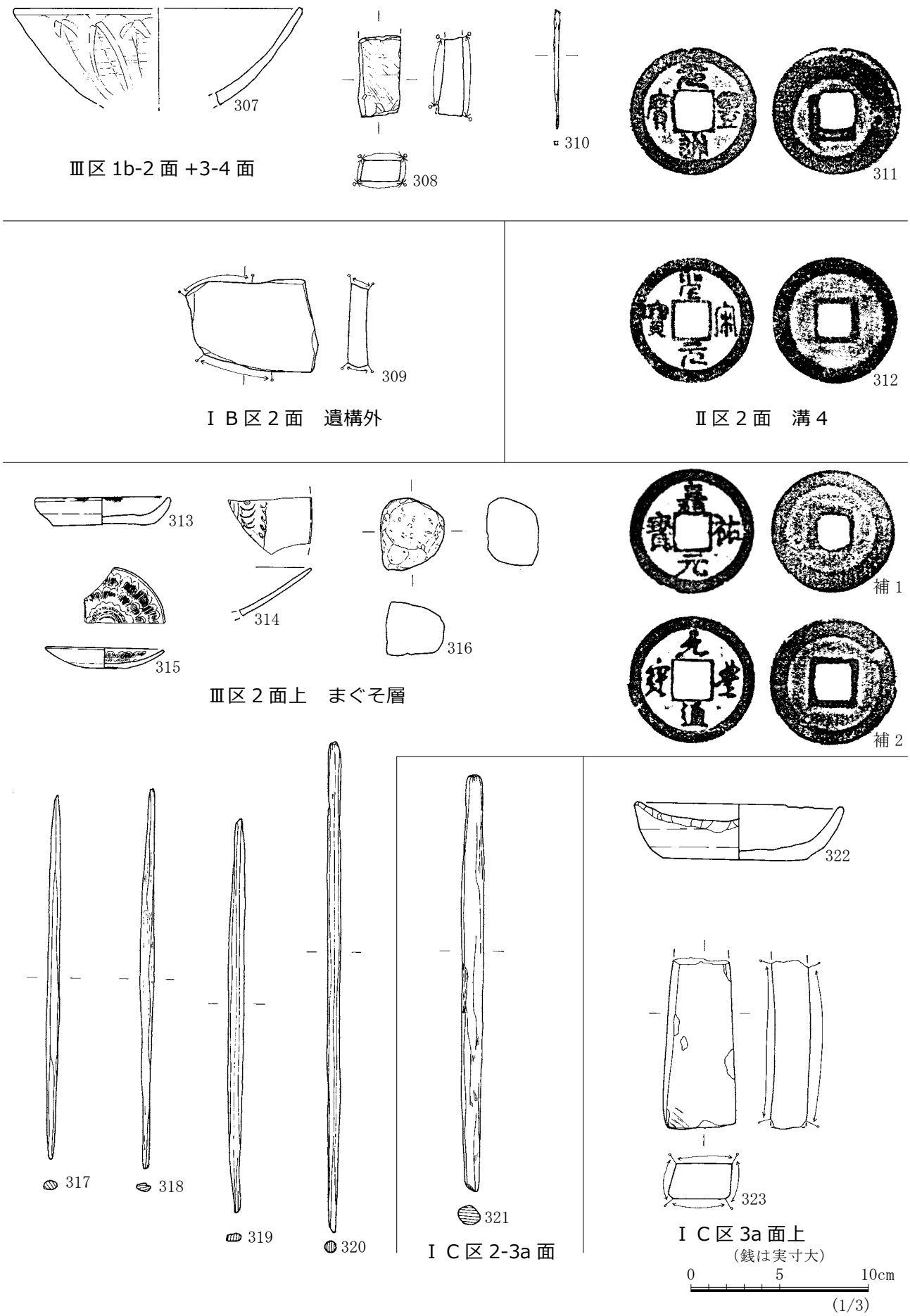

307
308
310
311
Ⅲ区 1b-2 面 +3-4 面
309
Ⅰ B 区 2 面　遺構外
312
Ⅱ区 2 面　溝 4
313
314
315
316
Ⅲ区 2 面上　まぐそ層
補 1
補 2
317
318
319
320
321
Ⅰ C 区 2-3a 面
322
323
Ⅰ C 区 3a 面上
（銭は実寸大）
0
5
10cm
(1/3)

図 24　出土遺物（13）

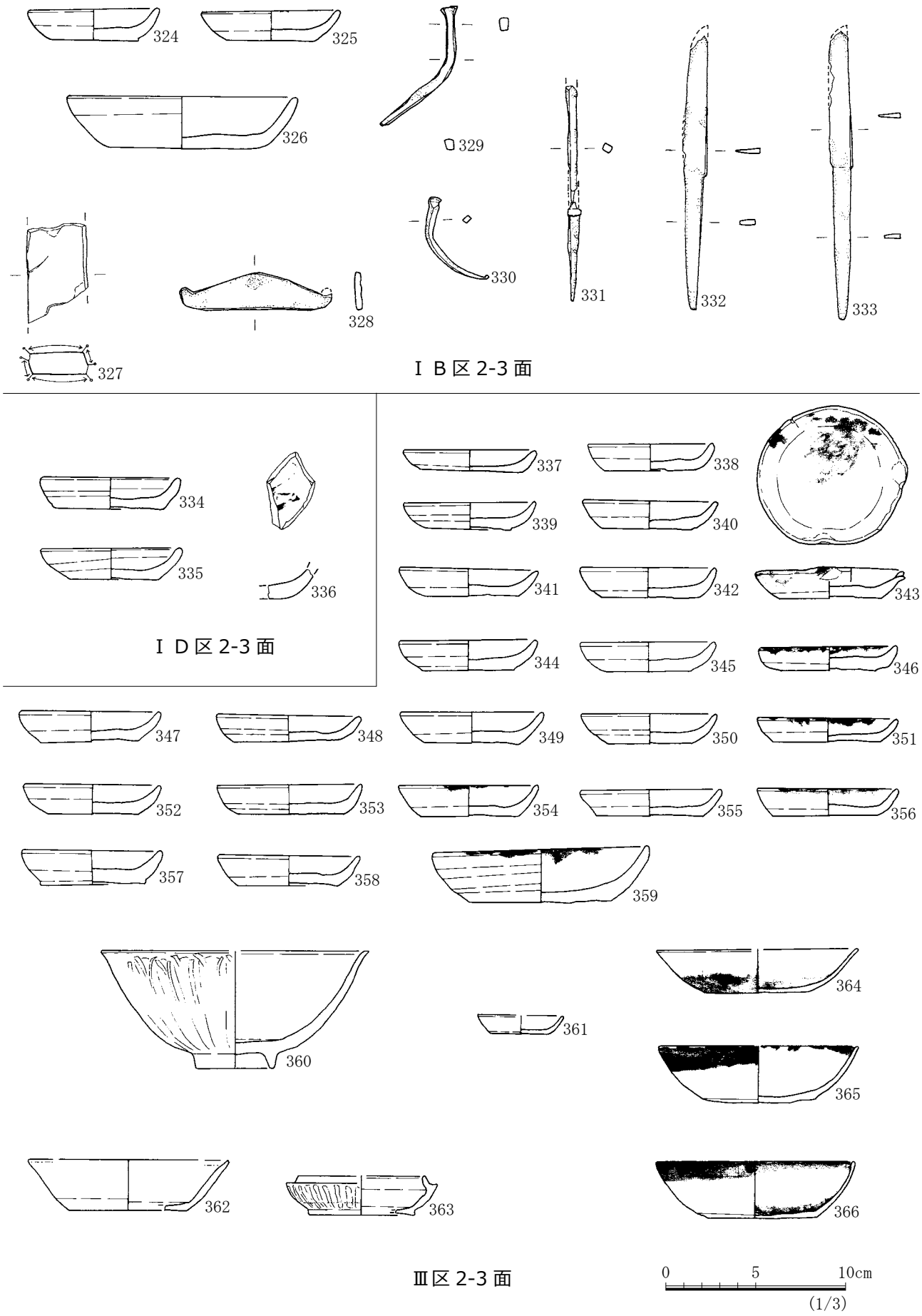
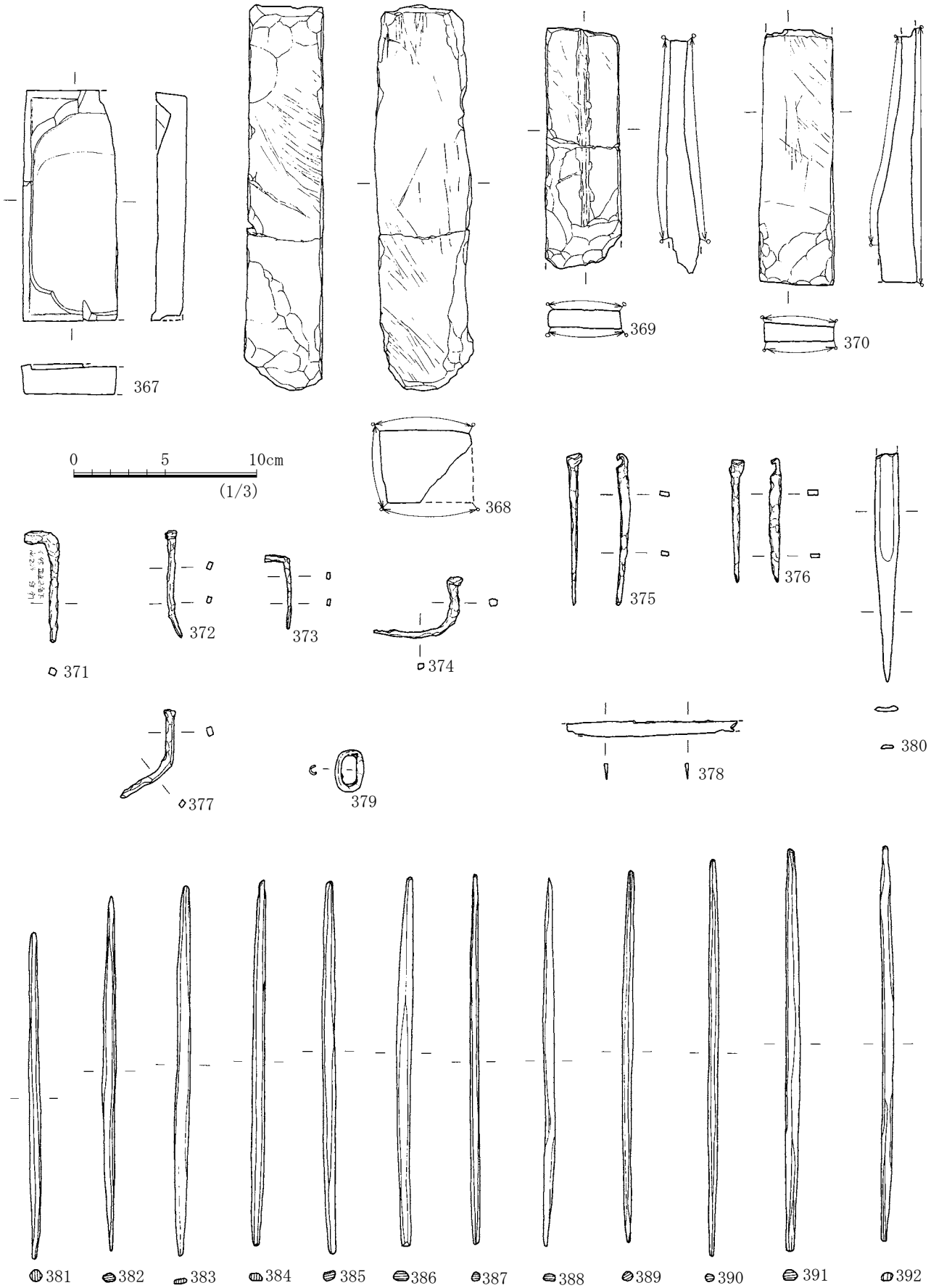
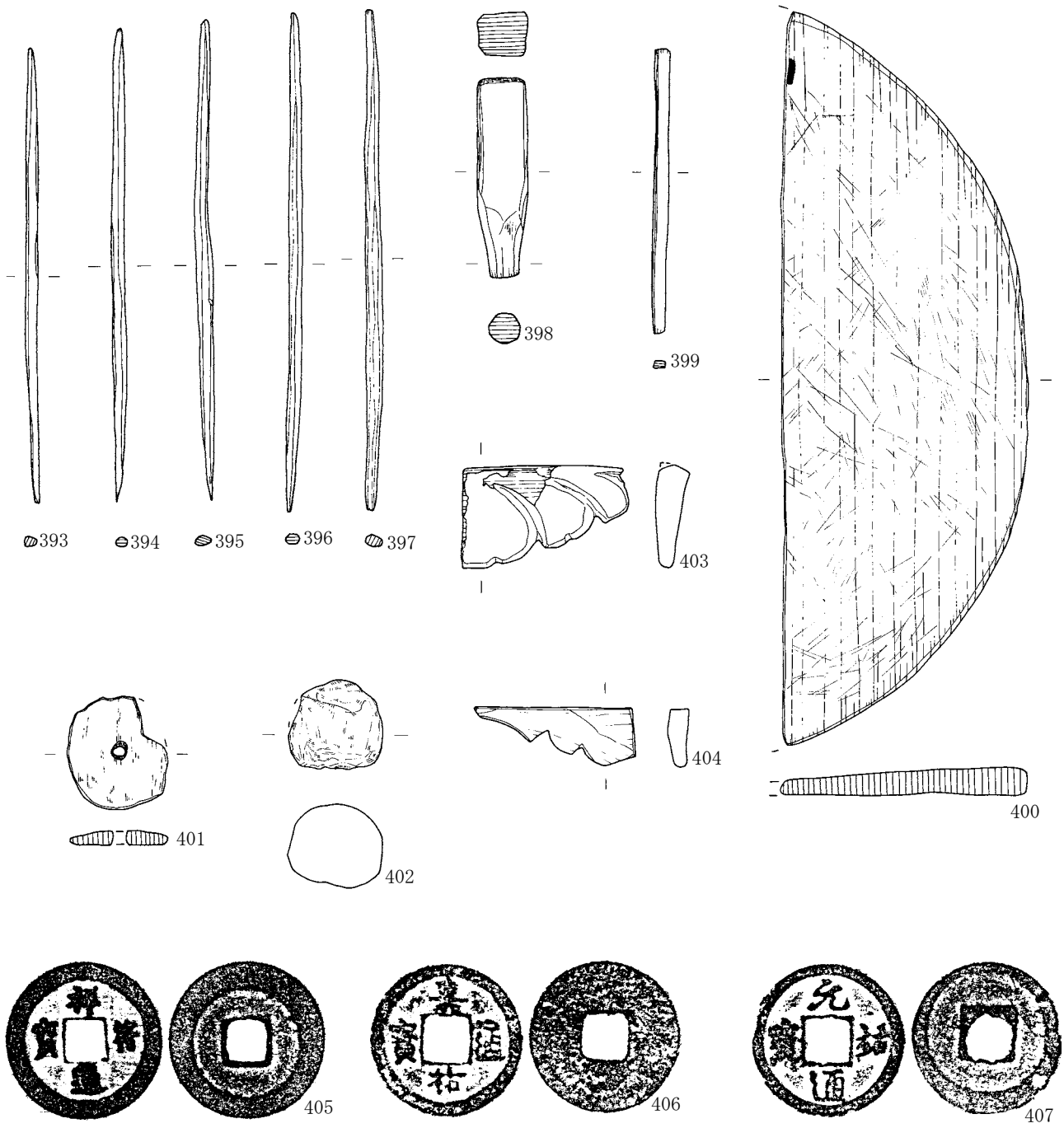

324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
Ⅰ B 区 2-3 面
334
335
336
Ⅰ D 区 2-3 面
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
Ⅲ区 2-3 面
0
5
10cm
(1/3)

図 25　出土遺物（14）

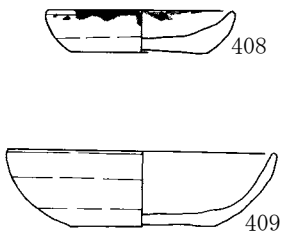


Ⅲ区 2-3 面

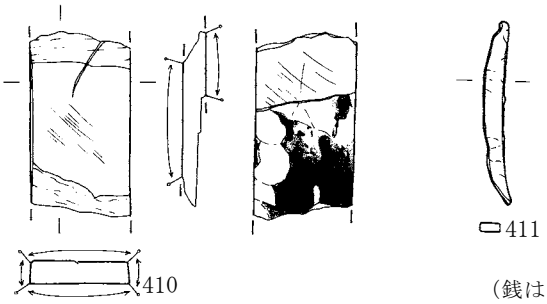
図 26　出土遺物（15）



Ⅲ区 2-3 面



Ⅰ C 区 2-3b 面



（銭は実寸大）

0　5　10cm

(1/3)

図 27　出土遺物（16）

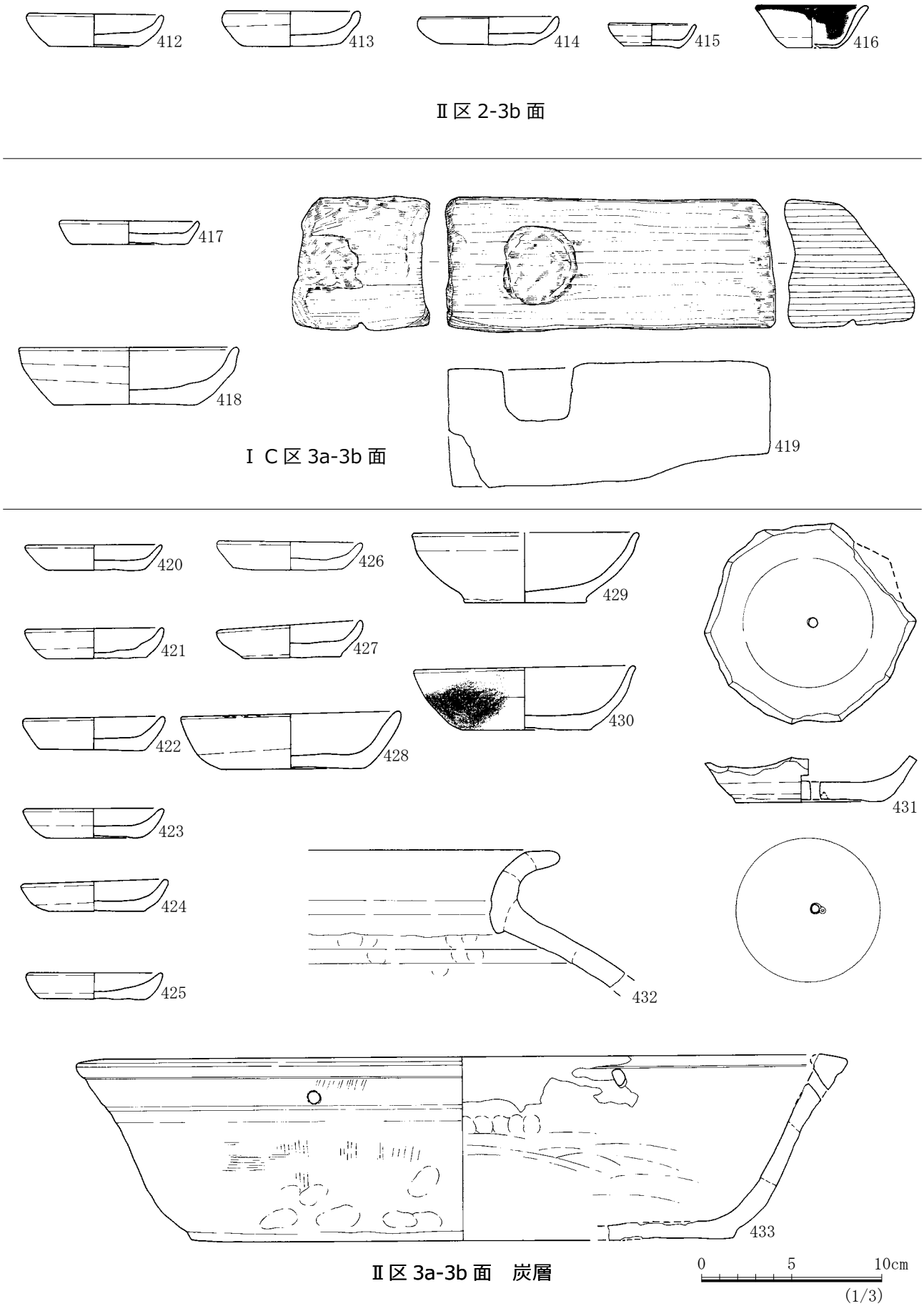
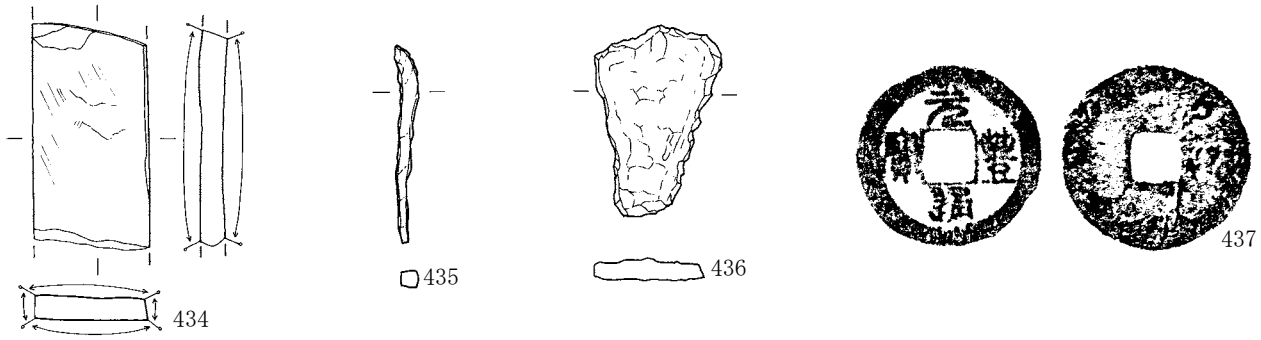
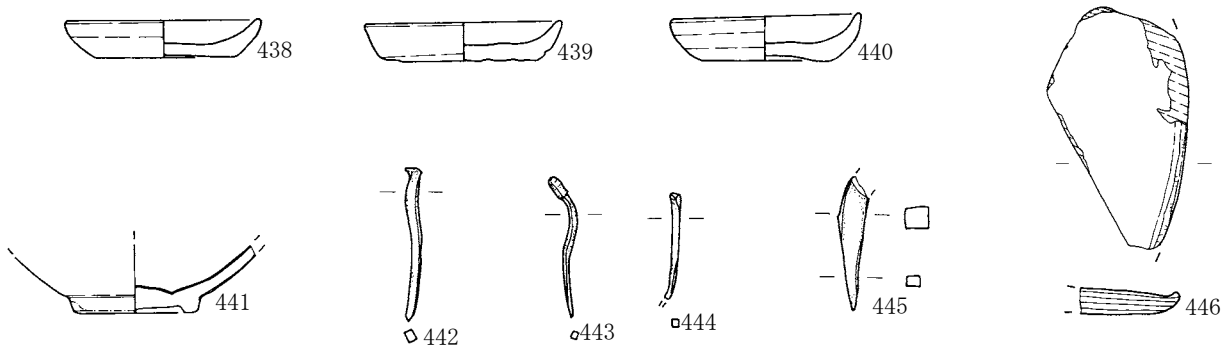

412
413
414
415
416
Ⅱ区 2-3b 面
417
418
419
Ⅰ C区 3a-3b 面
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
Ⅱ区 3a-3b 面　炭層
0
5
10cm
(1/3)

図 28　出土遺物（17）



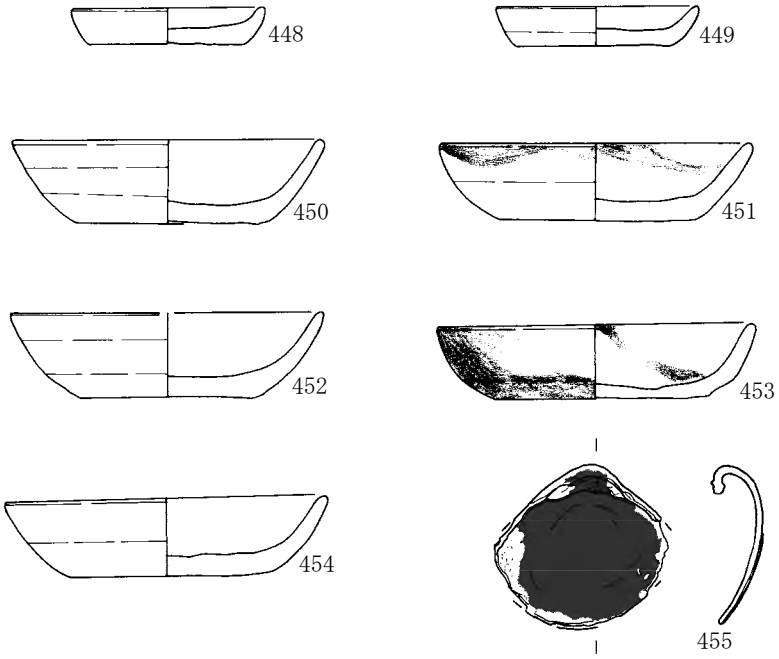
Ⅱ区 3a-3b 面　炭層

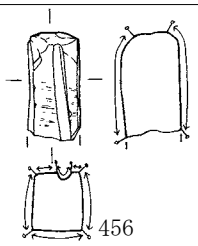


Ⅰ B 区 3b 面　遺構外

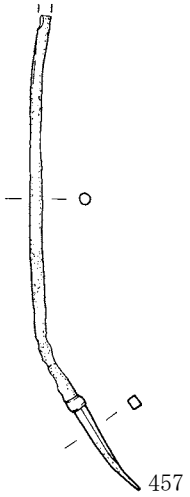
Ⅰ C 区 3b 面　遺構外
（欠番ピット）

Ⅱ区 3b 面　遺構外





Ⅰ B 区 3b-4 面



（銭は実寸大）

0　5　10cm

(1/3)

図 29　出土遺物（18）

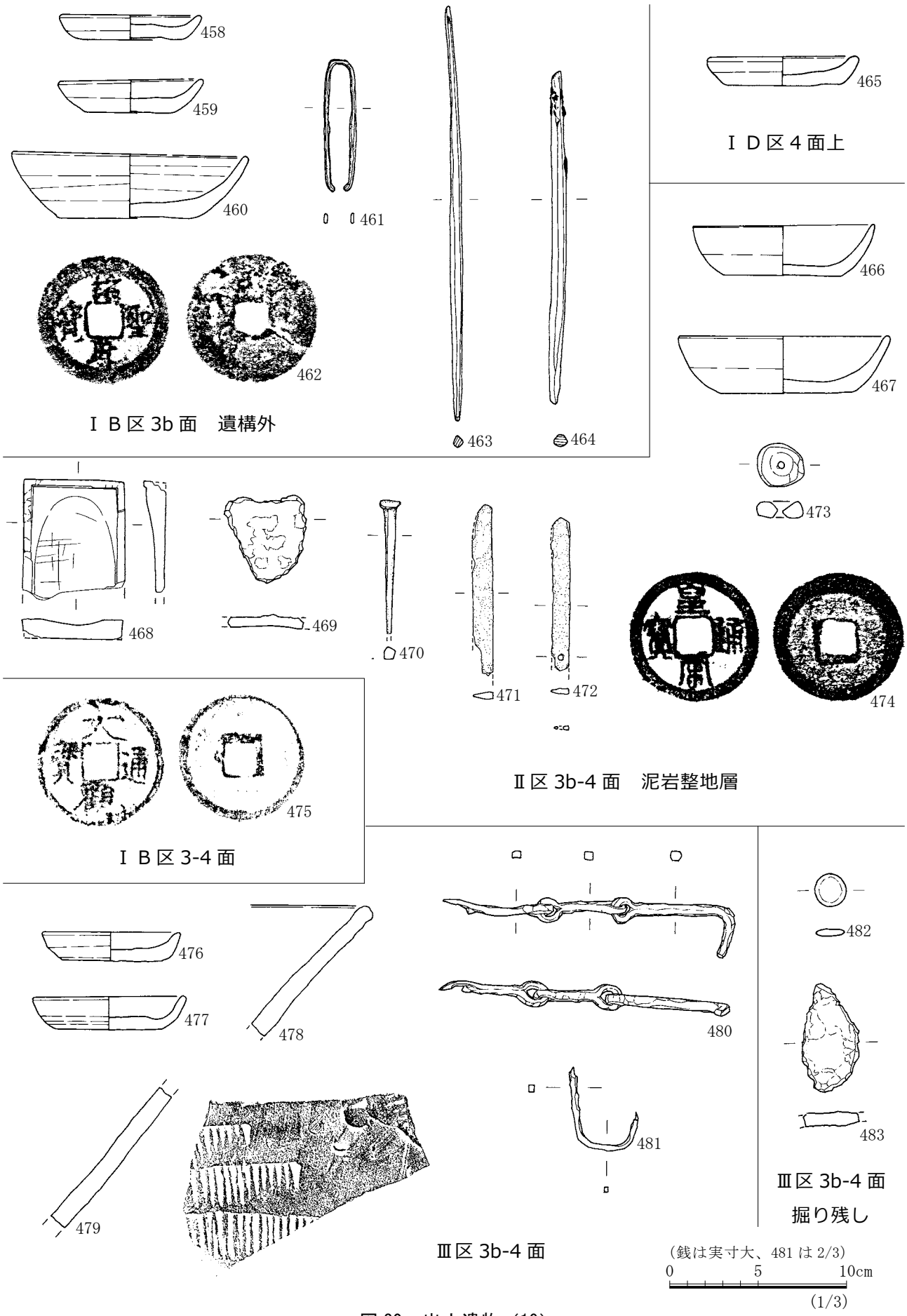

458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
Ⅰ B 区 3b 面　遺構外
Ⅰ D 区 4 面上
Ⅱ区 3b-4 面　泥岩整地層
Ⅰ B 区 3-4 面
Ⅲ区 3b-4 面
Ⅲ区 3b-4 面
掘り残し
（銭は実寸大、481 は 2/3）
0
5
10cm
(1/3)

図 30　出土遺物（19）

484
Ⅱ区 1b 面　土坑 2
486
Ⅲ区 4 面
ピット 17
487
488
489
490
491
Ⅲ区 1 面上　遺物包含層（西半部落ち込み）
485
Ⅲ区 3b 面　かわらけ集中
492
493
494
Ⅰ A 区 1b-2 面
495
Ⅰ D 区
1b-2 面
496
Ⅱ区 1b-2 面
板壁 1 以西
497
Ⅲ区 1b-2 面
泥岩整地層
0
5
10cm
(1/3)

図 31　出土遺物（20）

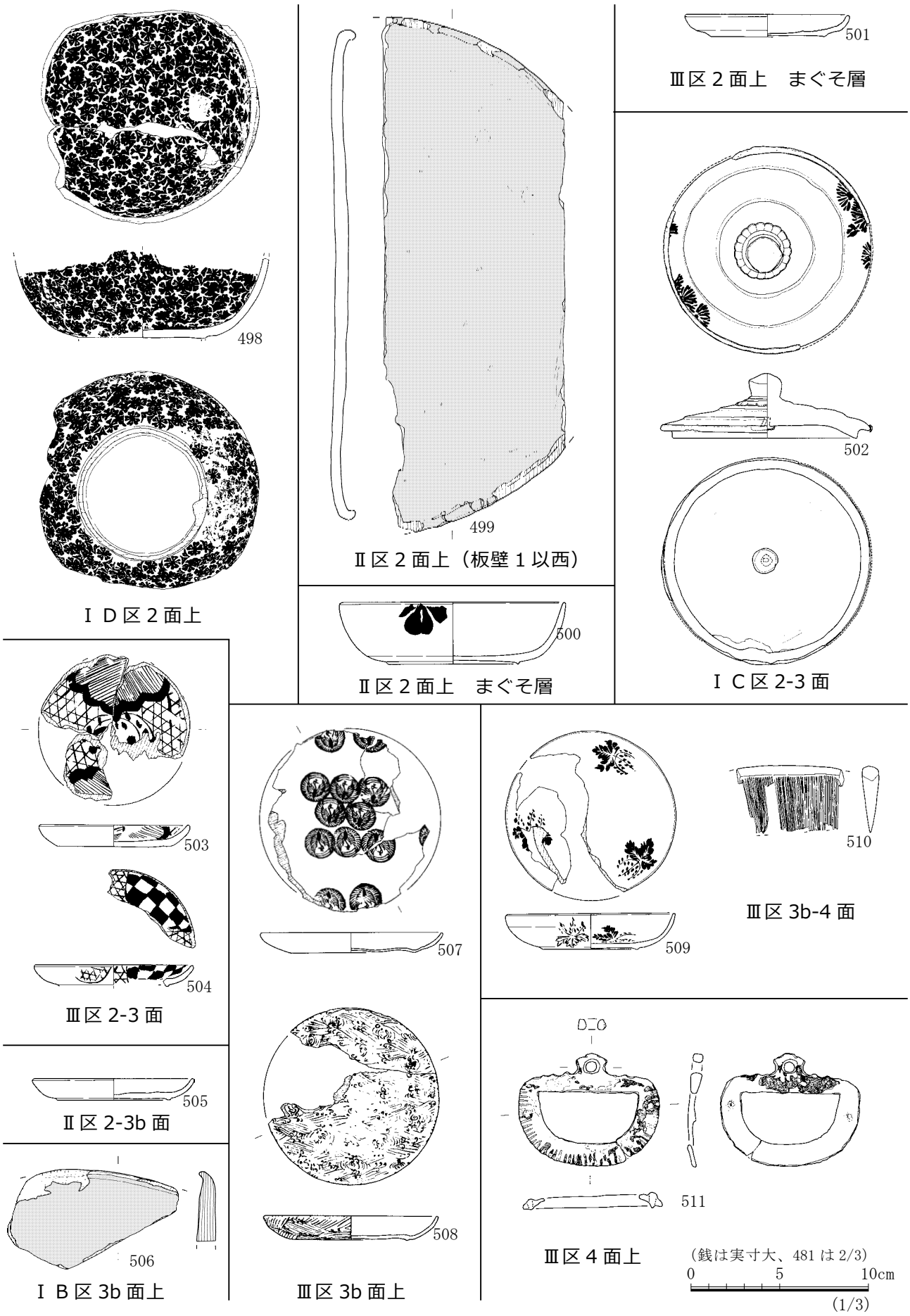

498
Ⅰ D 区 2 面上
499
Ⅱ区 2 面上（板壁 1 以西）
501
Ⅲ区 2 面上　まぐそ層
502
Ⅰ C 区 2-3 面
500
Ⅱ区 2 面上　まぐそ層
503
504
Ⅲ区 2-3 面
505
Ⅱ区 2-3b 面
506
Ⅰ B 区 3b 面上
507
508
Ⅲ区 3b 面上
509
510
Ⅲ区 3b-4 面
511
Ⅲ区 4 面上
（銭は実寸大、481 は 2/3）
0
5
10cm
(1/3)

図 32　出土遺物（21）

確認できた。

柱穴列はⅡ区北部からⅢ区にかけて検出され、東西１間×南北２間分の並びを確認した。さらに１間南側に広がる可能性もあるが、掘方の深さなどに差異が見て取れたことから、図 10 の復元案には採用しなかった。柱間距離は 200 ㎝前後で、南北の軸線はＮ 30°Ｗを示す。Ⅲ区検出の柱穴３基は礎板を据えず掘方底面に直接柱材を立てており、Ⅱ区検出の１基は柱材が残らず、底面に礎板２枚が重なった状態で遺存していた。この点、Ⅱ区とⅢ区の柱穴が列をなさないと見る根拠にもなり得る。また、掘方の規模でいうとⅢ区北辺の２基が他の２基よりも大幅に深い（底面標高 10.4 ｍ前後）ので、前者２基を起点に、調査区外である北東側に展開する柱穴列であった可能性も考えられる。

Ⅲ区４面上では、東西 160 ×南北 120 ㎝ほどの長方形プランを呈し、確認面からの深さが 10㎝ほどの浅い落ち込みが検出され（土坑４）、この底面上ではロクロかわらけ小皿の完形資料が折り重なって出土している。図 16-128 ～ 143 に掲げた資料であり、上層の３ｂ面かわらけ集中の資料（109 ～ 124）と比較して明らかに低平な器形で、体部立ち上がりの開きが大きい。また、全体に器壁が薄い作りで、この点、３ｂ面の資料より数ｇほど軽い傾向に反映されているだろうか。わずかながら、３ｂ面との間にはロクロかわらけの型式差を見出して良いだろう。ＩＤ区の４面直上では、手づくねかわらけ小皿の完形資料１点が伏せた状態で出土しており（図 30-465）、これ以外、本地点の手づくねかわらけは細片ごく少量が出土しているに過ぎないので、土坑４は、手づくね生産が終焉する間際のかわらけ資料群と見なすことができるかもしれない。

この他、４面遺構からの出土遺物を、図 16-144 ～ 148 と図 31-486 に掲げた。

第５節　４面下

Ⅳ層を取り除いたⅤ層の上面、標高 11.1 ｍ前後に達したところで掘削を終了した。Ⅳ層は中世遺物を包含し、Ⅴ層は古代以前の堆積と見られるが、部分的に下位の青灰色砂質土層まで掘削したものの、目立った遺物の出土はなかった。遺構も検出されていない。

第６節　遺構外の出土遺物

図 17 ～ 30 および図 31-487 以降には、明確な遺構にともなわずに出土した遺物を掲げた。上層から順に並べてある。このうち最も出土量が多いロクロかわらけについて通覧すると、１面出土の資料では体部の丸みが強く器高の深い資料が中心となり、２面下～３面の資料では、低平化および体部の湾曲が緩い資料が増加傾向にある。前節でも述べたように、本地点では手づくねかわらけの出土はごくわずかであり、図示できたのはＩＤ区の４面直上で出土した図 30-465 の１点に限られる。こうした点を勘案すると、本地点のかわらけはロクロ成形品が大多数を占め、手づくねの生産が概ね終焉する段階の製品が上限になるものと推察される。その具体的な年代を付与することは難しいが、大よそ 13 世紀中葉を前後する時期と考えている。層位ごとの遺物構成や遺物個々の特徴については表３・４の計量表および観察表を参照されたいが、類例の少ない資料として図 21-257・258 の崇寧通寶２点、図 32-502・511 の漆器蓋と用途不明の環状鉄製品を取り上げておく。崇寧通寶は当十銭で遺存状態が非常に良く、銭銘が明瞭に読み取れる。鎌倉での出土例は多くない。漆器蓋は天井頂部に金銅製のツマミを差し込み、その基底部は 19 弁の花弁をかたどった座金で縁取られている。外周縁にも金銅製環を嵌めて縁取りを施し

ている。本体は木胎で、天井部外面には轆轤挽きによって三重の同心円区画を作り出しており、一区画約４㎝幅に整えている。内外面全体に黒色系漆を塗り、最も外側の同心円区画には平蒔絵による菊花文を施している。数ある鎌倉の出土品の中でも､類を見ない優品である。本報告には間に合わなかったが、蛍光Ｘ線などによる分析、および保存修理を外部委託しているので、そのデータが揃った段階で、紙面を改めて報告の機会をもちたい。511 の不明鉄製品は武具・馬具の類と考えてはいるが、現時点までに明確な用途を把握するには至らなかった※。半円形の環状板に有孔の突起を作り出す。片面側（表面）の外縁部に細かなキザミを入れ、剥離は進んでいたものの、表裏面ともに黒色系漆を塗って仕上げられていたようである。表面には左右一対の小孔があき、そこに鋲軸と思しき鉄製品が遺存していた。この鋲によって、皮革製品など他の部材に固定されていたのかもしれない。

※本編の入稿後、これと似た形の銅製品が分銅型の飾り金具などとして報告されている２つの事例を知った（「北条時房・顕時邸跡　雪ノ下一丁目 273 番ロ地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書４』47・49 ページ所載　1988 年　鎌倉市教育委員会）・(『若宮大路周辺遺跡群　御成町 778 番 1 他 13 筆』90・96 ページ所載　2021 年　㈱イビソク)。博捜すれば、他にも類例が見つかるかもしれない。

表３　出土遺物カウント・計量表

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
Ⅱ区　1a面　ピット5				
ロクロかわらけ	大・中			15
Ⅱ区　1a面　ピット6				
ロクロかわらけ	大・中			23
Ⅱ区　1a面　ピット7				
ロクロかわらけ	大・中			498
	小片			12
	C′ 大			166
Ⅱ区　1a面　ピット8				
東濃型	山茶碗か		1	2
Ⅱ区　1a面　ピット9				
ロクロかわらけ	小			19
	大・中			20
	小片			29
常滑	甕		1	54
Ⅱ区　1a面　ピット10				
ロクロかわらけ	小片			11
瀬戸	柄付片口か		1	41
Ⅱ区　1a面　ピット11				
ロクロかわらけ	大・中			6
Ⅱ区　1a面　ピット12				
ロクロかわらけ	大・中			17
Ⅱ区　1a面　ピット13				
ロクロかわらけ	大・中			8
Ⅱ区　1a面　溝1a				
ロクロかわらけ	小			58
	大・中			260
	小片			21
常滑（7型式まで）	甕		78	7078
瓦	丸瓦	男瓦A	1	39
石製品	軽石(磨石か)		1	62
Ⅲ区　1a面　ピット14				
ロクロかわらけ	小			22
	大・中			39
Ⅲ区　1a面　ピット15				
ロクロかわらけ	大・中			7
	小片			20
常滑	甕		1	23
瓦	平瓦	or火鉢	1	30
Ⅲ区　1a面　ピット16				
ロクロかわらけ	大・中			11
Ⅲ区　1a面　ピット17				
ロクロかわらけ	小			2
	大・中			22
常滑	甕		1	20
Ⅲ区　1a面　ピット18				
ロクロかわらけ	大・中			5
Ⅲ区　1a面　西側落ち込み				
ロクロかわらけ	大		1	152
瓦質土器	火鉢	ⅠB	3	334
ⅠB区　1b面　竪穴1				
ロクロかわらけ	小			440
	大・中			1846
	小片			240
	C大・中			145
	C′ 小			50
白磁	碗	X-1b	1	11
龍泉窯系青磁		Ⅲ	1	1

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ⅠB区　1b面　竪穴1				
瓦器質	坏		1	2
瓦質土器	香炉		2	14
	火鉢	Ⅲ	1	150
			3	100
瀬戸	入子		1	2
	折縁深皿	or洗	3	44
	壺類		1	12
鉄製品	釘		1	3
	火打金		1	13
常滑（8型式まで）	片口鉢	Ⅰ	1	40
		Ⅱ	9	400
	甕		9	445
東濃型	山茶碗		1	3
備前	すり鉢		2	29
銅製品	銭		2	7
	銭か		1	1未満
木製品	円板		1	
ⅠB区　1b面　竪穴2				
ロクロかわらけ	小			84
	大・中			900
	小片			30
	C大・中			50
鉄製品	釘		1	5
	鉄滓		1	100
土製品	鞴羽口		2	80
ⅠB区　1b面　溝1b				
ロクロかわらけ	小		1	397
	大・中		1	2897
	小片		1	60
	C大・中		1	65
瀬戸	卸皿		1	39
瓦器質	黒縁坏		1	2
鉄製品	釘		1	3
ⅠB区　1b面　土坑1				
ロクロかわらけ	大・中			39
白磁	小片		1	1
常滑	甕		1	30
瓦器質	坏		1	7
ⅠB区　1b面　ピット1				
ロクロかわらけ	大・中			38
ⅠB区　1b面　ピット2				
ロクロかわらけ	小			27
	大・中			32
備前	すり鉢		3	17
ⅠC区　1b面　ピット3				
ロクロかわらけ	小			15
	大・中			104
	小片			41
	C大・中			46
常滑	甕		1	28
鉄製品	鉄滓		1	69
ⅠC区　1b面　ピット4				
ロクロかわらけ	大・中			25
ⅠD区　1b面　土坑3				
ロクロかわらけ	小			9
	大・中			110
	C大・中			49
常滑	片口鉢	Ⅰ		8
東濃型	山茶碗		1	12

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
Ⅱ区　1b面　板壁1				
ロクロかわらけ	小			50
	大・中			195
瓦質土器	火鉢		1	26
Ⅱ区　1b面　土坑2				
ロクロかわらけ	大・中			255
	小片			100
	C大・中			230
Ⅱ区　1b面　ピット14				
ロクロかわらけ	大・中			13
Ⅱ区　1b面　ピット15				
ロクロかわらけ	大・中			14
Ⅱ区　1b面　ピット16				
ロクロかわらけ	小			3
	大・中			25
	小片			38
Ⅱ区　1b面　ピット17				
ロクロかわらけ	小			9
Ⅱ区　1b面　ピット18				
ロクロかわらけ	大・中			42
Ⅱ区　1b面　ピット19				
ロクロかわらけ	大・中			12
Ⅱ区　1b面　ピット20				
ロクロかわらけ	大・中			23
Ⅱ区　1b面　溝1b				
ロクロかわらけ	小			28
	大・中			273
	小片			20
	C小			3
	C大・中			178
Ⅱ区　1b面　板壁1				
ロクロかわらけ	大			190
白磁	皿	Ⅸ	1	5
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ	3	10
東濃型	山茶碗		1	11
瓦質土器	火鉢	ⅠB	18	1596
瓦器質	坏		2	8
銅製品	銭		2	6
木製品	漆器皿		5	
ⅠB区　2面　溝1下層				
ロクロかわらけ	小			100
	大・中			1032
	小片			150
	C小			100
ⅠB区　2面　溝2				
ロクロかわらけ	小片			12
ⅠC区　2面　土坑1				
ロクロかわらけ	小			796
	大・中			500
	小片			42
	C小			16
	C大・中			64
常滑（6a型式まで）	片口鉢	Ⅱ	1	32
瓦器質	黒縁坏		2	113
鉄製品	火箸か		1	16
銅製品	不明		1	6
木製品	箸		8	
木製品	折敷		3	
木製品	角棒		5	

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ⅠC区　2面　南側落ち込み				
ロクロかわらけ	小			229
	小片			550
	大・中			1500
	C大・中			710
ⅠC区　2面　南側落ち込み				
瀬戸	卸皿		1	8
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	33
	甕		34	1560
瓦質土器	火鉢		1	6
石製品	仕上砥	鳴滝	1	16
鉄製品	釘		1	1
	鉄滓		4	96
銅製品	銭		2	4
土製品	不明		1	23
自然遺物	獣骨		1	1
Ⅱ区　2面　土間状遺構上				
ロクロかわらけ	小			137
	大・中			839
	小片			18
	C大・中			58
青白磁	梅瓶蓋		1	3
龍泉窯系青磁	碗	ⅡorⅢ	1	4
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	163
	甕		3	395
瓦器質	坏		2	53
石製品	滑石鍋	西彼杵か	1	9
木製品	漆器皿		2	
	漆器椀		1	
	箸		1	
	板状		1	
Ⅱ区　2面　板壁1				
木製品	漆器盆		1	
Ⅱ区　2面　板壁1裏込め				
ロクロかわらけ	大・中			17
Ⅱ区　2面　ピット1				
ロクロかわらけ	大・中			17
Ⅱ区　2面　ピット2				
ロクロかわらけ	小			34
	大・中			44
	小片			27
Ⅱ区　2面　ピット3				
木製品	棒状		1	
	板状		1	
	角材		1	
Ⅱ区　2面　ピット4				
ロクロかわらけ	大・中			23
常滑	甕		1	40
Ⅱ区　2面　ピット5				
ロクロかわらけ	大・中			42
Ⅱ区　2面　ピット6				
ロクロかわらけ	大・中			199
	小片			22
Ⅱ区　2面　ピット7				
ロクロかわらけ	大・中			14
Ⅱ区　2面　ピット8				
ロクロかわらけ	大・中			24
Ⅱ区　2面　ピット9				
ロクロかわらけ	大・中			29

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
Ⅱ区　2面　ピット10				
ロクロかわらけ	小			19
	大・中			19
Ⅱ区　2面　ピット11				
ロクロかわらけ	小			8
	大・中			7
常滑	甕		3	580
Ⅱ区　2面　ピット12				
龍泉窯系青磁	碗・皿		1	4
木製品	箸		10	
木製品	角棒		1	
Ⅱ区　2面　溝1				
ロクロかわらけ	小			18
	大・中			194
Ⅱ区　2面　溝3				
ロクロかわらけ	小			45
	大・中			291
瓦器質	坏		1	1
Ⅱ区　2面　溝4				
ロクロかわらけ	小			25
	大・中			645
	小片			21
	C大・中			135
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	10
		Ⅱ	1	18
瓦質土器	火鉢	ⅠA	1	88
瓦器質	小皿か		1	6
	坏		1	7
銅製品	銭		1	4
自然遺物	種子		1	2
ⅠA区　3a面　土坑1				
ロクロかわらけ	小			33
	大・中		1	184
木製品	箸		4	
木製品	角棒		1	
ⅠC区　3a面　ピット3				
ロクロかわらけ	小			15
	大・中			31
Ⅱ区　3a面　土坑1				
ロクロかわらけ	小			19
	大・中			120
常滑	甕		1	20
木製品	箸		1	
Ⅱ区　3a面　ピット10				
ロクロかわらけ	大・中			10
ⅠA区　3a面　ピット11				
ロクロかわらけ	大・中			8
Ⅱ区3a面　ピット12				
ロクロかわらけ	大・中			34
Ⅱ区　3a面　ピット13				
ロクロかわらけ	大・中			7
Ⅱ区　3a面　ピット14				
ロクロかわらけ	大・中			28
瓦器質	坏		1	2
Ⅱ区　3a面　ピット15				
ロクロかわらけ	大・中			7
Ⅱ区　3a面　ピット16				
ロクロかわらけ	小片			9

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
Ⅱ区　3a面　ピット17				
ロクロかわらけ	小			36
	大・中			214
	C大・中			23
Ⅱ区　3a面　ピット18				
ロクロかわらけ	大・中			39
Ⅱ区　3a面　ピット19				
ロクロかわらけ	小			9
	大・中			31
不明陶器	壺		1	16
瓦器質	坏		1	7
鉄製品	釘		1	2
ⅠB区　3b面　かわらけ集中				
ロクロかわらけ	内折れ極小		1	13
	小		11	637
	大・中		13	1176
	C大・中		1	177
白磁	碗	Ⅸ	1	15
			1	7
瓦器質	内折れ皿		1	17
常滑（6a型式まで）	片口鉢	Ⅰ	1	79

ⅠB区　3b面　ピット1				
ロクロかわらけ	内折れ極小			1
	小			11
	大・中			119
	小片			14
ⅠB区　3b面　ピット2				
ロクロかわらけ	小			27
	大・中			35
	大（墨書）		1	13
ⅠB区　3b面　ピット3				
ロクロかわらけ	大・中			37
瓦器質	黒縁坏		1	3
ⅠC区　3b面　ピット5				
ロクロかわらけ	小			16
ⅠC区　3b面　ピット6				
ロクロかわらけ	大・中			22
ⅠC区　3b面　ピット7				
常滑	甕		1	92
ⅠC区　3b面　ピット8				
常滑	甕		1	25
ⅠC区　3b面　ピット9				
ロクロかわらけ	大・中			6
ⅠD区　3b面　ピット33				
ロクロかわらけ	小			14
	大・中			4
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ	1	4
Ⅱ区　3b面　溝状遺構1				
ロクロかわらけ	小			37
	大・中			149
鉄製品	不明		1	39
Ⅱ区　3b面　ピット20				
ロクロかわらけ	小			27
Ⅱ区　3b面　ピット21				
ロクロかわらけ	小片			20
Ⅱ区　3b面　ピット22				
ロクロかわらけ	小			6

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
Ⅱ区　3b面　ピット23				
ロクロかわらけ	大・中			11
Ⅱ区　3b面　ピット24				
ロクロかわらけ	大・中			70
Ⅱ区　3b面　ピット25				
ロクロかわらけ	小			7
	大・中			86
Ⅱ区　3b面　ピット26				
ロクロかわらけ	小			9
Ⅱ区　3b面　ピット27				
ロクロかわらけ	大・中			9
Ⅱ区　3b面　ピット28				
ロクロかわらけ	小			11
Ⅱ区　3b面　ピット29				
ロクロかわらけ	小			3
	大・中			79
常滑	甕		1	123
瓦質土器	火鉢	ⅠA	1	135
Ⅱ区　3b面　ピット30				
常滑	甕	6a型式	1	57
Ⅱ区　3b面　ピット31				
ロクロかわらけ	小			23
	大・中			16
Ⅱ区　3b面　ピット32				
ロクロかわらけ	小			20
Ⅲ区　3b面　土坑2				
ロクロかわらけ	小			24
	大・中			41
	小片			17
Ⅲ区　3b面　土坑3				
ロクロかわらけ	小			6
	大・中			46
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ	1	8
Ⅲ区　3b面　ピット33				
ロクロかわらけ	小			5
	大・中			17
Ⅲ区　3b面　ピット34				
ロクロかわらけ	小			52
	大・中			40
常滑	甕		1	103
瓦器質	黒縁坏		1	6
石製品	硯石	赤間	1	61
Ⅲ区　3b面　ピット35				
ロクロかわらけ	小片			10
鉄製品	釘		1	2
	刀子		1	7
Ⅲ区　3b面　ピット36				
ロクロかわらけ	小			7
	大・中			61
Ⅲ区　3b面　ピット37				
ロクロかわらけ	大・中			26
ⅠC区　4面　ピット1				
ロクロかわらけ	小		1	49
	大・中			24
舶載施釉陶器	泉州窯系黄釉盤		1	108
Ⅱ区　4面　土坑1				
ロクロかわらけ	小			10
	大・中			102
常滑	甕		1	73

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
Ⅱ区　4面　土坑2				
ロクロかわらけ	小			11
	大・中			48
Ⅱ区　4面　ピット2				
ロクロかわらけ	大・中			9
白かわらけ	小片		1	2
木製品	板状		5	
Ⅱ区　4面　ピット3				
ロクロかわらけ	小			36
	大・中			15
Ⅱ区　4面　ピット4				
ロクロかわらけ	小片			15
Ⅱ区　4面　ピット5				
ロクロかわらけ	大・中			11
常滑	甕		1	54
瓦質土器	火鉢	ⅠA	1	43
Ⅱ区　4面　ピット6				
ロクロかわらけ	大・中			7
瓦器質	黒縁坏		1	4
Ⅱ区　4面　ピット7				
ロクロかわらけ	大・中			12
Ⅲ区　4面　土坑3				
ロクロかわらけ	小			81
	大			61
Ⅲ区　4面　土坑4				
ロクロかわらけ	小			623
	大・中			53
Ⅲ区　4面　土坑5				
銅製品	銭		1	4
Ⅲ区　4面　土坑10				
ロクロかわらけ	小			7
	大・中			11
Ⅲ区　4面　土坑11				
ロクロかわらけ	大・中			16
常滑	甕		1	32
鉄製品	釘		1	3
Ⅲ区　4面　土坑12				
石製品	硯石		1	16
Ⅲ区　4面　土坑13				
ロクロかわらけ	小			17
Ⅲ区　4面　土坑14				
ロクロかわらけ	大・中			15
Ⅲ区　4面　土坑15				
ロクロかわらけ	小			3
	大・中			17
Ⅲ区　4面　土坑16				
ロクロかわらけ	大・中			11
常滑	片口鉢	Ⅱ	2	53
Ⅲ区　4面　土坑17				
ロクロかわらけ	小			17
石製品	硯石	鳴滝	1	5
木製品	漆器皿		1	
Ⅲ区　4面　土坑18				
ロクロかわらけ	小		1	29
Ⅲ区　4面　土坑19				
ロクロかわらけ	小片		1	9
銅製品	銭		1	4

表２　出土遺物カウント・計量表

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
確認調査（試掘）時				
ロクロかわらけ	小			14
	大・中			200
	C中			37
瀬戸	壺類		1	32
常滑	広口壺		1	300
備前	すり鉢		1	16
表面採集・排土山				
ロクロかわらけ	小			23
	大・中			335
	C小			12
	C大・中			33
瀬戸	卸皿		1	54
常滑	甕		1	150
瓦質土器	火鉢		1	64
瓦器質	黒縁坏		1	2
鉄製品	釘		1	5
	鉄滓（碗形滓）		1	5
銅製品	銭		4	13
Ⅱ区　1a面上　西半部落ち込み（遺物包含層）				
ロクロかわらけ	小			394
	大・中			3381
	小片			600
	C小			55
	C大・中			750
白磁	皿	Ⅸ	1	7
常滑	甕		4	465
	転用研磨具	片口鉢Ⅰ	1	31
東播系須恵器	片口鉢		2	63
瓦質土器	火鉢	ⅠB	5	399
瓦器質	黒縁坏		1	3
瓦	丸瓦		1	68
石製品	滑石スタンプ	鍋転用	1	79
	滑石温石	鍋転用	1	275
Ⅱ区　1a面上　遺物包含層				
ロクロかわらけ	小			149
	大・中			3208
	小片			250
	C小			100
	C大・中			310
	C′小		2	86
白磁	碗・皿	Ⅸ	1	2
瓦質土器	火鉢	ⅠB	4	280
		Ⅲ	1	86
			4	340
瀬戸	卸皿	前Ⅳ～中Ⅱ	3	43
常滑（7型式まで）	片口鉢	Ⅰ	1	13
		Ⅱ	7	360
	甕		43	3400
東濃型（第7型式まで）	山茶碗		2	19
石製品	中砥	伊予	2	17
	荒砥	天草	1	757
鉄製品	鉄滓		1	181
銅製品	銭		1	3
Ⅲ区　1a面上　遺物包含層				
石製品	中砥	上野	1	101

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ⅠA区　1b面上　遺物包含層（上層）				
ロクロかわらけ	小			209
	大・中			930
	特大			172
	小片			100
	C中			50
	C大・中			100
手づくねかわらけ	大			14
青白磁	梅瓶		2	61
龍泉窯系青磁	碗	ⅡorⅢ	1	6
常滑	片口鉢	Ⅱ	3	260
	甕		7	350
石製品	仕上砥	鳴滝	1	47
ⅠA区　1b面上　遺物包含層（下層）				
ロクロかわらけ	大・中		2	263
	C中		2	117
	C′小		1	24
白磁	皿	Ⅸ	1	6
同安窯系青磁	碗か	Ⅰ	1	18
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	1	13
瀬戸	入子		1	23
	卸皿		1	4
	瓶類		1	16
石製品	仕上砥	鳴滝	2	45
銅製品	銭		2	7
ⅠB区　1b面上　遺物包含層（上層）				
ロクロかわらけ	小			300
	大・中			1451
	小片			200
	C′小			94
搬入土器	鍔付鍋		1	46
白磁	碗・皿		2	5
龍泉窯系青磁	碗	ⅡorⅢ	2	33
	碗・坏		1	6
青白磁	梅瓶		1	3
瀬戸	入子		1	3
	卸皿		1	27
	瓶類		5	195
常滑	片口鉢	Ⅱ	7	260
	甕		15	890
備前	すり鉢		3	300
瓦質土器	火鉢	Ⅲ	1	413
			3	142
瓦	平瓦		1	51
銅製品	銭		2	3
土製品	鞴羽口		1	25
ⅠB区　1b面上　遺物包含層（下層）				
ロクロかわらけ	小			609
	大・中			3150
	小片			660
	C大・中			240
白磁	小片		2	1
瀬戸	卸皿		5	40
	壺類		1	8
常滑（7型式まで）	片口鉢	Ⅱ	8	640
	甕		5	500
	転用研磨具	甕転用	2	53
渥美	甕		1	85
備前	すり鉢　細片		45	561
瓦質土器	火鉢		3	109
瓦器質	坏		2	5
石製品	仕上砥	鳴滝	1	79
	中砥	伊予	1	19
鉄製品	釘		3	19
土製品	鞴羽口		2	416

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ＩC区　1b面上　遺物包含層（上層）				
ロクロかわらけ	小			1034
	大・中			1485
	小片			2730
	C大・中			700
	C′ 大・中		2	287
白磁	碗	Ⅸ	1	10
青白磁	梅瓶		1	3
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	1	18
	碗・坏		1	9
瀬戸	入子		2	18
	卸皿	後Ⅱ	1	5
	壺類		3	73
常滑（7型式まで）	片口鉢	Ⅱ	6	553
	甕		138	10150
	転用研磨具	甕転用	1	110
東濃型（第7型式）	山茶碗		1	21
東播系須恵器	片口鉢		2	118
備前	すり鉢		1	310
瓦質土器	火鉢	ＩB	3	241
		Ⅲ	3	175
		ⅣA	2	142
			13	634
石製品	硯石	鳴滝	1	73
	仕上砥	鳴滝	2	64
	滑石鍋		1	28
鉄製品	火箸		4	23
	鉄滓		1	70
	不明		1	276
銅製品	銭		6	19
土製品	鞴羽口		4	207
ＩC区　1b面上　遺物包含層（下層）				
ロクロかわらけ	小			240
	大・中			2050
	小片			100
	C小			50
	C大・中			350
常滑	片口鉢	Ⅰ	2	200
		Ⅱ	2	310
	甕		5	200
ＩC区1b面上　炭層				
ロクロかわらけ	小			74
	大・中			1069
	小片			26
	C小			37
	C大・中			58
不明土器			1	6
龍泉窯系青磁	小碗	Ⅲか	1	10
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	27
	甕		3	101
	転用研磨具	甕転用	1	99
瓦質土器	火鉢		1	33
瓦器質	坏		2	13
石製品	滑石鍋	西彼杵	3	118
鉄製品	鉄滓		106	7355
銅製品	銭		1	3
土製品	鞴羽口		54	3919
ＩD区　1b面上　遺物包含層				
ロクロかわらけ	小			256
	大・中			1688
	小片			210
	C小			4
	C大・中			460

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ＩD区　1b面上　遺物包含層				
白磁	碗	Ⅸ	1	7
瀬戸	四耳壺か		2	61
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	11
	甕		1	26
東播系須恵器	片口鉢		5	153
備前	すり鉢		2	31
瓦質土器	火鉢	ＩB	1	127
			5	125
石製品	滑石スタンプ	鍋転用	1	25
鉄製品	釘		1	5
銅製品	銭		1	4
ＩD～Ⅲ区　1b面上　遺物包含層				
ロクロかわらけ	小			142
	大・中			360
	小片			16
	C小			21
	C大・中			41
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	21
		Ⅱ	1	21
	甕		5	250
瓦質土器	火鉢		2	68
Ⅲ区　1b面上　遺物包含層				
ロクロかわらけ	大・中			127
	C中			30
木製品	漆器皿		3	
	漆器椀		3	
	曲物底板か		2	
ＩA区　1b～2面				
ロクロかわらけ	小			216
	大・中			1210
	小片			110
	C小			24
	C大・中			175
青白磁	梅瓶		3	28
瀬戸	入子		2	6
	折縁深皿		2	8
搬入土器	鍋・釜		1	8
常滑	片口鉢	Ⅰか	1	9
		Ⅱ	9	49
渥美	甕		1	18
備前	すり鉢		1	15
瓦質土器	火鉢		1	19
鉄製品	釘		1	2
銅製品	銭		2	20
石	雲母片		1	0
木製品	漆器皿		5	
	漆器椀		3	
	漆器不明		1	
	円板		1	
自然遺物	不明		2	
ＩB区　1b～2面				
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ	1	5
瓦器質	黒縁坏		2	12
Ⅱ区　1a～1b面（泥岩整地層）				
ロクロかわらけ	小			99
	大・中			249
	小片			43
Ⅱ区　1a～1b面（黒色土）				
ロクロかわらけ	小			498
	大・中			3500
	小片			1000
	C大・中			270
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ	1	13

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
瀬戸	入子		1	10
常滑（6b型式まで）	片口鉢	Ⅰ	1	13
		Ⅱ	1	37
	甕		6	360
瓦質土器	火鉢	ⅠB	1	1550
瓦器質	黒縁坏		5	30
石製品	中砥	伊予	1	172
鉄製品	不明		1	81
銅製品	銭		2	4
土製品	鞴羽口		1	121
Ⅲ区　1a～1b面（泥岩整地層）				
ロクロかわらけ	小			1209
	大・中			11380
	小片			2600
	C小			400
	C中			312
	C大・中			3157
	C′小		4	170
白かわらけ	皿（ロクロ）		1	11
白磁	皿	Ⅸ	2	9
	碗	Ⅴ-4bか	1	9
龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ-2	1	8
		Ⅱ-C	1	48
		Ⅲ	1	40
	坏	Ⅲ（大）	1	10
瀬戸	入子		1	36
	卸皿		1	130
常滑（8型式まで）	片口鉢	Ⅰ	3	100
		Ⅱ	19	3015
	甕	～6b	23	1560
瓦質土器	火鉢	ⅠAか	2	200
		ⅠB	5	200
			5	400
瓦器質	黒縁坏		2	17
南伊勢系	鍋・釜		3	34
石製品	硯石	鳴滝	1	99
	中砥	伊予	1	529
	仕上砥	鳴滝	3	73
	仕上砥（16～17c前葉）	鳴滝	1	62
	滑石硯形	鍋転用	1	105
鉄製品	釘		1	1未満
銅製品	銭		3	8
土製品	鞴羽口		2	70
木製品	漆器皿		1	
	曲物底板か		1	
Ⅲ区　1a～1b面（黒色土）				
ロクロかわらけ	小			6
	大・中			65
	小片			15
ⅠB区　1b～2面				
ロクロかわらけ	小			100
	大・中			450
	小片			100
	C大・中			100
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	6
	甕		3	48
ⅠC区　1b～2面				
ロクロかわらけ	小			144
	大・中			280

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
ⅠD区　1b～2面				
ロクロかわらけ	小			346
	大・中			2236
	小片			105
	C小			110
	C大・中			790
白磁	碗・皿	Ⅸ	2	15
龍泉窯系青磁	碗		1	11
舶載施釉陶器	褐釉壺		1	17
尾張型か	碗		1	12
常滑（6a型式まで）	片口鉢	Ⅰ	5	142
	甕		3	49
東濃型	山茶碗		3	11
瓦質土器	火鉢		6	214
瓦器質	坏		1	2
石製品	滑石鍋		1	79
鉄製品	釘		2	3
	鏨か		1	167
銅製品	銭		2	6
骨製品	笄		1	3
木製品	漆器皿		1	
Ⅱ区　1b～2面（板壁1以西）				
ロクロかわらけ	小			90
	大・中			1140
	小片			140
	C大・中			100
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ	3	10
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	7
	甕		4	155
東濃型	山茶碗		1	11
瓦器質	坏		2	8
銅製品	銭		2	6
Ⅱ区　1b～2面（板壁1以東）				
ロクロかわらけ	小			140
	大・中			1125
	小片			310
	C大・中			315
白磁	皿	Ⅸ	1	5
常滑	甕		2	95
瓦質土器	火鉢	ⅠB	18	1596
Ⅱ区　1b面下（水抜き溝）				
ロクロかわらけ	小			156
	大・中			397
	小片			34
	C大・中			31
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	1	14
常滑	片口鉢	Ⅱ	2	77
	甕		2	132
石製品	滑石鍋		1	53
Ⅲ区　1b～2面　まぐそ層				
ロクロかわらけ	小			350
	大・中			1650
	小片			280
	C小			15
	C大・中			200
手づくねかわらけ	小片			20
白磁	皿	Xか	2	12
	合子身		1	3
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ	1	2
瀬戸	入子		1	6
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	65
	甕		5	380
不明陶器			1	10
瓦質土器	火鉢		1	30

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
石製品	軽石研磨具か		1	9
木製品	漆器皿		1	
	漆器椀		1	
	箸		6	
	端材		1	
自然遺物	針葉（松葉か）		1	
Ⅲ区　1b～2面・3b～4面				
ロクロかわらけ	小			450
	大・中			1730
	小片			260
	C大・中			210
手づくねかわらけ	小			24
不明土器			3	15
白磁	皿	Ⅸ	2	5
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ・Ⅲ	11	102
瀬戸	入子		5	21
常滑	片口鉢	Ⅰ	5	94
	甕		5	260
瓦質土器	火鉢		1	99
瓦器質	坏		1	2
石製品	中砥	砥沢	1	26
鉄製品	釘		6	17
	不明		1	21
銅製品	銭		1	5
ⅠB区2面　直上				
ロクロかわらけ	小			14
	大・中			81
常滑	転用研磨具	甕転用	1	55
石製品	仕上砥	鳴滝	1	11
ⅠD区2面　直上				
瓦器質	黒縁坏		1	56
木製品	漆器椀		1	
ⅠB区　2～3b面				
ロクロかわらけ	内折れ極小		2	8
	小			1102
	大・中			5983
	小片			700
	C大・中			400
搬入土器	鍋・釜		1	4
白磁	皿	Ⅸ	4	11
	碗・皿		1	1
青白磁	合子蓋		1	3
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	10	50
			1	2
瓦質土器	火鉢	ⅡA	1	500
瓦器質	黒縁坏		10	74
石製品	中砥	合掌寺	1	39
常滑	甕		3	70
	転用研磨具	甕転用	1	55
渥美	片口碗		1	113
東濃型	山茶碗		1	6
鉄製品	釘		2	12
	火箸		1	7
	刀子		2	28
	火打金		1	17
銅製品	銭		1	4
木製品	漆器椀		1	
繊維	不明		1	
ⅠC区　2～3a面				
ロクロかわらけ	小			150
	大・中			750
	小片			200
	C小			9
	C大・中			200

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
龍泉窯系青磁	碗		1	4
瀬戸	壺類		1	13
常滑	甕		11	600
東播系須恵器	片口鉢		1	46
瓦質土器	火鉢		2	63
瓦器質	黒縁坏		1	7
木製品	棒状		1	

ⅠC区　2～3a面				
石製品	硯石	赤間	1	90
鉄製品	釘		2	4
	鉄滓（碗形滓）		5	700
銅製品	銭		5	16
土製品	鞴羽口		5	200
Ⅱ区　2～3a面（2面　板壁1裏込め下）				
ロクロかわらけ	小			160
	大・中			150
	小片			12
	C小			9
常滑	甕		1	148
Ⅱ区　2～3a面				
ロクロかわらけ	小			50
	大・中			595
	小片			95
	C小			35
	C大・中			37
青白磁	梅瓶蓋		1	2
同安窯系青磁	小片		1	1
瀬戸	入子		1	9
常滑	片口鉢	Ⅱ	4	145
	甕		2	245
瓦質土器	火鉢		1	26
瓦器質	坏		2	7
銅製品	銭		2	7
木製品	箸		2	
	棒状		2	
Ⅲ区　2～3a面				
ロクロかわらけ	内折れ極小			18
	小			4637
	大・中			10634
	小片			1890
	C小			66
	C大・中			1220
南伊勢系	鍋		2	14
搬入土器か	不明		1	3
白磁	碗・皿	Ⅸ	6	50
			2	3
	合子身		1	10
青白磁	梅瓶蓋		2	8
	梅瓶		1	3
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ	8	66
		Ⅲ	10	182
	碗・皿		6	13
	坏	Ⅲ	4	85
瀬戸	入子		1	5
尾張型（第7型式まで）	山茶碗		1	8
常滑（6b型式まで）	片口鉢	Ⅰ	12	690
		Ⅱ	7	840
	甕	6b型式	25	2680
渥美	甕		5	530

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
東濃型	山茶碗		1	13
瓦質土器	火鉢	ⅠA	1	66
			1	22
瓦器質	坏		1	2
	黒縁坏		23	233
瓦	丸瓦		1	91
須恵器	坏か		1	4
石製品	滑石鍋	西彼杵	9	539
	硯石	鳴滝	1	219
	仕上砥	鳴滝奥殿	1	151
		備水	1	123
	中砥	天草	1	704
木製品	漆器皿		2	
	漆塗り雲形		2	
	漆塗り調度具		1	
	箸		36	
	曲げ物底板		1	
	栓		1	
	毬杖球		1	
	棒状		1	
	円板		1	
Ⅲ区　2～3a面				
石	雲母片		1	2
鉄製品	釘		7	23
	刀子		1	5
銅製品	銭		3	10
	環状製品		1	2
骨製品	笄		1	5
ⅠD区　2～3b面				
ロクロかわらけ	小			200
	大・中			553
	小片			53
白磁	皿		1	4
青磁	碗	Ⅲ	2	33
常滑（6a型式まで）	片口鉢	Ⅰ	1	26
	甕		2	67
瓦質土器	火鉢	ⅠA	1	62
			1	83
瓦器質	坏		1	3
銅製品	銭		1	2
ⅠB区　2～3b面				
ロクロかわらけ	大・中		1	8
常滑	甕		1	8
ⅠC区　2～3b面				
ロクロかわらけ	小			197
	大・中			1642
	小片			533
	C大・中			190
常滑（6a型式まで）	甕		10	750
瓦質土器	火鉢		1	50
瓦器質	黒縁坏		2	12
石製品	仕上砥	鳴滝	1	38
鉄製品	釘		1	6
木製品	漆器皿		1	
	漆器鉢か		1	
Ⅱ区　2～3a面				
ロクロかわらけ	小			677
	大・中			3740
	小片			1000
	C大・中			440

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
白磁	碗	Ⅸ	2	10
		X-1か	1	10
青磁	皿		3	8
舶載施釉陶器	緑釉壺か		1	8
瀬戸	入子		2	24
尾張型	山茶碗		1	6
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	52
		Ⅱ	1	13
	甕		9	400
瓦質土器	火鉢	ⅠA	4	200
瓦器質	坏か		1	13
	黒縁坏・小坏		6	18
石製品	滑石鍋再加工品	西彼杵	2	120
	仕上砥	鳴滝	2	13
鉄製品	釘		1	1
木製品	漆器皿		1	
	漆器椀		1	
	箸		3	
ⅠB区　3b面　直上				
ロクロかわらけ	小			490
	大・中			3350
	小片			230
	C大・中			170
白磁	碗	Ⅸ-1a	1	48
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	5	15
石製品	中砥	伊予	1	12
鉄製品	釘		3	6
	工具		1	14
木製品	漆器盆		1	
ⅠC区　3a～3b面				
ロクロかわらけ	小			184
	大・中			1188
	小片			160
	C大・中			210
瀬戸	不明		1	13
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ	2	31
		Ⅲ	1	9
	坏	Ⅲ-3b	2	22
瓦器質	黒縁坏		1	5
木製品	部材		1	
Ⅱ区　3a～3b面				
ロクロかわらけ	小			1859
	大・中			5954
	小片			750
	C大・中			380
	C′ 大・中			85
白磁	碗・皿	Ⅸ	4	21
青白磁	合子蓋か		1	1
	梅瓶		1	8
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ・Ⅲ	7	35
渥美	甕		4	509
尾張型	山茶碗		1	20
瓦質土器	火鉢	ⅠA	12	939
			1	15
瓦器質	坏		4	28
石製品	仕上砥	鳴滝	1	74
瀬戸	入子		1	10
常滑	片口鉢	Ⅰ	4	100
		Ⅱ	2	45
	小壺		1	25
	甕		7	410
鉄製品	釘		1	5
	不明		2	66
銅製品	銭		1	4

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
骨製品	笄		1	3
	加工骨		1	10
ハマグリ殻	漆パレット		1	
Ⅱ区3b面　直上				
ロクロかわらけ	小			150
	大・中			987
木製品	漆器皿		2	
木製品	漆器碗		1	
木製品	用途不明		1	
Ⅲ区3b面　直上				
ロクロかわらけ	小			752
	大			336
鉄製品	刀子		1	29
木製品	漆器椀		1	
ⅠB区　3b～4面				
ロクロかわらけ	小			24
	大・中			162
	小片			35
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	1	11
舶載施釉陶器	泉州窯系黄釉盤		1	25
尾張型	小皿		1	4
瓦器質	坏		1	2
常滑	片口鉢	Ⅰ	5	92
	甕		7	256
	壺類		4	286
石製品	砥石（玉硎ぎか）	砥沢	1	37
鉄製品	火箸		1	19
ⅠC区　3b～4面				
ロクロかわらけ	小			14
	大・中			64
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	34
	甕		11	300
ⅠC区　3b面　直上				
ロクロかわらけ	小			54
	大・中			467
常滑	甕		1	155
石製品	中砥	伊予	1	134
	滑石鍋	西彼杵	1	259
ⅠD区　3b～4面				
ロクロかわらけ	小			130
	大・中			860
	小片			105
白磁	碗		1	7
青白磁	皿		3	2
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	1	15
			2	3
常滑	片口鉢	Ⅰ	6	215
	甕		1	17
瓦質土器	火鉢	ⅠB		134
瓦器質	坏・皿		2	8
鉄製品	毛抜き		1	7
銅製品	銭		1	3
木製品	箸		3	
Ⅱ区　3b～4面				
ロクロかわらけ	小			288
	大・中			584
	小片			99
	C′ 中		1	73
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ	3	13
	坏（大）	Ⅲ	1	26
常滑（6a型式まで）	片口鉢	Ⅰ	1	17
	広口壺		1	34
	甕		10	525
石製品	硯石	鳴滝	1	65

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
鉄製品	釘		1	8
	刀子か		2	19
	不明		2	45
銅製品	銭		1	3
土製品	有孔円盤		1	5
木製品	漆器皿		2	
Ⅲ区　3b～4面				
ロクロかわらけ	小			157
	大・中			895
	小片			30
渥美	甕		2	259
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	40
		Ⅱ	1	191
	甕		1	75
鉄製品	掛金具		1	31
	針（釣針か）		1	1未満
木製品	漆器皿		2	
木製品	漆塗り横櫛		1	
木製品	板状		1	
ⅠD区　4面下～中世基盤層				
ロクロかわらけ	大・中			14
常滑	三筋壺		1	30
Ⅲ区　4面下～中世基盤層				
ロクロかわらけ	大・中			70
	小片			15
手づくねかわらけ	大			11
渥美	甕		1	35
石製品	碁石		1	2
鉄製品	不明		1	39

表４　出土遺物観察表

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図12 1	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	7.6	5.1	1.6	47	C+E	橙	ナデ	板状	
図12 2	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口1/4～底完存	12.8	7.5	3.4	[166]	D	黄橙	ナデ	板状	C′ 未貫通の穿孔1ヶ所
図12 3	国産陶器	常滑 甕	口1/7	(21.2)	—	[9.8]	[3494]		黄灰～暗灰黄			
図12 4	国産陶器	常滑 甕	口小片	—	—	[9.4]	[511]		灰			
図12 5	国産陶器	常滑 甕	口4/5～底完存	20.6	16.2	33.9	[6050]		橙～褐灰			広口壺 6b～7型式
図12 6	石製品	磨石ヵ	完形	4.7	3.8	3.5	62		明褐灰			軽石 全面研磨痕
図12 7	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.4	1.7	51	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図12 8	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.4	1.5	41	C+B	黄灰	ナデ	板状	
図12 9	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.9	5.7	1.6	[52]	B	黄灰	ナデ	—	
図12 10	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.8	5.5	1.7	[54]	B	黄灰	ナデ	板状	
図12 11	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.3	1.8	44	C+B	黄橙	ナデ	—	
図12 12	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	6.8	4.2	2.0	[25]	C	橙	ナデ	板状	口縁部煤付着 内外面薄く剥離
図12 13	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.2	4.7	2.0	[40]	C+B	黄灰	ナデ	板状	
図12 14	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	11.8	7.0	1.6	137	C+B	黄橙	ナデ	板状	
図12 15	国産陶器	瀬戸 卸皿	2/3	(12.4)	(7.6)	3.4	[124]		灰			
図12 16	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.6	0.1	3					元豊通寶 北宋1078年 篆書
図13 17	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	4.5	2.0	44	C+B	黄橙	ナデ	板状	
図13 18	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/4～底完存	(7.4)	5.0	1.9	[43]	B	黄灰	ナデ	板状	
図13 19	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.3	2.1	53	C+B	黄橙	ナデ	板状	
図13 20	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.9	8.3	3.4	[136]	C	橙	ナデ	板状	
図13 21	鉄製品	火打ち金	一端欠	(10.2)	1.0	0.4	[11]					
図13 22	鉄製品	釘	完形	(6.3)	0.5	0.3	3					
図13 23	銅銭	銭	完形	外径 2.3	方孔径 0.8	0.1	4					紹興元寶ヵ 南宋1131年 篆書
図13 24	銅銭	銭	完形	外径 2.3	方孔径 0.7	0.1	3					熙寧元寶 北宋1068年 真書
図13 25	木製品	円盤状	完形	6.7	5.8	0.2						全体に細かい圧痕
図13 26	在地土器	ロクロ かわらけ・小	1/2強	7.8	5.3	1.7	[34]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図13 27	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.3	9.1	2.8	[150]	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部一部うすく煤付着
図13 28	鉄製品	釘	一端欠	[6.7]	0.5	0.4	[5]					
図13 29	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口3/4～底完存	11.9	8.1	3.6	[169]	B	灰黄	ナデ	板状	
図13 30	国産陶器	常滑 転用研磨具	完形	6.0	8.4	1.4	99		褐			
図13 31	土製品	鞴羽口	—	[8.6]	径 7.4	孔径 2.8	[284]		黄灰			先端にスラグ融着
図13 32	土製品	鞴羽口	—	[9.7]	径 7.9	孔径 3.1	[436]		黄灰			先端にスラグ融着
図13 33	土製品	鞴羽口	—	[9.1]	径 7.6	孔径 3.2	[286]		黄灰			先端にスラグ融着
図13 34	土製品	鞴羽口	—	[8.3]	径 6.5	孔径 2.4	[267]		黄灰			先端にスラグ融着
図13 35	土製品	鞴羽口	—	[10.4]	径 7.1	孔径 2.5	[286]		黄灰			先端にスラグ融着

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図1336	土製品	鞴羽口	—	[6.8]	径 7.0	孔径 2.7	[215]		黄灰			先端にスラグ融着
図1337	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.6	0.1	3					紹聖元寶 北宋1094年 行書
図1438	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.8	4.3	2.5	[49]	B+C	灰黄	ナデ	板状	
図1439	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.3	4.9	1.7	[50]	B	黄灰	ナデ	板状	
図1440	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口3/4～ 底完存	12.6	8.2	3.5	[172]	B	黄橙	ナデ	板状	
図1441	在地土器	ロクロ かわらけ・小	一部欠	7.9	5.9	2.2	[69]	B	黄灰	ナデ	板状	
図1442	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	10.6	6.1	2.9	104	C	黄灰	ナデ	板状	C 内外面黒変
図1443	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	4.9	1.8	[57]	B	黄灰	ナデ	板状	
図1444	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.2	5.4	1.9	[57]	B	黄灰	ナデ	板状	
図1445	石製品	砥石	一端欠	[3.5]	3.2	[0.7]	[16]		灰白			鳴滝仕上砥
図1446	銅製品	銭	1/2	外径 —	方孔径 —	0.1	[1]					解読不能
図1447	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.6	0.1	3					解読不能
図1448	在地土器	ロクロ かわらけ・小	一部欠	7.6	5.7	1.7	[45]	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図1449	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.2	7.0	3.5	[146]	C+B	黄橙	ナデ	板状	
図1450	搬入土器	瓦器質 坏	1/8弱	(17.9)	(6.1)	4.7	[52.6]		灰～黒			底部に粘土紐痕
図1451	木製品	用途不明	一端欠	[18.1]	4.9	0.6						表裏面にキズ
図1452	在地土器	ロクロ かわらけ・小	7/8	11.1	7.1	3.5	[130]	B	橙	ナデ	板状	内底ナデ強い 全体に焼け歪み
図1453	木製品	箸	完形	22.3	0.8	0.4						
図1454	木製品	箸	完形	22.1	0.7	5.6						
図1455	木製品	箸	完形	23.0	0.6	0.4						
図1456	木製品	箸	完形	21.2	0.7	0.5						
図1457	木製品	用途不明	完形	7.2	3.9	3.0						加工途中ヵ
図1558	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	5.6	1.6	49	B	灰黄	ナデ	板状	
図1559	在地土器	ロクロ かわらけ・小	一部欠	7.3	5.6	1.5	[39]	B	黄橙	ナデ	板状	
図1560	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.0	5.0	1.9	[43]	B	黄灰	ナデ	板状	
図1561	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	5.6	1.9	54	B	灰黄	ナデ	板状	
図1562	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2～ 底完存	7.2	5.0	1.9	[40]	B	橙	ナデ	板状	
図1563	在地土器	ロクロ かわらけ・小	一部欠	7.6	5.0	2.0	[43]	B	灰黄	ナデ	板状	
図1564	在地土器	ロクロ かわらけ・小	一部欠	7.4	5.3	1.7	[47]	B	黄灰	ナデ	板状	打ち欠き
図1565	在地土器	ロクロ かわらけ・小	一部欠	7.3	5.0	1.8	[46]	B	灰黄	ナデ	板状	
図1566	搬入土器	黒縁瓦器質 坏	完形	11.4	6.2	3.5	112		灰			
図1567	銅製品	用途不明	完形	5.4	2.3	0.8	6					所々に黒色の付着物
図1568	鉄製品	火箸ヵ	一部欠	23.9	径 0.5	金環径 0.9	[16]					柄の装着部に金輪 木質の繊維痕
図1569	木製品	箸	完形	24.6	0.7	0.5						
図1570	木製品	箸	完形	24.6	0.6	0.3						

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図1571	木製品	箸	完形	23.9	0.6	0.4						
図1572	木製品	箸	完形	23.9	0.6	0.5						
図1573	木製品	折敷	—	19.6	[7.5]	0.2						
図1574	木製品	棒状製品	完形	17.4	0.8	0.3						
図1575	木製品	棒状製品	完形	15.2	1.0	0.6						
図1576	木製品	棒状製品	完形	14.5	0.6	0.6						
図1577	在地土器	ロクロかわらけ・極小	完形	4.7	3.4	0.9	13	C	橙	ナデ	—	内折れ
図1578	瓦質土器	内折れ皿	3/4	5.5	5.2	0.9	[17]		灰白	ナデ	—	
図1579	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.3	5.4	1.7	[48]	B	橙	ナデ	板状	内外面一部黒変
図1580	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.7	1.6	6.1	[56]	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部内外面煤付着
図1581	在地土器	ロクロかわらけ・小	2/3	7.5	5.3	1.7	[51]	B	黄灰	ナデ	—	
図1582	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.5	5.3	1.5	[59]	B	黄灰	ナデ	—	
図1583	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.9	5.8	1.7	56	B	黄灰	ナデ	—	
図1584	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.4	6.0	1.6	[57]	B	黄灰	ナデ	—	
図1585	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.5	5.1	1.7	41	B	橙	ナデ	—	
図1586	在地土器	ロクロかわらけ・小	口2/3～底完存	7.5	5.0	1.7	[39]	C+E	黄灰	ナデ	板状	
図1587	在地土器	ロクロかわらけ・小	口3/4～底完存	7.6	5.4	1.9	[59]	B	黄橙	ナデ	板状	
図1588	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.8	5.5	1.9	62	B	黄橙	ナデ	板状	
図1589	在地土器	ロクロかわらけ・小	口2/3～底完存	7.1	4.8	1.9	[35]	C+B	黄灰	ナデ	板状	
図1590	在地土器	ロクロかわらけ・大	2/3	12.4	7.5	3.6	[157]	B	橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図1591	在地土器	ロクロかわらけ・大	ほぼ完形	12.4	8.0	3.5	[191]	B	黄灰	ナデ	板状	
図1592	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	12.0	8.1	3.2	[160]	B	橙	ナデ	板状	
図1593	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	12.1	7.8	3.2	[164]	B	黄灰	ナデ	板状	
図1594	在地土器	ロクロかわらけ・大	3/4	12.5	8.2	3.2	[140]	B	橙	ナデ	—	
図1595	在地土器	ロクロかわらけ・大	ほぼ完形	12.4	8.7	3.4	[154]	B	黄橙	ナデ	—	
図1596	在地土器	ロクロかわらけ・大	口一部欠	12.1	7.6	3.1	[138]	B	黄橙	ナデ	板状	
図1597	在地土器	ロクロかわらけ・大	ほぼ完形	13.0	7.7	3.3	[165]	B	黄橙	ナデ	板状	
図1598	在地土器	ロクロかわらけ・大	ほぼ完形	12.4	8.4	3.4	[170]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図1599	在地土器	ロクロかわらけ・大	ほぼ完形	12.4	8.2	3.3	[162]	B	黄橙	ナデ	—	
図15100	在地土器	ロクロかわらけ・大	1/2	12.8	8.6	3.2	[152]	B	黄橙	—	板状	口縁部煤付着
図15101	在地土器	ロクロかわらけ・大	2/3	12.9	8.2	3.5	[141]	B	黄橙	ナデ	板状	
図15102	在地土器	ロクロかわらけ・大	ほぼ完形	13.1	8.7	3.2	[185]	B	黄灰	ナデ	板状	
図16103	在地土器	ロクロかわらけ・大	底部片	—	—	(1.0)	[13]		黄灰	ナデ	板状	墨書
図16104	鉄製品	不明	—	[13.4]	1.8	0.3	[39]					釘状具が貫通
図16105	在地土器	ロクロかわらけ・小	口5/6～底完存	7.9	5.6	1.7	[52]	B	灰黄褐			口縁部1ヶ所打ち欠く 口縁部煤付着

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図16 106	石製品	硯	完形	8.1	4.5	1.1	61		暗赤褐			赤間ヶ関 鎌倉手 楕円形四葉硯を再加工
図16 107	鉄製品	釘	完形	4.4	0.6	0.4	2					
図16 108	鉄製品	刀子	一端欠	[9.1]	1.2	0.2	7					
図16 109	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	6.0	1.7	49	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 110	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	5.0	1.8	42	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 111	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	6.1	1.5	49	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 112	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.1	5.7	1.8	51	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 113	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	5.0	1.7	57	B+E	黄灰	ナデ	板状	
図16 114	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.7	5.7	1.5	[40]	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 115	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.9	5.6	1.7	45	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 116	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.7	1.7	42	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 117	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.6	1.8	48	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 118	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.7	1.8	41	B	橙	ナデ	板状	
図16 119	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.8	1.7	45	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 120	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.8	6.1	1.7	[39]	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 121	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.1	5.6	1.8	[49]	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 122	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.0	5.5	1.7	58	B	灰黄	ナデ	板状	
図16 123	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.2	5.5	2.0	[50]	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 124	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.9	5.3	1.6	50	B+E	灰黄	ナデ	板状	
図16 125	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.1	7.4	3.4	160	B	黄橙	ナデ	板状	
図16 126	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口3/4～ 底完存	12.3	7.5	3.3	[147]	B	灰黄	ナデ	板状	
図16 127	鉄製品	刀子	完形	[18.3]	1.8	0.3	29					
図16 128	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	5.3	1.2	[38]	B+E	黄	ナデ	板状	
図16 129	在地土器	ロクロ かわらけ・小	1/2	7.7	4.7	1.2	[24]	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 130	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口2/3～ 底完存	7.6	5.1	1.3	[31]	B+E	黄	ナデ	板状	
図16 131	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.6	5.3	1.2	[29]	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 132	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口3/4～ 底完存	7.9	5.8	1.2	[32]	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 133	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/3～ 底2/3	(7.6)	5.7	1.3	[17]	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 134	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.1	5.8	1.4	44	B+E	黄	ナデ	板状	
図16 135	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口3/3～ 底完存	7.8	5.4	1.3	[37]	B+E	橙	ナデ	—	
図16 136	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.8	5.4	1.3	[37]	C+E	橙	ナデ	板状	
図16 137	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	5.2	1.4	[34]	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 138	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口4/5～ 底完存	8.0	5.6	1.4	[39]	B+E	黄	ナデ	板状	
図16 139	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口3/4～ 底4/5	8.1	4.9	1.3	[37]	B+E	黄	ナデ	板状	
図16 140	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.9	5.8	1.4	[44]	B+E	灰黄	ナデ	板状	

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図16 141	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.6	4.8	1.5	39	B+E	黄褐	ナデ	板状	
図16 142	在地土器	ロクロかわらけ・小	1/3	(8.0)	(5.0)	1.5	[18]	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 143	在地土器	ロクロかわらけ・小	1/2	7.8	5.4	1.5	[34]	B+E	黄褐	ナデ	板状	
図16 144	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.7	0.1	4					元豊通寶 北宋1078年 篆書
図16 145	鉄製品	釘	完形	5.0	0.7	0.3	3					
図16 146	石製品	硯	小片	[2.8]	[3.9]	0.7	[4.8]		暗灰			鳴滝硯
図16 147	在地土器	ロクロかわらけ・小	1/2	(7.7)	(6.2)	1.5	[29]	B	灰黄	ナデ	板状	
図16 148	銅製品	銭	完形	外径 2.5	方孔径 0.6	0.1	4					淳化元寶 北宋990年 真書
図17 149	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.6	0.1	3					嘉定通寶 南宋1208年
図17 150	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.2	5.6	1.8	[56]	B	灰黄	ナデ	板状	
図17 151	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	8.0	5.2	2.1	[51]	B	灰黄	ナデ	—	
図17 152	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.9	5.2	1.8	[52]	B	灰黄	ナデ	板状	
図17 153	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	13.0	8.4	3.8	[172]	B	橙	ナデ	板状	
図17 154	舶載磁器	青白磁梅瓶	口唇部	3.5	—	[2.3]	[27]		水色半透明			
図17 155	石製品	砥石	一端欠	[6.1]	3.8	2.0	[47]		淡黄			
図17 156	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	6.8	1.9	1.6	[24]	B	橙	ナデ	板状	C
図17 157	在地土器	ロクロかわらけ・中	3/5	10.9	6.0	3.2	[73]	C	灰黄	ナデ	板状	口縁部に煤付着 燈明皿として使用
図17 158	在地土器	ロクロかわらけ・中	1/2	(10.7)	(6.3)	3.0	[44]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図17 159	在地土器	ロクロかわらけ・大	4/5	11.6	6.8	3.2	[109]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図17 160	在地土器	ロクロかわらけ・大	3/4	12.2	7.0	3.4	[154]	B	灰黄	ナデ	板状	
図17 161	銅製品	銭	完形	外径 3.1	方孔径 0.8	0.1	5					熙寧重寶 北宋1071年 真書
図17 162	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.6	0.1	2					皇宋通寶 北宋1038年 真書
図17 163	石製品	砥石	一端欠	[5.3]	3.5	0.9	[30.6]		黄橙			主に1面使用
図17 164	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	7.4	5.0	1.5	[39]	C+B	黄橙	ナデ	板状	
図17 165	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	8.0	5.2	2.0	[59]	C+E	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図17 166	在地土器	ロクロかわらけ・小	口1/2～底完存	7.5	4.7	2.2	46	B	橙	ナデ	板状	C′　口縁部煤付着 口縁部打ち欠きヵ
図17 167	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.8	4.3	2.3	[49]	C	黄橙	ナデ	板状	C′　煤付着 口縁部打ち欠きヵ
図17 168	在地土器	ロクロかわらけ・大	口1/3～底完存	13.2	7.6	3.4	[181]	C+E	黄橙	ナデ	板状	
図17 169	瓦質土器	火鉢	体片	—	—	12.2	[388]					菊花押印
図17 170	搬入土器	鍔付鍋	口小片	—	—	[4.9]	[46]		乳白			
図17 171	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.8	0.1	2					天聖元寶 北宋1023年 篆書
図17 172	銅製品	銭	一部欠	外径 2.3	方孔径 0.7	0.1	1					至和元寶 北宋1054年 真書
図17 173	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.8	5.5	1.5	[52]	B	黄灰	ナデ	板状	
図17 174	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.0	4.3	2.1	[39]	C	黄橙	ナデ	板状	
図17 175	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.2	4.3	2.0	[48]	B	黄灰	ナデ	板状	

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図17 176	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	7.4	4.2	2.2	[30]	C+E	橙	ナデ	—	底部2ヶ所に穿孔
図17 177	国産陶器	常滑転用研磨具	完形	3.9	4.4	1.0	26		褐			
図17 178	国産陶器	常滑転用研磨具	完形	3.8	5.2	1.1	27		橙			
図17 179	土製品	鞴羽口	—	[9.8]	径8.6	孔径3.1	[350]		黄灰			先端にスラグ付着
図17 180	石製品	砥石	一端欠	[9.7]	3.8	1.1	[78]		灰赤～暗灰			鳴滝仕上砥
図18 181	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.8	6.0	1.9	[52]	B	黄灰	ナデ	板状	
図18 182	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.7	5.6	1.5	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	
図18 183	在地土器	ロクロかわらけ・小	口2/3～底完存	7.7	5.3	1.8	[52]	B	橙	ナデ	板状	
図18 184	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.7	5.3	1.9	[52]	B	黄灰	ナデ	板状	
図18 185	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.8	4.8	1.8	[52]	B	黄灰	ナデ	板状	
図18 186	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.7	5.4	1.9	[56]	B	黄灰	ナデ	板状	
図18 187	在地土器	ロクロかわらけ・小	口1/3～底完存	7.9	4.6	2.4	[56]	D	灰黄	ナデ	板状	
図18 188	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.7	4.7	2.5	[50]	C+B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図18 189	在地土器	ロクロかわらけ・小	一部欠損	7.4	4.1	2.3	[37]	C	灰黄	ナデ	板状	内外面煤付着
図18 190	在地土器	ロクロかわらけ・小	1/2	7.6	5.5	1.8	[28]	B	灰黄	ナデ	板状	底部2ヶ所に穿孔
図18 191	在地土器	ロクロかわらけ・大	口2/5～底完存	(12.2)	7.0	3.0	[139]	B	黄橙	ナデ	板状	
図18 192	在地土器	ロクロかわらけ・大	口2/3～底完存	12.2	6.4	3.6	[139]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C′
図18 193	在地土器	ロクロかわらけ・大	2/3	12.8	7.8	3.0	[119]	B	黄灰	ナデ	板状	
図18 194	在地土器	ロクロかわらけ・大	口3/5～底完存	13.2	7.7	3.3	[148]	C+B	黄灰	ナデ	板状	C′
図18 195	国産陶器	瀬戸入子	口1/6～底完存	(5.1)	3.3	1.5	[15]		灰白			
図18 196	国産陶器	常滑転用研磨具	完形	7.1	9.0	1.3	110		褐			
図18 197	石製品	砥石	両端欠	[7.0]	3.4	0.7	[30]		緑白			鳴滝仕上砥
図18 198	石製品	砥石	一端欠	[3.9]	3.6	1.3	[33]		灰赤			産地不明仕上砥
図18 199	鉄製品	用途不明	小片	[10.5]	[5.6]	1.3	[144]					
図18 200	鉄製品	用途不明	一端欠	[4.0]	0.9	0.4	[5]					
図18 201	銅製品	銭	完形	外径2.4	方孔径0.5	0.1	4					淳化元寶 北宋990年 真書
図18 202	銅製品	銭	完形	外径2.4	方孔径0.6	0.1	3					天禧通寶 北宋1017年 真書
図18 203	銅製品	銭	完形	外径2.4	方孔径0.8	0.1	4					皇宋通寶 北宋1038年 篆書
図18 204	銅製品	銭	完形	外径2.3	方孔径0.7	0.1	2					皇宋通寶 北宋1038年 篆書
図18 205	銅製品	銭	完形	外径2.4	方孔径0.6	0.1	3					皇宋通寶 北宋1038年 篆書
図18 206	銅製品	銭	完形	外径2.4	方孔径0.7	0.1	3					熙寧元寶 北宋1068年 篆書
図18 207	銅製品	銭	完形	外径2.4	方孔径0.6	0.1	3					天聖元寶 北宋1023年 真書
図19 208	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	(7.8)	4.3	2.0	[49]	B	灰黄	ナデ	板状	体部外面の一部、褐色に変色
図19 209	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	(7.6)	4.9	1.8	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	
図19 210	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	7.8	5.1	1.8	[46]	B	灰黄	ナデ	板状	

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm) 口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	重量(g)	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
図19 211	国産陶器	東播系須恵器 片口鉢	口小片	—	—	[3.0]	[12]		灰			二次的に被熱ヵ
図19 212	国産陶器	東播系須恵器 片口鉢	底小片	—	(7.6)	[2.0]	[108]		灰			
図19 213	石製品	滑石鍋転用 スタンプ	一端欠	[3.3]	3.4	1.8	[25]		白			鍋の内面側と鍔外面に陽刻文
図19 214	銅製品	銭	完形	外径 2.5	方孔径 0.6	0.1	4					元豊通寶 北宋1078年 篆書
図19 215	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/8～ 底完存	7.8	5.3	1.7	[49]	B	橙	ナデ	板状	
図19 216	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口2/3～ 底完存	7.4	4.7	2.0	[34]	C+B	黄橙	ナデ	—	C′
図19 217	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口縁部 一部欠	7.6	5.0	2.2	[52]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C′
図19 218	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口3/4～ 底完存	12.7	8.2	3.4	[151]	B	黄橙	ナデ	板状	
図19 219	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口欠～ 底完存	—	7.7	3.5	[147]	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部二次加工ヵ
図19 220	国産陶器	瀬戸 卸皿	口1/4	(13.7)	—	[3.4]	[39]		灰			
図19 221	国産陶器	東濃型 山茶碗	底部片	(12.2)	(4.2)	4.0	[19]		灰			7型式 明和ヵ
図19 222	石製品	砥石	両端欠	(12.9)	5.8	7.3	[559]		明赤灰			天草荒砥(16c以降ヵ)
図19 223	銅製品	銭	完形	外径 2.3	方孔径 0.6	0.1	3					聖宋元寶 北宋1101年 行書
図19 224	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2弱 ～ 底完存	7.6	5.4	1.7	[41]	B	黄橙	ナデ	板状	
図19 225	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.9	5.7	1.9	[43]	B	黄灰	ナデ	板状	
図19 226	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口1/4～ 底完存	12.2	7.6	3.1	[136]	C+E	黄橙	ナデ	板状	
図19 227	国産陶器	常滑 転用研磨具	完形	4.3	6.2	0.8	31		灰			片口鉢Ⅰ類片を再利用
図19 228	石製品	滑石鍋転用 スタンプ	完形	6.4	4.5	1.5	79		灰			
図19 229	石製品	滑石鍋転用 温石	一端欠	(7.5)	9.0	2.0	[273]		灰			
図19 230	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	4.8	1.9	47	C+B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図19 231	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.9	4.9	1.8	47	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図19 232	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口1/6～ 底完存	(11.6)	7.9	2.9	[152]	B	灰黄褐	ナデ	板状	
図19 233	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.0	7.9	3.4	162	B	橙	ナデ	板状	
図19 234	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口3/5～ 底完存	12.5	8.0	3.4	[168]	B	橙	ナデ	板状	口縁部2カ所に煤付着
図19 235	石製品	砥石	両端欠	[8.2]	4.1	1.8	[101]		淡緑			上野中砥 4面使用
図20 236	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	7.6	5.1	1.6	47	B	橙	ナデ	板状	C′
図20 237	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	4.7	1.8	[48]	C+B	黄灰	ナデ	板状	
図20 238	石製品	砥石	両端欠	(6.8)	4.7	3.7	[172]		灰白			伊予中砥 4面使用
図20 239	鉄製品	用途不明 板状	小片	[6.8]	[7.1]	0.3	[78]					
図20 240	銅製品	銭	1/2	外径 2.4	方孔径 0.6	0.1	[1]					銭種不明
図20 241	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.7	0.1	3					元符通寶 北宋1098年 篆書
図20 242	搬入土器	ロクロ かわらけ・小	口1/8～ 底2/3	(8.0)	(5.7)	1.6	24	異質	灰白			在地土器とは異なる胎土 精緻（泥岩に近い感）
図20 243	国産陶器	瀬戸 広口壺ヵ	小片	—	—	[4.8]	[85]		灰			中期様式前半 貼花文 鉄釉流し掛け
図20 244	石製品	磨石ヵ	一部欠	9.8	8.4	3.8	462		灰白			片面に焦げ
図20 245	鉄製品	釘	完形	13.1	1.0	0.7	17					

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図20 246	鉄製品	釘	完形	8.2	0.7	0.4	5					
図20 247	鉄製品	釘	一端欠	[5.9]	0.8	0.4	[4]					
図20 248	鉄製品	釘	完形	4.9	0.5	0.6	4					
図20 249	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.7	0.1	3					開元通寶 唐621年 真書 背上月ヵ
図20 250	銅製品	銭	完形	外径 2.5	方孔径 0.65	0.1	3					皇宋通寶 北宋1038年 篆書
図20 251	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.7	0.1	3					元豊通寶 北宋1078年 篆書
図20 252	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.6	0.1	3					銭種不明
図20 253	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.1	6.6	3.3	[157]	B	黄橙	ナデ	板状	内面一部褐色に変色
図20 254	国産陶器	東播系須恵器 片口鉢	口小片	—	—	[3.2]	[33.2]		灰			
図21 255	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.9	5.7	2.0	[66]	B	黄灰	ナデ	板状	
図21 256	鉄製品	釘	一端欠	[4.1]	4.0	3.7	[2]					
図21 257	銅製品	銭	完形	外径 3.4	方孔径 0.8	0.3	10					崇寧通寶 北宋1102年 真書
図21 258	銅製品	銭	完形	外径 3.4	方孔径 0.8	0.2	10					崇寧通寶 北宋1102年 真書
図21 259	木製品	曲物底板	2/3	直径 11.4	—	0.4						
図21 260	在地土器	ロクロ かわらけ・小	一部欠	7.4	5.5	1.7	[44]	B	黄灰	ナデ	板状	
図21 261	在地土器	ロクロ かわらけ・中	一部欠	10.7	6.8	3.0	[110]	C+B	黄橙	ナデ	板状	底部外面に非貫通孔
図21 262	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.9	1.5	47	B+E	明赤褐	ナデ	板状	二次的被熱によ歪み大きい
図21 263	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.2	5.2	1.8	[46]	B	灰	ナデ	板状	一部が黒変
図21 264	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.3	5.0	1.7	[38]	B	明赤褐	ナデ	—	
図21 265	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.0	7.5	3.2	158	B	灰	ナデ	—	
図21 266	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.1	7.1	3.0	[130]	B	赤橙	ナデ	—	底部中央に焼成後の穿孔
図21 267	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.0	7.8	3.3	[178]	B	黄灰	ナデ	板状	
図21 268	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.3	6.3	3.9	[170]	B	灰	ナデ	板状	
図21 269	鉄製品	工具ヵ	一端欠 損	[14.6]	径 3.3	内径 1.8	[167]					空洞内に木質痕
図21 270	銅製品	銭	完形	外径 2.5	方孔径 0.7	0.1	3					景祐元寶 北宋1034年 篆書
図21 271	銅製品	銭	完形	外径 2.3	方孔径 0.6	0.1	3					熙寧元寶 北宋1068年 篆書
図21 272	骨製品	笄	一端欠	[9.1]	1.4	0.2	[3]					
図21 273	搬入土器	黒縁瓦器質 坏	口1/4～ 底1/3	(15.8)	(6.8)	4.4	[55]		灰白			
図22 274	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.6	5.2	1.6	[43]	B	橙	ナデ	板状	
図22 275	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.7	8.3	2.9	190	B	黄灰	ナデ	板状	
図22 276	銅製品	銭	完形	外径 2.3	方孔径 0.6	0.1	3					治平元寶 北宋1064年 篆書
図22 277	銅製品	銭	完形	外径 2.3	方孔径 0.7	0.1	3					政和通寶 北宋1111年 篆書
図22 278	瓦質土器	火鉢	1/4	(34.0)	25.4	8.1	[1930]		暗灰			ⅠB類 内面から焼成後の穿孔4ヶ所
図23 279	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.0	4.6	2.0	[33]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C′　口縁部割れ口に煤付着
図23 280	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/4～ 底完存	7.5	4.3	1.8	[41]	B	灰黄	ナデ	板状	二次的被熱により黒変

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図23 281	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.9	5.2	2.1	[46]	C+E	橙	ナデ	板状	C′
図23 282	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.3	1.7	61	B	灰黄	ナデ	板状	
図23 283	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.0	5.6	1.6	49	B+E	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図23 284	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/3～ 底完存	7.0	4.5	2.1	[44]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C′
図23 285	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.9	4.1	2.2	[47]	C+E	橙	ナデ	板状	C′
図23 286	在地土器	ロクロ かわらけ・中	口1/2～ 底完存	(9.4)	5.0	2.3	[62]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C
図23 287	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.6	8.0	3.4	[174]	B	灰黄	ナデ	板状	
図23 288	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口小片	—	—	[2.5]	[11]		橙			口縁部外面ヘラ押し 輪花形か
図23 289	国産陶器	瀬戸 入子	口1/2～ 底3/4	8.1	5.0	3.0	36]		灰			輪花型
図23 290	国産陶器	瀬戸 卸皿	1/8	—	—	4.0	[70]		灰			
図23 291	国産陶器	瀬戸 卸皿	底3/4	—	6.7	[1.3]	[130]		明淡橙 ～灰			灰釉ハケ塗り
図23 292	国産陶器	常滑 片口鉢	口小片	—	—	[4.9]	[105]		赤褐			Ⅱ類
図23 293	国産陶器	常滑 片口鉢	小片	—	—	[4.9]	[60]		赤褐			Ⅱ類 内面スタンプ施文
図23 294	国産陶器	常滑 転用研磨具ヵ	小片	[11.1]	[9.4]	1.6	[247]		緑灰			研磨痕は側辺のごく一部
図23 295	石製品	硯	一端欠	[6.0]	5.2	1.6	[99]		黒褐			鳴滝 方硯雲形硯
図23 296	石製品	滑石鍋転用 硯形	完形	6.9	4.8	2.2	105		灰			
図23 297	石製品	砥石	完形	9.5	7.6	5.4	531		白			伊予中砥
図23 298	石製品	砥石	両端欠	[7.6]	6.3	0.8	[62]		黄白			鳴滝仕上砥 16c以降ヵ
図23 299	石製品	砥石	一端欠	[7.5]	[2.9]	0.9	[37]		灰白			鳴滝仕上砥
図23 300	石製品	砥石	一端欠	[5.0]	3.9	0.7	[21]		緑白			鳴滝仕上砥
図23 301	石製品	砥石	完形	2.0	3.6	1.0	14		明赤灰			鳴滝仕上砥
図23 302	鉄製品	釘	完形	[4.2]	0.3	0.3	[1]					
図23 303	銅製品	銭	完形	外径 2.5	方孔径 0.8	0.1	3					皇宋通寶 北宋1038年初鋳 真書
図23 304	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.6	0.1	2					皇宋通寶ヵ 篆書
図23 305	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.7	0.1	3					元祐通寶 北宋1086年 篆書
図23 306	木製品	漆塗り 曲物底板	一部欠	直径 19.0	—	0.3						上面黒色系漆、全体に剝離
図24 307	舶載磁器	龍泉窯系青磁 碗	口～ 体1/8	(16.8)	—	[5.5]	[37]		淡緑 半透明			Ⅱ類
図24 308	石製品	砥石	一端欠	[4.6]	2.3	1.5	[26]		淡緑			上野砥沢中砥
図24 309	鉄製品	釘	一端欠	[6.8]	0.3	0.2	2					
図24 310	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.7	0.2	5					元豊通寶 北宋1078年 篆書
図24 311	国産陶器	常滑 転用研磨具	完形	5.2	7.5	1.2	55		暗褐			
図24 312	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.6	0.1	4					聖宋元寶 北宋1101年 篆書
図24 313	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2～ 底完存	7.5	5.8	1.6	[44]	B	灰黄褐			二次的被熱により変色 口縁部煤付着
図24 314	舶載磁器	白磁 皿	口小片	—	—	[2.7]	[6]		白 透明			割れ口に黒色系漆付着ヵ
図24 315	舶載磁器	白磁 皿	口1/4～ 底1/2	(6.5)	2.1	1.2	[5]		白 透明			内面印花文

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底	外底	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面	調整	圧痕	
図24 316	石製品	軽石 研磨具ヵ	完形	4.1	3.5	3.0	9		灰褐			全面を研磨に使用ヵ
図24 317	木製品	箸	完形	20.6	0.7	0.5						
図24 318	木製品	箸	完形	21.5	0.8	0.5						
図24 319	木製品	箸	完形	21.2	0.9	0.4						
図24 320	木製品	箸	完形	27.6	0.7	0.7						
図24 321	木製品	用途不明 棒状	完形	23.5	1.3	1.1						
図24 322	在地土器	ロクロ かわらけ・大	一部欠	11.6	8.2	3.2	[156]	B	黄灰	ナデ	板状	打ち欠き
図24 323	石製品	砥石	一端欠	[9.7]	3.9	2.0	[134]		灰白			伊予中砥 石目の採り方が近世的
図25 324	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.2	1.7	5.1	[44]	B	橙	ナデ	板状	
図25 325	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口3/4～ 底完存	7.6	4.9	1.7	[48]	B	黄灰	ナデ	板状	
図25 326	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	12.5	8.5	2.9	[120]	B	黄灰	ナデ	板状	
図25 327	石製品	砥石	両端欠	[5.5]	3.3	1.3	[39]		灰白			合掌寺中砥
図25 328	鉄製品	火打金	完形	8.4	2.0	0.4	[17]					
図25 329	鉄製品	釘	完形	8.3	0.5	0.7	9					
図25 330	鉄製品	釘	完形	6.5	0.4	0.3	3					
図25 331	鉄製品	火箸	一端欠	[12.0]	0.4	0.4	[7]					
図25 332	鉄製品	刀子	一端欠	[15.3]	1.4	0.3	[14]					
図25 333	鉄製品	刀子	一端欠	[16.0]	1.3	0.3	[14]					
図25 334	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	6.2	1.7	46	B	赤橙	ナデ	板状	
図25 335	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.0	1.8	44	B	赤橙	ナデ	板状	
図25 336	在地土器	ロクロ かわらけ・大	底小片	—	—	—	[8]	B	灰	ナデ	—	底部内面に墨書 判読不可
図25 337	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口4/5～ 底完存	7.2	5.6	1.2	[31]	B	橙	ナデ	板状	
図25 338	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口2/3～ 底完存	6.9	5.0	1.5	[35]	B	黄橙	ナデ	板状	
図25 339	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口2/3～ 底完存	7.2	4.7	1.5	[32]	B	橙	ナデ	板状	二次的被熱により黒変
図25 340	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2～ 底完存	7.8	4.8	1.6	[33]	B	灰黄	ナデ	板状	
図25 341	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2～ 底完存	7.9	5.1	1.6	[38]	B	橙	ナデ	板状	
図25 342	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	5.4	1.7	[48]	B	灰黄	ナデ	板状	二次的被熱により変色
図25 343	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.1	5.6	1.8	50	B	橙	ナデ	板状	口縁部に突出部あり 故意かは不明
図25 344	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2～ 底完存	(7.5)	5.0	1.7	[43]	B	灰黄褐	ナデ	板状	
図25 345	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口4/6～ 底5/6	7.3	4.7	1.7	[43]	B	灰黄	ナデ	板状	二次的被熱により変色
図25 346	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	5.1	1.3	42	B+E	明赤褐	ナデ	板状	口縁部煤付着
図25 347	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	5.4	1.7	[48]	B	橙	ナデ	板状	底部被熱ヵ
図25 348	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.7	1.5	41	B	橙	ナデ	板状	
図25 349	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口3/4～ 底完存	7.7	5.2	1.7	[45]	B	黄橙	ナデ	板状	
図25 350	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口3/4～ 底完存	7.5	4.7	1.7	[52]	B	黄	ナデ	板状	二次的被熱

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図25 351	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.7	5.9	1.4	43	C+B	黄橙	ナデ	板状	
図25 352	在地土器	ロクロかわらけ・小	口1/2～底完存	(7.4)	5.0	1.7	[41]	B	灰黄	ナデ	板状	
図25 353	在地土器	ロクロかわらけ・小	口3/4～底9/10	7.9	5.6	1.7	[48]	B	橙	ナデ	板状	
図25 354	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.6	5.8	1.8	[44]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図25 355	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.7	5.8	1.5	45	C+E	橙	ナデ	板状	二次的被熱
図25 356	在地土器	ロクロかわらけ・小	口5/6～底完存	7.6	5.8	1.5	[42]	B	明赤褐	ナデ	板状	
図25 357	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.7	5.8	1.9	[58]	B	橙	ナデ	板状	二次的被熱
図25 358	在地土器	ロクロかわらけ・小	口1/2～底完存	7.8	5.4	1.7	[40]	B	橙	ナデ	板状	二次的被熱により変色
図25 359	在地土器	ロクロかわらけ・大	口5/6～底完存	11.9	7.8	3.0	[134]	B	橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図25 360	舶載磁器	龍泉窯系青磁碗	口1/7～底完存	(14.8)	4.4	(6.5)	[125]		淡緑半透明			Ⅲ類
図25 361	舶載磁器	白磁碗皿	口1/7～底1/4	(11.0)	(6.4)	2.8	[26]		灰白透明			Ⅸ類
図25 362	舶載磁器	白磁合子身	口1/5～底1/7	(7.0)	(5.9)	2.2	[10]		水青透明			
図25 363	国産陶器	瀬戸入子	1/4	(4.6)	(3.2)	1.1	[5]		緑灰			
図25 364	搬入土器	黒縁瓦器質坏	1/3	(11.2)	(5.8)	2.4	[24]		暗灰	ナデ	板状	
図25 365	搬入土器	黒縁瓦器質坏	1/3	(11.3)	6.4	3.2	[45]		灰	ナデ	板状	
図25 366	搬入土器	黒縁瓦器質坏	ほぼ完形	11.0	6.8	3.2	[55]		灰	ナデ	板状	
図26 367	石製品	硯	一端欠	12.7	1.7	[5.2]	[218]		黒			
図26 368	石製品	砥石	一端欠	21.1	5.2	4.0	[705]		暗灰			天草中砥
図26 369	石製品	砥石	一端欠	[13.2]	4.1	1.7	[123]		灰白			天草備水砥 13c～15c代 両側面の鋸痕を擦り消し
図26 370	石製品	砥石	一端欠	[14.0]	4.1	2.0	[151]		灰			鳴滝仕上砥(奥殿)
図26 371	鉄製品	刀子	一端欠	9.3	0.9	0.2	[5]					
図26 372	鉄製品	釘	完形	6.1	1.8	0.7	4					
図26 373	鉄製品	釘	完形	5.9	0.6	0.4	2					
図26 374	鉄製品	釘	完形	4.1	0.3	0.4	2					
図26 375	鉄製品	釘	完形	4.8	0.8	0.5	3					
図26 376	鉄製品	釘	完形	8.3	0.8	0.6	5					
図26 377	鉄製品	釘	完形	6.7	0.8	0.6	3					
図26 378	鉄製品	釘	完形	4.9	0.5	0.5	4					
図26 379	銅製品	用途不明環状	完形	2.3	1.5	0.5	2					
図26 380	骨製品	笄	一端欠	[12.4]	1.2	0.2	[5]					
図26 381	木製品	箸	完形	17.8	0.6	0.6						
図26 382	木製品	箸	完形	19.5	0.7	0.5						
図26 383	木製品	箸	完形	20.2	0.7	0.3						
図26 384	木製品	箸	完形	20.2	0.7	0.5						
図26 385	木製品	箸	完形	20.4	0.7	0.5						

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底	外底	出土遺構・
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面	調整	圧痕	胎土ほかの特徴
図26 386	木製品	箸	完形	20.2	0.8	0.6						
図26 387	木製品	箸	完形	20.2	0.5	0.4						
図26 388	木製品	箸	完形	20.2	0.6	0.4						
図26 389	木製品	箸	完形	20.2	0.6	0.5						
図26 390	木製品	箸	完形	21.7	0.5	0.4						
図26 391	木製品	箸	完形	21.7	0.8	0.6						
図26 392	木製品	箸	完形	1.7	0.5	0.5						
図27 393	木製品	箸	完形	21.7	0.6	0.5						
図27 394	木製品	箸	完形	22.8	0.6	0.4						
図27 395	木製品	箸	完形	23.2	0.7	0.4						
図27 396	木製品	箸	完形	24.2	0.6	0.5						
図27 397	木製品	箸	完形	24.2	0.8	0.5						
図27 398	木製品	栓	完形	9.6	2.5	2.1						先端径1.5cm
図27 399	木製品	棒状木製品	完形	13.6	0.7	0.4						
図27 400	木製品	曲物底板	1/3	直径 [38.0]	—	1.3						
図27 401	木製品	有孔円板	一部欠	5.5	4.8	0.7						孔径0.7cm
図27 402	木製品	毬杖球	一部欠	4.2	4.5	3.8						
図27 403	木製品	漆塗り 雲形	一部欠	4.8	8.0	1.4						表裏黒色系漆
図27 404	木製品	漆塗り 雲形	一部欠	2.7	7.6	0.9						表裏黒色系漆
図27 405	銅製品	銭	完形	外径 2.6	方孔径 0.7	0.1	4					祥符通寶 北宋1008年 真書
図27 406	銅製品	銭	完形	外径 2.5	方孔径 0.8	0.1	3					嘉祐通寶 北宋1056年 真書
図27 407	銅製品	銭	完形	外径 2.5	方孔径 0.9	0.1	3					元祐通寶 北宋1086年 行書
図27 408	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	5.4	1.7	55	B+E	暗灰黄	ナデ	板状	全体的に煤付着
図27 409	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	10.5	5.6	3.0	[100]	C	橙	ナデ	板状	C
図27 410	石製品	砥石	両端欠	[7.3]	3.9	0.9	[38]		灰白			鳴滝仕上砥 漆で修復ヵ
図27 411	鉄製品	釘	完形	7.3	0.8	0.4	[6]					
図28 412	在地土器	ロクロ かわらけ・小	一部欠	7.4	5.0	1.8	[40]	B	橙	ナデ	板状	
図28 413	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	5.6	2.0	[54]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部歪み大
図28 414	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口3/4～ 底完存	7.6	5.1	1.5	[43]	C+E	黄灰	ナデ	板状	
図28 415	国産陶器	瀬戸 入子	2/3	(4.7)	(3.1)	1.2	[13]		灰			底部内面滑らか
図28 416	搬入土器	黒縁瓦器質 小坏	1/2	(6.1)	(2.8)	2.5	[10]		灰～ 黒			
図28 417	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.6	6.4	1.3	[34]	C+B	黄橙	ナデ	板状	
図28 418	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口1/3～ 底7/8	(12.0)	7.9	3.2	[148]	B	灰黄	ナデ	板状	
図28 419	木製品	用途不明 組み物部材ヵ	完形	18.0	7.4	6.6						刳り孔径4.2cm
図28 420	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	5.4	1.5	[35]	B	黄橙	ナデ	板状	

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図28 421	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.7	5.7	1.8	[49]	C+E	黄灰	ナデ	板状	
図28 422	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.8	1.9	56	C+B	黄橙	ナデ	板状	
図28 423	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2～ 底完存	7.6	5.2	1.6	[50]	B	黄灰	ナデ	板状	
図28 424	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口3/4～ 底完存	7.8	5.2	1.8	[60]	C+B	黄灰	ナデ	板状	
図28 425	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	6.0	1.5	44	B	橙	ナデ	板状	
図28 426	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	8.0	6.1	1.6	[46]	B	黄灰	ナデ	板状	
図28 427	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.0	5.4	2.1	[59]	B	黄灰	ナデ	板状	
図28 428	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.0	7.9	3.1	162	B	橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図28 429	在地土器	ロクロ かわらけ・大	1/2弱	12.4	6.7	3.9	[85]	B	黄灰			C′
図28 430	在地土器	ロクロ かわらけ・大	一部欠	12.1	7.1	3.6	[133]	C+B	黄橙	ナデ	板状	外面煤付着
図28 431	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口欠	[11.7]	8.1	[2.5]	[159]	B	黄灰	ナデ	板状	外底面焼成後穿孔 貫通・非貫通孔各1ヶ所
図28 432	国産陶器	渥美 甕	口小片	—	—	(7.6)	[50]		緑灰			
図28 433	瓦質土器	火鉢	1/6	(42.4)	(30.0)	10.3	[535]		明茶褐			ⅠA類
図29 434	石製品	砥石	両端欠	(9.0)	4.6	1.0	[74]		灰白			鳴滝仕上砥
図29 435	鉄製品	釘	完形	7.8	0.7	0.7	5					
図29 436	鉄製品	用途不明 板状	小片	[7.6]	[5.0]	0.6	[65]					
図29 437	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.7	0.1	4					元豊通寶 北宋1078年 篆書
図29 438	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	5.6	1.5	[42]	B	橙	ナデ		
図29 439	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	6.5	1.6	[53]	B	黄灰	ナデ	板状	
図29 440	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.3	5.4	1.8	[45]	B	橙	ナデ		
図29 441	舶載磁器	白磁 碗	底3/4	—	5.0	[2.7]	[52]		灰 透明			
図29 442	鉄製品	釘	完形	6.1	0.5	0.4	4					
図29 443	鉄製品	釘	完形	5.6	0.2	0.3	1					
図29 444	鉄製品	釘	一端欠	[4.2]	0.3	0.3	[1]					
図29 445	鉄製品	釘	一端欠	[5.4]	1.0	0.9	[14]					
図29 446	木製品	漆塗り 盆	小片	[9.5]	[4.0]	1.0						内面朱漆 外面黒色系漆
図29 447	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/4～ 底完存	7.6	5.0	2.0	[49]	B	黄橙	ナデ	板状	
図29 448	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	6.4	1.5	[45]	B	黄灰	ナデ	板状	
図29 449	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.8	6.1	1.6	[39]	B	黄灰	ナデ	板状	
図29 450	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口1/8～ 底完存	12.2	7.5	3.3	[148]	B	黄灰	ナデ	板状	
図29 451	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.2	8.1	3.0	[146]	B	橙	ナデ	板状	
図29 452	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口1/3～ 底完存	(12.2)	7.5	3.4	[152]	B	黄灰	ナデ	板状	
図29 453	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.4	8.7	3.0	[156]	B	橙	ナデ	板状	内外面黒変
図29 454	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.5	8.3	3.1	[153]	B	橙	ナデ	板状	
図29 455	貝製品	漆パレット	一部欠	[6.4]	[6.8]	2.0						ハマグリ殻の内面に黒漆付着

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図29 456	石製品	砥石	一端欠	(4.3)	2.0	2.3	[37]		淡緑			上野砥沢中砥 玉研ぎか
図29 457	鉄製品	火箸	一端欠	(20.0)	0.4	0.5	[19]					
図30 458	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/5	7.7	6.2	1.4	[45]	B	灰	ナデ	板状	
図30 459	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	8.0	5.2	1.9	[49]	B+E	黄灰	ナデ	板状	
図30 460	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/5	13.2	7.8	3.6	[160]	B	黄灰	ナデ	板状	
図30 461	鉄製品	毛抜き	完形	7.4	1.8	0.2 0.6	8					
図30 462	銅製品	銭	完形	外径 2.5	方孔径 0.6	0.1	3					紹聖元寳 北宋1094年 行書
図30 463	木製品	箸	完形	23.5	0.7	0.6						
図30 464	木製品	用途不明 棒状	完形	18.8	0.8	0.7						
図30 465	在地土器	手づくね かわらけ・小	完形	8.2	6.6	1.7	59	B	赤橙	ナデ	—	器表に煤付着 底部の一部褐色に変色
図30 466	在地土器	ロクロ かわらけ・中	2/3	10.1	6.6	2.8	[73]	C	橙	ナデ	板状	C′
図30 467	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	11.7	7.7	3.3	[125]	B	黄橙	ナデ	—	
図30 468	石製品	硯	一端欠	(6.8)	5.7	1.2	[65]		黒褐			鳴滝硯
図30 469	鉄製品	用途不明	小片	[4.6]	[4.5]	0.7	[44]					
図30 470	鉄製品	釘	一端欠	(7.6)	1.1	0.7	[8]					
図30 471	鉄製品	刀子ヵ	一端欠	(9.5)	1.1	0.4	[10]					
図30 472	鉄製品	刀子ヵ	一端欠	(8.6)	1.0	0.3	[8]					
図30 473	土製品	有孔円盤	完形	2.5	2.1	1.0	5		黄橙			
図30 474	銅製品	銭	完形	2.4	0.6	0.1	3					皇宋通寳 北宋1038年 篆書
図30 475	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.7	0.1	4					大観通寳 北宋1107年 真書
図30 476	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口2/3～ 底完存	7.6	5.6	1.7	[52]	B+E	黄	ナデ	板状	
図30 477	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2～ 底完存	8.4	5.9	1.9	[55]	B+E	橙	ナデ	板状	
図30 478	国産陶器	常滑 片口鉢	口～ 体片	—	—	[7.4]	[191]		褐			Ⅱ類
図30 479	国産陶器	渥美 甕	体部片	—	—	[7.8]	[259]		灰			
図30 480	鉄製品	掛金具	完形	16.4	2.9	0.6	4					
図30 481	鉄製品	釣針ヵ	不明	2.3	2.1	0.2	1					
図30 482	石製品	碁石	完形	1.8	1.7	0.4	2		暗灰			
図30 483	鉄製品	用途不明 板状	小片	[6.1]	[3.2]	0.9	[39]					
図31 484	木製品	漆塗り 灯明台	台座 完存	上端径 10.2	下端径 6.0	高さ 4.7						枘穴を除き全面黒色系漆塗り
図31 485	木製品	漆器 椀	—	—	(7.2)	[4.0]						内面朱漆でシギを手描き
図31 486	木製品	漆器 皿	4/5	9.3	6.2	1.5						内面朱漆で千鳥文を手描き
図31 487	木製品	漆器 皿	体部4/5	(9.4)	(7.2)	1.4						内全面黒色系漆地に朱漆
図31 488	木製品	漆器 皿	小片	(9.0)	(7.9)	1.5						内面朱漆で手描き施文
図31 489	木製品	漆器 皿	1/2	(11.0)	(5.9)	2.4						内外面朱漆で波・花弁を手描き
図31 490	木製品	漆器 椀	体部片	—	—	[4.0]						内外面朱漆で籠目と帯・線で構成する文様を手描き

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底	外底	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面	調整	圧痕	
図31 491	木製品	漆器 皿	体部片	—	—	[1.2]						内面朱漆で洲浜・橋・松・不明草文を手描き
図31 492	木製品	漆器 皿	1/2強	8.6	6.9	0.9						
図31 493	木製品	漆器 皿	口2/3～底完存	9.3	7.3	1.4						内外面黒色系漆塗り
図31 494	木製品	漆器 椀	体～底1/2弱	—	(7.2)	[4.2]						内面朱漆で実と葉？を手描き
図31 495	木製品	漆器 皿	口小片	—	—	[1.4]						内外面朱漆で植物文を手描き
図31 496	木製品	漆器 皿	1/4	(8.5)	(6.8)	0.9						内面朱漆で手描き施文
図31 497	木製品	漆器 皿	底部片	—	(5.6)	[0.4]						内面朱漆で竹垣+蔓草文を手描き
図32 498	木製品	漆器 椀	体4/5	—	—	[4.4]						内外面朱漆で五弁花+双葉文のスタンプ
図32 499	木製品	漆器 盆	—	[28.5]	—	1.4						内面朱漆 外面黒色系漆
図32 500	木製品	漆器 椀	4/5	(12.4)	(7.3)	3.5						内面朱漆塗り 外面朱漆でカタバミ文を手描き
図32 501	木製品	漆器 皿	2/3	(9.0)	(6.3)	1.2						木地に下地剤が薄く残る
図32 502	木製品	漆塗 蓋	ほぼ完形	11.9	10.3	3.6						外面菊花文の平蒔絵 3㎜幅の銅環で縁取り
図32 503	木製品	漆器 皿	2/3	(8.5)	(6.4)	1.3						内面朱漆で葉と実、背景に籠目文を手描き
図32 504	木製品	漆器 皿	1/4	(9.0)	—	[1.2]						
図32 505	木製品	漆器 皿	小片	(9.0)	(6.3)	1.2						
図32 506	木製品	漆塗 盆	小片	[9.5]	[4.0]	1.0						内面朱漆 外面黒色系漆
図32 507	木製品	漆器 皿	2/3	(10.0)	(7.0)	1.1						内面朱漆の鶴丸文スタンプ
図32 508	木製品	漆器 皿	3/4	9.8	6.5	1.4						
図32 509	木製品	漆器 皿	2/3	9.4	5.3	2.0						
図32 510	木製品	櫛	両端欠	[5.9]	3.7	0.9						
図32 511	鉄製品	用途不明 環状	完形	6.3	7.9	0.9	43					表裏面黒色系漆付着 表面キザミ文様

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底	外底	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面	調整	圧痕	
図24 補1	銅製品	銭	完形	外径 2.3	方孔径 0.6	0.1	4					嘉祐元寶 北宋1056年 真書
図24 補2	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.7	0.1	4					元豊通寶 北宋1078年 行書

第六章　調査成果のまとめ

今回の調査では、中世に属する４枚の遺構面を確認し、概ね鎌倉時代後半における土地利用の変遷を追うことができた。現在の地表面から深いレベルでの検出となり、当初計画のままでは排土置き場が不足する状況が生じたため､安全面への配慮から､下位の遺構面ほど掘削範囲を狭めて調査する結果となった。こうした状況のため、各面の遺構展開については限定的とならざるを得なかったが、溝や柱穴列などの展開から、全時期を通じて土地区画の軸線が一定であったことを確認でき、この規制に基づいて簡素な建物などの構築・改修を繰り返していた状況が把握できた。

最も新しい１ａ面では、Ⅱ・Ⅲ区の東部において西側よりも一段高い整地面が設けられ、この面上に浅い小穴が一定の軸線に沿って並んでいた。現地調査時には基壇上の礎石抜き取り穴と考えていたが、各穴の間隔が狭く、また不揃いであったことから、本報告では建物痕跡の他、常滑甕などを据え置いた貯蔵穴としての可能性にも言及した。Ⅱ区南東隅の溝１上層で出土した常滑甕（広口壺＝図 12-5）は、その名残かもしれない。常滑６ｂ～７型式に当たり、この所産年代である 13 世紀後葉～ 14 世紀前葉を１ａ面の大よその上限年代として比定することができようか。小穴には鎌倉石や伊豆石をともなう例も見られたので、ここに礎石建ちの上屋建物が存在した可能性は排除しないでおきたい。

１ｂ面の溝１ｂは２面溝１を踏襲し、さらに１ａ面の溝１に続く。この埋土中から出土した瀬戸卸皿（図 12-15）は前Ⅲ様式と見られるので、１ｂ面は、この所産年代である 13 世紀第３四半期を上限年代として考えることができる。

２面では、小規模な溝や板壁（土留め板）で仕切られた整地面が検出された。Ⅱ区西部では土間状の精緻な硬化面を確認していることから建物内部であった可能性が考えられるが、建物本体を支えるための遺構を確認できていないため、断言はできない。ＩＣ区土坑１では、埋土の有機質（繊維質）腐植土から箸などの木製品とともに、完形に準じたロクロかわらけ小皿が一定量出土している。口径７㎝台の前半でまとまりをもち、３ｂ面のかわらけ集中例より、わずかに小さい傾向が見られる。４面土坑４の一括出土例は、既述のとおり低平で体部の開きが大きいことから、変化の幅としては小さいが、４面→３ｂ面→２面と続くロクロかわらけ小皿の型式差を読み取ることができる。他の窯産品が共伴しないため年代観を絞り込むことは難しいが、４面直上では手づくねかわらけ小皿の完形資料が１点のみだが出土しているので（図 30-465）、４面を手づくね生産が終焉する間際の時期に位置付けることができるかもしれない。その年代観については研究者間で見解が分かれるが、大よそ 13 世紀中葉～後半の中で捉える見方が大勢的であろう。

４面を中世における当地点の土地利用開始期と捉え、先述した１ｂ面の年代観との相対で考えれば、13 世紀中葉に当てることができようか。続く３ｂ面→３ａ面は 13 世紀後半における変遷と捉え、２面→１ｂ面を 13 世紀後葉～末、１ａ面を 14 世紀初頭～前葉という時期に当て、南北朝～室町時代に形成された層序は､後世の耕作などによって削平された可能性を考えている。土地利用の開始期については、鎌倉税務署用地の発掘調査（図１－地点③）でも同様の所見が示されているので、当地点周辺では共通した遺跡動向として認識しておきたい。他方、同地点では南北朝～室町期における遺構展開も把握されているので、第二章で述べたような、当該期の佐助ヶ谷に鎌倉府要人の居館があったとする史料を一定程度は裏付ける成果といえるだろう。今後、谷戸内での調査成果の蓄積に留意したい。

第二章で述べたように、本地点の西隣地である図１－地点⑯では佐助川の旧流路と思しき中世段階の

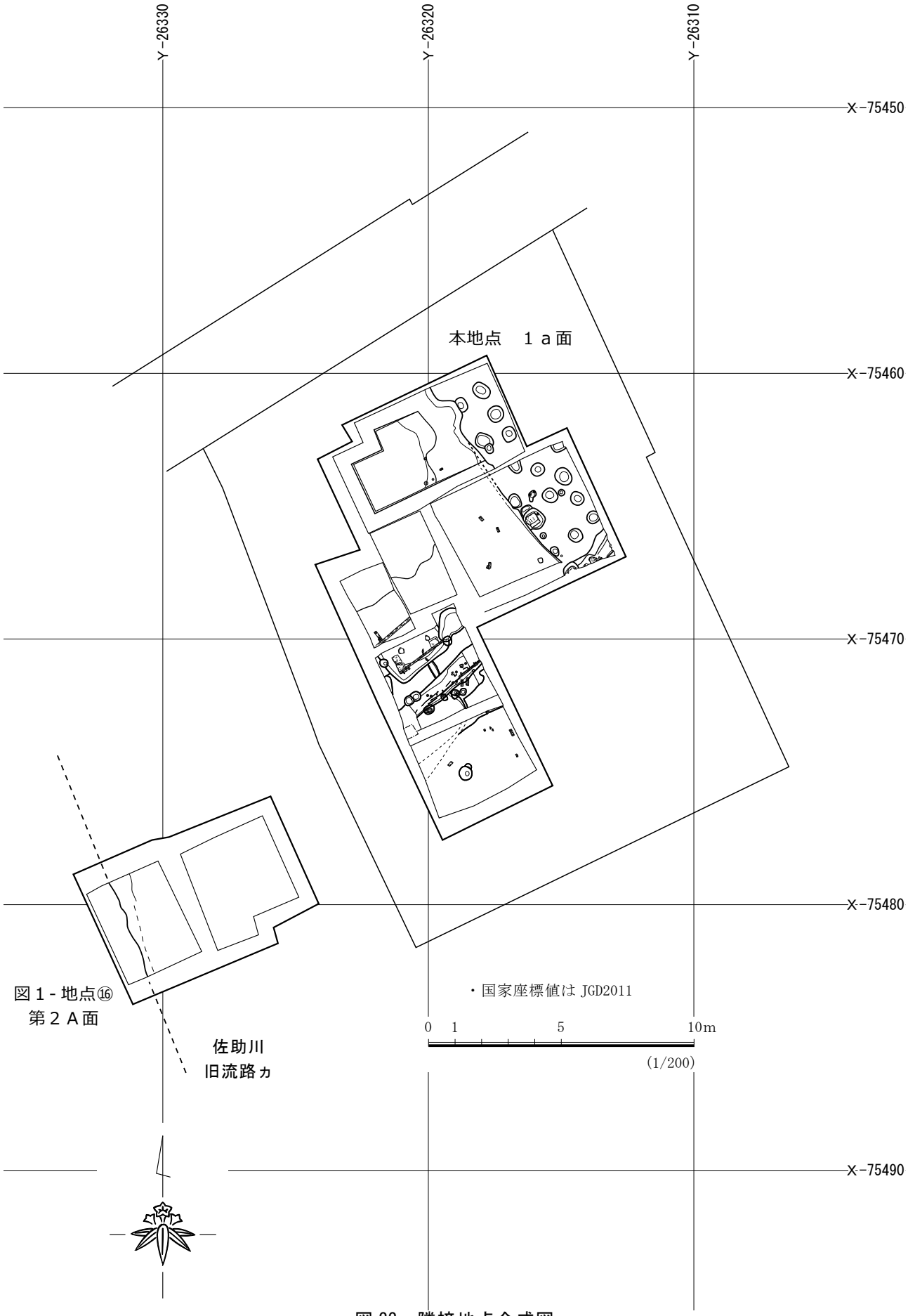

Y-26330
Y-26320
Y-26310
X-75450
X-75460
X-75470
X-75480
X-75490
本地点　１ａ面
図１-地点⑯
第２Ａ面
佐助川
旧流路ヵ
・国家座標値は JGD2011
0 1 5 10m
(1/200)

図 33　隣接地点合成図

落ち込みが検出されている。本地点の調査前は、この東岸となる落ち込みが検出される可能性を考えていたが、予測通りの結果とはならなかった。本地点と地点⑯の調査区間に挟まれた５ｍほどの未調査域に東岸の立ち上がりがあったことになるだろう。⑯では標高 12.1 ｍ前後の第２Ａ面のほぼ全域が河川の埋土であったというから、高低差を考慮すると本地点の１ａ面か、それより上位の遺構面に対応する河川であった可能性が考えられる。ちなみに、地点⑯の中世基盤層検出レベルは、最も高いところで 11.3 ｍを測り、本地点のＶ層検出レベルに比べて 20㎝ほど高く、河川はさらに下位のレベルへと落ち込む。地点間の層序については明確な対比が難しいが、中世基盤層の高い側に河川が流れていたことになるから、中世には人工的な流路の改変・固定がなされていた可能性も想定できよう。

図 33 には、試みに本地点－１ａ面と地点⑯－第２Ａ面の遺構図を合成して示した。

（参考文献は、表２および第一章末に掲載した）

1. 発掘調査着手前（北から）

2. Ⅰ区　表土掘削状況（南西から）

3.　ⅠA区 1b 面　全景（南西から）

4. ⅠA区 1b 面下　全景（南西から）

5. ⅠA区 2 面下　全景（南から）

図版２

1. ＩＢ区 1b 面　全景（南西から）

2. ＩＢ区 1b 面　溝 1b 護岸材（北東から）

3. ＩＢ区 1b 面　竪穴 1（西から）

4. ＩＢ区 1b 面下　全景（南西から）

5. ＩＢ区 2 面下時　竪穴 1 基礎部分（南西から）

1. ＩＢ区３面　かわらけ集中（北東から）

2. ＩＢ区３面　かわらけ集中（北から）

3. ＩＢ区３面　遺構プラン（北東から）

4. ＩＢ区３面　遺構プラン（南西から）

5. ＩＢ区３面　全景（南西から）

図版４

1. ＩＢ区４面　全景（北西から）

2. ＩＣ区 1b 面　全景（北東から）

3. ＩＣ区２面　全景（南東から）

4. ＩＣ区２面下　全景（南西から）

5. ＩＣ区２面下　遺物出土状況（漆器蓋）

1. ＩＣ区３面　全景（南西から）

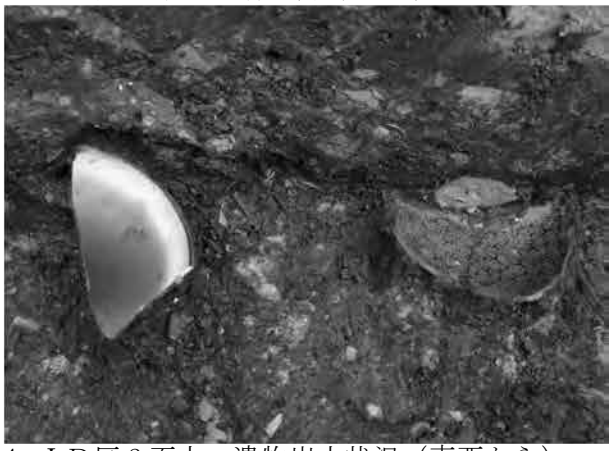
2. ＩＣ区４面　全景（南西から）

図版６

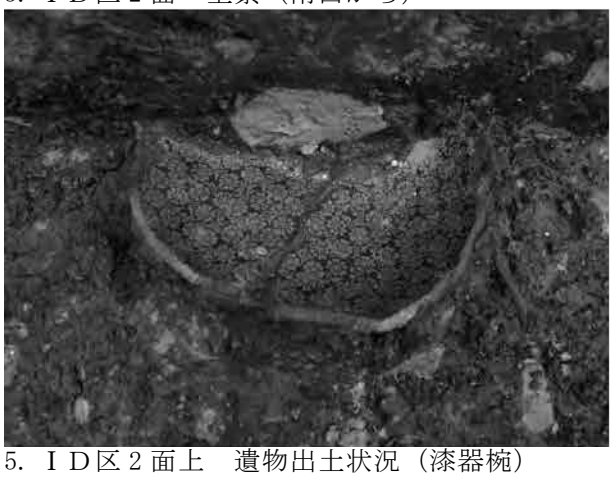
1. ＩＤ区 1b 面　全景（南西から）

2. ＩＤ区 1b 面　全景（南東から）

3. ＩＤ区２面　全景（南西から）



4. ＩＤ区２面上　遺物出土状況（南西から）



5. ＩＤ区２面上　遺物出土状況（漆器椀）

6. ＩＤ区３面　全景（南西から）

7. ＩＤ区４面　全景（北東から）

8. ＩＤ区４面上　遺物出土状況（かわらけ）

1. Ⅱ区 1a 面　遺構プラン（北西から）

2. Ⅱ区 1a 面時　作業状況（南西から）

3. Ⅱ区 1a 面　全景（北西から）

4. Ⅱ区 1a 面　溝 1a 遺物出土状況（常滑甕）

5. Ⅱ区 1a 面　切石検出状況

図版８

1. Ⅱ区 1b 面　全景（北西から）

2. Ⅱ区 1b 面　遺物出土状況（漆器台座）

3. Ⅱ区 1b 面時　溝 1b・溝 1c（北東から）

4. Ⅱ区 1b 面時　溝 1b・溝 1c（北から）

5. Ⅱ区 1b 面　遺物出土状況（鯨椎骨）

1. Ⅱ区２面　遺構プラン（北西から）

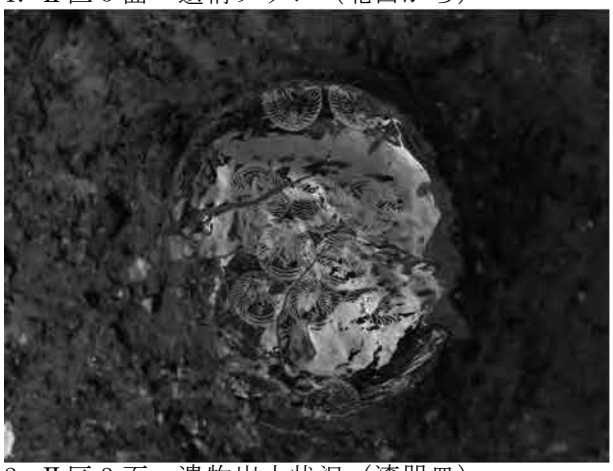
2. Ⅱ区２面　全景（北西から）

図版 10

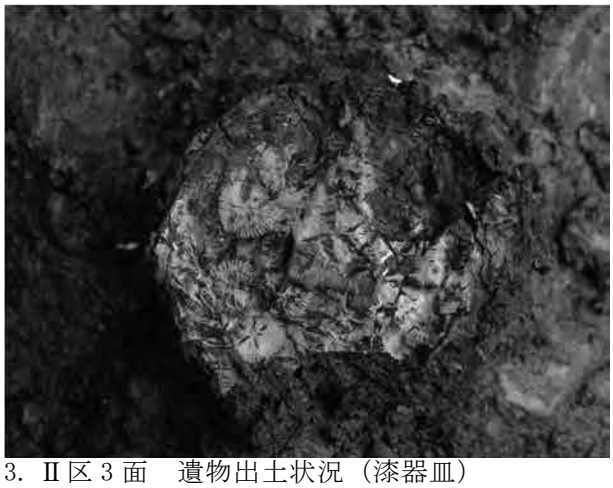
1. Ⅱ区　2 面下　全景（北西から）

2. Ⅱ区　3 面炭層上　全景（北西から）

1. Ⅱ区３面　遺構プラン（北西から）



2. Ⅱ区３面　遺物出土状況（漆器皿）



3. Ⅱ区３面　遺物出土状況（漆器皿）

4. Ⅱ区３面　遺物出土状況

5. Ⅱ区３面　遺物出土状況（漆器皿）

図版 12

1. Ⅱ区 3 面　全景（北西から）

2. Ⅱ区 4 面　全景（北西から）

1. Ⅲ区 1a 面　全景（北西から）

2. Ⅲ区 1a 面　全景（南西・低位から）

図版 14

1. Ⅲ区 2 面　全景（北西から）

2. Ⅲ区 3 面　全景（北西から）

1. Ⅲ区 3 面　全景（北東から）

2. Ⅲ区 3 面上　遺物出土状況（南から）

3. Ⅲ区 3 面上　遺物出土状況（東低位から）

4. Ⅲ区 4 面上　遺構検出状況（北東から）

5. Ⅲ区 4 面　遺構プラン（北西から）

図版 16

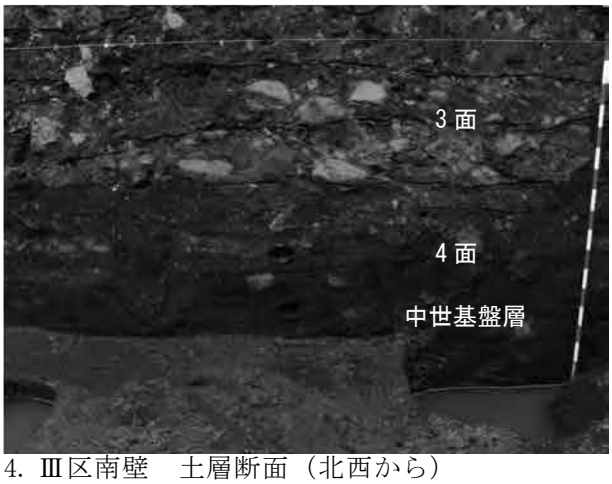
1. Ⅲ区４面　全景（北西から）

2. Ⅲ区４面　全景（南西から）

1. Ⅲ区４面　ピット内　礎板と柱材（北西から）

2. Ⅲ区４面上　遺物出土状況（北低位から）

3. Ⅲ区４面下（北東から、ピットは３・４面遺構）



4. Ⅲ区南壁　土層断面（北西から）

5. Ⅲ区東壁　土層断面（南西から）

図版 18

図 12-2

Ⅱ区 1a 面　ピット 7

5

Ⅱ区 1a 面　溝 1a

7

8

9

Ⅰ B 区 1b 面　溝 1b

11

13

14

図 13-17

20

Ⅰ B 区 1b 面

19　竪穴 1

21

27

Ⅰ B 区 1b 面　竪穴 2

縮尺：約 2/5

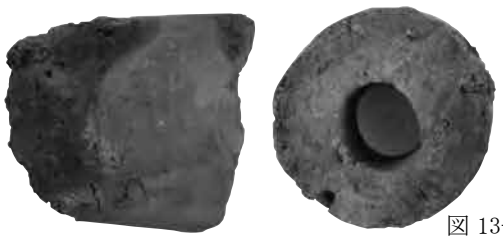
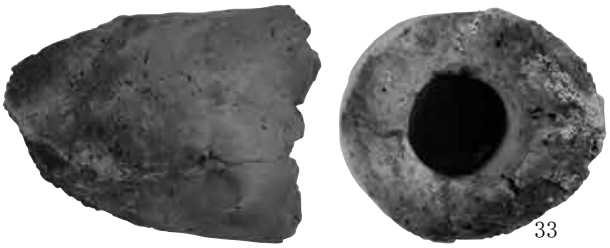
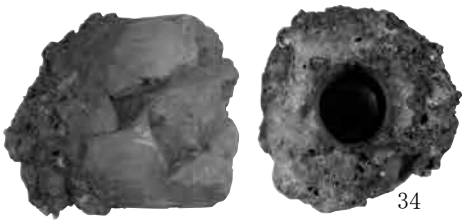
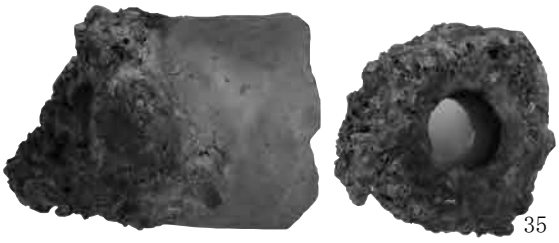


図 13-31

32


33


34


35

36

Ⅰ C 区 1b 面直上　炭層

図 14-38

Ⅰ D 区 1b 面
土坑 3

39

Ⅱ区 1b 面
板壁 1

40

Ⅰ B 区 2 面　溝 1

41

42

Ⅰ B 区 2 面　溝 1 下層

43

44

Ⅰ C 区 2 面直上
落ち込み

48

49

Ⅱ区 2 面　溝 3

51

Ⅱ区 2 面　北西部土間状

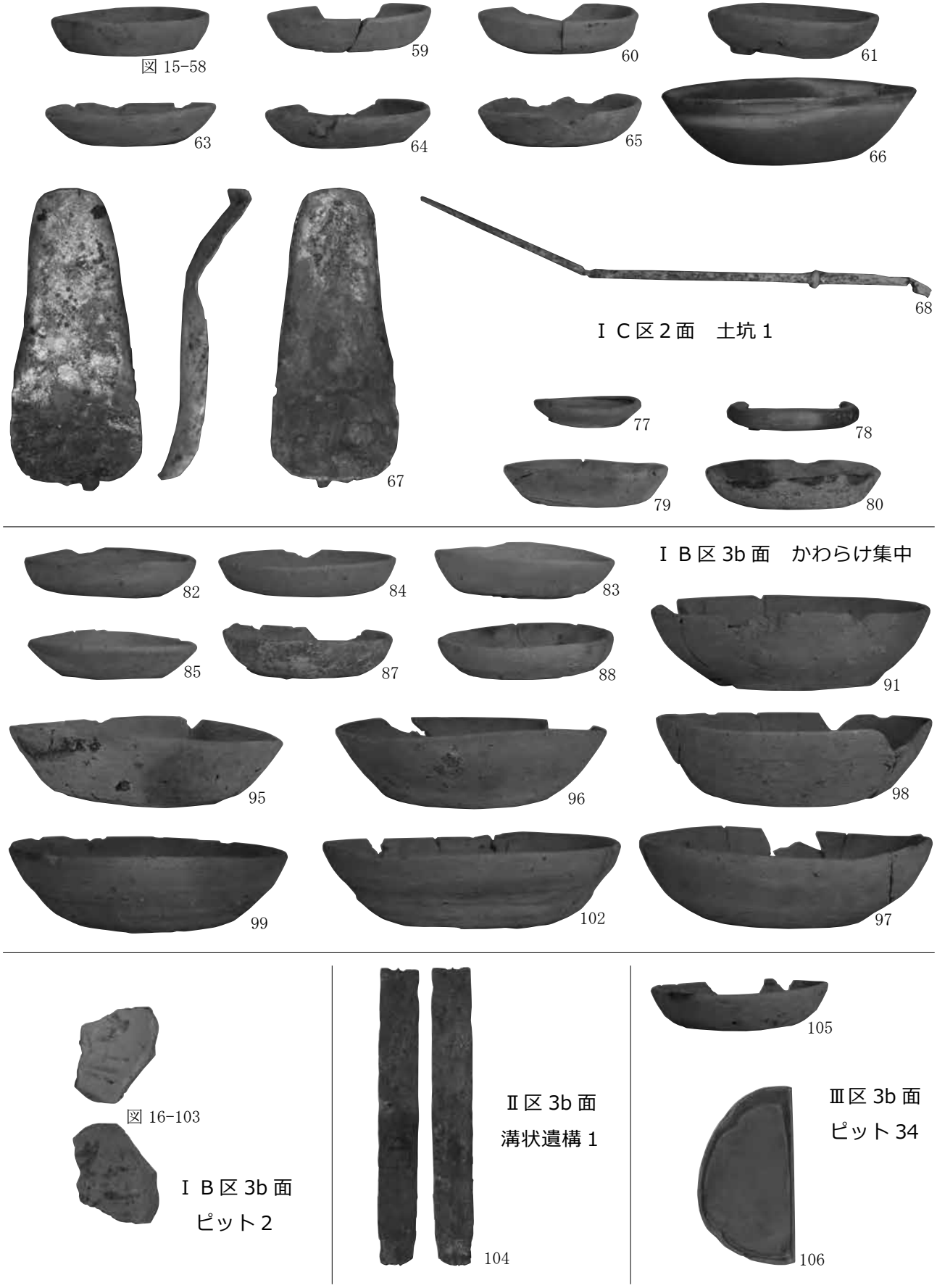
52

57

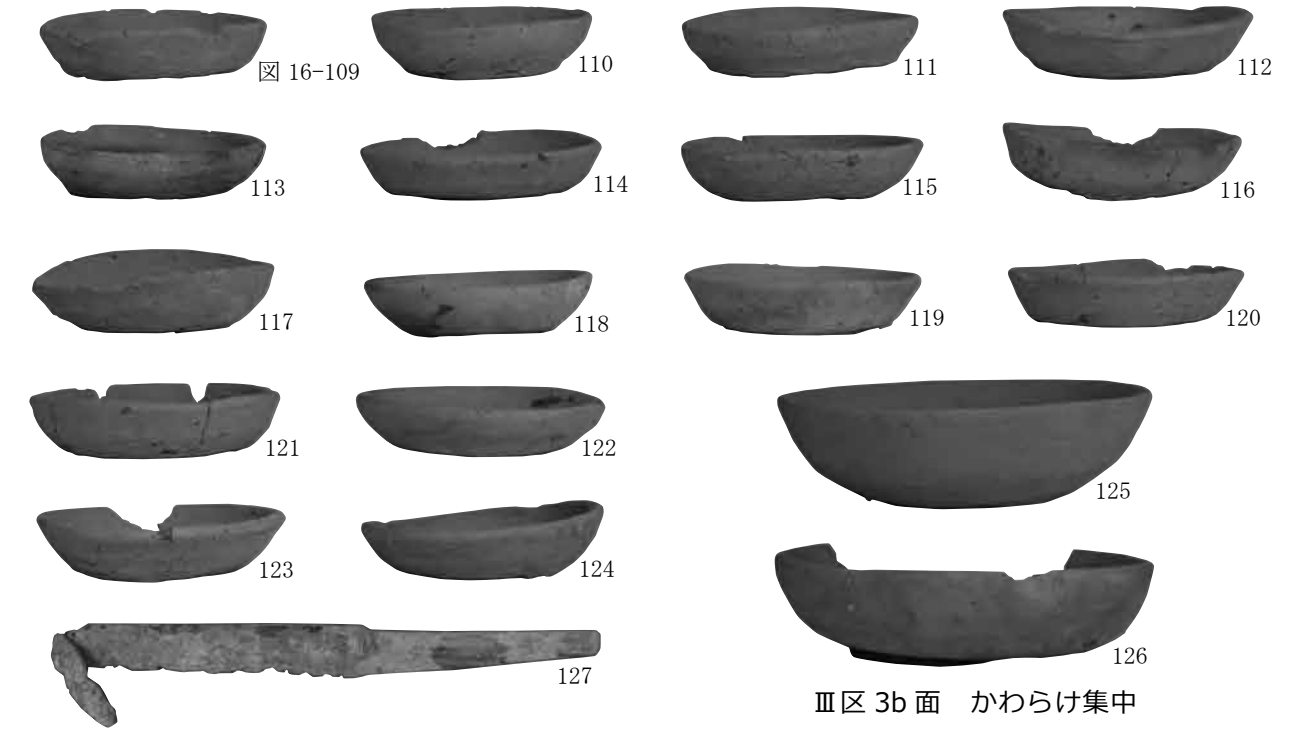
Ⅰ A 区 3a 面
土坑 1

縮尺：約 2/5

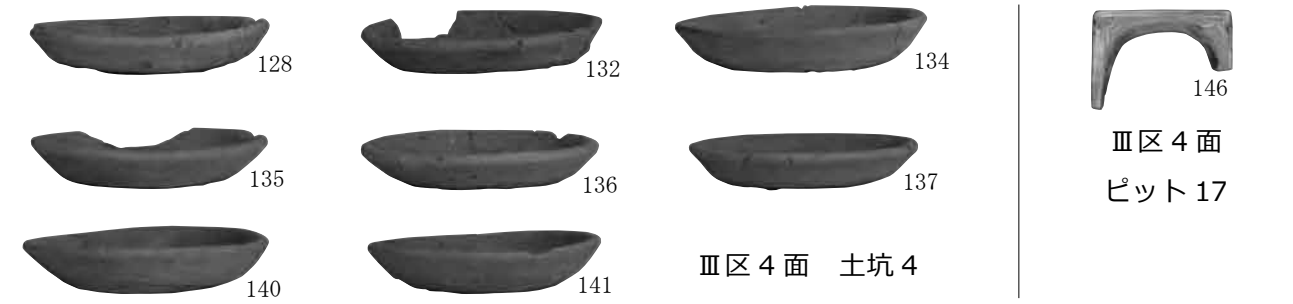
図版 20



縮尺：約 2/5
（67 は実寸大）



Ⅲ区 3b 面　かわらけ集中



Ⅲ区４面　土坑４

Ⅲ区４面
ピット 17

Ⅰａ区１面上　遺物包含層（上層）

Ⅰ Ａ区１面上　遺物包含層（下層）

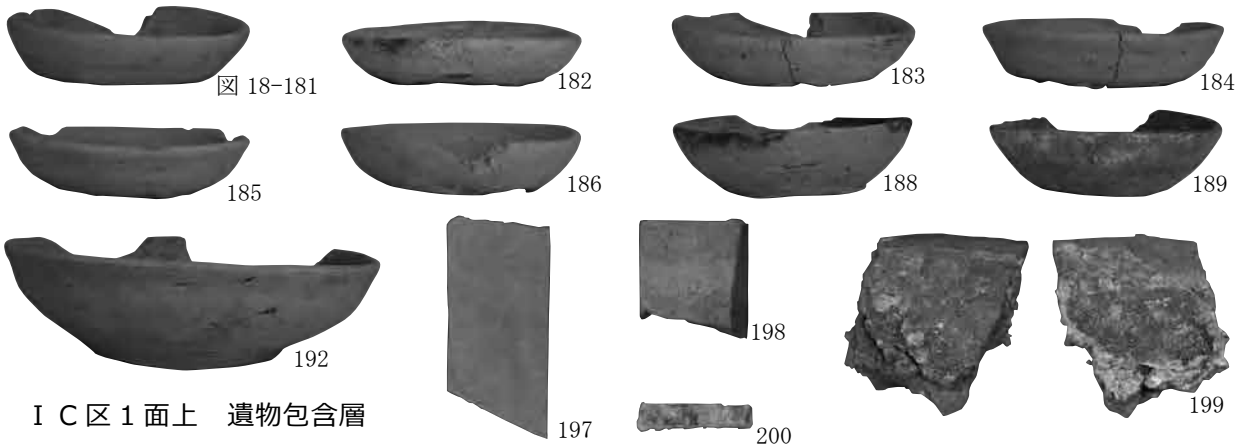
Ⅰ Ｂ区１面上　遺物包含層（上層）

Ⅰ Ｂ区１面上
遺物包含層（下層）

備前すり鉢（46 頁参照）

縮尺：約 2/5（161 は実寸大）

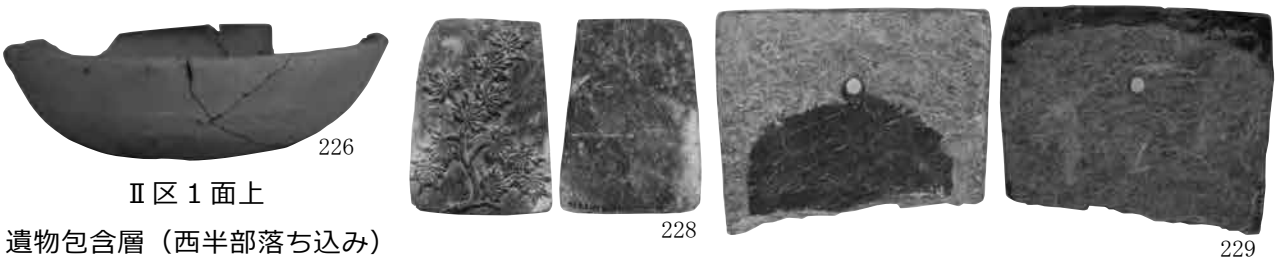
図版 22



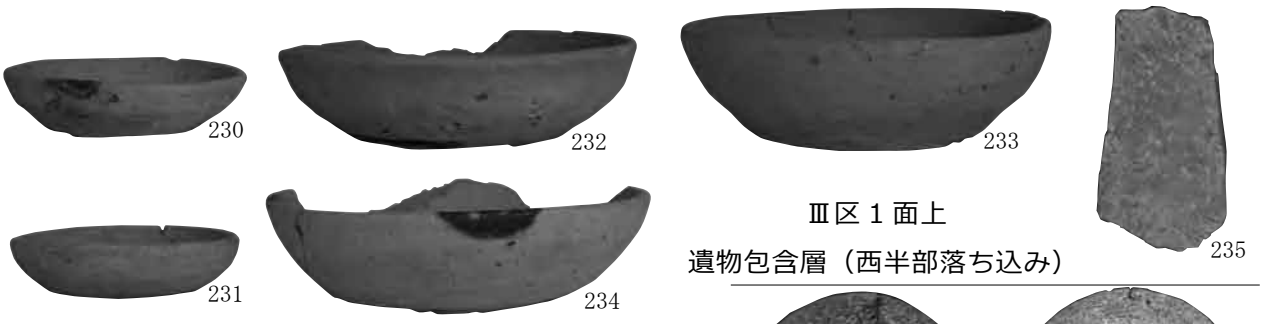
Ⅰ C 区 1 面上　遺物包含層

Ⅰ D 区 1 面上
遺物包含層

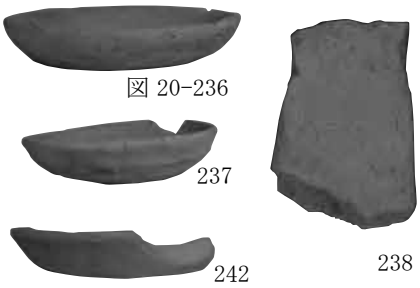
Ⅱ区 1 面上　遺物包含層



Ⅱ区 1 面上
遺物包含層（西半部落ち込み）



Ⅲ区 1 面上
遺物包含層（西半部落ち込み）



Ⅱ区 1a-1b 面

Ⅰ C 区 1b 面直上

Ⅰ D 区 1b 面上

縮尺：約 2/5

図 21-255

259

257

258

Ⅰ A 区 1b-2 面

260

261

Ⅰ c 区 1b-2 面

262

263

264

265

266

267

268

269

270

Ⅰ D 区 1b-2 面

図 22-275

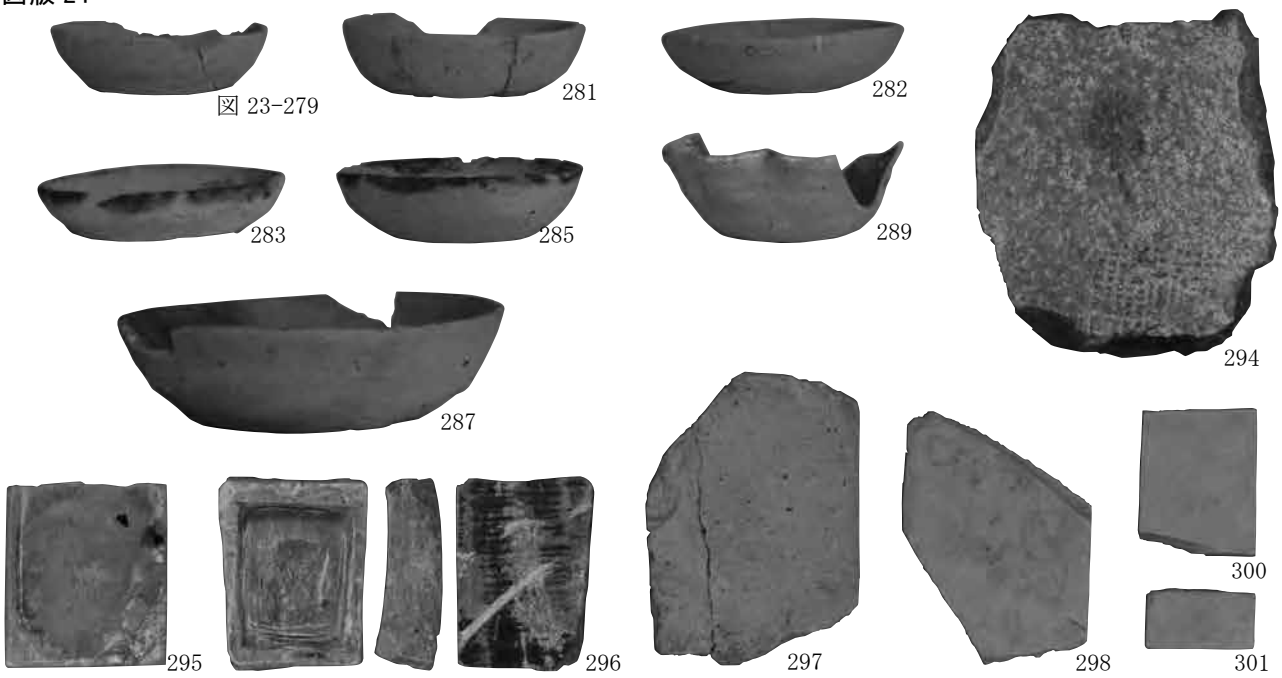
Ⅱ区 1b-2 面（板壁以西）

278

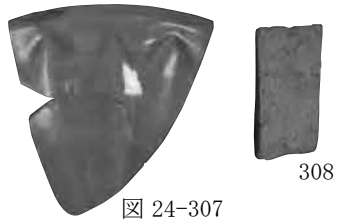
Ⅱ区 1b 面　土坑 2+1b-2 面（板壁以東）

縮尺：約 2/5（257・258 は実寸大）

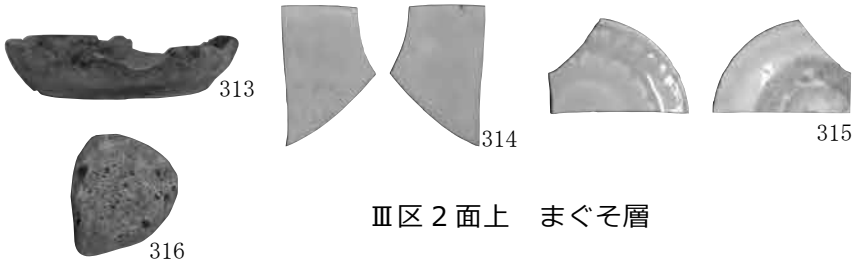
図版 24



Ⅲ区 1b-2 面

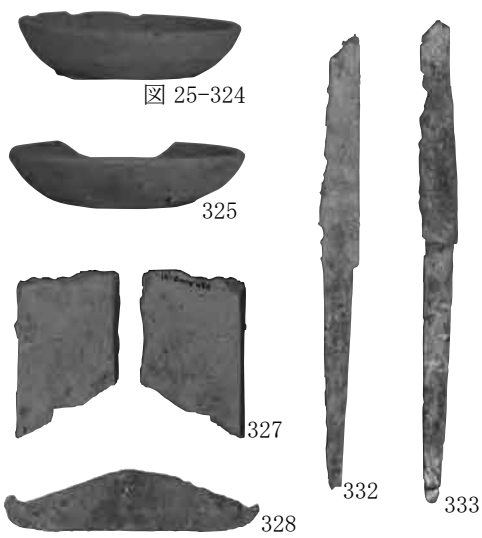


Ⅲ区 1b-2 面 +3-4 面



Ⅲ区 2 面上　まぐそ層

Ⅰ C 区 3a 面上

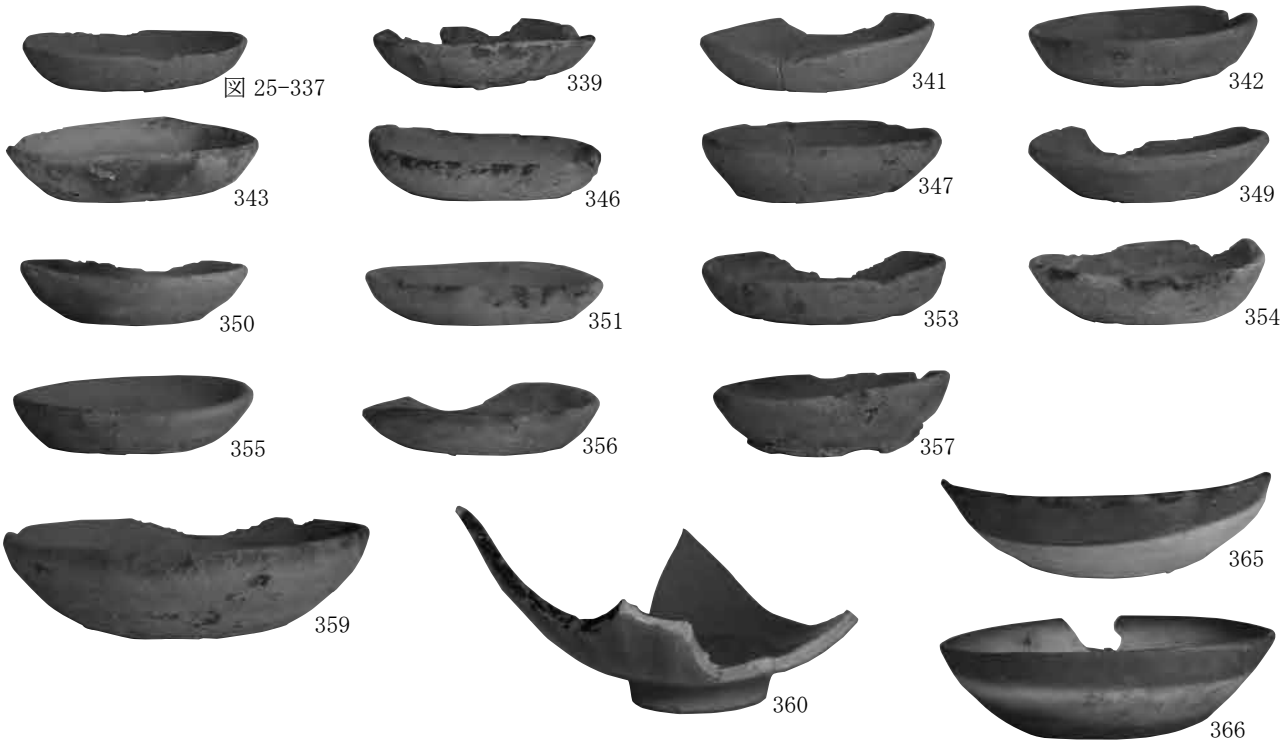


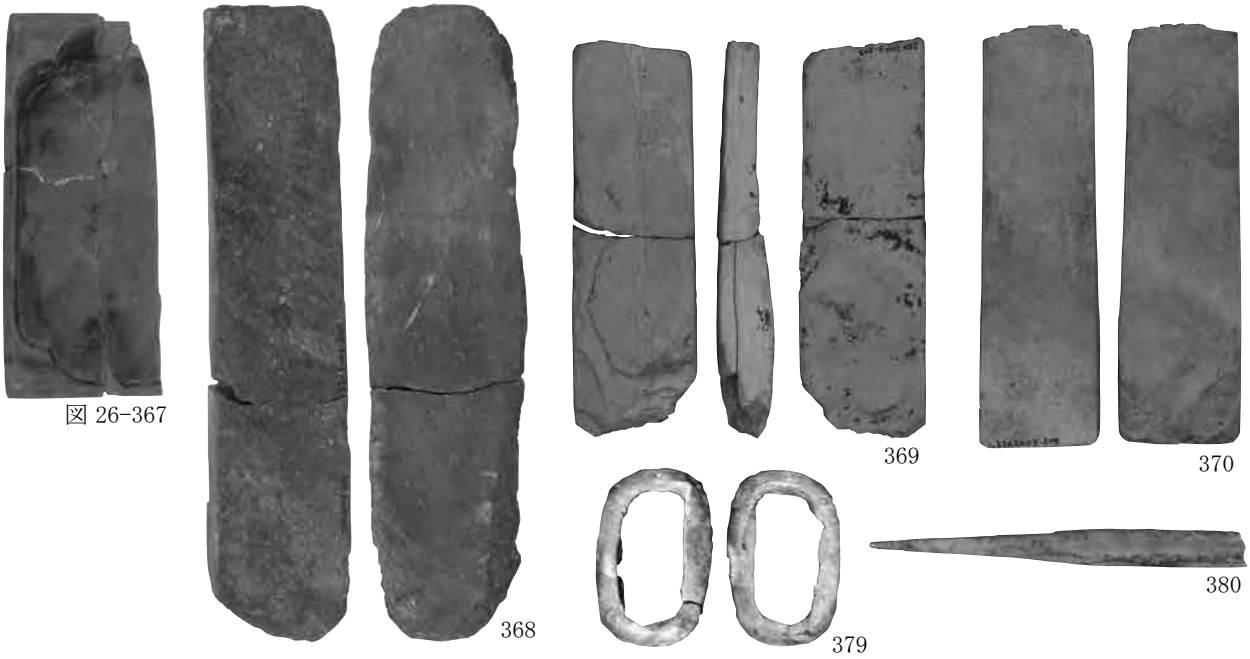
繊維
（紙？樹皮？）

Ⅰ B 区 2-3 面

Ⅰ D 区 2-3 面

縮尺：約 2/5





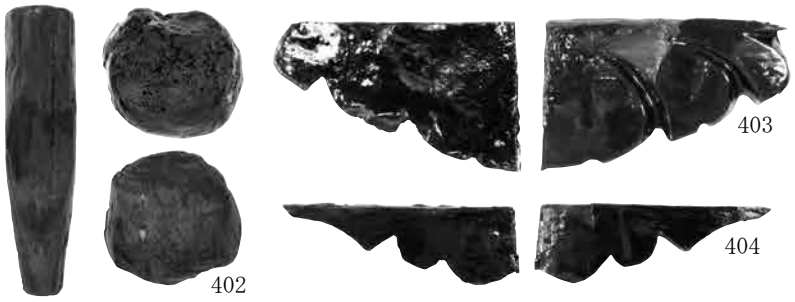
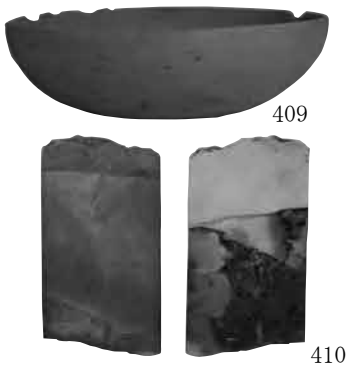


図 27-398

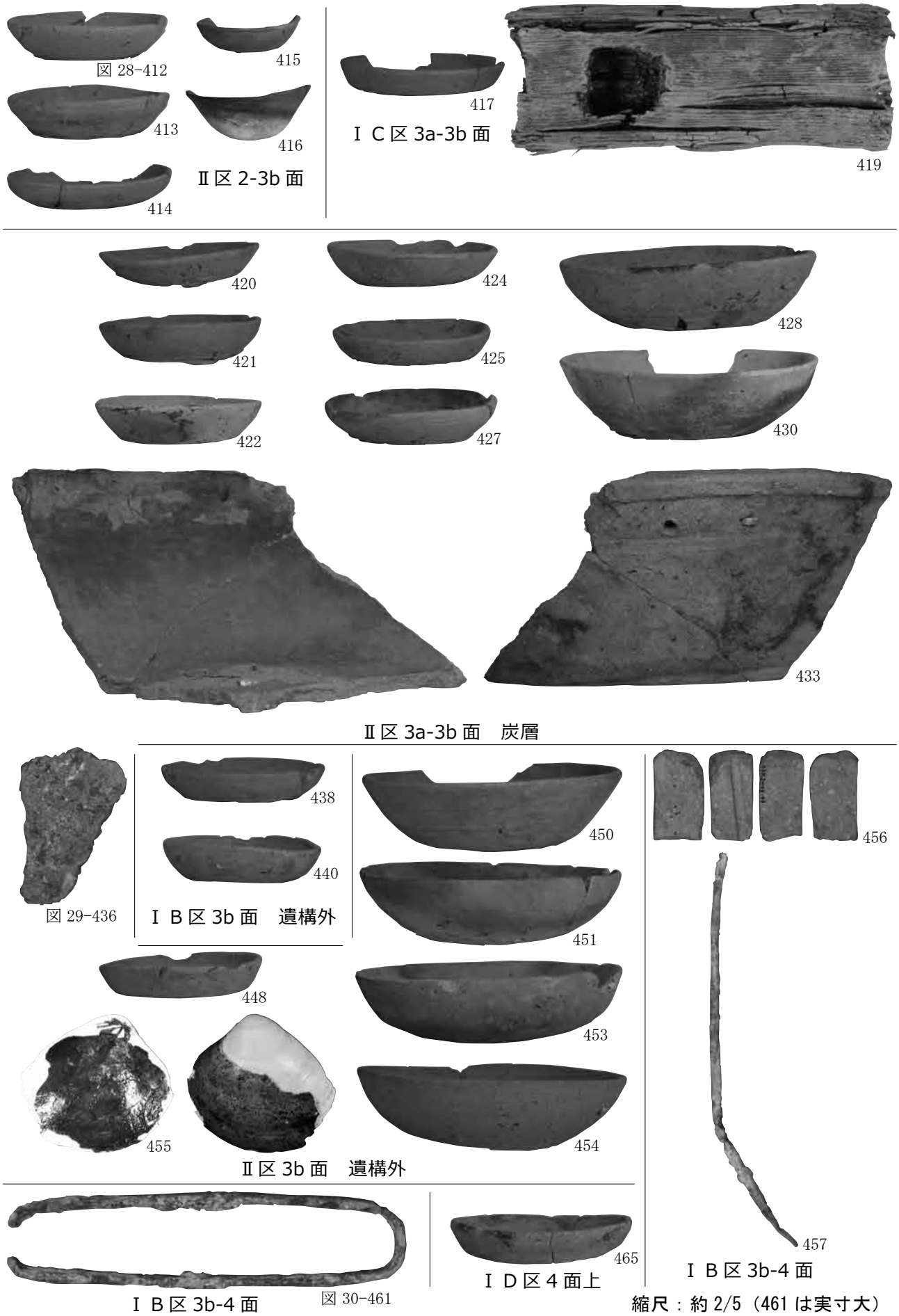
Ⅲ区 2-3 面



Ⅰ C 区 2-3b 面

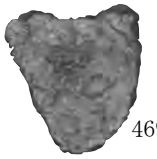
縮尺：約 2/5（379 は実寸大）

図版 26



縮尺：約 2/5（461 は実寸大）

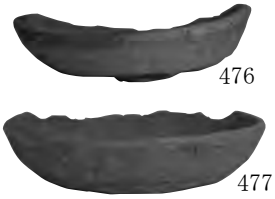
図 30-468


469

471
472

473

Ⅱ区 3b-4 面
泥岩整地層


476
477

480

Ⅲ区 3b-4 面

482
Ⅲ区 3b-4 面
掘り残し

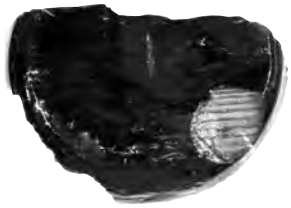
483

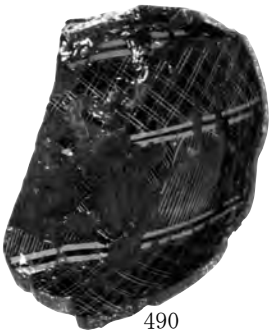
図 31-484

485

Ⅲ区 3b 面　かわらけ集中

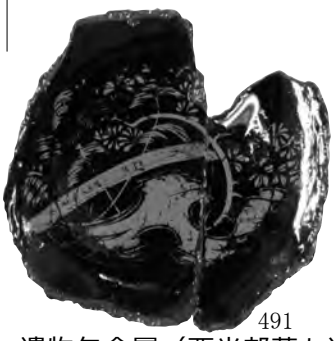
487




490

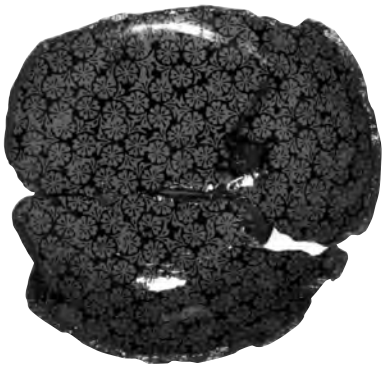
Ⅱ区 1b 面　土坑 1

489


491

Ⅲ区 1 面上　遺物包含層（西半部落ち込み）

495
Ⅰ D 区
1b-2 面



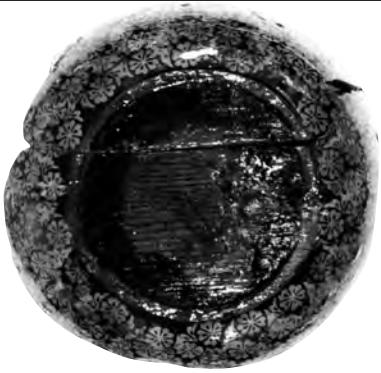


図 32-498

Ⅰ D 区 2 面上

縮尺：約 2/5

図版 28

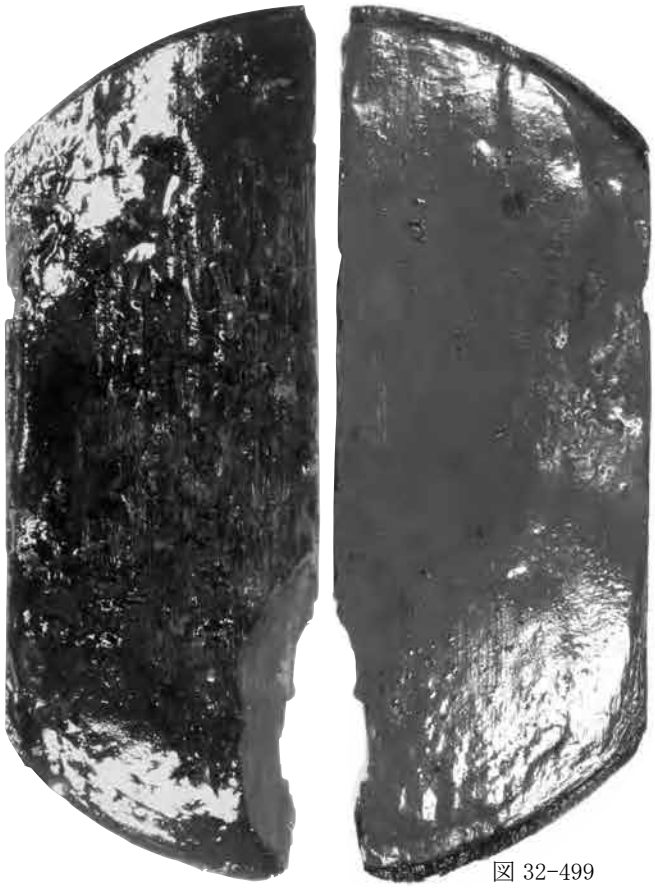
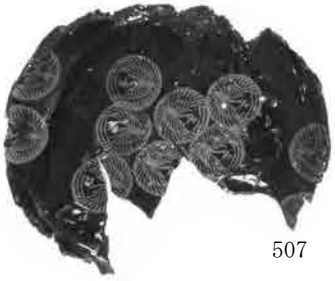


図 32-499

Ⅱ区 2 面上（板壁 1 以西）

506

Ⅰ B 区 3b 面上



507

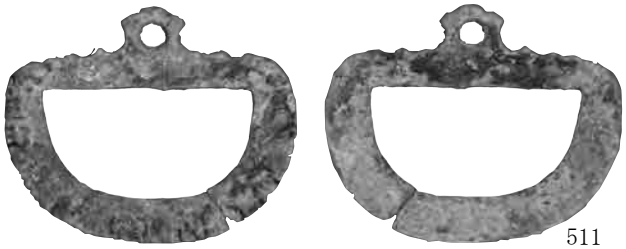
Ⅲ区 3b-4 面

508

Ⅲ区 3b 面上

502

Ⅰ C 区 2-3 面



511

Ⅲ区 4 面上

縮尺：約 2/5（502・511 は約 1/2）

報 告 書 抄 録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちょうさほうこくしょ
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書
副書名	令和３年度調査報告
巻次	３８　（第２分冊）
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者	押木弘己／押木弘己
編集機関	鎌倉市教育委員会
所在地	〒２４８－００１２　鎌倉市御成町１２番１８号
発行年月日	西暦２０２２年３月２５日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
むさしおおじしゅうへんいせき 武蔵大路周辺遺跡	神奈川県鎌倉市 扇ガ谷三丁目 451番の一部	14204	194	35° 19′ 38″	139° 32′ 57″	20191210 ～ 20200508	96.35	個人専用住宅 （柱状改良工事）
さすけがやついせき 佐助ヶ谷遺跡	神奈川県鎌倉市 佐助一丁目 601番6	14204	203	35° 19′ 9″	139° 32′ 37″	20200901 ～ 20201225	113.00	個人専用住宅 （鋼管杭工事）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
むさしおおじしゅうへんいせき 武蔵大路周辺遺跡	都市 城館跡	中世	築地状遺構・井戸・溝・土坑・土間状遺構・切石列・囲炉裏	土器・陶磁器・金属製品・木製品・漆器	東西・南北の築地状遺構で仕切られた区画を確認。1000個体を超えるかわらけ集積や、優美な漆器・木製形代などを検出。
さすけがやついせき 佐助ヶ谷遺跡	城館跡 社寺跡	中世	掘立柱建物・溝・竪穴状遺構・土坑	土器・陶磁器・金属製品・木製品・漆器	旧佐助川東岸の平坦地に４枚の中世遺構面を形成。金銅製の縁環とツマミを付けた平蒔絵の漆器蓋は優品。

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　38
令和３年度発掘調査報告
（ 第 ２ 分 冊 ）

発 行 日　令和４年（2022年）３月25日

編集・発行　　鎌倉市教育委員会
印　　刷　　丸庄有限会社

第２分冊　正誤表

箇所	誤	正
143頁 図53 1253	残存率：完形	残存率：3/4